全学共通科目
総合基礎科目

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1101	東 邦 学 園 と 中 部 圏	1・2年	前期	2単位	選択	榊 直樹

【授業の目的と概要】

本科目の到達目標は、本学園の歴史を郷土の歩みの中で捉えながら、学園の１世紀近い歩みが、この地域の今の姿と繋がっていることを理解することである。

先ず、中京地域で電力を開発し鉄道網を整備し、諸産業勃興の礎を築いたのが東邦学園を建学した下出父子だった事実から出発する。学徒を送り出し、勤労動員先でも犠牲者を出した本学園の戦時体験にも触れる。敗戦を経て高度成長下、四日市公害や学園紛争、さらにバブル崩壊から「失われた20年」を経て、少子化と人口減少に向う今、ユニバーサル化の情況である。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	創設者･下出民義の足取り＝幼少青年期	幕末の泉州（現在の大阪府岸和田市）に生まれ、御前で学びの成果を披露した幼少期、数えの15歳で小学校教員となり、働きながら学び続けた下出民義の思いとは？　その明治初期はどんな時代だったのか。
第2回	創設者･下出民義の足取り＝壮老年期	大阪での石炭売買から実業人の歩みを始め、名古屋に拠を移して福沢桃介と出会うと、電力開発、鉄道網の整備、製鋼所設立、企業買収と次々事業拡大を続け、政界とも関わった壮、老年期までの歩みとは。
第3回	中京地域発展の礎を築いた多彩な実業人	世界最大の自動車メーカー･トヨタ自動車への創始となった豊田佐吉の自動織機発明、福沢桃介らによる電源開発をはじめ、この地域の産業経済の礎を、その築いた人々からたどる。
第4回	明治から戦前までの学制、私学創立	藩校の時代から明治に入り、教育制度はどう変わったか。新たに私立学校を創設した人々の思いや時代の雰囲気には何があったのか。近代国家に向けて富国強兵政策の下、教育制度が担った「使命」とは。
第5回	東邦商業学校創設に込められた「建学の精神」	東邦学園の創始･東邦商業学校は、建学の精神をなぜ「真に信頼して事を任せうる人格の育成」と掲げたのか。そこに込めた下出父子の願いと開学に至る経緯は。
第6回	満州事変に始まる戦争の中での東邦商業	創立８年後の1931年に満州事変が起き、ポツダム宣言受諾まで戦争の時代が続く。東邦商業は野球部が春の甲子園で３度優勝する一方、戦地へ向う生徒と教員も相次ぐ。勤労動員先が空襲され犠牲者も出た。
第7回	終戦から復興へ	15年に及んだ戦火は無条件降伏で止み、日本は占領下に入る。新たな国作りへ歩む中、それまでの価値は一変を迫られ、責任追及も始まった。学園初代理事長も翼賛政治への協力者として公職追放にあう。
第8回	「民主化」に基づく新たな教育	「墨塗り教科書」に象徴される、敗戦時まで尊ばれた思想や諸制度は、徹底的に葬られる。「民主化」の名の下、教育も内容、制度が根本から変えられた。学園第２代理事長は公選制の県教育委員に選ばれた。
第9回	ベビーブーム、進学者の一挙増、東邦短大発足	戦地、勤労動員先、疎開地から人が戻りベビーブームが起きる。1950年代後半から児童が一挙に増え、高校進学、さらに大学進学者の増となる。東邦学園短大が1965年に発足、学園は新たな歩みを始めた。
第10回	冷戦構造･核兵器の時代と60年安保	冷戦時代、米国と旧ソ連は大量の核兵器を背景に、世界中で覇権を競った。日本では新日米安保条約をめぐり国論が二分。デモ中の学生から死者まで出た「(19) 60年安保」のころ、学生の政治意識とは。
第11回	ベトナム戦争、70年安保、学園闘争	米ソによる覇権争いが泥沼化したベトナム戦争、日米安保条約の扱い、沖縄の日本返還など国際関係や、学園自治、学費値上げをめぐり、日本中の大学が荒れた。高校生も街頭に出て、学園も騒然とした。
第12回	高度成長の光と影	経済が高度成長し、賃上げ額２万円越えの時代、生活の豊かさと共に、公害も全国で広がった。水俣、新潟と共に、中部圏では富山のイタイイタイ病、四日市のぜん息被害である。高度成長の光と影を追う。
第13回	成長至上主義から「失われた20年」へ	経済成長最優先という意識と経済･社会の仕組みは、最後にバブルに踊り狂い、経済破綻が日本を長い低迷へと突き落とした。就職も超氷河期が続き、ニートも多く生んだ。「失われた20年」を振り返る。
第14回	愛知東邦大学の発足と大学、学生像の変遷	愛知東邦大学が21世紀に入った年に誕生した。同世代の半数が大学へ進むユニバーサルアクセスの今、大学生自身の意識と社会が見る目も変わった。多様な学生が集う大学における学びの姿と何だろうか。
第15回	まとめ	14回行なった講義を踏まえて、学園の動きと中部或いは日本の近現代の歩みをおさらいする。

【授業の到達目標】

４年間を過ごす大学が、どんな歴史を経て今の姿があるのか、中部だけでなく日本の近現代史を振り返りつつ、理解できること。

【事前･事後学習】

次回のテーマの予習と、毎回示す歴史上のキーワードの復習を求める。

【成績評価基準】

毎回の講義で示すキーワードを理解したかどうかを問う。筆記試験は15のキーワードをつなぎ合わせた「歴史ストーリー」を書いてもらう。構成は自由だが、日本の近現代と学園の歩みを説明できるかで評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
55	30　＝毎講義で提出を求めるミニレポートから評価する。	15	0	0

【テキスト】

･なし。（プリントを適宜配布）

【参考図書】

･特に定めない。
･別途

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1102	基礎演習 I	1年	前期	2単位	必修	谷村 祐子他

【授業の目的と概要】

基礎演習Ⅰでは、大学というもの、そして大学で学ぶということを理解した上で、4年間の充実した大学生活を送るために、その基本となる学習活動の基本を身につける。この科目では、大学での講義の受け方、話し方・聴き方のような基礎学力の向上を目指した取り組みを行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ゼミガイダンス、自己紹介、キャンパスガイドの説明	基礎演習のねらいの確認。キャンパスガイドの使い方について理解する。学内ツアーに参加する。
第2回	図書館ガイダンス	資料により図書館探訪。本を1冊借り、翌週課題を提出する。
第3回	「社会人力とは」・「SNSのマナー」について	「社会人力とは」・「SNSのマナー」についての内容を学ぶ
第4回	スタディ・スキル①	資料に基づき、「大学生活とは」を学ぶ。ポートフォリオの使い方を学ぶ。新聞記事の読み書き練習。
第5回	スタディ・スキル②	資料に基づき、「ノートのとり方」を学ぶ。ポートフォリオの使い方を学ぶ。新聞記事の読み書き練習。
第6回	特別講演	特別講演を聴講し、レポートとしてまとめる
第7回	スタディ・スキル③	資料に基づき、「要約の仕方」を学ぶ。新聞記事の読み書き練習。
第8回	レクリエーション大会	レクリエーション大会
第9回	スタディ・スキル④	資料に基づき、「本のレビューとコメント」を学ぶ。新聞記事の読み書き練習。
第10回	コース紹介①	コースの紹介①の内容についてノートを取り、レポートを作成する
第11回	スタディ・スキル⑤	資料に基づき、レポートの作成について学ぶ。新聞記事の読み書き練習。
第12回	コース紹介②	コースの紹介②の内容についてノートを取り、レポートを作成する
第13回	スタディ・スキル⑥	資料に基づき、レポートの作成について学ぶ。新聞記事の読み書き練習。
第14回	スタディ・スキル⑦	資料に基づき、レポートの作成について学ぶ。新聞記事の読み書き練習。
第15回	スタディスキルズのまとめと漢字テスト	これまでにおこなった課題からまとめテストを行う。

【授業の到達目標】

学習活動の基本（スタディ・スキルズ）を身につけることができる。

【事前・事後学習】

毎回のゼミ運営で、与えられたテーマについての早期準備に取り組む。
提出期限までに提出できるように、事前事後学習を行う。

【成績評価基準】

学科の履修モデルを理解し、説明することができるか
文章を正しく理解し、要約することができるか
ノートやレポートを決まった手順に則って作成することができるか
以上の3点について評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	50	20	0	0

【テキスト】

・使用しない

【参考図書】

・南田 勝也 「ゼミで学ぶスタディスキル」北樹出版
・佐藤 望 「アカデミック・スキルズ(第2版)――大学生のための知的技法入門」 慶應義塾大学出版会
・橋本 修 他 編著「大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編」 専修大学出版局
・橋本 修 他 編著「大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編」 専修大学出版局
・福嶋健伸 他 編著「大学生のための日本語表現トレーニング 実践編」 専修大学出版局

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1103	基　礎　演　習　Ⅱ	1年	後期	2単位	必修	谷村 祐子他

【授業の目的と概要】

基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰに引き続き大学生活の更なる充実を目指して、ライティング能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高めるための学習や活動を行う。この科目では、テーマを設定したレポートの作成やプレゼンテーションを通しての研究のまとめ方と発表の仕方を学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	後期ガイダンス　スタディ･スキル①	後期の内容の確認。新聞記事等の書き取りと要約などを行う。
第2回	プレゼンテーション①	資料に基づき、プレゼンテーションについて学ぶ。
第3回	プレゼンテーション②	前回で学習した内容に基づき、各自プレゼンテーションを行う。
第4回	スタディ･スキル②	スタディスキルのワーク、新聞記事等の書き取りと要約などを行う。
第5回	スタディ･スキル③	スタディスキルのワーク、新聞記事等の書き取りと要約などを行う。
第6回	スタディ･スキル④	スタディスキルのワーク、新聞記事等の書き取りと要約などを行う。
第7回	大学祭参加（講演会等）	講演会大学祭における講演を聞き、内容をレポートとしてまとめる。
第8回	スタディ･スキル⑤	スタディスキルのワーク、新聞記事等の書き取りと要約などを行う。
第9回	スタディ･スキル⑥	スタディスキルのワーク、新聞記事等の書き取りと要約などを行う。
第10回	プレゼンテーション③	資料に基づき、プレゼンテーションについて学ぶ。
第11回	プレゼンテーション④	前回で学習した内容に基づき、各自プレゼンテーションを行う。
第12回	スタディ･スキル⑦	スタディスキルのワーク、新聞記事等の書き取りと要約などを行う。
第13回	プレゼンテーション⑤	これまでに習得したスキルに基づき、新聞記事等の書き取りと要約などを行い、関連事項と調べる。
第14回	プレゼンテーション⑥	前回で学習した内容に基づき、各自プレゼンテーションを行う。
第15回	スタディスキルズのまとめと漢字テスト	これまでにおこなった提出物からまとめテストを行う。

【授業の到達目標】

新聞記事等の要約により時事への関心や読解力と要約しまとめる能力、調べ学習により情報収集とそれを利用する能力またその発表によりプレゼンテーション能力を高めることを目標とする。

【事前･事後学習】

事後学習として、新聞記事等の要約では講義内で完成できない場合は、定められた期限までに完成させて提出すること。
事前学習として、プレゼンテーションでは調べ学習の内容をしっかりと発表できる状態に完成させ、練習をしておくこと。

【成績評価基準】

大学での履修規程（履修の手引き）を理解し、実践することができるか
文章を正しく理解し、要約することができるか
基本的なプレゼンテーションの技法を使用して、物事を説明することができるか
以上の３点について評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	35　（提出物課題として）	20	0	15　（プレゼンテーション）

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･佐藤 望 「アカデミック･スキルズ(第2版)――大学生のための知的技法入門」 慶應義塾大学出版会
･橋本　修　他　編著「大学生のための日本語表現トレーニング　スキルアップ編」 専修大学出版局
･安部朋世　他　編著「大学生のための日本語表現トレーニング　ドリル編」 専修大学出版局
･福嶋健伸　他　編著「大学生のための日本語表現トレーニング　実践編」 専修大学出版局
･専修大学出版企画委員会「知のツールボックス―新入生援助(フレッシュマンおたすけ)集」 専修大学出版局

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2104	総合演習 I	2年	前期	2単位	必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

この演習は、人間科学に関する基礎知識の習得を目指す。そのため、演習テーマとなっている健康･スポーツ分野の領域から生涯スポーツとしてのニュースポーツ研究を中心に据え、どのようなアプローチをとるのかの学習をイベント等の実践活動の場を通して学ぶ。そして、総合演習Ⅱに繋げるための基礎的な学習を行う。また、授業は演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	シラバスをもとに目的と内容、進め方を説明する。
第2回	レポート発表の準備(1)	生涯スポーツとしてのニュースポーツに関するアプローチの仕方について説明する。
第3回	レポート発表の準備（2）	レポート発表のための資料準備について行う。
第4回	レポート発表とディスカッション（1）	テーマに基づくレポート発表及びディスカッションを行う。
第5回	レポート発表とディスカッション（2）	テーマに基づくレポート発表及びディスカッションを行う。
第6回	レポート発表とディスカッション（3）	テーマに基づくレポート発表及びディスカッションを行う。
第7回	レポート発表まとめ	各レポート発表についてのディスカッションのまとめを行う。
第8回	フィールドワークの情報収集	フィールドワークの情報収集を行う。
第9回	フィールドワークの企画	フィールドワークの企画を行う。
第10回	フィールドワークの実際	フィールドワークの実践を行う。
第11回	フィールドワークのまとめ	フィールドワークの実際についてディスカッションを行いフィールドワークのまとめを行う。
第12回	前期ゼミ活動報告書作成準備（1）	前期ゼミ活動報告書作成のための準備を行う。
第13回	前期ゼミ活動報告書作成準備（2）	前期ゼミ活動報告書作成のための準備を行う。
第14回	前期ゼミ活動のまとめ	前期ゼミ活動報告書の作成を行う。
第15回	前期総括	前期ゼミ活動の総括をする。

【授業の到達目標】

人間科学に関する基礎知識の習得を目指す。生涯スポーツとしてのニュースポーツの研究をどのように行うのか、その方法を習得することができる。

【事前･事後学習】

事前学習として関連資料、新聞、図書などを読んで準備すること。また、事後の学習は演習で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

1）演習の授業目的と内容を十分理解できているか。
2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	60	0	40（プレゼンテーション）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2104	総　合　演　習　Ⅰ	2年	前期	2単位	必修	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

健康増進の専門家（トレーナー）を目指すための導入教育第1弾として、健康増進に関わる基礎的な知識の理解を深めることを目的とする。特に、トレーナーにとって最も重要な基礎学力である機能解剖学と生理学の理解をさらに深め、一般健康志向の人たちの健康増進やアスリートのパフォーマンス向上とどのように関わっているかを学習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	総合演習ゼミの運営方針等を説明する。
第2回	身体組成（身長、体重、体脂肪など）	身体組成の測定を行い､測定データの整理･分析をエクセルを用いて実施する。
第3回	柔軟性Ex（ウォーミングアップ、ストレッチ含む）	ウォーミングアップやストレッチなどの基本的な柔軟性エクササイズを実施し、ストレッチ方法やストレッチされる筋群を理解する。
第4回	バランスボールエクササイズ（自重Ex、体幹TR含む）	バランスボールエクササイズを実施し、強化される筋群やストレッチされる筋群を理解する。
第5回	フォームローラーエクササイズ（ベーシック7含む）	フォームローラーエクササイズのベーシック7という基本エクササイズを実施する。
第6回	レジスタンストレーニング1（上半身1）	マシンを用いた上半身のレジスタンスエクササイズを実施し、トレーニング方法や強化される筋群を理解する。
第7回	レジスタンストレーニング2（上半身2）	フリーウェイトを用いた上半身のレジスタンスエクササイズを実施し､トレーニング方法や強化される筋群を理解する。
第8回	レジスタンストレーニング3（体幹･下半身1）	マシンを用いた下半身のレジスタンスエクササイズを実施し、トレーニング方法や強化される筋群を理解する。
第9回	レジスタンストレーニング4（体幹･下半身2）	フリーウェイトを用いた下半身のレジスタンスエクササイズを実施し､トレーニング方法や強化される筋群を理解する。
第10回	有酸素Ex（エアロバイク、トレッドミル、ステアクライマー）	エアロバイク、トレッドミル、ステアクライマーなどの有酸素エクササイズを実施し、トレーニング方法を理解する。
第11回	ゼミ活動報告書の作成準備1	前期のゼミ活動に関して、グループ分をし、報告書作成の担当を決める。
第12回	ゼミ活動報告書の作成準備2	各グループでゼミ活動報告書の作成準備を行う。
第13回	ゼミ活動報告書の作成準備3	ゼミ活動報告書を完成させ、提出をする。
第14回	フィールドワーク	フィールドワークの企画･運営を行う。
第15回	まとめ	各ゼミから提出されたゼミ活動報告書を活用して、前期の総括を行う。

【授業の到達目標】

ストレングス＆コンディショニングの導入として、機能解剖学や生理学の理解をさらに深め、一般健康志向の人たちの健康増進やアスリートのパフォーマンス向上の基礎を習得することを目標とする。

【事前･事後学習】

各回のテーマに関する内容をテキストを用いて事前に復習をし、事後には自ら積極的に実践し、エクササイズ方法やトレーニング方法の理解を深める。

【成績評価基準】

テーマ別研究課題に対して、適切な書式や文言を用いて課題レポートを書くことができるか、また、ゼミ活動報告書の作成やフィールドワークを協力してできるかどうかを総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･Earle, RWら（著）, 森谷敏夫（監）、NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識（第2版）、NSCAジャパン

【参考図書】

･ストレングス＆コンディショニングⅠ　理論編（NSCAジャパン）、大修館書店
･ストレングス＆コンディショニングⅡ　エクササイズ編（NSCAジャパン）、大修館書店

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2104	総合演習 I	2年	前期	2単位	必修	小島 正憲

【授業の目的と概要】

この演習は、幼児・小学生を対象にした体育の基礎知識を学ぶことである。特に、年齢の発育に合わせた、運動あそびや授業内容を考案し、指導案の作成・模擬授業をすることで、現場に役立つ指導力を身に付けさせる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	受講に関する諸注意、学習の進め方、幼児体育とは？
第2回	子どもの生活と運動	心地よい空間、ガキ大将の役割、運動量の確保
第3回	子どものからだの異変とその対策	遅い就寝、生活リズムに乱れ、増える体温異常
第4回	幼児期における運動の必要性	午前のあそびに加えて、午後あそびのススメ
第5回	幼児期における運動の役割と効果	身体的発育の促進、運動機能の発達と促進、知的発達の促進
第6回	幼児体育の意義と役割	幼児体育とは？、幼児体育のねらい、幼児体育の指導法と指導内容
第7回	小テスト	小テストを実施（詳細は授業の際に通知）
第8回	乳幼児期の発育と運動発達	身体各部の発育プロセスと均衡の変化
第9回	幼児期の運動能力と運動スキル	運動スキルと運動時に育つ能力
第10回	発達障がい児の運動指導	身体意識を養う、平衡感覚、多動
第11回	安全と応急手当	応急処置の基本と実際
第12回	体育あそびの指導計画と指導案の作成①	指導案の機能、指導案例、指導案の作成
第13回	体育あそびの指導計画と指導案の作成②	指導案の作成
第14回	小テスト	小テストを実施（詳細は授業の際に通知）
第15回	まとめ	授業の振り返り

【授業の到達目標】

「子どもと体育」（幼児・小学生）に関わる基礎知識を深め、図解できる。

【事前・事後学習】

事前指導として、幼児体育に関連する文献および論文を調査する。
事後指導として、各回の講義で配布した資料、内容を整理しておく。

【成績評価基準】

筆記試験（授業後の小テスト）・指導案・授業の取り組みを総合して評価する。具体的な評価基準としては、「子どもと体育」に関する基礎知識を専門的に理解し、解釈できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%（小テスト）	10%（授業後の感想文）	10%	0%	20%（指導案）

【テキスト】

・適宜、資料を配布する。

【参考図書】

・専門　幼児体育指導員養成テキスト（前橋明：大学教育出版、2009）
・アクティブ・チャイルド60min（竹中晃二：サンライフ企画、2010）

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2104	総　合　演　習　Ⅰ	2年	前期	2単位	必修	澤田 節子

【授業の目的と概要】

人間科学に関する基礎的知識の修得を目指し、人々の健康問題と自己の健康管理について学習を積み重ねます。学習内容は、若いうちから老いない体づくりのために、栄養･運動･休養について考えます。具体的には物忘れしない脳づくり、好きなものが食べられる体づくりなどから、日常生活のなかでの健康を再考し、健康な心と体づくりを生活の視点から検討します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	総合演習の概要･到達目標及び運営方針などについて学ぶ。
第2回	老いない体づくり	老化とは何か、老化を遅らせることはできるのか等について学ぶ。
第3回	年齢のとらえ方	若く見える人、体力年齢を考える、年寄り若い人の特徴について学ぶ。
第4回	老いないためのポイント	脚力を衰えさせない、生活習慣病の予防法について学ぶ。
第5回	日常生活と健康ー睡眠と健康	睡眠の生理、睡眠の影響因子、睡眠の異常、睡眠と健康管理について学ぶ。
第6回	日常生活と健康ー食生活と健康	食生活と健康の関わり、食生活の現状、栄養･食生活のあり方について学ぶ。
第7回	フールドワークについて検討	フィールドワークの企画･運営方法について学ぶ。
第8回	物忘れしない脳をつくる	ボケを予防する方法、老化を楽しむとは何かについて学ぶ。
第9回	「健忘症」か「ボケ」か	認知症とは、「健忘症」か「ボケ」かなどについて学ぶ。、
第10回	手を使って脳の老化を防ぐ	脳の老化を防ぐ、手仕事などについて学ぶ。
第11回	新しい刺激が脳の老化を防ぐ	ＱＯＬとは、心の健康を保つ方法などについて学ぶ。
第12回	フィールドワーク	フィールドワークに参加する。
第13回	演習活動報告書の作成準備	演習活動報告書の作成準備ーグループ分けを行い、担当を決める。
第14回	演習活動報告書の作成	演習活動報告書の作成ーグループで報告後、完成する。
第15回	前期のまとめ	報告書を活用して前期のまとめをする。

【授業の到達目標】

①大学での学びや研究の方法を習得する。
②課題レポートを期限までに提出し発表することができる。
③討議･発表を通してコミュニケーション能力･プレゼンテーション能力を高める。

【事前･事後学習】

新聞やテレビなどで報道されている健康関連の記事や各種の保健医療活動について興味･ 関心をもってもらうと理解を深めることができます。
①事前に学習課題の小レポートをまとめ提出する。
②課題に関連した事後学習を行う。
③次回の課題については事前に読破し演習に臨む。

【成績評価基準】

学習課題のレポートは、期限までに記述し提出できたか。
演習の授業では、グループワークや討議など積極的に取り組めたか。
各回の授業の振り返りとして、小レポートが記述できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50%	30%	0	20%

【テキスト】

･初回に紹介します。

【参考図書】

･初回に紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2104	総合演習 I	2年	前期	2単位	必修	尚 爾華

【授業の目的と概要】

このゼミでは、栄養学の基礎知識（アスリートの栄養と食事、ダイエットの基本、標準体重・美容体重など）や、運動からもたらす健康増進の効果（さまざまの運動種目を知る、体験してみる）の面から健康管理の基本を学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	栄養面①ダイエットに関する　うそ？ほんと？	ネットやテレビでうわさされているダイエット法が正しいものなのかをクイズ形式で出題。人間が太ってしまう原因や間違ったダイエットによる体への影響について。
第2回	栄養面②貧血とは	貧血の症状、予防、食事による改善法など。
第3回	栄養面③痛風とは	痛風の症状、かかりやすい性別、予防
第4回	栄養面④糖尿病	糖尿病の症状、分類・原因、予防について
第5回	運動面①ボルダリングとは	ボルダリングのルール、ボルダリングをすることにより基礎代謝が上がり脂肪の付きにくい体になるということについて。
第6回	運動面②サッカー	サッカーのルール、ポジションの役割など。
第7回	運動面③バスケットボール	体育館で活動、バスケットボールのルール、シュート・パス・ドリブルの練習、ミニゲーム。
第8回	運動面④自転車ダイエット	体を使い経済的で、初心者にもおすすめの自転車ダイエット。やせる効果的な乗り方や時間とこぎ方・方法について
第9回	運動面⑤相撲とは	相撲の戦い方、立ち合い、攻め手、仕切り、勝ちの確定などについて
第10回	運動面⑥ボクシングの魅力	プロとアマチュアの違い、試合のルール、階級の種類などについて
第11回	運動面⑦ダンス（ヒップホップ）	ダンス（ヒップホップ）をみんなでチャレンジする（体育館で）。
第12回	フィールドワーク①企画会議	料理実習に向け、内容について話し合い、メニューを決める。
第13回	フィールドワーク②準備	料理実習用のレシピを作成し、栄養のバランス、カロリーの計算をする
第14回	フィールドワーク③実施	外部調理室を利用し、グループ分けて調理実習する
第15回	ゼミ活動のまとめ	前期のゼミ活動をまとめ、皆勤賞を発表する。

【授業の到達目標】

健康に過ごしていくにはどうすれば良いかを栄養面と運動面から考えることができる。
チームワークに積極的に参加できる。

【事前・事後学習】

座学では勉強会の形をとるので、積極的に発言するように少しずつ練習すること。

【成績評価基準】

栄養学の基礎知識として、食事とダイエットの関係を理解し、標準体重の計算ができる。
また、運動からもたらす健康増進の効果を説明することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	50	0

【テキスト】

・使用しない

【参考図書】

・資料を配布する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2104	総　合　演　習　Ⅰ	2年	前期	2単位	必修	高間 佐知子

【授業の目的と概要】

自分の考えを他人に伝えるにあたって、明快で分かりやすい方法を見つけていくことを目的とします。大学生として論理的で説得力のある発言ができるように努力していきましょう。また、6月ごろには学外活動としてボランティアをやってもらいたいと考えています。昨年は週末にトライアスロン大会の運営を補助するボランティアに参加しました。こうした学外ボランティアによって責任感と社会性を養うことも目的としています。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	自己紹介	自分自身についてプレゼンテーションをする
第2回	記憶と印象について	顔と名前を覚える、覚えてもらう工夫
第3回	ボランティア活動①計画の設定	ボランティア活動を行う際の計画を立てる
第4回	ボランティア活動②情報収集	ボランティア活動の事前説明会に出席して情報を収集する
第5回	ボランティア活動③実行	ボランティア活動を経験することで知見を得る
第6回	ボランティア活動④反省	ボランティア活動の反省を行い、得られたものや足りないものを確認する
第7回	グループ発表の計画	グループ分け、グループでのテーマ設定
第8回	グループ発表の準備①情報収集	各グループごとにテーマに関する情報を収集する
第9回	グループ発表の準備②レジュメ作成	収集した情報をもとにレジュメを作成する
第10回	グループ発表の実施①	グループ発表と質疑応答
第11回	グループ発表の実施②	グループ発表と質疑応答
第12回	論理的思考の育成	文章読解問題を解く
第13回	ビジネスマナーの育成	ビジネスマナーに関する問題を解く
第14回	一般常識の確認	一般常識に関する問題を解く
第15回	総括	前期活動報告書の作成

【授業の到達目標】

演習活動を通じて基礎的な調査能力とプレゼンテーション能力を身に着けるようにする。また、ボランティア活動を通じて責任感をもって行動するできるようにする。

【事前･事後学習】

与えられたテーマおよび自分で決定したテーマについて、新聞、雑誌、書籍、インターネットを利用することで、最低でも言葉の意味を調べて理解をすることを求める。

【成績評価基準】

受講態度や演習での貢献度を判断して評価します。具体的には、ボランティアへの参加、割り当てられた報告およびレジュメの作成をみます。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	100	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2104	総合演習Ⅰ	2年	前期	2単位	必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

科学技術の発達のかげで、人間は体とともに脳を使わなくなりつつある。忘れがちな人間らしさを多角的な視点で科学的に考えてみたい。チンパンジーやロボットの研究なども参考にしながら、人間が才能を生かし、生き生きと生活していくには、どのような努力が必要なのか検討することを目的とする。学ぶことの楽しさを感じることができ、適性を生かした社会への貢献について考え、たくましく生きていくためのヒントが得られるようにしたい。またフィールドワークも行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、自己ＰＲ	演習の目標や全体の流れを理解する。自己ＰＲを行い自己表現のポイントを理解する。
第2回	社会人基礎力、教員に求められる資質能力	社会人基礎力、また教員に求められる資質能力とはどのような能力なのか調べ、身につけるにはどのようにすればよいか考える。
第3回	文献の検索方法	文献の検索方法を知り、学習に活用できるようにする。
第4回	ロボットの能力と人間の能力	人間酷似型ロボットが開発されているが、どのような能力があるのか調べ、人間の能力と比較する。
第5回	ヒト以外の霊長類にない人間の能力	ヒト以外の霊長類にはみられない人間らしい能力とは何かを調べ、大脳の前頭前野の重要性を考える。
第6回	前頭前野の発達を促す教育と遊び	前頭前野の発達を促す教育や遊びは何かを調べ、その遊びを体験する。
第7回	前頭前野を活性化させる組立て玩具	前頭前野を活性化させることが認められている学習課題や組立て玩具を体験する。
第8回	能力と適性	どのような能力がどのような仕事に活かせるか調べ、能力と適性の関係性を考える。
第9回	性格検査と自己分析	よく用いられる代表的な性格検査を実施･分析し、自己理解に役立てる。
第10回	性格検査と自己分析	よく用いられる代表的な性格検査を実施･分析し、自己理解に役立てる。
第11回	コミュニケーション能力	現代人に求められるコミュニケーション能力とは何か､効果的なコミュニケーションのための技術･方法を調べる。
第12回	プレゼンテーション能力	プレゼンテーション能力を向上させるには、どのようなことが必要であるか調べる。
第13回	情報リテラシー、ＩＴ生活の注意点	情報技術を活用する能力、情報機器をどのようにして正しく使いこなすかを調べる。
第14回	ゼミ活動報告書の内容確認	ゼミ活動報告書の作成と内容の確認をする。
第15回	まとめ	ゼミ活動報告書を基にまとめをする。

【授業の到達目標】

各自の関心の強い事柄について情報収集し、発表し、討論に参加することができる。またコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高めることを到達目標とする。

【事前･事後学習】

発表の資料作成･発表準備は、事前学習をしてほしい。

【成績評価基準】

成績は、調べ学習の発表、プレゼンテーションの方法、討論への参加、レポート内容、行事への参加などの積極性を総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	0	40（毎回授業時の報告書内容、授業態度）

【テキスト】

･適時資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2104	総　合　演　習　Ⅰ	2年	前期	2単位	必修	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

健康科学および体力科学を専門的に学ぶ学生として基礎となる教養を深めつつ、スタディスキルズを高めることを目的とする。
※スタディスキルズ（読む、聴く、書く、考える、調べる、整理する、まとめる、表現する、伝える）

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	演習の進め方を説明します。
第2回	資料収集と文献要約の方法	資料収集と文献要約の方法を学習する。
第3回	測定･調査方法とその評価方法	測定･調査方法とその評価方法を学習する。
第4回	レポート作成の方法	レポート作成の方法を学習する。
第5回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの方法を学習する。
第6回	テーマを決めての資料･ 文献の収集とそのまとめ１	テーマを決めての資料･文献の収集とそのまとめをする
第7回	テーマを決めての資料･ 文献の収集とそのまとめのプレゼンテーション１	テーマを決めての資料･文献の収集とそのまとめのプレゼンテーションをする。
第8回	テーマを決めての資料･ 文献の収集とそのまとめのディスカッション１	テーマを決めての資料･文献の収集とそのまとめのディスカッションをする。
第9回	テーマを決めての資料･ 文献の収集とそのまとめ２	テーマを決めての資料･文献の収集とそのまとめをする
第10回	テーマを決めての資料･ 文献の収集とそのまとめのプレゼンテーション２	テーマを決めての資料･文献の収集とそのまとめのプレゼンテーションをする
第11回	テーマを決めての資料･ 文献の収集とそのまとめのディスカッション２	テーマを決めての資料･文献の収集とそのまとめのディスカッションをする。
第12回	フィールドワーク１（健康教室）	フィールドワークとして健康教室へ参加する。
第13回	フィールドワーク２（ゼミ合宿）	フィールドワークとしてゼミ合宿を行う
第14回	ゼミ活動報告書の作成	前期の活動をまとめ、活動報告書を完成させ、提出する。
第15回	まとめ	各ゼミから提出されたゼミ活動報告書を活用して、前期の総括を行う。

【授業の到達目標】

健康･体力づくりの基礎をテーマに資料･文献収集、レポート作成、発表ができる。

【事前･事後学習】

健康科学および体力科学について興味･関心をもって、
①事前に課題レポートをまとめ提出する。
②課題に関連した事後学習を行う。
③次回の課題については事前に準備し、演習に臨む。

【成績評価基準】

健康･体力づくりの基礎をテーマに資料･文献収集、レポート作成、発表ができるか。
学習課題のレポートは、期限までに記述し提出できたか。
演習の授業では、グループワークや討議など積極的に取り組めたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	60%	20%	0%	20%（発表）

【テキスト】

･資料を配布する

【参考図書】

･その他、適宜、紹介します

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2104	総合演習 I	2年	前期	2単位	必修	長谷川 望

【授業の目的と概要】

サッカー(スポーツ)の選手、指導者として知っておきたいスポーツ心理学に関する基礎的な知識、スポーツの指導法の基礎を学ぶことを目的とする。また、実際に指導を体験することによって選手・指導者としての資質の向上を図ることを目的とする。さらに、各自テーマを考え、情報を収集し、検討していく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	演習の目的、内容、進め方などを説明する。
第2回	テーマ決め	各自が興味のあるテーマを決定する。
第3回	テーマ(例、スポーツ参加の動機づけ) のまとめ、発表	各自が選んだテーマ(例、スポーツ参加の動機づけ)についてまとめ、発表する。
第4回	テーマ(例、健康スポーツの動機づけ) のまとめ、発表	各自が選んだテーマ(例、健康スポーツの動機づけ)についてまとめ、発表する。
第5回	テーマ(例、体育活動の動機づけ) のまとめ、発表	各自が選んだテーマ(例、体育活動の動機づけ) についてまとめ、発表する。
第6回	テーマ(例、ジュニアスポーツの動機づけ) のまとめ、発表	各自が選んだテーマ(例、ジュニアスポーツの動機づけ)についてまとめ、発表する。
第7回	テーマ(例、トップアスリートの動機づけ) のまとめ、発表	各自が選んだテーマ(例、トップアスリートの動機づけ)についてまてめ、発表する。
第8回	フィールドワークの検討	フィールドワークについて、検討する。
第9回	フィールドワークの企画	フィールドワークについて具体的に企画する。
第10回	フィールドワークの実際	実際にフィールドワークを実践する。
第11回	フィールドワークふりかえり	フィールドワークについて、振り返りを実施する。
第12回	前期活動報告書作成	前期の活動報告書を各自が作成する。
第13回	前期活動報告書作成	前期の活動報告書を各自が作成する。
第14回	前期活動のまとめ	前期の活動報告書をゼミでまとめる。
第15回	前期総括	前期の総括を行い、後期につなげる。

【授業の到達目標】

サッカー(スポーツ)のメンタルトレーニング法、指導法、トレーニング法の導入としてのスポーツ心理学、指導法の基礎知識を習得することを目的とする。

【事前・事後学習】

スポーツ心理学の視点でスポーツを観戦したり、ニュースや新聞を読み、考える習慣を身につける。ワード、エクセルの基本的な使い方をマスターしておく。

【成績評価基準】

メンタルトレーニング法、指導法、トレーニング法の導入として、スポーツ心理学の位置づけを説明できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20%	60%	20%	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2104	総　合　演　習　Ⅰ	2年	前期	2単位	必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

総合、専門演習を通じて“対人関係力を上げる”ことを目的とする。どのような環境にあっても高いコミュニケーション力で仲間とつながり、自分を見失わない力を身につけることは重要である。

総合演習Ⅰでは、自己理解、他者理解を深めるためのワークを中心として進める。構成的グループエンカウンター、ピアヘルピング、心理劇、Tグループ等の手法を使いながら、自分を見つめ直し、人間の多様性を理解することを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス　お互いを知り合う	講義の概要、事前事後学習、受講の注意　　ワーク「偏愛マップ」を行い、メンバー紹介を行う。
第2回	グループで課題を達成させる(1)自分の持っている情報を伝える	グループで課題を達成するワーク。ねらいは情報のやりとりの重要性に気づき、協力の大切さについて考える。
第3回	グループで課題を達成させる(2)グループ維持機能	ワークを実施しながら、グループ維持機能（課題達成機能、集団維持機能、活力形成機能）について考える
第4回	グループで課題を達成させる(3)グループ内で誰がどのような働きをしたか	ワークを行うなかで、例えば、全員が発言できるように気を配った、司会進行をした、みんなの思いつかない意見を言った等に気がつく。
第5回	グループコンセンサス(1)グループプロセスに気づく	グループコンセンサスをテーマとしたワークを行う。自分の意見がきちんと言えたか、他者の意見を聞くことができたかについて考える
第6回	グループコンセンサス(2)価値観について考える	グループコンセンサスをテーマとしたワークを行う。ねらいは自分の価値観や価値の基準がどのようなものであるかに気づく、他のメンバーの意見に視野を広げる。
第7回	グループコンセンサス(3)自分の決定を変える	グループコンセンサスをテーマとしたワークを行う。グループの最終意見に自分の意見を変化させていったのはどのような課程があったか。
第8回	話すこと、聞くこと	ワークをしながら、相手に分かるように伝えられているか、相手の話をきちんと聞けているかを考える。
第9回	ロールプレイング　割り当てられた立場になる	仮想の立場で役を行うことによって、他者理解、自己理解を深める。
第10回	アサーショントレーニング(1)自分の主張のパターンを知る	主張の仕方にパターンがあることを知り、自分の主張のパターンを知る。主張のワークを行う。
第11回	アサーショントレーニング(2)伝え方の工夫をする	段階的な伝え方の手法を知る。自分主語のメッセージに変えてみるワークを行う。
第12回	サイコドラマ	心理劇「マジックショップ」を行う。ねらいは自分の中にある資源を探す、それを失ったときにどうなるかを考える。
第13回	物語の続きを作る	よく知られている童話の後半をそれぞれが作り直す。展開された物語の違いで、他者との違いを理解する。
第14回	フィールドワーク	学外において、体験学習を行う。
第15回	まとめ	総合演習1のまとめと振り返り。

【授業の到達目標】

総合演習Ⅰには毎回ワークが配置されている。それぞれのテーマに従って自己理解、他者理解を深め、大学生らしい社会性や対人理解を養うことができる。

【事前･事後学習】

シラバスには授業ごとの学習テーマが提示されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に提示されるので、授業までに予習をしてくること。

【成績評価基準】

各回のワークに積極的に参加し、それぞれのテーマをどの程度理解することができたか。また、それらを自分の日常のなかからも見いだすことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（振り返り）

【テキスト】

･テキストは使用せず、講義内容に応じて資料を配付する。

【参考図書】

･授業内で紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2104	総合演習 I	2年	前期	2単位	必修	正岡 元

【授業の目的と概要】

基礎演習と専門演習の間にあって、あるテーマについて調査や実験を行い、その内容をレポートにまとめる力を養う。
そのための題材としてコンピュータネットワークの仕組みおよびプログラミングを基礎から学ぶ。
様々な課題をどのように解けばよいか，解決の道筋を自ら考え，プログラムとして表現する手法を身に付ける。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	前期の活動内容を説明するハードウェアとソフトウェアの役割，プログラムの役割について学ぶ
第2回	コマンドラインの基礎（1）	キーボードでコンピュータを操作するコマンドラインに慣れる
第3回	コマンドラインの基礎（2）	コマンドラインでのファイルやディレクトリの操作に慣れる
第4回	プログラミング入門（1）	プログラムファイルの書き方（フォーマット）を学ぶ
第5回	プログラミング入門（2）	複数の処理を1つずつ順に実行するバッチ処理を学ぶ
第6回	データ処理の仕組み（1）変数	値を一時的に保存し，後で利用する変数の概念を学ぶ
第7回	データ処理の仕組み（2）データ型	プログラムが処理するデータ，処理したデータをどう扱うのか学ぶ
第8回	データ処理の仕組み（3）制御構造	制御構造である，条件分岐と繰り返しを学ぶ
第9回	プログラミングの基礎（1）フローチャート	問題を解決するために様々な手続きをどのような順番で行えばよいか，論理的な考え方を学ぶ
第10回	プログラミングの基礎（2）コーディング	考えた手順をプログラムとして表現するための方法を学ぶ
第11回	前期活動報告書作成準備（1）整理	報告書作成に先立ち，前期の活動について整理する
第12回	前期活動報告書作成準備（2）まとめ	報告書作成のため，前期の活動を通して学んだことをまとめる
第13回	前期活動報告書作成	個人の活動内容を持ち寄り，報告書を作成する
第14回	フィールドワーク	フィールドワークを実施する
第15回	まとめ	各ゼミの報告書を読み，前期の活動を振り返る

【授業の到達目標】

ネットワークの基礎的な仕組みを理解する。
プログラミングの基礎を理解し，簡単なプログラムを自力で作成できるようになる。
調査や実験した内容を報告書にまとめられる。

【事前・事後学習】

毎回の演習で進捗報告を行い，事後学習としてこれまでの取り組みを振り返る。また，事前学習として次回までの課題を示す。

【成績評価基準】

毎回の進捗報告書、および講義内で示す個別の課題による。
また，グループ課題については全体の評価点をその貢献度（分担割合）に応じて分割し個人の評価とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	20	0	30%(進捗報告書)

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・上田 隆一，シェルプログラミング実用テクニック，技術評論社
・外村 和仁，ノンプログラマのためのJavaScriptはじめの一歩，技術評論社
・大角 祐介，新しいLinuxの教科書，SBクリエイティブ

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA2104	総　合　演　習　Ⅰ	2年	前期	2単位	必修	村上 恭子

【授業の目的と概要】

私たちの身の回りには，生活のマナーをはじめとして，スポーツや生活に関するルールが多数存在している。今一度，マナーとルール，規範の違いについてグループワークを通して考察し，人間の存在とルールの意味について考える。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業の概要　　グループワークの基礎論	授業の概要について理解する　　グループワークの基礎をテキストをもとに学ぶ
第2回	マナーについて考える1　　レポート作成方法について	授業中の私語はなぜ悪いのか。　レポート作成方法について学ぶ
第3回	マナーについて考える2	スマホを使いすぎると学力は低下をするか
第4回	マナーについて考える3	メールや手紙の返信はなぜ必要なのか。
第5回	自分の考え方をまとめて，グループで発表をする	グループ発表の方法について学ぶ
第6回	ルールについて考える1	なぜ，横断歩道を渡らないといけないのか
第7回	ルールについて考える2	なぜ，約束や時間を守らないといけないのか
第8回	スポーツのルールについて考える3	なぜ，ボクシングで相手が死亡しても罪が問われないのか
第9回	スポーツのルールについて考える4	無気力試合はなぜ悪いのか
第10回	日常ルールとスポーツルールの違いについて考える1	日常ルールとスポーツルールの違いについて考える。
第11回	スポーツ規範について考える2	スポーツ規範について考える
第12回	新聞記事の中からマナー，ルール，規範を探す	新聞記事の中からマナー，ルール，規範を探す
第13回	各自のテーマを見つけて，レポートを作成する	各自のテーマを見つけて，レポートを作成する
第14回	レポートを作成する	レポートを形式に則って作成する
第15回	レポートの発表と相互評価	レポートの発表と相互評価

【授業の到達目標】

インターネット以外の文献研究により，ルールやマナーに関する資料を検索して，レポートにまとめて発表することができる。

【事前・事後学習】

身の回りのマナーやルールでこれはおかしいと思った事例について，調べておくこと。

【成績評価基準】

1.マナーについてまとめて発表ができる。
2.ルールについて，まとめて発表ができる。
3.新聞記事の中からマナー，ルール違反を探してまとめて発表できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	

【テキスト】

·新井和弘·板倉杏介『グループ学習入門　学びあう場作りの技法』慶応義塾大学出版会
·ロン クラーク著，亀井 よし子翻訳『あたりまえだけど、とても大切なこと―子どものためルールブック』草思社

【参考図書】

·適宜，紹介をする

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2104	総合演習 I	2年	前期	2単位	必修	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

総合演習Iでは、各自の発表や基礎的な技法を体験しながら演習を用いて、社会生活で重要となる他者との受動的･能動的コミュニケーションと問題予防力の向上を目的とする。具体的には、各自が個々に関心のあることを発表しあうことや、簡単なグループワーク等の一定の活動を用いた体験演習を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス　相互理解	本演習についての説明と、自己紹介･他己紹介を行い、交流の機会とする。
第2回	会話のコツI　話を聞く姿勢	基本的なカウンセリングの基本となるワークを行い、話を聞く時に基本的な姿勢や態度を体験する。
第3回	会話のコツII　伝えるポイント	適切な主張をするアサーション･トレーニングの基本部分を用い、考えを穏やかで明確に伝えるワークを体験する。
第4回	会話のコツIII　会話のキャッチボール	コミュニケーションのポイントである相互のやりとりを、グループワークを用いて体験する。
第5回	リラクセーション	呼吸法、筋弛緩法などのリラックスの技法を体験する。
第6回	関心のある事柄の発表（前半）	将来の職業や心理学など、学生各自が関心のある事柄についてまとめ、発表しあう。
第7回	関心のある事柄の発表（後半）	将来の職業や心理学など、学生各自が関心のある事柄についてまとめ、発表しあう。
第8回	身体感覚	フォーカシングの基本的な技法を用い、身体感覚等への気付きと心理状態との連動を体験する。
第9回	行動	日常生活における自身の行動傾向について整理し、発表しあう。
第10回	思考	日常生活における自身の思考傾向について整理し、発表しあう。
第11回	感情	日常生活における自身の感情傾向について整理し、発表しあう。
第12回	自己理解	これまでの取り組みから、現時点での自分の特徴を整理し、発表しあう。
第13回	今後取り組むテーマと目標の発表（前半）	将来の職業や心理学の学習などにつながるテーマについてまとめ、今後の目標を発表しあう。
第14回	今後取り組むテーマと目標の発表（後半）	将来の職業や心理学の学習などにつながるテーマについてまとめ、今後の目標を発表しあう。
第15回	まとめ	初回からのまとめを行い、レポート課題について説明する

【授業の到達目標】

自分の意見や考えをまとめ、ポイントを明確にして他者に伝える
自分と異なる特徴や考え･価値観への関心を持ち、多様性を理解し受容することができる

【事前・事後学習】

事前に、各回のテーマや用語について調べてくる。事後は、出された課題についての実施やワークシートへ記入してくる。

【成績評価基準】

自分の意見や考えを簡潔に、紙に記入あるいは図示して発表することができる。
自分と異なる特徴や考え･価値観を否定･批判せず、多様性･選択肢の一つとして認め、穏やかに話し合うことが出来る。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	40	0	20（授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

･必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2105	総　合　演　習　Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

この演習は、人間科学に関する基礎知識の習得を目指す。そのため、演習テーマとなっている健康･スポーツ分野の領域から生涯スポーツとしてのニュースポーツ研究を中心に据え、どのようなアプローチをとるのかの学習をイベント等の実践活動の場を通して学ぶ。そして、総合演習Ⅱに繋げるための基礎的な学習を行う。授業は演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	後期ゼミ活動についての進め方、その内容を説明する。
第2回	振り返りとレポート発表およびディスカッション(１)	振り返りペーパーの作成及び発表と担当者のレポート発表及びディスカッションを行う。
第3回	振り返りとレポート発表およびディスカッション(２)	振り返りペーパーの作成及び発表と担当者のレポート発表及びディスカッションを行う。
第4回	大学祭への参加準備（１）	クロリティーチャレンジ大会の準備をする（要項の作成と組織づくり)。
第5回	大学祭への参加準備（２）	クロリティーチャレンジ大会の準備をする（予算の作成と物品購入)。
第6回	大学祭への参加準備（３）	クロリティーチャレンジ大会の準備をする（ポスター及び大会資料の作成など)。
第7回	大学祭スポーツイベント大会リハーサル	クロリティーチャレンジ大会の準備をする（大会開催のリハーサル)。
第8回	大学祭スポーツイベント大会の実際	大学祭でのクロリティーチャレンジ大会の運営を行う。
第9回	スポーツのイベント大会運営とまとめ	スポーツのイベント大会についてのまとめとしての振り返りを行う。
第10回	後期ゼミ活動報告書作成のためのディスカッション	後期ゼミ活動報告書作成のための準備として基本的な話し合いを行う。
第11回	後期ゼミ活動報告書作成のための準備（１）	後期ゼミ活動の資料整理作業を行う。
第12回	後期ゼミ活動報告書作成のための準備（２）	後期ゼミ活動報告書の企画構成作業を行う。
第13回	後期ゼミ活動報告書の作成（１）	後期ゼミ活動報告書作りの実践を行う。
第14回	後期ゼミ活動報告書の作成（２）	後期ゼミ活動報告書作りの実践を行う。
第15回	まとめ	後期ゼミ活動の報告書に基づき総括をする。

【授業の到達目標】

人間科学に関する基礎知識の習得を目指す。実践をとおして生涯スポーツとしてのニュースポーツの研究をどのように行うのか、その方法を習得することができる。

【事前･事後学習】

事前学習として関連資料、新聞、図書などを読んで準備すること。また、事後の学習は演習で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

１）演習の授業目的と内容を十分理解できているか。
２）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	60	0	40（プレゼンテーション）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2105	総合演習Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

健康増進の専門家（トレーナー）を目指すための導入教育第2弾として、トレーナーとしての基本スキルを学び、傷害予防、健康増進、コンディショニングやパフォーマンス向上を目的とする基礎トレーニングやエクササイズのノウハウを学ぶことを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	後期の総合演習ゼミの運営方針等を説明する。
第2回	ストレングス＆コンディショニングの実践１	バランスボールやフォームローラーを用いたコンディショニング方法を実践し、身体の理解を深める。
第3回	ストレングス＆コンディショニングの実践２	ゴルフボールやテニスボールを用いたコンディショニング方法を実践し、身体の理解を深める。
第4回	ストレングス＆コンディショニングの実践３	前期で学んだトレーニング方法や後期のコンディショニング方法を通して、スポーツの競技特性を考慮した練習方法についてディスカッションをする。
第5回	大学祭の準備１	各グループに分かれて、大学祭への参加方法を検討する。
第6回	大学祭の準備２	各グループで大学祭のイベントの企画をする。
第7回	大学祭の準備３	各グループで大学祭のイベントの運営準備をする。
第8回	大学祭参加	ゼミやクラブ活動などで大学祭のイベントを運営する。
第9回	ゼミ活動報告書の作成準備１	後期のゼミ活動に関して、グループ分をし、報告書作成の担当を決める。
第10回	ゼミ活動報告書の作成準備２	各グループでゼミ活動報告書の作成準備を行う。
第11回	ゼミ活動報告書の作成準備３	各グループで作成されたゼミ活動報告書の編集を行う。
第12回	ゼミ活動報告書提出	ゼミ活動報告書を完成させ、提出をする。
第13回	専門演習の選択について１	専門演習の選択方法を説明し、各自で検討をする。
第14回	専門演習の選択について２	専門演習の選択をし、選択希望用紙の作成をする。
第15回	まとめ	各ゼミから提出されたゼミ活動報告書を活用して、後期の総括を行う。

【授業の到達目標】

ストレングス＆コンディショニングの導入として、機能解剖学や生理学の理解をさらに深め、一般健康志向の人たちの健康増進やアスリートのパフォーマンス向上の基礎を習得することを目標とする。

【事前・事後学習】

各回のテーマに関する内容をテキストを用いて事前に復習をし、事後には自ら積極的に実践し、コンディショニング方法の理解を深める。

【成績評価基準】

テーマ別研究課題に対して、適切な書式や文言を用いて課題レポートを書くことができるか、また、ゼミ活動報告書の作成や大学祭への参加を協力してできるかどうかを総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	30	0	20（大学祭イベントの企画・運営）

【テキスト】

·Earle, RWら（著）, 森谷敏夫（監）、NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識（第２版）、NSCAジャパン

【参考図書】

·ストレングス＆コンディショニングⅠ　理論編（NSCAジャパン）、大修館書店
·ストレングス＆コンディショニングⅡ　エクササイズ編（NSCAジャパン）、大修館書店

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2105	総合演習 Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	小島 正憲

【授業の目的と概要】

この演習は、総合演習Ⅰの内容から引き続き、前期に考案した「体育あそびの指導案」をもとに模擬授業をすることで、現場に役立つ指導力を身に付けさせる。そして、模擬授業が終わり次第、体育授業において指導が大変難しいとされる「器械運動の指導法と幇助法」を中心に、スポーツ運動学の観点から器械の特性に応じた、運動技術と適切な練習方法を理解させる。また、器械運動の醍醐味とも言える「新たな技に挑戦」することで、技が完成するまでの練習過程を理解し、器械運動の楽しさを体感する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	受講に関する諸注意、授業の進め方。
第2回	模擬授業の実践	前期に考案した「体育あそびの指導案」をもとに模擬授業を実施する。
第3回	模擬授業の反省と改善	前回実施した、模擬授業の反省をし、改善策を見出す。（グループワーク）
第4回	大学祭の準備①（参加方法の検討）	グループを決めて、大学祭への参加方法を検討する。
第5回	大学祭の準備②（企画づくり）	各グループに分かれて、大学祭におけるイベントの企画づくりをする。
第6回	大学祭の準備③（運営方法の検討)）	各グループに分かれて、大学祭におけるイベントの運営方法を検討する。
第7回	大学祭の準備④（運営準備）	各グループに分かれて、大学祭におけるイベントの運営準備をする。
第8回	大学祭の参加	ゼミ生を中心に、各グループで考案した大学祭のイベントを運営する。
第9回	マット運動の指導法と幇助法	マット運動における、技の指導法や幇助法を理解し、実践する。
第10回	跳び箱運動の指導法と幇助法	跳び箱運動における、技の指導法や幇助法を理解し、実践する。
第11回	鉄棒運動の指導法と幇助法	鉄棒運動における、技の指導法や幇助法を理解し、実践する。
第12回	器械運動技の新たな技に挑戦①（課題技の設定）	各自に種目・課題技を設定し、発表会に向けて練習をする。
第13回	器械運動技の新たな技に挑戦②（課題技の練習）	各自に設定した課題技の完成に向けて練習をする。
第14回	器械運動技の新たな技に挑戦③（課題技の発表）	各自に設定した課題技を発表する。
第15回	まとめ	授業を振り返り、感想をまとめる

【授業の到達目標】

各自に作成した指導案から、模擬授業をすることで実践力を身に付けさせる。また、「器械運動の指導法と幇助法」を中心に、スポーツ運動学の観点から器械の特性に応じた運動技術と適切な練習方法を理解させる。また、実践的な試みとして、器械運動の醍醐味とも言える「新たな技に挑戦」することで、技が完成するまでの練習過程を理解し発表する。

【事前・事後学習】

事前指導として、能動的な姿勢で予習・復習をすること。
安全対策として、シャワーやお風呂上りなど体温が上がった状態で、ストレッチを継続的に行う。
事後指導として、各授業で学んだ技のポイントを整理し、イメージトレーニングをすること。

【成績評価基準】

指導案・模擬授業・課題技の取り組みを総合して評価する。具体的な評価基準としては、「子どもと体育」・「子どもに向けた器械運動の指導法と幇助法」に関する基礎知識を、専門的（スポーツ運動学）に理解し解釈できているか。また、各自で設定した課題技を練習するうえで、技が完成するまでの練習過程を理解し発表できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	10%（授業後の感想文）	40%	40%（模擬授業）	10%（指導案）

【テキスト】

・適宜、資料を配布する。

【参考図書】

・専門　幼児体育指導員養成テキスト（前橋明:大学教育出版、2009）
・アクティブ・チャイルド60min（竹中晃二:サンライフ企画、2010）
・中・高校　器械運動の授業づくり（三木四郎、加藤澤男、本村清人:大修館書店、2006）
・教師のための運動学（金子明友、吉田茂、三木四郎:大修館書店、2008）
・器械運動の動感指導と運動学（三木四郎:明和出版、2015）

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2105	総合演習Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	澤田 節子

【授業の目的と概要】

総合演習１に続く演習で、健康管理に関する知識・技術を一定程度修得したことを前提に進めます。学習内容は、若いうちから老いない体づくり、特に生活習慣病に縁のない体づくりについて考えます。具体的には日常生活の中で、「よく生きること」「楽しく老いること」などから、健康な心と体づくりについて幅広く検討します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	後期の総合演習の運営方針等について学ぶ。
第2回	好きなものが食べられる	栄養素と体、若い脳を保つには等について学ぶ。
第3回	生活行動としての排泄	排泄と健康（排便のしくみ、食物繊維と排便、便秘）について学ぶ。
第4回	病気と縁のない体づくり１	高血圧・脂質異常症を予防するための運動法について学ぶ。
第5回	病気と縁のない体づくり２	糖尿病・骨粗しょう症を予防するための運動法について学ぶ。
第6回	大学祭の準備	大学祭の参加方法を検討する。
第7回	大学祭の準備	大学祭の企画・運営の準備をする。
第8回	大学祭参加	大学祭に参加し、実施する。
第9回	研究テーマと問題意識	個人の研究テーマについて考え、問題意識を絞り込む。
第10回	研究テーマに関わる文献検討	関心のあるテーマを決定し、文献検索をする。
第11回	実験・調査のデータ処理	実験あるいは調査等から得られたデータを処理する。
第12回	研究発表	レポートを作成し発表をする。
第13回	演習活動報告書の作成準備	演習活動報告書の作成準備ーグループ分けをして担当を決める
第14回	演習活動報告書の作成	演習活動報告書の作成ーグループで報告後、完成する
第15回	専門演習の選択、まとめ	専門演習の選択を行う、活動報告書を活用して後期のまとめを行う

【授業の到達目標】

①各自が興味・関心のある内容の中からテーマを設定し、自主的な学びができ、持続的に追求できる能力と態度を身につけることができる。
②課題レポートを期限までに提出し発表することができる。
③討議・発表を通してコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を高める。

【事前・事後学習】

新聞やテレビなどで報道されている健康関連の記事や各種の保健医療活動について興味・関心をもってもらうと理解を深めることができます。
①毎回学習課題について、小レポートをまとめ提出する。
②課題に関連した事後学習を行う。
③次回の課題については事前に読破し演習に臨む。

【成績評価基準】

学習課題のレポートは、期限までに記述し提出できたか。
演習の授業では、グループワークや討議など積極的に取り組めたか。
各回の授業の振り返りとして、小レポートが記述できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50%	30%	0	20%

【テキスト】

・初回に紹介します。

【参考図書】

・初回に紹介します。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2105	総　合　演　習　Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	尚 爾華

【授業の目的と概要】

仕事でも、私生活においても、自己管理により健康かつ理想的な体型をつくる、あるいはキープすることは非常に重要である。
このゼミでは、総合演習Ⅰで学習した基礎知識を生かし、栄養と運動の面から理想的な体型を作ることをテーマにする。栄養面あるいは運動面から各自で自由にテーマを選び、調べてから発表する。自分自身の体型づくりを計画し実践していく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	後期のガイダンス、自身の体づくり計画を立てる	前期の内容を復習し、後期では発表の練習の他、各自で自身の体づくり計画（半年間）を立てる。必要に応じ、ゼミの中でアドバイスし合う。
第2回	栄養面①健康食品について	担当者が健康食品の商品を数種類集め、ゼミ内で展示しながら発表する
第3回	栄養面②栄養ドリンクについて	担当者が栄養ドリンクを数種類集め、ゼミ内で展示しながら発表する。
第4回	栄養面③ビタミン剤について	担当者がビタミン剤を数種類集め、ゼミ内で展示しながら、発表する。
第5回	栄養面④市販のプロテインについて	担当者がプロテインを数種類集め、ゼミ内で展示しながら、発表する。
第6回	栄養面⑤食事のカロリー計算法について	カロリーカードを利用し、料理や食材のカロリー計算法を学ぶ。
第7回	大学祭準備①企画案を作成する	ゼミ長を中心に、大学祭の企画案を作成する。
第8回	大学祭準備②役割分担及び予備練習をする	ゼミ内で役割分担を決め、予備練習をする。
第9回	運動面①　南北アメリカにおけるスポーツと健康について	担当者が2020年五輪の種目である南北アメリカの伝統スポーツと健康について紹介する。
第10回	運動面②　アフリカにおけるスポーツと健康について	担当者が2020年五輪の種目であるアフリカの伝統スポーツと健康について紹介する。担当者が発表する。その内容についてゼミ内で議論をする。
第11回	運動面③　オセアニアにおけるスポーツと健康について	担当者が2020年五輪の種目であるオセアニアの伝統スポーツと健康について紹介する。担当者が発表する。その内容についてゼミ内で議論をする。
第12回	運動面④　アジアにおけるスポーツと健康について	担当者が2020年五輪の種目であるアジアの伝統スポーツと健康について紹介する。健康に関する最新ニュース、記事、論文などについて、一人ずつ3分間紹介する。
第13回	運動面⑤　ヨーロッパにおけるスポーツと健康について	担当者が2020年五輪の種目であるヨーロッパの伝統スポーツと健康について紹介する。健康に関する最新ニュース、記事、論文などについて、一人ずつ3分間紹介する。
第14回	フィールドワークを実施する（料理実習）	栄養や食材の知識を生かし、フィールドワークとして料理実習を実施する。
第15回	全体のまとめ	全体のまとめをし、皆勤賞を発表する。

【授業の到達目標】

栄養と運動の両方から健康管理の基礎知識を身につける。自身の体づくり計画を立てて、実施し、その実践を通じて学習したことをまとめることができる。

【事前･事後学習】

実践にはおのおのの努力が必要である。小さな目標でも半年間、仲間と励ましあって進む心構えを持つこと。

【成績評価基準】

基本的な栄養面の知識を理解し、カロリーの簡単な計算ができる。
スポーツの種目別で、運動と健康の関係を説明することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	50	0

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･資料を配布する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2105	総合演習 Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	高間 佐知子

【授業の目的と概要】

各自で決定したテーマについて、ワードを用いてレジュメを作成してもらい、報告をしてもらうことで、基本的なプレゼンの技術を習得することを目的とします。また、報告を聴く学生は質疑応答によりディベートを行ってもらいます。報告は、最低でもグループで1回、個別で1回は行う予定です。また、11月ごろには大学祭に参加してもらうことで、企画運営や協調性を養うことも目的としています。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	後期の活動計画の検討	半年で実施すべきことを計画して確認する
第2回	イベント準備①企画	自分たちのやりたいイベントを企画検討する
第3回	イベント準備②予算案･実施要領	イベントの予算について計算し、実行可能性と利益率を検討する
第4回	イベント準備③備品などの作成	イベントで必要なものを作成する
第5回	イベント実施	実際に企画したイベントを実行する
第6回	イベント振り返り	実行したイベントに関する決算と事業報告に基づいて反省をする
第7回	個別発表の計画	個別に発表するテーマを設定する
第8回	個別発表の準備①情報収集	テーマに関する情報を収集する
第9回	個別発表の準備②レジュメ作成	発表用のレジュメを作成する
第10回	個別発表の実施①	個別発表および質疑応答
第11回	個別発表の実施②	個別発表および質疑応答
第12回	短期的人生設計とコース選択	コース選択の確認と卒業までの人生設計を考える
第13回	長期的人生設計	卒業後の将来について考える
第14回	ディベート	今後の人生も踏まえたテーマでディベートを行う
第15回	総括	活動報告書の作成

【授業の到達目標】

演習活動を通じて報告レジュメを作成し、責任をもって期日までに報告できるようにする。また、大学祭へ参加することで、企画能力および協調性を身につけるようにする。

【事前・事後学習】

与えられたテーマおよび自分で決定したテーマについて、新聞、雑誌、書籍、インターネットを利用することで、最低でも言葉の意味を調べて理解をすることを求める。

【成績評価基準】

受講態度や演習での貢献度を判断して評価します。具体的には、大学祭への参加、割り当てられた報告およびレジュメの作成をみます。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	100	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2105	総　合　演　習　Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

総合演習Ⅰを基に、人間らしく生きられる社会をつくるにはどのようにすればよいのか、人間に関わるさまざまな問題の中から、関心のあるテーマを見つけ、基礎的な調査や実験などを行い、結果を分析し対応を考える。調査･実験などの結果を報告しあい、プレゼンテーション技術も学ぶ。その学習過程で、各自の適性にあった専門を見つけ、専門演習につなげられるようにしたい。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	関心のあるニュースと意見を発表	関心のある最近のニュースをとりあげ、各自の考えを3分間スピーチする。
第2回	研究テーマと問題意識を考える	グループあるいは個人で、研究テーマと問題意識を絞り込んでいく。
第3回	研究テーマの決定と問題意識の明確化	問題意識を明確化し、研究テーマを決定する。
第4回	大学祭の準備、研究テーマに関わる先行研究の検討	大学祭の準備をする。研究テーマについて、これまでどのような研究がされ、どのような結果が得られているのか調べる。
第5回	大学祭の準備、研究計画と予備実験･調査	大学祭の準備をする。研究計画をたて、予備実験あるいは予備調査を行ってみる。
第6回	大学祭の準備、実験･調査の実施	大学祭の準備をする。実験あるいは調査を実施する。他のメンバーの実験や調査の参加者にもなる。
第7回	大学祭の準備、実験･調査の実施	大学祭の準備をする。実験あるいは調査を実施する。他のメンバーの実験や調査の参加者にもなる。
第8回	大学祭への参加	大学祭に参加する。
第9回	フィールドワーク	フィールドワーク
第10回	実験･調査のデータ処理	実験あるいは調査から得られたデータの処理をする。
第11回	研究発表	関心のあるテーマについて発表し、討論に参加する。
第12回	研究発表	関心のあるテーマについて発表し、討論に参加する。
第13回	研究発表	関心のあるテーマについて発表し、討論に参加する。
第14回	ゼミ活動報告書の内容確認	ゼミ活動報告書の作成と内容の確認をする。
第15回	まとめ	ゼミ活動報告書を基にまとめをする。

【授業の到達目標】

各自の関心の強い事柄について情報収集し、発表し、討論に参加することができる。またコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高めることを到達目標とする。

【事前･事後学習】

グループあるいは個人で実施する実験や調査において、例えば研究計画、実験･調査の準備、データ処理、発表準備は、事前･事後学習を行ってほしい。また大学祭の準備、ゼミ活動報告書の作成についても、授業時間外に積極的に行ってほしい。

【成績評価基準】

成績は、発表内容、プレゼンテーションの方法、討論への参加、レポート内容、行事への参加などの積極性を総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	0	40（毎回授業時の報告書内容、授業態度）

【テキスト】

･適時資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2105	総合演習 Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

健康科学および体力科学を専門的に学ぶ学生として基礎となる教養を深めつつ、スタディスキルズを高めることを目的とする。※スタディスキルズ（読む、聴く、書く、考える、調べる、整理する、まとめる、表現する、伝える）

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	図表の作り方	見せたいデータによってどのような図表を用いるべきかを考えて、図表の作成がパソコンを使ってできるように学習する。
第2回	ロジカルシンキングのトレーニング	ロジカルシンキング（論理的思考法）ができるようになるためにその方法を学習し、実際にトレーニングする。
第3回	クリティカルシンキングのトレーニング	クリティカルシンキング（批判的思考法）ができるようになるためにその方法を学習し、実際にトレーニングする。
第4回	問題解決のための思考	問題解決のための思考を学習し、 問題解決力を養うトレーニングを行う。
第5回	リーダーシップとは	リーダーシップとはどのようなものかを学び、リーダーシップを発揮し、各グループで与えられた課題を解決する。
第6回	ディベートとは	ディベートとはどのようなものかを学び､実際にテーマを決めて実施してみる。
第7回	プレゼンテーション１	テーマを決めてプレゼンテーションをする。
第8回	デスカッション１	プレゼンテーションされたテーマについてディスカッションする。
第9回	プレゼンテーション２	前回の反省を生かして再びテーマを決め、プレゼンテーションをする
第10回	デスカッション２	プレゼンテーションされたテーマについてディスカッションする。
第11回	フィールドワーク１（健康教室）	フィールドワークとして健康教室へ参加する。
第12回	フィールドワーク２（大学祭イベントの準備）	フィールドワークとして大学祭でのイベントを企画し、準備をする。
第13回	フィールドワーク３（大学祭イベント）	フィールドワークとして大学祭でイベントの運営をする。
第14回	ゼミ活動報告書の作成	前期の活動をまとめ、活動報告書を完成させ、提出する。
第15回	まとめ	各ゼミから提出されたゼミ活動報告書を活用して、後期の総括を行う。

【授業の到達目標】

健康･体力づくりの基礎をテーマとして、より良い資料･文献収集、レポート作成、発表ができる。

【事前・事後学習】

健康科学および体力科学について興味･関心をもって、
①事前に課題レポートをまとめ提出する。
②課題に関連した事後学習を行う。
③次回の課題については事前に準備し、演習に臨む。

【成績評価基準】

健康･体力づくりの基礎をテーマとして、より良い資料･文献収集、レポート作成、発表ができるか
学習課題のレポートは、期限までに記述し提出できたか。
演習の授業では、グループワークや討議など積極的に取り組めたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	60%	20%	0%	20%（発表）

【テキスト】

･資料を配布します。

【参考図書】

･適宜、紹介します

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2105	総　合　演　習　Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	長谷川 望

【授業の目的と概要】

総合演習Ⅰにおいて、考えたテーマについてさらなる情報収集やまとめ、プレゼンテーションを実施する。また、実際の現場での体験を共有し、ディスカッションすることによって選手･指導者としての資質の向上を図ることを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	後期の活動、目的、内容、方法等について説明する。
第2回	プレゼンテーション法について	パワーポイントを用いたプレゼンテーションの方法について学ぶ
第3回	プレゼンテーション法	各自のテーマについて、パワーポイントを用いてミニ発表する。
第4回	大学祭企画	大学祭で何を行うかのテーマを決定する。また、具体的な内容や、役割分担等を決める。
第5回	大学祭準備	テーマに沿った内容をグループごとに詳細を決定する
第6回	大学祭準備	大学祭当日のシミュレーションを行い、修正をする
第7回	大学祭	大学祭当日の運営を全員で協力して分担して行う。
第8回	大学祭振り返り及び各自のテーマ再考	大学祭への取り組みから何を得たか、学んだかをふりかえりを実施し共有する。そこから各自のテーマを再考する
第9回	フィールドワークの検討	各自が再考したテーマに基づき、フィールドワークについて検討する。
第10回	フィールドワークの企画	フィールドワークについて具体的に企画する。
第11回	フィールドワークの実際、ふりかえり	フィールドワークを実際に行い、ふりかえりを実施する。
第12回	後期活動報告書作成	後期の活動報告書を各自が作成する。
第13回	後期活動報告書作成	後期の活動報告書を各自が作成する。
第14回	後期活動報告のまとめ	後期の活動報告書をゼミでまとめる。
第15回	後期総括	後期総括を行い、専門演習へつなげる。

【授業の到達目標】

サッカー(スポーツ)のメンタルトレーニング法、指導法、トレーニング法の導入としてのスポーツ心理学、指導法の基礎知識を習得することを目的とする。

【事前･事後学習】

スポーツ心理学の視点でスポーツを観戦したり、ニュースや新聞を読み、考える習慣を身につける。ワード、エクセル、パワーポイント等の基本的な使い方をマスターしておく。

【成績評価基準】

メンタルトレーニング法、指導法、トレーニング法の導入として、スポーツ心理学の位置づけを説明できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20%	60%	20%	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2105	総合演習Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

コミュニケーション力を上げる手法の一つとして、ピアヘルピング（学生同士のカウンセリング）を取り上げる。ピアヘルピングの手法を学び、実践することで他者支援と自己実現をめざす。

ピアヘルピングを学習する目的は、単に資格取得のためだけではなく、大学内でのピア（仲間）活動として何ができるかを全員で考え、出来るところから取り組んでいくことである。これは、各自の対人スキルをより高める実践となる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	総合演習Ⅱの授業の概要、事前事後学習、受講上の諸注意。
第2回	カウンセリングの定義と略史と必要性	1カウンセリングの定義　2カウンセリングの略史　3カウンセリングの必要性
第3回	カウンセリングの種類	1目的別　2対象別　3方法別　4トピック別　5領域別　6理論別
第4回	ピアヘルピングの関係領域	1カウンセリング　2教育　3心理療法　4人事･労務管理　5キャンパスポリス
第5回	ピアヘルピングのプロセス	1リレーションづくり　2問題の把握　3問題の解決
第6回	ピアヘルパーのパーソナリティー	1人好き　2共感性　3自己開示　4自分の人生を持つ
第7回	カウンセリングの動向	1折衷主義　2育てるカウンセリング　3自己開示の容認　4仲間同士のカウンセリング
第8回	大学祭に参加する	大学祭において、企画、コーナーの運営または展示を行う。
第9回	ピアヘルピングの言語的技法(1)授業、繰り返し、明確化	1相手のみになりきって話を聞く　2相手の話の要点を整理して返す　3相手がまだ言葉にしていないところを言葉にする
第10回	ピアヘルピングの言語的技法(2)支持、質問	1相手に自信(自己肯定感)を育てる　2閉ざされた質問･開かれた質問
第11回	ピアヘルピングの非言語的技法	1視線　2表情　3ジェスチャー　4身体接触　5声の質量　6服装　7すわり方　8時間厳守　9歩き方　10言葉遣い　11挨拶
第12回	対話上の諸問題への対処法	1面接の切り上げ方　2私的感情　3話が進展しないとき　4抵抗　5沈黙
第13回	問題への対処法	1リファー　2ケースワーク　3コンサルテーション　4ピアスーパービジョン　5具申　6個人ヘルピング
第14回	ピアヘルパーの心構え	1なおそうとするな、わかろうとせよ　2ことばじりをつかまえるな感情をつかめ　3行動だけを見るな、ビリーフをつかめ
第15回	まとめ	総合演習Ⅱのまとめと振り返り

【授業の到達目標】

1ピアヘルピングの知識の習得
2ピアヘルピング技法の獲得
3学生生活でピアヘルピング活動が実践できる

【事前･事後学習】

シラバスには授業ごとの学習テーマが提示されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に示されるので、授業までに予習をしてくること。

【成績評価基準】

1ピアヘルピングの知識が習得できたか
2ピアヘルピング技法を獲得できたか
3学生生活でピアヘルピング活動が実践できたか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50(毎時間の振り返り)

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･授業内で紹介する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2105	総　合　演　習　Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	正岡 元

【授業の目的と概要】

基礎演習と専門演習の間にあって、あるテーマについて調査や実験を行い、その内容をレポートにまとめる力を養う。
そのための題材としてコンピュータネットワークの仕組みおよびプログラミングを基礎から学ぶ。
様々な課題をどのように解けばよいか，解決の道筋を自ら考え，プログラムとして表現する手法を身に付ける。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	後期の内容について説明する
第2回	コンピュータネットワーク（1）パケット通信のしくみ	コンピュータネットワークの仕組みを知り，どのようにデータが運ばれるかを理解する
第3回	コンピュータネットワーク（2）ルーティング	ルーティングの概念を学ぶ
第4回	コンピュータネットワーク（3）ネットワーク機器	ネットワーク機器の扱い方を学ぶ
第5回	大学祭準備（1）参加方法の決定	大学祭への参加方法を議論する
第6回	大学祭準備（2）イベント運営の検討	大学祭でのイベント運営について検討する
第7回	大学祭準備（3）イベントの準備	大学祭でのイベント運営の準備を行う
第8回	大学祭参加	大学祭においてイベントを運営する
第9回	コンピュータネットワーク構築体験	実際にコンピュータネットワークの構築を体験する
第10回	後期活動報告書作成準備（1）整理	報告書作成に先立ち，後期の活動について整理する
第11回	後期活動報告書作成準備（2）まとめ	報告書作成のため，前期の活動を通して学んだことをまとめる
第12回	後期活動報告書作成	個人の活動内容を持ち寄り，報告書を作成する
第13回	専門演習の選択について（1）	専門演習の選択方法を説明し、各自で検討をする
第14回	専門演習の選択について（2）	専門演習の選択をし、選択希望用紙の作成をする
第15回	まとめ	各ゼミの報告書を読み，後期の活動を振り返る

【授業の到達目標】

課題の解決方法を見つけ出すことができる。
問題の解法をプログラムとして表現することができる。
調査や実験した内容を報告書にまとめられる。

【事前･事後学習】

毎回の演習で進捗報告を行い，事後学習としてこれまでの取り組みを振り返る。また，事前学習として次回までの課題を示す。

【成績評価基準】

毎回の進捗報告書、および講義内で示す個別の課題による。
また，グループ課題については全体の評価点をその貢献度（分担割合）に応じて分割し個人の評価とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	20	0	30%(進捗報告書)

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･ラディア パールマン，インターコネクションズ第2版，翔泳社
･Anany Levitin, Maria Levitin，アルゴリズムパズル ―プログラマのための数学パズル入門 ，オライリージャパン

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2105	総合演習 Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	村上 恭子

【授業の目的と概要】

前期で各自がまとめたルールを改編すると，何が生じるのかを多様な立場から考える。それらの内容を実践して，レポートにまとめることができる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	後期の授業概要について･大学祭について	後期の授業概要について理解する
第2回	大学祭について	大学祭の参加について考える
第3回	各自のテーマの検討と決定及び研究方法について	グループ内で各自のテーマと研究方法について検討をする。
第4回	ルール改編の実践1とまとめ	ルール改編の実践1-教室以外の場所でルールの改編を考えてまとめる。
第5回	ルール改編の実践2とまとめ	ルール改編の実践2-教室以外の場所でルールの改編を考えてまとめる。
第6回	大学祭	大学祭への参加
第7回	文献の情報収集　フィールドワークの準備	大学祭のまとめ，文献の情報収集　フィールドワークに参加するための準備
第8回	フィールドワーク	フィールドワークへの参加
第9回	ルール改編のレポートを作成する1	ルール改編のレポートを作成する1
第10回	ルール改編のレポートを作成する2	ルール改編のレポートを作成する1
第11回	ルール改編のレポートを作成する3	ルール改編のレポートを作成する1
第12回	各自のテーマについてパワーポイントの作成1	各自のテーマについてパワーポイントを作成する1
第13回	各自のテーマについてパワーポイントの作成2	各自のテーマについてパワーポイントを作成する1
第14回	各自のテーマについてパワーポイントの作成3	各自のテーマについてパワーポイントを作成する1
第15回	各自のレポートの発表と相互評価	各自のレポートの発表と相互評価を行う

【授業の到達目標】

前期にまとめた内容をもとに，ルールを改編した場合の事例を考えることができる。
調べた内容をパワーポイントやポスターで聞き手にわかり易く説明ができる。

【事前・事後学習】

プレゼンテーションの効果的な方法について，調べておく。

【成績評価基準】

1.ルールを改編した場合の事例を考えることができる。
2.各自で調べた内容を，聞き手にわかり易く説明することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･適宜紹介する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2105	総　合　演　習　Ⅱ	2年	後期	2単位	必修	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

総合演習Ⅱでは、総合演習Ⅰから発展し、各自の発表への質問･討論や、専門的な技法を体験しながら演習を用いて、社会生活で重要となる他者との相互的コミュニケーションと問題解決力の向上を目的とする。具体的には、各自の発表をテーマに質問･論議しあうことや、心理学で実施するワーク等の一定の活動を用いた体験演習の実施を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス　体験発表	本演習についての説明と、休講期間中の体験について発表し、質問しあう。
第2回	会話のスキルⅠ　傾聴スキル	基本的なカウンセリングスキルのワークを用いて、話し手を支援する傾聴スキルを体験する。
第3回	会話のスキルⅡ　代替案の提示	相手の意見や考えを踏まえた、互いのニーズを調整する代替案の提示ワークを体験する。
第4回	会話のスキルⅢ　テーマトーク	グループで、提示されたテーマを軸にしたフリートークを行い、相互コミュニケーションを体験する。
第5回	覚醒水準	リラックスや高揚などの覚醒水準を調整するワークを行い、気持ちのコントロールについて体験する。
第6回	動機づけⅠ	日常生活における自身の動機付けの傾向について整理し、発表･質問しあう。
第7回	動機づけⅡ	動機づけ理論について学び、自分なりの動機づけの上げ方を作成･議論する。
第8回	動機づけⅢ	学生生活における活動への動機づけを上げるための実施効果を発表･質問しあう。
第9回	フォーカシング	フォーカシングの技法を用い、身体･感情への効果を体験する。
第10回	認知の偏りⅠ	認知･思考が偏りやすいことを学び、自身の思考の特徴を整理する。
第11回	認知の偏りⅡ	自身の思考傾向と真逆の思考を作成するワークを行い、思考の極端さの影響について体験する。
第12回	思考変容Ⅰ	簡単な認知行動療法ワークを用い、思考変容を試みる。
第13回	思考変容Ⅱ（前半）	簡単な認知行動療法ワークを継続し、生活の中で実践した結果を発表･質問しあう。
第14回	思考変容Ⅱ（後半）	簡単な認知行動療法ワークを継続し、生活の中で実践した結果を発表･質問しあう。
第15回	まとめ	1年間のまとめを行い、レポート課題について説明する

【授業の到達目標】

体験した各種のスキルを生活の中で使用し、予防的に心身の調整法を実践できる。
対人コミュニケーションの各種スキルや心身の調整法を組み合わせ、問題解決への対処や適切な援助要請ができる。

【事前･事後学習】

事前に、各回のテーマや用語について調べてくる。事後は、出された課題についての実施やワークシートへ記入してくる。

【成績評価基準】

心理学の各種ワークの目的や効果を簡単に説明し、実施することができる。
多面的な見方や考え方を挙げることができ、日常生活で実践することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	40	0	20（授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

･必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1106	東邦プロジェクトA	1年	後期	2単位	選択	上條 憲二

【授業の目的と概要】

自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「今よりもうちょっとまちを元気に！」をテーマに「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。授業の前半では、必要なスキルを学び（座学）、学んだスキルを活かしながら（フィールドワーク等のアクティブラーニング）論理的思考力・コミュニケーション力・課題解決力等を養う。授業の後半ではPBL（課題解決型学習）手法を用いる。地域連携を前提として自ら想像し、創造する「答えのない」学びのプロジェクトを展開する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ブリーフィング	東邦プロジェクトとは何か。これまでの活動内容。
第2回	企画立案の方法	企画立案の基本的知識の説明
第3回	東邦プロジェクトとしての活動内容の検討	活動内容を発表し、何をテーマにするか決定する。
第4回	活動内容の発表と決定	チームによる検討と実施。
第5回	チームによる分科会（課題の設定）	チームとして何をすべきか。どのようにすすめるべきかを検討する。
第6回	チームによる分科会（外部環境の分析）	テーマを推進するにあてったの外部環境の問題点、機会点の検討。
第7回	チームによる分科会（swotの推進）	テーマ推進に際するswotを行うことにより、方針を定める。
第8回	チームによる分科会（具体的な活動）	テーマ推進のための具体的な活動のライアル
第9回	チームによる分科会（活動を通じての課題点議論）	実際に推進してみてどのような課題があったかを確認
第10回	チームによる分科会（具体的な活動推進）	テーマ推進のためにチームとして活動する
第11回	チームメンバー各自の活動確認	各自の行動をチーム内で発表し、進捗状況を確認する
第12回	活動内容中間発表	進捗状況報告とディスカッション。
第13回	チームによる分科会（活動の修正について確認）	活動の推進方法に関して修正点、改善点を議論する。
第14回	チームによる分科会（成果の確認）	テーマ推進の結果、どのような成果があったかを確認する。
第15回	まとめ	プロジェクトの総括と以降の進め方の確認。

【授業の到達目標】

地域の課題に対して意識を持つことができるか。
具体的に企画を立案し、実行に移すことができるか。
異なる意見を聞きながら、全体を進めることができるか。
社会人としての基本的な能力を身につけることができるか。

【事前・事後学習】

テーマに合わせて企画立案の準備を行う。
テーマに合わせた資料の収集。
企画書のための文書作成の練習。
プレゼンテーションの練習。

【成績評価基準】

自ら主体的に参加し、他者に働きかけることができるか。
企画を立案し、企画書を作成することができるか。
プレゼンテーションをすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20%	80%	0	0

【テキスト】

・必要に応じて紹介します。

【参考図書】

・必要に応じて紹介します。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1106	東 邦 プ ロ ジ ェ ク ト A	1年	後期	2単位	選択	舩木 恵一

【授業の目的と概要】

本プロジェクトは、学生が主体的に地域における資源（モノ･ヒト･コト）に焦点をあて、大学と連携した活動を企画制作し、地域コミュニティに貢献することを通じて、企業や団体の社会的責任や公共性、コラボレーション活動の企画･提案･運営を学ぶことを目的とします。プロジェクト参加を通じて、発想力･行動力･アイデア開発･実践力を身に着けることを目指します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション～半期行動計画作成	メンバーの自己紹介とプロジェクト参加目的の発表
第2回	プロジェクト化アイデアのディスカッション	どのような地域資源に焦点を合せるかについての討議
第3回	プロジェクト化に向けた情報収集と整理	地域資源情報の収集と整理
第4回	連携活動のアイデア出し	プロジェクトとして連携する活動アイデアの討議
第5回	プロジェクト概要の決定	焦点をあてる地域資源と連携方法のまとめ～プロジェクトのネーミング化
第6回	プロジェクト行動計画の策定	プロジェクトの日程を決める
第7回	前半のまとめ	前半の活動をふりかえる
第8回	連携先への企画提案書作成	連携先への企画提案書を作成する
第9回	連携先への提案活動	連携先への提案活動を行う
第10回	フィードバックを受け取る	提案のフィードバックを受け取る
第11回	企画案の修正	フィードバックに基づき企画案を修正する
第12回	プロジェクト準備	プロジェクトの準備を行う
第13回	プロジェクト実施	プロジェクトを実施する
第14回	プロジェクトの総括と報告書作成	取り組んだプロジェクトの総括を行い、報告書化する
第15回	プロジェクト成果の発表	取り組んだプロジェクトの成果を発表する

【授業の到達目標】

学生主導による地域資源の発掘と連携作業の企画提案によって、地域貢献につながる何らかの活動の実施ができること。

【事前･事後学習】

前半においては、連携可能な地域資源への積極的な発掘、好奇心の維持、後半においては、その資源周辺課題の理解と、連携による活性化施策のアイデアを常に考えること。

【成績評価基準】

プロジェクトの推進を前提に、各自の積極性･協調性･企画開発力･リーダーシップの発揮･文書作成力･渉外活動力･資料収集力･事務処理力･報告能力などを、分担した役割を含めて、総合的に判断いたします。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40	0	60 実行したプロジェクトの内容、精度、成果に基づく判断を行います

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･必要に応じて紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1106	東邦プロジェクトA	1年	後期	2単位	選択	長坂 康代

【授業の目的と概要】

自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「今よりもうちょっとまちを元気に！」をテーマに「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。授業の前半では、必要なスキルを学び（座学）、学んだスキルを活かしながら（フィールドワーク等のアクティブラーニング）論理的思考力・コミュニケーション力・課題解決力等を養う。授業の後半ではPBL（課題解決型学習）手法を用いる。地域連携を前提として自ら想像し、創造する「答えのない」学びのプロジェクトを展開する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション―多文化共生とは	授業の内容や目標を理解し、授業の進め方を確認する。多文化共生社会について学ぶ。
第2回	多文化共生（1） 多様な性を理解する	時事問題である性的少数者（ＬＧＢＴ）について学び、マイノリティの立場を考える。
第3回	多文化共生（2） 多様な結婚のかたちを受容する	多様化する結婚の形態について学び、日本 - 世界の社会の変容を知る。
第4回	多文化共生（3） 出産の多様化を考える	生殖医療の発展について学び、その是非やビジネスのあり方について話し合う。
第5回	多文化共生（4） 障がい者の視点に立つ	社会の周縁に置かれがちな障がい者について学び、自分の生活や生き方を見直す機会にする。
第6回	名駅フィールドワークのための事前学習	名駅周辺の歴史について調べる。
第7回	名駅フィールドワーク（1） 多文化共生の現場を歩く	名駅周辺を実際に歩き、今後の調査に関する内容を把握する。都市のまちづくりについて考える。
第8回	まとめ（1）と次回のフィールドワーク準備	街歩きをして気づいたことをまとめる。次回の準備として、イスラームに関して学ぶ。
第9回	名駅フィールドワーク（2） モスク見学・ハラル食材店視察	名古屋モスクを見学して説明を受ける。また、海外の食品を扱う食材店に行き、聞き取り調査をおこなう。
第10回	まとめ（2）と次回のフィールドワーク準備	イスラームについて理解を深めたことをまとめる。次回の準備として、ホームレスの生活について学ぶ。
第11回	名駅フィールドワーク（3） ホームレス問題	ホームレス支援をしている団体やその場所に行き、聞き取り調査をおこなう。
第12回	まとめ（3）とプロジェクト案作成に向けた準備	ホームレスに関わる人びとから聞いたことをまとめる。
第13回	「まちの活性化プロジェクト案」作成	企画書の形式を学び、「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。
第14回	「まちの活性化プロジェクト案」報告会	作成した案の報告会を行う。他の意見を聞き、最終案として完成させる。
第15回	まとめ（活動レポートの作成と振り返り）	ミニレポートを作成し、自己評価をおこなう。

【授業の到達目標】

自分たち同類だけが生きているのではないことを知り、多文化共生について理解できる。
他の受講者との共同作業を積極的におこなうことができる。
他者や異文化のなかに、自分が培ってきた文化や習慣との共通性を見出せるような類推力や、相手の立場で考えて配慮できるような想像力を培うことを学ぶことができる。

【事前・事後学習】

新聞やテレビの報道などを通して、社会がどのように動いているか意識する。
通学時に周りの様子に気を配り、プロジェクトにつながることがないか考える。
これまで「見て見ぬふり」「他人事」として捉えてきたことに対し、その立場で考えることができるように意識する。

【成績評価基準】

授業の内容やフィールドワークを通して、多文化共生について理解することができたか。
他の受講者とコミュニケーションをとりながら作業することができたか。
他者や異文化のなかに、自分が培ってきた文化や習慣との共通性を見出せるような類推力や、相手の立場で考えて配慮できるような想像力を培うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	80	0	20(ミニレポート10、自己評価10)

【テキスト】

・授業中に適宜資料を配布する。

【参考図書】

・授業中に紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2107	東 邦 プ ロ ジ ェ ク ト B	2年	前期	2単位	選択	長坂 康代

【授業の目的と概要】

自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「東邦プロジェクトA」で計画した「まちの活性化プロジェクト」を実践する。授業スタイルは地域連携PBL（課題解決型学習）とし、PBL手法を用いる。原則として実践に必要なこと全てを学生自身が主体となって、学内･学外の協力者と交渉しながらプロジェクトを実践していく。実践に必要なスキルや情報を修得できるよう、適宜、座学での学びを取り入れていく。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション―多文化共生と地域福祉について	授業の内容と進め方を確認し、地域社会の福祉活動についてイメージする。
第2回	「企画案」の作成、ビブス制作の検討	大学周辺で奉仕活動場所を探し、ビブスのデザインや企業探しをする。必要に応じて、対象者にアポイントをとって交渉する。
第3回	「企画案」の検討、ビブス制作に関する交渉と依頼	企画案を遂行できるか検討する。必要に応じて、対象者にアポイントをとって交渉する。
第4回	地域社会の奉仕活動の準備	活動場所と内容を確認する。必要に応じて、対象者にアポイントをとって交渉する。
第5回	地域社会の奉仕活動（1）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第6回	地域社会の奉仕活動（2）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第7回	地域社会の奉仕活動（3）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第8回	地域社会の奉仕活動（4）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第9回	活動の小まとめと中間報告	これまでの活動で、変更や見直しがあれば検討する。
第10回	地域社会の奉仕活動（5）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第11回	地域社会の奉仕活動（6）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第12回	地域社会の奉仕活動（7）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第13回	地域社会の奉仕活動（8）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第14回	活動報告プレゼン資料作成	活動報告会のプレゼン資料を作成する。活動の継続(後期)に向けて検討する。
第15回	まとめ（活動レポートの作成と振り返り）	活動を振り返り、ミニレポートをまとめる。

【授業の到達目標】

自ら課題を設定し、課題解決のための情報収集･分析･計画立案（具体的解決策）を考え、実行することができる。

【事前･事後学習】

愛知東邦大学周辺で、清掃が必要な地域があるか気を配る。

【成績評価基準】

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	80	0	20(ミニレポート10、自己評価10)

【テキスト】

･授業中に適宜資料などを配布する

【参考図書】

･授業中に紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2107	東邦プロジェクトB	2年	前期	2単位	選択	蜷川 喜信

【授業の目的と概要】

現代においては、将来、教職を目指す学生だけでなく、どんな企業や組織においても、自ら課題を見つけて解決に向けての様々な企画を提案し実行することが求められています。

このプロジェクトは、さまざまな教育機関でのインターンシップや学校ボランティアに挑戦して、いわゆるアクティブ･ラーニング（ＡＬ）を実践します。

基本的には、２～３人のグループ活動で行って、年度末における最終的な活動報告会を実施します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	プロジェクト活動の進め方､ルールの確認をし､活動するグループ分けをする。
第2回	グループ活動の準備１	グループ活動の役割分担決めと活動計画案を立案する。
第3回	グループ活動の準備２	校外での集会（全体説明会）への参加する。
第4回	活動計画作成	活動の実態に沿った、より具体的な活動計画を作成する。
第5回	グループ活動１	実践ＡＬ活動を展開する。
第6回	グループ活動２	実践ＡＬ活動を展開する。
第7回	グループ活動３	実践ＡＬ活動を展開する。
第8回	グループ活動４	実践ＡＬ活動を展開する。
第9回	活動経過報告(第１回)	全体で集まって、相互の各グループ活動の経過報告する。
第10回	グループ活動５	実践ＡＬ活動を展開する。
第11回	グループ活動６	実践ＡＬ活動を展開する。
第12回	グループ活動７	実践ＡＬ活動を展開する。
第13回	グループ活動８	実践ＡＬ活動を展開する。
第14回	活動経過報告(第２回)	全体で集まって、相互の各グループ活動の経過報告して、活動報告会に向けたプレゼン資料を作成する。
第15回	まとめ（活動実践レポートの作成と振り返り）	グループ活動を振り返って、実践レポートにまとめる。また、グループ内での貢献度を相互評価する。

【授業の到達目標】

グループ活動の中で、自ら課題を設定して、課題解決のために状況を分析し、計画を立案（具体的解決策）して、学校等の教育機関において実践ＡＬ活動を実行することができる。

グループで活動するために必要な力（相互のコミュニケーション力）を身につけ、グループの一員としての活躍することができる。

【事前･事後学習】

単なるボランティア活動とは違って、将来、自らＡＬ活動を指導する立場となった時のために、ＡＬ指導法について基本的なポイントを確認しておく。

【成績評価基準】

積極的にプロジェクトに取り組む姿勢が見られたか。

グループ内での役割を認識し、困ったときに相互援助ができたか。

経過報告会での相互の各グループ活動実践から学ぶことができたか。

学校現場において、実践的なＡＬ活動の指導法を自ら学ぶことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	70	0	20（ミニレポート２回)、10（グループ相互評価）

【テキスト】

･授業内で資料配布

【参考図書】

･授業内で紹介

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2108	東 邦 プ ロ ジ ェ ク ト C	2年	後期	４単位	選択	蜷川 喜信

【授業の目的と概要】

このプロジェクトは、前期にプロジェクトＢを履修した者を中心としますが、新規者も加えて、プロジェクトＢを継承･発展させて展開する活動です。現代においては、教職を目指す学生だけでなく、どんな企業や組織においても、自ら課題を見つけて解決に向けての様々な企画を提案し実行することが求められています。

このプロジェクトは、さまざまな教育機関でのインターンシップや学校ボランティアに挑戦して、いわゆるアクティブ･ラーニング（ＡＬ）を実践します。基本的には、２～３人のグループ活動で行って、年度末における最終的な活動報告会を実施します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	プロジェクト活動の進め方、ルール再確認、グループ分けをする。
第2回	グループ活動の準備１	各グループで、活動の役割分担を決め、活動内容を検証する。
第3回	グループ活動の準備２	各グループで、プロジェクトＢからの継続と新規の課題を検討する。
第4回	活動計画作成	プロジェクトＣの実践活動計画を立案する。
第5回	グループ活動１	実践ＡＬ活動を展開する。
第6回	グループ活動２	実践ＡＬ活動を展開する。
第7回	グループ活動３	実践ＡＬ活動を展開する。
第8回	グループ活動４	実践ＡＬ活動を展開する。
第9回	活動経過報告(第１回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第10回	グループ活動５	実践ＡＬ活動を展開する。
第11回	グループ活動６	実践ＡＬ活動を展開する。
第12回	グループ活動７	実践ＡＬ活動を展開する。
第13回	グループ活動８	実践ＡＬ活動を展開する。
第14回	活動経過報告(第２回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第15回	グループ活動９	実践ＡＬ活動を展開する。
第16回	グループ活動１０	実践ＡＬ活動を展開する。
第17回	グループ活動１１	実践ＡＬ活動を展開する。
第18回	グループ活動１２	実践ＡＬ活動を展開する。
第19回	活動経過報告(第３回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第20回	グループ活動１３	実践ＡＬ活動を展開する。
第21回	グループ活動１４	実践ＡＬ活動を展開する。
第22回	グループ活動１５	実践ＡＬ活動を展開する。
第23回	グループ活動１６	実践ＡＬ活動を展開する。
第24回	活動経過報告(第４回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第25回	グループ活動１７	実践ＡＬ活動を展開する。
第26回	グループ活動１８	実践ＡＬ活動を展開する。
第27回	グループ活動１９	実践ＡＬ活動を展開する。
第28回	グループ活動２０	実践ＡＬ活動を展開する。
第29回	活動経過報告(第５回)とプレゼン資料作成	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告し、年度末の報告会に必要なプレゼン資料を作成する。
第30回	まとめ（実践後の課題と振り返り）	１年間の実践ＡＬ活動におけるグループ活動を振り返って、実践報告会レポートにまとめる。また、グループ内での貢献度を相互評価する。

【授業の到達目標】

教育活動において、ＡＬ活動を指導することができる。

さまざまな教育支援活動のなかで培った、コミュニケーション力を生かすことができる。

【事前･事後学習】

プロジェクトＢを継承して、実践的なＡＬ指導において、自分なりの様々な工夫を試みる。

【成績評価基準】

自覚を持って、積極的にプロジェクトに取り込む姿勢が見られたか。

グループ内での相互的援助ができたか。

経過活動報告会で、各グループの実践活動ミニレポートから学ぶことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	70	0	20（全５回のミニレポート)、10(グループ相互評価)

【テキスト】

･授業で資料配布

【参考図書】

･授業で紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2201	歴史学	2・3年	前期	2単位	選択	白井 克尚

【授業の目的と概要】

この授業では、旧石器時代から近現代までの愛知の歴史を知り、地域の歴史についての基礎的理解を深めることをめざしている。授業形態は、講義・演習方式である。最近の発掘調査により、貝塚、水田の跡、古墳、須恵器など、新しい遺跡や遺物が次々と発見され、歴史が塗り替えられている。授業において、そうした発掘調査の成果や埋蔵文化財を活用することを計画している。授業を通して、実感をもって愛知の歴史を学び、歴史を学ぶ意義について考える契機となることを望む。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業のオリエンテーション一地域の歴史を学ぶことの意味とは一	授業のオリエンテーションとして、地域の歴史を学ぶことの意義について考える。
第2回	愛知の埋蔵文化財と私たち	埋蔵文化財が語る愛知の歴史について知る。
第3回	愛知における主な遺跡と発掘調査	愛知の主な遺跡と発掘調査について知る。
第4回	愛知の旧石器時代遺跡	愛知の旧石器時代遺跡について知る。
第5回	愛知の縄文時代遺跡	愛知の縄文時代遺跡について知る。
第6回	愛知の弥生時代遺跡	愛知の弥生時代遺跡について知る。
第7回	愛知の古墳時代遺跡	愛知の古墳時代遺跡について知る。
第8回	愛知の古代遺跡	愛知の古墳時代遺跡について知る。
第9回	愛知の中世窯業遺跡	愛知の中世窯業遺跡について知る。
第10回	愛知の戦国時代遺跡	愛知の戦国時代遺跡について知る。
第11回	愛知の江戸時代遺跡	愛知の江戸時代遺跡について知る。
第12回	愛知の近代遺跡	愛知の近代遺跡について知る。
第13回	愛知の戦争遺跡	ピースあいちに見学に行き、愛知の戦争遺跡について知る。
第14回	地域に残る遺跡についてのレポート発表	地域に残る遺跡について、調べまとめる。
第15回	授業のまとめ一私たちの歴史への関わり方一	授業のまとめとして、私たちの歴史への関わり方について考える。

【授業の到達目標】

愛知の歴史を学び、地域の歴史を身近なものとして実感するとともに、歴史への理解を深め、自分と歴史との関わり方について考えることができる。

【事前・事後学習】

地域の歴史に関心をもち、現在の自分とどのようにつながっているのかを調べてみる。

【成績評価基準】

学期末に、授業内容に関わる記述形式のテストを行い、歴史への理解を深めたかを確認する。
地域の歴史に関するレポート作成を行い、自分と歴史との関わり方について考えたかを確認する。
毎回の授業において振り返りを行い、地域の歴史への興味や関心を深めたかを確認する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	30	30	0	0

【テキスト】

・授業の中で、適宜紹介する。

【参考図書】

・加藤安信編『遺跡からのメッセージ～発掘調査が語る愛知の歴史～』中日新聞社、2000

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1202	憲　　法	1・2年	前期 後期	2単位	選択	高間 佐知子

【授業の目的と概要】

日本国憲法を通して、日本という国がどのように作られているのか、また社会問題のなかでも憲法と密接な関係のあるものを法的な視点で学んでいく。具体的には、政治と宗教の問題、自衛隊や米軍基地の存在、教育制度、選挙制度、人として生きる権利、他人から邪魔されない権利などを扱って、憲法について基本的な内容を勉強し、我が国の憲法には何が書かれているのか理解してもらうことを目的としている。必要に応じて、条文の意味や解釈、判例の紹介などを行い、法的な基礎知識の習得も目指す。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	憲法概説	憲法とは何か
第2回	憲法前文	憲法の三原則について
第3回	憲法と戦争放棄	憲法9条と平和主義
第4回	憲法9条に関する法律問題	自衛隊、米軍基地、日米安保条約、集団的自衛権など
第5回	憲法と新しい権利	憲法13条と新しい権利との関係性
第6回	憲法13条に関する法律問題	プライバシー権の必要性と限界
第7回	憲法と法の下の平等	法の下の平等とは何か
第8回	憲法14条に関する法律問題	1票の格差、尊属殺重罰規定、パートナーシップ条例など
第9回	憲法と生存権	生存権とは何か
第10回	憲法25条に関する法律問題	朝日訴訟とプログラム規定説
第11回	憲法と表現の自由	表現の自由とは何か
第12回	憲法21条に関する法律問題	名誉棄損に関する事例
第13回	憲法と学問の自由	学問の自由とは何か
第14回	憲法23条に関する法律問題	大学の自治と警察権
第15回	総括	全体の講義のまとめ

【授業の到達目標】

憲法がどのような法律であり、何のために存在しているのかを理解できる。
世の中の社会問題を憲法という法律を通して考えられる。

【事前・事後学習】

自分で憲法の条文をみて、分からない言葉について調べておくこと。

【成績評価基準】

条文の意味を正しく理解でき、法的な問題に対して論理的に説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
100	0	0	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1203	経済学	1・2年	前期	2単位	選択	中山 孝男

【授業の目的と概要】

現代資本主義経済を含め、資本主義経済一般をその本質のレベルから理解し、今現実に起きている問題を正確につかみ取ろうというのが、本講義の目的である。資本主義経済の抱える問題点を明らかにして、その特殊性、歴史性を理解できるようになってもらいたい。

今現在の経済（社会）の仕組みについて、何らかの疑問を持ち、少しでも詳しく分析してみたい、と考えている人の受講を希望する。なお、そのよう考えを持っていない人にとっては、この講義は退屈（というより苦痛）な時間帯となってしまうことを注意しておく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに－－この講義の概要説明	この科目で学ぶ内容、授業の進め方の説明、および約束の確認
第2回	経済学の対象と方法	この講義で扱う対象そのものとそれをどのように分析していくのかについて
第3回	商品	商品とは何か、使用価値と交換価値、労働の二重性
第4回	貨幣	貨幣とは何か、その機能
第5回	資本	資本とは何か、その運動
第6回	資本の増殖と労働力商品	剰余価値生産、労働力という商品
第7回	賃金	賃金の本質とその形態
第8回	特別剰余価値	特別剰余価値の生産と競争
第9回	生産価格と一般的利潤率	生産価格と一般的利潤率の形成
第10回	独占価格	独占資本の形成と参入阻止価格
第11回	資本の蓄積過程	資本の再生産、取得法則の転換
第12回	相対的過剰人口	資本主義経済における人口法則
第13回	商業資本と商業利潤	商業資本の自立化と商業利潤
第14回	利子生み資本と信用制度	利子生み資本と利子率、商業信用と銀行信用
第15回	総まとめ	資本主義経済の仕組み

【授業の到達目標】

最低限の目標: 毎回の講義にきちんと出席し、よく聞き、授業の最後に実施する小テストに真面目に解答して理解度を確認する。これを繰り返すことにより、自分の言葉で「資本主義経済」とはどのような経済なのか、説明できるようになること。
最終的な目標:今までとは違った見え方で社会が見えるようになること。

【事前・事後学習】

下記テキストに沿って講義を進めていくので、毎回の講義部分を予習することが必要最低限の事前学習である。事後学習は、言うまでもなく講義の復習である。

【成績評価基準】

講義内容およびテキストの内容を正確に理解しているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	30	0	0

【テキスト】

·平井規之·北川和彦·滝田和夫『経済原論』有斐閣Ｓシリーズ

【参考図書】

·平野喜一郎『入門講座「資本論」を学ぶ人のために』新日本出版社

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2204	統　　計　　学	2･3年	前期	2単位	選択	岩本 光一郎

【授業の目的と概要】

社会科学はその名の通り、社会そのものを考察の対象とする学問分野である。統計は、その社会の実際の姿を把握するために極めて有用なツールであり、その統計をどう扱うべきかというルール、すなわち統計学を学んでおくことは社会科学を学ぼうとするものにとっては必須の要件と言える。本講義では、主に社会科学の観点から必要と思われる統計学の基本的知識とノウハウを学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	統計学とは何か	社会科学における統計的手法を用いた分析の必要性を学ぶ
第2回	標本データの記述　1	度数分布表の作り方から、データの集約の方法を学ぶ
第3回	標本データの記述　2	ヒストグラムの描き方と意味を学ぶ
第4回	代表値　1	平均という概念について学ぶ
第5回	代表値　2	中央値やモードなど、平均以外のデータの性質を一言で表す指標について学ぶ
第6回	ばらつきとリスク　1	四分位数や分散･標準偏差などについて学ぶ
第7回	ばらつきとリスク　2	標準偏差についての理解を深める
第8回	標本データの記述　3	複数系列のデータの扱い方としてクロス集計表の作り方、読み方を修得する
第9回	相関分析	複数系列のデータ間の関係を示す相関係数の計算方法と、その意味を学ぶ
第10回	確率　1	代表的な確率分布の一つである二項分布について学ぶ
第11回	確率　2	最も重要な確率分布である正規分布の基礎知識について学ぶ
第12回	統計的推測　1	正規分布と統計的推定の関係を概観し、仮説検定の考え方について学ぶ
第13回	統計的推測　2	実際のデータを用いて、区間推定の手法について学ぶ
第14回	統計的推測　3	標本と母集団の関係、そしてサンプリングの概念を学ぶ
第15回	総括	ここまでの学習内容の振り返りを行う

【授業の到達目標】

1. 平均や分散といった統計学の基本概念が身に付く
2. 数量的データの基本的な分析ができるようになる

【事前･事後学習】

事前学習としては参考図書もしくは初級の統計学のテキストを読んでおく程度で十分である。事後学習としては、講義内で扱った例題･練習問題をもう一度、完全に自力で解いてみることを推奨する。また、折に触れて講義内容に則した課題を出すので、自宅で回答し、提出すること。

【成績評価基準】

1. 与えられたデータを適切な方法で縮約できているか
2.「統計的推測」という言葉の意味を正しく理解できているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	20	0	10（持ち帰り課題）

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･小島寛之「統計学入門」ダイヤモンド社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2205	政治学	2・3年	後期	2単位	選択	安武 裕和

【授業の目的と概要】

現代および過去の日本を初めとする民主主義諸国における政治システム（行政府と立法府の権力分立、立法府の内部構造、中央・地方関係、選挙制度、政党システム、etc.）の多様性を学ぶことで、今後の政治体制の「あるべき姿」を考える上での幅広い視座を手に入れると同時に、他の社会科学の分野を学ぶ上でも必要な基礎知識および論理的な思考力を養うことを目標とする。講義形式で行い、レジュメとパワーポイントを併用する。最終的な評価点は平常点と試験点の合算で決定する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	政治とは何か？～社会集団における統一的意思決定～	「政治（国内政治・国際政治）」の定義とこの講義で学ぶ内容の概要
第2回	国家の意思決定構造～民主主義体制と非民主主義体制～	「この講義内における便宜的定義」としての「民主主義」の位置付け
第3回	行政府と立法府の関係～二元代表制と議院内閣制～	二元代表制・議院内閣制・半大統領制・議会統治制という四類型
第4回	立法府の構造～一院制と二院制～	一院制と二院制の相違および二院制内の上院の選出方法と権限配分
第5回	中央と地方の関係～単一国家と連邦制国家～	中央機関と地方機関の権限配分の多様性とその歴史的起源
第6回	国家主権と国際機構の関係～国家連合と超国家機関～	複数の国家間で結成される国家連合や超国家機構とその構成諸国
第7回	選挙方式の基本概念～多数代表制と比例代表制～	主に議会選挙において用いられる選挙方式の基礎概念としての八類型
第8回	選挙方式の複合的運用～複数の制度の複合的運用～	複数の選挙方式を組み合わせで用いる際の選択肢（並立制、併用制など）
第9回	現代における政党の役割～社会と政治を繋ぐ存在～	「政党」という概念の歴史的変遷と現代において期待される役割
第10回	政党の基盤となる社会集団～民族・宗教・地域主義～	各国における民族政党、宗教政党、地域政党などのバリエーション
第11回	政党の基盤となるイデオロギー～左右軸の意義と限界～	政党の基盤となるイデオロギーを区分する基準としての「右派」と「左派」
第12回	戦後日本政党史１～55年体制の成立と動揺～	55年体制の成立から崩壊に至るまでの自民党内外の諸勢力の変遷
第13回	戦後日本政党史２～細川政権以降の政界再編～	細川政権から森政権に至るまでの間の政権交代と政界再編の過程
第14回	戦後日本政党史３～小泉政権以降の諸政党の動向～	小泉政権成立から現代に至るまでの政治的動向の概略
第15回	まとめ～本講義を通じて得られた知見の確認～	ここまでの講義内容が十分に理解出来ているかどうかの確認

【授業の到達目標】

現代民主主義諸国の政治制度および政治慣習についての多様性を学ぶことを通じて、今後の日本の政治システム改革が目指すべき方向性を相対的・客観的に考える上での基礎的な視座を獲得する。

【事前・事後学習】

予習は不要だが、講義は毎回、「過去の講義内容を理解していること」を前提として進めていくので、復習は必須。最低限、講義の前日に5～10分程度かけて講義レジュメを読み返すことは必要。また、内容確認のために、過去のレジュメを毎回持参することを推奨。

【成績評価基準】

期末試験は講義中に説明した各国の政治システム（権力構造、院間関係、選挙制度、政党配置、etc.）への理解度を基準として採点し（X/100点満点）、それとは別に毎回の講義ごとに提出するコメント用紙の内容（感想、質問、etc.）に応じて5点以内の平常点（Y/75点満点）を与えた上で、最終的には「X+(100-X)×Y÷100」で点数を算出する（ただし、試験に欠席した場合は「0点」とする）。

なお、期末試験は「一問一答」と「論述」を組み合わせた全5問（各20点）であり、全てのレジュメおよび参考書を持込可とする。また、レポート課題などは一切課さない。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
上記参照	なし	上記参照	なし	なし

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA3206	高　齢　社　会　論	3･4年	前期	2単位	選択	中村 教子

【授業の目的と概要】

わが国の高齢化の特徴が説明でき、高齢社会における高齢者を取り巻く社会問題の発生状況および高齢者にかかわる社会福祉問題について理解ができる。老人福祉の理念、高齢者支援関係法規、介護保険制度の概要（枠組み、仕組み、サービス体系、組織、役割、実際等）について理解が深まる。高齢者への尊厳を背景に、高齢者の特性･生活実態･社会的ニーズ･制度･政策を理解することを目標にする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	高齢社会と高齢者を取り巻く社会問題	わが国の高齢化の特徴を理解し、高齢者を取り巻く諸問題を学ぶ
第2回	高齢者保健福祉の歴史	高齢者保健福祉の歴史（古代から近代）を学ぶ
第3回	高齢者の特性	高齢者の社会的、身体的、精神的、総合的理解を把握する
第4回	高齢者の支援の関係法規	高齢者支援の関係法規　老人福祉法、高齢者虐待防止法等を学ぶ
第5回	介護保険制度　創設･実施後の経緯	介護保険制度　創設の背景･目的実施の経緯を学ぶ
第6回	介護保険制度　概要	介護保険制度の概要･仕組みを説明できる
第7回	介護保険制度　サービス体系	介護保険制度　サービスの体系を学ぶ
第8回	地域支援事業	地域支援事業について学ぶ
第9回	地域包括支援センター	地域包括支援センターについて把握する
第10回	高齢者医療　地域包括ケアシステム	高齢者医療　地域包括ケアについて学ぶ
第11回	認知症支援対策	認知症支援　新オレンジプラン等について学ぶ
第12回	権利擁護	成年後見制度　日常生活自立支援制度等について学ぶ
第13回	高齢者の経済的問題	高齢者の年金等の概要及び高齢者の経済的問題をつかむ
第14回	高齢者の住まい	高齢者の住まい　住環境等と住まいの問題を学ぶ
第15回	高齢者支援の方法	高齢者支援の方法と課題についてまとめる

【授業の到達目標】

1,高齢者の社会的、身体的、精神的、総合的特性を説明できる
2,介護保険、高齢者支援関係法規等を説明できる
3,高齢者の生活実態･ニーズ、高齢者を取り巻く社会的問題を検討できる

【事前･事後学習】

1,新聞等を読み高齢者の抱える問題を整理しまとめる
2,自分の住んでいる地域の高齢者のための福祉サービスを調べてまとめる

【成績評価基準】

1,高齢者の心身の特性が説明できる
2,高齢者の為の制度、政策、福祉サービスを説明できる。
3,高齢者の実態と高齢者を取り巻く社会の問題を分析できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	40	20	なし	なし

【テキスト】

･資料配布

【参考図書】

･社会福祉士養成講座編集委員会『高齢者に対する支援と介護保険制度』　中央法規
･ミネルヴァ書房編集部編　『社会福祉小六法 最新版』　ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2207	地域コミュニティ論	2・3年	後期	2単位	選択	安藤 純子

【授業の目的と概要】

地域社会の歴史的構造及び変容を踏まえ、コミュニティ研究及び政策、ネットワーク研究、コミュニティ活動などの事例研究による持続可能なコミュニティ発展にむけた社会学的な考察を通して、コミュニティ活動の必要性を学習していくことを目的とする。また諸外国のコミュニティ研究・ネットワーク研究を参考に、日本のコミュニティ活動の在り方を考察する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	講義概要	授業全体の概要について説明する。
第2回	コミュニティとは	コミュニティの概念について考察する。
第3回	コミュニティの種類	さまざまな状況で使用されているコミュニティについて考察する。
第4回	海外のコミュニティに関する研究１	ヨーロッパにおけるの古典的なコミュニティの捉え方について考察する。
第5回	海外のコミュニティに関する研究２	アメリカにおけるコミュニティ研究について考察する。
第6回	都市におけるコミュニティ	シカゴ市のコミュニティについて考察する。
第7回	コミュニティ権力構造論	地方都市におけるコミュニティ権力構造について考察する。
第8回	日本のコミュニティ研究１	日本におけるコミュニティの定義について考察する。
第9回	日本のコミュニティ研究２	都市と農村のコミュニティについて考察する。
第10回	日本のコミュニティ研究３	コミュニティモデルについて考察する。
第11回	コミュニティ問題について	コミュニティ衰退論・コミュニティ存続論について説明する。
第12回	海外のコミュニティ・ネットワーク研究１	パーソナル・コミュニティ・ネットワークについて考察する。
第13回	海外のコミュニティ・ネットワーク研究２	都市におけるサブカルチャーとパーソナル・ネットワークについて考察する。
第14回	日本のコミュニティ・ネットワーク研究１	友人のネットワーク研究について考察する。
第15回	日本のコミュニティ・ネットワーク研究２	夫婦のネットワーク研究について考察する。

【授業の到達目標】

（1）コミュニティとはどのようなものかを説明することができる。
（2）コミュニティとネットワークとの関係について理解することができる。

【事前・事後学習】

新聞などのメディアを通して、コミュニティ活動に関する情報を見聞しておいてください。

【成績評価基準】

コミュニティ及びネットワーク研究内容についての理解度を評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1208	情　　報　　倫　　理	1・2年	後期	2単位	選択	長谷川 明生

【授業の目的と概要】

パーソナルコンピュータや携帯電話でのインターネットアクセスが社会常識と化している現代、その反面、情報の取り扱いについての基本認識を欠いた人が増加している。結果として架空請求やネット詐欺、ソフトウェアの不適切な利用により犯罪の被害者になったり、意図せず法令に違反したりする例も後を絶たない。そうならないために安全に情報を取り扱う方法や考え方について学習していくことをその目的とする。情報を取り扱う上での日々の常識を身に着け、実践できるようになることを目標とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ネットワーク社会と情報	情報倫理とは何か、また、ICT社会の現状と問題について概観する。
第2回	情報とはなにか	情報の意味や価値との関連に基づいて、情報社会での倫理のあり方について考える
第3回	ネチケット	ネットワーク社会でのモラルやエチケットのあり方について考える
第4回	インターネットの基礎	情報倫理を学ぶ上でのインターネットの技術的側面について理解する。
第5回	電子メールの常識	電子メールやＳＮＳでの振る舞い方について習得する
第6回	Webの常識	Ｗｅｂにおける利便性の一方にある危険性について学習する
第7回	ネットワーク犯罪とは	ネットワーク犯罪の動向とネットワーク犯罪からの身の守り方について学ぶ
第8回	個人情報の扱い	個人情報およびプライバシーとは何か、個人情報の取り扱い方について学ぶ。
第9回	落ちやすいワナ	ＩＣＴ社会での危険性について例を参考に学習する。
第10回	知的財産権	著作権等の知的財産権について、日常生活において必要な事柄について理解する。
第11回	ウィルス対策	ウィルスとは何か、マルウェアとは何か、どのように身を守るかについて学習する。
第12回	パソコンを守る技術	ＰＣやスマートフォンでのマルウェアから防護について学ぶ。
第13回	認証の安全性	ネットでの認証技術や通信における暗号、認証情報の扱いについて学習する。
第14回	インターネットと法律	ICT社会における常識人たるための法律知識について学習する。
第15回	まとめと到達度チェックテスト	全体をまとめて、理解度をチェックする。

【授業の到達目標】

情報倫理に関わるICTの基礎技術について理解し説明できる。マルウェア対策や個人情報の保護について理解し、対応できる。不正アクセスや著作権に関する法律の基礎知識やモラルについて理解し説明できる。

【事前・事後学習】

ネットワーク上や日々のニュースで、ICTに関係しそうな事件や事故に関する情報に興味を向け、日常的に収集しておくこと。

【成績評価基準】

情報倫理に関わるICTの基礎技術、不正アクセスや著作権に関する法律の基礎知識やモラルについて文章にまとめ、解説できること。毎回簡単なレポートを課す。また、最後の講義の際に与えられたテーマについて試験を実施する。これらを総合して評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	80	20	0	0

【テキスト】

·山住富也『モバイルネットワーク時代の情報倫理』近代科学社

【参考図書】

·岡田仁志他『ITセキュリティカフェ』丸善株式会社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2209	哲学	2・3年	後期	2単位	選択	山田 秀敏

【授業の目的と概要】

いわゆる生命倫理学を学ぶ。生命倫理学とは安楽死や尊厳死の是非を論じたり、脳死のひとは本当に死んでいるのかを考察したりする学問、すなわちひとの生死にかかわる諸問題を考察する学問である。生命倫理学を学ぶことで、人間生命のなんたるかを考えられるようになること、これが本授業の目的である。授業の目標は以下のとおり。1．生命倫理学の基礎概念を説明できるようになること。2．生命倫理学にかかわる諸問題のまさに問題になっている点を説明でき、かつそれについての自分の意見を開陳できるようになること。以上の内容を講義形式で行う。

本講義においては、「死なせる」等の日常的にはあまり使用されない言葉が使われることがあります。そういう言葉使いに抵抗のある人はこの講義を受講しない方がよいでしょう。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	イントロダクション(この授業の概要等の説明)	イントロダクション。この授業の進め方や評価基準等について説明する。時間が余れば、講義に入る
第2回	インフォームド･コンセント（1）	インフォームド･コンセントの基礎的なところについて説明する
第3回	インフォームド･コンセント（2）	インフォームド･コンセントの応用例を考える
第4回	インフォームド･コンセント（3）	インフォームド･コンセントという考え方を使えるようになる
第5回	妊娠中絶（1）	妊娠中絶反対論を考える
第6回	妊娠中絶（2）	パーソン論について考えてみる
第7回	クオリティオブライフ	概念の説明とその応用例の解説をする
第8回	安楽死と尊厳死（1）	安楽死と尊厳死に関する基礎的知識を講義する
第9回	安楽死と尊厳死（2）	安楽死と尊厳死にかんする賛否を考えてみる
第10回	医療資源の分配問題（1）	医療資源の分配方法について考察してみる
第11回	医療資源の分配問題（2）	同上
第12回	脳死（1）	脳死に関する基礎的な知識を講義する
第13回	脳死（2）	脳死賛成論を講義する
第14回	脳死（3）	脳死反対論を講義する
第15回	この授業のまとめ	この授業のまとめ

【授業の到達目標】

1．生命倫理学の基礎概念を説明できるようになること。

2. 生命倫理学にかかわる諸問題のまさに問題になっている点を説明でき、かつそれについての自分の意見を開陳できるようになること。

【事前・事後学習】

事前学習としては、内容的に連続している講義が多いので、前回のノートの復習をきちんとしておくこと。事後学習としては、授業で学んだ内容に対する自分の意見を言えるようになること。

【成績評価基準】

1．生命倫理の基礎概念を理解しているかどうか

2．生命倫理で問題となっている点を説明できるかどうか

3．生命倫理の諸問題について自分の意見を言えるかどうか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験100%	なし	0%	なし	

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･授業中に指示する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1210	文　　学	1･2年	後期	2単位	選択	梶原 克教

【授業の目的と概要】

文学についての総合的な理解を目的として、講義形式で行う。まず、世界文学史的な視点から文学の成り立ちと諸ジャンルについての解説をおこない、文学の基礎的な情報を伝達する。続いて、現代文学を具体的な題材として用いながら、文学作品に対する様々なアプローチ法を紹介する。各アプローチ法については、同時代的テクストに即して読解と解釈を反復してゆく。その際に、諸々の解釈アプローチにかんする包括的な補足をおこない、文学および研究の奥行きと可能性を示す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	イントロダクション	講義の進行と全体像についての解説。
第2回	朝井リョウらの読解	「愛しのトイレ子ちゃん」その他の読解と解釈について学ぶ。
第3回	坪内稔典らの読解	「鏡になるっていいね」その他の読解と解釈について学ぶ。
第4回	彩瀬まるらの読解	「きらめきを食べる」その他の読解と解釈について学ぶ。
第5回	酒井順子らの読解	「球に込めたエネルギー」その他の読解と解釈について学ぶ。
第6回	村田喜代子らの読解	「緑色の隣人」その他の読解と解釈について学ぶ。
第7回	上橋菜穂子らの読解	「あのスカートの下には」その他の読解と解釈について学ぶ。
第8回	平田俊子らの読解	「窓の外の火」その他の読解と解釈について学ぶ。
第9回	落合恵子らの読解	「母と続けた「おかあさん、私を見て」という遊び」その他の読解と解釈について学ぶ。
第10回	小田嶋隆らの読解	「ザリガニの履歴書」その他の読解と解釈について学ぶ。
第11回	田中慎弥らの読解	「美しい銀座の私」その他の読解と解釈について学ぶ。
第12回	辛酸なめ子らの読解	「年賀状のつきあい」その他の読解と解釈について学ぶ。
第13回	古井由吉らの読解	「顎の形」その他の読解と解釈について学ぶ。
第14回	山田太一らの読解	「空との会話」その他の読解と解釈について学ぶ。
第15回	三木卓らの読解	「幸福感について」その他の読解と解釈について学ぶ。

【授業の到達目標】

講義時に毎回、文章を自力で読み解釈することを通じて読解力と解釈力を養い、社会的文脈における他者への理解力をの幅を広げることを目標とする。

【事前･事後学習】

事前学習としては、各回指定されたテキスト内の文章を読んでくる。事後学習としては、教科書内の関連文を読み、文学的文脈と視点の多様さを学び取る。

【成績評価基準】

各回、真摯に文章に取り組み、自分なりの解釈を示すことができるか。また講義での説明を通じて、解釈の幅を広げられるかどうか。私語その他で講義の妨害をおこなわずにいられるかどうか、講義中に途中退室をしないで座っていられるかどうか、指名されれば立って返答できるかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	10	20	0	70（各講義時間内に行うミニテスト）

【テキスト】

･日本文藝家協会編『ベスト･エッセイ　The Best Essay 2015』（光村図書）

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1211	現代名古屋文化 名古屋文化論	1・2年	前期	2単位	選択	長坂 英生

【授業の目的と概要】

本学の所在地である名古屋の文化の特徴は何か、その独自性はどこにあるのか、を追究するのがこの講義の目的である。主に現在の名古屋文化を取り扱うが、言うまでもなくそれが育ってきた歴史的・地理的背景に触れないわけにはいかない。また、日本の他の地域――東京、大阪、京都など――の文化との比較も本講義の重要な内容を構成する。

少し先の話となるが、東京圏と1時間以内で結ばれることになる未来に向かって名古屋の文化がどのように発展・変容していくのか、最後にこういった問題に自分なりの意見を述べられるようになることが本講義の到達目標である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	名古屋の戦後復興	戦後復興のシンボルである百メートル道路の建設と「アメリカ村」など進駐軍の写真を中心に紹介し、名古屋の終戦直後の様子と復興計画を視覚的に学ぶ。合わせて、本講座の概要を紹介する。
第2回	新しいランドマーク・テレビ塔の成り立ち	終戦から9年後に建設された名古屋テレビ塔の計画から完成までを中心に写真で振り返り、中心市街地のまちづくりとテレビ文化の創生を学ぶ。
第3回	名古屋城の再建と伊勢湾台風	戦時に焼け落ちた名古屋城は昭和34年に再建された。その計画から完成までを写真で紹介し、完成直後に襲った伊勢湾台風についても学ぶ。
第4回	名古屋のメーンストリート・広小路	名古屋のメーンストリート・広小路は江戸期から名古屋の経済・文化の中心だった。名古屋駅から栄に至る広小路の変貌をとらえた写真を紹介し、その歴史を学ぶ。
第5回	名古屋の中心街・栄と百貨店	名古屋の中心街・栄地区の百貨店を中心に戦後の発展を写真で振り返り、百貨店の歴史と消費文化を学ぶ。
第6回	愛知国体と戦後インフラ整備	昭和25年に開催された愛知国体はインフラ整備など名古屋の戦後復興を後押しした。愛知国体を中心に大相撲名古屋場所やオートバイレースなど戦後の大衆を熱狂させたスポーツ文化を写真で学ぶ。
第7回	知られざる野球文化	野球は戦後、映画と共に「娯楽の王様」となった。戦後初めて来日した米国野球チームや女子プロ野球の興業、そして鳴海球場など今はなき球場を写真で紹介し、知られざる野球文化を学ぶ。
第8回	名古屋の市電	戦前から市民の足となった市電は昭和49年に全廃した。戦後の全盛時代の様子を写真で振り返り、市電の歴史を学ぶ。
第9回	大衆の街・大須	連日にぎわいをみせる大須。その成り立ちから戦後復興、現在の繁栄のきっかけとなったイベントなどを写真で紹介し、大須を中心とする大衆・若者文化を学ぶ。
第10回	名古屋の商店街	昭和初期から30年代まで市民の消費活動の中心となった各地の商店街はモータリゼーションや量販店の発展で衰退した。各地の商店街の戦後全盛時代の様子を写真で振り返り、商店街の歴史と役割を学ぶ。
第11回	名古屋の山車祭り	名古屋の祭りを象徴する山車。各地の山車文化の歴史を中心に写真で紹介し、名古屋における祭り文化を学ぶ。
第12回	名古屋まつりと花電車	終戦直後の「復興祭」をルーツとする名古屋まつりは昭和30年に始まった。市電廃止までは花電車が祭りの華となった。江戸時代にさかのぼり、名古屋まつりのルーツを写真で振り返り、その歴史を学ぶ
第13回	名古屋の映画館	戦後、野球と共に大衆文化をリードした映画を2回に分けて学ぶ。1回目は映画館。人口比で映画館の数が日本一だった「映画王国・名古屋」の隆盛を写真で振り返る。
第14回	名古屋の映画ロケ	現在に劣らず、名古屋は映画のロケ地として何度も利用された。その様子を写真で紹介し、同時に来名した当時のスターたちが新聞インタビューで語った「名古屋評」から名古屋文化の特徴を考える。
第15回	東山動物園の変遷	全国有数の東山動物園は終戦直後の「象列車」、昭和30年代の「ゴリラショー」など戦後史を彩ってきた。東山動物園の戦後史を写真で振り返り、動物園の役割について考える。

【授業の到達目標】

戦後の名古屋の歩みを「写真」を通して視覚的に学び、名古屋の街と文化のオリジナリティーを知り、「まちづくり」の在り方を考えることができる。

【事前・事後学習】

以下の参考図書を第1回前に通読し、各授業前には該当テーマ部分を熟読してください。荒俣宏監修「名古屋開府400年記念誌　尾張名古屋大百科」（名古屋開府400年記念事業実行委員会）、名古屋市政100周年記念誌編集委員会編集「なごや100年」（名古屋市総務局）

【成績評価基準】

文化の多様性を理解し、柔軟で寛容な思考ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100	0	0	0

【テキスト】

・使用しない

【参考図書】

・使用しない

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2212	世　界　の　食　文　化	2･3年	後期	2単位	選択	石山 絹子

【授業の目的と概要】

食文化は様々な地域や場面において人の価値観に対応する形で成立してきた。それは食材の選択、生産、加工、献立、食作法にまで及び、多様性を生み、食に関する技術を発展させてきた。しかし、近年における技術の発展や食文化のあり方は人にとって好ましいものばかりとは限らない。食文化の未来の展望やあるべき姿について考えを持つことを目標とし、授業では食文化の変遷とその背景を振り返ることで先人の工夫と努力を見つめ直し、食文化の現代的な問題点を検討する。また、グローバル化をたどる現代のニーズに応えられるよう世界の多彩な食文化学習対象とし、基礎知識を身につける。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	「何のために食べるのか」を考え、本講義で学ぶ内容を確認する。
第2回	食の歴史	食に関する歴史を学び、食文化の変遷を知る。
第3回	食と宗教の関わり　食作法･マナー	食の選択に大きく影響を及ぼす宗教･思想･食のタブーについて学ぶ。また、食作法、食器･食具に関する文化、その背景を学ぶ。
第4回	日本の食文化	日本の食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。
第5回	ヨーロッパの食文化	フランスを中心にヨーロッパの食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。イタリア、イギリスの食文化にもふれる。
第6回	アジアの食文化	中国を中心にアジアの食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。
第7回	中東の食文化	世界三大料理と言われるトルコ料理やイスラム教圏を中心に中東の食文化の成立の背景、歴史や特徴を学ぶ。
第8回	アメリカの食文化	アメリカの食文化の成立の背景や特徴を学ぶ。
第9回	嗜好性の追求	味覚のしくみやおいしさとは何かを確認し、嗜好性の追求による食文化や技術の発展について学ぶ。
第10回	食料の保存方法	食料の劣化や保存の原理を確認し、長い歴史の中で成立してきた保存食や現代の科学技術による保存方法について学ぶ。
第11回	発酵食品	世界各地にみられる発酵食品についてその成立の背景や発酵のしくみについて学ぶ。
第12回	健康志向	飽食の時代を迎えた国々で起こる食の健康志向について、その背景や食が健康に及ぼす影響を学ぶ。
第13回	食の合理化、簡便性の追求と安全性の見直し	食産業や科学の発達により得られた便利さの裏で脅かされる食の安全性について学ぶ。
第14回	これからの食文化を考える	現代の食文化に起きている様々な変化とそれにより失われるものを学び、今後の食文化のあるべき形を考える。
第15回	まとめ	本講義をふり返り、様々な食文化について興味を持ったことや意見･期待することなど、自ら考えたことをレポートにまとめる。

【授業の到達目標】

本講義を通して広く食に関する知識を習得し、現代の食文化に期待することや課題について自らの考えをまとめることができる。

【事前･事後学習】

講義中のノートを整理しておくこと。
食に関するニュース等にも興味を持つこと。

【成績評価基準】

課題レポートの内容が到達目標に達しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

･必要時にプリントを配布する

【参考図書】

･講義内で適宜紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1213	ボランティア論	1・2年	前期	2単位	選択	神田 浩史

【授業の目的と概要】

ボランティアについての理解を高め、積極的にボランティア活動に参加するための動機づけを目的とする。そのために、ボランティアに対する基本的な理解から始め、具体的な活動、歴史などを学び、ボランティア団体、NPO（非営利組織）の基礎に至るまで、学んでいく。授業の目標は以下のとおり。(1)ボランティアについての基本理解の確立、(2)ボランティア活動の概略と大学近辺における各種ボランティア活動についての理解、(3)ボランティア体験と発表、(4)ボランティア団体とNPOについての理解、(5)ボランティア活動への参加意欲の涵養。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	体験的ボランティア論	授業の進め方、成績評価方針、講座計画を説明した上で、担当者の自己紹介を兼ねてボランティア体験を共有する。
第2回	ボランティアってなに？	ボランティアってなに？というテーマでグループ・ディスカッションを行い、その結果を全体で共有する。
第3回	ボランティアを必要とする世界の現状を知る	なぜ、ボランティアのニーズが高まっているのか、を考えるために、ワークショップ形式で世界の現状について考える。
第4回	災害時に活躍するボランティア１（ワークショップ）	ボランティアのニーズが最も高い災害時対応について、ワークショップ形式でどういった活動が可能か具体的に考える。
第5回	災害時に活躍するボランティア２（振り返り）	前回のワークショップの振り返りを行い、災害時のボランティアの重要性について再確認する。
第6回	身近に活動するボランティア	授業後半の課題となるボランティア体験を積むために、名古屋市近辺におけるボランティア活動の紹介と、自分自身にあった活動の調べ方について学ぶ。
第7回	国境を越えて活動するボランティア１	海外におけるボランティア事例ついて、担当者の体験をもとに考える。
第8回	国境を越えて活動するボランティア２（ボランティア活動ランキング）	海外におけるボランティアの重要性について、ワークショップ形式で考える。
第9回	国境を越えて活動するボランティア３（振り返り）	前回のワークショップの振り返りを行い、海外でのボランティアの重要性について再確認する。
第10回	日本社会に見るボランティアの歴史１	外来語のボランティアという言葉が用いられる前から、日本社会におけるボランティアの歴史を概括する。
第11回	日本社会に見るボランティアの歴史２	1995年の阪神・淡路大震災が”ボランティア元年”と言われた、その時期以降の日本社会におけるボランティアについて考える。
第12回	発表・ボランティア体験１	後半の課題であるボランティア体験についての発表会１。
第13回	発表・ボランティア体験２	後半の課題であるボランティア体験についての発表会２。
第14回	ボランティア活動の未来に向けて	ボランティア活動の将来像、未来についてワークショップ形式で考える。
第15回	全体のまとめ	授業全体を振り返り、授業評価を行う。

【授業の到達目標】

ボランティアとはなにか、について説明することができる。
ボランティアを実際に体験することができる。
ボランティアをテーマに、様々な角度から受講生同士で議論することができる。
議論した結果を人前で発表することができる。

【事前・事後学習】

授業前半においては、メディアで報じられたボランティアについて情報収集し、その内容を分析した上で、考察し、レポートにまとめる。
授業後半においては、自分自身でボランティア体験先を見つけ、コンタクトをとり、実際にボランティアを体験し、その結果を授業時に発表する、もしくはレポートとしてまとめる。

【成績評価基準】

毎回の授業終了時に課すコメント・ペーパーに、授業に対する自分自身の考えや質問などを授業内容に即して書くことができるか。
前半に課したレポートについて、的確な情報収集を行い、内容分析、考察を行うことができるか。
後半のボランティア体験について、自分自身でアレンジし、体験をまとめ、分析し、発表もしくはレポートに記すことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30%	70%	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA3214	ジ　ェ　ン　ダ　ー　論	3･4年	前期	2単位	選択	中島 美幸

【授業の目的と概要】

社会は男と女に異なる役割を期待し、その中で当の男女もそれが当たり前と思い込んでいたりする。このような、社会が作った男女の性別をジェンダーと言う。ジェンダーを作り出し、再生産している社会と文化の構造を明らかにするとともに、ジェンダーの呪縛から、男女ともいかにして自己解放を図るかを考え、差別のない社会の実現を模索することを内容とする。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識の獲得を目標とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	講義概要説明／多様性とエンパワメント	全15回の講義の概要説明。「多様性」「エンパワメント」が意味することを理解する。講義
第2回	作られる「女らしさ」「男らしさ」	ジェンダー再生産の場としての家庭･社会･学校問題を考える。講義
第3回	暴力の根絶	ＤＶやセクハラなどの暴力問題を考える。講義
第4回	「男らしさ」からの解放	性差別社会においては男性も男女平等の恵みを受けていないのであり、いかにしたら男性が「自分らしく」生きられるかを考える。講義
第5回	現在と50年後の日本	50年後の日本の推計から、大きく変貌せざるを得ない日本における男女のありかたを考える。講義
第6回	男女をめぐる国際比較	国際社会における日本の男女平等の現状を確認する。講義
第7回	男女ともに働きやすい社会に	男女ともに、仕事と生活の調和のとれた働き方を探る。講義
第8回	「表現」とジェンダー	「ことば」や「ＣＭ」「アート」など、表現に潜む性差別について考える。講義
第9回	恋愛･結婚とジェンダー	ロマンチックラブイデオロギーの陥穽や、結婚や家族をめぐる制度･慣習を考える。講義
第10回	リプロダクティブ･ヘルス／ライツ	女性の「性」の歴史と、性と生殖に関する自己決定について学ぶ。講義
第11回	母になる、父になる、ということ	子育ては女性の役割との決めつけを解消し、「イクメン」「イクボス」との呼称が示すような男性の育児参加を展望する。講義
第12回	性別分業の起源と歴史①世界	人類において性差別がいかにして発生したかを確認する。講義
第13回	女性解放運動とジェンダー学の誕生①世界	差別解消に向けた長い戦いの歴史を知る。講義
第14回	性別分業の起源と歴史②日本	日本において性差別がいかにして定着していったかを検証する。講義
第15回	女性解放運動とジェンダー学の誕生②日本	男女や家族をめぐる日本の法律や制度の課題を考える。講義

【授業の到達目標】

ジェンダーセンシティブな視点で多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。そして、将来のライフデザインをより明確に描くことができる。さらに、社会に対して主体的に働きかけることができる。

【事前･事後学習】

事前学習としては、新聞やテレビニュースなどで、男女に関する社会の新しい動きに注意しておくこと。事後学習としては、学んだ各回のテーマについて、配布資料を参照しながら、さらに詳しく調べる。

【成績評価基準】

社会や個人の中にあるジェンダー問題を分析するとともに、男女差別のない社会についての展望を説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	30	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･授業時に紹介する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1215	異文化コミュニケーション	1・2年	後期	2単位	選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

この授業では、社会人として場面に応じた適切なコミュニケーションができる力を養成します。価値観・世界観・行動のパターンなどについて理解を深めながら、態度や行動が具体的に変わるよう実践的に学んでいきます。毎回の授業でエクササイズを行いますので、主体的に参加する受講者を歓迎します。また、日本と諸外国の文化の違いを考えていきますから、留学経験のある受講生や複数の文化を持つ受講生を特に歓迎します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション（授業の進め方・出席・課題・評価等について説明）	授業の進め方・成績評価等について説明
第2回	異文化コミュニケーションとは？	異文化コミュニケーションの定義
第3回	コミュニケーション・モデル	コミュニケーション・モデルの定義
第4回	コミュニケーション・スタイル	コミュニケーション・スタイルの理解
第5回	言語メッセージ	言語メッセージの理解
第6回	配慮表現	配慮表現の理解と運用
第7回	発表（1）	グループワークと発表
第8回	非言語メッセージ	非言語メッセージの理解
第9回	文化の価値観	文化が内包する価値の理解
第10回	発表（2）	グループワークと発表
第11回	文化の価値志向	価値観の志向の理解
第12回	自己開示	自己開示の理解
第13回	発表（3）	グループワークと発表
第14回	自文化中心主義と文化相対主義	自文化中心主義と文化相対主義の定義
第15回	まとめ	授業のまとめ

【授業の到達目標】

異文化に対する理解を深め、他者に共感し、適切な行動ができるようになる。

【事前・事後学習】

和文テキストに沿って授業を進めていくので、予習してから授業に参加すること。
テキストに沿って、英文論文も使用するので予習してくること。
授業で学んだことは振返り（復習）を行って、文章にまとめること。

【成績評価基準】

社会人として、相手や場面等に応じた適切なコミュニケーションがとれるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験:70%	0%	0%	0%	発表:30%

【テキスト】

・八代京子・町惠理子・小池浩子・吉田友子(2009)『異文化トレーニング［改訂版］:ボーダレス社会を生きる』三修社

【参考図書】

・伊佐雅子（監修）（2007）『改訂新版　多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社
・古田暁（監修）（1996）『異文化コミュニケーション［改訂版］』有斐閣

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2216	世界の芸術	2・3年	前期	2単位	選択	長谷川 潤子

【授業の目的と概要】

本科目では講義形式により、世界の芸術文化の多様性と我国の伝統芸術の特徴について、主に環境的・歴史的要因との関連から論じる。まずは文 化基盤である「風土と信仰」の観点から、人間と自然との共生が生んだ衣食住の文化様式、世界三大宗教の芸術文化の諸相を概観する。その上で我 国の文化的背景、独自の美的様式をもつ伝統芸術を紹介する。さらに伝統文化の多くが異文化融合から生まれた事実をふまえ、後半ではアジア諸国 との共通性・差異性への理解を深める。文化の縦軸と横軸の動態から、「人間文化における芸術の価値」について思考を促したい。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業の説明	15回の内容と 準備について。
第2回	デザイン① 構図の基礎	若手写真家の作品を取り上げ 構図と効果について考える。
第3回	デザイン② 写真を鑑賞	前回の授業に基づき各自 効果的な作品を撮影してきたものを発表。
第4回	デザイン③ 表現の方法	身の回りのものに目を向け、自己投影しをモチーフを探す。ワークショップ素描
第5回	デザイン④	撮影した写真をもとに、作品構成。
第6回	デザイン⑤	作品完成。講評会
第7回	絵画① 抽象絵画鑑賞と製作	抽象画とは 。成り立ちについて考える。モチーフのない絵を描く。
第8回	絵画② アイデアをカタチに するには	意図せずに描いた中から、美しさを見いだす。
第9回	絵画③ 作品製作	シュールリアリズム 絵画作品を製作する。
第10回	美術の歴史①	原始美術を中心に『ものづくり』と『芸術』について焼き物を通して考えていく。
第11回	美術の歴史②	『焼き物史年表』製作
第12回	美術館鑑賞①	近郊の美術館にテーマのもと 鑑賞。
第13回	美術館鑑賞②	レポート制作 提出。
第14回	小テスト 解説 作品提出	美術の歴史 を中心に小テストと
第15回	講評 まとめ 作品返却	まとめ

【授業の到達目標】

芸術に対して何か接点を見つけだして、自分の言葉で意見が言えるようになりたい。

【事前・事後学習】

資料、また作品作りのためのモチーフとなる物の準備がほぼ毎回あります。2課題を並行して 進めていく事もあります。
初回に説明しますが、ワークショップや実技の画材等のそれぞれで購入して準備して下さい。

【成績評価基準】

①出席、提出作品、小テスト、美術館鑑賞レポートについて基準ポイント以上で
②作品、レポートにおいて自分の考えを示す事ができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	0	0	実技作品40% 小テスト（知識理解）30%

【テキスト】

・特になし

【参考図書】

・特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2217	地震と安全	2・3年	後期	2単位	選択	葛 漢彬

【授業の目的と概要】

(1)地震を起こす原動力となっているプレート・テクトニクスについての解説。(2)震源、震央、震度、マグニチュードなど地震の基礎的事項の解説。(3)個々の地震は活断層に沿って大地がずれることによって起こるが、この活断層について解説。(4)日本列島および周辺の主要な活断層の解説。(5)日本列島および周辺で起こった主要な（巨大）地震について解説。(6)想定される南海トラフの巨大地震などに備えて国や地方公共団体などが施すべき防災・減災・安全対策（地震動や津波などへの対応）を検討。(7)巨大地震に備えて地域・家庭や個人の心構えと安全対策などを検討。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	この講義の内容、成績評価方法などの説明
第2回	プレート・テクトニクス	地震の発生原因の説明
第3回	地震の基礎的事項	地震動特性、震度とマグニチュードなどの説明
第4回	地盤と地震被害	地盤と地震被害の説明
第5回	活断層	活断層の説明
第6回	兵庫県南部地震	兵庫県南部地震の概説
第7回	東北地方太平洋地震	東北地方太平洋地震
第8回	南海トラフ巨大地震	南海トラフ巨大地震の概説
第9回	構造物と地震被害（1）	建築物の被害の紹介
第10回	構造物と地震被害（2）	都市高速・橋梁の被害の紹介
第11回	耐震新技術の最前線（1）	耐震技術の現状紹介
第12回	耐震新技術の最前線（2）	免震・制震の現状紹介
第13回	安全対策（1）	個人・自宅の取り組みについて考える
第14回	安全対策（2）	国・地域の取り組みについて考える
第15回	まとめ	総括

【授業の到達目標】

1.地震の発生メカニズムを簡潔に説明できる。
2.南海トラフ巨大地震の現状を理解できる。
3.地震に対する自分なりの対策を検討できる。

【事前・事後学習】

地震と震災のニュースなどより積極的情報収集する。

【成績評価基準】

1.地震の発生メカニズムを簡潔に説明ことができるのか。
2.南海トラフ巨大地震の現状を理解することができるのか。
3.地震に対する自分なりの対策を検討することができるのか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50%	50%	0%	0%	0%

【テキスト】

・プリント配布

【参考図書】

・講義中に適時紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3218	環境科学	3・4年	後期	2単位	選択	髙木 靖彦

【授業の目的と概要】

人類にとって重要な課題になっている地球環境問題を理解するために、地球環境のしくみを基礎から考えていく。地球環境をシステムとして捉え、大気圏・水圏など各サブシステムの構成・起源・進化、その中での熱や物質の流れといったものを理解し、それらを基に現在問題となっている各種の地球環境問題を考えていく。自然科学の講義ではあるが数式を用いることなく、図表を多用して理解できるよう努めていく。成績評価は、原則として期末試験の結果による。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに、地球環境の時間的スケール、空間的スケール	この科目で考える地球環境の時間的および空間的スケールを確かめる。
第2回	システムとしての地球環境	システムとは何か、地球環境がなぜシステムなのか、そのサブシステムがどのようなものかを学修する。
第3回	固体地球 (地圏) の構成	固体地球はどのように調べられるか、その構造がどのようになっているか、その構造が地表の環境にどう関わっているかを学修する。
第4回	水圏の構成	地球表層付近に存在する水の分布状態、および、水の物理的・化学的性質を学修し、地球環境における水の重要性を考える。
第5回	大気圏の構成	地球大気圏の化学組成・物理的性質を他の惑星や衛星と比較しながら理解し、その形成過程を理解する。
第6回	生物圏の構成	太陽系内の惑星・衛星で地球だけに存在する生物圏の多様性と起源・進化を学修し、地球環境と生物圏の共進化を理解する。
第7回	物の流れ (1) 水	生物圏および人間の文明にとって非常に重要な水が、地球環境の中でどのように循環しているかを理解し、流れの重要性を考える。
第8回	物の流れ (2) 炭素	生物を構成する有機物の中心であり、地球温暖化問題で重要性を持つ元素・炭素が、地球環境の中でどのように循環しているかを理解し、流れの重要性を考える。
第9回	熱の流れ	太陽から光の形で受取ったエネルギーが、地球環境の中でどのように循環し、最終的に宇宙に放出されるかを学修する。その中で、地球環境における熱の流れの特徴を考える。
第10回	温室効果ガスの増加	地球環境中での熱の流れにおいて重要な役割をしている大気中の温室効果ガスについて理解をし、その濃度が増加していることを学修する。
第11回	気温変化：過去の記録とその原因	地球の気温変化を過去数百年から数億年にわたる様々な時間スケールで探り、同時に様々な要因が気温変化の原因となっていることを理解する。
第12回	地球温暖化の問題	温室効果ガスの増加、過去の気温変化など学修してきた事柄を総合的に捉えることにより、現在問題になっている「温暖化」が真実なのか、原因が何かを考える。また、将来どうなるかを考える。
第13回	オゾン層破壊と酸性雨	地球規模の環境問題の一つである、クロロフルオロカーボンによるオゾン層の破壊と、窒素酸化物・硫黄酸化物による酸性雨の問題を考える。
第14回	地球環境の歴史	ここまでに扱ってきた事柄を総合して、地球の誕生以来現在にいたる地球環境の歴史を考える。特に生物圏とそれ以外の地球環境の関係に着目する。
第15回	地球環境と人類の将来	今日の様々な地球環境問題の根本的原因を探り、地球環境と人類の将来を考える。

【授業の到達目標】

現代人として必要な最小限の科学的知識を習得し、新聞の一面などに掲載された環境問題に関連する記事を読んで、その内容の概要を説明できる。

【事前・事後学習】

資料・ノート等を使って、その週に学修した事を見直し、毎週実施する小テストで自分が提出した解答が適切であったか自己採点を行う。

【成績評価基準】

与えられたグラフや表に示されるデータの科学的意味を正しく説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	0	0	30（各回末の小テスト）

【テキスト】

・特になし

【参考図書】

・特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1219	自然科学基礎	1・2年	前期	2単位	選択	髙木 靖彦

【授業の目的と概要】

高度に発達した各種技術に立脚した現代社会で生活していくためには、その基となる自然科学に関する素養も求められることとなる。この講義では自然科学全般（ただし数学分野は扱わない）を広く学習し、自然科学的な考え方の基礎を身につけることを目的とする。しかし、自然科学全てを対象とすると非常に範囲が広いので、社会問題、国際問題、環境問題にもつながる「エネルギー」をキーワードにした事柄を扱うことにする。。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに　－この講義の目的－	この講義ではどのような事を扱い、何を理解して欲しいかを説明する。その中で、人間の知的好奇心の根源が何か、学問とはなにかを考える。
第2回	物質の状態と熱	目に見えない“エネルギー”を考える出発点として、物質の状態（固体・液体・気体）変化および温度変化とそれに伴う熱量＝エネルギーの出入りを学習する。
第3回	物体の運動と力	なにも“力”が働かないと物体は等速直線運動を続けること、“力”が働くとそれに比例した加速をすることを学習する。
第4回	力学的エネルギー	運動している物体のもつエネルギーである運動エネルギー、力の場の中の位置で決まる位置エネルギーについて学習する。
第5回	物質の構造	すべての物質のもととなっている原子の構造、原子番号の等しい原子だけからなる物質である元素について学習する。
第6回	電気エネルギー	電圧、電流、抵抗といった電気に関する基本的な物理量、および、それらの量の関係を学習する。簡単な数式を用いた計算を行う。
第7回	化学反応と反応熱	元素同士の科学反応により性質の異なる物質が作られることを学習する。
第8回	核エネルギー	原子の中心に存在する原子核の構造と、その分裂および融合反応、それにより発生するエネルギーについて学習する。
第9回	地球の内部構造とテクトニクス	地球の内部構造、および、その起源と進化を学習し、我々ヒトやヒトを取り囲む環境との関係を考える。
第10回	地震と火山	地震発生のしくみとプレートテクトニクスを学習し、世界で最も地震の多い日本列島の宿命を理解する。
第11回	地球の熱収支	地球が太陽から受け取る熱が地表、大気などの間でどのように流れていくか、そして最終的にどうなるかを学習する。
第12回	地球温暖化問題	地球環境のしくみの基本を学習し、現代社会において避けて通れない問題となっている地球環境問題を考える。
第13回	生物のしくみ	細胞をはじめとする生物の基本的しくみを学修する。それらを基に生物の定義を考える。
第14回	呼吸と光合成	動物と植物の違い、特に栄養の取得の方法の違いを学習する。その違いの基となる光合成についても学修する。
第15回	エネルギーの変換と保存	この講義で扱ってきた色々なエネルギーがどのように相互に変換され、保存されているかを学習して、この講義全体のまとめとする。

【授業の到達目標】

現代人として必要な最小限の科学的知識を習得し、新聞の一面などに載った自然科学に関連する記事を読んで、その内容の概要を説明できる。

【事前・事後学習】

その週の分の資料・ノート等を使って見直し、毎週最後に実施する小テストで自分が提出した解答の自己採点を行う。

【成績評価基準】

現代社会で必須な科学的事柄を正しく説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	0	0	30（各回末の小テスト）

【テキスト】

・特に使わない

【参考図書】

・左巻 健男、『新しい科学の教科書　第１分野／化学・物理編』、文一総合出版
・左巻 健男、『新しい科学の教科書　第２分野／生物・地学編』、文一総合出版
・中学・高校時代に自分が使った理科の教科書

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2219	数理の世界	2・3年	前期	2単位	選択	成田 良一

【授業の目的と概要】

数学的なものの見方を身につける。数学の多く分野の中で、特に整数の性質の基礎に焦点をあてて、素数、ユークリッドの互除法、合同式、一次不定方程式などの初等整数論の入門を扱う。これらを駆使して、インターネットなどで使用される現代的な公開鍵暗号系であるRSA暗号の仕組みの理解にいたる。これらを通じて数学が実際に生活の役に立っていることを認識する。概念や手法の理解を深めるために、適宜、問題演習を行う。以上を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	数の世界	自然数、整数、有理数、実数と数の概念が順次拡大される。それは代数的性質や連続性によるものである。
第2回	計算と証明	$\sqrt{2}$ が無理数であることの証明を例として、数学的な証明と計算の基礎を学ぶ。
第3回	整数の割り算	小学校以来の整数の割り算は商と余りを求めるものである。この割り算がこの講義の全ての基礎となる。
第4回	約数と倍数	整数の間の「割り切る」関係が約数・倍数となる。二つの数の公約数・公倍数について整理する。
第5回	素数と合成数	素数は整数全体の掛け算の関係において基礎的な数となる。素数は無限にある。既知の最大素数と GIMPS を紹介する。
第6回	素数の性質	素因数分解が一意にできることを示す。また素因数分解の応用を扱う。
第7回	ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法は最大公約数を求める計算法である。効率的な計算の面でも理論的面でも重要な方法である。
第8回	暗号の基本	古くから用いられてきた対称鍵暗号系の基礎を扱う。特に単純換字式暗号は解読できる。
第9回	剰余の四則と合同式	合同式を導入し、それが整数の剰余の計算を簡略化することを示す。合同式は見方を変えれば剰余環の計算である。
第10回	一次不定方程式の解法	一次不定方程式について整数解があるか否か、その判定と初等的解法を紹介する。
第11回	一次不定方程式の解の構造	一次不定方程式の一般解の構造は線型である。一般解の求め方を紹介する。
第12回	冪乗の剰余	合同式の応用として、冪乗して余りを求める計算を行う。また二進冪乗法について紹介する。
第13回	公開鍵暗号系	公開鍵暗号の原理を紹介する。これがインターネット通販などで現実的な方法であることを学ぶ。
第14回	RSA暗号系	RSA暗号系は公開鍵暗号系の一種であり、これまで紹介した初等整数論の基礎を総動員して仕組みを理解することができる。
第15回	整数論の基礎と発展	これまで扱った整数論の基礎を復習・整理する。整数論に関する発展的話題を紹介する。

【授業の到達目標】

初等整数論の基礎理論を理解し、基礎的な計算問題ができる。公開鍵暗号、特にRSA 暗号の仕組みを説明できる。

【事前・事後学習】

問題集を配布するので、各回に対応した問題について、事前にはその問題を考え、事後には講義で扱った事項を参考にして解く。

【成績評価基準】

約数と倍数、素数、一次不定方程式、合同式などの基礎的な整数の計算ができるか。基礎的な定理の証明ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
100	0	0	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・SOJIN『素数大百科』共立出版
・小林昭七『なっとくするオイラーとフェルマー』講談社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1221	食と健康	1・2年	前期	2単位	選択	尚 爾華

【授業の目的と概要】

本講義では、食と健康に関する諸問題や健康に生きるための食生活のあり方を学ぶ。人の生命活動には、必要な物質を食物から取り入れ、消化・吸収し、代謝によって生命活動に必要なエネルギーを獲得し、生体成分をつくり、不要なものは排せつする。栄養素とその役割、代謝のしくみを中心に、基礎から学ぶとともに、栄養不良・過剰栄養、食育など食と健康をとりまく重要な問題について考える。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	栄養・栄養素とは	栄養・栄養素の概念、栄養素の役割について学ぶ
第2回	栄養素と食事摂取基準①（炭水化物）	炭水化物の分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ
第3回	栄養素と食事摂取基準②（タンパク質）	たんぱく質の構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ
第4回	栄養素と食事摂取基準③（脂質）	脂質の構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ
第5回	栄養素と食事摂取基準④（ビタミン）	ビタミンの構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ
第6回	栄養素と食事摂取基準⑤（ミネラル）	ミネラルの構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ
第7回	栄養素と食事摂取基準⑥（食物繊維）	食物繊維の構成、分類、栄養と役割、摂取基準について学ぶ
第8回	代謝のしくみ①（食欲）	食欲・食欲中枢の概念、食欲中枢への刺激、食欲不振に影響を与える要素について学ぶ
第9回	代謝のしくみ②（消化・吸収）	消化・吸収の概念、消化の種類、消化器の位置と名称、消化・吸収の経路について学ぶ
第10回	代謝のしくみ③（エネルギー代謝）	食物のエネルギー、エネルギー発生のしくみ、エネルギー代謝について学ぶ
第11回	代謝のしくみ④（排泄）	便の排泄のしくみと成分、尿の排泄のしくみと成分、発汗による排泄について学ぶ
第12回	栄養不良と過剰栄養	栄養不良の分類と対策、過剰栄養の現状について学ぶ。肥満対策、運動療法、行動療法、摂食障害の予防について学ぶ
第13回	健康食品	保健機能食品、食の安全、食品衛生、食中毒、食品添加物、食品表示について学ぶ。
第14回	食育	食育とは、食育基本法、食育の取り組み、食事バランスガイドについて学ぶ
第15回	まとめと練習問題の解説	食と健康についてまとめる。練習問題の解説をする。

【授業の到達目標】

健康な食生活を送るための基礎知識の習得し、それぞれの栄養素の働きについて説明ができる。

【事前・事後学習】

各回の授業内容について復習をし、次回の内容について指定された参考資料を熟読すること。

【成績評価基準】

1、それぞれの栄養素の働き、代謝のしくみを説明できるか
2、食育、健康食品について理解ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

・健康管理士一般指導員テキスト（テキスト4）「生活を守る栄養学」

【参考図書】

・水野　清子 「食学入門: 食べるヒト・食べるモノ・食べるコト」　診断と治療社　改訂第2版
・辻野　将之 「からだと心を整える「食養生」――食より大切な思考と実践」 技術評論社
・垣原　登志子　他 「食育入門 ―生活に役立つ食のサイエンス」 共立出版

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1222	わ た し た ち の 身 体	1･2年	前期	2単位	選択	尚 爾華

【授業の目的と概要】

私たちの身体を支える筋肉や骨、体内の様々な機能に関わる物質は、食物から摂取する栄養素によってつくられている。また、私たちが身体を動かし、生命を維持するためには、食物からエネルギーを摂取することが必要である。食物を消化･吸収するための消化管の構造、エネルギーとなる栄養素の消化･吸収の仕組み、それらの栄養素を含む食品について学習する。この科学で学んだことが今後の暮らしに活かされ，健全なライフスタイルの確立に役立てられるようにしたい。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス―人体とは何か	「驚異の小宇宙―生命の誕生」(ＤＶＤ教材)を視聴し､人体とは何かを考える。
第2回	人体の成分と栄養素	人体の構成元素と含有量、人体の構成成分
第3回	食物の摂取―食欲、消化、吸収	食品の成分、食品の機能性と種類、食物の摂取、消化作用、吸収機構
第4回	炭水化物の代謝と栄養	炭水化物の定義、種類、単糖類･少糖類･多糖類の特徴、炭水化物の消化、炭水化物の不足と過剰の影響
第5回	脂質の代謝と栄養	脂質の代謝とは、中性脂肪、コレステロールの働き、脂質異常症と動脈硬化
第6回	たんぱく質の代謝と栄養	たんぱく質の構造とアミノ酸、推定平均必要量、推奨量、目安量、過剰摂取によるリスク
第7回	無機質、水の機能	無機質の定義、種類、機能、カルシウムの所在、機能、吸収、リンの所在、吸収、水の出納、運動と水分平衡
第8回	ビタミンの生理作用	ビタミンの定義、種類、機能、水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン、ビタミン様物質、ビタミン所要量と今後の課題
第9回	栄養評価･栄養補給	体脂肪、身近の食品のエネルギー、アセスメント、栄養調査、身体計測、栄養摂取基準
第10回	基礎代謝とエネルギー	基礎代謝とは、測定条件、求め方、自分の基礎代謝値を推定する、基礎代謝の影響因子、活動エネルギー消費量、エネルギーの適正摂取量
第11回	栄養バランスと健康	栄養素の取れた食事（バランス型紙を利用）を考案。
第12回	エネルギーとなる栄養	「エネルギーとなる栄養」（ＤＶＤ教材）を視聴する。食物を消化･吸収するための消化管の構造、エネルギーとなる栄養素の消化･吸収の仕組み、それらの栄養素を含む食品
第13回	身体をつくる栄養	「身体をつくる栄養」（ＤＶＤ教材）を視聴する。身体を構成し、生理機能を円滑に営むための重要な栄養素の消化･吸収の仕組み、それらの栄養素を含む食品
第14回	食育、健康食品	食育とは､食事バランスガイド､健康食品の分類､医薬品と健康食品の違い､食品と医薬品の分類
第15回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

五大栄養素について説明ができる。身体をつくる栄養素、エネルギーとなる栄養素について理解ができる。

【事前･事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回の授業後にノートの整理をすること。

【成績評価基準】

1、五大栄養素について説明ができるか
2、身体をつくる栄養素、エネルギーとなる栄養素について理解ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･資料を配布する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1223	心の健康・心の病	1・2年	後期	2単位	選択	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

自分の心の状況を観察し、自己理解を深め、他者との関係性のあり方を探ることを目的とする。めまぐるしく変化していく社会状況の中で、揺れ動く心のバランスを保っていくことは、誰にとっても容易なことではない。まして、大学時代は学業上の問題、対人関係、進路の問題等、不安定になりやすい時期である。授業では受講生自身の心や日常の対人関係を素材にし、心理学、社会心理学の研究や実験を紹介しながら、人間のこころと行動について理解を深める。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション心の健康とは	心の健康や心の安定について考えることにより、心の健康、心の病について考えを深める。
第2回	第一印象と対人認知	第一印象や対人認知について学ぶことにより、人と人の出会いの心理について学習する。
第3回	対人魅力と人間関係	対人魅力の規定因や親密な人間関係について学ぶことにより、人を好きになる過程を心理学的に考える。
第4回	友情と孤独	友人関係における友情と孤独について考察することにより、人を好きになる心理について学習する。
第5回	対人コミュニケーション	自分の得意・不得意を整理し、グループワークで紹介する
第6回	説得的コミュニケーション	個人的なレベルや社会的なレベルにおいて私たちが他者からどのような影響を受けているのかを心理学的に考える。
第7回	集団の仕組みと影響	集団と個人のかかわりを集団からの影響、集団と集団の関係などの側面から心理学的に考える。
第8回	対人関係の諸問題(1)葛藤	他者との関わりの中で生じる、葛藤や欲求不満について心理学的に学習する。
第9回	対人関係の諸問題(2)攻撃行動	攻撃行動のあらわれである、いじめや家庭内における暴力、虐待などの対人関係の問題について学習する。
第10回	自己理解(1)自分を知るための検査	自己理解を深めるための様々な方法について学習する。
第11回	自己理解(2)心の整理と変化への気づき	自分の感じ方がどのように変化するのかを実際に体験的に学ぶ。
第12回	ストレスと人間関係	ストレスがどのようにもたらされるのか、そのメカニズムを理解する。
第13回	大学生の対応ストレス	大学生の人間関係にかかわるストレスについてワークを通じて体験的に理解する。
第14回	幸福感と人間関係	日々の幸福感を増やしたり、減らしたりする原因について学習し自分や他者の幸せについて考えるきっかけにする。
第15回	まとめと試験	授業で学習したことの振り返りと筆記試験を実施する。

【授業の到達目標】

人間形成や対人関係のよりよいあり方について説明できる。
自己についての理解を深め、自分の対人関係について振り返り心の安定について分析することができる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードついて調べる。

【成績評価基準】

人間形成や対人関係のよりよいあり方について説明できるか。
自己についての理解を深め、自分の対人関係について振り返り心の安定について分析することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（毎授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1224	健康・スポーツ実習 スポーツ実習Ⅰ	1・2年	前期 後期	2単位	選択	大勝 志津穂他

【授業の目的と概要】

本講義では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習と講義を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。また、講義と実習を行うことによって、それぞれの種目に対する理解をより深めることができる。講義では、各種目の歴史と特性を理解し、チームで勝利するための戦術や方法・方策を考える。実習では、自らの技術の向上を目指すだけでなく、講義で学んだ知識をもとに、チームのメンバーと協力・協働しながら、チームの目的を達成するために、課題を見つけ、その解決方法を実践的に学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス、チーム編成（講義）	種目紹介とチーム編成を行う
第2回	タグラグビーの歴史と種目特性（講義）	タグラグビーの歴史と種目特性について知る
第3回	タグラグビーの基礎練習	タグを使ったゲーム、「スローフォワード」とルールの確認
第4回	タグラグビーの総合練習	1対1、2対2、3対3のゲーム
第5回	タグラグビーの戦術研究（講義）	攻め方と守り方を考える
第6回	タグラグビーのゲーム１　ランの戦術とディフェンス	チームごとに「ラン」を主として戦術を考え実践。また、ランの戦術に対する守り方を考える。
第7回	タグラグビーのゲーム２　パスの戦術とディフェンス	チームごとに「ラン」に「パス」を加えた戦術を考え実践。また、その戦術に対する守り方を考える。
第8回	タグラグビーのゲーム３　全員でトライを目指す	5対5のゲームを行い、チーム全員でトライを目指す
第9回	フラッグフットボールの歴史と種目特性（講義）	フラッグフットボールの歴史と種目特性について知る
第10回	フラッグフットボールの基礎練習　ラッシングとパッシング	フラッグを使ったゲーム、「スタップ」「ハンドオフ」「パス」の練習
第11回	フラッグフットボールの総合練習１　オフェンスの戦術	「パス」と「ラン」を使って攻める
第12回	フラッグフットボールの総合練習２　ディフェンスの戦術	「マンツーマンディフェン」「ゾーンディフェンス」を考える
第13回	フラッグフットボールの戦術研究（講義）	個人の得意分野をみつけ、個人がいきるプレイをチームで考える
第14回	フラッグフットボールのゲーム１　ラッシングの戦術を考える	「ラン」を主とした戦術をチームごとに考える。戦術カードを作成する
第15回	フラッグフットボールのゲーム２　パッシングの戦術を考える	「パス」を主とした戦術をチームごとに考える。戦術カードを作成する
第16回	フラッグフットボールのゲーム３　全員でタッチダウンを目指す	これまで作成した戦術カードを使って、チーム全員でタッチダウンを目指す
第17回	アルティメットの歴史と種目特性（講義）	アルティメットの歴史と種目特性について知る
第18回	アルティメットの基礎練習　スローイング&キャッチング	ディスクのスロー（バックハンド、フォアハンド）とキャッチの練習
第19回	アルティメットの総合練習１　オフェンスの戦術	攻めの戦術を考え実践する
第20回	アルティメットの総合練習２　ディフェンスの戦略	守りの戦術を考え実践する
第21回	アルティメットの戦術研究（講義）	攻めと守りの戦術を深める
第22回	アルティメットのゲーム１　3 on 3　空間を使う	3対3のゲームで、空間を使った戦術を考え実践する。変則的なコートで空間利用を考える。
第23回	アルティメットのゲーム２　5 vs 5　オフェンスの戦術を考える	5対5のゲームで、攻めの戦術を考え実践する
第24回	アルティメットのゲーム３　5 vs 5　効果的なディフェンスを考える	5対5のゲームで、効果的なディフェンスをチームで考え実践する
第25回	アルティメットのゲーム４　7 vs 7　チームの戦術を実行する	7対7のゲームを行い、これまでのチームの戦術を実践する
第26回	アルティメットのゲーム５　7 vs 7　全員で得点を目指す	7対7のゲームで、チーム全員で得点を目指す
第27回	フットサルの歴史・種目特性（講義）	フットサルの歴史と種目特性について知る
第28回	フットサルの基礎練習と総合練習	ボールを止めて蹴ること。パス、シュートの練習。ミニゲームを行う
第29回	フットサルのゲーム１　全員がボールを触る	全員がボールを触ってゴールを目指す
第30回	フットサルのゲーム２　全員で得点を目指す	全員で戦術を考え、ゴールを目指す

【授業の到達目標】

各個人が、それぞれの種目の特性を理解し、ゲームを楽しむことができる。
個人の技術だけでなく、チームの技術を高め、ゲームでの勝利を目指すことができる。
チームの学生と協力・協働しながら、メンバーそれぞれが役割を果たすことができる

【事前・事後学習】

それぞれの種目の競技特性を調べ、戦術を考える。
チームのメンバーの特性を知り、それぞれの特徴をいかせるような戦術を考える。

【成績評価基準】

各種目の特性やルールを理解し、ゲームを行うことができるか。
各種目の基本技術を習得しているか。
各チームでの個人の役割を果たしているか。
チームはどれぐらい勝つことができるか。
準備や片付けを行うことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	60（チームへの貢献度）、10（チームの勝利）、20（授業への関与度、10（個人のスキル）

【テキスト】

・特になし

【参考図書】

・James Studarus（ジェームス スタダラス）「フライングディスクをやってみよう」ナップ
・後藤完夫「フラッグフットボール入門」タッチダウン株式会社
・タブラグビーオフィシャルHP：http://www.tagrugby-japan.jp
・（財）フラッグフットボール協会HP：http://www.japanflag.org
・特定非営利活動法人日本フライングディスク協会HP：http://www.jfda.or.jp

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2223	スポーツ実習 スポーツ実習Ⅱ	2・3年	前期	1単位	選択	木野村 嘉則他

【授業の目的と概要】

本講義では、主に「スポーツの楽しさ」を、実習形式を通じて学ぶ。「スポーツを楽しむこと」を経験することは、生涯にわたって自らスポーツに親しむ素地となり、また、指導者として運動やスポーツに携わるための重要な経験となる。その際には、集団で行動すること、集団で目的を達成するための課題や解決方法を実践的に学ぶことができる。その結果、コミュニケーション能力、リーダシップなどについても実習を通じて学ぶこととなる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス、導入	この授業の目的の説明および、導入の運動を行う
第2回	卓球の基礎練習（フォアハンド）とゲーム	フォアハンドストロークをゲームへ導入することを目指した練習を行ったのちにゲームを行う
第3回	卓球の基礎練習（バックハンド）とゲーム	バックハンドストロークをゲームへの導入となる練習を行ったのちにゲームを行う
第4回	卓球の基礎練習（ドライブ回転とした回転）とゲーム	前時までに学習したストロークについてボールに回転をかける練習を行ったのちにゲームを行う
第5回	ソフトバレーの基礎練習（オーバーハンドパス）とゲーム	オーバーハンドパスをゲームへの導入することを目指した練習を行ったのちにゲームを行う
第6回	ソフトバレーの基礎練習（アンダーハンドパス）とゲーム	アンダーハンドパスとオーバーハンドパスを組み合わせ練習を行ったのちにゲームを行う
第7回	ソフトバレーの基礎練習（サーブカット）とゲーム	相手のサーブを自チームの攻撃へつなげる練習を行ったのちにゲームを行う
第8回	ソフトバレーの基礎練習（アタック）とゲーム	相手のサーブをアタックで終える練習を行ったのちにゲームを行う
第9回	バドミントンの基礎練習（ハイクリアー）とゲーム	ハイクリアーの練習を行い、コートの奥までシャトルを運ぶことのできるゲームを行う
第10回	バドミントンの基礎練習（ドロップショット）とゲーム	ハイクリアーとドロップショット練習を行い、相手を前後に揺さぶることを目指したゲームを行う
第11回	バドミントンの基礎練習（スマッシュ）とゲーム	スマッシュの練習を行いコートの全域を用いることを目指したゲームを行う
第12回	フットサルの基礎練習（パス）とゲーム	パスの練習を行ったのちに、自チーム内でボールを回して攻撃することを目指したゲームを行う
第13回	フットサルの基礎練習（ロンド）とゲーム	相手からの守備のプレッシャーがある中でパスを回す練習を行い、ゲームを行う
第14回	フットサルの基礎練習（ドリブル）とゲーム	ドリブルの練習を行い、パスとドリブルを組み合わせたゲームを目指す
第15回	フットサルの基礎練習（シュート）とゲーム	シュートの練習を行い、ゲームを行う

【授業の到達目標】

各スポーツを行うことができるようになり、スポーツ活動へ参加する際にリーダーシップを発揮できるようになる。

【事前・事後学習】

第一回の授業は必ず出席すること。授業に関する重要な連絡をするため、欠席者は履修を認めないことがあるので注意すること。授業後に、その日の学習を振り返るレポートを作成し提出する。また、各授業に際して、提出したレポートを振り返り、その日の学習の課題を明確にして授業に取り組むこと。

【成績評価基準】

各回の授業内容を振り返り、自身の課題を整理したのちに授業に取り組み、その取り組みを再び記述できるようになっているか。他の受講生の活動の様子を記述しているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100%（毎回の授業後に提出）	0	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1301	英語基礎 I	1年	前期	1単位	選択必修	佐々木 裕美他

【授業の目的と概要】

基本的な文法、語彙の習得を確認する一方で、実際に使われる英文に触れ、楽しみながら読んだり聴いたり表現したりすることができるようになることを目的とする。文法を基礎から着実に理解し、使えるようになるまで、繰り返し演習を行う。辞書を使ってまとまった文章を読み、必要な情報を聴き取り、自分で文を組み立てて表現し、それを正しい発音で発表することができるようになることが目標である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	英語で自己紹介	決まった型にあてはめて、英語で自己紹介を行う
第2回	名詞	母音と子音、単数形と複数形、可算名詞と不可算名詞について
第3回	形容詞	数や指し示す形容詞、代名詞の所有格 （小テスト）
第4回	代名詞、be動詞（1）	主語に用いる代名詞、be動詞の基本ー語順·普通文·否定文ー
第5回	be動詞（2）	be動詞の疑問文と答え方、what/who/前置詞を含むbe動詞の文 （小テスト）
第6回	一般動詞（1）	一般動詞とbe動詞の違い、目的語と副詞
第7回	一般動詞（2）	一般動詞の否定文、疑問文と答え方
第8回	人称	一人称·二人称·三人称、三人称の文·否定文·疑問文
第9回	目的語	目的語と目的格、所有代名詞と代名詞の所有格
第10回	副詞と形容詞	副詞と形容詞の働き （小テスト）
第11回	疑問詞と前置詞	Where, WhichとWhose, How, What, When, 場所や時を表す前置詞、曜日·時刻の尋ね方（小テスト）
第12回	助動詞	助動詞canの普通文、否定文、疑問文
第13回	命令文	be動詞の命令文、普通動詞の命令文、Let'sの文
第14回	現在進行形	現在分詞の作り方、現在進行形の普通文、否定文、疑問文 （小テスト）
第15回	過去形	規則動詞と不規則動詞 （小テスト）

【授業の到達目標】

英語文法の特徴を知り、特に、名詞と動詞について正しく理解している。
動詞の活用を知り、言いたいことを英文で表現することができる。

【事前·事後学習】

授業の前には、指示のあった教材をよく読み、問題を解いてくること
授業の後には、復習をして、宿題をすること

【成績評価基準】

英語の基本文法が身についているか、それらを使って自分の考えを英語で表現することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト）

【テキスト】

·担当者から指示する。

【参考図書】

·必要に応じて指示する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1302	英語基礎Ⅱ	1年	後期	1単位	選択必修	佐々木 裕美

【授業の目的と概要】

英語基礎Ⅰの内容を土台に、基本的な文法、語彙の習得を確認しつつ、実際に使われる英文に触れ、楽しみながら読んだり聴いたり表現したりすることができるようになることを目的とする。文法を基礎から着実に理解し、使えるようになるまで、繰り返し演習を行う。辞書を使ってまとまった文章を読み、必要な情報を聴き取り、自分で文を組み立てて表現し、それを正しい発音で発表することができるようになることが目標である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	be動詞と一般動詞	be動詞と一般動詞の普通文･否定文･疑問文、三人称･単数･現在形、現在進行形、There is(are)～の文　(小テスト)
第2回	過去形	be動詞と一般動詞の過去形、過去形の普通文･否定文･疑問文、
第3回	疑問詞	疑問詞when, where, how, what, which, who, whose 過去形と疑問詞(小テスト)
第4回	未来形	未来を表す文will, be going to ~
第5回	助動詞	助動詞will, shallの慣用表現、助動詞can, could, be able to~, may, must, shouldなど
第6回	命令文	命令文Please, let'sなど　(小テスト)
第7回	品詞	英文を形作る品詞　名詞･代名詞･動詞･形容詞･副詞･前置詞
第8回	不定詞（1）	不定詞（名詞的用法）
第9回	不定詞（2）	不定詞（副詞･形容詞的用法）
第10回	動名詞	現在分詞の名詞的表現
第11回	比較（1）	比較級と最上級
第12回	比較（2）	as ~ as…などの慣用表現　(小テスト)
第13回	接続詞	and, or, but, if, when, before, after, because, that
第14回	受け身	受け身の普通文･否定文･疑問文
第15回	現在完了形	経験･継続･完了･結果　(小テスト)

【授業の到達目標】

基本文法を理解し、言いたいことを英文で表現することができる。
疑問詞、助動詞、命令文、不定詞、現在分詞、比較級、最上級、接続詞、受身形、現在完了形について文法を理解し、英語で表現することができる。

【事前･事後学習】

授業の前には、指示のあった教材をよく読み、問題を解いてくること
授業の後には、復習をして、宿題をすること

【成績評価基準】

授業で習った英文法を理解し、使うことができるか。
言いたいことを英語で表現できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト）

【テキスト】

･担当者から指示する。

【参考図書】

･必要に応じて指示する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1303	英　　語　　Ⅰ	1年	前期	1単位	選択必修	西崎 有多子他

【授業の目的と概要】

文法、語彙の習得を確認しながら、英文を多読することにより、英文の内容を的確に把握し、大学での学びに必要な英語力習得を目的とする。教科書の英文を発展させ、語彙については類語と意味のニュアンスを学び、英文を書き換える練習を行うことにより、英語での表現力向上を目指す。学生が興味を持つ内容について教科書の内容を発展させ、興味を持って英語に取り組める授業環境を整えることにより、それぞれの専門領域の英語理解につなげる。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業の進め方、Unit 1 A Jewel Under the Sea(1)	授業の進め方について、Unit 1の語彙･文法の確認
第2回	Unit 1 A Jewel Under the Sea(2)	Unit 1の内容把握･練習問題
第3回	Unit 2 Working Robots(1)	Unit 2の語彙･文法の確認
第4回	Unit 2 Working Robots(2)	Unit 2の内容把握･練習問題
第5回	Unit 3 Moomin House Cafe	Unit 3の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題･小テスト
第6回	Unit 4 The kindness of Strangers	Unit 4の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第7回	Unit 5 Poison Gas	Unit 5の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第8回	Unit 6 From Tragedy to Triumph	Unit 6の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題･小テスト
第9回	Unit 7 The Power of Ideas	Unit 7の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第10回	Unit 8 Humanitude	Unit 8の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第11回	Unit 9 Caffeine: More than Just an Energy Booster	Unit 9の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第12回	Unit 10 Mike Rowe of Dirty Jobs Inerview	Unit 10の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第13回	Unit 11 Interviews are Stressful.	Unit 11の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第14回	Unit 13 What Lies below the Ice?	Unit 13の語彙･文法の確認･内容把握･練習問題
第15回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

基本的な英文法、語彙を確認しながら、平易な英文を読んで内容を把握できる。
英和辞典の効果的使用法を習得し、自ら英文を読み解くことができる。

【事前･事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。
授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行うことにより、テストに備えること。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な英単語を習得できている。
教科書の英文を読解でき、全体の内容を把握できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70（小テスト･確認テスト等を含む）	10	20	0	0

【テキスト】

･永本義弘ほか　『Dear Class』　南雲堂

【参考図書】

･高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参すること。
･必要に応じて配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1304	英語 Ⅱ	1年	後期	1単位	選択必修	西崎 有多子他

【授業の目的と概要】

英文を多読することにより、様々な英文の内容を的確に把握できることを目的とする。学生が興味を持つ内容について、インターネットを用いて海外のウェブサイトから教科書やそれぞれの専門分野に関連する情報を検索し、最新情報を得る方法を習得し、分析、活用する練習を重ねる。実践的な内容の情報をレポートにし、その結果をクラス内で発表することにより、今後の専門領域への発展的英語理解を促す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業の進め方 Unit 1 Why Koalas Don't Go Looking for Water	授業の進め方　Unit 1 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第2回	Unit 2 The Magic Carpet	Unit 2 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第3回	Unit 3 Ghost Husband	Unit 3 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題、小テスト
第4回	Unit 4 The Lemon Princess	Unit 4 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第5回	Unit 5 The Man who Married a Mouse	Unit 5 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第6回	Unit 6 Lazy Jack	Unit 6 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題、小テスト
第7回	Unit 7 The Shoemaker and the Elves	Unit 7 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第8回	Unit 8 How a Duck Became King	Unit 8 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第9回	Unit 9 The King and the Carpenter	Unit 9 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題、小テスト
第10回	Unit 10 The Magic Lake	Unit 10 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第11回	Unit 11 The Enchanted Coffee Beans	Unit 11 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第12回	Unit 12 The Proud Mosquito	Unit 12 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題、小テスト
第13回	Unit 13 The Giant Elephant	Unit 13 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第14回	Unit 14 The Brgging Hyena	Unit 14 の語彙･文法の確認、内容把握、練習問題
第15回	まとめ	まとめ･確認テスト

【授業の到達目標】

基本的な文法、語彙を確認しながら、英文を読んで内容を把握できる。
英和辞典を効果的に使用し、自ら英文を読み解くことができる。
興味あるテーマについて、海外のウェブサイトから情報を得る方法がわかる。

【事前･事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味を調べてノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。
授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行なうこと。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な文法･語彙を習得できている。
教科書の英文を読解でき、全体の内容を把握できる。
海外のウェブサイトにアクセスでき、情報を得ることができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70（小テスト･確認テスト等を含む）	10	20	0	0

【テキスト】

･染矢正一ほか 『Stories from Around the World』 南雲堂

【参考図書】

･高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参すること。
･必要に応じて配布する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1307	英語オーラルコミュニケーション Ⅰ	1年	前期 後期	1単位	選択必修	ナイレ　キーナン他

【授業の目的と概要】

Communicating in English is fun and easy! Although the lessons in this course have grammar content we will mainly be concentrating on speaking and listening. Coming to class regularly and speaking as much as you can will really help you to be a much better English speaker. You need to come to at least 2/3 of the lessons, try your best, and most of all have fun!!

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	I will introduce myself and this course, my method of teaching and the textbook I have selected. Students will have the chance to ask questions about this class.
第2回	役に立つ表現	As much as possible the class will be taught in English so this lesson will be devoted to useful vocabulary for communicating with me during the lesson
第3回	知り合う（1） 初対面	We will cover a range of simple information questions which can be used when we meet someone for the first time. The focus will be small talk.
第4回	知り合う（2） 自己紹介	This lesson will cover personal information questions and appropriate body language/ gesture when greeting somebody for the first time.
第5回	興味（1） 好きなもの嫌いなもの	Students will ask and answer about their likes /dislikes. The focus will be on degree and agreement/disagreement.
第6回	興味（2） 趣味と自由時間	Students will talk about how they enjoy their free time. We will touch on frequency and abilities.
第7回	家族	This lesson includes a wide range of vocabulary about family which students will use to introduce their family.
第8回	人を表現する	We will practice describing what people look like and what their character is. The focus will be distinguishing between the two.
第9回	時間を告げる	We will cover jobs vocabulary and also talk about work place. Students will talk about their part-time jobs and the work they want to do in the future
第10回	仕事について話す	There are two ways to tell time in English so we will cover both. This will be mainly a listening and comprehension lesson
第11回	過去の経験（1） 過去形	We will review simple past tense and practice asking and answering questions in a pair work situation.
第12回	過去の経験（2） 最近行った旅行	Students will answer a variety of questions about a recent trip and use this as a basis for a presentation in class.
第13回	スポーツ	We will discuss the rules of sport, the appropriate use of 'play' with sports and talk about sporting heroes.
第14回	国と国籍は	This lesson focuses on vocabulary for countries, nationalities and languages. There will be a quiz and the students will have the opportunity to learn a few basic phrases in other foreign languages.
第15回	まとめ	We will focus on how and when to use the simple past tense and present perfect tense in English.

【授業の到達目標】

The purpose of this course is to target natural communication in class. The activities are designed to be fun and simple to help students to be more confident when they speak English. Grammar will be included in the lessons as related to a specific function of communication rather than as an isolated topic and the focus will be on encouraging natural and appropriate use in conversation rather than understanding the structure.

【事前・事後学習】

Students should be prepared to take notes in class - not only from the whiteboard but also and hints and corrections made to them directly. They should write down any new words that they have asked the teacher or to check at home with their dictionary. They should prepare for lessons in advance by reading over the text, checking vocabulary and underlining anything that they don't understand so that they can check with me immediately. Reviewing after class is equally important as is recycling newly learned words and phrases into future lessons. Using what you learn as often as possible is they very best way to remember it.

【成績評価基準】

Students need to show personal motivation to participate and improve their abilities. Very regular attendance and being active in class will result in a marked improvement in both speaking and listening skills both of which will be necessary to pass the course. Students must complete all activities and assignments diligently and take responsibility for their own personal improvement.

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
10	0	30	0	60（Behaviour in class and participation）

【テキスト】

・担当者から指示する

【参考図書】

・特になし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1308	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1年	前期 後期	1単位	選択必修	ナイレ　キーナン他

【授業の目的と概要】

Communicating in English is fun and easy! Although the lessons in this course have grammar content we will mainly be concentrating on speaking and listening. Coming to class regularly and speaking as much as you can will really help you to be a much better English speaker. You need to come to at least 2/3 of the lessons, try your best, and most of all have fun!!

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	I will introduce myself and this course, my method of teaching and the textbook I have selected. Students will have the chance to ask questions about this class.
第2回	経験 (1) 現在完了形	We will focus on the simple past and present perfect tenses in English.
第3回	経験 (2) ～したことありますか？	Students will share their best memories/ experiences with each other in an information exchange exercise.
第4回	復習	This class will be a review of what we have covered so far through a variety of pair work exercises and games.
第5回	場所 (1) 位置	Prepositions of place - the position of objects within the home..
第6回	場所 (2) 方向	Prepositions of place - giving directions in the city and on public transport.
第7回	旅行 (1) レストランの予約	Making a restaurant reservation when traveling abroad.
第8回	日本の物	Explaining Japanese culture to foreign visitors.
第9回	価格	Large numbers and currency specifically in relation to shopping.
第10回	これから行う行事 (1) 未来形	We will talk about decided future plans using 'going to'. Students make plans with each other using a schedule.
第11回	これから行う行事 (2) 計画を立てる	'Will' and 'wont' to talk about possibilities and make predictions.
第12回	学校 (1) 科目と時間割	Vocabulary for school life and education. Students will share with each other the subjects they enjoyed/didn't enjoy at high school.
第13回	学校 (2) 規則	School rules. Using 'have to' and 'must' we will focus on rules.
第14回	旅行 (2) 飛行機の予約	We will practice using functional English for in a hotel using role plays.
第15回	病気と健康	Health awareness, illness and parts of the body. Vocabulary and pronunciation will be the main focus.

【授業の到達目標】

The purpose of this course is to target natural communication in class. The activities are designed to be fun and simple to help students to be more confident when they speak English. Grammar will be included in the lessons as related to a specific function of communication rather than as an isolated topic and the focus will be on encouraging natural and appropriate use in conversation rather than understanding the structure.

【事前・事後学習】

Students should be prepared to take notes in class - not only from the whiteboard but also and hints and corrections made to them directly. They should write down any new words that they have asked the teacher or to check at home with their dictionary. They should prepare for lessons in advance by reading over the text, checking vocabulary and underlining anything that they don't understand so that they can check with me immediately. Reviewing after class is equally important as is recycling newly learned words and phrases into future lessons. Using what you learn as often as possible is they very best way to remember it.

【成績評価基準】

Students need to show personal motivation to participate and improve their abilities. Very regular attendance and being active in class will result in a marked improvement in both speaking and listening skills both of which will be necessary to pass the course. Students must complete all activities and assignments diligently and take responsibility for their own personal improvement.

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
10	0	30	0	60（Behaviour in class and participation）

【テキスト】

·担当者から指示する

【参考図書】

·特になし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1309	中　国　語　総　合　Ⅰ	1・2年	前期 後期	1単位	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

初めて中国語を学ぶ人が対象です。授業では、まず中国語の基本である発音をしっかり学び、その後は北京を舞台にしたビデオを見ながら、タクシーでの行き先の告げ方や自己紹介の仕方、チェックインの時の会話や買い物の表現など、中国に行ったとき実際に役に立つ会話を練習します。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形で使えるものです。このような実用性のほかに、ビデオを通じて美しい北京の風景や文化に親しむ機会を増やします。以上の内容を演習形式で行います。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業の運営方針
第2回	第1課　タクシーに乗る	基本語順
第3回	第2課　自己紹介	疑問文
第4回	第3課　チェックイン	名前の言い方
第5回	第4課　数字	選択疑問文
第6回	第5課　またあとで	指示代詞
第7回	復習	基本構造
第8回	まとめと確認テスト（1）	疑問文のまとめ
第9回	第6課　プレゼント	助動詞（1）
第10回	第7課　お茶をどうぞ	量詞
第11回	第8課　学生食堂	前置詞
第12回	第9課　何年生ですか？	数詞述語文
第13回	第10課　ほめすぎです	助動詞（2）
第14回	復習	練習問題（1）
第15回	まとめと確認テスト（2）	練習問題（2）

【授業の到達目標】

個人旅行で中国に行って用事が足せること、中国人と友達になっていろいろなことをおしゃべりできるようになることです。
それとともに、本格的に中国語をマスターしたいと志す人のために、確実な語学力の基礎をつくることもねらいとしています。

【事前・事後学習】

教科書付属のＣＤを繰り返し聞いて発音の練習をしましょう。

【成績評価基準】

（1）中国語の基本的な文法項目が理解できているか
（2）中国語で簡単な作文ができるかどうか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
５０％	0	５０％	0	0

【テキスト】

·『理香と王麗　スリム版』朝日出版社

【参考図書】

·なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1310	中国語総合Ⅱ	1・2年	後期	1単位	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

中国語を半年程度勉強した人が対象です。
授業では、入門レベルの復習をします。
その後は北京を舞台にしたビデオを見ながら、買い物の表現、時間や曜日の言い方など、中国に行ったとき実際に役に立つ会話を学びます。
授業の主役はみなさん一人一人です。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形ですぐに使えます。
このような実用性とともに、ビデオを通じて美しい北京の風景や文化に親しむこともこの授業の目的のひとつです。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業の運営方針の説明
第2回	第１１課　チャイナドレスを買う	曜日の言い方
第3回	第１２課　バスに乗る）	助動詞
第4回	第１３課　買い物	比較の言い方
第5回	第１４課　いくらですか	年月日の言い方
第6回	第１５課　カードで払う	動量詞
第7回	復習	助動詞のまとめ
第8回	筆記テストとまとめ（1）	文法のまとめ
第9回	第１６課　雑技	連動文
第10回	第１７課　今なんじですか？	進行
第11回	第１８課　プログラム	可能
第12回	第１９課　写真をとる	経験
第13回	復習	復習
第14回	筆記テストとまとめ（2）	筆記テストとまとめ（2）
第15回	応用練習	中級への道

【授業の到達目標】

個人旅行で中国へ行って、いろいろな用事を足せるようになることと、中国人と友達になっておしゃべりできるようになることです。
それとともに、中級の中国語へ進めるように、基礎的な文法事項が身に着くようにします。

【事前・事後学習】

教科書付属のＣＤを繰り返し聞いて発音の練習をしてください。

【成績評価基準】

（1）初級レベルの中国語の文法項目を身につけている
（2）初級レベルの中国語を聞いて理解できる

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
５０％	0	５０％	0	0

【テキスト】

·『理香と王麗スリム版』朝日出版社

【参考図書】

·なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1311	中国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	1･2年	前期	1単位	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

初めて中国語を学ぶ人が対象です。授業では、まず中国語の基本である発音をしっかり学び、その後は大学の中国語サークルを舞台にしたDVDを見ながら、自己紹介の仕方、レストランでの注文や買い物の表現など、日本でも中国でも役に立つ会話を練習します。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形で使えるものです。このような実用性のほかに、映像を通じて中国の美しい風景や文化に親しむ機会を増やします。以上の内容を演習形式で行います。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業の運営方針の説明
第2回	発音（1）	声調
第3回	発音（2）	軽声
第4回	発音（3）	人称代名詞
第5回	発音（4）	二重母音
第6回	第1課　昼食会（1）	指示代名詞
第7回	第1課　昼食会（2）	疑問文
第8回	第2課　お弁当（1）	選択疑問文
第9回	第2課　お弁当（2）	正反疑問文
第10回	第3課　家族について話す（1）	親族名称
第11回	第3課　家族について話す（2）	数字
第12回	第4課　中華街（1）	助動詞
第13回	第4課　中華街（2）	曜日
第14回	発音テストとまとめ	発音テストとまとめ
第15回	復習	基本的な会話

【授業の到達目標】

個人旅行で中国に行って用事が足せること、中国人と友達になっていろいろなことをおしゃべりできるようになることです。
それとともに、本格的に中国語をマスターしたいと志す人のために、確実な語学力の基礎をつくることもねらいとしています。

【事前･事後学習】

教科書付属のＣＤを繰り返し聞いて発音の練習をしましょう。

【成績評価基準】

入門レベルの中国語を話すことができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	５０％	発音テスト５０％	0

【テキスト】

･『ともだち･朋友スリム版』朝日出版社

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1312	中国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	1・2年	後期	1単位	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

半年程度中国語を学習した人に最適なレベルです。
授業では、まず基本的な発音の復習をします。
その後はDVDを見ながら買い物の表現、時間や曜日の言い方など、日本でも中国でも役に立つ会話を学びます。
授業の主役はみなさん一人一人です。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形ですぐに使えます。
このような実用性とともに、DVDを通じて中国の美しい風景や文化に親しむこともこの授業の目的のひとつです。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業の運営方針の説明
第2回	第５課　うらない（１）	年月日
第3回	第５課　うらない（２）	時刻
第4回	第６課　中国茶を買う(1)	お金
第5回	第６課　中国茶を買う(２)	数量補語
第6回	第７課　合宿(1)	助動詞
第7回	第７課　合宿(2)	前置詞
第8回	まとめと発音テスト（１）	まとめと発音テスト
第9回	まとめと課題	あいさつ
第10回	第８課　バーベキュー(1)	場所と存在
第11回	第８課　バーベキュー(2)	二重目的語
第12回	第９課　ボート(1)	連動文
第13回	第９課　ボート(2)	禁止
第14回	第１０課　花火	比較
第15回	まとめと発音テスト（２）	まとめと発音テスト（２）

【授業の到達目標】

個人旅行で中国へ行って、いろいろな用事を足せるようになることと、中国人と友達になっておしゃべりできるようになることです。
それとともに、中級の中国語へ進めるように、基礎的な文法事項が身に着くようにします。

【事前・事後学習】

教科書付属のＣＤを繰り返し聞いて発音の練習をしてください。

【成績評価基準】

初級程度の中国語を話すことができる

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	５０％	発音テスト５０％	0

【テキスト】

・『ともだち・朋友スリム版』朝日出版社

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1315	韓　国　語　総　合　Ⅰ	1･2年	前期 後期	1単位	選択必修	キム ユナ他

【授業の目的と概要】

この授業は講義および実習形式に行われる。韓国語を初めて学ぶ人を対象とする。韓国語の基本構文の全般的な習得を目指す。具体的にははじめに文字を一通り学んだうえで、挨拶の表現、動詞の活用の練習などをする。読み書きを中心にそれらの適切な使用方法を学んでいくことを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学び、学んだ韓国語の知識を実際の言語運用に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ハングルの構成、母音①基本母音６個	ハングルの基本子音
第2回	母音②派生母音４個	母音２４個を学習するとハングルの読み書きができる
第3回	子音①子字母７個（ㄱ、ㄴ、ㄷ、ㄹ、ㅁ、ㅂ、ㅅ）	ハングルの基本子音、母音２４個を学習するとハングルの読み書きができる。
第4回	子音②子音字母７個（ㅇ、ㅈ、ㅊ、ㅋ、ㅌ、ㅍ、ㅎ）	ハングルの基本子音、母音２４個を学習するとハングルの読み書きができる。
第5回	子音③ 子音字母の練習 平音･激音･濃音	平音･激音･濃音の発音の区別などが出来る。
第6回	複合中声	複合中声の１１個を練習する。
第7回	終声（バッチム）:鳴音、阻害音 終声（バッチム）	終声（バッチム）①鳴音、阻害音 終声（バッチム）
第8回	韓国文化授業（韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する）	韓国文化授業（韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する）
第9回	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表 連音化	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表を理解できる 連音化を理解する。
第10回	挨拶表現（感謝、お礼、お詫び等）	挨拶表現（感謝、お礼、お詫び等）を学習する。
第11回	国、どこの国の人、職業	国の名前、人、名前を質問して返事できる。
第12回	自己紹介	自己紹介を言える、書ける
第13回	固有数詞	固有数詞（一つ、二つ･･･。）
第14回	家族の呼び方	家族の呼び方と人数を言える。
第15回	前期のまとめ	前期の学習の確認

【授業の到達目標】

韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック･ 話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前･事後学習】

毎回、前回学習した部分を小テストして、学習進展を確認します。

【成績評価基準】

授業に積極的に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験　40%	0	授業への参加度　40%	0	小テスト20%

【テキスト】

･授業中に紹介する

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1316	韓国語総合Ⅱ	1・2年	後期	1単位	選択必修	キム ユナ

【授業の目的と概要】

この授業は講義および実習形式で行われる。基礎的文法知識を完成させる。ごく平明な文章が読め、簡単な手紙が書け、簡単な会話ができるなど基本的運用能力を養成することを内容とする。特に、聞き取りの力を養うようにする。また、様々な角度から、韓国・朝鮮の風俗・習慣・文化に対する理解が深められるようにする。韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学ぶ。学んだ韓国語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	位置を説明する（上、下、中・・・）	場所と位置を表現できる。～の上に～があります。
第2回	存在（～に～があります。ありません）	場所と位置の否定表現を表す。～に～はありません。
第3回	誕生日はいつですか。	誕生日を聞いて返事できる。
第4回	曜日表現	曜日の表現を覚える。
第5回	何月何日です。	漢数字を使って、誕生日を言える。
第6回	ヘヨ体（丁寧形）	非格式の丁寧形。～아요, 어요, 해요
第7回	誘い表現	誕生日に～で～をしませんか。　～しましょうか。
第8回	韓国文化授業	韓国関連の視聴覚を見ながら文化の紹介
第9回	趣味	趣味の表現を覚える
第10回	趣味を書ける	自分の趣味を作文できる
第11回	食堂で注文する	食堂へ行って、食べたいものを注文できる
第12回	希望の表現	希望の表現 ～したいです、～したくありません。
第13回	ヘヨ体過去形	ヘヨ体の過去形を表現できる。
第14回	買い物	非格式の丁寧形の過去。～았어요, 었어요, 했어요
第15回	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業の到達目標】

前期の学習を基にして、韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック・話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前・事後学習】

授業には意欲な参加を求める。授業の進展に応じ事前に配布するプリントは課題とする。

【成績評価基準】

授業に積極に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現をすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記評価40%	0	授業参加40%	0	小テスト20%

【テキスト】

・授業中に紹介する

【参考図書】

・聴いて学ぶ韓国語会話

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1317	韓国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ Ⅰ	1･2年	前期 後期	1単位	選択必修	キム ユナ他

【授業の目的と概要】

この授業は講義および実習形式に行われる。韓国語を初めて学ぶ人を対象とする。韓国語の基本構文の全般的な習得を目指す。具体的にははじめに文字を一通り学んだうえで、挨拶の表現、動詞の活用の練習などをする。読み書きを中心にそれらの適切な使用方法を学んでいくことを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学び、学んだ韓国語の知識を実際の言語運用に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ハングルの構成、母音①　初対面の挨拶	ハングルの基本子音
第2回	母音②　別れの挨拶	母音２４個を学習するとハングルの読み書きができる
第3回	子音①　感謝の挨拶	ハングルの基本子音、母音２４個を学習するとハングルの読み書きができる。
第4回	子音②　謝罪の挨拶	ハングルの基本子音、母音２４個を学習するとハングルの読み書きができる。
第5回	子音③　食事の挨拶	平音･激音･濃音の発音の区別などが出来る。
第6回	子音④　祝賀の挨拶	複合中声の１１個を練習する。
第7回	子音と母音のガギャ表（歌で覚える）	終声（バッチム）①鳴音、阻害音 終声（バッチム）
第8回	韓国文化授業	韓国文化授業（韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する）
第9回	複合終声、韓国語の母音と子音	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表を理解できる 連音化を理解する。
第10回	すらすら読める韓国語	挨拶表現（感謝、お礼、お詫び等）を学習する。
第11回	日本、日本人、大学生であることを聞いて、答える。	国の名前、人、名前を質問して返事できる。
第12回	韓国語で自己紹介	自己紹介を言える、書ける
第13回	物の数を言える。	固有数詞（一つ、二つ･･･。）
第14回	家族の紹介が出来る。	家族の呼び方と人数を言える。
第15回	前期のまとめ	前期の学習の確認

【授業の到達目標】

韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック･話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前･事後学習】

毎回、前回学習した部分を小テストして、学習進展を確認します。

【成績評価基準】

授業に積極的に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験40%	0	授業への参加度40%	0	小テスト20%

【テキスト】

･授業中に紹介する

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1318	韓国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	1・2年	後期	1単位	選択必修	キム ユナ

【授業の目的と概要】

この授業は講義および実習形式で行われる。基礎的文法知識を完成させる。ごく平明な文章が読め、簡単な手紙が書け、簡単な会話ができるなど基本的運用能力を養成することを内容とする。特に、聞き取りの力を養うようにする。また、様々な角度から、韓国・朝鮮の風俗・習慣・文化に対する理解が深められるようにする。韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学ぶ。学んだ韓国語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	位置を説明する（上、下、中・・・）	場所と位置を表現を言える。「～の上に～があります。」
第2回	存在（～に～があります。ありません）	場所と位置の否定表現を言える。「～に～はありません。」
第3回	誕生日はいつですか。	誕生日をお互いに聞いて答える会話の練習
第4回	曜日表現	曜日の表現を覚えて、曜日を聞いて答える。
第5回	何月何日です。	漢数字を使って、誕生日を言える。
第6回	ヘヨ体（丁寧形）	非格式の丁寧形。～아요, 어요, 해요
第7回	誘い表現	誕生日に友達に誘う表現を言える。
第8回	韓国文化授業	韓国関連の視聴覚を見ながら文化の紹介
第9回	趣味	趣味の表現を覚えて言える。
第10回	趣味を書ける	自分の趣味を発表できる。
第11回	食堂で注文する	食堂へ行って、食べたいものを注文する練習をする。
第12回	希望の表現	自分の希望の表現を言える。 ～したいです、～したくありません。
第13回	ヘヨ体過去形	ヘヨ体の過去形を表現できる。
第14回	買い物	非格式の丁寧形の過去を使って、過去のことを言える。
第15回	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業の到達目標】

前期の学習を基にして、韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック・話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前・事後学習】

授業には意欲な参加を求める。授業の進展に応じ事前に配布するプリントは課題とする。

【成績評価基準】

授業に積極に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現をすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記評価40%	0	授業参加40%	0	小テスト20%

【テキスト】

・授業中に紹介する

【参考図書】

・聴いて学ぶ韓国語会話

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1319	日　　本　　語　　A	1年	前期	1単位	選択必修	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

大学での学修のうち基礎的素養となるのが「読解力」である。図・表から必要な情報を取り出しながら書かれた文章を理解し、利用し、熟考することを通じて「読解力」の基礎を築く。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価等について説明、自己紹介
第2回	実力テストとテストの解説	現時点における日本語の文法力の測定と重要項目の解説
第3回	イメージの日本・日本人	イメージとステレオタイプ
第4回	女性の生き方1	図・表からの理解
第5回	女性の生き方2	読み物
第6回	女性の生き方3	国際比較
第7回	現代女性の生き方	読み物
第8回	発表1-1	担当者の発表1-1
第9回	発表1-2	担当者の発表1-2
第10回	子どもと 教育1	図・表からの理解
第11回	子どもと 教育2	国際比較
第12回	子どもと 教育3	読み物
第13回	発表2-1	担当者の発表2-1
第14回	発表2-2	担当者の発表2-2
第15回	まとめ	授業のまとめ

【授業の到達目標】

多様な文章を読んで、現代社会に対する大学生としての問題意識を高めながら、文章が正確に読み取れる。
正しい日本語で意見がまとめられる。

【事前・事後学習】

毎回の授業前までに、授業で扱う箇所の知らない単語の意味などを調べておくこと。
発表1～2の担当日までに、発表準備をすること。

【成績評価基準】

文章を正確に読むことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80%	0%	0%	0%	課題提出:20%

【テキスト】

・近藤安月子・丸山千歌（2008）『中・上級日本語教科書　日本への招待第2版　テキスト』東京大学出版会

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1320	日本語B	1年	前期	1単位	選択必修	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

「日本語B」は外国人留学生の日本語力の向上を目指す。基礎的な日本語力を身につけて入学した留学生が大学で日本人学生と同等に勉学するのに必要な総合的な日本語力を、主にレポート作成の側面から養成する。受講生はまず作文とレポートや卒業論文のような客観的な文章の違いを知り、レポート等で使われる文体・文型が使えるようになり、レポート等で必要な論理構成を理解してから、実際にレポートを作成する。関心のあるテーマを探し、調査し、考察した内容をレポートにまとめる過程を通して、情報収集、データ分析、文章表現の能力を向上させる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価等について説明、自己紹介
第2回	レポートに使われる文体	文体の使い分け
第3回	文の基本	首尾一貫した文
第4回	句読点の打ち方・記号の使い方	記号の使い分け
第5回	引用の仕方	感動したことばの引用
第6回	まとめ1	授業のまとめ1
第7回	段落	段落の構成
第8回	仕組み	仕事柄の組みの説明
第9回	歴史的な経過	歴史的な経過の説明
第10回	まとめ2	授業のまとめ2
第11回	分類	分類の基準
第12回	定義	社会的に定着していないことばの定義
第13回	要約	文章の主題の要約
第14回	比較・対照	事柄を理解するための比較・対照
第15回	まとめ3	授業のまとめ3

【授業の到達目標】

大学での勉学に必要な情報収集とデータ分析ができる。
データ分析の結果を考察して文章にまとめられる。

【事前・事後学習】

毎回の授業前までに、授業で扱う箇所の知らない単語などを調べておくこと。
課題は決められた日に必ず提出すること。

【成績評価基準】

データ分析の結果を考察して、自らの言葉で文章にまとめることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	0%	0%	0%	課題提出:40%

【テキスト】

・二通信子・佐藤不二子（2003）『改訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』 スリーエーネットワーク

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1321	日　　本　　語　　C	1年	後期	1単位	選択必修	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

「日本語A」に引き続き、日本の文化･社会に対する理解を深めながら、読解力を養う。外国人留学生にとって、現代の日本社会をダイナミックに捉えることは、最新のニュース･話題の理解だけでなくコース選択･専門科目の前提知識として必要不可欠である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方･成績評価等について説明
第2回	仕事への意識1	図･表からの理解
第3回	仕事への意識2	ことわざの意味
第4回	仕事への意識3	読み物1
第5回	現代人の仕事への意識	読み物2
第6回	発表1-1	担当者の発表1-1
第7回	発表1-2	担当者の発表1-2
第8回	日本の外国人1	図･表からの理解
第9回	日本の外国人2	読み物1
第10回	日本の外国人3	読み物2
第11回	現代日本社会の外国人	読み物3
第12回	発表2-1	担当者の発表2-1
第13回	発表2-2	担当者の発表2-2
第14回	多様化する日本･日本人	グローバルな資質
第15回	まとめ	授業のまとめ

【授業の到達目標】

多様な文章を読んで、現代社会に対する大学生としての問題意識を高めながら、文章が正確に読み取れる。
正しい日本語で意見がまとめられる。

【事前･事後学習】

毎回の授業前までに、授業で扱う箇所の知らない単語などを調べておくこと。
発表1～2の担当日までに、発表準備をすること。

【成績評価基準】

文章を正確に読むことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80%	0%	0%	0%	課題提出:20%

【テキスト】

･近藤安月子･丸山千歌（2008）『中･上級日本語教科書　日本への招待第2版　テキスト』東京大学出版会

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1322	日本語D	1年	後期	1単位	選択必修	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

「日本語D」は外国人留学生の日本語力の向上を目指す。基礎的な日本語力を身につけて入学した留学生が大学で日本人学生と同等に勉学するのに必要な総合的な日本語力を、主にレポート作成の側面から養成する。受講生はまず作文とレポートや卒業論文のような客観的な文章の違いを知り、レポート等で使われる文体・文型が使えるようになり、レポート等で必要な論理構成を理解してから、実際にレポートを作成する。関心のあるテーマを探し、調査し、考察した内容をレポートにまとめる過程を通して、情報収集、データ分析、文章表現の能力を向上させる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方・成績評価等について説明
第2回	因果関係	原因と結果の関係
第3回	論説文	論説文の事例
第4回	資料の利用	資料の探し方
第5回	まとめ	まとめ
第6回	テーマ決定	実際に作成するレポートのテーマ決定
第7回	資料収集	図書館で関係資料の収集
第8回	レポート構想発表会	レポートの構想発表→テーマの修正
第9回	レポート執筆1	表紙・文献リストの作成と本文の執筆
第10回	レポート執筆2	本文の執筆
第11回	レポート提出	レポート提出→レポート返却
第12回	レポート修正1	レポート修正1
第13回	レポート修正2	レポート修正2
第14回	清書レポート提出	清書レポート提出
第15回	全体のまとめ	授業のまとめ

【授業の到達目標】

大学での勉学に必要な情報収集とデータ分析ができる。
データ分析の結果を考察して文章にまとめられる。

【事前・事後学習】

毎回の授業前までに、授業で扱う箇所の知らない単語などを調べておくこと。
課題は決められた日に必ず提出すること。

【成績評価基準】

データ分析の結果を考察して、自らの言葉で文章にまとめることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50%	30%	0%	0%	課題提出:20%

【テキスト】

・二通信子・佐藤不二子（2003）『改訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』 スリーエーネットワーク

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1323	日　本　語　E 日　本　語　C	1年	前期	1単位	選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

「日本語E」は外国人留学生の日本語力の向上を目的とする。日本語学校等で基礎的な日本語力を身につけて入学した留学生が、大学で日本人学生と同等に勉学するのに必要な総合的な日本語力を、読む･話す･考えるの過程を通して養成する。N1レベルに達していない留学生にとって必修授業とも言えるものである。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方･成績評価･について説明、自己紹介
第2回	働かない働きアリ1	読み物
第3回	働かない働きアリ2	表現
第4回	働かない働きアリ3	図･表からの理解
第5回	血液型1	読み物
第6回	血液型2	表現
第7回	血液型3	図･表からの理解
第8回	まとめ1	授業のまとめ1
第9回	言葉の意味1	読み物
第10回	言葉の意味2	表現
第11回	言葉の意味3	図･表からの理解
第12回	IT社会1	読み物
第13回	IT社会2	表現
第14回	IT社会3	図･表からの理解
第15回	まとめ2	授業のまとめ2

【授業の到達目標】

大学での勉学に必要な読む力と考える力が身に付く。

【事前･事後学習】

今までに勉強した文型を復習し、毎回の授業で扱う箇所の知らない単語を調べておくこと。

【成績評価基準】

多彩なジャンルのテーマについて正確に理解し、視野を広げることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80%	0%	0%	0%	課題提出:20%

【テキスト】

･清水正幸･奥山貴之（2015）『日本語学習者のための読解厳選テーマ10　[中上級]』凡人社

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1324	日本語F 日本語D	1年	後期	1単位	選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

「日本語F」は外国人留学生の日本語力の向上を目的とする。日本語学校等で基礎的な日本語力を身につけて入学した留学生が、大学で日本人学生と同等に勉学するのに必要な総合的な日本語力を、読む･話す･考えるの過程を通して養成する。N1レベルに達していない留学生にとって必修授業とも言えるものである。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方･成績評価･について説明
第2回	若者1	読み物
第3回	若者2	表現
第4回	若者3	図･表からの理解
第5回	いじめ1	読み物
第6回	いじめ2	表現
第7回	いじめ3	図･表からの理解
第8回	まとめ1	授業のまとめ1
第9回	子どもの名前1	読み物
第10回	子どもの名前2	表現
第11回	子どもの名前3	図･表からの理解
第12回	高齢化のなかで1	読み物
第13回	高齢化のなかで2	表現
第14回	高齢化のなかで3	図･表からの理解
第15回	まとめ2	授業のまとめ2

【授業の到達目標】

大学での勉学に必要な読む力と考える力が身に付く。

【事前･事後学習】

今までに勉強した文型を復習し、毎回の授業で扱う箇所の知らない単語を調べておくこと。

【成績評価基準】

多彩なジャンルのテーマについて正確に理解し、視野を広げることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80%	0%	0%	0%	課題提出:20%

【テキスト】

･清水正幸･奥山貴之（2015）『日本語学習者のための読解厳選テーマ10 ［中上級］』凡人社

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1325	日本語表現Ⅰ 東邦基礎Ⅰ	1年	前期	2単位	選択 必修	長坂 康代

【授業の目的と概要】

大学生活や、その後の社会人としての生活に必要な基礎的な日本語力を身に付けることを目標とする。大学生活に徐々に慣れるとともに、言語生活を見直し、日本語力を培っていくものである。基礎的な語彙学習、言葉遣いやメール文などの社会言語の見直し、レポートを書くための表現技法、図書館活動を行いながら進めていく。こうした演習課題で学んだことがらを一定の文章にし、文章を書き慣れるようにしていく。各授業時間の終了時に、ポートフォリオを用いて自己点検を行い、大学生活と「書くこと」を連携させる。以上を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンスⅠ、自己紹介文Ⅰ	授業の概要や目標を理解し、具体的な授業の構成やポートフォーリオの活用法を知る。また、自己紹介文の課題をおこなう。
第2回	ガイダンスⅡ、自己紹介文Ⅱ	前回のガイダンスを復習する。また、前回の自己紹介の文を清書する。
第3回	語句学習の自習方法を学ぶ	次回からおこなう語句学習方法や「センター課題」の方法を習得する。
第4回	語句学習、グループによるインタビュー計画	語句学習を継続的におこなう。学内部署でインタビューをして、礼状を書いたり、部署紹介をしあう活動があることを知る。
第5回	語句学習、インタビューの準備と実施	インタビューの準備をおこなう（グループワーク）。
第6回	語句学習、インタビューの結果の整理と礼状の下書き	ワークシートを使ってインタビュー結果の整理をする。さらに、礼状の下書きをおこなう。
第7回	語句学習、礼状の下書き･下書きの読み合い･清書	下書きを仕上げ、読み合い、不足を補って清書する。
第8回	語句学習、担当部署ごとに、全員が30秒発表	学内部署内の紹介をする発表会をおこなう。
第9回	語句小テスト、実読の多読練習、あらまし読みシート(1)	日本語検定の語句学習小テスト①を受検する。多読を目的とした「あらまし読みシート」の記入方法を学ぶ。
第10回	語句学習、あらまし読みシート(2)	図書館で「あらまし読みシート」の記入をおこなう。
第11回	語句学習、あらまし読みシート(3)	2冊分の「あらまし読みシート」の記入をおこなう。
第12回	語句学習、学部学科の学習内容や進路･資格の確認	「学部･学科で学べること」をテーマにしたレポート作成の準備をする。
第13回	語句学習、レポートの推敲	レポートの下書きを推敲する。
第14回	語句学習、レポートの清書	レポートの清書をする。
第15回	語句小テスト、授業アンケート	日本語検定の語句学習小テスト②を受検する。授業アンケートを記入し、学んだことを整理する。

【授業の到達目標】

文章を丁寧な手書きで、相手意識を持って書ける。また、敬語を用いて、話したり書いたりできるようにする。語句学習を自習する姿勢を養い、受講態度も向上するように努める。

【事前･事後学習】

指定された『日本語検定必勝単語帳』の課題を毎日おこなう。
多読を目的とした「あらまし読みシート」を作成する。
「センター課題」が課されたときには、指定枚数を学習支援センターで実施する。

【成績評価基準】

自ら積極的に語句学習する計画を立てて、学ぼうとする態度が持てるか。
レポートやワークシートなどの提出物を期限内に提出することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30	0	50(各提出物)、 20(語句小テスト10×2回)

【テキスト】

･東京書籍研修部『日本語検定必勝単語帳』（入門編)。東京書籍
･牧恵子『学生のための学び入門―ヒト･テキストとの対話からはじめよう―』ナカニシヤ出版

【参考図書】

･愛知東邦大学図書館内「あらまし読み」指定書60冊程度

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1326	日本語表現Ⅱ 東邦基礎Ⅱ	1年	後期	2単位	選択必修	中島 弘道

【授業の目的と概要】

大学生活や、その後の社会人としての生活に必要な基礎的な日本語力を身に付けることを目標とする。2冊の本を要約し、共通する内容について、意見を述べるという形式で、レポートを作成する。大学生を取り巻く身近なテーマを取り上げ、各資料のキーワードをマップに整理し、引用のルールを用いながら、要約型レポートにまとめることを練習する演習型授業である。さらに、書き終えた文章を推敲する重要性に気づかせ、「書く力」を相互に点検しながら、プロセス重視で書き進めていくこととする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	語句学習、ガイダンスⅠ、ポスター制作予定紹介	前期に引き続き、15分程度の『日本語検定必勝単語帳』の自習。後期授業内容を理解する。後期は、「私が成長できる言葉」をテーマにしたポスター制作とレポートの練習である。ポスターに載せる言葉を探す。
第2回	語句学習、ガイダンスⅡ、ポスター制作準備	先輩のポスターの例を新聞記事と学内ＨＰから検索し、5W1Hに気を付けてワークシートに記入する。自分のポスター計画を立て、ポスターに記入する文章（400字程度）の下書きをする。
第3回	語句学習、ポスターの交流会、ガイダンスⅢ	出来上がったポスターをもとに、グループでポスターを説明し合う。4回から14回まで「2回の授業で1セット」でレポートを書く練習を行うことを知る。
第4回	語句小テスト、あらまし読みシート	敬語と漢字の読みを中心に、小テストを受検する。前期に引き続き、図書館で、「あらまし読みシート」を作成する。
第5回	第1回練習レポートの準備と下書き	予習してきた「あらまし読みシート」をもとに、共通点と相違点を整理し、フォーマットに従い、第1回「練習レポート」を書く。
第6回	第1回練習レポートの作成	書いてきた第1回「練習レポート」をもとに、文章の推敲を行う。
第7回	第2回練習レポートの準備と下書き	予習してきた「あらまし読みシート」をもとに、共通点と相違点を整理し、フォーマットに従い、第2回「練習レポート」を書く。
第8回	第2回練習レポートの作成	書いてきた第2回「練習レポート」をもとに、文章の推敲を行う。
第9回	第3回練習レポートの準備と下書き	テーマに関する自由読書、自由制作あらまし読みシートの活用を行う。予習してきた「あらまし読みシート」をもとに、共通点と相違点を整理し、フォーマットに従い、第3回「練習レポート」を書く。
第10回	第3回練習レポートの作成	書いてきた第3回「練習レポート」をもとに、文章の推敲を行う。
第11回	第4回練習レポートの準備と下書き	テーマに関する自由読書、自由制作あらまし読みシートの活用を行う。予習してきた「あらまし読みシート」をもとに、共通点と相違点を整理し、フォーマットに従い、第4回「練習レポート」を書く。
第12回	第4回練習レポートの作成	書いてきた第4回「練習レポート」をもとに、文章の推敲を行う。
第13回	最終レポートの下書き	前回までに書いてきた4回の「練習レポート」をさらに広げ、深めることで、「最終レポート」を書く。そのために、自由読書、自由制作あらまし読みシート、3冊以上の資料収集をする。
第14回	最終レポートの作成	手書き清書した「最終レポート」をもとに、レジュメを作成する。レポートに書いた内容の要点を2分程度話し、交流会を開く。手書き清書レポートをWord入力し、添付してメール送信する。
第15回	振り返り	後期に提出したレポートやワークシート等をもとに、アンケートや振り返ったことを文章にして提出する。

【授業の到達目標】

身近なテーマで、図書館に配架されている本を用いて、簡単な要約型レポートが書ける。
メンバーと協働しながらレポートを書くように働きかけることができ、発表し、聴き合うことができる。

【事前・事後学習】

指定された『日本語検定必勝単語帳』課題を毎日行う。
多読を目的とした「あらまし読み」ワークシートを、冬休みまでに10枚以上行う。
練習レポート、最終レポートは、必ず提出期限までに仕上げ、第14回の「交流会」に参加する。

【成績評価基準】

自分から読書をする姿勢が持てるか。提出物を期限内に提出することができるか。レポート表現のルールに従って、文章を書きながら考えようとしているか。メンバーと協働して、活動を行おうとしているか。
〔評価方法〕（下欄に入力できないのでここに掲載する）
授業中のレポートの提出　　(40%)
ポスター提出･『日本語検定必勝単語帳』からの小テスト　(30%)
最終レポート　　(30%)

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	成績評価基準を参照のこと

【テキスト】

･東京書籍編集部『日本語検定必勝単語帳』（入門編）、東京書籍
･牧恵子『ヒト･テクストとの対話から始めよう―学生のための学び入門―』ナカニシヤ出版（2014.3刊行予定）

【参考図書】

･愛知東邦大学図書館内「あらまし読み」指定書60冊程度

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA2318	アカデミック・ライティング	2年	後期	2単位	選択	中島 弘道

【授業の目的と概要】

基礎的な日本語力を確かめ、レポートを書くための論理的な思考法や表現技法を習得することを目標とする。大きく6段階の流れを学ぶ。第1に、学部学科の内容に即して、資料を選択する。第2に、情報を論理的に整理する方法を習得する。第3に、レジュメを作成する。第4に、レポートを構成に従って書く。第5に、レポートを相互に読み合い、推敲を行う。第6に、レポートの内容を相互に発表する。レポート作成の6段階プロセスを意識しながら、実作していく演習型授業である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	学習の進め方の説明　自己紹介　アカデミックライティングについての講義。
第2回	学部学科の内容に即して、資料を選択する。	「主題の設定」の講義と資料の選択。図書館で実習する。
第3回	情報を論理的に整理する方法を習得する。	「情報の収集と整理」の講義。レポートを書くための適切な資料を収集し整理する。「キーワード抜き出し、キーワードグループ化、ブループの見出し作成、グループの階層分け」の手順を学ぶ。図書館で実習する。
第4回	レジュメを作成する。	「レジュメの作成」の講義。レジュメは各自の主題にそって作成する。レジュメは、「報告の表題、報告要旨、見出し、論点、参考文献等」の項目を確認して作成する。
第5回	レポートを構成に従って書く。(1)	レポートを構成に従って書く。(1)　「レポートの構成」の講義。レポートの構成は「序論」「本論」「結論」の形とする。各論の具体的な事例をもとに講義を進める。講義後、レポートを作成する。
第6回	レポートを構成に従って書く。(2)	レポートを構成に従って書く。(2)
第7回	レポートの中間発表。	レポートの中間発表。レポートを発表し合い、意見交換をしてレポートを修正する。
第8回	レポートを構成に従って書く。(3)	レポートを構成に従って書く。(3)
第9回	レポートを構成に従って書く。(4)	レポートを構成に従って書く。(4)
第10回	レポートを相互に読み合い、推敲を行う。(1)	レポートを相互に読み合い、推敲を行う。(1)（推敲の観点：論文の基本構造が適切か。主題の設定が適切か。）
第11回	レポートを相互に読み合い、推敲を行う。(2)	レポートを相互に読み合い、推敲を行う。(2)（推敲の観点：仮説の立て方が適切か。論文構成の組み立てが適切か。）
第12回	レポートを相互に読み合い、推敲を行う。(3)	レポートを相互に読み合い、推敲を行う。(3)（推敲の観点：文献調査の仕方が適切か。引用の仕方が適切か。）
第13回	レポートの内容を相互に発表する。(1)	レポートの内容を相互に発表する。(1)　レポート評価表を作成し提出する。
第14回	レポートの内容を相互に発表する。(2)	レポートの内容を相互に発表する。(2)　レポート評価表を作成し提出する。
第15回	授業の振り返り　自己評価	授業の振り返りを行う。授業における自己評価を行う。

【授業の到達目標】

レポートを書くための適切な資料が選べる。
情報を論理的に整理できる。
論理的な構成でレジュメが作成できる。
構成に従ってレポートが書ける。
レポートの内容を分かりやすく発表できる。

【事前・事後学習】

各回の授業後に課題を指示するので、準備すること。

【成績評価基準】

レポートを書くための適切な資料が選べたか。
情報を論理的に整理できたか。
論理的な構成でレジュメが作成できたか。
構成に従ってレポートが書けたか。
レポートの内容を分かりやすく発表できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	30	30（発表内容）	0

【テキスト】

・演習中に適宜資料を提示する。

【参考図書】

・必要に応じて提示する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA2319	コミュニケーション技能	2･3年	前期	2単位	選択	堀内 裕一朗

【授業の目的と概要】

自己分析、対人関係とのコミュニケーション、集団への適応といった対人関係能力を高めるために、演習形式を行う。授業は心理学にもとづき、表現力、傾聴能力、伝達能力、情熱力、表現力などさまざまなワークを取り入れながら、他者と円滑なコミュニケーションを行うために必要な能力を学び、演習を通じて深めていく。また、コミュニケーション論の概念、理論を理解し、人間関係や社会の場で効果的、かつ適切にコミュニケーション行動が展開できるような学びとする。

コミュニケーション能力を身に付ける事により、就活、恋愛、夢、目標などは、間違いなく手に入れる事ができる。コンサルタンとしてあらゆるケーススタディからお伝えします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	講義のガイダンス、なぜ対人コミュニケーションが求められる時代なのか	就職試験で求められる能力の１位はコミュニケーション能力。なぜ、今、求められているか学ぶ
第2回	コミュニケーションの基本的な考え方【伝える･伝わる･理解する】	言葉を使うバーバルコミュニケーションを方法を知る
第3回	ノンバーバル･ コミュニケーション、感情表現に関連する非言語的行動の解釈、グループワーク	言葉を使わないコミュニケーションの難しさをグループワークで学ぶ
第4回	言葉とコミュニケーション、言語的コミュニケーションの利点と限界、グループワーク	言葉とは何か、言語と非言語に分けられ、ともに恣意性、曖昧性、それに抽象性という特徴を理解する
第5回	魂を揺さぶるスピーチテクニック、グループワーク【スピーチ力】	スピーチで聞き手の魂を揺さぶるテクニックを学ぶ
第6回	人を動かすコミュニケーション【説得力･情熱力･表現力】	命令でなく、自主的に動いてもらえるコミュニケーションを理解する
第7回	スピーチコンテスト【バーバル･ノンバーバル･コミュニケーション】	今まで学んだ理論とテクニックを使い、スピーチコンテストを行う
第8回	人を傷つける話し方、喜ばれる話し方、グループワーク【チームワーク･コミュニケーション力】	会話と雑談の違いを理解し、不愉快な思いをさせない話し方を学ぶ
第9回	相手の心をつかむコミュニケーション【雑談力】	雑談力の方法と雑談力から相手の心を掴む方法を学ぶ
第10回	相手の話を聴くカウンセリング能力【質問力･ 傾聴能力】	カウンセラーが使っている傾聴能力と、コンサルタントが使っている質問力を学ぶ
第11回	魅力的に伝えるプレゼンテーション能力　前半【スピーチ力･思考力･表現力】	プレゼンテーションで大切な第一印象の理解と実践
第12回	魅力的に伝えるプレゼンテーション能力　後半【魅力･説得力･情熱力】	プレゼンテーションの絶対条件である内面的は力を実践
第13回	プレゼンテーションコンテスト	学んだ事を理解できているかプレゼンテーションコンテストを行う
第14回	メンタルヘルスのためのコミュニケーション【傾聴能力】	悩んでいる人の話を聞くためのテクニックを知る
第15回	コミュニケーション･マジック【スピーチ力･段取り力･状況把握力･リスク管理能力】	マジックで必要なコミュニケーション能力を論理的に理解できる

【授業の到達目標】

1．コミュニケーション論の概念、理論を理解する。
2．コミュニケーション論の概念、理論をもとに実践方法を理解する。
3．実習を通してコミュニケーションの概念、理論をフィードバックできる。
4．対人関係において自己コミュニケーションについて考える事ができる。
5．相手に自分の考えを「伝えて･伝わり･理解する」事ができる。
6．ビジネスで必要な１０分プレゼンテーションが出来る。
7．ビジネスで必要な人の心を動かす１分スピーチができる。

【事前･事後学習】

事前学習は教科書と配布テキストを読んできてもらいます。事後学習では、授業後に課題をだし、レポート作成。

【成績評価基準】

コミュニケーションで大切な事は何か、学んだ事を使いながら、自分なりに客観的に説明する事ができるか。また、自分軸だけでなく、相手軸でも考える事ができ、相手の状況を分析する事ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	課題レポート２０％	グループワークと全体討論３０％	コンテスト【試験】５０％	0

【テキスト】

･宮原哲 「新版　入門コミュニケーション論」 松柏社　2007

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA2320	プレゼンテーション技術	2･3年	後期	2単位	選択	相田 一成

【授業の目的と概要】

【個人発表･ グループワークが中心です】 プレゼンテーション技術は「ただ伝えるだけ」の技術ではありません。相手に理解してもらうこと、そして行動してもらうことが重要です。授業の目標は、学生がゼミでの発表やミーティングの場、クラブやサークルなどの課外で、そして就職活動での面接の場で自分をＰＲする時に、相手に納得してもらう技術を身につけること。そして、相手に行動を起こしてもらうために必要な知識やスキルの習得を目指します。パワーポイントのスライドの作成スキルなどを学ぶだけでなく、グループワークや発表の場を盛り込み、学生同士のコミュニケーションを重視したロールプレイングによる演習方式の授業を展開していきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業の説明	授業のルールと評価について説明
第2回	日本語検定4級にチャレンジ	自分の日本語力がどれくらいのレベルなのか確認します
第3回	事実をわかりやすく表現する	抽象度の高い言葉を使わずに表現できるかを実践します
第4回	自分史を作成	今までの自分を振り返り自分史にまとめます
第5回	自分史から二つの強み①②を見つける	前回の授業でまとめた自分史から強み①②を見つけていきます
第6回	個人発表、【自分プレゼン】自分史をパワーポイントで概要を作成	自分自身をプレゼンするためのパワーポイントを作成します概要を作成します
第7回	個人発表、【自分プレゼン】自分史をパワーポイントでＰＲポイント①を作成	5回目の授業で見つけた強み①をパワーポイントで作成します。
第8回	個人発表、【自分プレゼン】自分史をパワーポイントでＰＲポイント②を作成	5回目の授業で見つけた強み②をパワーポイントで作成します。
第9回	個人発表、【自分プレゼン】自分史をパワーポイントで作成（発表レベルへの仕上げ）	プレゼンするためのパワーポイントを発表レベルに仕上げます。
第10回	個人発表、【自分プレゼン】パワーポイントを使っての発表（第1グループ）	パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います(1グループ)
第11回	個人発表、【自分プレゼン】パワーポイントを使っての発表（第2グループ）	パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います(2グループ)
第12回	個人発表、【自分プレゼン】パワーポイントを使っての発表（第3グループ）	パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います(3グループ)
第13回	個人発表、【自分プレゼン】パワーポイントを使っての発表（第4グループ）	パワーポイントファイルで一人ひとりプレゼンテーションを行います(4グループ)
第14回	グループディスカッションでのプレゼン①	グループディスカッションの演習①
第15回	グループディスカッションでのプレゼン②	グループディスカッションの演習②

【授業の到達目標】

就職活動においてESで、面接で自分をプレゼンテーションできるレベルにしていきます。

【事前･事後学習】

パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行います。パワーポイントの知識･スキルの事前学習。プレゼンテーションの前の準備･シミュレーションをしてください。

【成績評価基準】

これから迎える就職活動において自分自身をES、面接でプレゼンテーションできるレベルかどうかを声の大きさ、表情、態度、パワーポイントの内容で判断をします。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	0%	80%	20%	0%

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1330	入門コンピュータ	1年	前期	2単位	必修	髙木 靖彦他

【授業の目的と概要】

現代社会では、コンピュータを使った情報の読書きが必須の技能として求められる。大学においても同様で、学習に必須の技能である。入学後最初の半年間で、これら大学の学習に必要なコンピュータを使った情報の読書き術（コンピュータリテラシー）を習得するのが、この科目の目的である。大学での学習を円滑に進めるために、この科目の内容を十分に理解しておく必要がある。ただし、コンピュータの取り扱い講習会やHOW-TO講座ではない。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	起動と終了、Windows入門	電源の入れ方、ログオンの仕方、マウスの操作、アプリケーションソフトウェアの起動、ウィンドウの操作、電源の切り方を学習し、学修情報ポータル (TOPOS) を使ってみる。
第2回	キーボードの使い方、タイピング練習	実際に文字を入力してみることで、キーボードの使い方を学習する。タイピングの練習をする。
第3回	英文入力	タイピング練習の後、英文文書を入力し、それをファイルへ保存する。その後さらに、保存したファイルを開く。
第4回	日本語入力	タイピング練習の後、前回入力した英文を印刷する。半角文字と全角文字の違いを理解した上で、日本語入力を学習する。
第5回	クラウドストレージの利用と動画編集	クラウドストレージの仕組みを学習し、自分のスマートフォンから動画をストレージに保存する。そして、その動画を教室コンピュータに転送し、さらに動画の編集を行う。
第6回	文書作成の基礎（1）ワープロでの入力	前回まで使っていたテキストエディタとは異なり、ワープロ・ソフトウェアを使って日本語文書を入力する。
第7回	文書作成の基礎（2）文字や段落の設定	前回ワープロで入力した文章の段落書式の指定、フォント・サイズの指定、ページ設定を行い印刷する。その後、レポート用ひな形を使ってレポートを作成する。その作成したレポートの文字列の検索と置換を行う。
第8回	電子メールの基礎（1）簡単な送受信	考えてきたパスワードに変更する。インターネットとドメイン名、電子メールアドレスを理解し、メールを自分自身と隣の人に出してみる。また、隣の人に返事を出す。アドレスを間違った場合を経験する。メールでレポートを送る。
第9回	電子メールの基礎（2）メーリングリスト・添付書類	少し進んだメールの使う方として、メーリングリストを使う。メールの整理を行う。添付書類を送る。添付書類を受取る。
第10回	すこし高度な文書作成（1）箇条書きの作成	少し高度なワープロの使い方として、改ページ、ページ番号付け、インデントの設定、文字数のカウントを行う。
第11回	すこし高度な文書作成（2）表の作成	少し高度なワープロの使い方として、タブを用いた表を作る。次いで、罫線を用いた表を作る。
第12回	すこし高度な文書作成（3）プレゼンテーション資料の作成	ワープロソフトウェアで画像を入れたプレゼンテーション資料を作成する。それをPDFへの変換し、PDFを用いたプレゼンテーション方法を学習する。
第13回	WWWによる情報検索	インターネットを通した情報検索、WWW の仕組みとハイパーテキストを学習し、実際に WWW ブラウザを用いて、リンクを辿った検索、URL を指定した検索、ページや文書の保存、画像を保存を実習する。また、検索エンジンを使った検索を行う。
第14回	表計算の基礎	表計算ソフトウェアの基本を理解し、各セルに必要なデータを入力し、それらを用いてグラフを作成する。
第15回	ファイルの整理とまとめ	ファイルの削除方法、ファイル名の変更方法を学習し、ファイル整理の実習をする。また、実際に自分がこの科目で作成したファイルを整理する。

【授業の到達目標】

操作の目的・意味を理解して、コンピュータを使った情報の読み書き・情報の表現・情報の加工（特にワープロによる文書作成、メールの送受信）ができる。
必要な操作手順は、自分で調べられる。

【事前・事後学習】

講義前に教科書の該当する部分を読んで、その回の内容を確かめておく。特に提出すべき課題を確認しておく。講義後には、その回に提出した課題が教科書で指示された書式（フォント、行ぞろえ等）や条件を満たしているか見直す。見直して誤りが見つかった場合は、訂正をして次の週の開始時間までに提出する。また、なんらかの事由により講義時間内に完成した物を提出できなかった課題は次の週の開始時間までに必ず完成して提出する。

【成績評価基準】

ワープロ文書などの作成をフォント・行揃えなど指示された形式・条件を満たした形で行ない、かつ、メール添付など指定された方法で提出することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
10	0	0	0	90（各回の提出課題）

【テキスト】

・高木靖彦・正岡元・成田良一、『入門コンピュータ (2016年度版)』、三恵社

【参考図書】

・特になし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1331	基 礎 コ ン ピ ュ ー タ	1年	後期	2単位	選択 選択必修	正岡 元

【授業の目的と概要】

「入門コンピュータ」の履修を前提に、現代社会での必須の技能となっているコンピュータを使った情報の読書きの術を習得していくことがこの科目の目的である。特に、図形の描画、表計算ソフトウェアを用いた数値整理・グラフ作成、プレゼンテーションソフトウェアを用いた資料作成の基礎を学習し、それをマスターすることが目標である。これらの技能は、後の大学での学習を円滑に進めるためにも必要である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	タイピングと日本語入力(1)	電源の入れ方・切り方を復習した後，この科目用フォルダを作成する。その後，タイピング練習をし，ワープロで日本語を作成・印刷する
第2回	タイピングと日本語入力(2)	タイピング練習の後、ワープロでの日本語を続ける。作成したワープロ文書はメールで提出する。
第3回	表計算の基礎(1)	セルへの入力，数式・関数の入力，セルの移動・複写，オートフィル，セル表示の変更，ワークシートの印刷，列の幅・行の高さ
第4回	表計算の基礎(2)	統計計算，セルの結合，絶対参照を用いた計算
第5回	図の作成(ペイント)	グラフィックスの2種類の形式を学習し、そのうちのペイント図形を描く。その後、描いた図形をワープロ文書へ読込む
第6回	図の作成(ドロー)	コンピュータグラフィックスのもう一つの形式であるドロー図形を作成する
第7回	プレゼンテーションソフトウェアを使う(1)	動画を挿入したプレゼンテーションファイルを作り、それのスライドショーを実行実行する。さらに、スライドに工夫を加える
第8回	プレゼンテーションソフトウェアを使う(2)	クラウドストレージを介してスマートフォン等で撮影した動画を転送する。その動画の編集を行い、動画を入れたプレゼンテーション資料を作る
第9回	グラフの作成(1)	折れ線グラフ2つの作成を実習する。その中で、グラフタイトルおよび軸ラベルの作成、第2軸の作成、行と列の入れ替え等を学習する。
第10回	グラフの作成(2)	折れ線以外のグラフ形式として、棒グラフおよび円グラフの作成を実習する。
第11回	データ分析の基礎(1)	スポーツデータ、健康・体力データを使って、初歩的なデータ分析の学習を行う。
第12回	データ分析の基礎(2)	スポーツデータ、健康・体力データを使って、初歩的なデータ分析の学習を行う。
第13回	データ分析結果を入れた文書の作成	データ分析により得られた各種数値、および、それらの数値を用いて作成されたグラフを入れた文書をワープロで作成する。
第14回	データ分析結果を入れたプレゼン資料の作成	データ分析により得られた各種数値、および、それらの数値を用いて作成されたグラフを入れた資料をプレゼンテーションソフトウェアで作成する。
第15回	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表とまとめ	プレゼンテーションソフトウェアを使った発表を行い、スライドショーの実行方法を習得する。今まで作成したファイルを提出する。

【授業の到達目標】

操作の目的・意味を理解して、コンピュータを使った情報の読み書き・情報の表現・情報の加工（特に、図形描画、表計算）ができる。必要な操作手順は、自分で調べられる。

【事前・事後学習】

講義前に教科書の該当する部分を読んで、その回の内容を確かめておく。特に提出すべき課題を確認しておく。講義後には、その回に提出した課題が教科書で指示された書式（フォント、行ぞろえ等）や条件を満たしているか見直す。見直して誤りが見つかった場合は、訂正をして次の週の開始時間までに提出する。また、なんらかの事由により講義時間内に完成した物を提出できなかった課題は次の週の開始時間までに必ず完成して提出する。

【成績評価基準】

ワープロ文章の作成、図形の作成、スプレッドシートの作成、グラフの作成、プレゼンテーションファイルの作成を、フォント・行揃えなど指示された形式・条件を満たして行ない提出することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
10	0	0	0	90（各回の提出課題）

【テキスト】

・高木靖彦・正岡元・成田良一、『中級コンピュータ (2016年度版)』、三恵社

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2323	Webページ作成演習	2・3年	後期	2単位	選択 選択必修	髙木 靖彦

【授業の目的と概要】

情報発信の手段として現代社会で最も重要なものの一つとなっているWebの基礎を理解するとともに、基本的な作成方法を習得していくことがこの科目の目的である。「入門コンピュータ」および「基礎コンピュータ」を履修したことを前提とした40人程度の演習形式により、テキストエディタを用いたHTML文書の作成、サーバーへのファイル転送等を学習していく。合わせて、画像描画、階層的ファイル整理などの基本的技能の再確認を行う。成績評価は、毎回の小課題および期末の課題（自己紹介などのページ作成）により行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	WWWの仕組み、Web ブラウザの使い方	サンプルwebページのソース（HTML書式）を眺める、HTML入力に多用される特殊記号の入力練習をテキストエディタを用いて行う。
第2回	HTML超入門	バイナリ･ファイルとテキスト･ファイルの違いを理解する、テキスト･ファイルを入力するツールであるエディタになれる、HTMLの基本がタグであることを学修し、簡単なHTMLファイルを入力する。それをブラウザで眺める。
第3回	画像を入れる	画像を入れたHTMLファイルを作成し、ブラウザで眺めてみる。
第4回	簡単なHTMLの作成	基本的なタグを学修し、リストを使ったページを作る。
第5回	簡単なHTMLの作成 (2)	ハイパーテキストとリンクを学修し、リンクボタンを含むページを作成する
第6回	画像の作成	画像作成ソフトウェアを用いて背景画像およびロゴ画像を作る。画像のサイズ･色調等の調整を行う。
第7回	画像の扱い	背景画像を入れる。画像の色調等の調整を行う。
第8回	少し高度なHTMLの作成 (1) 表の作成	背景色を付ける。HTMLで表を作る。
第9回	少し高度なHTMLの作成 (2) ディレクトリ構造化	複数のHTMLファイルに分かれたページを作成する。サブディレクトリにあるファイルへのリンクを作る。
第10回	WWWサーバーとファイル転送	ファイル転送ソフトウェアを用いて、webサーバへファイルを送る。URLとサーバー上のディレクトリの関係を学修する。
第11回	CSS を使う	カスケーディング･スタイル･シートを用いてwebの見え方を変える。
第12回	Webオーサリングツール	Webオーサリングツールを使ってHTMLファイルを作る。
第13回	テーマのページ（最終課題）の作成	提出済みファイルをサーバーから削除、最終課題を作成する。
第14回	テーマのページ（最終課題）の作成 (2)	最終課題を作成する。
第15回	テーマのページ（最終課題）の作成とまとめ	最終課題を作成する。

【授業の到達目標】

HTMLの文法の基礎を理解し、テキストエディタを用いて、階層的ディレクトリ構造を使い画像･ リンクボタンを入れたWebページを作れるようになる。その中で、WWW の標準に則った「人に優しい」Webページを作る技術を身につける。

【事前･事後学習】

その回の提出した課題が条件を満たしていたかを再度確認する。満たしていないことを見つけた場合は、次回の講義までに修正して提出する。

【成績評価基準】

講義で学修したタグを用いて、HTMLが作成できているか。文法的に誤っているものは減点する。また、最終課題に関しては、指示された条件を満たして作成しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	0	50（各回の提出課題）

【テキスト】

･資料を配布する。配布された資料は翌週以降必ず持参すること。

【参考図書】

･ローラ･リメイ（武者他訳）『HTML入門 - WWW ページの作成と公開 -』プレンティスホール
･E. A. Mayer『CSS完全ガイド』オライリー･ジャパン

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1333	コ ン ピ ュ ー タ 概 論	1･2年	後期	2単位	選択	正岡 元

【授業の目的と概要】

この講義では情報科学を専門としない学生に対して、日常生活や業務で接する（パソコン以外の）コンピュータとどのように向き合っていくのか学修する。

講義ではまずコンピュータの基本を扱い、コンピュータがどういう機械であるのかという基本的概念の形成を目指す。情報の概念やデジタルとアナログの違いなど、コンピュータが世の中を理解する仕組みと動作原理を解説する。さらに、すでにインフラとも言えるほど生活に密接に関わるインターネットをはじめとする情報通信技術について解説する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	身の回りのコンピュータ	コンピュータとはなにか，パソコン以外のコンピュータも含めて具体的な例を用いて解説する
第2回	コンピュータの歴史（コンピュータの起源）	この講義におけるコンピュータの定義をし，現代のコンピュータから世界初のコンピュータへ歴史をさかのぼる
第3回	コンピュータの歴史（ものを数える道具から計算機へ）	人類がものを数え始めてから，計算する道具が発展していく歴史を追う
第4回	コンピュータの歴史（計算機からコンピュータへ）	数を計算する計算機がどのように「コンピュータ」へと進化してきたか追う
第5回	情報理論	計算を高速にできるだけの電子計算機を，様々なことができるコンピュータへ進化させた情報理論について述べる
第6回	ブール代数	ビットで表現した情報を「計算機」で扱うための数学分野「ブール代数」について述べる
第7回	論理回路	ブール代数に基づく計算を行う電子回路である「論理回路」について述べる
第8回	プログラムとアルゴリズム	プログラムの中でも重要な位置を占めるアルゴリズムについて述べる
第9回	オペレーティングシステム	アプリケーションソフトウェアに対して様々な機能を提供するオペレーティングシステムの概要について述べる
第10回	情報通信ネットワークの歴史（情報と通信のはじまり）	人類の起源から順に，古代の情報ネットワークの発生をたどる
第11回	情報通信ネットワークの歴史（コンピュータネットワーク）	コンピュータ同士を接続するネットワークの概念について述べる
第12回	インターネットのしくみ	現在世界最大規模のコンピュータネットワークであるインターネットの概念について述べる
第13回	電脳社会の落とし穴	インターネットが一般に普及するにしたがって増えてきた様々な脅威について述べる
第14回	ネットワークリテラシー	コンピュータネットワークをどのように利用していけばよいか考える
第15回	身近な最新技術	情報通信技術に関連する様々な最新技術を紹介する

【授業の到達目標】

コンピュータやインターネットの基本的な仕組みを理解し、コンピュータを構成する要素や通信の仕組みについて説明することができる。また、コンピュータやインターネットの問題点についても理解し、どのような脅威があるのか，どうすれば安全に使えるか意見を述べられる。

【事前･事後学習】

講義の中で随時理解度確認のための小テストを行う。
その内容について事後学習を行い，理解を深めておくこと。
また，次回の講義のテーマについて教科書および事前配布資料を読み、内容の理解と，疑問点の整理を行っておくこと。疑問点について，次回の講義の中で質問を受け付ける。

【成績評価基準】

計算機科学における理論体系を理解し、その概要を説明できるか。
簡単な論理回路やブール代数の計算ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	0	0	40%(講義中に課す課題)

【テキスト】

･坂村健，痛快！コンピュータ学，集英社文庫

【参考図書】

･大駒誠一，コンピュータ開発史―歴史の誤りをただす「最初の計算機」をたずねる旅，共立出版
･トム･スタンデージ，ヴィクトリア朝時代のインターネット，NTT出版
･浜辺 隆二，論理回路入門(第3版)，森北出版
･秋田 純一，ゼロから学ぶディジタル論理回路，講談社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2325	OSとプログラミング	2・3年	前期	2単位	選択	正岡 元

【授業の目的と概要】

この科目では、メールサーバやWWWサーバで使われているUnix系OS（リナックス）を用いて、ファイルシステムやプロセス管理などのOSの基本的な原理や、ファイルの操作やエディタの使い方などの基本的な操作を学習するとともに、コンピュータプログラムの作成を通して、コンピュータおよびOSの動作原理の理解を目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	オペレーティングシステムの基礎，Linuxの使い方，端末エミュレータとコマンドラインの概要を理解する
第2回	オペレーティングシステム入門（1）	OSの様々な役割（プロセス管理、メモリ管理等）を紹介し，コマンドを入力しながらそれらの機能を体感する
第3回	オペレーティングシステム入門（2）	OSの様々な役割（デバイスドライバ、ユーザインタフェース等）を紹介し，コマンドを入力しながらそれらの機能を体感する
第4回	ファイルシステムのはたらき〜ファイルとディレクトリの概念〜	OSの役割の一つであるフィルシステムについて学び，コマンドでファイルを操作する
第5回	プログラミング入門	簡単なプログラムを実際に書き，プログラムの書き方の作法や実行のしかたを学ぶ
第6回	変数と制御構造(1)	変数の概念と使い方および制御構造の基本を理解する
第7回	変数と制御構造(2)	様々な制御構造の使い方を学ぶ
第8回	アルゴリズムとデータ構造	問題を解決するための手順を論理的に組み立てる方法を学ぶ
第9回	値の型変換	データ型の概念と型の返還について学ぶ
第10回	正規表現	文字列処理の基礎である正規表現を学ぶ
第11回	配列(1)	配列の概念について理解する
第12回	配列(2)	配列のさまざまな使い方を理解する
第13回	ファイル入出力(1)	データをファイルから入力する方法を理解する
第14回	ファイル入出力(2)	結果をファイルに出力する方法を理解する
第15回	まとめ	これまで学んだ知識を用いてプログラムを作成する

【授業の到達目標】

簡単なプログラムを書いて実行できるようになる。プログラミングの考え方を理解し、処理の手順を論理的に考えられるようになる。

【事前・事後学習】

各回で扱ったLinuxの操作やプログラミングの概念については何度も練習し，十分理解を進めておくこと。
随時事前事後学習のためのサンプルを提示する。

【成績評価基準】

OSの基礎的な概念を理解し，OSの役割，機能を説明できる。
簡単なLinuxの操作を身に着け，実際に基本的な操作ができる。
論理的な思考を身に着け，問題の解決手法を考え，それを細かい手順に分解し，フローチャートを作成できる。
プログラムの基礎的な概念を理解し，フローチャートをもとに簡単なプログラムを作成することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	0	50%（毎回の課題）

【テキスト】

·大角 祐介、新しいLinuxの教科書、SBクリエイティブ
·広瀬雄二，Ruby プログラミング基礎講座，技術評論社

【参考図書】

·高橋 征義，たのしいRuby 第3版，ソフトバンククリエイティブ
· ジュニア,ヘンリー· S. ウォーレン, Jr.,Henry S. Warren, 滝沢 徹，ハッカーのたのしみ―本物のプログラマはいかにして問題を解くか，エスアイビーアクセス
·Richard bird, 山下 伸夫，関数プログラミング 珠玉のアルゴリズムデザイン，オーム社
· トップスタジオ , まつもと ゆきひろ , 平林 俊一，Code Reading―オープンソースから学ぶソフトウェア開発技法，毎日コミュニケーションズ

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA1401	ラ イ フ デ ザ イ ン Ⅰ	1年	前期	2単位	選択	手嶋 慎介

【授業の目的と概要】

自分の生涯にわたるキャリアをライフキャリアという。ライフキャリアについて自分が納得感を持ち、自分の個性を認識しデザイン（設計）することがライフデザインである。この授業では、個人と社会との関わり、働くことの意味を考え、自分のことや世の中の仕事をよく知り、自分の将来を主体的に探り、表現していこうとする態度を養う。特に、自己管理を意識し、自己決定を積み重ねながら行動できるようにすることを目的とする。授業は座学以外に、グループでの話し合いや発表等の活動（アクティブラーニング）も積極的に取り入れていく。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション　ライフデザインとは何か	授業内容の確認と、「ライフデザイン」「キャリア」について概要を学ぶ。(提出課題)「生活リズム調査」
第2回	自分を知る･伝えるということ	ワークを通して、自分はどんな人間かを把握し、学生時代にやってみたいことについて考える。
第3回	目標設定とその重要性１	目標設定の重要性について理解し、他者との話し合いを行い、自分の目標について具体的に考える。(提出課題)「到達目標と行動プラン」
第4回	いま、自分のできることは何か	自分のこれまでを振り返り、経験や身についた力、得意なことなどを具体的に書き出してみる。
第5回	「私を知る」まとめ	長所と短所の自己分析を行う。第2～4回を通して、自己理解できた内容を確認する。
第6回	ライフキャリアとライフロール	ライフイベント（将来起こり得る可能性のある事）について理解する。人生における役割（ライフロール）を理解し、現在と将来のライフロールについて書き出してみる。
第7回	家族･地域と共に生きる	地域社会の現状を理解する。自分の暮らしている（暮らしたい）地域について特徴を調べる。自分が地域に対し、何ができるか考える。(提出課題)「私が暮らす街」
第8回	多様な働き方とワークライフ･バランス	日本における労働に関するデータを調べ、国内の労働環境を理解する。
第9回	中間発表会	地域社会の現状、自分の住んでいる地域について調べたことを発表する。
第10回	世の中の仕事１	コンビニ弁当から世の中の仕事と関わりについて考える。集団における自分の役割について考える。
第11回	世の中の仕事２／ライフマネー	働く人の日常に関するレポートを読み、自身の働き方について考えて見る。お金の使い方を考える。具体的には現在の収支について書き出し、収支バランスが適性かどうか考える。(提出課題)「働く人のレポートを読んで」
第12回	充実感と生きがい	人生において大切にしたいこと（モットー、座右の銘）を考える。自分が大切にしたい生き方、働き方について「15の価値観」から優先順位をつけ、グループで話し合う。
第13回	目標設定とその重要性２	社会で求められる人材について学ぶ。そのことを踏まえ、第3回に立てた「到達目標と行動プラン」の見直しを行う。
第14回	キャリア･アンカーについて考える	キャリア･アンカーについて学び、自己のキャリア･アンカーから自分の価値観、自分の生き方に関する自己紹介文を作成する。(提出課題)「自己紹介文」
第15回	自己紹介文の発表とミニレポートの作成	前回作成した「自己紹介文」を少人数グループで発表する。これまでの授業を振り返り、これからの目標を考え、ミニレポートを作成する。(ミニレポート)「2016年7月現在の私」

【授業の到達目標】

自己の特技や能力、長所／短所を明らかにすることができる
将来の目標と現状のギャップを具体的に把握することができる
自己の将来について考え、目標到達に向けて具体的な計画を立てることができる

【事前･事後学習】

事後）授業で扱った「社会人力」「就業力」について自分の将来を考え、伸ばしたいと思う力についてどのようにすれば伸ばすことができるか具体的な行動レベルで考え、行動してください。

【成績評価基準】

毎回のポートフォリオの書き込みから、授業に対して能動的に取り組んでいるか
指定された提出物から、自己理解･自らの将来を切り拓く力が備わっていることが覗えるか
ミニレポートを通して、自己理解と将来に向けての目標設定ができているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50 （ポートフォリオへの書き込み状況、授業への取り組み状況）	0	50 （40 授業内で指定した提出物･5回、 10 第15回に作成するミニレポート）

【テキスト】

･資料等を授業内で配付

【参考図書】

･授業の中で紹介していく

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2402	ライフデザインⅡ	2年	後期	2単位	選択	手嶋 慎介

【授業の目的と概要】

自分の生涯にわたるキャリアをライフキャリアという。ライフキャリアについて自分が納得感を持ち、自分の個性を認識しデザイン（設計）することがライフデザインである。この授業では、「自己理解」「社会で求められる人材」について学ぶ。併せて筋道を立てて物事を考えること（論理的思考法）を通して「物事について自分なりに考え、組み立てる力」「コミュニケーション能力」を身につけることを目的とする。授業は座学以外に、グループでの話し合いや発表等の活動（アクティブラーニング）も積極的に取り入れていく。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の確認と、ライフデザインを俯瞰的に捉えるため「必要な視点」「外的キャリアと内的キャリア」等について学ぶ。（提出課題）「後期の行動目標」
第2回	世の中で求められる人材とは	「世の中で求められる人材」について学び、自身の「社会人力」を確認する。その後、学生ポートフォリオの「マイプラン」の入力と「社会人力」チェックを行う。
第3回	ロールモデル（憧れ、手本となる人物）を探してみよう	「ロールモデル」について学び、自身のロールモデルを探し、その人物について調べ、まとめる。ロールモデルを考えることで、自分がどの様に生きていきたいかを考える。(提出課題)「私のロールモデル」
第4回	ロールモデルを発表する	第3回で調べた「ロールモデル」について、少人数グループで発表を行い、お互いの人生観を共有する。
第5回	自分にとって大切な価値観とは何か？	自分の価値観（14の労働価値）に優先順位をつける。また、これまでの人生を振り返り、「人生の棚卸」を行うことで、自分の人生がどのように築かれてきたかを明らかにし、今後について考える。
第6回	「私の強み」を見つけよう	自身の「強み」「弱み」について考え、「キャリア･アンカー」を確認する。学生ポートフォリオ「マイプラン」へ入力を行う。(提出課題）キャリア･アンカーと「マイプラン」見直し結果
第7回	ディスカッションの方法を学ぶ	与えられたテーマをグループで話し合い、結論を出す。話し合いにおける役割、論理的に話し合う手法について学ぶ。
第8回	地域に目を向けてみよう	地域が抱える社会課題（イシュー）について考える。「人口減少」「高齢化」「結婚･出産」「育児」に着目し、課題について自分なりの主張を考える。主張は「三角ロジック」手法を用い、論理的かどうか確認しながら主張を考える。
第9回	チームで活動する１（グループワーク）	ある課題に関し、グループで多数決ではなく、コンセンサス(合意、意見の一致)を取り、解答を導き出す。グループ活動を通して、他人と論理的かつ、他人を思いやる話し合う方法を学ぶ。
第10回	チームで活動する２（グループワーク）	第9回グループワークの続き。グループの出した解答を分析し、グループごとに検証を行う。検証結果から話し合いを振り返り、効果的な話し合いに必要な事は何かを学ぶ。(提出課題)「グループワークの振り返り」
第11回	企画書を書いてみよう１（調べる･集める）	企画書とはどのようなものか。事例を元に学ぶ。次週、与えられたテーマについて企画書を作成するための下調べを各自で行う。
第12回	企画書を書いてみよう２（まとめる）	第11回の続き。企画書の作成と発表の準備を行う。(提出課題)「企画書」
第13回	企画書を発表しよう	第12回で作成した企画書を少人数グループで発表する。グループで一番良かった企画書を元に、話し合いを行い、更に良い企画書にブラッシュアップさせる。
第14回	自己理解と目標設定	Big Five尺度(5因子)を用いて、自分の性格の傾向を把握し、自分の価値観をチェックリストを用いて確認する。学生ポートフォリオ「マイプラン」の見直しを行う。
第15回	ミニレポートの作成	まとめとして、授業で確認した自分自身、身に付けたい力を元に卒業までに自分のすべきことをミニレポートにまとめる。(ミニレポート)「卒業までに私のすべきこと」

【授業の到達目標】

自分の価値観や強みを明らかにすることができる。
「世の中で求められる人材」を理解し、自身の状況を把握した上で、今後、身に付けたい力を明確にすることができる。
物事を筋道立てて考え、表現することができる。

【事前・事後学習】

事後）授業で扱った「社会人力」「就業力」について自分の将来を考え、伸ばしたいと思う力についてどのようにすれば伸ばすことができるか具体的な行動レベルで考え、行動してください。

【成績評価基準】

毎回のポートフォリオの書き込みから、授業に対して能動的に取り組んでいるか
指定された提出物から、自己理解･自らの将来を切り拓く力が備わっていることが覗えるか
ミニレポートを通して、自己理解と将来に向けての目標設定ができているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50 （40 授業内で指定した提出物･5回、 10 第15回に作成するミニレポート）

【テキスト】

･資料等を授業内で配付

【参考図書】

･授業の中で紹介していく

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA3403	企　　業　　研　　究	3年	前期	2単位	選択	阿部 克己

【授業の目的と概要】

授業の形態は講義形式をとり、目標を、就業の場としての多様な企業イメージと、歴史的、制度的な面に触れつつ、職業選択にあたりヒントとなることに置いている。そのため、まず、企業とは何か、いかなる活動を行っているのかという原理を、会社法にも触れながら、とくに株式会社に絞りこみながら考えていく。その上で、企業の理念・ビジョン・経営体質・企業文化等で個別企業を取り上げ、全体として社会における企業の役割を就業の場という視点から考える。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	特定のテキストを使用しないこの講義のねらいと扱う対象について説明する
第2回	ライブドア、村上ファンドが示したこと	ライブドアと村上ファンドが日本の株式市場にもたらした問題を考える
第3回	企業とは何だろう	日本の会社の類型と種類を確かめ、最も多い株式会社に焦点を置くことの意味を考える
第4回	なぜ会社法ができたか	会社法がどのような時代の要請により生まれてきて、会社法として生成したかを考える
第5回	会社法の新しさはどこにあるか	2000年代中頃に会社法としてまとめられた際の新しさはどこにあるかを考える
第6回	株式会社はいつごろから始まったか	株式会社はいつ、どのような形で始まったのかを考える
第7回	株式会社が盛んになったのはなぜか	株式会社が盛んになるには、どのような歴史的条件が加わったからなのかを考える
第8回	株式会社は誰のものか	会社は株主のものかどうかを考える
第9回	企業研究(1)　製造業	事例として考えやすい中小企業を対象にする。その第1回
第10回	企業研究(2)　建設業	事例の第2回
第11回	企業研究(3)　流通関連業	事例の第3回
第12回	企業研究(4)　サービス業	事例の第4回
第13回	企業研究(5)　小括	4社の事例研究から見えてくるものは何か
第14回	就業の場として企業をみてみる	元気な企業はどのような特色ある経営を実行している企業かを検討する
第15回	講義のまとめ	この講義全体を振り返り、ポイントを再確認する

【授業の到達目標】

企業のイメージを広げ、具体的に考えることをめざす。

【事前・事後学習】

話しを積み上げて行くので、復習に努めること。

【成績評価基準】

企業のイメージについて、広がりと今までより具体性を持って考えられるようになったかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

・必要に応じて資料を配る

【参考図書】

・阿部克己編著『中小企業の経営力とは何だ』中部経済新聞社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3404	キャリアデザイン	3年	後期	2単位	選択	相田 一成

【授業の目的と概要】

就職活動に必要な事項をもれなく学生たちに提示することを目的とする。授業の目標は以下のとおり。1．大学から職業社会へのスムーズな移行を図るために必要な知識・スキルについて適切に理解すること、2.「就職活動」とは何をすることなのか、についてグループ検討や事例検討を通じて様々な考え方に触れ、自身の方向性を見出すきっかけを得ること、3．大学生が就職活動で最も難しいと考える「自己分析」「面接実技」を体験学習することにより就職活動に自信をもつこと。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業に関するオリエンテーション
第2回	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインに関する概要
第3回	キャリアデザインと就職活動	キャリアデザインと就職活動とは何か
第4回	職業とキャリア	「学生」と「社会人」の相違を考える
第5回	社会の変化と就業	企業間の繋がりと業界の捉え方など、社会の変化を前提とした就業について
第6回	就業に必要な力	社会で必要とされる「力」を知り、どのように伸ばしていくか
第7回	中間のまとめ	ここまでの授業のまとめを行う
第8回	コミュニケーションの構造１	「伝えるということ」の理解
第9回	コミュニケーションの構造２	文章構造の基本理解
第10回	職業社会が求めるコミュニケーション能力１	文章表現と自己紹介書１
第11回	職業社会が求めるコミュニケーション能力２	文章表現と自己紹介書２
第12回	職業社会における基礎的マナー１	職業社会における立ち居振舞い
第13回	職業社会における基礎的マナー２	職業社会で必要とされる面接実技ワーク
第14回	まとめ１	実践的・体験的な学習（就職合宿など）の成果をまとめる
第15回	まとめ２	授業全体のまとめを行う

【授業の到達目標】

具体的には、次の知識・技能を学ぶことを目的とする。

1．大学から職業社会へのスムーズな移行を図るために必要な知識・スキルについて適切に理解することができる。

2.「就職活動」とは何をするなことなのか、についてグループ検討や事例検討を通じて様々な考え方に触れ、自身の方向性を見出すきっかけを得ることができる。

3．大学生が就職活動で最も難しいと考える「自己分析」・「面接実技」を体験学習することにより就職活動に自信をもつことができる。

【事前・事後学習】

グループによる検討や様々なワークを行うことから、事前の課題（ex,「自己PR文」、「作文」など）は必ず次回の授業までに完成させておくこと。また、課題等は受講生全員に事例として披露する場合があるので丁寧に作成し、指摘を受けた箇所は次回までに必ず修正しておくこと。

【成績評価基準】

指定された提出物に、自己理解・職業理解・自らの将来を切り拓く力が備わっていることが窺えるか。
レポート等を通して、自己理解と将来に向けての目標設定ができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	50	0	10（毎回の課題）

【テキスト】

・資料等を授業内で配付する

【参考図書】

・（財）全国大学実務教育協会編『実践キャリア考―体験からキャリアを考える』実教出版
・愛知東邦大学キャンパスガイド 「就職活動」のページ
・その他、授業の中で紹介していく

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
LA3405	インターンシップ事前事後指導	3年	前期	1単位	選択	手嶋 慎介

【授業の目的と概要】

インターンシップ（就業体験）に必要な基本的な常識とマナーなど、実習先職場を確定するために必要な知識･ 技能を演習形式で習得する。具体的には、実習前にインターンシップの意義と目的･ 内容、ビジネスマナー、実習の際の留意事項などを学び、各自の専攻、将来のキャリアに関連した実習先を決定する。実習後には、実習の体験を各自でまとめ、報告会･ 反省会などの体験交流から学び、自らの今後のキャリアについて自己決定する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション　1	講義の進め方、注意事項などを理解し、履修を確定する
第2回	オリエンテーション　2	インターンシップとは何か、実習のルール、手順、心構えを理解する
第3回	ビジネス文書作成 1	実習申込書への記入の方法を理解し、実際に記入することなど
第4回	企業紹介	企業選定に必要な知識･技能について学ぶ
第5回	ビジネスマナー　1	一般社会で必要とされる基礎的なビジネスマナーについて学ぶ
第6回	ビジネスマナー　2	一般社会で必要とされる応用的なビジネスマナーについて学ぶ
第7回	ビジネスマナー　3	実習先で必要とされるビジネスマナーを身につける
第8回	グループ研修	グループにわかれ業界研究を行う
第9回	グループ研修	グループにわかれ企業研究を行う
第10回	ビジネス文書作成 2	自己紹介書への記入の方法を理解し、実際に記入することなど
第11回	ビジネス文書作成 3	日報･実習ノートの記入の方法を理解し、実際に記入することなど）
第12回	実習先への事前訪問とその報告について	実習先への事前訪問の方法と、その実施報告までの過程を理解し、実際に開始する
第13回	まとめ	全体のまとめを行う
第14回	実習後の報告について 1	実習後の反省会の準備
第15回	実習後の報告について 2	実習後の報告会の準備

【授業の到達目標】

インターンシップ（就業体験）に必要な基本的な常識とマナーなど、実習先職場を確定するために必要な知識･技能を習得し、自らのキャリアについて自己決定できる。

【事前･事後学習】

毎授業前までに、次週で扱うテキストのページを読んでくること。
「インターンシップ」の実習先への事前訪問を行うこと。
夏期の「インターンシップ」では、社会人と同様の気持ちで臨む必要があるため、本授業の開講時期より、新聞などから社会の動向をとらえる習慣を身につけること。

【成績評価基準】

インターンシップ（就業体験）に必要な基本的な常識とマナーなど、実習先職場を確定するために必要な知識･技能を習得しているか。自らのキャリア（とくに実習先に関連して）について自己決定できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	25	50	0	25（提出書類）

【テキスト】

･古閑博美編著･手嶋慎介 他著（2015）『インターンシップ－キャリア形成に資する就業体験－』学文社

【参考図書】

･（財）全国大学実務教育協会編･手嶋慎介 他著　（2013）『サービス実務入門』 日経BP社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA3406	インターンシップ	3年	前期	2単位	選択	手嶋 慎介

【授業の目的と概要】

「インターンシップ事前事後指導」の事前指導の後に、一般企業やNPOなど各自で決定した実習先において就業体験をして、各自で立てた目標を達成する。実習内容は実習先によって異なるが、科目共通の実習ノートを用いて、実習先の担当者から指導を受ける。夏期休暇中の2週間前後の実習（標準的には、土、日を挟んで実質10日間）を済ませた後に、実習ノート・レポートの提出をする。「社会で働く」実体験を経験し、自らのキャリアについて自己決定できるようにする。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	事前訪問準備・アポイント	事前訪問準備を行い、実習先にアポイントをとる
第2回	事前訪問	実習先に事前訪問を行う
第3回	実習初日	実習先における初日のオリエンテーションなどに参加する
第4回	実習２日目	２日目の実習を行う
第5回	実習３日目	３日目の実習を行う
第6回	実習４日目	４日目の実習を行う
第7回	実習５日目（中間チェック）	５日目の実習を行う（中間チェック）
第8回	実習６日目	６日目の実習を行う
第9回	実習７日目	７日目の実習を行う
第10回	実習８日目	８日目の実習を行う
第11回	実習９日目	９日目の実習を行う
第12回	実習最終日	最終日として実習を行う
第13回	まとめ	実習内容のまとめを行う
第14回	事後訪問準備・アポイント	事後訪問準備を行い、実習先にアポイントをとる
第15回	事後訪問	実習先に事後訪問を行う

【授業の到達目標】

「社会で働く」実体験を経験し、自らのキャリアについて自己決定できる。

【事前・事後学習】

新聞を読むなど社会の動向に関心を持ち、毎日、実習ノートをまとめる。

【成績評価基準】

「社会で働く」実体験を経験し、振り返り、その成果を発表することができるか。
今後の自らのキャリアについて自己決定できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	25（実習ノート）	50	0	25（プレゼンテーション）

【テキスト】

・古閑博美編著・手嶋慎介 他著（2015）『インターンシップーキャリア形成に資する就業体験ー』学文社

【参考図書】

・（財）全国大学実務教育協会編・手嶋慎介 他著 （2013）『サービス実務入門』 日経BP社

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1301	基　　礎　　英　　語	1年	前期	2単位	選択必修	佐々木 裕美

【授業の目的と概要】

基本的な文法、語彙を確認しながら、内容を理解したうえで、平易な英文を声を出して正しく読んむことができるようになることを主たる目的とする。英和辞典の効果的使用法を習得し、自ら英文を読み解く力を養成する。身近なテーマであれば、辞書と想像力を駆使して読んだり聴いたりできる力を身につけることが目標である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、1. Saving Water (1) 語彙・文法	授業の進め方について、 1. Saving Water (1) 語彙・文法の確認
第2回	1. Saving Water (2) 内容把握	1. Saving Water (2) 内容把握・チェックテスト
第3回	2. Email: A Party (1) 語彙・文法	2. Email: A Party (1) 語彙・文法の確認
第4回	2. Email: A Party (2) 内容把握	2. Email: A Party (2) 内容把握・チェックテスト
第5回	3. Robots (1) 語彙・文法	3. Robots (1) 語彙・文法の確認
第6回	3. Robots (2) 内容把握	3. Robots (2) 内容把握・チェックテスト
第7回	4. Hip-hop (1) 語彙・文法	4. Hip-hop (1) 語彙・文法の確認
第8回	4. Hip-hop (2) 内容把握	4. Hip-hop (2) 内容把握・チェックテスト
第9回	1〜4　のまとめ・確認テスト(1)	1〜4　のまとめ・確認テスト(1)
第10回	5. The Oscars (1) 語彙・文法	5. The Oscars (1) 語彙・文法の確認
第11回	5. The Oscars (2) 内容把握	5. The Oscars (2) 内容把握・チェックテスト
第12回	6. Seeing Eye Dogs (1) 語彙・文法	6. Seeing Eye Dogs (1) 語彙・文法の確認
第13回	6. Seeing Eye Dogs (2) 内容把握	6. Seeing Eye Dogs (2) 内容把握・チェックテスト
第14回	7. I Need Some Help (1) 語彙・文法	7. I Need Some Help (1) 語彙・文法の確認
第15回	7. I Need Some Help (2) 内容把握	7. I Need Some Help (2) 内容把握・チェックテスト
第16回	8. Panning for Gold (1) 語彙・文法	8. Panning for Gold (1) 語彙・文法の確認
第17回	8. Panning for Gold (2) 内容把握	8. Panning for Gold (2) 内容把握・チェックテスト
第18回	5〜8　のまとめ・確認テスト(2)	5〜8　のまとめ・確認テスト(2)
第19回	9. Email from California (1) 語彙・文法	9. Email from California (1) 語彙・文法の確認
第20回	9. Email from California (2) 内容把握	9. Email from California (2) 内容把握・チェックテスト
第21回	10. The First Computer (1) 語彙・文法	10. The First Computer (1) 語彙・文法の確認
第22回	10. The First Computer (2) 内容把握	10. The First Computer (2) 内容把握・チェックテスト
第23回	11. Pigs (1) 語彙・文法	11. Pigs (1) 語彙・文法の確認
第24回	11. Pigs (2) 内容把握	11. Pigs (2) 内容把握・チェックテスト
第25回	12. William Shakespeare (1) 語彙・文法	12. William Shakespeare (1) 語彙・文法の確認
第26回	12. William Shakespeare (2) 内容把握	12. William Shakespeare (2) 内容把握・チェックテスト
第27回	9〜12　のまとめ・確認テスト(3)	9〜12　のまとめ・確認テスト(3)
第28回	13. Cellphones	13. Cellphones　語彙・文法の確認、内容把握・チェックテスト
第29回	14. The National Palace Museum	14. The National Palace Museum　語彙・ 文法の確認、内容把握・ チェックテスト
第30回	15. The Growing Sahara	15. The Growing Sahara　語彙・文法の確認、内容把握・チェックテスト

【授業の到達目標】

基本的な文法、語彙を確認しながら、平易な英文を読んで内容を把握したうえで、正しい発音で声を出して読むことができる。
辞書を使って、自ら英文を読み解くことができる。

【事前・事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、疑問点を明らかにしておくこと。
授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行なうこと。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な英単語を習得できている。
授業内で扱った英文の内容を読解でき、全体の内容を把握できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50　（小テスト）

【テキスト】

・Andrew E. Bennett　著　『PRISM Gateway Book 1』 マクミランランゲージハウス

【参考図書】

・高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参のこと
・必要に応じて配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1302	総合英語	1・2年	後期	2単位	選択必修	佐々木 裕美

【授業の目的と概要】

基本的な文法、語彙を確認しながら、英文を読んだり聴いたりして内容を理解できるようになることを主たる目的とする。多少難解な英文も、英和辞典を使って読み解くことのできる力を養成する。また、身近なテーマについて深く考え、英文で表現できるよう、演習形式で訓練を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、1. April Fools' Day (1) 語彙・文法	授業の進め方について、1. April Fools' Day (1) 語彙・文法の確認
第2回	1. April Fools' Day (2) 内容把握	1. April Fools' Day (2) 内容把握・チェックテスト
第3回	2. Clever Pigs (1) 語彙・文法	2. Clever Pigs (1) 語彙・文法の確認
第4回	2. Clever Pigs (2) 内容把握	2. Clever Pigs (2) 内容把握・チェックテスト
第5回	3. Split the Bill (1) 語彙・文法	3. Split the Bill (1) 語彙・文法の確認
第6回	3. Split the Bill (2) 内容把握	3. Spilt the Bill (2) 内容把握・チェックテスト
第7回	4. Disney's Dream (1) 語彙・文法	4. Disney's Dream (1) 語彙・文法の確認
第8回	4. Disney's Dream (2) 内容把握	4. Disney's Dream (2) 内容把握・チェックテスト
第9回	1〜4　のまとめ・確認テスト (1)	1〜4　のまとめ・確認テスト(1)
第10回	5. Compact Lifestyles (1) 語彙・文法	5. Compact Lifestyles (1) 語彙・文法の確認
第11回	5. Compact Lifestyles (2) 内容把握	5. Compact Lifestyles (2) 内容把握・チェックテスト
第12回	6. Ryo Ishikawa: Record Breaker (1) 語彙・文法	6. Ryo Ishikawa: Record Breaker (1) 語彙・文法の確認
第13回	6. Ryo Ishikawa: Record Breaker (2) 内容把握	6. Ryo Ishikawa: Record Breaker (2) 内容把握・チェックテスト
第14回	7. Unusual Pets (1) 語彙・文法	7. Unusual Pets (1) 語彙・文法の確認
第15回	7. Unusual Pets (2) 内容把握	7. Unusual Pets (2) 内容把握・チェックテスト
第16回	8. Staying in Touch (1) 語彙・文法	8. Staying in Touch (1) 語彙・文法の確認
第17回	8. Staying in Touch (2) 内容把握	8. Staying in Touch (2) 内容把握・チェックテスト
第18回	5〜8　のまとめ・確認テスト (2)	5〜8　のまとめ・確認テスト(2)
第19回	9. Pet Passports (1) 語彙・文法	9. Pet Passports (1) 語彙・文法の確認
第20回	9. Pet Passports (2) 内容把握	9. Pet Passports (2) 内容把握・チェックテスト
第21回	10. Tying the Knot at McDonald's (1) 語彙・文法	10. Typing the Knot at McDonald's (1) 語彙・文法の確認
第22回	10. Tying the Knot at McDonald's (2) 内容把握	10. Typing the Knot at McDonald's (2) 内容把握・チェックテスト
第23回	11. The Oscars (1) 語彙・文法	11. The Oscars (1) 語彙・文法の確認
第24回	11. The Oscars (2) 内容把握	11. The Oscars (2) 内容把握・チェックテスト
第25回	12. Uniique Names (1) 語彙・文法	12. Unique Names (1) 語彙・文法の確認
第26回	12. Unique Names (2) 内容把握	12. Unique Names (2) 内容把握・チェックテスト
第27回	9〜12　のまとめ・確認テスト (3)	9〜12　のまとめ・確認テスト(3)
第28回	13. Rackets for Champions	13. Rackets for Champions　語彙・文法の確認、内容把握・チェックテスト
第29回	14. Tasty Music	14. Tasty Music　語彙・文法の確認、内容把握・チェックテスト
第30回	15. Sea Rescue	15. Sea Rescue　語彙・文法の確認、内容把握・チェックテスト

【授業の到達目標】

基本的な文法、語彙を確認しながら、英文を読んで内容を把握できる。
英和辞典を使って、英文を読み解くことができる。
身近なテーマについて、自分の考えを英文で表現できる。

【事前・事後学習】

予習として次回で扱う教科書の内容を読み、疑問点を明らかにしておくこと。
授業で学んだ教材を必ず見直し、理解を深めるための復習を行なうこと。

【成績評価基準】

教科書で学ぶ基本的な英単語を習得できている。
教材の英文を読解でき、全体の内容を把握できる。
自分の考えを英文で表現することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト）

【テキスト】

・Tymothy Kiggellほか　著　『PRISM red』　マクミランランゲージハウス

【参考図書】

・高校レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回持参のこと
・必要に応じて配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1303	英会話 初級英会話	全学年	前期 後期	2単位	選択必修	ナイレ　キーナン

【授業の目的と概要】

Communicating in English is fun and easy! Although the lessons in this course have grammar content we will mainly be concentrating on speaking and listening. Coming to class regularly and speaking as much as you can will really help you to be a much better English speaker. You need to come to at least 2/3 of the lessons, try your best, and most of all have fun!!

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション（1）	I will introduce myself and this course, my method of teaching and the textbook I have selected. Students will have the chance to ask questions about this class.
第2回	オリエンテーション（2）	I will introduce myself and this course, my method of teaching and the textbook I have selected. Students will have the chance to ask questions about this class.
第3回	役に立つ表現	As much as possible the class will be taught in English so this lesson will be devoted to useful vocabulary for communicating with me during the lesson
第4回	経験（1） 現在完了形	We will focus on the simple past and present perfect tenses in English.
第5回	知り合う（1） 初対面	We will cover a range of simple information questions which can be used when we meet someone for the first time. The focus will be small talk.
第6回	経験（2） ～したことありますか？	Students will share their best memories/ experiences with each other in an information exchange exercise.
第7回	知り合う（2） 自己紹介	This lesson will cover personal information questions and appropriate body language/ gesture when greeting somebody for the first time.
第8回	復習	This class will be a review of what we have covered so far through a variety of pair work exercises and games.
第9回	興味（1） 好きなもの嫌いなもの	Students will ask and answer about their likes /dislikes. The focus will be on degree and agreement/disagreement.
第10回	場所（1） 位置	Prepositions of place - the position of objects within the home..
第11回	興味（2） 趣味と自由時間	Students will talk about how they enjoy their free time. We will touch on frequency and abilities.
第12回	場所（2） 方向	Prepositions of place - giving directions in the city and on public transport.
第13回	家族	This lesson includes a wide range of vocabulary about family which students will use to introduce their family.
第14回	旅行（1） レストランの予約	Making a restaurant reservation when traveling abroad.
第15回	人を表現する	We will practice describing what people look like and what their character is. The focus will be distinguishing between the two.
第16回	日本の物	Explaining Japanese culture to foreign visitors.
第17回	時間を告げる	We will cover jobs vocabulary and also talk about work place. Students will talk about their part-time jobs and the work they want to do in the future
第18回	価格	Large numbers and currency specifically in relation to shopping.
第19回	仕事について話す	There are two ways to tell time in English so we will cover both. This will be mainly a listening and comprehension lesson
第20回	これから行う行事（1） 未来形	We will talk about decided future plans using 'going to'. Students make plans with each other using a schedule.
第21回	過去の経験（1） 過去形	We will review simple past tense and practice asking and answering questions in a pair work situation.
第22回	これから行う行事（2） 計画を立てる	'Will' and 'wont' to talk about possibilities and make predictions.
第23回	過去の経験（2） 最近行った旅行	Students will answer a variety of questions about a recent trip and use this as a basis for a presentation in class.
第24回	学校（1） 科目と時間割	Vocabulary for school life and education. Students will share with each other the subjects they enjoyed/didn't enjoy at high school.
第25回	スポーツ	We will discuss the rules of sport, the appropriate use of 'play' with sports and talk about sporting heroes.
第26回	学校（2） 規則	School rules. Using 'have to' and 'must' we will focus on rules.
第27回	国と国籍は	This lesson focuses on vocabulary for countries, nationalities and languages. There will be a quiz and the students will have the opportunity to learn a few basic phrases in other foreign languages.
第28回	旅行（2） 飛行機の予約	We will practice using functional English for in a hotel using role plays.
第29回	まとめ	We will focus on how and when to use the simple past tense and present perfect tense in English.
第30回	病気と健康	Health awareness, illness and parts of the body. Vocabulary and pronunciation will be the main focus.

【授業の到達目標】

The purpose of this course is to target natural communication in class. The activities are designed to be fun and simple to help students to be more confident when they speak English. Grammar will be included in the lessons as related to a specific function of communication rather than as an isolated topic and the focus will be on encouraging natural and appropriate use in conversation rather than understanding the structure.

【事前・事後学習】

Students should be prepared to take notes in class - not only from the whiteboard but also and hints and corrections made to them directly. They should write down any new words that they have asked the teacher or to check at home with their dictionary. They should prepare for lessons in advance by reading over the text, checking vocabulary and underlining anything that they don't understand so that they can check with me immediately. Reviewing after class is equally important as is recycling newly learned words and phrases into future lessons. Using what you learn as often as possible is they very best way to remember it.

【成績評価基準】

Students need to show personal motivation to participate and improve their abilities. Very regular attendance and being active in class will result in a marked improvement in both speaking and listening skills both of which will be necessary to pass the course. Students must complete all activities and assignments diligently and take responsibility for their own personal improvement.

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
10	0	30	0	60（Behaviour in class and participation）

【テキスト】

・担当者から指示する

【参考図書】

・特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1304	入門中国語	1・2年	前期	2単位	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

初めて中国語を学ぶ人が対象です。授業では、まず中国語の基本である発音をしっかり学び、その後は日本の大学を舞台にしたビデオを見ながら、あいさつのしかたや自己紹介の仕方、買い物の表現など、中国人とのかんたんなおしゃべりに役に立つ会話を練習します。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形で使えるものです。このような実用性のほかに、ビデオを通じて現代中国の風景や文化に親しむ機会を増やします。以上の内容を演習形式で行います。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス（1）	授業の運営方針
第2回	ガイダンス（2）	授業の運営方針の説明
第3回	第1課　タクシーに乗る	基本語順
第4回	発音（1）	声調
第5回	第2課　自己紹介	疑問文
第6回	発音（2）	軽声
第7回	第3課　チェックイン	名前の言い方
第8回	発音（3）	人称代名詞
第9回	第4課　数字	選択疑問文
第10回	発音（4）	二重母音
第11回	第5課　またあとで	指示代詞
第12回	第1課　昼食会（1）	指示代名詞
第13回	復習	基本構造
第14回	第1課　昼食会（2）	疑問文
第15回	まとめと確認テスト（1）	疑問文のまとめ
第16回	第2課　お弁当（1）	選択疑問文
第17回	第6課　プレゼント	助動詞（1）
第18回	第2課　お弁当（2）	正反疑問文
第19回	第7課　お茶をどうぞ	量詞
第20回	第3課　家族について話す（1）	親族名称
第21回	第8課　学生食堂	前置詞
第22回	第3課　家族について話す（2）	数字
第23回	第9課　何年生ですか？	数詞述語文
第24回	第4課　中華街（1）	助動詞
第25回	第10課　ほめすぎです	助動詞（2）
第26回	第4課　中華街（2）	曜日
第27回	復習（1）	練習問題（1）
第28回	発音テストとまとめ	発音テストとまとめ
第29回	まとめと確認テスト（2）	練習問題（2）
第30回	復習（2）	基本的な会話

【授業の到達目標】

中国人と友達になっていろいろなことをおしゃべりすることができる。
それとともに、本格的に中国語をマスターするための基礎的な文法項目についての質問に正確に答えることができる。

【事前・事後学習】

教科書付属のＣＤを繰り返し聞いて発音の練習をしましょう。

【成績評価基準】

（1）授業中の発音練習などに積極的に参加しているか
（2）基本的な中国語の文法事項が理解できているか
（3）簡単な会話ができるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	0	30	30	0

【テキスト】

・『理香と王麗　スリム版』朝日出版社
・『ともだち・朋友スリム版』朝日出版社

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
LA1305	基　礎　中　国　語	1・2年	後期	2単位	選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

中国語を半年程度学んだ人が対象です。
授業では、まず入門の復習をします。
その後は日本の大学を舞台にしたビデオを見ながら、買い物の表現、時間や曜日の言い方など、中国人との会話に実際に役に立つ会話を学びます。
授業の主役はみなさん一人一人です。できるだけ一人一人が発音し、練習する時間を多く取ります。授業中に覚えた会話は中国旅行や日本にいる中国人に対してそのままの形ですぐに使えます。
このような実用性とともに、ビデオを通じて現代中国の風景や文化に親しむこともこの授業の目的のひとつです。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス（1）	授業の運営方針の説明（1）
第2回	ガイダンス（2）	授業の運営方針の説明（2）
第3回	第１１課　チャイナドレスを買う	曜日の言い方
第4回	第５課　うらない（1）	年月日
第5回	第１２課　バスに乗る	助動詞
第6回	第５課　うらない（2）	時刻
第7回	第１３課　買い物	比較の言い方
第8回	第６課　中国茶を買う(1)	お金
第9回	第１４課　いくらですか	年月日の言い方
第10回	第６課　中国茶を買う(2)	数量補語
第11回	第１５課　カードで払う	動量詞
第12回	第７課　合宿(1)	助動詞
第13回	復習	助動詞のまとめ
第14回	第７課　合宿(2)	前置詞
第15回	筆記テストとまとめ（1）	文法のまとめ
第16回	まとめと発音テスト（1）	まとめと発音テスト
第17回	第１６課　雑技	連動文
第18回	まとめと課題	あいさつ
第19回	第１７課　今なんじですか？	進行
第20回	第８課　バーベキュー(1)	場所と存在
第21回	第１８課　プログラム	可能
第22回	第８課　バーベキュー(2)	二重目的語
第23回	第１９課　写真をとる	経験
第24回	第９課　ボート(1)	連動文
第25回	復習	復習
第26回	第９課　ボート(2)	禁止
第27回	筆記テストとまとめ（2）	筆記テストとまとめ（2）
第28回	第１０課　花火	比較
第29回	応用練習	中級への道
第30回	まとめと発音テスト（2）	まとめと発音テスト（2）

【授業の到達目標】

中国人と友達になっておしゃべりすることができる。
それとともに、中級の中国語へ進むための基礎的な文法事項に関する質問に正確に答えることができる。

【事前・事後学習】

教科書付属のＣＤを繰り返し聞いて発音の練習をしてください。

【成績評価基準】

（1）積極的に授業に参加すること
（2）簡単な文法事項を理解していること
（3）簡単な会話ができること

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	0	30	30	0

【テキスト】

・『理香と王麗スリム版』朝日出版社
・『ともだち・朋友スリム版』朝日出版社

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1306	入門韓国語	1・2年	前期	2単位	選択必修	キム ユナ

【授業の目的と概要】

ハングルの初歩的構文と文法の全般的習熟を目指す。発音の基礎や挨拶の表現から始めて、動詞の活用の練習を中心に、読み、書き、話し、聞くというコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法を学んでいくことを内容とする。韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学び、学んだ韓国語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ハングルの構成、母音①基本母音６個	ハングルの基本子音（1）
第2回	ハングルの構成、母音①初対面の挨拶	ハングルの基本子音（2）
第3回	母音②派生母音４個	母音24個を学習するとハングルの読み書きができる（1）
第4回	母音②別れの挨拶	母音24個を学習するとハングルの読み書きができる（2）
第5回	子音①子字母７個（ㄱ、ㄴ、ㄷ、ㄹ、ㅁ、ㅂ、ㅅ）	ハングルの基本子音、母音24個を学習するとハングルの読み書きができる（1）
第6回	子音①感謝の挨拶	ハングルの基本子音、母音24個を学習するとハングルの読み書きができる（2）
第7回	子音②子音字母７個（ㅇ、ㅈ、ㅊ、ㅋ、ㅌ、ㅍ、ㅎ）	ハングルの基本子音、母音24個を学習するとハングルの読み書きができる（3）
第8回	子音②謝罪の挨拶	ハングルの基本子音、母音24個を学習するとハングルの読み書きができる（4）
第9回	子音③ 子音字母の練習 平音･激音･濃音	平音･激音･濃音の発音の区別などが出来る（1）
第10回	子音③ 食事の挨拶	平音･激音･濃音の発音の区別などが出来る（2）
第11回	複合中声	複合中声の11個を練習する（1）
第12回	子音④祝賀の挨拶	複合中声の11個を練習する（2）
第13回	終声（バッチム）:鳴音、阻害音 終声（バッチム）	終声（バッチム）①鳴音、阻害音 終声（バッチム）（1）
第14回	子音と母音のガギャ表（歌で覚える）	終声（バッチム）①鳴音、阻害音 終声（バッチム）（2）
第15回	韓国文化授業（韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する）（1）	韓国文化授業（韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する）（1）
第16回	韓国文化授業（韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する）（2）	韓国文化授業（韓国の経済、政治をDVDを見ながら理解する）（2）
第17回	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表 連音化	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表を理解できる 連音化を理解する（1）
第18回	複合終声、韓国語の母音と子音	複合終声、韓国語の母音と子音、ガギャ表を理解できる 連音化を理解する（2）
第19回	挨拶表現（感謝、お礼、お詫び等）	挨拶表現（感謝、お礼、お詫び等）を学習する（1）
第20回	すらすら読める韓国語	挨拶表現（感謝、お礼、お詫び等）を学習する（2）
第21回	国、どこの国の人、職業	国の名前、人、名前を質問して返事できる（1）
第22回	日本､日本人､大学生であることを聞いて､答える。	国の名前、人、名前を質問して返事できる（2）
第23回	自己紹介	自己紹介を言える、書ける（1）
第24回	韓国語で自己紹介	自己紹介を言える、書ける（2）
第25回	固有数詞	固有数詞（一つ、二つ･･･。）（1）
第26回	物の数を言える。	固有数詞（一つ、二つ･･･。）（2）
第27回	家族の呼び方	家族の呼び方と人数を言える（1）
第28回	家族の紹介が出来る。	家族の呼び方と人数を言える（2）
第29回	前期のまとめ（1）	前期の学習の確認（1）
第30回	前期のまとめ（2）	前期の学習の確認（2）

【授業の到達目標】

韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック･話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前･事後学習】

毎回、前回学習した部分を小テストして、学習進展を確認します。

【成績評価基準】

授業に積極的に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	0	40	0	20（小テスト）

【テキスト】

･授業中に紹介する

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1307	基礎韓国語	1・2年	後期	2単位	選択必修	キム ユナ

【授業の目的と概要】

基礎的文法知識を完成させる。ごく平明な文章が読め、簡単な手紙が書け、簡単な会話ができるなど基本的運用能力を養成することを内容とする。特に、聞き取りの力を養うようにする。また、様々な角度から、韓国・朝鮮の風俗・習慣・文化に対する理解が深められるようにする。韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。また、韓国の文化、習慣についても学ぶ。学んだ韓国語の知識を実際の会話に応用できるようになることを目指す。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	位置を説明する（上、下、中・・・）（1）	場所と位置を表現できる。～の上に～があります。
第2回	位置を説明する（上、下、中・・・）（2）	場所と位置を表現を言える。「～の上に～があります。」
第3回	存在（～に～があります。ありません）（1）	場所と位置の否定表現を表す。～に～はありません。
第4回	存在（～に～があります。ありません）（2）	場所と位置の否定表現を言える。「～に～はありません。」
第5回	誕生日はいつですか。（1）	誕生日を聞いて返事できる。
第6回	誕生日はいつですか。（2）	誕生日をお互いに聞いて答える会話の練習
第7回	曜日表現（1）	曜日の表現を覚える。
第8回	曜日表現（2）	曜日の表現を覚えて、曜日を聞いて答える。
第9回	何月何日です。（1）	漢数字を使って、誕生日を言える。
第10回	何月何日です。（2）	漢数字を使って、誕生日を言える。
第11回	ヘヨ体（丁寧形）（1）	非格式の丁寧形。～아요, 어요, 해요
第12回	ヘヨ体（丁寧形）（2）	非格式の丁寧形。～아요, 어요, 해요
第13回	誘い表現（1）	誕生日に～で～をしませんか。　～しましょうか。
第14回	誘い表現（2）	誕生日に友達に誘う表現を言える。
第15回	韓国文化授業（1）	韓国関連の視聴覚を見ながら文化の紹介
第16回	韓国文化授業（2）	韓国関連の視聴覚を見ながら文化の紹介
第17回	趣味（1）	趣味の表現を覚える
第18回	趣味（2）	趣味の表現を覚えて言える。
第19回	趣味を書ける（1）	自分の趣味を作文できる
第20回	趣味を書ける（2）	自分の趣味を発表できる。
第21回	食堂で注文する（1）	食堂へ行って、食べたいものを注文できる
第22回	食堂で注文する（2）	食堂へ行って、食べたいものを注文する練習をする。
第23回	希望の表現（1）	希望の表現 ～したいです、～したくありません。
第24回	希望の表現（2）	自分の希望の表現を言える。 ～したいです、～したくありません。
第25回	ヘヨ体過去形（1）	ヘヨ体の過去形を表現できる。
第26回	ヘヨ体過去形（2）	ヘヨ体の過去形を表現できる。
第27回	買い物（1）	非格式の丁寧形の過去。～았어요, 었어요, 했어요
第28回	買い物（2）	非格式の丁寧形の過去を使って、過去のことを言える。
第29回	授業のまとめ（1）	授業のまとめ（1）
第30回	授業のまとめ（2）	授業のまとめ（2）

【授業の到達目標】

前期の学習を基にして、韓国語の学習を進めていく上で必要な、最も基礎的な韓国会話能力を身につけることを目標とする。様々なトピック・話題に関する基礎的な単語、表現を学んで基礎会話ができる。それとともに、実際のコミュニケーションを通してそれらの適切な使用方法や、韓国の文化、習慣についても学んで韓国語の知識を実際の会話に応用することができる。

【事前・事後学習】

授業には意欲な参加を求める。授業の進展に応じ事前に配布するプリントは課題とする。

【成績評価基準】

授業に積極に参加し、会話する際、声をしっかり出して韓国語の基礎表現をすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	0	40	0	20（小テスト）

【テキスト】

・授業中に紹介する

【参考図書】

・聴いて学ぶ韓国語会話

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1308	日本語A 日本事情I	1年	前期	2単位	選択必修 選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

「日本語A」は外国人留学生の日本語力の向上を目的とする。日本語学校等で基礎的な日本語力を身につけて入学した留学生が、大学で日本人学生と同等に勉学するのに必要な総合的な日本語力を、主にプレゼンテーションの側面から養成する。教室で日本の教育制度、昔話、住宅事情等を理解してから、受講生は関心のあるテーマを探し、調査し、考察した内容をクラスで発表する。この過程を通して、情報収集、データ分析、口頭発表の能力を向上させる。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション（1）	授業の進め方·成績評価等について説明、自己紹介（1）
第2回	オリエンテーション（2）	授業の進め方·成績評価等について説明、自己紹介（2）
第3回	実力テストとテストの解説	現時点における日本語の文法力の測定と重要項目の解説
第4回	レポートに使われる文体	文体の使い分け
第5回	イメージの日本·日本人	イメージとステレオタイプ
第6回	文の基本	首尾一貫した文
第7回	女性の生き方1	図·表からの理解
第8回	句読点の打ち方·記号の使い方	記号の使い分け
第9回	女性の生き方2	読み物（1）
第10回	引用の仕方	感動したことばの引用
第11回	女性の生き方3	国際比較
第12回	まとめ1	授業のまとめ1
第13回	現代女性の生き方	読み物（2）
第14回	段落	段落の構成
第15回	発表1-1	担当者の発表1-1
第16回	仕組み	仕事柄の組みの説明
第17回	発表1-2	担当者の発表1-2
第18回	歴史的な経過	歴史的な経過の説明
第19回	子どもと教育1	図·表からの理解
第20回	まとめ2	授業のまとめ2
第21回	子どもと教育2	国際比較
第22回	分類	分類の基準
第23回	子どもと教育3	読み物（3）
第24回	定義	社会的に定着していないことばの定義
第25回	発表2-1	担当者の発表2-1
第26回	要約	文章の主題の要約
第27回	発表2-2	担当者の発表2-2
第28回	比較·対照	事柄を理解するための比較·対照
第29回	まとめ3	授業のまとめ3
第30回	まとめ4	授業のまとめ4

【授業の到達目標】

大学での勉学に必要な情報収集とデータ分析ができる。
データ分析の結果がプレゼンテーションできる。

【事前·事後学習】

毎回の授業前までに、授業で扱う箇所の知らない単語の意味などを調べておくこと。
発表1～5の担当日までに、プレゼンテーションの準備をしておくこと。

【成績評価基準】

必要な情報を収集して、データ分析することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	50	0	0	0

【テキスト】

·近藤安月子·丸山千歌（2008）『中·上級日本語教科書　日本への招待第2版　テキスト』東京大学出版会
·二通信子·佐藤不二子（2003）『改訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』 スリーエーネットワーク

【参考図書】

·なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA1309	日本語B 日本事情Ⅱ	1年	後期	2単位	選択必修 選択	伊藤 恵美子

【授業の目的と概要】

「日本語B」は外国人留学生の日本語力の向上を目指す。基礎的な日本語力を身につけて入学した留学生が大学で日本人学生と同等に勉学するのに必要な総合的な日本語力を、主にレポート作成の側面から養成する。受講生はまず作文とレポートや卒業論文のような客観的な文章の違いを知り、レポート等で使われる文体・文型が使えるようになり、レポート等で必要な論理構成を理解してから、実際にレポートを作成する。関心のあるテーマを探し、調査し、考察した内容をレポートにまとめる過程を通して、情報収集、データ分析、文章表現の能力を向上させる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション（1）	授業の進め方・成績評価等について説明（1）
第2回	オリエンテーション（2）	授業の進め方・成績評価等について説明（2）
第3回	仕事への意識1	図・表からの理解
第4回	因果関係	原因と結果の関係
第5回	仕事への意識2	ことわざの意味
第6回	論説文	論説文の事例
第7回	仕事への意識3	読み物1
第8回	資料の利用	資料の探し方
第9回	現代人の仕事への意識	読み物2
第10回	まとめ	まとめ
第11回	発表1-1	担当者の発表1-1
第12回	テーマ決定	実際に作成するレポートのテーマ決定
第13回	発表1-2	担当者の発表1-2
第14回	資料収集	図書館で関係資料の収集
第15回	日本の外国人1	図・表からの理解
第16回	レポート構想発表会	レポートの構想発表→テーマの修正
第17回	日本の外国人2	読み物1
第18回	レポート執筆1	表紙・文献リストの作成と本文の執筆
第19回	日本の外国人3	読み物2
第20回	レポート執筆2	本文の執筆
第21回	現代日本社会の外国人	読み物3
第22回	レポート提出	レポート提出→レポート返却
第23回	発表2-1	担当者の発表2-1
第24回	レポート修正1	レポート修正1
第25回	発表2-2	担当者の発表2-2
第26回	レポート修正2	レポート修正2
第27回	多様化する日本・日本人	グローバルな資質
第28回	清書レポート提出	清書レポート提出
第29回	まとめ	授業のまとめ（1）
第30回	全体のまとめ	授業のまとめ（2）

【授業の到達目標】

大学での勉学に必要な情報収集とデータ分析ができる。
データ分析の結果を考察して文章にまとめられる。

【事前・事後学習】

毎回の授業前までに、授業で扱う箇所の知らない単語などを調べておくこと。
課題は決められた日に必ず提出すること。

【成績評価基準】

データ分析の結果を考察して、自らの言葉で文章にまとめることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	40	0	0	20（課題提出）

【テキスト】

・近藤安月子・丸山千歌（2008）『中・上級日本語教科書　日本への招待第2版　テキスト』東京大学出版会
・二通信子・佐藤不二子（2003）『改訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』 スリーエーネットワーク

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2310	中級英語	2・3・4年	前期	1単位	選択 選択必修	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

この授業では、英文読解力向上を目的として、その具体的な方法、未知の単語の意味を類推する方法を学び、様々な種類英文を、インターネット上の英文も含めて、多読ならびに速読する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	The 100 Words･Fable 1	英語の基本100語を確認する、Fable 1の速読
第2回	Learning Vocabulary･Fable 2	語彙習得の方法を学ぶ、Fable 2の速読
第3回	Focusing on the Topic･Fable 3	英文のTopicを把握する、Fable 3の速読
第4回	Thinking in English Unit 1(1)･Fable 4	英問英答問題を解く(1)、Fable 4の速読
第5回	Guessing Meaning from Context(1)・Fable 5	内容から単語の意味を類推する(1)、Fable 5の速読
第6回	Guessing Meaning from Context(2)・Fable 6	内容から単語の意味を類推する(2)、Fable 6の速読
第7回	Thinking in English Unit 1 (2)･Fable 7	英問英答問題を解く(2)、Fable 7の速読
第8回	Word Parts･Fable 8	英単語を部分に分けて理解する、Fable 8の速読
第9回	How Words Are Used Together・Fable 9	熟語の成り立ちを学ぶ、Fable 9の速読
第10回	Thinking in English Unit 1 (3)・Fable 10	英問英答問題を解く(3)、Fable 10の速読
第11回	Guessing Meaning from Context(1)・Fable 11	内容から単語の意味を類推する(3)、Fable 11の速読
第12回	Guessing Meaning from Context(2)・Fable 12	内容から単語の意味を類推する(4)、Fable 12の速読
第13回	Thinking in English Unit 1 (4)・Fable 13	英問英答問題を解く(4)、Fable 13の速読
第14回	Fable 14	Fable 14の速読
第15回	Review･Test	まとめ、筆記テスト

【授業の到達目標】

様々なリーディングのスキルを学び、簡単な英文を多読し、日本語に訳すことなく、英文をそのまま抵抗なく読みこなすことができる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに、次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。
授業で学んだ教材を毎回必ず見直し、理解を深めるための復習を各自で行なうこと。

【成績評価基準】

基本的な英単語を習得できている。
リーディングスキルを使って、簡単な英文を読解し、全体の意味を把握できる。
インターネットで海外のサイトから情報を得て、読解する方法が身に付いている。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60（小テストを含む）	10	30	0	0

【テキスト】

･L. Jeffries ほか『Basic Reading Power 1』(Third Edition) Pearson Longman

【参考図書】

･高校生レベル以上の英和辞典（電子辞書可）を毎回必ず持参すること。
･必要に応じて資料を配布する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2311	ビジネス英語 ビジネス英会話	2・3・4年	後期	1単位	選択 選択必修	西崎 有多子

【授業の目的と概要】

オフィスにおける英語での会話と英語での実務の基本を学ぶことを目的とする。会話では、応対、電話、予約、伝言などの基本的表現を学び、実践的な練習を行う。実務では、ビジネスレターの基礎知識と各種レターの書き方、e-mailの書き方とのやりとり、国際会議の準備、スケジュール管理、ファイリング、英文履歴書の書き方など日常的に必要とされる知識と実務の方法を学び、練習する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	Getting a visitor （来客受付）	来客応対の基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習して身につける。
第2回	Making a visitor comfortable （来客案内）	受付終了後の来客に対する対応の基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習し身につける。
第3回	Receiving incoming calls （電話を受ける）	電話応答の基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習して身につける。
第4回	Making outgoing calls （電話をかける）	電話をかけて相手を確かめ、アポイントメントを取るための基本表現を学び、実技で練習して身につける。
第5回	Making a reservation （予約をする）	電話でホテルの予約をする基本表現を学び、想定されるいくつかのパターンに対する対応を実技で練習して身につける。
第6回	Giving messages （伝言を知らせる）	オフィスで上司や同僚に伝言や報告をするための基本表現を学び、実技で練習して身に付ける。
第7回	Working on the computer （コンピュータの活用）	コンピュータを使って、文書処理、データ処理、情報検索、メール交換等をする際のオフィスでの会話の基本表現を学び、実技で練習して身に付ける。
第8回	Writing business letters （ビジネスレター）	英文ビジネスレターの基本知識を学び、読んで理解し、それについての会話表現を学ぶ。
第9回	Exchanging e-mails （eメールの活用）	英文eメールの基本知識を学び、基本表現を身に付ける。
第10回	Preparing meetings （会議の準備）	国際）会議の準備についての基本知識を学び、準備・進行の際の仕事について理解する。
第11回	Scheduling （スケジュール管理）	スケジュール管理をするための予定表の種類や記入方法、管理の仕方、出張時の旅程表の書き方について学ぶ。
第12回	Filing （ファイリング）	ファイリングの基本知識と方法について学び、文書管理、名刺管理についても学ぶ。
第13回	Writing a resume （履歴書を書く）	英文履歴書の基本知識を学び、各自の履歴書を作成し、求人広告の読み方について学ぶ。
第14回	Writing an application letter and a thank-you letter （就職活動のための手紙）	就職活動において必要となる英文ビジネスレターについて学び、各自作成する。
第15回	A job interview at the office （就職面接を受ける）	英語での就職面接における表現を学び、実技で練習して身に付ける。

【授業の到達目標】

基本的レベルの英語を使って、次のことができる。
来客受付・応対・電話応対・予約、伝言、報告
ビジネスレターやeメールの読み書き
会議の準備、スケジュール管理、ファイリング
履歴書、面接等の就職活動

【事前・事後学習】

毎授業前までに、次回で扱う教科書の内容を読み、わからない英単語の意味をノートに書き、疑問点を明らかにしておくこと。
毎回復習を兼ねた課題があるので、次回までに確実に行い、提出すること。不明な点があれば、次回必ず質問をして、理解に努めること。

【成績評価基準】

学んだ英語表現を使って、会話ができるか。
学んだ知識を使って、英文ビジネスレター、履歴書等が読め、書けるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
35(小テストを含む)	10	20	35	0

【テキスト】

・西崎有多子ほか 『英語で学ぶ　オフィスコミュニケーション』 西文社

【参考図書】

・英和辞典（電子辞書可）を毎回必ず持参すること。
・他の資料は必要に応じて配布。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
LA2312	中級中国語	2・3・4年	前期	1単位	選択 選択必修	竹越 美奈子

【授業の目的と概要】

中国語を1年程度勉強した人が対象です。外国語学習は、初めのうちはやる気もあるし、学習事項がそれほどたまっていないので、勉強すればするほど実力がついていくことを実感できます。ところが、だんだん既習事項が増えてくると、前の表現がうろ覚えになり、先に進むのが困難になってくることがあります。この教科書は一つの課で学ぶ文法事項が少なくおさえられていて、前に学習したことが繰り返し出てくるので、復習しながら楽しく前に進むことができます。あわせて中国の文化にも関心を持ちましょう。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス 初級の復習	授業の進め方と注意
第2回	第1課　一語文·一句文	短い文、形容詞の肯定形
第3回	第2課　基本構文と主題化	基本構文と主題化
第4回	第3課　時間	時点と時間量
第5回	第4課　場所と存在·移動	方位詞
第6回	テストとまとめ（1）	テストとまとめ（1）
第7回	第5課　疑問·否定	疑問詞疑問文
第8回	第6課　願望·必要	助動詞
第9回	第7課　命令·依頼·可能	命令文
第10回	第8課　推定·伝聞	推定と蓋然性
第11回	第9課　数量表現	量詞
第12回	第10課　修飾語	定語と状語
第13回	第11課　形容詞の程度と動詞の様態	形容詞の部分否定
第14回	第12課　比較·類似	比較の言い方と比較の否定
第15回	テストとまとめ（2）	テストとまとめ（2）

【授業の到達目標】

中国語の基本的な文法事項をマスターすることです。
この教科書を学び終えれば、中国語の基本的な文法事項の輪郭をほぼ終えたことになります。

【事前・事後学習】

授業で学習する中国語の文章に学習事項のエッセンスがすべて含まれているので、これを完全に暗記することが有効です。各課の本文を完全に覚えましょう。

【成績評価基準】

（1）中級程度の文法が理解できるか
（2）中級程度の作文ができるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	0	30	30	0

【テキスト】

·なし

【参考図書】

·なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	プログラミング入門	3・4年	前期	2単位	選択	正岡 元

【授業の目的と概要】

Linuxの操作に習熟した学生を対象にコンピュータプログラミングの基礎を扱う。オブジェクト指向言語を用いてオブジェクト指向の概念を学ぶ。また、ソフトウェア開発の流れとその中で重要なバージョン管理の概念について学ぶ。自分自身で簡単な問題を解くプログラムを作成する技術を身に付ける。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	Linuxの基礎，端末エミュレータとコマンドラインの概要を理解する
第2回	プログラミングの基礎(1) 概念の理解	コンピュータの処理モデルおよびプログラムの概念を理解する
第3回	プログラミングの基礎(2) 基礎の理解	サンプルプログラムを通してプログラムの動作の基礎を理解する
第4回	変数と制御構造(1) 変数	変数の概念と使い方および制御構造の基本を理解する
第5回	変数と制御構造(2) 制御構造	制御構造についてさまざまな使い方を理解する
第6回	アルゴリズムとデータ構造	アルゴリズムとデータ構造の概念を理解する
第7回	値の型変換(1) 値の理解	値および型の概念を理解する
第8回	値の型変換(2) 型の理解	型の変換について基礎を理解する
第9回	値の型変換(3) 型変換の理解	型の変換が必要な場合，変換による影響などを理解する
第10回	2進数と16進数	基数の概念と基数変換について理解する
第11回	配列(1) 配列の基礎	配列の概念について理解する
第12回	配列(2) 配列の利用	配列のさまざまな使い方を理解する
第13回	ファイル入出力(1) 入力	データをファイルから入力する方法を理解する
第14回	ファイル入出力(2) 出力	結果をファイルに出力する方法を理解する
第15回	まとめ	これまでのまとめを行う

【授業の到達目標】

簡単なプログラムを書いて実行できるようになる。プログラミングの考え方を理解し、処理の手順を論理的に考えられるようになる。また、ソフトウェア開発の流れやバージョン管理について理解し、ソースコードを適切に扱うことができるようになる。

【事前・事後学習】

Linuxの取り扱いはできるものとして講義を進める。そのため各回に必要なあるいは各回で扱ったLinuxの操作については十分理解を進めておくこと。

【成績評価基準】

論理的な思考を身に着け，問題の解決手法を考え，それを細かい手順に分解し，フローチャートを作成できる。
プログラムの基礎的な概念を理解し，フローチャートをもとに簡単なプログラムを作成することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	0	50%(講義中に課す課題)

【テキスト】

·広瀬雄二，Ruby プログラミング基礎講座，技術評論社

【参考図書】

·大角 祐介、新しいLinuxの教科書、SBクリエイティブ
·高橋 征義，たのしいRuby 第3版，ソフトバンククリエイティブ
·林晴比古，新Linux/UNIX入門 第3版，ソフトバンククリエイティブ

人間健康学科
専門科目

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1101	人間学概論	1年	前期	2単位	必修	丸岡 利則／井上 研

【授業の目的と概要】

人間とは何か、という問いは人間の歴史とともに始まり、いまも探求され続けられているテーマである。自らの生き方を考えるにも、新しい社会を展望するにも私たちはこの問いかけから出発しなければならない。

本講義は、2人の教員のオムニバス方式で行われ、人間の「発達」と社会性、人間の「健康」のあり方、人間の「存在」などの視点から、その歴史性もふまえて[人間とは何か]という問いを追及する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンスー人間の発達の特性ー遺伝と環境ー	人間は、遺伝･環境(人的･物的･教育･メディア等)との関連性で人格形成されることを理解する。
第2回	「子ども」と「おとな」－子ども観の変遷ー	子どもとは、大人とはについて理解する。特に、子ども観は時代により、社会の成熟度によって異なっていることも理解する。
第3回	子どもと家族ー家庭教育のゆらぎー	家族は最小のデモクラシーである。また、最も人間成長に影響する環境であることを理解し、家庭教育の重要性を理解する。
第4回	ジェンダーの世界ー性差の変化と社会背景ー	ジェンダーといわれるものの内容と地域･文化･教育によって見方が異なっている現実を理解する。
第5回	教育観の変遷ー学校(家庭･地域･塾)作りにむけてー	教育とは何を持って言うのか。人間教育の歴史とユネスコの学習権宣言内容を理解する。
第6回	江戸時代の養生(寺子屋は市民教育)	江戸時代の養生はどのようなものであったかを理解し、人間教育の重要性等の理解を深める。
第7回	明治時代の健康(衣食住)	明治時代における健康とは何を持って、どのように健康であったかを理解する。健康の捉え方を理解する。
第8回	第二次世界大戦前後の健康(世界と日本)	第二次世界大戦前後の窮乏生活のなかでの健康はどのようなものであったか。一般国民と兵士の健康度合いと重視の差について理解する。
第9回	生活習慣と健康(不運･非情性･当然性＝身体を知る)	生活習慣病とは近代になってからであるが、日々の生活習慣の積み重ねから健康を阻害する内容について理解する。
第10回	人間と病気(老･病･死)	元気で当たり前の生活ができているときは気にしない「病」。体、心、自律神経等を含めて病気について理解を深める。
第11回	人間ーこの死すべきものー	人間は誕生から誰しもが死に向かって歩み始める。だれしもに対等に死が有るも、死とはどんなものを持って死といのかについても理解する。
第12回	「人間」概念の歴史－大人･性･健常とは－	人間の概念は、人間を人間学として科学してからスタートしているも、時代環境によって異なっていることを理解する。
第13回	不確定性を生きる－実存－	不確定性の時代を生きていくこと。実存していくことの意味を理解し、人間社会を確実に歩んでいくことに理解を深める。
第14回	人間と科学技術－尊厳死･安楽死･脳死等－	人間の築き上げてきた「科学力」は人間のものに有る。より科学が高度･進歩することにより、安楽死や脳死等についても捉え方が異なってくることを理解する。
第15回	ボーダーと人間ーまとめ	人間学に関するまとめを行う。人間･人間社会･自然社会･宇宙を理解した上で人間生活を考える。

【授業の到達目標】

人間らしい生き方を追い求め続け、幅広いものの見方･考え方ができることを目標として理解を深める。

人間の命、幸福について理解を深め、人間らしい生き方、心身の健康、統治政治社会、自然環境と人間との関係について理解できることを目標とする。

【事前･事後学習】

事前学習として、シラバスにかかわる内容と時間･教室を確認しておくこと。

授業後は、自分の生き方･日常生活での過ごし方を振り返ることの実践に努める。

【成績評価基準】

1．毎回の講義を踏まえたミニレポートの内容が課題に適合していること

2．到達目標で定めた要点を理解できていること

3．人間学の授業内容について自分の意見をまとめることができること

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	0	0	30（双方向型講義の時の発言、参加、貢献度）

【テキスト】

･毎回、各教員が資料を配布する。

【参考図書】

･それぞれの担当者が授業時に紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1102	人間と健康	1年	前期	2単位	選択必修	澤田 節子

【授業の目的と概要】

人間は、心と体とが深く関係する社会的な生き物として進化発展してきた。人々が健やかに生きるためには、一人ひとりが自らの健康を保持増進することが基本です。そのためには健康づくりに関する基本的な知識を身につけ、病気に罹らないようにするためにはどのようにすればよいか、といった健康問題に関心をもつことが大切です。「人間と健康」は、健康科学分野の基礎となる科目です。ここでは健康の概念、保健統計、ライフスタイルと健康づくりなどの基本を身につけることを目的とします。以上の内容を講義形式でします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	全体のガイダンス、「人間と健康」の授業に対する関心と欲求を確認する。
第2回	ヒトの一生と健康	人間の一生、個体の成長と発達、加齢に伴う生理機能、個人と集団と社会について学ぶ。
第3回	健康の概念1（健康とは何か）	WHOの健康に関する流れ、健康の概念、新しい健康の捉え方について学ぶ。
第4回	健康の概念2（健康意識）	研究者の健康観、健康度、健康不安、健康に対する意欲などについて学ぶ。
第5回	保健統計	保健統計とは、健康水準の測定、傷病に関する統計などについて学ぶ。
第6回	わが国の健康水準の動向	疫学の示す因果関係、生活習慣病の増加、主要死因別にみた死亡率について学ぶ。
第7回	健康阻害要因	健康を阻害する要因（食生活・生活環境・社会環境要因）について習得する。
第8回	保健分野における国際協力	プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康づくり運動について学ぶ。
第9回	わが国の健康増進対策	健康づくり運動の流れ、健康増進法、健康フロンティア戦略などについて学ぶ。
第10回	ライフサイクルと健康づくり運動（乳幼児期）	乳幼児期の物理・化学的要因、身体・生理的、心理・社会的要因と健康について学ぶ。
第11回	ライフサイクルと健康づくり運動（学童・思春期）	学童・思春期の物理・化学的要因、身体・生理的、心理・社会的要因と健康について学ぶ。
第12回	ライフサイクルと健康づくり運動（青年・成人期）	青年・成人期の身体・生理的、心理・社会的要因と健康、飲酒と喫煙について学ぶ。
第13回	ライフサイクルと健康づくり運動（高齢期）	高齢期の身体・生理的、心理・社会的要因と健康について学ぶ。
第14回	健康なときの心掛け	セルフチェック、体のチェック、健康診断の利用法などについて学ぶ。
第15回	全体のまとめ	自己の健康管理、各回の授業内容の復習をする。

【授業の到達目標】

①WHO憲章の健康の定義と健康に関する特徴について説明することできる。
②健康を阻害する要因（食生活・生活環境要因）についてあげ、説明することができる。
③健康づくり運動の流れ、健康増進法について説明することができる。
④青年・成人期からみた健康づくりの方法について説明することができる。

【事前・事後学習】

①授業の理解を深めるために、シラバスに関わる内容を確認し、専門用語を予め調べておいてください。
②新聞やテレビなどで多く報道されている健康関連の記事や各種の保健医療活動について興味・関心をもってもらうと理解を深めることができます。
③本授業の振り返りとして課題の小レポートを400字以内にまとめて、次回までに提出する。

【成績評価基準】

①毎回、授業の振り返りとして、課題の小レポートが記述できているか。
②中間時期に授業外で調べる指定課題について、レポートが提出できているか。
③到達目標にそった内容で主な要点について、説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	20%	20%	0	0

【テキスト】

・日本成人病予防協会『健康管理士一般指導員テキスト１』.

【参考図書】

・厚生統計協会編『国民衛生の動向』.

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH1103	人　間　と　心　理	1年	前期	2単位	選択必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

学部基礎科目として、今後の専門科目の学習に役立つ、心理学の基礎知識の習得を目的とする。この授業では、認知心理学、学習心理学、発達心理学、人格心理学、社会心理学、臨床心理学、大脳生理学にわたる心理学全般の基礎知識を概観する。各領域の代表的な研究を紹介するだけでなく、日常的な具体例をあげながら解説する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	人間と心理の講義の概要、到達目標、事前事後学習、受講の留意点
第2回	心理学の歴史と研究方法	1心理学とは何か　2心理学の研究方法　3心理学の歴史
第3回	感覚･知覚･認知の心理学	1見えの不思議、錯視　2聴覚は偉大、カクテルパーティー現象
第4回	学習（1）学習の形、学習を規定する条件	1学習とは　2古典的条件付け･オペラント条件付け　3学習性無力感
第5回	学習（2）記憶･思考	1記憶の主要なシステム　2思考の不思議
第6回	発達の心理学	1発達とは　2発達段階　3インプリンティング
第7回	パーソナリティ、特性と類型	1パーソナリティーとは　2パーソナリティーの特性論、類型論　3知能について
第8回	対人の心理学（1）信頼の獲得	1印象形成、自己開示　2対人魅力
第9回	対人の心理学（2）人を動かす、援助と攻撃	1説得　2同調と服従　3援助行動、攻撃行動
第10回	社会(1）集団の中の個人	1集団は正常な判断を狂わせる　2集団での意志決定　3リーダーシップ論
第11回	社会（2）集団の心理、デマ、パニック	1集団の連鎖的影響　2社会の作る「らしさ」
第12回	心のトラブル（1）心の健康、ストレス	1健康なパーソナリティーとは　2心の働き、フラストレーション、葛藤、防衛規制、ストレス
第13回	心のトラブル（2）臨床心理	1心の病　2心理療法　3心理テスト
第14回	生理学的基礎･脳と心	1脳が生み出す心　2進化と脳　3心の起源
第15回	まとめ、試験	人間と心理のまとめを行い全体を振り返る　試験

【授業の到達目標】

心と行動のつながり、個人と集団の関係等を理解し、日常の中に心の科学としての心理学を生かすことができる。

【事前･事後学習】

講義の素材は日常生活の中にある。学んだことがどのように自分の心の動きや集団の力動ととつながっているかを意識的に考える必要がある。学習テーマに沿って、無意識に通り過ごしていた日常を考え直す。各テーマに関する参考書、資料等が事前に示されるので、授業までに予習をしてくること。

【成績評価基準】

毎回、小テストが行われる。基礎的な心理学の理解度を問われるだけでなく、各回の講義内容が自分の生活の中のエピソードで考えられることが必要である。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	0	0	0	50(小テスト)

【テキスト】

･テキストは使用せず、授業内容に応じて資料を配付する。

【参考図書】

･授業内で紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1104	人間と福祉	1年	後期	2単位	選択必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

『人間と福祉』では、人間の特性（生物、思考、感性等々）を学び、人としての感性を磨き豊かにすることにあります。そのために、人間の生存の意義等について地域風土、教育、政治、宗教、哲学、文化、環境などと照合しながら生存主体の意味を理解する。
また、人は一人では生きていけない存在であることの理解を深める。福祉社会が構築され、自由、平等、民主主義社会が保障されただけでは人間は対等に夢を追う生活ができるものでもない。
一人ひとりの人間が『人間福祉』について理解し、人間として欠かせない「博愛」精神の造成が必要である。
それらの関係を理解し、人としての「主体」の在り方について探求します。講義と演習を交えて進める。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス（『人間と福祉』）を学ぶ視点と約束事の解説	人間とは、福祉とはについて学び。一人の人間としての人生観·人間観を豊にする。
第2回	人間の特性（人間とは、社会とは）	人·人間·人間社会·自然社会を理解し、人間の位置と到達点·目標を理解する。
第3回	底辺の中の底点で生活する人を支援する倫理	マザーテレサの一人の側により、亡くなると次の人の側に寄り添う姿について理解する。
第4回	人間福祉の実践思想（哲学者をみる）	古い時代から思考力を生かして人間福祉の哲学を解いた哲学者の思考内容を理解する。
第5回	人間福祉の哲学（真の至福＝幸福とは）	究極の幸せとは。自己欲求と他人の幸せの違いと自他不二の世界を理解する。
第6回	人間福祉の人間観（人間の尊厳社会とは）	人間社会の人間の尊厳の移り変わりを理解し、人間が大切にされる社会作りについて学ぶ。
第7回	価値と価値観ということば（価値は変わる）	価値観は変わるとは何が物差しか？人間社会の歩みから探る。
第8回	価値の科学化(1)	科学する力は生物では人間だけである。その科学した価値の歩みを理解する。
第9回	価値の科学化(2)	価値が時代·社会背景によって異なってきたことを理解する。
第10回	人間福祉の倫理（客観的倫理とは）	論語の教えたものや人間倫理について解説した哲学者の倫理観について学ぶ。
第11回	倫理と価値とニーズ（1）	モノの見方考え方や倫理、人間を見つめる価値観について哲学者の思考について学ぶ。
第12回	倫理と価値とニーズ（2）	倫理と価値の多様な思考があることを踏まえ、どのような価値が重要かについて理解する。
第13回	人間福祉と人権（統治社会と環境）	人権はどこまで大切にされているのか。人間の尊厳を生かす統治政治社会の態様を理解する。
第14回	人間福祉の教育と生涯学習（教育と人間）	ユネスコの学習権宣言を理解し、学習は人間生活の贅沢品ではないことを理解し、実践に勉める。
第15回	まとめ（人間主体とソーシャルワーク）	人間生活の支えとしては、ソーシャルサポートネットワークの視点が大切であることを理解する。

【授業の到達目標】

人間の特性を再認識し、人間福祉哲学の概要を学ぶ。また、人間にとってどのような視点で生き抜き、生活をすることが最も至福なのかについても学習し(幸福·愛·価値·統治社会等)、生活実践に生かすように理解を深めることを目標とする。

【事前·事後学習】

国際、政治、経済、宗教、教育、文化、環境などの問題で、現代の最先端の課題は何かについて把握するように新聞紙上や情報を捉える姿勢を養う。

【成績評価基準】

1．毎回の講義を踏まえたミニレポートの内容が課題に適合していること
2．福祉哲学をはじめとする到達目標で定めた要点を理解できていること
3．人間と福祉の授業内容について自分の意見をまとめることができること

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	30	20	0	0

【テキスト】

·毎回、関連資料、レジュメを配布する。

【参考図書】

·講義の中で、関連資料·書籍を紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1105	人間と地域	1年	後期	2単位	選択必修	横山 幸司

【授業の目的と概要】

「地域」にはエリアや概念によって様々な定義がありますが、本講では、一般的な行政区分を基本に「地域」に関わる諸問題について考えていく能力を養うことを目的とします。

すなわち、「地方自治」に関わる問題です。各地域では、地方自治体を中心に、市民やNPO、企業など様々なアクターが活動していますが、そうした各主体の取り組みを通じて、地域の本質について学んでいきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	地方自治と財政	国から地方をみたマクロの地方財政と個別自治体におけるミクロの地方財政について理解する
第2回	自治体財政健全化法	自治体の財政を健全に維持するための自治体財政健全化法等の関係法制度等を理解する
第3回	自治体の機関	地方自治体を構成する執行機関、行政委員会、議会等の機関について理解する
第4回	首長部局と教育委員会	機関の詳細について、首長部局、教育委員会の組織と実際について理解する
第5回	地方議会	機関の詳細について、地方議会の組織と実際について理解する
第6回	中央と地方の関係	中央官庁と地方自治体の関係、役割について理解する
第7回	諸外国の地方自治	諸外国の地方自治制度について理解する
第8回	地方公務員	地方自治体で働く地方公務員の制度について理解する
第9回	自治体の政策過程	地方自治体における政策決定過程やPDCAサイクル等について理解する
第10回	自治体の組織	地方自治体の組織経営や再編論などについて理解する
第11回	自治体改革	地方自治体で行われている様々な行財政改革について理解する
第12回	NPM	行財政改革の中でも特に重要なニューパブリックマネジメントについて理解する
第13回	市民参加	市民参加や市民協働のしくみと実際について理解する
第14回	NPO、新しい公共	NPOの台頭や新しい公共の概念と実際について理解する
第15回	これからの地方自治	これからの地域の望ましい発展のあり方、まちづくりについて考える。

【授業の到達目標】

「地方分権」や「道州制」など巷で話題になる用語の意味から、身近な「まちづくり」や「住民参加」の方法まで、基本的な知識、考え方を身につけることができる。

【事前・事後学習】

毎回、受講生に順番に単元ごとの要約とそれを踏まえた自分の意見を発表してもらいますので、その準備をして授業に臨むこと。

【成績評価基準】

様々な地域問題について、その本質的な意味を理解し、自分なりの評価を行い、改善策や新たな提案を行うことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	0	40（授業内レポート）

【テキスト】

·稲葉裕昭 「地方自治入門」 有斐閣

【参考図書】

·なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1106	教育学概論	1年	後期	2単位	選択必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

本講義は、教員として学校現場で教育活動に従事する上で必要な教育原理の基礎を理解することを目的とする。「教育とはどういう営みか」という基本的な問いに始まり、我が国そして諸外国の教育に関する思想や理論の歴史を振り返り、その今日的意義を考える。さらに、現代日本さらに世界の諸外国の学校教育の制度的枠組みを理解し、教育の目的と内容および方法を確認する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	（1）本講義を受講する上でのルールを確認する。（2）教育を科学的に捉えるとは何かを考える。
第2回	様々な教育観	（1）教育の語義を理解する。（2）2つの教育観の違いを検討し、自分の教育観を問い直す。
第3回	人間の成長･発達と教育	（1）人間の成長、発達に関わる概念の意味内容を理解する。（2）人間がもつ発達上の特徴について理解する。（3）発達における教育の役割について考察する。
第4回	子どもと社会	（1）子どもという概念について理解する。（2）現代の子ども観を考察する。
第5回	現代社会の変化と子どもの生活世界	（1）日本社会における子どもを取り巻く環境･子どもの生活の変化について確認する。（2）ビデオ鑑賞を通して、社会と子どもの対応関係について考察する。
第6回	近代の教育思想（1）	コメニウスとロックの教育思想の特徴を理解する（グループワークを含む）。
第7回	近代の教育思想（2）	ルソーとペスタロッチの教育思想の特徴を理解する(グループワークを含む)。
第8回	近代の教育思想（3）	近代教育を支えた教育思想の特徴と違いを理解し、現代の問題について考察する。
第9回	欧米における近代学校教育制度の誕生と発展	（1）近代社会における学校の役割について理解する。（2）欧米諸国で発展した学校制度の特徴について理解する。
第10回	日本における学校教育制度の誕生と展開	（1）日本における学校教育制度の成立と発展の歴史を理解する。（2）戦前までの日本における学校教育目的の変遷を理解する。
第11回	戦後の教育改革（1）	（1）戦前から戦後にかけての教育理念の変化を理解する。（2）戦後新教育の特徴を理解する。
第12回	戦後の教育改革（2）	（1）1950年代から1970年代にかけて展開した教育改革のテーマとその特徴について理解する。（2）学習指導要領の変遷を理解する。
第13回	戦後の教育改革（3）	（1）1980年代以降の教育改革のテーマとその特徴について理解する。（2）現代の日本が抱える教育課題について考察する。
第14回	日本と世界の教育改革	教育をめぐるグルーバルな課題について考察する（グループワークを含む）。
第15回	まとめ	これまでの学習内容を振り返り、教育に関する理念、思想、歴史について理解できているかを確認する。

【授業の到達目標】

教育観や子ども観の変遷について理解し、説明することができる。
西洋における教育理論の展開と代表的論者を理解し、説明することができる。
日本における教育史、特に近代公教育制度の展開について理解し、説明することができる。
現在の学校が抱える課題について理解し、自分なりの意見を持つことができる。

【事前・事後学習】

テキストから次回の講義内容に関連する箇所を指定するので、授業までに目を通しておくこと。
世界史および日本史の基礎知識について復習しておくこと。
教育に関するニュースには常日頃から幅広く関心を持つこと。

【成績評価基準】

日本および諸外国の教育にかかわる理念、思想、歴史について理解できているか。
現在の日本および諸外国が抱える教育課題について考察し、自分なりの考えをまとめ、表現することができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	20（授業時に作成する小レポート）	20	0	0

【テキスト】

･授業時に指示する。

【参考図書】

･適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1201	解剖学	1年	前期 後期	2単位	選択必修	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

人体は生命現象を維持するために複雑な構造及び機能をもっている。解剖学では人体の基本的なつくりである「正常な構造及び形態」を理解する。人体を構成する各要素は、それぞれが目的をもった固有の構造を有しているため、細胞、組織及び器官（臓器）レベルから解き明かすことが必要となる。本講義では、まず、人体を構成する各要素の形態学的構造を追及し、人間の体の仕組みを理解するようにする。また、日頃から疑問に思っている「からだのつくりの不思議」など身近な話題から解説を行う。そして、それらを総合して、疾病などにより正常な構造及び形態のバランスを失ったとき、人体がどのように変調をきたすかを考える。それを生理学的及び生化学的な知識と合わせて、解剖学的にそのからくりを知り、総合的な医学知識を身につけさせる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	解剖学とは	解剖学についての歴史と概要について知識を得る
第2回	医学用語及び解剖学用語	医学用語及び解剖学用語について理解し、使えるようにする
第3回	胸部の解剖	胸部（心臓･肺･血管系）の解剖について理解する
第4回	腹部の解剖	腹部（胃･肝臓･膵臓･腸）の解剖について理解する
第5回	体幹部（脊柱、腰部）の解剖	体幹部（脊柱の骨、周囲の筋）の解剖について理解する
第6回	骨盤部及び会陰部の解剖	骨盤（骨盤の骨）および会陰部、泌尿器系、生殖器系について理解する
第7回	下肢（臀部、股関節、大腿部）の解剖	下肢（臀部、股関節、大腿部）の解剖について理解する
第8回	下肢（膝関節、下腿部、足関節、足部）の解剖	下肢（膝関節、下腿部、足関節、足部）の解剖について理解する
第9回	上肢（肩関節、上腕部）の解剖	上肢（肩関節、上腕部）の解剖について理解する
第10回	上肢（肘関節、前腕部、手関節、手部）の解剖	上肢（肘関節、前腕部、手関節、手部）の解剖について理解する
第11回	頭部の解剖	頭部の骨、感覚器（眼、鼻、耳、口）の解剖について理解する
第12回	頚部の解剖	頸部の骨、皮膚の解剖について理解する
第13回	中枢神経（脳、脊髄）の解剖	中枢神経（脳、脊髄）の解剖について理解する
第14回	人体の発生	人体の発生について学ぶ
第15回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

人体の基本的な構造を理解し、基礎医学的な教養を身につけ将来の職業に生かす事のできる知識を習得することを目標とする。

【事前・事後学習】

講義内容などで疑問に思った点は，関連書籍やインターネットで調べること。
ノートづくりをしっかりしておくこと。

【成績評価基準】

特に解剖学の視点と生理学などと関連付けられているかについて評価する。特に、臓器の位置、大きさ、筋骨の名称と場所について説明することができる

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	0	10	0	40（小テスト）

【テキスト】

･田沼久美子、石橋治雄「これならわかる要点解剖学」 南山堂

【参考図書】

･F.H.マティーニ他、井上貴央（監訳）「カラー人体解剖学」西村書店
･原島広至，河合良訓　肉単―ギリシャ語･ラテン語（語源から覚える解剖学英単語集（筋肉編））エヌ･ティー･エス
･原島広至，河合良訓　骨単―ギリシャ語･ラテン語（語源から覚える解剖学英単語集（骨編））エヌ･ティー･エス
･原島広至，河合良訓　脳単―ギリシャ語･ラテン語（語源から覚える解剖学英単語集（脳･神経編）） エヌ･ティー･エス
･松村譲児 イラスト解剖学（第５版） 中外医学社

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH1202	生　　理　　学	1年	前期 後期	2単位	選択必修	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

生理学は、生体やその細胞、組織、器官などの機能を研究し、様々な機能を明らかにする学問であり、自然科学の一つである。機能の面から植物性機能と動物性機能とに区分され、植物性機能は、植物にもみられるもので、主に人体の内部環境を一定に保つために働いており、呼吸、血液循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体の維持に関する機能がこれに属し、動物性機能は、外部環境に能動的に働く行動を支えるという言わば動物に独特の機能で、運動、神経、感覚等がこれにあたる。本講義ではこれらの人間の働きの機能について学習する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	人体のつくり	生理学概要および 細胞の構造と細胞小器官の働き、細胞膜の構造と働き、組織、各器官系とその働きの概要について学習する。
第2回	運動器系	骨格筋、心筋、平滑筋の特徴を理解し、特に骨格筋についてはその構造と仕組みについて学習する。また、骨については骨の構造とその働き及び骨代謝を学習する。
第3回	神経系	神経系の分類を理解したうえで、神経細胞の構造とその働きとして活動電位などを学習する。
第4回	脳	身体機能の調節における大脳、小脳、間脳、脳幹の役割を学習する。
第5回	感覚器系	光、音、香、味、平衡覚、触覚、痛覚、温冷感などの環境情報の受容における目、耳、鼻、下、皮膚などの感覚器のはたらきを学習する。
第6回	ホメオスタシスの維持と自律神経系	ホメオスタシスの維持における交感神経、副交感神経のはたらきを学習する。
第7回	ホメオスタシスの維持と内分泌系	ホメオスタシスの維持における内分泌系（ホルモン）の概要を理解し、特にストレスホルモンとして副腎皮質ホルモン、副腎皮質ホルモン、血糖値の調節に関わる膵臓のホルモン、性ホルモンについては月経周期に関わる女性ホルモンや男性らしさを発現させる男性ホルモン、成長ホルモンについて学習する。
第8回	体温調節	核心温、皮膚温の違いを理解し、体温が変化する仕組みとして蒸散性熱放散と非蒸散性熱放散やを学習する。また、行動性体温調節や熱中症についても学習する。
第9回	血液と血管	血液の成分である赤血球、白血球、血小板の働きと動脈と静脈の構造の違いからそれぞれの役割を学習する。
第10回	循環器系	心臓の構造と働き、心拍出量の調節、心臓の電気的興奮を理解するために特殊心筋の刺激伝導系を学習する。
第11回	呼吸器系	ガス分圧差による拡散の仕組みを理解し、酸素と二酸化炭素の肺胞-血液間、血液-細胞間でのガス交換および運搬について学習する。
第12回	栄養素と代謝	五大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル）の働きを理解したうえで、それぞれがどのように代謝されるかを学習する。
第13回	消化器系	食物の消化吸収における各消化管（咽喉、食道、胃、腸）の構造とそれぞれの仕組み、及び各消化腺とその消化液に含まれる消化酵素の働きについて学習する。
第14回	泌尿器系	腎臓における腎単位の構造と働き（濾過、分泌、再吸収）による尿生成の過程を理解し、その排泄のメカニズムを学習する。
第15回	生殖機能	人の発生から出産までの過程を学習する。

【授業の到達目標】

①ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（授業内容の概要に書かれていること）を説明できる。
②骨格筋、呼吸循環系、脳・神経系については体育、スポーツ、トレーニング分野を学んでいく上で特に重要な基礎知識となるのでしっかり説明できるようになる。

【事前・事後学習】

【事前学習】
授業内容の概要をみて、講義に関わる用語などを参考図書やwebで調べてある程度理解して、講義に臨んでください。
【事後学習】
この講義では『ノート制作』が必須となっています。講義中にも説明をしたり、指示をだしたりしますが、不十分な部分や宿題は、次の講義までに補完してノートを完成させてください。また、その際に必要があれば、随時、質問は受け付けています。

【成績評価基準】

①ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（授業内容の概要に書かれていること）を説明できるか。
②とくに骨格筋、呼吸循環系、脳・神経系についてはしっかり説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	15%	15%	0%	10%

【テキスト】

・資料を配布します。

【参考図書】

・佐伯 由香／細谷 安彦『トートラ人体解剖生理学　原書9版』丸善出版
・その他、適宜に紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担当者名
HH2203	健康スポーツ心理学	2年	前期	2単位	選択必修	長谷川 望

【授業の目的と概要】

本授業では、心身の健康維持と増進、医療･医学との関連、健康をとりまく社会的環境などの問題点に焦点を当て、さらに、生活習慣病と心理･行動面の関連性について理解をさせる。また、心身の健康とスポーツの関連について広い視点から学び人間理解を深めさせたい。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション：本授業における概要　心の健康とスポーツ	健康･スポーツ心理学で学ぶ内容を理解する。　また、過去の自分を振り返って、心の面がスポーツに影響したことや、スポーツが心に影響を及ぼした事柄について発表する。
第2回	ストレスから理解する健康と病気（1）：質問紙による自己の性格分析、症状は成長のサイン	質問紙を用いて、自分の特徴を分析する。また、ストレスに対して不適応の状態の際の自分がどのような行動をとるかなどを自己分析する。
第3回	ストレスから理解する健康と病気（2）：ストレス源、ストレスのメカニズム	ストレスの原因となるストレッサーについて理解するとともに、ストレスのメカニズムについて理解する。
第4回	ストレスマネジメント教育の実際(1)：ストレス対処法、呼吸法、リラクセーション法、イメージ法等の体験実習	ストレスの対処法としての種々の方法について体験的に理解する
第5回	ストレスマネジメント教育の実際(2)：その他ストレスを緩和させる方法	他の人のストレス対処法を共有し、自分にあったストレスを緩和させる方法を考える。
第6回	行動変容を促すカウンセリング理論･実習(1)：自己理解、他者理解、非言語的メッセージ	体験学習により、自己理解、他者理解ができるようにつとめる。また、言葉にならないメッセージや言葉の裏側にある本質に目を向けることを理解しようとする
第7回	行動変容を促すカウンセリング理論･実習(2)：４つの基本姿勢、ロールプレイング	伝えること、聞くことなどのグループワークやロールプレイングを通してカウンセリングにおけるい本的な姿勢について学ぶ。
第8回	選手と指導者のメンタルマネジメント：メンタルトレーニング、プレッシャー、あがり、スランプの対処法	選手や指導者の抱える心理的な問題を理解し、種々の心理的スキルについて体験的に理解する。
第9回	スポーツ運動の心理的効果(1)：効果と副作用、QOL、推奨身体活動量	より良く生きていくうえで、スポーツや運動がどのような影響を及ぼしているか文献などをもとに理解する。
第10回	スポーツ運動の心理的効果(2)：身体活動の決定要因、個人に対する身体活動の介入	より良く生きていくうえで、どのような運動をどの程度実施することが望ましいか。どのようにすると運動が継続できるかについて考える。
第11回	スポーツに対する心理的適応：発達段階別心理的特徴、スポーツと性格･態度、スポーツ選手の心理的適応	発達段階に応じた心理的な特徴や、スポーツの指導法について理解する。また、スポーツによって養われる態度や資質、性格とスポーツの関連などについて考える
第12回	スポーツにおける動機づけ(1)：スポーツの魅力、運動有能感と無力感	動機づけの理論について学び、有能感や自己効力感について、人間の本質的な欲求という面からも理解する。相反する無力感についても理解する。
第13回	スポーツにおける動機づけ(2)：目標設定、スポーツ参加･継続･離脱	動機づけの理論に基づいた目標達成理論について学び、実際に目標設定を行う。また、スポーツへの参加･継続･離脱という事柄についても動機づけの理論から理解する。
第14回	コーチングの心理：指導上の諸問題	指導者が効果的な指導をする際に気をつけて方が良い事柄について過去の経験も踏まえて理解する。また、指導者が抱える心理的な問題についても理解する。
第15回	まとめ	人間の健康とスポーツの関わりについてどの程度理解したかを確認する。また、スポーツをするうえでの心理的な影響やその対処法についてどの程度理解したかを確認する。

【授業の到達目標】

健康な生活を送るために必要な心理面の基礎的な知識、対処法を学び、さらにスポーツ場面においても応用する方法を身につけることを目標とする。

【事前･事後学習】

日頃より、スポーツ関連のニュースや新聞記事に目を受け、スポーツ心理学の観点から考えてみる。

【成績評価基準】

毎回のミニレポートと定期テストにより評価します。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%	0	60%	0	0

【テキスト】

･適宜配布する

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2204	生　涯　ス　ポ　ー　ツ　論	2年	後期	2単位	選択必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

この授業では、生涯スポーツ学に関する基本的な知識の修得を目的とする。生涯スポーツ学を構成する主要な諸分野について理解し、生涯スポーツ学の学問体系を把握させることを内容とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	講義の目標と概要について説明する。
第2回	生涯スポーツとは何か	生涯スポーツとは何かについて考察する。
第3回	生涯スポーツの概念と理念	生涯スポーツの概念と理念について考察する。
第4回	人間の生涯とスポーツ	人間の生涯とスポーツについて考察する。
第5回	諸外国の生涯スポーツ「ヨーロッパ、北アメリカ、アジア等」	諸外国の生涯スポーツ「ヨーロッパ、北アメリカ、アジア等」について考察する。
第6回	日本における生涯スポーツ政策及びその発展過程	日本における生涯スポーツ政策及びその発展過程について考察する。（小テスト実施）
第7回	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて考察する。
第8回	ライフステージからみたスポーツ参加「女性を対象として」	女性とスポーツについて考察する。
第9回	ライフステージからみたスポーツ参加「中高年を対象として」	中高年とスポーツについて考察する。
第10回	ライフステージからみたスポーツ参加「高齢者を対象として」	障害者とスポーツについて考察する。
第11回	地域スポーツクラブの機能と役割	地域スポーツクラブの機能と役割について考察する。（小テスト実施）
第12回	生涯スポーツクラブの可能性	生涯スポーツクラブの可能性について考察する。
第13回	生涯スポーツ指導者論	生涯スポーツ指導者論について考察する。
第14回	生涯スポーツのプログラミング	生涯スポーツのプログラミングについて考察する。
第15回	まとめ	講義の総括をする。（小テスト実施）

【授業の到達目標】

生涯スポーツ学の基本的な概念や枠組みについて学び、生涯スポーツ学についての総合的な基礎力を身につけることが出来る。

【事前･事後学習】

知識の定着と理解を深めるため事前の準備として関連資料などを読んで準備すること。事後学習については授業で学んだ内容を整理しておくこと。。

【成績評価基準】

（1）授業の目的と内容を十分理解しているか。
（2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト3回）

【テキスト】

･特に指定しないが、必要に応じて資料配布する。

【参考図書】

･適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3205	健　康　管　理　論	3年	前期	2単位	選択必修	尚 爾華

【授業の目的と概要】

健康な生活習慣を確立することにより、「健康増進･発病予防」という一次予防の考え方を重視されている。本講義では代表的な生活習慣病について学習し、健康管理に必要な知識を取得を目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	生活習慣病についての知識	成人病と生活習慣病の概念、生活習慣病の発症要因、範囲、生活習慣病の患者総数、国民医療費の推移について学ぶ
第2回	がんについて	良性腫瘍、悪性腫瘍、悪性新生物とは、がん関連する遺伝子のバランスの重要性、日本のがん予防の戦略的な方向について学ぶ。
第3回	メタボリックシンドロームについて	メタボリックシンドロームの概念、診断基準、予防について学ぶ。肥満とは、脂肪の付き方、判定法、症状と病態、治療について学ぶ
第4回	糖尿病について	糖尿病の概念、食事と血糖値の関係、糖尿病の種類、症状、診断、合併症、治療及び糖尿病になりやすい生活習慣について学ぶ
第5回	脂質異常症について	脂質異常の概念と原因、症状、診断と治療について学ぶ。動脈硬化おこる部位と予防、食事療法･運動療法･薬物療法について学ぶ。
第6回	高血圧について	心臓の構造と動き、血圧の概念と基準値、高血圧の種類と原因、高血圧からつながる病気、高血圧の治療と予防について学ぶ。
第7回	動脈硬化について	動脈硬化おこる部位と予防、食事療法･運動療法･薬物療法について学ぶ。
第8回	虚血性心疾患について	狭心症の概念、種類、症状。心筋梗塞の原因、症状。診断、合併症、治療について学ぶ。
第9回	脳血管疾患について	脳卒中の種類と症状（脳内出血、クモ膜下出血、脳こうそく）、脳卒中が起きた時の処置法、脳卒中の予防について学ぶ。
第10回	高尿酸血症について	高尿酸血症･痛風の概念、原因、症状と治療、予防法について学ぶ。
第11回	肝臓病について	肝臓の主な働き、黄疸の概念、肝炎の種類、脂肪肝･肝硬変･アルコール性肝障害の原因、症状、治療。肝臓病の検査と予防について学ぶ。
第12回	アレルギーについて	アレルギーのメカニズム、アレルギーの原因。皮膚、目と鼻、気道、口腔アレルギーの症状と治療と予防について学ぶ。
第13回	骨粗しょう症について	骨の構造、役割、形成及び骨粗鬆症の症状、原因、女性ホルモンとのかかわり、予防について学ぶ。
第14回	歯周病･虫歯について	歯周病の概念、歯周病と動脈硬化、肥満、糖尿病、タバコとの関係について学ぶ。
第15回	まとと、練習問題と解説	生活習慣病はさまざまの要因とその予防について復習し、まとめる。練習問題の解説をする」

【授業の到達目標】

生活習慣病の基本知識を習得し、健康管理の基本を理解することができる。

【事前･事後学習】

毎授業後に、ノートを整理し、練習問題を解くこと。

【成績評価基準】

生活習慣病の基礎知識を用いて、健康管理について説明し、指導することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
８０	０	２０	０	０

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･健康管理士一般指導員テキスト２「生活習慣病の基礎知識」

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1206	教育心理学	1年	後期	2単位	選択必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

効果的に学習を促すには、学習者の発達における心理的特性を知り、その意味を理解し、発達に応じた適切な学習指導が求められる。この授業では、発達的な人間理解を基に、学校教育のあり方について、教育心理学の知見と教育現場の調査結果を活用しながら考察していく。講義では、基本的な人間理解を深めたうえで、教育実践が有効適切なものとなるように、学級集団の指導、教育評価方法、障害のある子どもたちの発達過程の理解、学校教育相談などを学習し、望ましい教育のあり方について理解することを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この講義の目標	教育心理学とは何か、その研究法、授業の方針と全体の流れを理解する。個性理解のための大脳半球優位性テストを行う。
第2回	発達（発達過程）の理解	遺伝と環境、言語能力などの発達過程を知り、子どもの発達について理解を深める。
第3回	発達段階と発達課題	ピアジェの認知発達段階について、また心の理論について知り、認知発達の理解を深める。
第4回	障害のある幼児児童生徒への理解	発達障害など障害のある幼児児童生徒の理解と指導を考える。
第5回	学習（学習過程）の理解	さまざまな学習理論や研究結果を知り、人はどのように学習していくのか理解を深める。
第6回	記憶	記憶のメカニズムを知り、効果的な記憶法を応用できるようにする。
第7回	動機づけ	外発的動機づけと内発的動機づけ、原因帰属などを知り、学習への適切な動機づけの方法について理解を深める。
第8回	学力と知能の理解	知能テスト、創造性テスト、学力テストについて理解する。
第9回	人格形成の理解	親の養育態度と人格形成、エリクソンの発達理論のアイデンティティの形成について、理解を深める。
第10回	適応の理解	適応機制、マズローの欲求の階層説を理解する。
第11回	学級集団の理解と指導	学級集団の人間関係を理解するためのテスト、リーダーシップについて理解を深める。
第12回	教育の場におけるカウンセリング	さまざまな心理療法と人格検査（性格検査）を知り、また人格検査の一部を体験し、理解を深める。
第13回	教育評価の意味と方法	教育評価の意味や方法などについて理解する。人格検査の続きも行う。
第14回	教師の役割の理解	教師の役割を理解する。教育現場で活用できるよう学習内容を確認する。
第15回	この講義のまとめ	本講義のまとめを行う。また理解度のチェックのための試験を行う。

【授業の到達目標】

幼児、児童及び生徒（障害のある幼児児童生徒を含む）の心身の発達に応じた適切な学習指導や教育のあり方について説明することができる。またそれらを実践する場合の留意点を説明できることを到達目標とする。

【事前・事後学習】

教育心理学では重要な心理学用語が多いので事後学習をし、よく理解しておいてほしい。毎回の授業時に、前回学習した重要な心理学用語について小テストを行う。毎回の授業でノートをとる習慣をつけてほしい。教員を目指す者は授業内容に関連する教員採用試験の過去問題を学習しておいてほしい。

【成績評価基準】

さまざまな理論や重要な心理学用語を理解し説明できるか、実践の場で活用する際の留意点を適切に記述できるかを、主な評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	0	0	40（毎回授業時の小テストを含む提出物、授業態度）

【テキスト】

・北尾倫彦他著『精選コンパクト教育心理学』北大路書房

【参考図書】

・授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2207	発達心理学	2年	前期	2単位	選択必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

社会に適応し、能力を最大限に生かし、生き生きと生活する方法を検討するためには、生涯を見通した広い視野が必要である。この授業では、生涯発達心理学について、胎児期から老年期までの各発達段階の新しい知見や理論を紹介しながら、各発達段階の特徴とその関連性を考察していく。講義では、胎児期から幼児期の発達を基盤とし、脳の発達および活性化、社会適応、虐待、発達障害、自我同一性の発達、心理的危機などを学習する。発達に影響を与える諸要因を理解し、発達をサポートするために必要な事柄の把握を目的とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この講義の目標	生涯発達心理学の考え方、その研究法、授業の方針と全体の流れを理解する。
第2回	胎児期のさまざまな能力	胎児期のさまざまな能力、胎児へのタバコやアルコールの影響を知り、理解を深める。また出生時から医療を必要とする新生児の増加について考える。
第3回	乳幼児期の脳の発達と親子関係	ピアジェの発達理論を理解する。急激な脳の発達がみられる乳幼児期における親子のコミュニケーションの重要性について理解を深める。
第4回	乳幼児期の諸発達を促す遊び、教育	乳幼児期の諸発達を促す遊び、特に脳の前頭前野の機能を活性化する遊びについて理解を深め、その遊びを体験する。
第5回	発達障害（障害のある子どもたちの理解）	発達障害など障害のある子どもたちの理解と支援を考える。
第6回	乳幼児虐待	虐待を受けると子どもにどのような影響があるのか、脳への影響や心身の発達遅滞を知り、理解を深める。
第7回	児童期における認知発達	メタ認知能力の発達について理解を深める。
第8回	児童期の諸問題	児童期の諸問題、特に学校への適応、劣等感、いじめ、テレビの影響などについて考える。
第9回	自我同一性の発達	エリクソンの発達理論について理解し、特に青年期の課題である自我同一性の獲得について考える。
第10回	青年期の諸問題	青年期の諸問題、特に孤立や社会参加の遅延などについて調査結果より考える。
第11回	恋愛と結婚	配偶者の選択と結婚、家族の機能、家族関係の諸問題、「遠ざかる結婚」現象などについて考える。
第12回	親になること	親の養育態度と子どもの性格形成、子育ての楽しさとつらさ、仕事と育児の両立などを考える。
第13回	社会適応	ストレスと不適応、過剰適応、マズローの欲求の階層説などを理解する。
第14回	中年期から老年期の諸問題	中年期から老年期の諸問題、特に自我同一性の再確立、空の巣症候群、自殺、高齢者の犯罪などについて考える。
第15回	この講義のまとめ	本講義のまとめを行う。また理解度のチェックのための試験を行う。

【授業の到達目標】

幼児、児童及び生徒（障害のある幼児、児童及び生徒を含む）の心身の発達及び学習の過程を説明することができる。また胎児期から老年期までの発達的な人間理解を基に、発達をサポートするために必要な事柄を把握し実践の場で活用できる。

【事前・事後学習】

毎回の授業時に前回学習した重要な事柄について小テストを行うので、事前・事後学習をしてよく理解しておいてほしい。ニュース記事などを通して、胎児期から老年期までの各発達段階に抱えやすい心理的な問題に関心をもつ努力をしてほしい。

【成績評価基準】

発達理論や重要な心理学用語を理解し説明できるか、実践の場で活用する際の留意点を適切に記述できるかを、主な評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	0	0	40（毎回授業時の小テストを含む提出物、授業態度）

【テキスト】

・適時資料を配布する。

【参考図書】

・無藤隆他編『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房
・内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2208	学習心理学	2年	後期	2単位	選択必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

心理学では、経験によって生じる比較的永続的な行動や知識、態度、考え方などの変化を「学習」と呼んでいる。人間は日常生活の中で絶えず学習をしており、学習のメカニズムを知ることは人間を理解するうえで重要である。この授業では、人や動物の学習行動の基本的なメカニズムを中心に、記憶に関する基本事項、動機づけなどを概説する。情報処理のメカニズムについて理解し、自らの効果的な学習への応用や、学習をサポートするうえで学習指導に応用できることを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この講義の目標	授業の方針と全体の流れを理解する。「学習」の定義について理解し、日常生活での学習、失敗から学習することの意義について考える。
第2回	古典的条件づけ	連合理論から、パブロフの古典的条件づけについて知り、日常生活での例を考える。
第3回	オペラント条件づけとプログラム学習	連合理論から、スキナーのオペラント条件づけとプログラム学習について知り、日常生活での例を考える。
第4回	洞察学習	連合理論のソーンダイクの試行錯誤説について理解する。認知理論のケーラーの洞察説について理解する。
第5回	発見学習	認知理論から、トールマンのサイン·ゲシュタルト説、レヴィンの場の理論を知る。また認知理論の学習指導法であるブルーナーの発見学習を理解する。
第6回	連合理論と認知理論	連合理論と認知理論の内容を確認し、その違いを理解する。
第7回	社会的学習理論	伝統的な学習理論とは異なるバンデューラの社会的学習理論を知り、観察学習を理解する。
第8回	学習の動機づけ	外発的動機づけと内発的動機づけの違いを知り、長期的な動機づけや効果的な学習について理解を深める。
第9回	原因帰属	日常生活の中で行動の結果の原因をどこに求めるか、成功と失敗の原因帰属に関する理論を知り、動機づけを高める方法を考える。
第10回	記憶のメカニズムと効果的な記憶法	記憶のメカニズムを知ることで、より効率のよい学習や記憶法について理解を深める。
第11回	創造性、ブレインストーミングとKJ法	創造性とは何か、また集団での創造性開発技法であるブレインストーミングやKJ法について理解を深める。
第12回	技能学習	運動技能の学習についての三段階説などを知り、自ら現場で応用できるように理解を深める。
第13回	心身の障がいと学習	心身の障がいと学習、その中でも特に学習障害について理解を深める。
第14回	教育現場での応用	さまざまな学習理論のまとめを行い、教育現場で応用できるよう確認する。
第15回	この講義のまとめ	本講義のまとめを行う。また理解度のチェックのための試験を行う。

【授業の到達目標】

人間行動の基盤となる学習の基本的なメカニズムを説明できること、また学習指導上の課題に応用できることを到達目標とする。

【事前·事後学習】

学習心理学では重要な心理学用語が多いので事後学習をし、よく理解しておいてほしい。毎回の授業時に前回学習した重要な心理学用語について小テストを行う。また学習心理学で扱う内容は、教員採用試験でもよく出題されるので、教員を目指す者は授業内容に関連する教員採用試験の過去問題を十分に学習しておいてほしい。

【成績評価基準】

さまざまな学習理論や重要な心理学用語を理解し説明できるか、現場で応用する際の留意点を適切に記述できるかを、主な評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	0	0	40（毎回授業時の小テストを含む提出物、授業態度）

【テキスト】

·適時資料を配布する。

【参考図書】

·授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3209	精　　神　　保　　健	3年	後期	2単位	選択必修	堀 篤実

【授業の目的と概要】

精神発達の様相とそれを促す適切なかかわりを学ばせる。単に精神医学的対応のみならず、各発達段階の健全育成を基盤としたかかわりの必要性を認識することが大切である。また、精神保健において重要な課題である発達障害等についての知識を身につけさせるとともに、適切な支援いついて考えさせる。さらに心の健康に関して家庭･地域･学校や職場の連携の重要性を学ばせる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業オリエンテーション　精神保健の概要	精神保健という学問やこの授業で扱う内容について説明する。
第2回	心の健康とは	精神保健の歴史や意義およびその課題について学習することにより、精神保健の理解を深める。
第3回	ストレス	ストレスについて理解するとともにその適応やコーピングについて学習する。
第4回	適応と防衛機制	欲求不満や葛藤、ストレスに対する適応の機制について学び、自我防衛機制についての理解を深める。
第5回	発達と精神保健（1）胎児期の発達と精神保健	胎児期の発達の特質と課題について学ぶとともに、この時期の問題と精神保健についての理解を深める。
第6回	発達と精神保健（2）乳児期の発達と精神保健	乳児期の発達の特質と課題について学ぶとともに、この時期の問題と精神保健についての理解を深める。
第7回	発達と精神保健（3）幼児期の発達と精神保健	幼児期の発達の特質と課題について学ぶとともに、この時期の問題と精神保健についての理解を深める。
第8回	発達と精神保健（4）児童期の発達と精神保健	学童期の発達の特質と課題について学ぶとともに、この時期の問題と精神保健についての理解を深める。
第9回	発達と精神保健（5）青年期の発達と精神保健	青年期の発達の特質と課題について学ぶとともに、この時期の問題と精神保健についての理解を深める。
第10回	発達と精神保健（6）成人期の発達と精神保健	成人期の発達の特質と課題について学ぶとともに、この時期の問題と精神保健についての理解を深める。
第11回	発達と精神保健（5）老年期の発達と精神保健	老年期の発達の特質と課題について学ぶとともに、この時期の問題と精神保健についての理解を深める。
第12回	家族と精神保健	家庭環境の特質とその役割について学習するとともに、家庭環境における問題と精神保健について理解を深める。
第13回	学校と精神保健	学校環境の特質とその役割について学習するとともに、学校環境における問題と精神保健について理解を深める。
第14回	職場と精神保健	職場環境の特質とその役割について学習するとともに、職場環境における問題と精神保健について理解を深める。
第15回	まとめ	授業で学習したことの振り返りと筆記試験を実施する。

【授業の到達目標】

ストレスとその心身への影響、適切な対処のあり方について説明できる。
発達段階別の心理的特徴と心の健康について説明できる。

【事前･事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードついて調べる。

【成績評価基準】

ストレスとその心身への影響、適切な対処のあり方について説明できるか。
発達段階別の心の健康について説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（毎授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

･必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

･特になし。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1210	人間関係論	1年	後期	2単位	選択必修	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

人が生きる上で、人間関係は必要不可欠かつ避けて通れないものであり、個人の性格の形成・心理的健康にも多大な影響を及ぼす重要な要因である。本講義では人間関係についての基礎的な理論と方法について学び、学生生活での実践を目指したグループワークを用いて体験的な学習も行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	人間関係論の講義の概要、事前事後学習、評価について、受講の留意点を説明する
第2回	人間の進化・発達と人間関係	人間の発達の歴史における関係性の重要性を学ぶ
第3回	自己認知と自己概念	自分自身についての認知や自己概念について学ぶ
第4回	自尊感情・自己肯定感	自尊感情と自己肯定感が心理に与える影響について学ぶ
第5回	関係における距離感と自己開示	対人関係における適切な距離と、適度な自己開示の効果について、ワークを用いて体験的に学習する
第6回	関係における対人不安、抑うつ	人間関係において感じる対人不安や抑うつについて、予防的な気づきの重要性を学ぶ
第7回	対人関係における悪循環と改善策	対人回避が対人不安や抑うつを高める悪循環と、スモールステップによる改善の重要性を学ぶ
第8回	対人関係のコツ	対人関係の向上につながる簡単な社会スキルを体験する
第9回	向社会性・援助行動	他者への肯定的な関わりや支援・援助行動について、ワークを用いて体験的に学習する
第10回	乳幼児期における人間関係	乳幼児期の発達・心理に影響を及ぼす人間関係について学び、保護者の立場からワークを体験する
第11回	児童期における人間関係	児童期の発達・心理に影響を及ぼす人間関係について学び、児童の立場からワークを体験する
第12回	思春期における人間関係	思春期の発達・心理に影響を及ぼす人間関係について学び、ワークを体験する
第13回	アサーション	自己主張のタイプの学びと、自己主張ワークの体験学習を行う
第14回	社会における多様性と関係性	現代社会における人種・ジェンダー・性格などの人間の多様性と、関係の中における社会構成について学ぶ
第15回	まとめ	本講義のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

人間の各段階の発達・人格形成などに広く影響を与える人間関係について理解し、説明することができる
人間関係におけるコミュニケーションのポイントやスキルについて説明することができる

【事前・事後学習】

授業前に各テーマに関して調べてくる。授業後は、生活における授業内容で扱ったことを活用し、振り返る機会とする。

【成績評価基準】

人間関係が、人間の発達・人格形成に与える影響について説明することができるか
コミュニケーションのポイントやスキルについて説明することができるか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2211	社　会　福　祉　概　論	2年	前期	2単位	選択必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

社会福祉学の歩みは、人間社会で、実用的な人々を支えるという生活実践から発展している。従って、社会福祉の発展は社会福祉学の真理が基準であるという点において、社会福祉の「実践」は否定しがたいものである。福祉史の多くの実践を踏まえて、福祉は属性的保護中心からウェルビーイング（人権の尊重･個人の尊厳･自己実現）を目指すものとして変化している。憲法第25条の生存権保障と併せて、憲法第13条の個人の幸福追求権（より良く生きられる社会づくり）が求められる。社会福祉の史実と属性保護のあり方を学びつつ、新しい福祉の考え方であるウェルビーイングの理解を深めるために、講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	現代社会と社会福祉	現代社会の問題を捉える社会福祉の固有の視点、枠組み、基本的用語を学ぶ
第2回	社会の特徴と社会福祉の制度	社会変動に対応してきた社会問題と福祉問題との関連についての「意味」を理解する
第3回	社会政策と経済政策	社会政策を経済政策の観点から捉えた福祉政策の意義と課題を理解する
第4回	福祉政策と社会問題	社会問題と社会政策のなかの福祉政策から福祉の体系と固有性を学ぶ
第5回	福祉関連政策	ソーシャルウェルフェアとしての雇用と教育と住宅に関する福祉関連政策を理解する
第6回	社会福祉の理念	多様な施策の内容に通底する理念（人権の尊重･個人の尊厳･自己実現）を学ぶ
第7回	社会福祉学の理論	学問としての社会福祉学の理論の全体像（構成要素）を理解する
第8回	社会福祉史（日本）	日本の社会福祉の発展過程としての近代以降の福祉政策の歴史を学ぶ
第9回	社会福祉史（外国）	英国の救貧法成立過程と米国の福祉を中心に西欧やアジアの社会福祉の歴史を学ぶ
第10回	福祉政策の国際比較と現代の課題	福祉政策と専門家の実践活動の国際比較から現代の課題を再認識する
第11回	福祉政策におけるニーズと資源	基本問題としての福祉の社会資源と生活のニーズを関連づけ、福祉の援助について学ぶ
第12回	福祉サービスの理論と実際	所得維持、保健医療、住居、教育、雇用、パーソナルソーシャルサービスを学ぶ
第13回	社会福祉の相談援助活動と専門職	相談援助活動と専門職の知識と技術と価値の基底･基盤を学ぶ
第14回	社会福祉政策の役割と機能	社会福祉政策と社会福祉の活動という二元論を関連付けて理解する
第15回	現代福祉政策の論点とまとめ	現代福祉政策の論点をまとめて、現代の課題としての包括的福祉政策を学ぶ

【授業の到達目標】

1．現代社会の問題を社会問題として捉えることができる。
2．社会福祉は、その社会問題を解決するために福祉政策として実施されることが理解できる。
3．サービスや福祉専門職が中心となって福祉の活動が行われていることを理解できる。
4．政策や制度が実現する点に必要な福祉哲学や思想を理解できる。

【事前･事後学習】

1．毎回、新聞記事などのプリントを配布するので後日でもよいが復習すること
2．教科書をよく読んで事前学習をすること
3．つねに社会問題に関心を持つこと

【成績評価基準】

1．社会問題を自分の関心事として捉えることができること
2．福祉サービスの内容を自分の家族や地域の問題をしてとらえることができること
3．社会福祉の理念を自分のものとして、自分の言葉で語れるようになること
以上を総合評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
６０%	２０%	２０%	０%	０%

【テキスト】

･資料配布

【参考図書】

･授業の中で紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2212	地域福祉論	2年	後期	2単位	選択必修	横山 幸司

【授業の目的と概要】

さまざまな社会福祉の課題を「ヒューマンニード」という基本視点からとらえ直し、政治、経済、社会の文脈で現代社会と福祉を考えます。医療、労働、教育等の社会政策の一部としての社会福祉政策を思考する力を養うこととします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	福祉概念の概説と今後の講義の概要・予定と授業でのルールの説明
第2回	現代社会と福祉	社会福祉政策の定義を紹介し、福祉の課題を社会構造と関連する理論を理解する
第3回	福祉への社会的対応	社会福祉政策の基礎的概念、背景をなす社会思想や政治哲学を理解する
第4回	福祉ニードと供給システム	社会福祉政策を構成する基本的要素、ニードと資源の関連について理解する
第5回	福祉の計画と評価	福祉計画の立案と評価を巡る基礎的な事項にいて理解する
第6回	福祉政策と市場経済	経済理論からみた福祉政策の意味を理解する
第7回	福祉政策の近代史	国が関与する福祉政策の源流を理解する
第8回	福祉政策の現代史	第二次大戦終了後から現在までの福祉政策の歴史について理解する
第9回	日本の福祉制度	広義の社会保障制度と関連制度について理解する
第10回	労働・住宅・教育政策	雇用・住宅・教育政策と社会福祉の関連について理解する
第11回	所得の保障	社会保険、社会手当、公的扶助からなる所得保障について理解する
第12回	健康・医療・介護の保障	介護保険制度や高齢者医療保険制度について理解する
第13回	福祉サービスの保障	社会福祉基礎構造改革以降の実際について理解する
第14回	福祉制度の費用と財政	社会保障・税一体改革大綱以降の実際について理解する
第15回	まとめ	講座を振り返りながら改めて福祉に対する価値観が多様化することについて考え自分なりの福祉感を形成する

【授業の到達目標】

社会福祉・地域福祉に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
今後生じるであろう地域福祉に関する課題に対して自分なりの考え方を示すことができる。

【事前・事後学習】

毎回、受講生に順番に単元ごとの要約とそれを踏まえた自分の意見を発表してもらいますので、その準備をして授業に臨むこと。

【成績評価基準】

社会福祉・地域福祉に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
今後生じるであろう地域福祉に関する課題に対して自分なりの考え方を示すことができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	0	40（授業内レポート）

【テキスト】

・坂田周一「社会福祉政策」有斐閣アルマ

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3213	環境保健論	3年	前期	2単位	選択必修	澤田 節子

【授業の目的と概要】

自然環境や社会環境が大きく変動している今、人間の健康が環境にどのように影響されているか、健康に生きるための自然環境・人為的環境の観点から環境問題を考えることが大切です。「環境保健論」は、疾病予防・健康増進のための施策が果たしてきた役割を知ると共に、身近な生活環境により引き起こされる健康障害や各種の保健活動について理解することです。ここでは、人体と環境、生活環境の保全、地域保健活動などについて学ぶことを目的とします。以上の内容を講義形式でします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	全体のガイダンス、授業に対する関心と欲求を確認する。
第2回	わが国の公衆衛生	公衆衛生のあゆみ、公衆衛生の領域と活動などについて学ぶ。
第3回	人体と環境	人間を取り巻く環境要因、環境に対する適応について学ぶ。
第4回	物理環境と健康１	安全な空気（大気）、安全な水、上下水道などについて学ぶ。
第5回	物理環境と健康２	気象・季節と生体、騒音・悪臭など人体への影響について学ぶ。
第6回	環境問題と健康	環境破壊の原因、大気・水質汚染の人体への影響、わが国の公害について学ぶ。
第7回	地球規模での環境問題と健康	地球規模での環境問題、新しい環境問題と人体への影響について学ぶ。
第8回	世界の保健活動	WHOの保健活動、人口政策と健康問題、国際的な取り組みについて学ぶ。
第9回	感染症とその予防	感染症の動向、再興感染症（結核）について学ぶ。
第10回	地域社会における健康管理活動	地域保健の考え方、活動の拠点（保健所・市町村保健センター）について学ぶ。
第11回	母子の健康管理活動（母子保健）	母子保健の概要、母子保健法、主な母子保健事業について学ぶ。
第12回	学校における保健活動	子どもに多い病気、学校保健安全法、学校における保健事業について学ぶ。
第13回	職場における健康管理活動（産業保健）	産業保健の目的と現状、労働災害、労働衛生管理について学ぶ。
第14回	職場における健康管理活動（労働衛生教育等）	労働衛生教育、対象別の健康管理、産業保健の動向と今後の課題について学ぶ。
第15回	高齢者の健康管理活動、全体のまとめ	高齢者の健康、各回の授業内容の復習をする。

【授業の到達目標】

①人間を取り巻く環境要因について説明することできる。
②新しい環境問題と人体への影響について説明することができる
③主な母子保健事業について説明することができる。
④労働による健康障害と職場の健康増進対策について説明することができる。

【事前・事後学習】

①授業の理解を深めるためシラバスに関わる内容を事前に確認し、専門用語を予め調べておいてください。
②新聞やテレビなどで多く報道されている健康関連の記事や各種の保健医療活動について興味・関心をもってもらうと理解を深めることができます。
③本授業の振り返りとして課題小レポートを400字以内にまとめて、次回までに提出することができる。

【成績評価基準】

①毎回、授業の振り返りとして、課題の小レポートが記述できているか。
②中間時期に授業外で調べる指定課題について、レポートが提出できているか。
③到達目標にそった内容で主な要点について、説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	20%	20%	0	0

【テキスト】

・日本成人病予防協会『健康管理士一般指導員テキスト５』.

【参考図書】

・清水忠彦他 『公衆衛生』 ヌーベルヒロカワ.

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3214	社会保障論	3年	後期	2単位	選択必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

社会保障は、社会問題や生活問題と切り離せない。社会問題は、生活問題の解決策として機能する。そして、社会問題を生活問題として考察するためには、学生自身の問題意識が欠かせない。問題意識なしには単に社会保障の制度や政策のコンテンツ把握に過ぎないだろう。本講義では、社会保障を「生活」から見つめ、社会問題との関連性や学生の問題意識との関連とが結びつくように、幅広い観点と視野をもつ講義としたいと考えている。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	現代社会と社会保障	現代社会における社会保障と関連づけられる社会問題を分析的に考察する
第2回	社会保障と生活問題	生活者の問題としての暮らしのなかの社会保障を具体的に提示して考える
第3回	社会保障の歴史	欧米の社会保障の歴史を中心にした歴史の発展過程と負担率などの国際比較を学ぶ
第4回	社会保障の構造	社会保障の学術的な全体像を探り、その構造（しくみ）と機能（はたらき）を学ぶ
第5回	社会保障の財源と費用	社会保障の全体の費用の規模、部門別の内訳などの財源と費用を学ぶ
第6回	年金保険制度	公的年金制度の制度体系、各制度の給付の概要と負担の基本的な仕組みを学ぶ
第7回	医療保険制度	医療保険制度の沿革と概要、健康保険制度などの概要、国民医療費などの問題を学ぶ
第8回	介護保険制度	介護保険制度創設の経緯と制度の概要を中心に制度の詳しい仕組みを学ぶ
第9回	労働保険制度	労働者のための労働者災害補償保険（労災保険）と雇用保険制度の概要を学ぶ
第10回	生活と社会	ライフサイクルからみた生活と社会保障制度を対応させ、解決策である社会保障を学ぶ
第11回	生活問題と社会福祉	生活問題のニーズを社会保障などの社会資源を組み合わせて解決する社会福祉を学ぶ
第12回	生活問題と福祉の制度政策	生活問題と社会福祉の制度政策（児童、高齢、障害、母子、生活保護など）の概要を学ぶ
第13回	社会保障と民間保険	社会保障と民間保険のそれぞれの役割と機能、特徴および現状と課題を学ぶ
第14回	社会保障の国際比較	社会保障の国際的な政策連携を中心に、国際社会における医療や福祉を学ぶ
第15回	社会保障と生活の課題	社会保障が当面する課題、その背景を理解し、社会保障のこれからの整備の方向を探る

【授業の到達目標】

1．社会保障に関する制度や政策の概要の把握
2．社会保障と生活問題の関連性の理解

【事前・事後学習】

1．新聞記事などで社会保障問題を学ぶこと
2．新聞やニュースで社会保障（年金や雇用）について問題意識を高めること

【成績評価基準】

1．社会保障に関する制度や政策の概要がつかめること
2．自分の将来の問題と家族や地域の問題として理解すること

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	40	10	0	0

【テキスト】

・資料配布

【参考図書】

・授業時に紹介

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1215	児童家庭福祉	1年	後期	2単位	選択必修	西村 伊佐夫 丹羽 純子

【授業の目的と概要】

すべての子どもたちがより良く生きていくための福祉について理解する。そして児童虐待、不登校、非行問題など子どもたちの様々な問題について考えていく。そういった子どもの問題を考えるためには、子どもが暮らす家庭のことも考えなければならない。子どもと家族についての視点を持ちつつ、児童福祉の現場での事例などを紹介して児童福祉についての理解を深めていく。以上のような内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	児童家庭福祉を学ぶために（西村）	児童家庭福祉を学ぶためにオリエンテーションを行う。講師の経歴と自己紹介を通して児童家庭福祉の実践の一端を紹介する。
第2回	子どもを取り巻く環境と児童問題（西村）	日本の児童問題として①少子化②子どもの貧困③非行④児童虐待等の児童問題を取り上げる。
第3回	子どもの権利と児童家庭福祉（西村）	子どもの権利とは何か、国連子どもの権利条約について取り上げながら児童家庭福祉を考える
第4回	児童福祉の歴史１　古代から近代までの児童福祉前史と先駆的な実践（西村）	日本の児童福祉の歴史として、古代からの前史を踏まえ、戦前の先駆的児童福祉実践までを概観する。
第5回	児童福祉の歴史２　戦後児童福祉の歴史と現状（西村）	日本の児童福祉の歴史として、戦後児童福祉現代史を整理する。
第6回	保育･児童家庭福祉の世界を学ぶ（丹羽）	講師の経歴の紹介とともに保育･児童健全育成の魅力を紹介する。
第7回	児童家庭福祉の法制度　児童福祉法（丹羽）	児童福祉法の全体像とポイントを整理する。
第8回	児童福祉法の実際１　保育制度（丹羽）	保育制度の全体像と仕組み、現状と課題を取り上げる。
第9回	児童福祉法の実際２　児童健全育成（丹羽）	児童健全育成の現状と課題を取り上げる。
第10回	児童福祉法の実際３　地域子育て支援（丹羽）	地域における子育て支援の現状と課題を取り上げる。
第11回	児童家庭福祉の現場１　保育所（丹羽）	保育所における保育の事例を取り上げて保育実践の一端を理解する。
第12回	児童家庭福祉の現場２　児童館（丹羽）	児童館における子ども･子育て支援、児童健全育成の実際を理解する。
第13回	児童家庭福祉の現場３　児童養護施設（西村）	児童養護施設を取り上げて社会的養護の現状と課題を理解する。
第14回	児童家庭福祉の現場４　施設養護と里親制度（西村）	施設養護とともに里親制度を取り上げてわが国の社会的養護の現状と課題を整理する。
第15回	まとめと到達度の確認（西村）	全体のまとめと到達度の確認を行なう。

【授業の到達目標】

1．今日の児童問題の現状と本質を理解できる
2．児童福祉史の概観と、優れた先駆者たちの実践を知ることができる
3．児童家庭福祉の仕組みと法制度及びサービスの全体像を理解できる
4．児童家庭福祉援助者としての正しい理念と価値観を身につけることができる

【事前･事後学習】

子どもと家族に関する問題に関心を持ち、児童福祉施設等の見学やボランティア活動等に積極的に参加することによって子どもと関わり、できるだけ実践現場に触れながら児童家庭福祉への意識を高め、実践的な学習姿勢を身につけておくこと。毎授業までに該当するテキストを精読して分からない部分に下線を引いておくこと。

【成績評価基準】

1．今日の児童問題とその本質を理解できるか
2．児童福祉史の概観と、優れた先駆者たちの実践を理解できるか
3．児童家庭福祉の仕組みと法制度及びサービスの現状と課題を理解できるか
4．児童家庭福祉援助者としての正しい理念と価値観を身につけることができるか
以上の基準で担当者2名の総合評価を行います。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

･『保育福祉小六法　2017年度版』 みらい
･松本園子他 『子どもと家庭の福祉を学ぶ』 ななみ書房

【参考図書】

･授業内で紹介する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH2301	運　動　生　理　学	2年	前期	2単位	選択	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

運動生理学は、生理学の一分野として、人間が身体運動やスポーツを行った時のからだの適応能あるいは機能を系統的に究明し、その法則性を明らかにしようとするものである。本講義ではヒトが運動を行うことによって呼吸、循環、代謝、筋、血液などといった諸機能がどのような応答あるいは適応を示すのか、またそれらの適応性が環境条件の違いによってどのような影響を受けるかについて学ばせる。加えて、運動と脳との関係についても理解を深める。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	筋収縮とエネルギー供給系	ATPを再合成する3つの系について理解する。
第2回	筋線維の種類とその特徴	速筋、遅筋についてそれぞれ特徴などを理解する。
第3回	神経系の役割	運動単位やその動員パターンを理解する。
第4回	筋の収縮様式と筋力	筋の収縮様式とトレーニングによる筋力の変化の特徴を理解する。
第5回	運動と循環	運動時の循環やトレーニングによる循環器の変化を理解する。
第6回	運動と呼吸	運動時の呼吸やトレーニングによる循環器の変化を理解する。
第7回	運動とホルモン	運動にかかわるホルモンのはたらきを理解する。
第8回	身体組成と肥満	除脂肪体重の測定や評価について、肥満について学習する。
第9回	運動処方	健康や体力の維持･増進のための運動処方のエビデンスについて理解する。
第10回	運動と生活習慣病	生活習慣病についてとその改善･予防のための運動を考える。
第11回	運動と体温調節	運動を行っている時の体温調節について理解する。
第12回	筋疲労の要因	運動をすることにより引き起こされる筋疲労の要因について考える･
第13回	老化に伴う身体機能の変化	老化に伴う身体機能や体力の変化を学び、高齢者の体力向上のための運動について考える。
第14回	運動と栄養	運動や体つくりに必要な栄養素や、その摂取の仕方について考える。
第15回	まとめ	今までの学習をまとめて､運動時に起こる身体の生理学的変化などを考える。

【授業の到達目標】

運動にかかわるヒトの機能やスポーツ･運動による身体の変化について理解し、実学として、スポーツ活動や生活の中で役立てることができるようになることを目標とする。

【事前・事後学習】

しっかり予習して講義に備えてください。
しっかり復習して試験に備えてください。
わからないことがあれば聞きに来てください。

【成績評価基準】

運動にかかわるヒトの機能やスポーツ･運動による身体の変化について理解しているかどうかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	15%	15%	0	10%

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･「入門運動生理学第3版」 勝田茂　杏林書院
･NSCAジャパン編　ストレングス＆コンディショニングⅠ　理論編　大修館書店
･NSCA決定版　ストレングストレーニング＆コンディショニング　(T.R. Beachle, R.W. Earle)、ブックハウスHD

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH2302	バ イ オ メ カ ニ ク ス	2年	後期	2単位	選択	小島 正憲

【授業の目的と概要】

身体運動の仕組みをよりよく理解するための学問を「バイオメカニクス」と呼ぶ。力学、解剖学、生理学など多くの分野が関係している。スポーツ分野においては、技術の向上や障害の予防にその知識が役立つことが期待される。この講義ではバイオメカニクスとは何かを学習し、スポーツ分野での合理的な動きをバイオメカニクスの観点から説明できることを目的としている。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	バイオメカニクスとは？	受講における諸注意、授業の進め方、バイオメカニクスの歴史と展望について
第2回	身体運動と力学の関係	力の作用、静的つり合い、関節とてこの作用について
第3回	運動の法則	スカラーとベクトル、ニュートンの運動法則、オイラーの運動法則について
第4回	身体運動と力1	ニュートンの運動法則（並進運動の力学）、オイラーの運動法則（回転運動の力学）について
第5回	身体運動と力2	オイラーの運動法則（回転運動の力学）、流体力学について
第6回	中間テストとここまでの復習	詳細は事前の授業にて通知
第7回	解剖学との接点	運動解剖学の基礎：人体の動く仕組みについてⅠ（骨格系・関節系・筋肉系・神経系）
第8回	運動生理学との接点	運動生理学の基礎：人体の動く仕組みについてⅡ（筋収縮のメカニズムと様式・エネルギー供給系）
第9回	バイオメカニクスの測定法	バイオメカニクスの測定法：映像分析、フォースプレート、筋電図、超音波など
第10回	バイオメカニクスの応用1　：立つ、歩く、走る、跳ぶ	バイオメカニクスの実際1：立つ、歩く、走る、跳ぶについて
第11回	バイオメカニクスの応用2　：投げる、打つ、蹴る	バイオメカニクスの実際2：投げる、打つ、蹴るについて
第12回	バイオメカニクスの応用3　：泳ぐ、滑る、漕ぐ、運動スキル	バイオメカニクスの実際3：泳ぐ、滑る、漕ぐ、運動スキルについて
第13回	バイオメカニクスの応用4　：スポーツ道具	バイオメカニクスの実際4：スポーツ用具のバイオメカニクスについて
第14回	バイオメカニクスの応用5　：スポーツ傷害	バイオメカニクスの実際5：スポーツ外傷のバイオメカニクスについて
第15回	授業のまとめ	講義内容の振り返り

【授業の到達目標】

運動における動作を、科学的（バイオメカニクス的）な視点で捉え図解できること。

【事前・事後学習】

事前学習として、関連資料や文献を読み準備すること。
事後指導として、各講義で学んだ内容を整理し、自分なりにまとめておくこと。

【成績評価基準】

各講義の内容を、十分に理解できているか。
運動における動作を、科学的（バイオメカニクス的）な視点で捉え図解できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	10%（授業毎の感想文）	10%	0%	20%（小・中間テスト）

【テキスト】

・授業内容に応じて、必要資料を配布する。

【参考図書】

・スポーツバイオメカニクス（深代千之、桜井伸二他編著：朝倉書店、2001）
・バイオメカニクス（金子公宥、福永哲夫：杏林書院、2004）
・スポーツ・バイオメカニクス入門第3版（金子公宥：杏林書院、2006）
・スポーツ技術のバイオメカニクス（植屋清見：ブックハウスHD、2011）

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2303	救急処置法	2年	前期	2単位	選択	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

不慮の事故や急病になった場合は、医療機関に着くまでの適切な応急処置が大切です。そのため市民ができる一次救命処置や各種の応急手当に関する基本的な知識・技術・態度を学習します。とくに学校、スポーツ施設、福祉施設などをはじめ、人が大勢集まる場所で働こうと考えている人は、応急処置の方法を身につけていることが望まれます。

ここでは、市民が行うことのできる急を要する処置方法と、学校や家庭のなかで起こりやすい傷病・症候の応急処置について学ぶことを目的とします。以上の内容を講義・演習形式でします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	ガイダンス、救急処置法に関する用語、応急処置について、一般医療と救急医療の違い、救急医療の変遷、救急車の運用について、救急法救急員の資格取得
第2回	救命の連鎖と応急処置の基本	救命の連鎖、迅速な応急手当、応急手当のための観察、全身の観察、生命徴候の観察及び実際、意識の確認、意識障害の観察・評価
第3回	呼吸・循環と心肺停止	呼吸循環のしくみ（生体に必要な栄養と酸素、循環、脳の関与、生命の維持）、心肺停止の病態（心停止、呼吸停止、心電図について）
第4回	急を要する処置方法ー心肺蘇生法	救急蘇生法の重要性、心肺停止の判断、心肺蘇生法のＡＢＣ（気道の確保、人工呼吸、心臓マサージ）、
第5回	急を要する処置方法ー心肺蘇生法の実際	市民が行う応急処置、徐細動について、一次救命処置の演習（練習用ＡＤＥを用いた救急処置法）
第6回	傷病に対する応急処置ー外傷	家庭や学校での傷害、傷害の手当の基本、開放性傷害及び応急手当（傷の手当の実際）、非開放性傷害及び応急手当、打撲の応急手当、重症外傷（鈍的外傷）
第7回	傷病に対する応急処置ー骨折等	骨の解剖生理、骨折の分類、非開放性・開放性骨折の分類、骨折の観察、骨折の応急手当、骨折時の固定、骨折の合併症、骨折の治癒機転
第8回	学校や家庭での応急処置－救急医薬品等	学校の保健室、（学校医、学校薬剤師、養護教諭）、医薬品とは何か、医薬品の区分、薬理作用による影響とその要因、薬の薬物動態、医薬品についての教育
第9回	傷病に対する応急処置ー熱傷	皮膚の構造と生理、熱傷の受傷状況、熱傷の受傷面積、熱傷の深度とその特徴、熱傷の病態、熱傷の応急手当
第10回	傷病に対する応急処置ー急性中毒等	主な中毒の種類、日本中毒情報センター、代表的な中毒起因物質（医薬品、農薬など）、急性中毒の診断、急性中毒の応急手当
第11回	傷病に対する応急処置ー熱中症・低体温症	体温の調節、熱中症の分類と病変、熱中症の応急手当、熱中症の代表的な冷却法、熱中症の予防、低体温症とは、低体温症の応急手当
第12回	傷病に対する応急処置ー異物・溺水等	異物について、気道異物の要因、気道異物の観察及び応急手当、消化管異物の要因及び応急手当、溺水について、溺水の救助の方法、溺水の応急手当
第13回	症候に対する応急処置ー発熱等	体温調節のしくみ、体温の変動要因、発熱のメカニズム、発熱の原因となる疾患、発熱の伴う随伴症状、発熱時のケア、冷法とは、冷法の種類とその適応
第14回	災害発生時の対応、搬送	災害・そのとき、近年国内における災害事例、災害の種類、災害医療とは、災害医療体制、搬送法について、搬送の準備・方法
第15回	まとめ	全体のまとめ、救命の連鎖と応急手当

【授業の到達目標】

①傷病者に対する生命徴候の観察ができ、一次救命処置の基本的な手技を身につけることができる。

②傷病・症候（傷害、熱傷、熱中症、急性中毒、異物、発熱）に対する応急手当について説明することができる。

【事前・事後学習】

①授業の理解を深めるために、シラバスに関わる内容を確認し、専門用語を予め調べておいてください。

②傷病などの応急手当を理解するためには、人間の体に関する知識（解剖学・生理学）が必要となるので、既に学んだ資料を大切にし、活用してください。

③日本赤十字社などが実施している「救急法救急員」の講習を受講することが望ましい。

【成績評価基準】

一次救命処置の方法を理解し、正しく行うこと、またその方法を人に伝えることができるようになることを観点とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40%	20%	30%	10%	0

【テキスト】

・適宜、資料を配布する。

【参考図書】

・衛藤隆他『教師のための救急百科』大修館書店、2008年.
・小林國男『好きになる救急医学』講談社、2010年.
・山本保博他『アトラス応急処置マニュアル』南江堂、2010年.
・渡邊隆夫編『コメデカルのための救急医学』医学出版社、2009年.

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2304	トレーニング科学	2年	前期	2単位	選択	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

人間のからだは意図的に働きかけることにより構造的にも機能的にも合目的的に変化させることができる。この意図的な働きかけをトレーニングと呼ぶ。適切なトレーニングはその人間を強くし、今までなし得なかったことを可能とする。それによってスポーツで勝利したり、からだを格好良くしたり、健康を得たりと目的は人それぞれである。本講義では、トレーニングに関わるからだの仕組みとその測定･評価方法、科学的なトレーニングの進め方について学ぶ。各自がトレーニングプログラムを自分自身で作成できることを目標とし、その時の土台となるべき科学的知識について学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション､トレーニング科学の概論1（体力とは）	体力の定義を説明し、本講義で扱うトレーニングを定義する
第2回	トレーニング科学の概論2（身体組成、脂肪と筋肉、無酸素性能力、有酸素性能力、運動及びトレーニングの生体エネルギー）	運動を作り出す身体のしくみを学習する
第3回	トレーニングの種類（ウエイトトレーニング、無酸素性トレーニング、有酸素性レーニング）	一般的に体力トレーニングとされる方法を概説する
第4回	トレーニングの進め方（原理･原則、トレーニング処方）	トレーニングの原理原則を概説し、処方の注意点を説明する
第5回	トレーニング理論とその方法1（ウェイトトレーニング）	ウエイトトレーニングの理論と方法を説明する
第6回	トレーニング理論とその方法2（無酸素性トレーニング）	無酸素性トレーニングの理論と方法を説明する
第7回	トレーニング理論とその方法3（有酸素性トレーニング）	有酸素性トレーニングの理論と方法を説明する
第8回	トレーニング理論とその方法4（スピード、アジリティー、クイックネストレーニング及びバランストレーニング）	スピード養成法に関して説明する
第9回	体力テストとその活用	体力テストについて紹介し、その活用について説明する
第10回	スキルの獲得とその獲得過程1（成長期のトレーニング）	成長期のトレーニングの留意点を説明する
第11回	スキルの獲得とその獲得過程2（コーディネーショントレーニングの理論）	技術トレーニングにおける体力トレーニングからのアプローチを説明する
第12回	コンディショニングの理論と手法1（ストレッチング、スポーツマッサージ）	ストレッチやマッサージの効果を説明する
第13回	コンディショニングの理論と手法2（アイシング、テーピング）	アイシングやテーピングの効果を説明する
第14回	トレーニング計画とその実際	トレーニング計画時に体力の面から考慮すべきことを説明する
第15回	まとめ	講義のまとめを行う

【授業の到達目標】

体力や体力測定･評価法および種々のトレーニング法について理解を深め、授業内容を考慮したトレーニングプログラムを作成できることを目標とする。

【事前･事後学習】

自身の専門とするスポーツや他のスポーツでは具体的にどのような体力トレーニングが行われるかを想定し、授業内容を元に、トレーニングに関する考えを再構築していく。

【成績評価基準】

各回の授業内容について、自身の専門とするスポーツに導入することを具体的に考えることができるようになっているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50%	0	0	50%:毎回の授業における小レポート

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･ザチオルスキー，クレーマー『筋力トレーニングの理論と実践』大修館書店
･NSCAジャパン編『ストレングス＆コンディショニングⅠ理論編』大修館書店
･村木征人『スポーツ･トレーニング理論』ブックハウスHD
･西薗秀嗣『体力･運動能力測定法』大修館書店
･Raymond Verheijen『Conditioning for Soccer』Reedswain Videos and Books

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH2305	トレーニング実習	2年	後期	1単位	選択	中野 匡隆 小島 正憲

【授業の目的と概要】

トレーニング科学で学んだ理論･方法をもとに、体つくり運動として、筋力トレーニング（ウェイトトレーニング）、スタミナトレーニング（インターバルトレーニングなど）、バランストレーニング（運動器の機能向上のためのトレーニング）、コーディネーショントレーニング（運動神経を高めるトレーニング）などを行う。本実習では、目的に応じたトレーニングプログラムを作成し、それをもとに基本的なトレーニング種目の動作習得を目指す。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、トレーニング実習について	トレーニングルームや器具の安全な利用方法について説明する。
第2回	ウォーミングアップ、ストレッチング、体つくり運動、クーリングダウン	ウォーミングアップ、ストレッチング、体つくり運動、クーリングダウンの方法を理解する。
第3回	ウェイトトレーニングの基礎と補助	ウェイトトレーニングの基礎と補助の仕方などを理解する。
第4回	ウェイトトレーニング１（上半身）	ベンチプレスなどの上半身のウェイトトレーニングを実践する。
第5回	ウェイトトレーニング２（下半身）	スクワットなどの下半身のウェイトトレーニングを実践する。
第6回	ウェイトトレーニング３（体幹）	体幹筋群を強化するためのウェイトトレーニングを実践する。
第7回	ウェイトトレーニング４（その他の種目）	その他のフリーウェイトや自体重を使った様々なトレーニングを実践する。
第8回	新体力テストとその活用１	新体力テストの測定を行い、その記録の評価と活用方法について考える。
第9回	新体力テストとその活用2	新体力テストの測定を行い、その記録の評価と活用方法について考える。
第10回	様々な体力テストとその活用	ウィンゲートテストなど、新体力テスト以外の様々な体力テストを実践する。
第11回	サーキットトレーニング	サーキットトレーニングを実践する。
第12回	インターバルトレーニング	インターバルトレーニングを実践する。
第13回	コーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングを実践する。
第14回	対象者（自己）に応じた体力を高めるトレーニング計画の作成	対象者（自己）に応じた体力を高めるトレーニング計画の作成を行う。
第15回	まとめ	体つくり運動として様々なトレーニング方法が実践できるように総括する。

【授業の到達目標】

トレーニング科学で学んだ内容を元に、体つくり運動として様々なトレーニング方法を身につける。また、体力テストについての理解も深め、トレーニング計画を作成し、実践できるようになることが目的である。

【事前・事後学習】

トレーニング科学で学んだことを忘れないように復習しておく。また、様々なトレーニング方法を自ら実践し、スキル習得を目指して努力する。

【成績評価基準】

体つくり運動として、様々なトレーニング方法を習得し、体力テストを元にトレーニング計画を立て、実践できるかどうかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	30	50	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･NSCAジャパン編　ストレングス＆コンディショニングⅡ　エクササイズ編　大修館書店
･NSCA決定版　ストレングストレーニング＆コンディショニング　（T.R. Beachle, R.W. Earle)、ブックハウスHD

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2306	エクササイズ指導方法論	2年	前期	2単位	選択	内藤 法永

【授業の目的と概要】
エクササイズ指導における基礎知識と、それぞれの実践的な指導内容について学ぶ。それを活用して、自分自身のトレーニングや指導者として一般の指導や競技種目の指導が行えるように学習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション: エクササイズ指導方法論	授業の進め方や、持参するもの、学習方法などについての説明を行う
第2回	エクササイズ指導における体力･運動能力	エクササイズを教えていく上で最低限必要な人間の体力や運動能力についての学習をし、より深い指導ができるようにする
第3回	エクササイズ指導のエビデンス	正しいエクササイズを裏付ける科学的根拠について紹介し、学んでいく
第4回	エクササイズ指導における評価法	エクササイズを処方する際に必要な、クライアントの評価法について学ぶ
第5回	エクササイズ指導における観察法	エクササイズ中における、フォームやテンポのチェックポイントについて学ぶ
第6回	コーディネーショントレーニング	運動能力を向上させるコーディネーショントレーニングについて学び、実践することで指導につなげていく
第7回	幼児期のエクササイズ指導	幼児期の体の特徴、トレーニング刺激への適応などについて学び、実践することで指導につなげていく
第8回	児童期のエクササイズ指導	児童期の体の特徴、トレーニング刺激への適応などについて学び、実践することで指導につなげていく
第9回	青年期のエクササイズ指導	青年期の体の特徴、トレーニング刺激への適応などについて学び、実践することで指導につなげていく
第10回	高齢者のエクササイズ指導	高齢者の体の特徴、トレーニング刺激への適応などについて学び、実践することで指導につなげていく
第11回	障がい者･妊婦のエクササイズ指導	障がい者･妊婦の体の特徴、トレーニング刺激への適応などについて学び、実践することで指導につなげていく
第12回	競技におけるエクササイズ指導	競技ごとの特異性を考え、それに沿ったエクササイズ処方と指導ができるように学ぶ
第13回	目的別のエクササイズ指導	目標と目的に沿った負荷の設定方法、エクササイズ処方と指導ができるように学ぶ
第14回	エクササイズ指導案の作成	さまざまなクライアントに応じたエクササイズ処方ができるように学ぶ
第15回	まとめ	まとめ、総括

【授業の到達目標】
エクササイズ指導方法を理解し、自分自身で実践できる知識と指導者として指導できる基礎知識そして指導案の作成ができるようになる。

【事前･事後学習】
記載されている参考図書、(例: NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識　第2版) または各種トレーニング関連の図書などを用いて事前に学習しておくこと。
授業内で配られた資料を見直し、知識の整理を行うこと。

【成績評価基準】
様々な背景、状況をもつクライアント(トレーニング実施者)に対して正しい知識、根拠に基づいた指導ができるようになっているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
20	20	50	10	0

【テキスト】
･なし

【参考図書】
･NSCA ストレングス＆コンディショニング　第3版　ブックハウスHD
･NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識　第2版　ブックハウスHD
･長谷川 裕 日本語版監訳　レジスタンストレーニングのプログラムデザイン　ブックハウスHD

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2307	ス　ポ　ー　ツ　医　学	2年	後期	2単位	選択	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

アスリートの競技力向上のため自己管理能力を高めることは重要であり、自己管理するためには自分自身の健康や傷害、またそのケアに対して学ぶ必要がある。本講義では自己管理能力向上についてと、スポーツ傷害に対して発生要因から問題点を捉え、それらに対しての予防（リコンディショニングとコンディショニング）とアスレチックリハビリテーションを中心とした競技復帰までを学ばせる。また、高齢者や子どものスポーツ活動に伴う傷害も取り上げる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション（この講義の目標）、スポーツと健康１（喫煙とスポーツ）	喫煙がスポーツに与える弊害について理解する
第2回	スポーツと健康２（スポーツ医学概論）	スポーツ医学に関する用語や測定法について理解する
第3回	スポーツ活動中に多い怪我や病気（内科的、外科的、種目による違い等）	健康スポーツにおける障害･疾患についての知識を得る
第4回	アスリートの健康管理（メディカルチェック、コンディショニングチェック等）	アスリートの健康管理の方法についての手順や評価法について理解する
第5回	アスリートの内科的障害と対策１	アスリートの内科的疾患（貧血、喘息など）とその対策法について知識を得る
第6回	アスリートの内科的障害と対策２	アスリートの内科的疾患（肥満、糖尿病）とその対策法について知識を得る
第7回	アスリートの外傷･障害の対策１	アスリートの外科的障害（捻挫、肉ばなれなど）とその対策法について知識を得る
第8回	アスリートの外傷･障害の対策２	アスリートの外科的障害（オスグット病、野球肘、シンスプリント）とその対策法について知識を得る
第9回	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	アスリートの障害発生からリハビリテーション、トレーニング、競技復帰までの例を挙げて理解する
第10回	スポーツによる精神障害と対策（気分障害、食行動異常等）	スポーツが精神に及ぼす役割についての知識を得る
第11回	特殊環境下での対応（暑熱対策、寒冷対策、高地対策等）	特殊環境における生理･生化学的な変化を理解しその対策を考える
第12回	ドーピング	ドーピングについての問題点とドーピング検査の実際について知る
第13回	コンディショニングの理論と手法１(ストレッチ、テーピング)	ストレッチとテーピングについての役割を理解する
第14回	コンディショニングの理論と手法２(アイシング、スポーツマッサージ)	アイシング、スポーツマッサージについての役割を理解する
第15回	まとめ	全体のまとめ

【授業の到達目標】

スポーツ障害･ 疾患を理解し、競技力向上、健康管理、救急措置、リハビリ等に役立つ医学的知識を身に着け、問題意識をもちその解決能力を養うことを目標とする.

【事前･事後学習】

講義内容などで疑問に思った点は，関連書籍やインターネットで調べること。
ハンドアウトは自身で管理すること。

【成績評価基準】

特にスポーツ医学の知識を正しく理解し、適切にその知識を生かすことができるかについて評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	0	10	0	40（小テスト）

【テキスト】

･目崎登　著　スポーツ医学入門　文光堂

【参考図書】

･メディカル･フィットネス協会　監修　「スポーツ医学」 嵯峨野書院
･天羽敬祐　他　「わかりやすいスポーツ医科学」総合医学社
･赤間高雄　編　スポーツ医学（内科）
･スポーツ医学研修ハンドブック①　文光堂
･スポーツ医学研修ハンドブック②　文光堂

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2308	スポーツマネジメント	2年	後期	2単位	選択	杉谷 正次

【授業の目的と概要】

スポーツ経営学の基礎理論を理解するとともに、スポーツ組織や地域スポーツクラブの経営のあり方について、実践的に理解することを目的とします。

そこで本講義では、スポーツ事象を経営学の視点から捉え、その基礎理論を理解するとともに、スポーツ環境を取り巻く様々なスポーツビジネスを事例としてとりあげ、スポーツマネジメントの実践的なあり方について考えていきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	スポーツ産業の発展と動向	スポーツ産業と他産業の違いを明らかにした上で、スポーツ産業におけるリスク･シェアとステークホルダーの重要性について解説する。
第2回	スポーツマネジメントの基礎理論	スポーツマネジメントとは何か、なぜスポーツにマネジメントが必要なのか、スポーツマネジメントの重要性について概説する。特にスポーツクラブをマネジメントする上での基礎理論（人と組織、ロジカルシンキング、マーケティング、経営戦略等）を学ぶ。
第3回	スポーツ消費者と消費行動	スポーツ用品の市場と流通活動の観点から、スポーツ消費者の消費行動を分析する。
第4回	スポーツマーケティングに関する考え方と構造	スポーツマーケティングを理解するため、スポーツという市場を構成する「商品」「売り手」「買い手」という3つの基本要素から考察する。
第5回	マーケティングプログラムの展開	CS（顧客満足）とは何か、CSの3つの段階をあげ、スポーツビジネスにおけるCSの重要性とホスピタリティについて解説する。
第6回	マーケティング倫理と法	スポーツマーケティング倫理とスポーツに関する法務について、具体的な事例をあげて解説する。
第7回	スポーツ組織の運営(1)プロスポーツの経営	プロスポーツビジネスとしての日本プロ野球(NPB)とアメリカメジャーリーグ(MLB)を取りあげ、組織･権限、経営戦略を比較しながら、それぞれの組織が抱える問題点と課題について考える。
第8回	スポーツ組織の運営(2)民間スポーツクラブの経営	フィットネス産業の歴史と現状について解説し、フィットネスクラブが展開している経営戦略について紹介する。またわが国におけるフィットネス産業の動向についても触れる。
第9回	スポーツ組織の運営(3)競技団体の経営	代表的なスポーツ競技団体をあげ、その競技団体の経営について紹介する。特にIOCやFIFAなどの競技団体の財務分析を中心に取り上げる。
第10回	スポーツ組織の運営(4)地域スポーツ経営と総合型地域スポーツクラブ	地域密着型のスポーツクラブである総合型地域スポーツクラブによるスポーツ振興の現状と課題について解説する。
第11回	スポーツ組織の運営(5)地域におけるスポーツ振興と行政の関わり	スポーツ振興方策と行政の関わりについて、全体の枠組みと根拠法令の概要を理解し、地域におけるスポーツ振興方策の現状と課題について考える。
第12回	スポーツ組織の運営(6)広域スポーツセンターの機能と役割	広域スポーツセンターとは何か、広域センターの必要性と役割について触れ、スポーツセンターにおける施設管理と運営のあり方について解説する。
第13回	スポーツ事業の計画･運営･評価(1)	スポーツ事業の計画･運営･評価について、具体例をあげて解説する。
第14回	スポーツ事業の計画･運営･評価(2)	スポーツ事業の計画･運営･評価について、具体例をあげて解説する。
第15回	まとめ	スポーツマネジメントの講義を総括する。

【授業の到達目標】

スポーツに関する幅広い知識を身につけることができます。また、スポーツ組織における運営や地域スポーツの経営の在り方について説明することができ、スポーツ事業の計画書を作るなど、クラブマネジャーとしての基礎的な知識も修得することができます。その結果、スポーツ業界に関心のある学生は、自分の進路に役立てることができます。

【事前･事後学習】

毎授業前までに次週講義で扱うテーマについて、指定したテキストの箇所を事前に読んでおいてください。

【成績評価基準】

スポーツマネジメントとは何か、なぜスポーツにマネジメントが必要なのかなど、本講義で扱った内容について理解を深めているかどうかということに着目し、小テストと筆記試験の結果をもとに評価をします。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	0	0	20（小テスト）

【テキスト】

･石川幸生･杉谷正次編著『現代スポーツビジネス』三恵社

【参考図書】

･ヨッフェン･ヴォルフ著 石川幸生･杉谷正次･本田陽監訳 山内章裕訳『ドイツにおけるスポーツクラブのマーケティング』三恵社
･山下秋二･原田宗彦編著『図解 スポーツマネジメント』大修館書店
･広瀬一郎著『スポーツ･マネジメント入門　24のキーワードで理解する』東洋経済新報社
･『公認スポーツ指導者養成テキスト』日本体育協会
･『公認アシスタントマネジャー養成テキスト』日本体育協会

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3309	コ　ー　チ　ン　グ　論	3年	前期	2単位	選択	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

この授業科目は、競技スポーツにおけるコーチングに関する様々な理論とその理論を応用した「コーチング論」を主たる内容として学習する。発達段階や加齢の段階に応じた運動指導にも配慮したコーチング論について考える。また、この科目では、一般的な理論とともに、個人差に応じたコーチングについても学習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この講義の目標	この講義で扱う内容を概説する。
第2回	指導者の心構え･視点	指導者が視点として持つべきことを整理し、指導者が何を目指すのかを明らかにする
第3回	指導者に必要な知識と求められる資質	指導者が持つべき知識を概説し、求められる資質を説明する
第4回	コミュニケーション論	スポーツ場面でおきるコミュニケーションについて概説する
第5回	指導計画の立て方	指導計画を立てる際に考える必要のあることを説明する
第6回	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任	指導者がどこに責任を負い、どうふるまうことが求められるのかを説明する
第7回	スポーツと人権	指導者および選手が有する権利について倫理的な側面を含めて説明する。
第8回	技能の学習理論基礎	技能学習の過程について、指導者および選手におきる現象を説明する
第9回	技能習得過程での問題点とその対処法	技能学習場面でおきる問題点を説明する。
第10回	コーチングの基礎理論(1)　コーチの役割とは	コーチの役割を確認する
第11回	コーチングの基礎理論(2)　コーチングに必要な知識	コーチに必要な知識を説明する
第12回	コーチングの基礎理論(3)　コーチング実践の検証	コーチの実践を評価する方法を説明する
第13回	ミーティングの方法	ミーティングの方法を説明する
第14回	スポーツ活動と安全管理	安全管理として行わなければならないことを説明する
第15回	この講義のまとめ	講義のまとめを行う

【授業の到達目標】

実際の指導現場において、十分な成果が期待できる具体的な指導法の基礎的な知識と実践的な方法を学び、指導者としての基礎的な資質を身につけること。

【事前･事後学習】

自身がスポーツ活動に取り組む中で受けてきたコーチングについて振り返りながら受講する。そして、授業内容を元に自身の専門とするスポーツや他のスポーツでは具体的にどのようなコーチングが行われており、求められるのかを理解する。

【成績評価基準】

自身のスポーツ活動に照らし合わせながら、授業内容について具体的に考えることができるようになり、今後自身が身に着けるべき素養を理解しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50%	0	0	50%:毎回の授業における小レポート

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･レイナー･マートン『スポーツコーチング学』西村書店
･東海林祐子『コーチングのジレンマ』ブックハウスＨＤ
･デューター･ボンパ『競技力向上のトレーニング戦略』大修館書店
･グロッサー/ノイマイヤー『選手とコーチのためのスポーツ技術のトレーニング』大修館書店
･ウルリヒ･ゲーナー『スポーツ運動学入門』不昧堂出版

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3310	プログラムデザイン	3年	前期	2単位	選択	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

一般の健康志向レベルからトップアスリートまで、それぞれのレベルに応じてトレーニングの目的や目標が異なる。また、個人なのかチーム・団体なのかによってアプローチの仕方も大きく異なる。それぞれのレベルの目的や目標を達成するために、どのような種類のトレーニングを選択し、どれくらいの期間で、どれくらいの頻度、強度、量のトレーニングを実施すればいいかということは非常に重要なファクターになる。これらのファクターを考慮しながらトレーニングプログラムを構築し、処方できる知識とスキルを持ったスペシャリストになるための基礎的なノウハウを学ぶことができる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修上のガイダンス、プログラムデザインとは？	授業の目的、方針、ルール、評価の方法の説明をする。競技スポーツの事例を通して、そのスポーツの競技特性やトレーニング方法を考える。
第2回	無酸素トレーニングプログラムデザイン１（レジスタンストレーニング1）	「筋力はどれくらいあれば十分か？」ということについて、競技スポーツに本当に必要な筋力とは何かを考えさせる。最終的には「筋肉」より「動きをトレーニングする」という概念を理解させる。
第3回	無酸素トレーニングプログラムデザイン２（レジスタンストレーニング2）	「プログラムデザインの変数」について、ステップ１からステップ７までの段階を踏んだトレーニングプログラムの作成方法を学ぶ。
第4回	無酸素トレーニングプログラムデザイン３（プライオメトリックトレーニング1）	プライオメトリックの力学的および生理学的概念を理解し、プライオメトリックトレーニングのプログラム作成方法を学ぶ。
第5回	無酸素トレーニングプログラムデザイン４（プライオメトリックトレーニング2）	下半身、上半身、体幹のプライオメトリックトレーニングのエクササイズについて学ぶ。
第6回	無酸素トレーニングプログラムデザイン５（SAQトレーニング1）	スピード、アジリティ、クイックネスの概念について理解し、SAQトレーニングのプログラム作成方法を学ぶ。
第7回	無酸素トレーニングプログラムデザイン６（SAQトレーニング2）	競技スポーツの特性に合わせたSAQトレーニングのエクササイズについて学ぶ。
第8回	有酸素トレーニングプログラムデザイン１（持久力トレーニング1）	有酸素性持久力パフォーマンスに関係する要因について理解し、有酸素性トレーニングのプログラム作成方法を学ぶ。
第9回	有酸素トレーニングプログラムデザイン２（持久力トレーニング2）	競技スポーツの特性に合わせた有酸素性持久力トレーニングの手法について学ぶ。
第10回	ピリオダイゼーション（概念と応用）	ピリオダイゼーションの定義や概念を理解し、競技スポーツのシーズンに合わせたピリオダイゼーションを学び、さらに期分けされたトレーニングプログラムを作成する。
第11回	プログラム処方１（レジスタンストレーニング）	競技スポーツの特性に合わせて具体的なレジスタンストレーニングのプログラムを作成する。
第12回	プログラム処方２（プライオメトリックトレーニング）	競技スポーツの特性に合わせて具体的なプライオメトリックトレーニングのプログラムを作成する。
第13回	プログラム処方３（SAQトレーニング）	競技スポーツの特性に合わせて具体的なSAQトレーニングのプログラムを作成する。
第14回	プログラム処方４（持久力トレーニング）	競技スポーツの特性に合わせて具体的な有酸素持久力トレーニングのプログラムを作成する。
第15回	まとめ	これまでの講義の総括をし、期末試験に向けて復習をする。

【授業の到達目標】

授業は講義で学んだ知識を実践できるように、エクセルやワードを使って、それぞれの目的や競技特性に応じたトレーニングプログラムの作成ができるようになることが目標である。

【事前・事後学習】

事前に授業で学習する内容に関してテキストを十分に読んで予習をしておくこと。また、授業後は学習した内容をテキストや配布資料を元に復習し、次の授業前に実施する内容確認のためのクイズの準備をすること。

【成績評価基準】

競技特性に合わせたプログラムの作成方法を十分に理解できたかどうかを筆記試験で評価する。また、講義内容に関する課題レポートや前回授業の復習をするためのクイズを通して、授業内容の理解度を図り、課題の提出がきちんとできたかどうかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	30	0	0	20（前回授業の復習のためのクイズを13回）

【テキスト】

・Baechleら（著）、金久博昭（監）、ストレングストレーニング＆コンディショニング（第3版、NSCA決定版）、ブックハウスHD

【参考図書】

・ストレングス＆コンディショニングⅠ　理論編（NSCAジャパン）、大修館書店
・ストレングス＆コンディショニングⅡ　エクササイズ編（NSCAジャパン）、大修館書店

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3311	フィットネステスト・評価	3年	後期	2単位	選択	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

トレーニングプログラムを作成する前と作成されたプログラムのトレーニング効果を確認するために必要不可欠なのがフィットネステストである。さらにフィットネステストで得られたデータを本人にフィードバックすることで、トレーニング目的の理解度を深めるたり、新たな目標設定をすることでモチベーションを高めることは重要なテスト評価の目的である。より効果的なトレーニングプログラムを構築･処方するために、データの分析能力とフィードバック能力を身に付けることができる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修ガイダンス	授業の目的、方針、ルール、評価の方法の説明をする。測定データの活用方法の事例を紹介し、フィットネステストの必要性の理解を図る。
第2回	フィットネステストの選択と手法	競技スポーツの特性に合わせたフィットネステストの選択とその手法を学ぶ。
第3回	フィットネステストのプロトコルと手順	フィットネステストのプロトコルと手順を学び、「Tテスト」、「プロアジリティ」、「Yo-Yoテスト」などのテスト項目は動画によって理解を深める。
第4回	フィットネステストのデータ分析と評価	フィットネステストのデータ分析の評価方法を学び、実際にエクセルを用いて分析する手法を学ぶ。
第5回	無酸素性パワーの測定１（最大上肢筋力及び下肢筋力）	ベンチプレス１RMとスクワット１RMによって、それぞれ最大上肢筋力と最大下肢筋力を測定する。また、垂直跳びとメディスンボールスローによって、それぞれ下肢パワーと上肢パワーを測定する。
第6回	無酸素性パワーの測定２（最大筋持久力）	パーシャルカールアップとプッシュアップによって、上肢と体幹の最大筋持久力を測定する。
第7回	有酸素性パワーの測定（VO2Max、2000m走及びエアロバイクテスト）	2.4km走とYo-Yo Intermittent Recovery Testによって、無酸素性パワーを測定する。
第8回	SAQ（スピード、アジリティー、クイックネス）の測定１（スプリント、Tテスト、シャトル等）	20mスプリント、Tテスト、プロアジリティによってSAQの測定をし、300ヤードシャトルランによって無酸素性能力を測定する。
第9回	柔軟性、身体組成、形態測定	シット＆リーチによって柔軟性を測定する。そして、身体組成及び形態測定を行う。
第10回	データ分析と評価１（無酸素パワー、有酸素パワー、SAQのデータ分析と評価）	無酸素性パワーと有酸素性パワーの測定データの分析と評価をエクセルを用いて行う。
第11回	データ分析と評価１（無酸素パワー、有酸素パワー、SAQのデータ分析と評価）	SAQ、柔軟性、身体組成、形態測定の測定データの分析と評価をエクセルを用いて行う。
第12回	テストに基づいたプログラム処方とトレーニング指導1（無酸素性トレーニング）	測定データの分析と評価に基づいて無酸素性トレーニングを検討し、トレーニングプログラムを作成する。
第13回	テストに基づいたプログラム処方とトレーニング指導2（有酸素性トレーニング）	測定データの分析と評価に基づいて有酸素性トレーニングを検討し、トレーニングプログラムを作成する。
第14回	テストに基づいたプログラム処方とトレーニング指導3（SAQ トレーニング）	測定データの分析と評価に基づいてSAQ トレーニングを検討し、トレーニングプログラムを作成する。
第15回	まとめ	これまでの講義の総括をし、期末試験に向けて復習をする。

【授業の到達目標】

フィットネステストを実施するノウハウ、テストデータの分析、分析結果のフィードバック、さらにテストに基づいたプログラム処方とトレーニング指導ができるようになることが目標である。

【事前・事後学習】

事前に授業で学習する内容に関してテキストを十分に読んで予習をし、フィットネステストがスムーズに実施できるように準備する。授業後には、学んだフィットネステストを実際に選手に活用できるように測定をする。

【成績評価基準】

競技特性に合わせたフィットネステストを選択し、適切なプロトコルで測定することができ、なおかつ、測定データを分析･評価し、適切なトレーニングプログラムが作成できるようになることを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	30	20	0	10（前回授業の復習のためのクイズを2回）

【テキスト】

･Baechleら（著）、金久博昭（監）、ストレングストレーニング＆コンディショニング（第3版、NSCA決定版）、ブックハウスHD

【参考図書】

･運動処方の方針（運動負荷試験と運動プログラム）原著第6版、アメリカスポーツ医学会編、南江堂

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2312	メンタルトレーニング演習	2年	後期	2単位	選択	長谷川 望

【授業の目的と概要】

近年、競技力の向上や競技場面での実力発揮をねらいとしたメンタルトレーニングに関心が高まっている。本講義においては、各自の専門種目に生かせるように、メンタルトレーニングの理論的背景と実践内容を紹介して体験する。また、スポーツの指導者として、あるいは保健体育教員としてメンタルトレーニングについて理解し、指導に生かせるようにする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス　メンタルトレーニングとは	メンタルトレーニングとは何かを学ぶ
第2回	メンタルトレーニングの概観	メンタルトレーニングにはどのような内容があるのかを学ぶ
第3回	自己分析	質問紙をもとに自己分析を行う
第4回	ピークパフォーマンスの分析	各自のピークパフォーマンスについて分析する
第5回	目標設定の理論と実践	自己分析をもとに目標設定を行う
第6回	リラクセーション技法の理論と実践（自律訓練法）	リラクセーション技法としての自律訓練法を体験する
第7回	リラクセーション技法の理論と実践（漸進的弛緩法）	リラクセーション技法としての漸進的弛緩法を体験する
第8回	リラクセーション技法の理論と実践（動作法）	リラクセーション技法としての動作法を体験する
第9回	イメージトレーニングの理論と実践	イメージトレーニングについて理解し、実践する
第10回	集中力トレーニングの理論と実践	集中力トレーニングについて理解し、実践する
第11回	チームビルディングの理論	チームビルディングについて理解する
第12回	チームビルディングの実践	チームビルディングの手法を実践する
第13回	モチベーション理論	モチベーション理論について理解する
第14回	モチベーションビデオの作成	モチベーションビデオを作成する
第15回	モチベーションビデオの発表　まとめ	モチベーションビデオの発表、授業のまとめを行う

【授業の到達目標】

各自の専門種目に生かせるように、メンタルトレーニングの理論的背景について理解するとともに実践できるようになることとする。また、指導者として指導に取り入れられるように考える力を養う。

【事前･事後学習】

メンタルトレーニングはトレーニングなので継続して実践すること。事前に健康スポーツ心理学、総合野外活動実習Ⅰを受講し単位取得をすることが望ましい。

【成績評価基準】

メンタルトレーニングの理論的背景について理解し、自己分析ができるか。自分に適したメンタルトレーニング法を修得できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	40	10	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3313	コーディネーショントレーニング演習	3年	前期	2単位	選択	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

スポーツを行っている人を観察すると、筋力があったり、スピードがあったり、スタミナがあるということ以外にも、器用さや巧みさなど、様々な質的な観点について気づくことができる。本講義では、そのような、器用さや巧みさといった身体の運動調整の側面をどのようにトレーニングしていくかについて知る。その際には、グループによる学習によって授業を進める。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、この演習の目標	この演習で学習する内容の概説を説明する
第2回	コーディネーショントレーニングの発展	コーディネーショントレーニングの発展過程を説明する
第3回	体力と運動の質的観点	体力および運動系の質を説明し、運動の評価軸を説明する
第4回	運動の質的観点とコーディネーション	運動系の質を説明し、コーディネーショントレーニングの扱っている範囲を明らかにする
第5回	コーディネーション能力の特徴の整理	コーディネーション能力の特徴について整理する
第6回	コーディネーション能力の特徴の報告	コーディネーション能力の特徴について報告しディスカッションする
第7回	コーディネーション能力に焦点を定めたトレーニングの考案	コーディネーション能力に焦点を定めたトレーニングについて考案する
第8回	コーディネーション能力に焦点を定めたトレーニングの整理	コーディネーション能力に焦点を定めたトレーニングについて整理し報告会用にまとめる
第9回	コーディネーション能力に焦点を定めたトレーニングの報告	コーディネーション能力に焦点を定めたトレーニングについて報告し、ディスカッションする
第10回	コーディネーショントレーニングの実践例の分析	コーディネーショントレーニングの実践例を抽出し分析する
第11回	コーディネーショントレーニングの実践例の報告	コーディネーショントレーニングの実践例についてディスカッションする
第12回	トレーニングプログラム作成に際する考慮事項	トレーニングプログラムを作成する際に考慮すべき事項を検討する
第13回	試合および専門的運動とコーディネーショントレーニング	各種スポーツトレーニングで行われている運動について、それぞれが内包しているコーディネーションの要素について取り上げる
第14回	コーディネーショントレーニングの実際	スポーツ活動の中でどのようにコーディネーショントレーニングを取り入れるかを考える
第15回	まとめ	まとめを行う。

【授業の到達目標】

コーディネーションの観点を考慮してトレーニングプログラムを作成するために何を考慮すべきか考えることができるようになる。あるトレーニングについて、どのようなコーディネーション能力の養成が可能となるか考えることができるようになる。

【事前･事後学習】

事前にこれまでの授業において関連して学習したことについて確認してくること。
授業においてグループワークを行いコーディネーション能力について考慮したトレーニングを実施するにはどうすればいいのかを整理したレポートを作成する。その際には、これまでの自身の経験と文献の情報を照らし合わせて検討していく。

【成績評価基準】

授業にて取り扱った内容をまとめたうえで、自身の考えを各種資料を参考にしながらまとめ上げることができているか。グループの発表の出来栄えに対して貢献をしているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	80	20	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･クルト･マイネル『マイネル･スポーツ運動学』大修館書店
･クルト･マイネル『動作学　上巻』新体育社
･ギュンター･シュナーベル『動作学―スポーツ運動学』新体育社
･ペーター･シュライナー『サッカーのコーディネーショントレーニング』大修館書店
･デューター･ボンパ『競技力向上のトレーニング戦略』 大修館書店

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3314	ストレングス・コンディショニング実習	3年	前期	1単位	選択	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

プログラムデザインの講義で獲得した知識とスキルを用いて、実際にトレーニングプログラムを構築・処方し、自ら実践をするという実習形式の授業である。また、各種トレーニング方法の技術を習得し、適切なトレーニング指導ができるようにすることが大切である。さらに、実践を通して、トレーニングプログラムの問題点を見つけ、トレーニングプログラムを修正するという、トライ＆エラーのプロセスを学ぶこともできる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修上のガイダンス、ストレッチ＆ウォーミングアップ1（静的ストレッチ）	授業の目的、方針、ルール、評価の方法の説明をする。ウォーミングアップの概念を説明し、静的ストレッチを実践し、その手法を学ぶ。
第2回	ストレッチ＆ウォーミングアップ2（動的及びパートナーストレッチ）	動的及びパートナーストレッチを実践し、その手法を学ぶ。そして、実際にウォーミングアップのプログラムを作成し、実践をする。
第3回	レジスタンストレーニング実習1（フリーウエイトを用いて下半身トレーニング）	フリーウェイトを用いた下半身のレジスタンストレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第4回	レジスタンストレーニング実習2（フリーウエイトを用いて上半身トレーニング）	フリーウェイトを用いた上半身のレジスタンストレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第5回	レジスタンストレーニング実習3（マシンを用いて上・下半身トレーニング）	マシンを用いた上・下半身のレジスタンストレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第6回	レジスタンストレーニング実習4（フリーウエイトを用いて体幹トレーニング）	フリーウェイトを用いた体幹のレジスタンストレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第7回	プライオメトリックトレーニング実習1（上半身及び体幹）	上半身及び体幹のプライオメトリックトレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第8回	プライオメトリックトレーニング実習2（下半身）	下半身のプライオメトリックトレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第9回	SAQトレーニング実習1（スピード＆アジリティートレーニング）	スピード及びアジリティトレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第10回	SAQトレーニング実習2（アジリティー及びクイックネストレーニング）	アジリティ及びクイックネストレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第11回	持久力トレーニング実習1（有酸素系トレーニング）	有酸素性持久力トレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第12回	持久力トレーニング実習2（インターバル系トレーニング）	インターバル系トレーニングを実践し、その手法を学ぶ。
第13回	コンディショニング実習1（ピリオダイゼーションを用いて）	ピリオダイゼーションを考慮したコンディショニング方法を実践し、その手法を学ぶ。
第14回	コンディショニング実習2（疲労回復を目的として）	疲労回復を目的とするコンディショニング方法を実践し、その手法を学ぶ。
第15回	まとめ	これまでの実技の総括をし、それぞれの手法の復習をする。

【授業の到達目標】

将来トレーナーを目指すために、各種トレーニング方法やコンディショニング方法のスキルを習得し、適切なトレーニング指導ができるようになることが目標である。

【事前・事後学習】

事前に授業で学習する内容に関してテキストを十分に読んで予習をしておくこと。また、スキルを習得するために繰り返し実践をすることが大切である。リコンディショニングセンター（C101）を活用し、実践の場として現場実習をすることが望ましい。

【成績評価基準】

ウォーミングアップ、レジスタンストレーニング、プライオメトリックトレーニング、SAQトレーニング、有酸素性持久力トレーニングの手法等を理解し、スキルを習得できたかどうかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	20	80	0

【テキスト】

・Baechleら（著）、金久博昭（監）、ストレングストレーニング＆コンディショニング（第3版、NSCA決定版）、ブックハウスHD

【参考図書】

・ストレングス＆コンディショニングⅠ　理論編（NSCAジャパン）、大修館書店
・ストレングス＆コンディショニングⅡ　エクササイズ編（NSCAジャパン）、大修館書店

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3315	基礎アスレチックトレーニング	3年	後期	2単位	選択	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

将来、アスレティックトレーナーとして、より高いレベルのトップアスリートやトップチームで仕事をすることを目指す学生や将来的な健康産業においてより顧客のニーズに応えられる健康増進スペシャリストを目指す学生にとって、非常に重要な講義でである。スポーツ傷害の発生メカニズム、傷害の評価、傷害に対する処置法と予防法、治療･リハビリテーションといったスポーツ傷害発生から現場復帰までのプロセスの基礎知識を学ぶことができる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修ガイダンス、アスレティックトレーニング概論	授業の目的、方針、ルール、評価の方法の説明をする。アスレティックトレーニングの概論を説明し、スポーツ医学チームの構成とチームメンバーの役割や競技スポーツによって発生している様々なスポーツ傷害を学ぶ。
第2回	傷害予防と防具	スポーツ用防具の選び方と使用法を説明し、特に、「シューズの機能」に重点をおいた傷害予防を考える。
第3回	スポーツ傷害の分類とメカニズム	急性外傷と慢性障害の分類とそれらの発生メカニズムを学ぶ。
第4回	スポーツ傷害に対する組織の反応	傷害後の治癒過程を理解し、RICESによる適切な処置法やリハビリテーションの基礎を学ぶ。
第5回	スポーツ傷害のアセスメントと評価	受傷後の傷害のアセスメントや評価方法を理解し、CPRやAEDによる救急処置法や急性傷害の応急処置法を学ぶ。
第6回	テーピングとバンデージ	各部位のテーピングや弾性ラップテクニックの基礎を学ぶ。
第7回	物理療法	受傷後の物理療法（アイシング、ホットパック、徒手療法など）による処置方法の基礎を学ぶ。
第8回	アスレティック･リハビリテーション1（上肢）	上肢の傷害に関するアスレティック･リハビリテーションの基礎を学ぶ。
第9回	アスレティック･リハビリテーション2（下肢）	下肢･体幹の傷害に関するアスレティック･リハビリテーションの基礎を学ぶ。
第10回	部位別傷害と処置法1（足部、足関節、下腿部）	足部、足関節、下腿部における各部位の傷害メカニズム、傷害評価、処置方法を学ぶ。
第11回	部位別傷害と処置法2（膝関節、大腿部、臀部）	膝関節、大腿部、臀部における各部位の傷害メカニズム、傷害評価、処置方法を学ぶ。
第12回	部位別傷害と処置法3（腹部、胸部、腰部、骨盤）	腹部、胸部、腰部、骨盤における各部位の傷害メカニズム、傷害評価、処置方法を学ぶ。
第13回	部位別傷害と処置法4（脊柱、頭部）	脊柱、頭部における各部位の傷害メカニズム、傷害評価、処置方法を学ぶ。
第14回	部位別傷害と処置法5（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手）	肩関節、肘関節、前腕、手関節、手における各部位の傷害メカニズム、傷害評価、処置方法を学ぶ。
第15回	まとめ	これまでの講義の総括をし、期末試験に向けて復習をする。

【授業の到達目標】

スポーツ傷害に対する応急処置、受傷後の傷害評価、治療･リハビリ、そして現場復帰の一連のプロセスのノウハウを習得できるようになることが目標である。

【事前･事後学習】

事前に授業で学習する内容に関してテキストを十分に読んで予習をしておくこと。レポート作成時には参考図書などを読み、さらに知識を深めることが大切である。

【成績評価基準】

アスレティックトレーニングの概念を理解し、各部位のスポーツ傷害の発生メカニズム、傷害評価、傷害に対する処置法と予防法、治療･リハビリテーションといったスポーツ傷害発生から現場復帰までのプロセスの基礎知識を筆記試験で評価する。また、講義内容に関する課題レポートや前回授業の復習をするためのクイズを通して、授業内容の理解度を図り、課題の提出がきちんとできたかどうかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	30	0	0	20（前回授業の復習のためのクイズを13回）

【テキスト】

･William E. Prenticeら（著）、岩崎由純（訳）、アーンハイムのトレーナーズ･バイブル、医道の日本社

【参考図書】

･図解　四肢と脊椎の診かた、医歯薬出版
･新版　スポーツ外傷･障害の理学診断･理学療法ガイド（臨床スポーツ医学編集委員会編）

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3316	アスレチックトレーニング実習	3年	後期	1単位	選択	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

基礎アスレティックトレーニングの講義で学んだ知識を実習によって身に付けていきます。例えば、スポーツ傷害のアセスメント及び評価に関して、受傷時の傷害メカニズムや既往歴、視診、触診、スペシャルテストのプロセスを用いながら傷害の評価をしていきます。そして、受傷時の応急処置法、予防のためのテーピング、痛みを軽減や身体のバランスを整える徒手療法、現場復帰させるためのアスレティックリハビリテーションなどのスキルを獲得し、トップレベルのアスリートやチーム、あるいはより高い健康志向レベルの顧客ニーズに応えることができるスペシャリストを目指すことができます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修上のガイダンス、RICES実習	授業の目的、方針、ルール、評価の方法の説明をする。RICESの概念を理解し、RICESの手順を実習を通して学ぶ。
第2回	応急処置パッド、バンテージ実習	受傷後の応急処置で用いるパッドを作成し、弾性ラップを用いて各部位の応急処置の実習をする。
第3回	足の測定実習（フットゲージを用いて）	フットゲージを用いて足の測定の実習をし、足部に関連する傷害アセスメントや傷害予防方法を学ぶ。
第4回	テーピング１（手指関節、母指）	傷害予防の方法として、手指関節と母指のテーピング方法を実習する。
第5回	テーピング２（足趾関節、アーチ）	傷害予防の方法として､足趾関節と足部アーチのテーピング方法を実習する。
第6回	テーピング３（足関節）	傷害予防の方法として、足関節のテーピング方法を実習する。
第7回	ストレッチ＆徒手療法実習（ストレッチ、マッサージなど）	傷害予防やコンディショニング方法として、ストレッチやマッサージなどの徒手療法を実習する。
第8回	傷害のアセスメント＆評価実習１（足関節の評価）	受傷後の傷害アセスメント及び評価方法として、足関節の傷害評価の手順や手法を実習する。
第9回	傷害のアセスメント＆評価実習２（膝関節の評価）	受傷後の傷害アセスメント及び評価方法として、膝関節の傷害評価の手順や手法を実習する。
第10回	傷害のアセスメント＆評価実習３（肩関節の評価）	受傷後の傷害アセスメント及び評価方法として、肩関節の傷害評価の手順や手法を実習する。
第11回	物理療法１（ホットパック、超音波治療）	ホットパックや超音波療法による物理療法を学び、徒手療法と併せて実習をする。
第12回	物理療法２（電気治療）	電気治療による物理療法を学び、徒手療法と併せて実習をする。
第13回	アスレティックリハビリテーション実習１（可動域エクササイズなど）	アスレティックリハビリテーションの基礎を理解し、可動域エクササイズやアイソメトリックなどによる初期段階のリハビリテーションを実習する。
第14回	アスレティックリハビリテーション実習２（固有感覚受容器と筋力の改善エクササイズなど）	アスレティックリハビリテーションの基礎を理解し、固有感覚受容器や筋力改善などによる復帰段階のリハビリテーションを実習する。
第15回	まとめ	これまでの実習の総括をし、それぞれの手法を復習をする。

【授業の到達目標】

将来アスレティックトレーナーを目指すために、スポーツ傷害評価、傷害予防法、傷害処置法などの基本スキルを習得できるようになることが目標である。

【事前･事後学習】

事前に授業で学習する内容に関してテキストを十分に読んで予習をしておくこと。また、スキルを習得するためには繰り返し実践することが大切である。リコンディショニングセンター（C101）を活用し、実践の場として現場実習をすることが望ましい。

【成績評価基準】

応急処置法、傷害予防やコンディショニング方法、傷害アセスメント及び評価法、アスレティックリハビリテーションの手法等を理解し、スキルを習得できたかどうかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	20	80	0

【テキスト】

･William E. Prenticeら（著）、岩崎由純（訳）、アーンハイムのトレーナーズ･バイブル、医道の日本社

【参考図書】

･図解　四肢と脊椎の診かた、医歯薬出版

･新版　スポーツ外傷･障害の理学診断･理学療法ガイド（臨床スポーツ医学編集委員会編）

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3317	学　校　保　健	3年	後期	2単位	選択	尚 爾華

【授業の目的と概要】

学校における保健学習、保健管理、保健組織活動、学校安全、学校給食について学ぶ。学生の健康問題をとりあげ、学校保健の重要性について理解する。学校における問題行動（喫煙、飲酒、薬物乱用など）や感染症、生活習慣病の予防を重点的に取り上げる。発達障害児の特徴と支援についても学習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション－学校保健の意義	学校保健の定義、学校保健の領域（保健学習、保健管理、保健組織活動）、学校保健行政について学習する。
第2回	学校保健の担当者と学校保健の年間計画	学校医、学校歯科医、学校薬剤師の役割、学校保健委員会の構成、学校保健安全計画について学習する。
第3回	学校保健の内容１－健康診断、学校環境衛生	就学時の健康診断（目的、意義、内容）、児童･生徒、職員の健康診断、学校環境衛生（意義、環境衛生検査、日常点検）について学習する。
第4回	学校保健の内容２－学校感染症への対応	学校感染症の定義、種類及び予防対策、学校感染症による出席停止、臨時休業について学習する。
第5回	学校保健の内容３－アレルギー疾患、慢性疾患への対応	児童･生徒のアレルギー対策について学習する。慢性疾患（心臓病、腎臓病、糖尿病）の持つ児童･生徒に対する学校生活管理指導について学習する。
第6回	学校保健の内容４－性教育･エイズ教育	男女の身体構造と機能、生殖のメカニズム、男女の性心理、性文化と性道徳、性と人権（性同一障害、同性愛）について学習する。性感染症･ エイズの予防について学習する。
第7回	学校における安全教育１－防災教育	学校安全の範囲、学校安全に関する法律、防災教育における安全学習（自然災害）、安全指導、年間計画について学習する。
第8回	学校における安全教育２－子どもを取り巻く危険と事件･事故	幼児期の心身と安全の特徴及び安全教育のポイント、小学生の心身と安全の特徴と安全教育のポイント、中学生･高校生の心身と安全の特徴と安全教育のポイント、青少年における交通事故の特徴について学習する。
第9回	学校における安全教育３－教育現場における事故･ケガとその防止	負傷の場合別･ 種類別について統計結果、学校での事故を減少させるための対策について学習する。
第10回	学校における安全教育４－犯罪被害と心のケア	学校における不審者侵入への対策、ネット犯罪の問題、防犯対策としての連携（保護者、地域住民）について学習する。心的外傷（ＰＴＳＤを含む）のケアについて学習する。
第11回	学校給食１－学校給食の目標と実施基準	学校給食の歴史、学校給食法、学校給食の目標、学校給食における食中毒について学習する。
第12回	学校給食２－学校における食育の推進	食育推進基本計画に基づき、学校における食育の推進に向けた取り組みを学ぶ。
第13回	学校現場での保健活動（ゲストスピーカーによる特別授業）	中学校･ 高校の学校現場で働く保健体育教諭による特別授業を行う。学校現場での保健活動の特徴や最新動向について学習する。
第14回	特別支援学校における学校保健･学校安全	特別支援学校における学校保健活動や学校安全活動を進めるうえでの留意点（個々の児童･ 生徒の障害や病気を正しく理解する）、適切な対応できる体制について学習する。
第15回	学校保健研究の動向、全体のまとめ	学校保健の最新情報について学習する。全体のまとめをする。

【授業の到達目標】

児童･生徒の健康･保健問題を教育の視点から考察することによって、学校保健の意義や学校保健、学校安全、学校給食の内容を理解できる。学校保健の教育実践のあり方について説明ができる。

【事前･事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回の授業後にノートを整理すること。

【成績評価基準】

1、学校保健の意義や学校保健、学校安全の内容を理解できているか。
2、学校保健の教育実践のあり方について説明ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･教員養成系大学保健協議会　学校保健ハンドブック〈第6次改訂〉単行本　ぎょうせい出版
･日本学校保健会　学校保健の動向〈平成26年度版〉大型本 日本学校保健会出版部
･日本成人病協会　健康管理士一般指導員テキスト５「生活環境と健康／健康管理の進め方」

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH2318	衛　　生　　学	2年	後期	2単位	選択	尚 爾華

【授業の目的と概要】

「人生80年時代」と言われるように、本格的な高齢化社会が到来した。死亡率の減少、平均寿命の伸長、青少年の体位の向上など、国民の健康状態は著しく改善されてきたにも関わらず、ここ数年、心臓病、糖尿病などの慢性疾患などが急速に増加した。

健康に生き、健やかに老いることは、世の中の最大の課題となっている。衛生学（公衆衛生学を含む）には、生活習慣病の予防、少子化対策の他、母子保健、精神保健、感染症予防、食品衛生、産業保健、環境問題など、幅広い分野の課題が含まれている。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	概論－衛生学･公衆衛生学の領域	衛生学･公衆衛生学の歴史（健康観の変遷）、衛生学の概念、疾病の自然史、現代の衛生問題
第2回	食品衛生概論	食品衛生の定義、対象･範囲、食品衛生法について学ぶ。
第3回	食品衛生行政	食品衛生行政の対象･範囲･機構について学ぶ。
第4回	食中毒①細菌性食中毒	細菌性食中毒の症状、原因食品、予防方法などについて学ぶ。
第5回	食中毒②ウイルス性食中毒	ウイルス性食中毒の症状、原因食品、予防方法について学ぶ。
第6回	食中毒③自然毒食中毒	自然毒食中毒の症状、原因食品、予防方法について学ぶ。
第7回	食品添加物①概論	食品添加物の分類、歴史、役割について学ぶ。
第8回	食品添加物②各論	食品添加物の安全性について学ぶ。
第9回	金属による食品汚染	食品添加物に関する視聴覚教材で、普段の食生活の中にたくさん存在する食品添加物について学ぶ。
第10回	放射線による食品汚染	放射線により汚染された食品が引き起こす健康被害について学ぶ。食品の放射線汚染への対策（調理の工夫など）を学ぶ。
第11回	寄生虫による食品汚染①魚介類	魚介類の寄生虫の種類、識別方法、食事する際の注意事項について学ぶ。
第12回	寄生虫による食品汚染②肉類	肉類､その他の寄生虫の種類､識別方法､食事する際の注意事項について学ぶ。
第13回	食品表示･保健機能食品の安全性	一括表示の内容、アレルギー材料についての表示基準について学ぶ。保健食品の有効性、安全性について学ぶ。
第14回	地域保健と衛生行政	プライマリー･ヘルス･ケア，ヘルスプロモーション，集団アプローチ，ハイリスクアプローチ，わが国の保健･医療制度，地域保健
第15回	全体のまとめ	全体のまとめをする。練習問題の解説をする。

【授業の到達目標】

1、衛生学･公衆衛生学の見地から衛生学的諸問題に関する知識と理論を理解できる
2、健康スポーツ産業、学校教育現場の問題解決能力を身に付ける。

【事前･事後学習】

次回の授業を理解するために、毎回の授業後にノートを整理すること。

【成績評価基準】

1、衛生学的諸問題に関する知識と理論を理解できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

･健康管理士一般指導員テキスト４「生活を守る栄養学」

【参考図書】

･柳川　洋　他編著 「社会･環境と健康　公衆衛生学　第4版」 医歯薬出版株式会社
･中村　泉　他著 「学生のための現代公衆衛生学」 南山堂
･細川　祐太郎 「食べ物と健康･食品と衛生　第6版」 医歯薬出版株式会社
･長谷川有紀 「医療職のための公衆衛生･社会医学」 医学評論社; 第4版

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH1319	ス　ポ　ー　ツ　原　理	1年	後期	2単位	選択	石川 幸生

【授業の目的と概要】

この授業では、体育・スポーツの基礎的概念について解説し、体育科学・スポーツ科学の基礎的知識を学びながら、体育・スポーツについて、その基礎的概念や科学的知識をより深く体系的に理解するための能力を育成する。また、それに従い体育・スポーツの目標論を検討しながら、保健体育の目標について具体的な事例を取り上げながら考え、スポーツ原理について体系的に学習する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	この講義の目的と概要について述べる。
第2回	体育の概念(1)	体育科学の立場から検討する。
第3回	体育の概念(2)	歴史的変遷から概観する。
第4回	体育の領域	領域区分をし、社会体育からスポーツへの転換について論じる。
第5回	スポーツの概念	狭義と広義のスポーツ概念を検討する。
第6回	スポーツの本質とアマチュアリズム	スポーツの本質とアマチュアリズムについて考える。(小テスト実施)
第7回	スポーツ・フォア・オールの理念によるスポーツ政策の展開について	スポーツ・フォア・オールの理念によるスポーツ政策の展開を探る。
第8回	体育・スポーツ憲章	体育・スポーツ憲章の紹介する。
第9回	文化としての現代スポーツ政策	文化としての現代スポーツ政策について述べる。
第10回	スポーツとコミュニケーション	スポーツとコミュニケーションについて述べる。
第11回	スポーツと経済について	スポーツと経済について考える。(小テスト実施)
第12回	体育・スポーツの目標論(1)	体育目標の構造について述べる。
第13回	体育・スポーツの目標論(2)	現代の体育目標を分類し解説する。
第14回	学習指導要領の保健体育目標について	学習指導要領の保健体育目標について解説する。
第15回	まとめ	講義の総括をする。(小テスト実施)

【授業の到達目標】

スポーツ原理について体系的に学び、上記の目的を達成すること。これからの体育・スポーツのあり方、あるべき方向性について思考力を身につけることができる。

【事前・事後学習】

事前準備として関連資料や文献などを読んで準備すること。事後学習については授業で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）授業の目的と内容を十分理解しているか。
（2）事前・事後の学習を十分おこなうことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト3回）

【テキスト】

・特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

・授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2320	野　外　運　動　論	2年	前期	2単位	選択	石川 幸生

【授業の目的と概要】

野外運動は一時的ではあるが、人間を日常の人工的抑圧から解放し、人間の自然性の回復を期待できものである。授業では人間の持つ自然性の学習や具体的な野外運動プログラムを提供しながら、その知識や技術を理解させる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	この講義の目的と概要について述べる。
第2回	野外活動･野外運動の定義と分類	野外活動･野外運動の定義と分類について述べる。
第3回	野外活動･野外運動の意義と必要性	野外活動･野外運動の意義と必要性について論じる。
第4回	野外活動･野外運動と野外教育	野外活動･野外運動と野外教育について述べる。
第5回	野外活動･野外運動と健康	野外活動･野外運動と健康について理解する。
第6回	野外活動･野外運動のマネジメント	野外活動･野外運動のマネジメントについて理解する。（小テスト実施）
第7回	野外活動･野外運動とその指導	野外活動･野外運動とその指導について理解する
第8回	野外活動･野外運動と参加者への理解	野外活動･野外運動と参加者への理解をする。
第9回	野外活動･野外運動と環境への配慮	野外活動･野外運動と環境への配慮について理解する。
第10回	野外活動の公的施設（1）	公的な野外活動の各種施設について理解する。
第11回	野外活動の民間施設（2）	民間野外活動施設について理解する。（小テスト実施）
第12回	野外活動の実際（1）「山陸型活動」	野外活動の実際(1)山陸型野外活動について理解する。
第13回	野外活動の実際（2）「水辺型活動」	野外活動の実際(2)水辺型野外活動について理解する。
第14回	野外活動の実際（3）「冬季の活動」	野外活動の実際(3)冬季の野外活動について理解する。
第15回	まとめ	野外運動論の総括をする。（小テスト実施）

【授業の到達目標】

安全でより質の高い野外活動･野外運動の指導が出来る。

【事前･事後学習】

事前にテキストを読んで準備すること。また、事後学習については授業で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）授業の目的と内容を十分理解できているか。
（2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト3回）

【テキスト】

･野外活動ーその考え方と実際ー　日本野外活動研究会編　（株）杏林書院

【参考図書】

･適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH2321	総 合 野 外 活 動 実 習 Ⅰ	2年	前期	1単位	選択	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

事前の2回のガイダンスは学内の講義室で実施し、各回のテーマについては実際の野外の活動体験を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	本授業の概要説明	本授業の概要のを理解する
第2回	キャンプの特性:キャンプの目的と意義	対象に応じたキャンプの目的や意義について理解する
第3回	キャンプの特性:キャンプの組織と種類	キャンプを運営する際の組織の在り方やキャンプの種類について理解する
第4回	キャンプの特性:キャンプのルールとマナー	キャンプのルールやマナーについて、実際の活動を通して学ぶ
第5回	キャンプの特性:キャンプと環境教育	キャンプと環境教育について、実際の活動を通して学ぶ
第6回	キャンプの対象:人間の理解　自然の理解	キャンプの活動を通して、人間と自然についての理解を深め、どのように共存しているのかを学ぶ
第7回	キャンプの対象:テント設営	キャンプ活動の中でテントの設営方法、設営場所などを学ぶ
第8回	キャンプの指導:アイスブレイキングゲーム	アイスブレイキングゲームについて参加、、指導の体験をする
第9回	キャンプの指導:アウトドアクッキング	キャンプサイトに応じたアウトドアクッキングを実践する
第10回	キャンプの指導:イニシアティブゲーム	イニシアティブゲームの理論と目的を学ぶとともに実際に体験する
第11回	キャンプの指導:ネイチャーゲーム	ネイチャーゲームの目的を理解するとともに実際に体験する
第12回	キャンプの指導:ハイキング	実際に登山を体験する中で、ルールやマナーを学ぶ。また、登山での危険や楽しみにつついても体験的に学ぶ
第13回	キャンプの指導:キャンプファイヤー	キャンプファイヤーの目的について学ぶとともに、実際に参加者、指導者として体験する
第14回	キャンプの安全: リスクマネジメントの考え方と実際	キャンプのリスクマネジメントの考え方を学び、実際に事故が起きた場合の対応についても学ぶ
第15回	まとめ	実習を通しての心の変化や、学んだことをふりかえり、シェアする

【授業の到達目標】

野外活動とは、日常生活から離れて大自然の中で自然の諸条件に対処しながら、活動を行うものである。本授業では、野外において集団で生活するための基本的な知識や技術を自然の中で直接体験して習得することをねらいとする。また、野外での活動を通して、自然環境や人間とのかかわりについて様々な観点から考え、課題を発見し解決するための行動ができる態度や技術を養う。

【事前・事後学習】

日常から、自然環境や人とのかかわりにいについて考え行動するように努めること。

【成績評価基準】

知識面については、試験を実施して理解度を評価する。野外での活動を通した、自然環境や人間との関わりについては、実習中の取組みについて自己及び他者に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40%	60%	0	0

【テキスト】

·『キャンプ指導者入門』社団法人日本キャンプ協会

【参考図書】

·適宜配布する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2323	総 合 野 外 活 動 実 習 Ⅲ	2年	後期	1単位	選択	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

総合野外活動実習Ⅲにおいては、日常生活から離れて大自然の中での雪山という環境下で活動を実施する。その活動を通じて、スノースポーツの楽しさを体験するとともに、新しい技術の習得及び技術の向上を目的とする。その過程で、自分と向き合うとともに仲間と協力をする。また、スノースポーツの楽しみ方、ルールやマナーについても学び、安全面の指導を含めて指導者としての知識･技術を習得することもねらいとする。さらに、スノースポーツが子どもから高齢者、障害者を含めたみんなのスポーツであることを理解させ、生涯スポーツとしての理解も深めさせる。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修ガイダンス	授業の目的、方針、ルール、評価の方法の説明をする。
第2回	スノースポーツの歴史	スノースポーツ（スキーやスノーボード）の歴史を学び、実習の趣旨を理解する。
第3回	スノースポーツの傷害及び安全対策	スノースポーツ（カービングスキーやスノーボード）の安全対策を学び、傷害が発生しない取り組みをする。
第4回	スキー板及びスキー靴の選び方	カービングスキーの板やスキー靴の合わせ方や用具の調整方法を学ぶ。
第5回	セフティーバインディングの調整方法	カービングスキーのバインディングの調整方法を学び、実習中の傷害予防に努める。
第6回	スキーのためのコンディショニング方法	スキーのためのコンディショニング方法を学び、傷害が発生しない取り組みをする。
第7回	カービングスキーの基礎技術１	カービングスキーの用具に慣れ、基本動作を学ぶ。
第8回	カービングスキーの基礎技術２	カービングスキーによる方向転換、登行、滑降の基礎を学ぶ。
第9回	カービングスキーの基礎技術３	カービングスキーによるプルーク、斜滑降、ターンの基礎を学ぶ。
第10回	カービングスキーの応用技術１	初級から中級コースでの大回りターンを実習する。
第11回	カービングスキーの応用技術２	中級コースでの大回りターン及び小回りターンを実習する。
第12回	班別ミーティング	実習後、班別ミーティングを行い、実習の振り返りを行う。
第13回	総合滑走１	初級から中級コースでの大回りターン及び小回りターンのスキルを向上させる。
第14回	総合滑走２	中級以上のコースでの大回りターン及び小回りターンのスキルを向上させる。
第15回	まとめ	これまでの実習の総括をし、スキーバッジテストに向けて復習をする。

【授業の到達目標】

スノースポーツの楽しさ、ルール、マナーを体験するとともに、安全に楽しく滑走する技術を習得でき、また、安全面の指導を含めて指導者としての知識･技術を習得できることを目標とする。

【事前･事後学習】

事前学習として、後期開催予定の1～2回の総合野外活動実習Ⅲの説明会に必ず出席すること。

事後学習としては、総合野外活動実習Ⅲで習得した滑走技術、ルールやマナーを確認および向上させるためにスキー場に足を運び、スノースポーツを各自積極的に実施することを推奨する。

【成績評価基準】

カービングスキーのルールやマナーを十分に理解し、安全に実習を行うとともに、カービングスキーの基礎スキルを習得できたかどうかを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	20	60	20（振り返りのための実習ノートの作成）

【テキスト】

･実習ノートを配布

【参考図書】

･DVD上達レッスン　スキー（渡辺一樹監修）、成美堂、2008年

･DVDで完全マスター！　井山敬介のスキー上達メソッド、実業之日本社、2008年

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH2324	ス　ポ　ー　ツ　社　会　学	2年	前期	2単位	選択	石川 幸生

【授業の目的と概要】

スポーツの現状とその課題について、社会学的視点から考察する。生涯スポーツや競技スポーツの現場における諸現象について概観し、そして、社会学的立場から批判的、実証的に、その現象を説明し分析して諸課題と展望を明らかにする。また、諸課題について理解させ、学ばせる。以上について講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	スポーツの歴史と概念	スポーツの歴史と概念について考察する。
第2回	現代社会におけるスポーツの意義	現代社会におけるスポーツの意義 について考察する。
第3回	文化としてのスポーツ	文化としてのスポーツについて考察する。
第4回	社会の中のスポーツ「商業主義とスポーツ」	商業主義とスポーツ の関係性について考察する。
第5回	社会の中のスポーツ「現代スポーツの社会病理」	現代スポーツの社会病理について考察する。
第6回	社会の中のスポーツ「教育としてのスポーツ」	教育としてのスポーツについて考察する。
第7回	社会の中のスポーツ「マスメディアとスポーツ」	マスメディアとスポーツについて考察する。
第8回	社会の中のスポーツ「日本文化とスポーツ」	日本文化とスポーツ について考察する。
第9回	我が国のスポーツ振興政策	我が国のスポーツ振興政策について考察する。
第10回	諸外国のスポーツ振興政策	諸外国のスポーツ振興政策について考察する。
第11回	地域スポーツ・ 総合型地域スポーツクラブの意義と課題	地域スポーツ・総合型地域スポーツクラブの意義と課題について考察する。
第12回	少子・高齢社会とスポーツ	少子・高齢社会とスポーツ について考察する。
第13回	スポーツとジェンダー	スポーツとジェンダーについて考察する。
第14回	スポーツとノーマライゼーション	スポーツとノーマライゼーションについて考察する。
第15回	クオリティ・オブ・ライフとしてのスポーツの可能性	クオリティ・オブ・ライフとしてのスポーツの可能性について考察する。

【授業の到達目標】

現代スポーツの社会的役割と特性、スポーツの経済的・ 文化的側面、そして、スポーツと生活の質（QOL）などの諸課題について理解する力が出来る。

【事前・事後学習】

事前に関連図書を読んで準備すること。また、事後学習については授業で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

1）現代スポーツの社会的役割と特性、スポーツの経済的・文化的側面について理解しているか。
2）スポーツと生活の質（QOL）などの諸課題について理解しているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト3回）

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・講義中に適宜紹介します。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH1325	専門スポーツ実習(器械運動)	1年	前期	1単位	選択	小島 正憲

【授業の目的と概要】

本授業では、小･中･高等学校の学習指導要領に例示されている器械運動の技能について取り上げ、それらの技を習得することや正しく指導できるようになることを目的として行う。また、習得した技を数種類組み合わせた演技を自分自身で構成し、独創性豊かな演技が発表できるようになることを目指す。さらに、各技の構造的理解と技能習得へのプロセスについて学習するとともに、他者への補助法についても実践する。なお、実施予定種目はマット運動、跳び箱、鉄棒（男子）、平均台（女子）の3種目である。以上の内容を実技形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や注意点等を説明する。基本的な筋力や柔軟性の確認を行う。
第2回	マット運動(1)　徒手体操･回転技	マット運動の基礎的な徒手体操と回転技について理解し、習得する。
第3回	マット運動(2)　回転技･倒立･組合せ技	マット運動の回転技･倒立･組合せ技について理解し、習得する。
第4回	マット運動(3)　倒立回転技	マット運動の倒立回転技について理解し、習得する。
第5回	跳び箱(1)　ロイター板の利用法･切り返し技	跳び箱運動で用いるロイター板の利用法と切り返し技について理解し、習得する。
第6回	跳び箱(2)　台上前転･倒立	跳び箱運動の台上前転･倒立について理解し、習得する。
第7回	跳び箱(3)　前転跳び	跳び箱運動の前転跳びについて理解し、習得する。
第8回	鉄棒(1)　前方･後方支持回転	鉄棒運動の前方･後方支持回転について理解し、習得する。
第9回	鉄棒(2)　浮き支持回転･足裏支持	鉄棒運動の浮き支持回転･足裏支持について理解し、習得する。
第10回	鉄棒(3)　け上がり	鉄棒運動のけ上がりについて理解し、習得する。
第11回	補助法	補助法について理解し、正しい動きを身に付ける。
第12回	習得度テストと復習	技の習得度合の確認テストとその振り返りを行う。
第13回	グループ練習	グループで演技発表の練習を行う。
第14回	演技発表･グループ練習	演技発表を行う。グループで演技発表の練習を行う。
第15回	演技発表･まとめ	演技発表を行う。本科目のまとめを行う。

【授業の到達目標】

授業で取り上げる基本的な技が「できる」ようになるとともに、技のでき栄えや技の組み合わせ方に着目した「演技」ができるようになる。

段階指導の重要性を理解し、技の体系や系統を説明できるようになる。

【事前･事後学習】

事前学習として、入浴後など体温が上昇した状態でストレッチ(特にハムストリング)を継続的に行うこと。

事後学習として、本時の授業で学んだ重要な運動のポイントをイメージトレーニングしておくこと。

【成績評価基準】

課題技を与え、その完成を目指す。

どう出来るかという技の出来栄えを判断し、成績評価をする。(実技テスト)

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	10%（各課題技の感想文と評価票）	10%	80%（マット運動･前方倒立回転とび･跳び箱運動･鉄棒運動【男子のみ】･平均台運動【女子のみ】）	0%

【テキスト】

･各講義内容に応じて、資料を配布する。

【参考図書】

･中･高校　器械運動の授業づくり（三木四郎、加藤澤男、本村清人:大修館書店、2006）

･教師のための運動学（金子明友、吉田茂、三木四郎:大修館書店、2008）

･器械運動の動感指導と運動学（三木四郎:明和出版、2015）

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH1326	専門スポーツ実習(陸上競技)	1年	後期	2単位	選択	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

本授業では陸上競技の各種目について段階的な指導方法を学ぶ。その際には、各種目についての基本的な原理を理解したうえで実際に実技を行うとともにレポートにて振り返りを行う。そうすることによって、各練習方法についての注意点や各種目の特性を理解する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	この授業の目的の説明および、導入の運動を行う
第2回	投運動の補助運動	投擲動作の基本原理を学ぶ
第3回	砲丸投げ（基本原理）	砲丸投の基本的基本原理を学ぶ
第4回	砲丸投げ（保持、突き出し、立ち投げ）	砲丸投をその場から行う
第5回	砲丸投げ（サイドステップ投法）	ステップを利用した砲丸投を行う
第6回	砲丸投げ（グライド投法、回転投法）	グライド動作、回転動作を学習する
第7回	砲丸投げ（測定･評価方法･測定）	砲丸投の測定評価法を学び、測定する
第8回	走運動の基本動作	疾走の基本原理を理解する
第9回	短距離走（走りの課題を見つける）	各自の疾走動作の課題を見つけ出す
第10回	短距離走(スターティングブロックの設置､スタート)	スタート、加速疾走局面について学習する
第11回	短距離走（中間疾走の技術）	慣性疾走局面の疾走について学習する
第12回	短距離走（測定･評価方法･測定）	短距離走の測定評価法を学び、測定する
第13回	リレー（バトンパスの技術）	リレーのバトンパスの技術について理解する
第14回	リレー（バトンパスの練習方法） オーバーハンドパス･アンダーハンドパス	バトンパスの練習を行う
第15回	リレー（マークの設定方法）	バトンパスを行う際のマークの設定について理解する
第16回	リレー（測定･評価方法･測定）	リレーの測定評価法を学び、測定する
第17回	ハードル（ハードルの基本動作）	ハードル走の基本的な動作、原理を理解する
第18回	ハードル（ハードリング）	ハードリングの練習法を学ぶ
第19回	ハードル(ハードル走のスタート)	ハードルのスタートについて学ぶ
第20回	ハードル（ハードル走の課題を見つける）	各自のハードル走の課題を見つける
第21回	ハードル（ハードル総合練習）	各自の課題に応じた練習を行う
第22回	ハードル（測定･評価方法･測定）	ハードル走の測定評価法を学び、測定する
第23回	跳躍運動の補助運動	助走跳躍の原理を学ぶ
第24回	走高跳（基本原理）	走高跳の基本原理を学ぶ
第25回	走高跳（はさみ跳び）	はさみ跳びを行うための練習法を学ぶ
第26回	走高跳（背面跳への導入）	背面跳への導入を行う
第27回	走高跳（背面跳　助走）	背面跳の助走、内傾、後傾について学ぶ
第28回	走高跳（背面跳　練習方法）	背面跳の練習方法を学ぶ
第29回	走高跳（測定･評価方法･測定）	走高跳の測定評価法を学び、測定する
第30回	まとめ	実習のまとめを行う

【授業の到達目標】

陸上競技の基礎的な指導法を記述できるようになる。ポイントを押さえた見本を示すことができるようになる。他人の運動を観察し、指導上の具体的なポイントを見抜くことができるようになる。

【事前・事後学習】

第一回の授業は必ず出席すること。授業に関する重要な連絡をするため、欠席者は履修を認めないことがあるので注意すること。授業後に、その日の学習を振り返るレポートを作成し提出する。また、各授業に際しては、提出したレポートを振り返り、その日の学習の課題を明確にして授業に取り組む。

【成績評価基準】

自身の課題を整理したのちに授業に取り組み、その取り組みについて記述しているかどうか。他の受講生の運動を観察し、指導上のポイントを基に改善点を記述しているかどうか。これらの記述が詳細で具体的な記述となっているかどうか。1年後に自分でレポートを見直した時に陸上競技の指導案作成に際して参考資料として使える仕上がりとなっているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	100% (毎回の授業後に提出)	0%	0%	0%

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH2327	専門スポーツ実習（水泳）	2年	後期	1単位	選択	渡邉 素幸

【授業の目的と概要】

生涯水泳とささやかれるまでに浸透している水を媒体とした運動である水泳。誰にでもできるといわれるなかで安全を確保するため、その特殊な環境に伴う特性を理解した上で、泳法技術（自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの4泳法と個人メドレー及び付帯する基本動作）の習得と向上を目的とする。運動不足になりがちな昨今の学生生活、社会生活とならないように、定期的な運動効果からの健康維持と基礎体力の向上の効果まで期待し、その習慣による充実感、達成感が得られ活かされるよう指導したい。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに（目標の確認）	生徒諸君の疾患等確認する。各時限の目標を明確に伝える。水に慣れる。
第2回	自由形の練習Ⅰ（キック・プル・スイム）	自由形のキック・プル・スイムを実践し体得していく。
第3回	自由形の練習Ⅱ（ドリル・スタート・ターン）	自由形のスタート・ターン・タッチ等テクニカルな動作を学ぶ。
第4回	自由形の確認Ⅲ（スイム・テスト）	自由形を５０メートル正しく泳ぐことが出来るか確認する。
第5回	平泳ぎの練習Ⅰ（キック・プル・スイム）	平泳ぎのキック・プル・スイムを実践し体得していく。
第6回	平泳ぎの練習Ⅱ（ドリル・スタート・ターン）	平泳ぎのスタート・ターン・タッチ等テクニカルな動作を学ぶ。
第7回	平泳ぎの確認Ⅲ（スイム・テスト）	平泳ぎを５０メートル正しく泳ぐことが出来るか確認する。
第8回	背泳ぎの練習Ⅰ（キック・プル・スイム）	背泳ぎのキック・プル・スイムを実践し体得していく。
第9回	背泳ぎの練習Ⅱ（ドリル・スタート・ターン）	背泳ぎのスタート・ターン・タッチ等テクニカルな動作を学ぶ。
第10回	背泳ぎの確認Ⅲ（スイム・テスト）	背泳ぎを５０メートル正しく泳ぐことが出来るか確認する。
第11回	バタフライの練習Ⅰ（キック・プル・スイム）	バタフライのキック・プル・スイムを実践し体得していく。
第12回	バタフライの練習Ⅱ（ドリル・スタート・ターン）	バタフライのスタート・ターン・タッチ等テクニカルな動作を学ぶ。
第13回	バタフライの確認Ⅲ（スイム・テスト）	バタフライを５０メートル正しく泳ぐことが出来るか確認する。
第14回	個人メドレーの練習Ⅰ（スイム・スタート・ターン）	個人メドレー１００メートル完泳を目指す。各種目ごとの泳ぎを再確認する。異種目に移行するターンを学ぶ。
第15回	個人メドレーの確認Ⅱ（スイム・テスト）	個人メドレー１００メートルが正しく泳げるか確認する。

【授業の到達目標】

水泳の競泳４種目について、競泳競技規則に従い、実践を通していくことで４種目の動作を学び、自分自身が受講した指導方法を理解していくことで、将来指導者として水泳の特性を活かした水泳指導が出来ることを目標とする。

【事前・事後学習】

次週の授業目標を明確にしておき、動きを把握しておくこと。水泳指導教本等を参考にする。

【成績評価基準】

水泳における競泳４種目について、各種目の特性を十分に理解し、実技を通して表現することが出来るかに着目し評価していく。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	20	80	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・水泳指導教本　日本水泳連盟　大修館書店

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3328	専門スポーツ実習（球技）	3年	後期	2単位	選択	長谷川 望 中原 貴典

【授業の目的と概要】

スポーツの指導者として球技種目において高度な技術と審判法を習得できるように、各種目の特性や自己の能力を理解し、目標や課題を明確にし練習や試合に取り組ませる。また、集団技能、個人技能を活かし技能の程度に応じた作戦を組み立てられるように指導する。さらに、各種目特有のマナーや規則を守り、公正･協力･責任などの社会的な態度や安全に練習をする態度を身につけさせる。これらを通じてスポーツの指導者としての基本的な心構えや指導法についても学習する場とする。指導法に関しては指導実践を行い、学生同士あるいは学生と教員で指導の目的や効果的指導法についても考える。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション:本授業における概要	本授業の目的内容を理解する。人前での話す機会として、過去のスポーツ歴等を発表をする。
第2回	チーム分け、体ほぐし運動、バレーボールの簡易ゲーム	チーム分けを行い、中高体育授業でも生かすことができるように体ほぐし運動を体験する。バレーボールの簡易ゲームを行いクラスのレベルを把握する。
第3回	バレーボールの個人技術(パス、スパイク、サーブ)	パス、スパイク、サーブといった個人技術を理解し、練習を行う。
第4回	オーバーハンド、アンダーハンドパスの技術習得(1対1のパターン)	オーバーハンド､アンダーハンドパスの技術習得のための1対1のパターンを紹介し､体験する。
第5回	バレーボールの個人技術･個人戦術の指導法	バレーボールの個人技術･個人戦術の指導法について学ぶ
第6回	バレーボールのグループ戦術(3対3での3弾攻撃のリズムづくり)	バレーボールのグループ戦術として3対3での3段攻撃のリズムづくりを学ぶ
第7回	バレーボールのグループ戦術の指導法	バレーボールのグループ戦術の指導法について学ぶ
第8回	レシーブ時のコートスペース確認(レシーブ･フォーメーションの理論と実践)	レシーブ･ フォーメーションの理論について学び、実際にコートの中でプレーすることで学ぶ
第9回	スパイク及びブロックの種類の理解と技術習得	スパイク及びブロックの種類について理解し、技術習得するために実際に体験する。
第10回	サーブ及びサーブカットの種類の理解と技術習得	サーブ及びサーブカットの種類のについて理解し、技術習得するために実際に体験する
第11回	テンポを変えたオフェンス戦術の理解	オフェンス戦術について理解し、様々なバリエーションについて体験的に学ぶ
第12回	バレーボールの試合，審判法，ゲーム分析	ルールや審判法について正しく理解し，ゲームを行う。ゲームについては分析する視点を学ぶ。
第13回	バレーボールの試合，審判法，ゲーム分析	ルールや審判法について正しく理解し，ゲームを行う。ゲームについては分析する。
第14回	ボールを用いた様々な運動	ボールを用いた様々な運動を通した体つくり運動のバリエーションを体験的に学ぶ。
第15回	サッカーの個人技術(パス、ドリブル、シュート)	パス，ドリブル，シュートといった個人技術を理解し、練習を行う。
第16回	サッカーの個人戦術	on the ball，off the ballの個人戦術について理解し、体験する。
第17回	サッカーの個人技術･個人戦術の指導法①	個人技術，個人戦術の指導法について学ぶ。
第18回	サッカーの個人技術･個人戦術の指導法②	個人技術，個人戦術の指導法についてグループごとに実践する。
第19回	サッカーのグループ戦術	グループ戦術について理解し，実際に体験する。
第20回	サッカーのグループ戦術の指導法	グループ戦術の指導法について体験的に学ぶ。
第21回	サッカーのチーム戦術	チーム戦術について理解し，実際に体験する。
第22回	サッカーのチーム戦術の指導法	チーム戦術の指導法について体験的に学ぶ。
第23回	サッカーのゲーム分析	ゲーム分析の視点について学ぶ。
第24回	サッカーの，ゲーム分析とシステム	実際にゲーム分析を行い，システムについても学ぶ。
第25回	サッカーの審判法	ルールや審判法を正しく理解し，ゲームを行う。
第26回	サッカーの試合，審判法	ルールや審判法を正しく理解し，ゲームを行う。ゲームについては分析する。
第27回	授業内サッカー大会運営、サッカーのまとめ	授業内サッカー大会のルール，チームのメンバー，ポジション，システムを決め，大会を実施する。
第28回	授業内サッカー大会運営、サッカーのまとめ	授業内サッカー大会を運営し，表彰式を行う。
第29回	授業内バレーボール大会の運営、バレーボールのまとめ	授業内バレーボール大会のルール，チームを決め，大会を実施する。
第30回	授業内バレーボール大会の運営、バレーボールのまとめ	授業内バレーボール大会を運営し，表彰式を行う。

【授業の到達目標】

スポーツの指導者として球技種目において高度な技術と審判法を習得する。また、スポーツの指導者としての基本的な心構えや指導法についても習得する。

【事前･事後学習】

技術の練習、戦術の理解、ルールの理解等積極的な学習を期待する。

【成績評価基準】

球技種目の特性やルールを理解し、基本技術を習得しているか。
スポーツの指導者としての基本的な心構えや指導法について習得できているか。
チームでの個人の役割を果たし、審判法や準備･片付けも積極的に行うことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
20	0	60	20	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･新しい体育の授業づくり

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2329	専門スポーツ実習（剣道） 専門スポーツ実習（武道）	2年	前期	1単位	選択	櫻井 秀樹

【授業の目的と概要】

剣道とは、剣の道理や理合を理解しながら、心身の鍛練を通して、人間形成を目指すのが真の目的である。また、スポーツとしての爽快さを持ちながらスポーツ分野とはやや異なる（武道）のが剣道の特徴といえる。まず、ここではスポーツ（武道）の指導者として、剣道を正しく理解し、実技では基本技能を習得することを目標とする。基本技能は、礼儀作法を始めとし、素振り、防具を着けての基本打ち、地稽古、試合稽古（審判法）などを行う。また、剣道を通して公正･協力･責任など社会的な態度を育成し、安全に稽古できる指導者としての心構えも身につけることを目標とする。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	目標　剣道の説明	竹刀等販売　授業ガイダンス　諸注意
第2回	基本動作（1）礼法、正座（2）足運び（3）構え	剣道に最低限必要な礼法、足運びおよび構えを習得する
第3回	基本技能（1）素振り各種	正面素振り、左右の素振り、跳躍素振りなど基本的な素振りの習得
第4回	基本技能（2）打突（人形等を打ってみる）	実際に竹刀、人形などを打突させ、剣道としての打ち方を習得する
第5回	基本技能（3）防具のつけ方	防具の付け方、片付け方を習得（特に東邦高校独特の片付け方がある）
第6回	防具をつけての基本技能（1）切り返し	剣道の基本練習の代表的な練習法、切り返しを習得する
第7回	防具をつけての基本技能（2）面、小手、胴打ち	基本技能である面、小手、胴を習得する
第8回	防具をつけての基本技能（3）二段、三段の連続打ち	基本技能である、二段打ち、三段打ちを習得する
第9回	防具をつけての基本技能（4）つばぜり合いと引き技	つばぜり合いの攻防と引き技を習得する
第10回	防具をつけての基本技能（5）引き面、引き小手、引き胴	引き面、引き小手、引き胴の引き技を習得する
第11回	防具をつけての基本技能（6）打ち込み稽古、かかり稽古	いろいろな稽古法を実践する（打ち込み稽古、かかり稽古）
第12回	防具をつけての基本技能（7）地稽古	いろいろな稽古法を実践する（地稽古、約束稽古）
第13回	試合及び審判法（1）試合指導	試合および審判ができるようにする（実際に試合をする）
第14回	試合及び審判法（2）審判指導	試合および審判ができるようにする（実際に審判をする）
第15回	基本技能の試験　まとめ	実技試験　まとめ

【授業の到達目標】

剣道に必要な基本技能及び教員を意識した見本となる動作や知識、指導方法などを習得する

【事前･事後学習】

剣道に関するＤＶＤや本などを視聴してくると、剣道という競技がイメージしやすく、学習に興味が持てる

【成績評価基準】

剣道に必要な基本技能及び教員を意識した見本となる動作や知識、指導方法などを習得できているか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40	60	0

【テキスト】

･必要に応じて資料を配布する

【参考図書】

･剣道の訓（愛知県剣道連盟）　全日本剣道連盟試合規則および審判規則
･スポーツシリーズＱ＆Ａ実践剣道　矢野博･著（大修館）

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3330	専門スポーツ実習（柔道）	3年	前期	1単位	選択	平野 等

【授業の目的と概要】

柔道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。又、柔道に積極的にとりくむことを通じて、武道の伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する運動でもある。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	学習の進め方、柔道の歴史、柔道衣の着方、礼法等
第2回	基本動作	体ほぐしの運動、受け身、進退動作、寝技の動き方
第3回	固め技の基本動作	攻撃防御の基本動作（けさ固め･横四方･上四方）
第4回	立ち技の基本動作	くずし方、大腰、一本背負い、支え釣り込み足
第5回	対人的技能（固め技）（1）	抑え込み技（けさ固め･横四方固め･上四方固め）
第6回	対人的技能（投げ技）（1）	手技（一本背負体落とし）の練習
第7回	対人的技能（投げ技）（2）	腰技（払い腰、跳腰、釣り込み腰）の練習
第8回	対人的技能（投げ技）（3）	足技（送り足払い、体落とし、小内刈り、大内刈り）
第9回	対人的技能（固め技）（2）	抑え込み技の攻防の説明と約束練習
第10回	対人的技能（締め技）	送り襟締め、十字締め、及び関節技（腕がらみ、腕ひしぎ十字固め）
第11回	連絡技、返し技の攻防	投げ技、固め技の連絡技を使っての練習
第12回	自由練習	既習の技を使用して自由練習
第13回	試合方法	試合の仕方と審判法
第14回	試合	互いが練習した技を使って試合と審判
第15回	まとめ･テスト	約束練習及び実技テスト

【授業の到達目標】

柔道は相手と直接組み合って、基本となる技や得意技、連続技を用いて相手と攻防を展開しながら、お互いに「一本」を目指して勝敗を競い合う運動である。相手の動きに応じて基本動作から、基本となる技を用いて攻撃防御を展開できるようにする。

【事前･事後学習】

中学校で武道が男女共通で必修化になりました。柔道の技能と指導法を学習しよう。又、武道には段位性があり柔道の練習を重ねて講道館昇段審査にチャレンジして、黒帯を締めることを目標にしましょう。

【成績評価基準】

柔道場において柔道衣に着替え、柔道の基本動作から、基本となる技を使用して相手の動きの変化に応じて投げたり抑えたりするなどの攻撃防御が出来るか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	50	20	10

【テキスト】

･必要に応じて実技解説をプリント配付する。

【参考図書】

･柏崎勝彦『しっかり学べる柔道教室』日東書院
･文部科学省　中学校学習指導要領解説　保健体育編
･文部科学省　高等学校学習指導要領解説　保健体育編

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2331	専門スポーツ実習（ダンス）	2年	前期	1単位	選択	村上　恭子

【授業の目的と概要】

ダンスの授業では学習指導要領に示されている「創作ダンス」「フォークダンス（民踊，フォークダンス)」,「現代的なリズムのダンス」の学習を通して，踊る，創る，見る，というダンスの本質を理解する。踊るための基礎的技能の習得とその指導をねらいとしてすすめていく。これらの内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業概要の説明。ダンスの歴史及び特性。中学･高校の学習指導要領にみるダンス領域の取り扱い
第2回	フォークダンス (日本の「民踊」)	フォークダンス (日本の「民踊」) の意図を理解して踊ることができる。
第3回	フォークダンス (外国の「フォークダンス」)	フォークダンス (外国の「フォークダンス」) の意図を理解して踊ることができる。
第4回	フォークダンス(日本の「民踊」と外国の「フォークダンス」) 指導の実際	フォークダンス(日本の「民踊」と外国の「フォークダンス」) の指導を実際に行い，相互評価を行う
第5回	現代的なリズムのダンス	現代的なリズムのダンスを学習する。
第6回	現代的なリズムのダンスの指導の実際	現代的なリズムのダンスの指導を実際に行い，相互評価をする。
第7回	現代的なリズムのダンスの作品づくりと発表と鑑賞	現代的なリズムのダンスの基本的な動きを基に，グループで創作をして発表を行い鑑賞をする。
第8回	創作ダンス　1　課題学習「新聞紙」	創作ダンス　1　運動課題「新聞紙」による「ひとながれ」の学習と小作品づくり。発表と鑑賞。
第9回	創作ダンス　2　課題学習「走る-止まる」	創作ダンス　2　運動課題「走る－止まる」「めりはり」の学習と小作品づくり。発表と鑑賞。
第10回	創作ダンス　3　課題学習「集まる－跳び散る」	創作ダンス　3　運動課題「集まる－跳び散る」「群」の学習と小作品づくり。発表と鑑賞。
第11回	創作ダンス　4　課題学習「スポーツいろいろ」	創作ダンス　4　「スポーツいろいろ」のテーマをもとに小作品を作る。発表と鑑賞。
第12回	創作ダンスの作品づくりと相互評価	今までの創作ダンスの学習をもとに作品づくり と相互評価を行う。
第13回	創作ダンスの発表会と鑑賞	発表会と鑑賞
第14回	今までのダンス学習の総復習と作品づくり	今までのダンス学習の総復習とグループで作品づくりを行う
第15回	ダンスの発表会と鑑賞	発表会と鑑賞

【授業の到達目標】

1．創作ダンス，フォークダンス(民踊，フォークダンス)現代的なリズムのダンスの特徴を捉えて動くことができる。
2．グループ活動を通して，お互いの良さを認め合い作品づくりに積極的に貢献することができる。
3．各種のダンスの指導を相互に学習することができる。

【事前･事後学習】

時空間の芸術といわれるダンスの基礎として，各種のダンス，民踊，ミュージカル，演劇，絵画，音楽などを積極的に鑑賞をしておくことが望ましい。

【成績評価基準】

1．各種ダンスの動きの基礎を踏まえて，動くことができるか。
2．お互いの良さを認めて積極的にグループの仲間と関わって，作品をつくることができるか。
3．毎時間のポートフォリオを，丁寧に記録することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	(30%) 毎時間のポートフォリオ	(40%)　作品づくりへの参加状況と小作品の評価	(30%)　現代的なリズムのダンス，創作ダンス，まとめのダンスの作品を対象とする	0

【テキスト】

･適宜配布する

【参考図書】

･全国ダンス･表現運動授業研究会『明日からトライ！ダンスの授業』大修館書店，2011年。
･文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』平成20年
･文部科学省『高等学校学習指導要領解説　保健体育編』平成21年

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2332	栄　　養　　学	2年	後期	2単位	選択	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

生活様式の多様化と日常生活の利便性の向上に伴い、運動不足から過剰栄養、ストレスなどによる疾病の多発が大きな社会問題となっている。そこで、栄養学を学ぶことによって、健康的な体づくりや様々な状況に応じた（運動、疾病など）の栄養の摂り方等を性別、年齢別、個人別に指導できる知識と能力を養い、さらには、アスリートの健康管理に必要な栄養学の基礎的知識を身につける。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	運動における栄養の役割	身体の構造と栄養のかかわりについて理解する
第2回	身体活動におけるエネルギー消費量	身体活動強度によるエネルギー消費量（メッツの解説）を理解する
第3回	運動と糖質の関係	糖質の解説及び運動における糖質の役割を理解する
第4回	運動とたんぱく質の関係	たんぱく質の解説及び運動におけるたんぱく質の役割を理解する
第5回	運動と脂肪の関係	脂肪の解説及び運動における脂肪の役割を理解する
第6回	運動とビタミン･ミネラルの関係	ビタミン･ ミネラルの解説及び運動におけるビタミン･ ミネラルの役割を理解する
第7回	年代別･疾病時の栄養	年代別や疾病時の栄養について理解することができる。
第8回	水分補給とスポーツ飲料	水分補給の重要性と摂取のタイミングについて理解する
第9回	サプリメントの上手な使い方	サプリメントの解説及びその選択方法と摂取方法を理解する
第10回	外食と栄養バランス	外食の特徴と上手な選び方ができる
第11回	栄養摂取と食生活（1） 身体組成からみる体づくり	身体組成の説明と食事と体づくりのかかわりについて理解する
第12回	栄養摂取と食生活（2） カーボローディング	カーボローディングの仕組みと原理を理解する
第13回	栄養摂取と食生活（3） 体重コントロール	状況に応じた体重管理の方法を理解する
第14回	栄養摂取と食生活（4） アスリートの摂食障害	アスリートにおこる疾病の予防と回復のための食事を理解する
第15回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

①健康的な体作りの方法や、運動時の個人別、種目別の栄養の摂り方を指導することが出来る。
②個人の状況に応じた栄養摂取を実践･指導することができる

【事前･事後学習】

事前:糖質、たんぱく質、脂肪、ビタミン、無機質を理解する。
事後:健康になるための体づくりの方法とスポーツにおける栄養の摂取方法の知識を深める。

【成績評価基準】

基本的な栄養に関する知識を習得し、
①健康的な体作りの方法や、運動時の個人別、種目別の栄養の摂り方を指導することが出来るか
②個人の状況･目標に応じた栄養摂取を実践･指導することができるか
について評価する

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	0	10	0	20（提出物等）

【テキスト】

･栄養の教科書　　新星出版社　中嶋洋子　監修
･健康管理士一般指導員テキスト４ 「生活を守る栄養学」（健康管理士資格希望者は必須）

【参考図書】

･「アスリートのための栄養･食事ガイド」 第一出版　小林修平
･「スポーツ栄養学」 ベースボールマガジン社　鈴木志保子
･「スポーツ選手の食事と栄養学」 西東社　鈴木いずみ
･「新ビジュアル食品成分表　新訂版」 大修館書店
･健康管理士一般指導員テキスト４ 「生活を守る栄養学」

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH1333	小　児　保　健　論	1年	後期	2単位	選択	尚 爾華

【授業の目的と概要】

子どもの特徴は成長と発達にあり、おとなとはまったく異なった生理と病態を示す。胎児期から新生児期、乳児期、幼児期の心身の特徴や発育過程の基本の知識を修得することが必要である。基本的な小児保健の知識と考え方を修得し、小児保健の役割･制度、家庭や地域との関係を理解すると共に、保育者として、子ども一人一人の健康的な成長発達を援助することができるようになることを目標とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス―小児保健の目的と意義	小児保健の目標、内容、現状及び今後取り組むべき課題について学習する。
第2回	胎児の成長―体内環境の影響	胎児の成長、胎盤の役割、赤ちゃんのデータ、胎内環境の影響(低体重児のリスク要因)について学習する。
第3回	小児の成長―身体発育の特徴	発育･成長･発達の概念、発育期の区分、小児の身体発育の特徴（スキャモン発育曲線)、カウプ指数、成長の影響因子について学習する。
第4回	小児の発達―脳･感覚器	小児の精神機能の発達（認知、言語、情緒、行動)、運動の発達（粗大運動、微細運動）について学習する。
第5回	発達の評価	発達評価テスト、発達評価指数について学習する。
第6回	小児の栄養１－小児の消化･吸収、乳児期の栄養	母乳の栄養（母乳と牛乳の違い、母乳の利点と問題点、母乳の与え方)、人工栄養、混合栄養、離乳（離乳の必要性、離乳食）について学習する。
第7回	小児の栄養２－幼児期の栄養、学童期･思春期の栄養	幼児期の食事の特徴、学童期･思春期の栄養及び食生活の問題点について学習する。
第8回	小児の心理、知能、情緒、社会性の発達とその保健	人格の発達と母子関係、人格の形成、対人関係（大人との関係、子供どうしの関係、)について学習する。
第9回	児童虐待とその対策	児童虐待の現状、児童虐待による身体状況と精神症状、早期発見とその対応について学習する。
第10回	心因によって起こる小児の疾病	小児の心身症、心因による問題行動（吃音、心因性無言症、摂食障害、うつ病、自殺など）及びその対応について学習する。
第11回	乳幼児の日常生活における保健指導	食事、睡眠、衣服、遊び、排尿･排便、入浴の日常生活における保健指導の方法について学習する。
第12回	障害児の保健指導	知的障害児、肢体不自由児、聴覚障害児、視覚障害児、病弱児の保健指導について学習する。
第13回	子どもの感染症及び染色体異常	各種ウイルス感染症（はしか、風疹、日本脳炎、インフルエンザ、ウイルス性肝炎)、各種細菌性感染症（ブドウ球菌感染症、大腸菌感染症）について学習する。染色体異常（ダウン症、性染色体異常）について学習する。
第14回	子どもの主な症状と救急処置	バイタルサイン、緊急を要する症状（心配停止、ショック、呼吸困難、意識障害)、一般の症状（発熱、咳）の特徴、家庭での処置、重症度の判断につい学習する。
第15回	乳児院と里親制度、全体のまとめ	「乳児院の一日」（ＤＶＤ教材）を視聴し、里親制度について学習する。全体のまとめをする。

【授業の到達目標】

胎児期から新生児期、乳児期、幼児期の心身の特徴や発育過程の基本が理解できる。小児の発達を評価し、異常時の判断ができる。

【事前･事後学習】

次回の授業を理解するあめに、毎回の授業後にノートを整理すること。

【成績評価基準】

1、小児保健の目標、内容、今度の課題について説明できるか。
2、胎児期から新生児期、乳児期、幼児期の心身の特徴や発育過程の基本が理解できているか。
3、小児の発達を評価し、異常時の判断ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･水野 清子 「子どもの食と栄養 改訂第2版 健康なからだとこころを育む小児栄養学」 診断と治療社
･衞藤 隆　他 「新しい時代の子どもの保健」 日本小児医事出版社
･竹内 義博 「よくわかる子どもの保健[第2版](やわらかアカデミズム･「わかる」シリーズ） ミネルヴァ書房
･巷野 悟郎 「子どもの保健―理論と実際 (保育･教育ネオシリーズ)」 同文書院
･大西 文子 「子どもの保健 演習 」 中山書店

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3334	レクリエーション論	3年	前期	2単位	選択 選択必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

レクリエーション・インストラクターは、「市民サービスの事業」を推進するマンパワーとして期待されている。21世紀の社会とレクリエーション運動の役割、レクリエーション支援とその方法を基礎理論の中心におきながら、インストラクターとしての必要なコミュニケーション技能について考察する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	レクリエーション・インストラクターとは何か、そのために何を学習し、どのような技能を習得するのかを確認する。
第2回	21世紀の社会とレクリエーション運動	21世紀はどのような社会が予測され、どのような課題や問題に対してレクリエーション運動の果たす役割について考察する。
第3回	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史	「レクリエーション」が人間社会にどのような価値を持つのか、歴史を振り返りながら考察する。
第4回	レクリエーション支援の展開と方法（1）	市民サービス事業の目的と内容を事例として、レクリエーション運動の意義について考察する。
第5回	レクリエーション支援の展開と方法（2）	レクリエーション・インストレクターに求められる役割について考察する。
第6回	レクリエーション支援の目標と理念	レクリエーション支援が個人や地域社会にとって、どのような価値や意義があるのかを考察する。（小テスト実施）
第7回	レクリエーション支援組織の経営論（1）	市町村レクリエーション協会の大きな課題は、クラブ育成である。そのクラブの誕生と運営について考察する。
第8回	レクリエーション支援組織の経営論（2）	地域の市町村レクリエーション協会の目的や活動内容を考察する。
第9回	レクリエーション財とは	どのようなレクリエーション財があるのか考察する。
第10回	レクリエーションサービス論（1）	対象者にとって魅力ある事業運営について考察する。
第11回	レクリエーションサービス論（2）	レクリエーションサービスで何を評価するのかについて考察する。（小テスト実施）
第12回	コミュニケーション・ワーク「ホスピタリティーについて」	演習形式の講義を通してホスピタリティーについて考察する。
第13回	コミュニケーション・ワーク「交流分析トレーニングについて」	演習形式の講義を通して交流分析トレーニングを体験する。
第14回	コミュニケーション・ワーク「アイスブレーキングの方法について」	演習形式の講義を通してアイスブレーキングの具体的な方法を体験する。
第15回	まとめ	レクリエーション・インストラクターとしての基礎的理解について総括する。（小テスト実施）

【授業の到達目標】

より質の高い余暇活動をめざし、レクリエーション・インストラクターとしての必要なコミュニケーション技能を身につけることができる。

【事前・事後学習】

事前にテキストを読んで準備すること。また、事後学習については授業で学んだ内容を整理しておくこと。課題等は必ず提出する。

【成績評価基準】

（1）授業の目的と内容を十分理解できているか。
（2）事前・事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（小テスト3回）

【テキスト】

・「レクリエーション支援の基礎」　日本レクリエーション協会編

【参考図書】

・適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3335	レクリエーション実技	3年	後期	1単位	選択	石川 幸生

【授業の目的と概要】

この授業は、レクリエーション・インストレクターに必要な実践活動能力を習得しその技能を高めることである。授業では主体的、能動的にレクリエーション活動が楽しんで行える最新の知識と技術を学なび、より実践的でクリエイティブな健康生活を過ごすことができる能力の育成をめざす。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	授業の目標と概要について説明をする。
第2回	コミュニケーション･ワーク「ホスピタリティーについて」	ホスピタリティー･トレーニングについて。
第3回	コミュニケーション･ワーク「アイスブレーキングの技法について」	アイスブレーキングの具体的な技法について。
第4回	レクリエーション種目の実際「生涯スポーツ種目（1）」	生涯スポーツ種目(チャレンジ･ザ･ゲーム）の体験をする。
第5回	レクリエーション種目の実際「生涯スポーツ種目（2）」	生涯スポーツ種目(ドッジ･ボール）の体験をする。
第6回	レクリエーション種目の実際「生涯スポーツ種目（3）」	生涯スポーツ種目(ウォーキング）の体験をする。
第7回	レクリエーション種目の実際「自然体験活動（1）」	自然体験活動(ネイチャー･ゲーム）の体験をする。
第8回	レクリエーション種目の実際「自然体験活動（2）」	自然体験活動(自然観察）の体験をする。
第9回	レクリエーション種目の実際「芸術･文化活動」	芸術･文化活動に関した種目(ソング、ダンス)の体験をする。
第10回	レクリエーション種目の実際「福祉レクリエーション活動（1）」	福祉レクリエーションを意識した活動(ゲーム3「クロリティー、フリーブロー、ビーンボウリング」)を体験をする。
第11回	レクリエーション種目の実際「福祉レクリエーション活動（2）」	福祉レクリエーションを意識した活動(クラフト､カルタ遊び)を体験をする。
第12回	レクリエーション種目の実際「福祉レクリエーション活動（3）」	福祉レクリエーションを意識した活動(リハビリ体操）を体験する。
第13回	レクリエーション支援実習「スポーツ教室」	クラブ運営法（スポーツ教室）実習
第14回	レクリエーション支援実習「文化教室」	クラブ運営法（文化教室）実習
第15回	まとめ	授業の総括をする。

【授業の到達目標】

レクリエーション･インストラクターに必要な、より質の高いレクリエーション技術の習得とレクリエーション支援力を身につけることが出来る。

【事前･事後学習】

事前にテキストを読んで準備すること。また、事後学習については授業で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）授業の目的と内容を十分理解できているか。
（2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（実技小テストなど）

【テキスト】

･特に指定しないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3336	レクリエーションインターンシップ	3年	後期	1単位	選択	石川 幸生 脇坂 康彦

【授業の目的と概要】

この授業は、レクリエーション分野の職場においてインターンシップの体験を通して実践的なレクリエーションを体感し実感を得て、レクリエーションサービスの技能を高める目的である。講義と現場体験型の授業を行う。（集中講義）

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	授業についての目的と概要について説明をする。
第2回	事前指導	実習時に必要な書類作成とマナー等について講義する。
第3回	実習先でのインターンシップ「実習についての全体説明」	実習先での現場実習についての全体説明を受ける。
第4回	実習先でのインターンシップ「実習についての詳細説明」	実習先での現場実習についての詳細説明を受ける。
第5回	実習先でのインターンシップ「イベントの企画」	実習先での「イベント企画の実際」について体験学習を行う。
第6回	実習先でのインターンシップ「イベントの準備」	実習先での「イベント準備の実際」について体験学習を行う。
第7回	実習先でのインターンシップ「イベント運営の実際（1）」	実習先での「イベント運営の実際」について体験学習を行う。
第8回	実習先でのインターンシップ「イベント運営の実際（2）」	実習先での「イベント運営の実際」について体験学習を行う。
第9回	実習先でのインターンシップ「スポーツ教室の企画」	実習先での「スポーツ教室企画の実際」について体験学習を行う。
第10回	実習先でのインターンシップ「スポーツ教室の準備」	実習先での「スポーツ教室準備の実際」について体験学習を行う。
第11回	実習先でのインターンシップ「スポーツ教室運営の実際（1）」	実習先での「スポーツ教室運営」について体験学習を行う。
第12回	実習先でのインターンシップ「スポーツ教室運営の実際（2）」	実習先での「スポーツ教室運営」について体験学習を行う。
第13回	実習先でのインターンシップ「企画、準備、運営についてのディスカッション」	実習先でのインターンシップについて企画、準備、運営についてディスカッションを行う。
第14回	インターンシップのまとめ	現場実習の記録報告書の作成を行う。
第15回	インターンシップの総括	現場実習の記録報告書に基づいてインターンシップの総括を行う。

【授業の到達目標】

レクリエーショ･インストラクターに必要な、より質の高いレクリエーション技能をインターシップを通して身につけることができる。

【事前･事後学習】

事前学習では、実習に際して必要な事項を準備すること。事後学習では、学んだ内容うを整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）授業の目的と内容が十分理解できているか。
（2）事前･事後の学習が十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（実習先報告書の作成と発表など）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1337	医療概論	1年	後期	2単位	選択	加藤 みわ子

【授業の目的と概要】

昨今の医学・医療技術の進展は目覚ましい。わが国は少子高齢社会となり、より一層保健医療福祉の充実がのぞまれる。その保健医療は誰のものかと言えば、私たち一般人のものであることはいうまでもない。誰もが安心して保健医療福祉を利用することができるよう、医療に関する基礎的知識を理解しておくことも大切である。ここでは医療に関心のある一般の人にとっても身近な、日本の保健医療サービス、医療保険制度の仕組み、医療をめぐる倫理などについて学習することを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス、医療を支える人々	チーム医療、コメディカルの役割について理解する
第2回	保険制度の始まりと医療システム	医療サービスの在り方を理解しうサービスが適切なものであるか、上手に利用できるかどうかを判断できるようにする
第3回	日本の医療保険制度	医療保険制度の種類とその仕組みを理解する
第4回	医療と経済	医療の抱える経済的な制度の在り方とその効率性について理解する
第5回	医療の新しい形態	医療の新しい制度について知り、今後どんなものが考えられるかを考える
第6回	高齢者ケアシステム	高齢者ケアシステムについて理解し問題点やメリットについて理解する
第7回	近代医学の発達	近代医学の発達によって人々にどのような利点をもたらしたかを理解する
第8回	日本の近代化と医療の発達	日本における医療制度の発達について理解する
第9回	人口環境と健康問題	人口環境と健康問題について、世界の地域差に着目して理解する
第10回	体を守る薬（医薬品）	医薬品とOTC薬品の違いなどについて理解する
第11回	東洋医学	東洋医学のメリットや西洋医学との相違点を理解する
第12回	先端医学に伴う生命倫理問題	医療に関する倫理観について考える
第13回	医療は誰のものか（患者の権利）	患者についての権利について、どのようなものがあるかを理解する
第14回	医療に対する社会のニーズ	前回の講義を踏まえ、ターミナルケアに関する問題点について理解する
第15回	まとめ	全体のまとめ

【授業の到達目標】

健康とは何か、医療がたどってきた道と未来への展望、日本の医療保険制度、生命倫理および情報活用の仕方などについて学び、疾病・生活障害を負ったときに状況に適した対処・選択ができる能力を身につける。

【事前・事後学習】

事前学習については、シラバスに関わる内容を確認しておき、授業後は授業で利用した配布資料について30分程度復習し、要点をノートにまとめること。授業は基本的に講義形式で実施されるが、ワークショップ等の時は恥ずかしがらずに、積極的に議論に参加することを求める。分からなかった点・疑問点などについての質問は講義時間中ないし終了後に受ける。

【成績評価基準】

講義の中での提出物、課題レポート、最終試験で総合的に評価する。
とくに、医療に関する問題に対して、自身の考えを適切に述べられるか、情報を正しく選択・理解できているかについてを評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	40	5	0	15（授業内で課された提出物）

【テキスト】

・健康管理士一般指導員テキスト（テキスト1）、日本成人病予防協会
・健康管理士一般指導員テキスト（テキスト6）、日本成人病予防協会

【参考図書】

・千代豪昭、黒田研二『学生のための医療概論』医学書院
・厚生統計協会編『国民衛生の動向』.
・日野原重明『医学概論』 医学書院
・日本国際保健医療学会編『国際保健医療学』杏林書院

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2338	公　的　扶　助　論	2年	後期	2単位	選択	中村 教子

【授業の目的と概要】

公的扶助の中心をなしている生活保護制度の理解を中心に学習する。現代社会の中の貧困･ 低所得者層を取り巻く社会情勢と生活課題について理解を深める。「生活保護」を中心にその法体系と制度も理解する。また、事例を用いて実際的適用を考える。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	貧困･低所得者層の生活実態	貧困･低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について知る
第2回	公的扶助の歴史	公的扶助制度の歴史について学ぶ
第3回	生活保護制度概要１（目的、原理、原則）	生活保護法の目的、原理、原則について学ぶ
第4回	生活保護制度概要２（種類、内容、方法）	生活保護法の種類、内容、方法について把握する
第5回	生活保護制度概要３（保護施設、権利、義務）	生活保護法の保護施設、権利及び義務について学ぶ
第6回	最低生活保障水準と生活保護基準	最低生活保障水準と生活保護基準ついて学ぶ
第7回	生活保護制度の運営実施体制	国の役割、都道府県市町村の役割について学ぶ
第8回	生活保護制度における関係機関･団体	福祉事務所、専門職の役割について学ぶ
第9回	生活保護制度における他職種連携､ネットワーキングと実際	自立支援プログラムについて学ぶ
第10回	生活困窮者自立支援法概要１	生活困窮者自立支援法　必須事業について学ぶ
第11回	生活困窮者自立支援法概要２	生活困窮者自立支援法　任意事業について学ぶ
第12回	低所得者対策	生活福祉資金貸付制度、公営住宅、無料低額診療制度等について学ぶ
第13回	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業について学ぶ
第14回	ホームレス対策	ホームレス自立支援の概要を学ぶ
第15回	公的扶助の課題	現代の動向と課題を取り上げまとめる

【授業の到達目標】

1．公的扶助の歴史の概要を説明できる
2．生活保護制度の現状を説明できる
3．生活困窮者自立支援法の到達点と課題を整理できる

【事前･事後学習】

1．本、映像、新聞記事等通して貧困問題を整理し報告できる
2．低所得、貧困問題に対して事例の背景を捉え、考察することができる

【成績評価基準】

1．生活保護制度について概要を説明できる
2．朝日訴訟などの生存権保障の意義を説明できる
3．セイフティネットの役割を貧困、低所得につなげて分析できる

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
４０%	４０%	２０%	０%	０%

【テキスト】

･資料配布

【参考図書】

･杉村宏他編　『よくわかる公的扶助　最新版』　ミネルヴァ書房
･湯浅誠　『反貧困』　岩波新書
･岩田正美　『現代の貧困』　ちくま新書
･ミネルヴァ書房編集部編　『社会福祉小六法　最新版』　ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3339	養護概説	3年	後期	2単位	選択	葉山 栄子

【授業の目的と概要】

近年の子どもをとりまく社会や家庭環境の変化に伴い、健康問題が多様化、深刻化している現在、一人ひとりの子どもの健康を守り、健康の保持増進を図っていくと共に、社会の中で自立した人間として市長できるための基礎理論と支援方法を学ぶことを目的とする。また、学校や家庭における子どもの現代的健康課題・保健教育・健康管理の基礎的知識・技術を習得するために、講義、討論、発表、ロールプレイなどを取り入れた授業を展開する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス（授業概要、受講上の諸注意、評価方法の説明等）「よい養護とは」	シラバスをもとに本授業の概要、受講上の諸注意、評価方法の説明等を行う。また、各自が考えている養護について討論する。
第2回	養護の概念	人間、成長・発達の観点からの養護の概念について理解する。
第3回	養護ニーズと養護活動	養護ニーズを把握するにはどうすればよいか。また、ニーズに応えていくべき養護活動について理解する。
第4回	健康問題の把握(健康観察の実際)	健康問題を把握する方法について話し合う。実際の教育現場をイメージしながら考える。
第5回	子どもの現代的な健康問題とその支援	現代の社会状況における健康問題についてグループで話し合い発表する。
第6回	健康問題の解決支援 （1）身体的支援 （2）精神的支援	健康問題の解決や支援について、身体的、精神的な面から理解する。
第7回	健康問題の解決支援 （3）社会的支援	健康問題の解決や支援について、現代の社会状況から理解する。指定課題の説明をする。
第8回	健康問題に応じた養護活動 （1）慢性疾患をかかえた子ども	慢性疾患をかかえた子どもの理解と養護活動について話し合い、養護活動の一部をロールプレイする。
第9回	健康問題に応じた養護活動 （2）障がいをかかえた子ども	障がいをかかえた子どもの理解と養護活動について話し合い、養護活動の一部をロールプレイする。
第10回	健康問題に応じた養護活動 （3）心の問題をかかえた子ども	心の問題をかかえた子どもどもの理解と養護活動について話し合い、養護活動の一部をロールプレイする。
第11回	健康問題における予防活動のあり方	社会の情勢と健康問題の繋がりを理解した上でどのような予防活動を展開するかを理解する。
第12回	養護活動における連携・組織	組織とは何かを理解し、養護活動を展開する上で必要な連携について話し合う。
第13回	健康管理（健康診断の活用）	健康を管理することの意味・意義を理解する。健康診断にはどのようなものがあるか話し合い発表する。
第14回	保健教育	保健教育について、その根拠、目的・内容・意義等を理解しする。5分間保健指導を作成する。
第15回	養護活動の評価とまとめ・試験	養護活動についての評価の方法について理解する。筆記試験を実施する。

【授業の到達目標】

学校・家庭における児童生徒の健康状態を観ることができる。
健康問題に応じた養護活動について理解することができる。
自分なりの養護観を持つことができる。

【事前・事後学習】

事前学習はシラバスに関わる内容を確認しておく。「よい養護」とは何かをまとめておく。
授業後は理解できなかった点・疑問点などを確認し次回に質問する。

【成績評価基準】

①毎回、授業の振り返りとして、課題の小レポートが記述できているか。
②中間時に授業外で調べる指定課題について、レポートが提出できているか。
③到達目標にそった内容で、主な要点について説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験50%	小レポート、指定課題レポート30%	授業への参加貢献20%	0	0

【テキスト】

・授業に際しては、適宜、必要な資料を配布する。

【参考図書】

・采女智津江編『新養護概説』少年写真新聞社
・大谷尚子他編『新養護学概論』東山書房
・学校保健・安全実務研究会編　新訂版『学校保健実務必携』 第３次改訂版
・日本学校保健会『学校保健の動向』

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2340	社 会 福 祉 援 助 技 術 論	2年	後期	2単位	選択	丸岡利則

【授業の目的と概要】

現在、社会福祉の専門家の役割と意義は、現代社会のシステムと地域生活の課題を踏まえて機能することにある。この講義は、専門家の実践技術であるソーシャルワークの基本である相談援助という機能を理解するものである。相談援助の全体像、概念と範囲、総合的かつ包括的な方法を支える理論を中心に学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに　～理論と実践の統合を測りながら～	福祉固有の援助技術ではなく、対人援助技法の幅広く活用されている技術論であることを理解する。
第2回	対人援助サービス1 自己覚知･他者理解	サービス者が最も理解しておくことは、自分と他人の社会関係性であるが、そのことを踏まえた対視線援助サービスであることを理解する。
第3回	対人援助サービス2 援助の基本的態度	援助するにあたっての援助者の基本的態度と対応方法について理解しておく。
第4回	主要な援助技術と特徴	13.14種類にもなる援助技術の特徴と活用方法･場面を理解する。
第5回	個別援助技術　インテーク	個別援助の最初の入り口であるインテーク段階で感じ取る洞察力と観察力が重要であることを理解する。
第6回	個別援助技術　アセスメント･アプローチ	個別援助のアセスメントによって大きく異なっていることを理解する。対応態度等についても理解を深める。
第7回	個別援助技術　実施評価と終結について	個別援助の支援評価と終結の段階を理解する。
第8回	集団援助1 グループへの関わり方	集団により問題･課題の発見、気づきから自ずと集団の中で成長し合う構造と仕組みを理解する。
第9回	集団援助2 評価項目と援助の視点	集団援助グループの作り方や集団作業の実践と評価項目についても理解する。
第10回	コミュニティーワーク	地域組織活動は、点から線、線から面に、面からつながり合う、支え合うコミュニティについて理解する。
第11回	スーパービジョン･リサーチ	指導する人、指導される人のあり方や社会調査の目的的な手法について学ぶ。
第12回	ソーシャルアクション等々	誰しもに許されているソーシャルアクション行動の技法を理解する。民主社会での許されているアクションについて学ぶ。
第13回	直接援助技術と間接援助技術	援助技法には、直接と間接の技術が有るも、T.P.Oを含めて有効活用することを理解する。
第14回	相談援助技法(押しつけではなく、引き延ばす･自ら気づく)	相談援助に必要なテクニックは、自己判断･自己決定･自己創造を支援することを理解する。
第15回	チームアプローチとまとめ	問題解決の手法で必要なチームアプローチが求められていることを理解する。

【授業の到達目標】

ソーシャルワーク技術を理解し、福祉業界だけでなく、対人援助サービス業務には活用できることを理解し、各種の技法を理解し、実践活用に役立てることを目標とする。

【事前･事後学習】

何気なく生活する中で、助けたり、助けられたりという行為にどのような手法が潜在しているかを考えながら日常生活を見つめてみる。
知識･技術を貯える学問ではなく、実践･点検評価･再確認の学門であること。

【成績評価基準】

1．ソーシャルワークの原論として、その思想的な基盤を理解すること
2．専門職の方法論として、理論と実践の関係が把握できること
3．理論の歴史的変遷を理解して、現在の理論との違いを理解できること

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	30	10	0	0

【テキスト】

･講義の中で、各種テキストを紹介する。

【参考図書】

･講義の中で紹介。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3341	看　　護　　学	3年	後期	2単位	選択	久納 智子

【授業の目的と概要】

看護学は、人々の健康問題に関わり、身体的･精神的･社会的、さらに霊的にも安寧な状態を創出するための実践科学である。看護の職務は、健康のあらゆるレベルにある人々に対して、健康増進･疾病予防･健康回復に助力し、その人らしく生きることを支援することである。ここでは、保健医療チームとの連携を視野に看護･介護に共通する援助技術、在宅ケア、セルフケアなどケアの考え方と展開について理解する。ここでは、医療･看護の発展過程、基本的な援助技術、健康障害をもつ人への援助について学ぶことを目的とする。以上の内容を講義･演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンスー医療と看護ー	人の「健康」とは何か？「医療」と「看護」は、人間が健康生活を送るためになぜ必要なのか考える。
第2回	医療･看護の発展過程1（日本）	戦後の日本における国民衛生の衛生の動向を知り、それに伴う医療の発展はいかなるものか、日本における看護はどのように捉えられ、発展していったのかについて学ぶ。
第3回	医療･看護の発展過程2（欧米）	欧米における医療の実態を戦後の日本の医療と比較することで理解する。また、欧米における看護はどのように生まれ、現在に至るのかその過程を学ぶ。
第4回	看護活動と介護	「看護」とは何か。看護の独自の機能を知り、「介護」との違いを学ぶ。
第5回	援助技術1（バイタルサインの観察）	バイタルサインとは何を指し、何を意味しているのか。バイタルサインの観察の視点と観察方法を学ぶ。また、バイタルサインの測定技術を習得する。
第6回	援助技術2（体位変換、車椅子移動等）	体位変換の必要性とその方法を学ぶ。また、車椅子の乗降とその方法、車椅子での移動方法について演習を通して学ぶ。
第7回	援助技術3（食事･排せつ等）	人にとっての食事の意味と意義、食事援助の方法について学ぶ。また、排せつとは何か、排せつに関する援助方法について学ぶ。
第8回	健康障害をもつ人への援助（呼吸器系･肺炎等）	代表的な呼吸器系疾患を知り、呼吸器系障害患者の援助方法を学ぶ。
第9回	健康障害をもつ人への援助（消化器系･胃十二指腸潰瘍等）	代表的な消化器系疾患を知り、消化器系障害患者の援助方法を学ぶ。
第10回	在宅療養を支える援助（褥瘡に対する看護）	在宅における療養生活の実態を知り、起こりやすい障害や障害予防のための援助方法を学ぶ。
第11回	家庭でできるリハビリテーション	リハビリテーションの意義を知り、家庭でできるリハビリテーションの方法を学ぶ。
第12回	認知症	認知症を理解するとともに、日本における認知症発症の実態を知る。
第13回	認知症の人への看護	認知症の人への看護のあり方と認知症を抱える家族への関わり方を学ぶ。
第14回	終末期のケア	人の死について考える。また、人生最後の期間を穏やかに生きることができるよう支援するための看護の方法を学ぶ。
第15回	まとめ	講義で学んだ知識を振り返り、人が人として健康生活を送るための自己責任と人が支え合って健康的に生活していくことの関連から、私たちができる疾病の予防･健康の維持増進を再考する。

【授業の到達目標】

(1)看護･介護が理解できる。
(2)ケアに共通する最低限の援助技術を身に付けることができる。
(3)日常的に頻度の高い病気をもつ人への援助について理解することができる。
(4)在宅における療養生活が理解できる。
(5)認知症について理解できる。
(6)健康生活について自身の考えをまとめることができる。

【事前･事後学習】

事前学習については、シラバスに関わる内容を確認しておき、授業後は分からなかった点･疑問点などについてチェックし、次回に質問すること。

【成績評価基準】

(1)看護と介護の違いについて説明することができる。
(2)主な健康障害と看護の方法を説明することができる。
(3)基本的な看護技術の方法を説明することができる。
(4)在宅における療養生活･リハビリテーションについて説明することができる。
(5)認知症とその看護について説明することができる。
(6)健康生活について自身の考えをまとめ文章化できる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	30%	10%	0%	0%

【テキスト】

･健康管理士一般指導員テキスト（テキスト6)、日本成人病予防協会
･適宜、資料を配布する

【参考図書】

･佐藤礼子　改訂版　『看護学概説』　放送大学教育振興会
･小玉香津子他　『看護学概論』　文光堂
･川村佐和子　『看護学概論』　MCメデカ出版
･梅谷薫『小説で読む生老病死』医学書院

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2342	障 害 者 ス ポ ー ツ 論	2年	前期	2単位	選択	岡田 摩紀

【授業の目的と概要】

障がい者スポーツ指導員の資格認定に必要な障害者福祉施策や障害の基本内容を理解する。スポーツに参加する障がい者に対し、支援者として必要な基本的知識･技術を身につけ、実践にあたっては、スポーツをする喜びや楽しさを享受し、健康や安全管理を重視した指導方法を理解する。4月、5月の土･日に障害者との交流目的の学外授業がある。(参加必須)

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	障害者福祉施策体系、サービス体系と障害者スポーツとの関連性	障害者福祉施策とスポーツとの関連性。
第2回	今後の動向と障害者スポーツとの関連性、ボランティア論	ボランティアの魅力と心得について
第3回	障害者スポーツの意義と理念	基本理念、用語の理解、意義及び社会的効果
第4回	障害の理解とスポーツ(1)身体障害者(内部障害含む)とスポーツ･レクリエーション	身体障害者の種類と特徴、スポーツとその工夫
第5回	障害の理解とスポーツ(2)知的障害者、精神障害者とスポーツ･レクリエーション	知的障害者、精神障害者の種類と特徴、工夫等
第6回	障害の理解とスポーツ(3)指導上の留意点	各障害者のスポーツ始動時の留意点及び事例
第7回	障害の理解とスポーツ(4)安全管理･救急処置	障害者スポーツ現場での安全面の配慮と救急処置
第8回	全国障害者スポーツ大会の目的や実施内容の概略	全国障害者スポーツ大会の概要
第9回	全国障害者スポーツ大会競技種目の指導法	各競技種目別の指導法について
第10回	日本障害者スポーツ協会資格認定制度の概略	公認指導者資格制度の目的、種類と役割
第11回	障害に応じたスポーツの工夫･実施(1)〈フライングディスク等を中心として〉	フライングディスク、ドッヂビーのスポーツ指導法を創意工夫して実施
第12回	障害に応じたスポーツの工夫･実施(2)〈ボッチャ等を中心として〉	ボッチャ、クロリティー、ペロッグのスポーツ指導法を創意工夫して実施
第13回	障害に応じたスポーツの工夫･実施(3)〈ボールゲーム等を中心として〉	シッティングバレーボール、ゴールボールのスポーツ指導法を創意工夫して実施
第14回	障害者との交流(1)〈実技〉	障害者との交流(知的障害者のボウリング競技支援)4月18日(土)学外活動実施(必須)
第15回	障害者との交流(2)〈実技〉	障害者との交流(障害者スポーツ大会支援)5月10日(日)学外活動実施(必須)

【授業の到達目標】

多様な障がい者のスポーツ活動に対応するため、福祉･医療･体育学･障がい者スポーツ独自の知識･技術･安全管理を学び、障がい者スポーツ活動の援助･指導ができる。

【事前･事後学習】

グループワークを取り入れる事が多いので自ら積極的に行い、事前準備や授業後に復習を行うとなおよいでしょう。

【成績評価基準】

支援者として、必要な基本知識を学べているか。障がい者が安全にスポーツを楽しむために、各種スポーツ･レクリエーションの知識や指導技術を理解しているか。課題に対して理解を出来て自分自身の意見を明確にのべているか。などを重視します。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	15	15	10	10(小テスト･課題提出)

【テキスト】

･(財) 日本障害者スポーツ協会編集『障害者スポーツ指導教本　初級･中級　改訂版)』

【参考図書】

･授業内で必要な資料を随時提示する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2343	障害者福祉論	2年	後期	2単位	選択	飯田 幹雄

【授業の目的と概要】

障がい者問題は、決して一部の特別な人々の問題ではありません、すべての人々に係る問題です。人は、その長い人生において、事故や病気、高齢化など様々な困難や危機に直面します。そして、少なくない人々が身体的及び精神的な障がいを受けることになります。また、これらの人びと家族として、社会の一員として関わりを持つことになります。

かつて障がい児者問題は、かわいそうなこの子らに救いの手をと、援助を求めた運動が親家族によってとりくまれました。このような時代に「この子らを世の光に」と先覚者、糸賀一雄は提唱します。国連においては、2006年総会において「障害者権利条約」を全会一致で採択しました。わが国においても2014年2月、国会での批准を経て発効し、権利条約に示された内容の実現が、約束事になりました。

また、障がい者福祉制度にかかわる重要な法律も、2012年6月に「障害者自立支援法」から「障害者総合支援法」へと転換され大きな変化が続いています。

障がい者問題を学ぶことをとおして、社会や人間のあり方、価値観について、考えてみたい。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業をはじめるに当たって、その学習計画について学ぶ。	自己紹介、受講に当たっての注意やルール、全体の計画について、及び「障がい」についての基本として種別、発生原因、社会的障壁などのキーワードを学ぶ
第2回	障がい者問題の考え方、その１として「障がい」を体験してみる。	「障がい」があるとはどういうことか、体験を通じて学ぶ。
第3回	その２として、ノーマライゼーション、リハビリテーション等の理念を学ぶ。	障害者問題に大きな影響を与えた、国際的な思想や考え方、取り組みの代表的な内容を学ぶ。
第4回	その３として、差別・偏見につながる思想及び日本の「療育」「発達保障」の理念を学ぶ。	今日の障害者差別や偏見につながる思想とその影響をまなぶ。及び日本における障害者福祉の先駆的な実践として「療育」「発達保障」の理念を学ぶ。
第5回	その４として、障害者権利条約を学ぶ。	国際的な障害者問題の到達点として、障害者権利条約の成立や影響、内容を学ぶ。
第6回	障害者施策と障害者福祉の構造を学ぶ。	教育、雇用、住宅、文化・スポーツなど多様な障害者施策と障害福祉サービスの構造を学ぶ。
第7回	障害者福祉の制度、その１として障害者基本法と障害者総合支援法の体系を学ぶ。	障害福祉の制度を学ぶために、まず障害者基本法の概要と総合支援法のサービス体系とその実現のための方策である「障害者基本計画」「障害者福祉計画」等について学ぶ。
第8回	その２として、総合支援法のサービスから「働く・日中活動」の体系と現状を学ぶ。	総合支援法による福祉施策の現状と、サービスの体系のうち就労支援と日中活動の分野でその実際と課題を学ぶ。
第9回	その３として、総合支援法のサービスから「暮らす・相談その他事業」の体系と現状を学ぶ。	暮らしを支えるサービス体系の代表的な事業、グループホームや地域生活支援事業などの実際と課題、及びサービスを受ける仕組みや費用負担などの実際と課題を学ぶ。
第10回	その４として、障害者福祉制度の歴史として、「戦前・戦後」の制度を学ぶ。	障害者福祉制度の始まりと大きな流れを、明治以降第2次大戦の敗戦までと戦後を概観し、法制度の展開・各種福祉法の整備を学ぶ。
第11回	その５として、障害者福祉制度の現在につながる変遷を学ぶ。	現在の制度につながる「社会福祉基礎構造改革」という考え方とそのもとで変化してきた社会福祉法、介護保険制度、措置制度及び障害者自立支援法を学ぶ。
第12回	その６として、広がる障がい者支援、発達障害等の理解と現状を学ぶ。	広がる障害者支援の代表例として、自閉症スペクトラム、発達障害や難病などの現状と課題を学ぶ。
第13回	障がい者のおかれた実態について学ぶ。	地域で暮らす障がい者の実際を、生活（親による介護、一人暮らし）収入、住宅、犯罪など多様な視点で学ぶ。
第14回	障がい者の最新の関連施策について学ぶ。	権利擁護、虐待防止、差別禁止、就労など最近の関連制度の動向について学ぶ。
第15回	最後に全体のまとめとテストを行う。	障害者問題・障害者福祉制度のキーワードの理解、人権観の確立について学ぶ。

【授業の到達目標】

障がい者問題の学びをとおして、その実際や現状、制度の到達点や課題を構造的に理解し、人間観を深め、差別や偏見のない生き方・社会、人権観を確立することができる。

【事前・事後学習】

日々の社会事象に関心を持ち、障がい者・障害福祉の制度にかかわる報道や動向に注目し、テーマの中にあるキーワードを調べる。毎回の授業では、しっかり自分なりのノートをとる。また基本となる資料を通じて事後学習に努める。

【成績評価基準】

障がい者問題の学びをとおして、その思想と歴史、制度の概要、現状を理解し、人間観を深め、差別や偏見のない人権観を確立できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
８０	０	２０	０	０

【テキスト】

・村井龍治編著「障害者福祉論」ミネルヴァ書房

【参考図書】

・佐藤久夫・小澤温著「障害者福祉の世界」有斐閣アルマ
・きょうされん編「共同作業所のむこうに」創風社
・きょうされん編著「すきなときに好きな人とすきなところへ」萌文社
・鈴木清覚他編「障害者のゆたかな未来を」ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3344	福祉心理学	3年	後期	2単位	選択	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

近年では専門家による治療・支援だけでなく、地域における理解と支援が福祉領域にも求められている。本講義では福祉の担う社会的な役割と、人間の生涯に渡る福祉・心理的支援の可能性について紹介し、今後求められる支援の方向性について検討する。講義形式だけでなく、扱うテーマに関して学生自身の考察の時間や、グループ討議の時間を設けて進行する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション福祉心理学とは	本講義の進め方と福祉心理学の概要について紹介する
第2回	生涯発達と福祉心理学	人間の生涯発達と関連する福祉について紹介する
第3回	障害の分類と定義に基づいた支援	国際生活機能分類（ICF）のモデルを基に、障害のある人への支援方策について学ぶ
第4回	障害における心理的支援	障害に関連した心理的問題と支援方策について紹介する
第5回	子どもにおける福祉	子どもの生活における福祉について概要を紹介する
第6回	大人における福祉	大人の生活における福祉について概要を紹介する
第7回	高齢者における福祉	高齢者の生活における福祉について概要を紹介する
第8回	発達障害	神経発達障害について、幼少期から生涯に渡る影響について紹介する
第9回	偏見と差別Ⅰ	社会における偏見と差別について紹介する
第10回	偏見と差別Ⅱ	偏見と差別が生じうる要因や改善の方策について検討する
第11回	犯罪と非行	犯罪と非行などに関連する障害や、支援の必要性について学ぶ
第12回	認知症	認知症の概要や取り組みについて紹介する
第13回	認知症の支援	認知症の患者や家族への支援について紹介する
第14回	総合的理解と心理的支援	対象者や家族、周囲の環境を含めた福祉における理解と心理的支援について検討する
第15回	まとめ	講義のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

個人の生活と社会における障害について説明することができる。
人間の生涯に渡って福祉が担う役割や心理的な支援について理解することができる。

【事前・事後学習】

授業前に各テーマに関して調べてくる。授業後は、生活での出来事やニュースなどにおいて授業内容に関連したことを意識し、振り返る機会とする。

【成績評価基準】

福祉領域において関わる代表的な障害について説明することができるか。
障害のある人と家族などへの福祉の役割と心理的な支援について、説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2345	臨床心理学	2年	前期	2単位	選択 選択必修	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

社会のシステムの急激な変化がもたらす問題は、人々の心理的障害という形になって現れてきており、保育の場面においても、不適応な状態にある子どもや親への対応が喫緊の課題となっている。こうした課題について具体的に、臨床的事例をあげながら学習をすすめる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション臨床心理学とは	臨床心理学という学問やこの授業で扱う内容について説明する。
第2回	臨床心理学の歴史	臨床心理学という学問がどのように誕生し、社会の流れとともに変化しているのかを学習する。
第3回	心の仕組みとパーソナリティ	心の構造や性格特性等についての理論を学習する。
第4回	精神障害（1）統合失調症	統合失調症の原因や症状、治療などについて学習する。
第5回	精神障害（2）うつ病など	うつ病、そううつ病、新型うつ等の抑うつ状態についての原因や症状、治療などについて学習する。
第6回	精神障害（3）神経症	神経症の原因や症状、治療などについて学習する。
第7回	心理面接	心の病に治療として行われている心理面接について学習する。
第8回	心理アセスメント	様々な心理状態を評価する心理アセスメントについて学習する。
第9回	心理療法とカウンセリング	心理療法とカウンセリングの差異について学習する。
第10回	心理療法（1）精神分析	精神分析の理論や方法、治療過程について学習する。
第11回	心理療法（2）クライアント中心療法	クライアント中心療法の理論や方法、治療過程について学習する。
第12回	心理療法（3）行動療法	行動療法の理論や方法、治療過程について学習する。
第13回	心理療法（4）遊戯療法、芸術療法	遊戯療法や芸術療法の理論や方法、治療過程について学習する。
第14回	問題行動と危機介入	問題行動が起きた時の危機介入の意義と方法について学習する。
第15回	まとめ	筆記試験を実施し、その後に試験の解説を行う。

【授業の到達目標】

代表的な心の病の特徴について説明できる。
様々な心理療法の特徴やその違いについて説明できる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードついて調べる。

【成績評価基準】

代表的な心の病の特徴について説明できるか。
様々な心理療法の特徴やその違いについて説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（毎授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

·必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

·なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2346	認知心理学	2年	前期	2単位	選択	堀 篤実

【授業の目的と概要】

認知心理学という用語は非常に頻繁に用いられるが、その定義や使用法は使用者により様々に異なっている。そこで、認知心理学が注目されるようになった歴史的背景を概説し、この講義では比較的中立的な意味での認知心理学、すなわち知的機能の解明に関わる心理学を扱うことにする。それには感覚、知覚、学習、記憶、思考、言語などの個々の認知過程と脳内メカニズムとの関連について研究が含まれる。この講義では学習を中心として、その他のものとの関係を理解させたい。また、これらの主観的認知過程の客観的把握を試みる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション認知心理学とは	認知心理学という学問やこの授業で扱い内容について説明する
第2回	知覚の基礎	外界の事物や事象を知る機能について理解する。
第3回	視知覚	視知覚の特徴や錯視について理解する。
第4回	注意	視覚的注意を中心に、情報選択機能である注意について学習する。
第5回	顔の認識	顔の認知に特異的な心理学的事例や現象について学習する。
第6回	表象	知識と表象の関係について明らかにし、認知における関係について理解する。
第7回	言葉	言葉が人の認知機能とどのようにかかわっているかを学習する。
第8回	脳と言語処理	言語処理が能の中でいかに行われているかについて学習する。
第9回	記憶の基本システム	感覚記憶やワーキングメモリ、長期記憶など、記憶の基本システムについて学習する。
第10回	記憶の変容	目撃証言や偽りの記憶などの例を参考に記憶の変容について理解する。
第11回	問題解決	解き方の分からない問題を解く過程をあつかい、人の認知機能について理解する。
第12回	推論	不確実性の中で、特定の事象の確立をどのように推論しているのかを学習する。
第13回	社会的認知	社会の中で認知がどのような役割を果たしているかということについて「日本人論」を例に学習する。
第14回	発達と認知	認知の発達についてピアジェの理論や心の理論を用いて理解する。
第15回	まとめと試験	筆記試験を実施し、その後に試験の解説を行う。

【授業の到達目標】

人間の認知活動（見る、聞く、理解する、覚える、考える、コミュニケートするなど）について理解し、説明できる。

【事前・事後学習】

毎授業前までに次週で扱うテーマの中にある言葉について調べてくる。授業後は配布資料を参考に授業内容を振り返りキーワードついて調べる。

【成績評価基準】

人間の認知活動（見る、聞く、理解する、覚える、考える、コミュニケートするなど）について理解し、説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（毎授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

·必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

·特になし。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3347	教　　育　　相　　談	3年	前期	2単位	選択	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

現在、学校教育においては増加する不登校、いじめ問題、粗暴化する暴力行為、あるいは目立たない生徒の凶悪犯罪等が大きな課題となっている。このようなときこそ、教育相談に関する教師の実践力が重要視されているといえる。教育相談は問題をもつ生徒に対する治療的相談のみならず、問題を予防するための措置や、健全な人格の成長を促すための働きかけを目的とする。

本授業では、カウンセリングに関する基礎的知識のほかに、思春期課題の理解や保護者、地域の資源とのネットワークについても講義をする。授業形態は講義を基本とするが、事例研究や体験型学習も行われる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	教育相談とは(1)教育相談の目的	教育相談の講義の概要、事前事後学習、受講の留意点
第2回	教育相談とは(2)教育相談における教師の留意点	1教育相談とは　2教育相談の歴史　3教育相談のあり方
第3回	教育相談とは(3)保護者に対する援助	1教育相談は独自の教育実践として創造されないといけない　2児童生徒の理解と対応
第4回	カウンセリングの基礎知識(1)カウンセリングマインドとは	1現代社会における子どもの問題　2教育相談の難しさ　3子どものメンタルな問題
第5回	カウンセリングの基礎知識(2)カウンセリングの諸技法	1不登校の定義と現状　2不登校の要因　3不登校生徒への対応
第6回	カウンセリングの基礎知識(3)教育現場で活用できる心理テスト	1いじめの定義と現状　2いじめ事件の推移　3いじめの様態　4いじめへの対応
第7回	個別の問題(1)不登校 - 多様化する不登校	1反社会的行動とは　2非行の心理的背景　3反社会的行動への対応
第8回	個別の問題(2)いじめの理解と対応	1神経症的問題とは　2神経症的問題の成り立ち　3対応について
第9回	個別の問題(3)子どものうつ	1発達障害とは何か　2学校で問題となる3つの発達障害
第10回	個別の問題(4)非行･怠学傾向への対応	1自閉症スペクトラムへの対応　2ADHDへの対応　3LDへの対応
第11回	軽度発達障害を理解する(1)ＡＤＨＤ･ＬＤ	1親の発達障害受容の難しさ　2事例で考える　3将来を見据えた指導
第12回	軽度発達障害を理解する(2)アスペルガー症候群･自閉傾向	発達障害を持つ生徒の事例からその子らしい成長を考える
第13回	地域とのネットワーク、社会資源とどうつながるか	実際の教育相談事例をDVD化したものを教材に討議を行う　教師編
第14回	教師のメンタルヘルス･援助職のバーンアウト	実際の教育相談事例をDVD化したものを教材に討議を行う　スクールカウンセラー編
第15回	まとめ	教育相談の講義のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

教育相談における専門的な知識の習得。ことに発達障害に関しての理解と洞察は欠かせない。体験的学習では、自らの中学、高校時代を素材とし、学校における諸問題を考え直すことができる。

【事前･事後学習】

カリキュラムはいくつかのテーマがそれぞれに配置されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に提示されるので予習をしてくること。

【成績評価基準】

1教育相談における専門的な知識の習得ができているか。
2発達障害に関しての理解ができているか。
3学校における諸問題を教員の視点で見ることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	0	0	0	50（小テスト．事前学習の成果を含む）

【テキスト】

･テキストは使用せず、授業内容に応じて資料を配付する。

【参考図書】

･授業内で紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3348	心理検査法	3年	後期	2単位	選択	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

心理検査は、教育相談、病院臨床、産業カウンセリング、採用試験等広く活用されている。代表的な心理検査（性格検査、知能検査、発達検査）を中心に、その理論、技法、解釈等について学習し、さまざまな心理検査の理解を深めることを目的とする。また一部の心理検査を実際に体験することで、検査の実施方法や解釈についての基本的な理解を目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	心理検査法とは何か、授業の方針と全体の流れを理解する。また心理検査の基礎理論を学習する。
第2回	心理検査の歴史、心理検査の種類	心理検査がどのように発展してきたのか、その歴史を理解する。心理検査の種類の中でも、特に実際の臨床場面で使用頻度の高い心理検査の種類と分類を学習する。
第3回	心理検査の留意点	心理検査の正しい実施方法や検査結果の解釈への留意点を知り、理解を深める。
第4回	性格検査を用いた自己理解体験	新版東大式エゴグラムII（TEG-II）を体験学習し、自身の心理・行動パターンを振り返る。
第5回	性格検査（1）：質問紙法	質問紙法性格検査から、YG性格検査、MMPI、MPIを学習する。特にYG性格検査は、検査の実施、分析、結果の解釈を行う。
第6回	性格検査（2）：作業検査法	作業検査法性格検査から、内田クレペリン精神検査の実施・分析を行い、結果の解釈について学習する。
第7回	発達検査：新版K式発達検査他	発達検査から、新版K式発達検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査他を学習する。
第8回	知能検査（1）：ウェクスラー式知能検査	ウェクスラー式知能検査から、WPPSI（幼児用）、WISC（児童用）、WAIS（成人用）を学習する。
第9回	知能検査（2）：ビネー式知能検査	ビネー式知能検査から、田中ビネー知能検査V他を学習する。
第10回	知能検査（3）：人物画知能検査	グッドイナフ人物画知能検査を学習する。
第11回	性格検査（3）：投影法I	投影法性格検査から、TAT（主題統覚検査）、SCTを体験学習する。
第12回	性格検査（4）：投影法II	投影法性格検査から、P-Fスタディ（絵画欲求不満テスト）、ロールシャッハテストを体験学習する。
第13回	性格検査（5）：投影法III	投影法性格検査から、バウムテスト、S-HTPを体験学習する。
第14回	その他の心理検査	その他の心理検査について学習する。
第15回	まとめ	本講義のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

心理検査の理論、実施方法、検査結果の解釈等の基本的な知識を習得し、代表的な心理検査の特徴を説明することができる。また、それらの心理検査の実施方法や検査結果の解釈についての留意点を説明できることを到達目標とする。

【事前・事後学習】

授業前に各テーマに関して調べてくる。授業後は、授業内容について復習し、各種検査についての知識を深める。

【成績評価基準】

心理検査に関する基本的な知識を習得し、代表的な心理検査の特徴を説明できるか。
心理検査の実施方法や解釈についての留意点を理解し説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（毎回授業時の提出物）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・授業の中で適宜紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3349	心理学研究法	3年	前期	2単位	選択	橘 廣

【授業の目的と概要】

(1)科学的心理学研究の目標（行動の法則性の発見：行動の記述、説明、予測、制御)、(2)研究方略（横断的方法、縦断的方法、通文化的方法、生態学的方法、臨床的方法)、(3)資料収集の技法（実験、観察、調査、検査、統計的方法）等について、人間行動の科学的理解に利用されている研究方略並びに客観的研究に必要な資料収集法について、実際の研究方法を事例にして具体的な知識の習得を目指す。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	心理学の研究の特徴は何か、授業の方針と全体の流れを理解する。
第2回	心理現象の実験･調査･観察･検査	実験法、調査法（質問紙法)、観察法、検査法などの心理学の研究方法の比較をし、長所と短所を理解する。
第3回	質的調査	質的調査と、得られた質的データの特徴を知り、理解を深める。
第4回	量的調査	量的調査と、得られた量的データの特徴を知り、理解を深める。
第5回	実験の論理と方法	実験研究の条件統制と、統制のための主な方法を知り、実験研究について理解を深める。
第6回	研究デザイン	研究で用いられる実験デザインについて学習する。
第7回	学習に関する研究	最近の学習心理学研究においてどのような研究方法が用いられているのか学習する。
第8回	発達に関する研究	最近の発達心理学研究においてどのような研究方法が用いられているのか学習する。
第9回	教育に関する研究	最近の教育心理学研究においてどのような研究方法が用いられているのか学習する。
第10回	感情に関する研究	最近の感情心理学研究においてどのような研究方法が用いられているのか学習する。
第11回	臨床に関する研究	最近の臨床心理学研究においてどのような研究方法が用いられているのか学習する。
第12回	集団心理に関する研究	最近の社会心理学研究においてどのような研究方法が用いられているのか学習する。
第13回	障がい者支援に関する研究	最近の障害者心理学研究においてどのような研究方法が用いられているのか学習する。
第14回	研究の展開	研究計画から研究発表･論文執筆まで、心理学の研究をどのように行っていくのかを知り、理解を深める。
第15回	まとめ	本講義のまとめを行う。また実験データの分析法について理解度調査を行う。

【授業の到達目標】

複雑な人間の心を心理学の領域ではどのように捉え、研究が進められるのかについて理解し、さまざまな研究方法の特徴を説明することができる。また研究テーマの設定や研究デザインの作成、実験データの分析ができることを到達目標とする。

【事前･事後学習】

心理学関連書籍に加えて、学術雑誌や学会発表論文集に目を通し、その中で興味をもった対象や研究領域について、これまで何がわかっているのか、現在何が問題になっているのか情報を得る努力をしてほしい。

【成績評価基準】

心理学のさまざまな研究方法の特徴を長所と短所を含め理解し説明できるか、研究テーマの設定や研究デザインの作成ができるか、実験データの分析法を理解できているかを評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	0	0	40（毎回授業時の小テストを含む提出物､授業態度）

【テキスト】

･適時資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2350	カウンセリング概論	2年	後期	2単位	選択	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

カウンセリングの基本的な知識を習得し、3年次の実践的なカウンセリング演習につないでいくことを目的とする。カウンセリングを学習することは対人関係が重要である職種、たとえば心理・福祉・教育・保育などで働きたい人にとって有効である。カウンセリングは人と人の関わりを考える上で大切なことを提供してくれる。本講義ではカウンセリングの諸理論を学んだ後、具体的な技法について学習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	カウンセリング概論の概要、事前事後学習、受講の留意点等
第2回	カウンセリングの歴史と概念	1カウンセリングとは何か　2日常会話とカウンセリング　3カウンセリングの歴史
第3回	カウンセリングがが期待される分野	1医療　2教育　3産業　4開業カウンセリング　5公的機関の相談　6電話相談
第4回	ロジャーズのカウンセリング	1非指示的カウンセリング　2ロジャーズの人生
第5回	カウンセリングのプロセス	カウンセリングを受けるクライエントの心理を7つのプロセスから検討する。
第6回	実践的なカウンセリングに向けて	1カウンセリングが始まるまでに　2カウンセリングの環境　3インテーク面接
第7回	カウンセリングにおける聴く技術	1受容　2支持　3くり返し　4質問
第8回	カウンセリングの初期で重要なこと(1)主訴と見立て	1主訴とは何か　2主訴を聴くうえで重要なこと　3なぜ見立てが必要か
第9回	カウンセリングの初期で重要なこと(2)見立と方針	1何を見立てるのか　2緊急介入　3見立てから導きだされる方針
第10回	発達障害の見立てと対応	1自閉症スペクトラム　2注意欠陥多動性障害　3学習障害
第11回	カウンセリングで注意すること	1沈黙・質問・抵抗・転移について　2カウンセリングの倫理
第12回	聴き方のトレーニング（1）焦点をあててついていく	1基本的な対応、視線、姿勢、声の調子　2焦点をあててついて行く
第13回	聴き方のトレーニング（2）効果的な効き方	1状況に即した開かれた質問、閉じられた質問　2最小限の励まし
第14回	聴き方のトレーニング(3)感情・内容のフィードバック	1感情・内容のフィードバック　2自己開示　3対決
第15回	まとめ・試験	カウンセリング概論のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

カウンセリングの基礎知識と技術を習得し、模擬カウンセリングができるようになる。そして、それを3年次のカウンセリング演習につなげる。

【事前・事後学習】

特に教科書が指定されないので、ノートを整理し解らないところを調べて、自分の参考書を作ること。各テーマに関する参考書、資料等が事前に示されるので、授業までに予習をしてくること。

【成績評価基準】

カウンセリングの基礎知識と技術が習得できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	0	0	0	50（小テスト）

【テキスト】

・テキストは使用せず、授業内容に応じて資料を配付する。

【参考図書】

・授業内で紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3351	カウンセリング基礎演習	3年	前期	2単位	選択	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

カウンセリング基礎演習はカウンセリング演習と通年で履修することを原則とする。

現代社会において、心の問題への対応は私たちのあらゆる生活場面で必要とされるようになってきた。この授業は、心理専門職を目指す学生だけでなく、例えば、保育士や障害者指導員のように広く対人関係が重要な職種を目指す学生の、基本的なカウンセリング技術の習得を目的とする。演習では、全員が模擬カウンセリングを行ない、カウンセラー及びクライエントの心の動きを実体験する。受講生はそれをDVDに収録し、応答の検討を行う。加えて毎回、カウンセリング技術を段階的に講義し、その回のケースに現れたトピックスを解説する。以上の内容を講義･演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	カウンセリングの基本的態度。演習の流れと遵守事項の解説。受講生の発表日の決定。分析室での機器操作の説明。
第2回	模擬カウンセリングと討議１組　まずは話を聴く	録画されたＤＶＤとそれを逐語記録におこした資料によって模擬カウンセリングの検討を行う。以降、毎回、順番に実施する。
第3回	模擬カウンセリングと討議２組　非言語要素(１)姿勢、位置、雰囲気	カウンセラーとクライエントの位置や姿勢、目線から醸し出される雰囲気。
第4回	模擬カウンセリングと討議３組　非言語要素(２)表情、あいづち	カウンセラーの表情やうなずき、あいづちによって場面はどう変わるか。
第5回	模擬カウンセリングと討議４組　ラポールを作るために(１)	日常会話との違いをはっきりと意識する。
第6回	模擬カウンセリングと討議５組　ラポールを作るために(２)	相手の心を開いて聴く。相手が何を伝えたいのかまずは分かりたいと思うこと。
第7回	模擬カウンセリングと討議６組　ラポールを作るために(３)	自分の価値観で応答せずに相手の立場を理解しようとすること。
第8回	模擬カウンセリングと討議７組　ラポールを作るために(４)	クライエントの気持ちを理解しようとすること。
第9回	模擬カウンセリングと討議８組　カウンセリングの技法(１)クライエントに分かったことを伝える。	クライエントの見ている世界を確認する。
第10回	模擬カウンセリングと討議９組　カウンセリングの技法(２)繰り返し	意味への応答、感情への応答、事柄への応答
第11回	模擬カウンセリングと討議10組　カウンセリングの技法(３)質問	質問をすることでカウンセリングが進むとき、横道にそれるとき、中断するとき。
第12回	模擬カウンセリングと討議11組　カウンセリングの技法(４)質問	開かれた質問、閉じられた質問の使い方。
第13回	模擬カウンセリングと討議12組　カウンセリングの技法(５)支持	クライエントの出来ているところや成長したところを認める。
第14回	模擬カウンセリングと討議13組　カウンセリングの技法(６)支持	支持と保証の違い。
第15回	まとめ	カウンセリング基礎演習のまとめと振り返り。

【授業の到達目標】

カウンセリング基礎演習･ カウンセリング演習の1年間で、全員がカウンセラー、クライエント体験をする。この演習によって、より実践的な“聴く力”を身につける。

他の学生のカウンセリングであっても討議の場においては自分の意見を言うことができるようになる。

【事前･事後学習】

カウンセリングルームでカウンセラー役とクライエント役で模擬カウンセリングを行い、ＤＶＤに録画する。指定された授業の日までに、録画したものを検討しやすい文章になおしてくる必要がある。

【成績評価基準】

カウンセリングの知識を実際のカウンセリング場面でどのように生かすことが出来たか。他の学生のカウンセリングであっても討議の場において、自分の意見を言うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･テキストは使用せず、授業内容に応じて資料を配付する。

【参考図書】

･授業内で紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3352	カ ウ ン セ リ ン グ 演 習	3年	後期	2単位	選択	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

カウンセリング基礎演習とカウンセリング演習を通年で、学習することを原則とする。

カウンセリング演習は、カウンセリング基礎演習に比べ、より難しい課題を踏まえながら模擬カウンセリングを実施する。演習では、全員が模擬カウンセリングを行ない、カウンセラー及びクライエントの心の動きを実体験する。受講生はそれをDVDに収録し、応答の検討を行う。加えて毎回、カウンセリング技術を段階的に講義し、その回のケースに現れたトピックスを解説する。以上の内容を講義･演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	カウンセリング演習の講義の概要、事前事後学習、受講の注意、評価の方法。
第2回	模擬カウンセリングと討議14組　カウンセリングの始め方	カウンセリングを始めるときの注意点。
第3回	模擬カウンセリングと討議15組　カウンセリングの終わり方	時間的配分と最後のまとめ、次回の予告。
第4回	模擬カウンセリングと討議16組　主訴を聴く(1)	今、クライエントが問題としていること、解決したいと願っている中心的な事柄。
第5回	模擬カウンセリングと討議17組　主訴を聴く(2)	1主訴はクライエントに確認する　2主訴に戻すことも大寺　3主訴をカウンセラーが示唆しない。
第6回	模擬カウンセリングと討議18組　見立てと方針(1)何を見立てるのか	1緊急介入の必要性　2症状の見立て　3カウンセリング的な見立て
第7回	模擬カウンセリングと討議19組　見立てと方針(2)危機介入	1児童虐待　2ドメスティックバイオレンス　3老人虐待　4PTSD等で早い介入が効果的な場合。
第8回	模擬カウンセリングと討議20組　見立てと方針(3)症状の見立て	1重篤な精神疾患を持っているか　2気持ちが症状になっていないか　3発達の問題はないか
第9回	模擬カウンセリングと討議21組　見立てと方針(4)カウンセリング的見立て	1カウンセリングを展開させていく力があるか　2クライエントの日常がどの程度阻害されているか　3クライエントの持っている資源
第10回	模擬カウンセリングと討議22組　カウンセリングの諸注意(1)カウンセラーの問題	自分の感情や未解決の問題がどのようにカウンセリングに影響するか。
第11回	模擬カウンセリングと討議23組　カウンセリングの諸注意(2)カウンセリングに枠をもうけることの意味と効果	1契約の心理的意味　2特別な場所を約束する
第12回	模擬カウンセリングと討議24組　地域･行政とのネットワーク	1医療機関との連携　2社会的資源とどのようにしてつながるか
第13回	模擬カウンセリングと討議25組　スーパーヴィジョン･ケースカンファレンススーパーヴァイジーの心構え	1スーパーヴァイジーの心構え　2ケースカンファレンスの意義とケースの取り扱い方
第14回	模擬カウンセリングと討議26組　カウンセリングと倫理	1守秘義務と学校カウンセリング　2ケースを研究するとき、発表するときの倫理
第15回	まとめ	カウンセリング演習のまとめと振り返り

【授業の到達目標】

カウンセリング基礎演習･ カウンセリング演習の1年間で、全員がカウンセラー、クライエント体験をする。この演習によって、より実践的な“聴く力”を身につける。

他の学生のカウンセリングであっても討議の場において、自分の意見を言うことができるようになる。

【事前･事後学習】

カウンセリングルームでカウンセラー役とクライエント役で模擬カウンセリングを行い、DVDに録画する。指定された授業の日までに、録画したものを検討しやすい文章になおしてくる必要がある。

【成績評価基準】

カウンセリングの知識を実際のカウンセリング場面でどのように生かすことが出来たか。他の学生のカウンセリングであっても討議の場において、自分の意見を言うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･テキストは使用せず、授業内容に応じて資料を配付する。

【参考図書】

･授業内で紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH2353	教 育 心 理 学 実 験 実 習	2年	前期	1単位	選択	橘 廣

【授業の目的と概要】

教育の営みをより効果的に推進するために、教育心理学の従来の知見や技術から、その方法を体得することは重要であると思われる。この授業では、教育場面でよく使用される検査をとりあげ、適切な検査の実施、結果の解釈ができるように体験的に学習する。また、実験･調査者及びその参加者となり、実験や調査、観察の方法の基本を体験的に学習することを目的とする。この授業では、少人数のグループに分かれ、テーマを決定し、実験計画を立て、データを収集及び分析し、結果をまとめ発表する。毎回の授業で報告書を各自提出する。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、S-HTPの実施･分析	授業の方針と全体の流れを理解する。また教育現場でよく使用されるS-HTPを実施･分析し報告書を提出する。
第2回	S-HTPの解釈、子どもの心の危機	S-HTPの解釈法を理解し、1997年と1981年の小学6年生のS-HTP法による描画テストを比較し、子どもの心の危機について意見をまとめ報告書を提出する。
第3回	教育現場の心理検査、YGの実施･分析	教育の現場で役立つさまざまな心理検査を知り、その中のYG性格検査を実施･分析し、質問紙法の課題をまとめ報告書を提出する。
第4回	コンピュータ制御による実験	コンピュータ制御による実験を体験し、報告書を提出する。
第5回	観察法（パズル解決過程）の実施･分析	観察法の体験として、パズルを協同で解く際の相互作用を別室よりカメラ撮影し分析する。観察者と観察対象者を体験し、分析結果と意見を提出する。
第6回	実験法（手指操作の実験）の実施･分析	実験法の体験として、ペグボード･KAPLA･ダイスなどを使用した手指操作の実験の実施･分析を行い、結果と考察をまとめ、報告書を提出する。
第7回	質問紙の作成･分析の説明、グループ分け	調査法の体験として、質問紙作成上の注意点など基礎的な学習後、個人あるいはグループで質問項目を作成し、各自報告書を提出する。関心のあるテーマを考え、実験あるいは調査のグループ分けをする。
第8回	グループでの実験･調査の計画	実験あるいは調査の実施計画を立て、予備的な実験･調査を行い、報告書を各自提出する。
第9回	実験･調査の実施	個人あるいはグループで実験･調査を行い、他のグループの実験･調査の参加者にもなる。経過をまとめた報告書を各自提出する。
第10回	実験･調査の実施	個人あるいはグループで実験･調査を行い、他のグループの実験･調査の参加者にもなる。経過をまとめた報告書を各自提出する。
第11回	データ分析	実験･調査から得られたデータを分析し、各自報告書を提出する。
第12回	グループごとの発表･討論	個人あるいはグループで発表し討論を行う。意見を記載した報告書を各自提出する。
第13回	グループごとの発表･討論	個人あるいはグループで発表し討論を行う。意見を記載した報告書を各自提出する。
第14回	結果の解釈上の留意点	結果の解釈上の留意点などを確認し、理解を深める。個人あるいはグループで発表し討論を行う。意見を記載した報告書を各自提出する。
第15回	この実習のまとめ	この実習のまとめを行い、レポートを作成し提出する。

【授業の到達目標】

この実習により体験的に学習した資料収集の技法（実験･調査･観察･検査）を理解し説明できる。得られた知識や技術を応用し発展できる。

【事前･事後学習】

各自が工夫して実施する実験あるいは調査において、例えば実施計画、実験･調査の準備、データ分析、発表準備など時間を要する事柄は、事前･事後学習を行ってほしい。グループ内で連絡をとりあって、創意工夫したより良い研究発表ができるように努力してほしい。

【成績評価基準】

実験･調査･観察･検査などの要点が説明できるか、自分自身の考えが毎回の報告書やレポートに記載されているか、実験･調査で基礎的な事柄を押さえたうえでさらに発展させた独自の工夫や努力がみられるか、研究発表や討論の内容を含め評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	0	0	40（毎回授業時の小テストを含む提出物、授業態度）

【テキスト】

･適時資料を配布する。

【参考図書】

･中沢潤他著『心理学マニュアル　観察法』北大路書房
･鎌原雅彦他著『心理学マニュアル　質問紙法』北大路書房
･心理学実験指導研究会編『実験とテスト＝心理学の基礎』培風館

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH2354	心理統計学	2年	後期	2単位	選択	黒川 雅幸

【授業の目的と概要】

本講義では、心理学の研究を行う上で必須となる、統計的なデータ解析手法に関する基礎的事項について学習する。具体的には、収集したデータの特徴を把握するための分析法（記述統計）と、その結果を一般化するために必要な分析法（推測統計）について、基本的な知識と技術の習得を目指すことが目的である。講義の方法としては、統計技法の理論についての理解力を高めるために、コンピュータを利用し、計算例にしたがって解説を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション（心理統計学について）	心理統計学とはどのような学問であるかについて学ぶ
第2回	統計処理の基礎概念（1）尺度水準	統計で扱われる尺度水準について学ぶ
第3回	統計処理の基礎概念（2）データの数値化と数値要約	サンプリングによって得られたデータの扱い方および数値でのまとめ方について学び、算出する
第4回	統計処理の基礎概念（3）標準化･偏差値･正規分布	得られたデータの数値を用いて、標準化･偏差値を算出し、正規分布の考え方について学ぶ
第5回	統計処理の基礎概念（4）記述統計	記述統計で扱う用語や計算方法について総まとめする
第6回	推測統計の導入	推測統計を行う上で前提となる考え方をを学ぶ
第7回	カイ二乗検定（1）	質的変数同士の関係性を検討するカイ二乗検定の考え方を学ぶ
第8回	カイ二乗検定（2）	カイ二乗検定の算出方法を具体的な数値を用いて学ぶ
第9回	t検定（対応なし）（1）	質的変数と量的変数の関係性を検討するt検定の考え方を学ぶ
第10回	t検定（対応なし）（2）	対応のないt検定の算出方法を具体的な数値を用い学ぶ
第11回	t検定（対応あり）	対応のあるt検定の算出方法を具体的な数値を用いて学ぶ
第12回	相関係数	量的変数と量的変数の関係性を検討する相関係数の考え方を学ぶ
第13回	無相関の検定	相関係数の算出方法を具体的な数値を用いて学ぶ
第14回	推測統計のまとめ	推測統計で得られた値の解釈方法を学ぶ
第15回	まとめ	全ての回の復習とテスト

【授業の到達目標】

心理学の実験や調査で得られたデータを分析する上で，どのような検定を用いて，どのように算出するのかを説明することができる。また，得られた検定結果を適切に解釈することができる。

【事前･事後学習】

エクセルを使う機会が多いため，事前に基本的なエクセルの使用方法，関数の使い方を復習しておく。さらに，グラフの作成方法についても復習する。講義後には，様々な算出方法を別の値を用いて各自算出する。

【成績評価基準】

記述統計において，用語と算出方法が適切であるか。データによって適切な推測統計方法が説明できるか。推測統計によって算出された値を解釈することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	0%	30%	0%	70%(授業内で行われる小テスト)

【テキスト】

･山田剛史･ 村井潤一郎、よくわかる心理統計、ミネルヴァ書房

【参考図書】

･吉田寿夫、本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本、北大路書房
･森敏昭･吉田寿夫、心理学のためのデータ解析テクニカルブック、北大路書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1355	集団心理学	1年	前期	2単位	選択	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

人間が生きる上で、他者との関係、社会的環境からの影響は免れない。本講義では、人間の心理に影響を及ぼす他者・集団・環境の要因について、講義形式を基本にグループワーク等も行いながら、今後の社会生活への活用も含めて検討する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	集団心理学の紹介と、社会における活用について説明する
第2回	“集団”の概念	集団の単位を学び、個々の学生自身が状況をまとめる
第3回	他者の行動・状況の影響	人間の心理・行動に与える他者の行動・状況の影響を学ぶ
第4回	社会的環境の影響	人間の心理・行動に与える社会からの影響を学ぶ
第5回	各時代における民衆心理	時代によって異なる民衆の心理・傾向を学ぶ
第6回	生活における集団Ⅰ:同年代	身近な集団としての同年代の仲間の影響について学ぶ
第7回	グループワークをしてみよう	学生同士で小グループを作り、紹介などの簡単なワークを体験する
第8回	生活における集団Ⅱ:家族	生活単位としての集団である家族について学び整理する
第9回	家族トークをしてみよう	小グループで、個人情報に配慮して家族トークを体験する
第10回	生活における集団Ⅲ:地域	生活圏としての集団である地域の影響について学び整理する
第11回	自分の出身地域を紹介しよう	小グループで、個人情報に配慮して地域を紹介する
第12回	集団心理療法Ⅰ	グループでの心理療法の理論と方法を学ぶある研究を紹介することによってこの問題を深める。によって
第13回	集団心理療法Ⅱ	社会における集団心理療法の活用例について学ぶ
第14回	近年の社会的状況の影響	近年の社会状況による心理・行動への影響を考察する
第15回	まとめ	本講義のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

人間の心理と行動に影響を与える集団と環境について、自分なりに説明できる。
グループワークを通して、集団の状態を考慮した行動をとることができる。

【事前・事後学習】

授業前に各テーマに関して調べてくる。授業後は、生活における授業内容に関連したことについて意識し、振り返る機会とする。可能であれば得られた知識を学生生活で適切に活用する。

【成績評価基準】

人間の心理と行動に与える集団からの影響について理解し、自分なりに説明できるか。
授業中のグループワークに参加し、体験を通した考察ができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3356	社会心理学実験実習	3年	後期	1単位	選択	橘 廣

【授業の目的と概要】

社会心理学に関するさまざまな実験や調査を体験し、実験の方法、手続き、結果の集計方法や考察の仕方など、レポートのまとめ方を学ぶことを目的とする。受講者は各自実験者として実験を行うだけではなく、実験参加者にもなる。その際、実験に応じてグループごとに協力し合う必要があるため、毎時間必ず出席する必要がある。また、毎回の授業で各自レポートの提出を行う。以上の内容を実習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	この授業を受講する上で重要となる事項や心構えを解説する。また、授業評価の仕方や今後の予定をオリエンテーションする。
第2回	社会心理学の概要	心理学における社会心理学の位置づけ、基礎知識を総復習する。
第3回	レポートの書き方（1）	レポートの書き方を学術論文を通して、解説する。
第4回	パーソナルスペース（1） 概要解説、「問題と目的」	パーソナルスペースの実験の背景や実験方法を解説し、レポートの「問題と目的」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第5回	パーソナルスペース（2） 実験、「方法」	第4回の講義で得られた知見を基に、パーソナルスペースに関する実験を行う。また、レポートの「方法」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第6回	パーソナルスペース（3） まとめ、「結果と考察」	第5回の実験で得られたデータを基に、集計および分析を行う。レポートの「結果」と「考察」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第7回	レポートの書き方（2）	実際の実験を行い、レポートとしてまとめた上で出てきた問題点を解説する。
第8回	囚人のジレンマ（1） 概要解説、「問題と目的」	囚人のジレンマの実験の背景や実験方法を解説し、レポートの「問題と目的」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第9回	囚人のジレンマ（2） 実験、「方法」	第8回の講義で得られた知見を基に、囚人のジレンマに関する実験を行う。また、レポートの「方法」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第10回	囚人のジレンマ（3） まとめ、「結果と考察」	第9回の実験で得られたデータを基に、集計および分析を行う。レポートの「結果」と「考察」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第11回	コミュニケーションの変容（1） 概要解説、「問題と目的」	コミュニケーションの変容の実験の背景や実験方法を解説し、レポートの「問題と目的」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第12回	コミュニケーションの変容（2） 実験、「方法」	第11回の講義で得られた知見を基に、コミュニケーションの変容に関する実験を行う。また、レポートの「方法」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第13回	コミュニケーションの変容（3） まとめ、「結果と考察」	第12回の実験で得られたデータを基に、集計および分析を行う。レポートの「結果」と「考察」部分を自分の言葉で書けるようにする。
第14回	グループごとの発表・討論	これまで行ってきた実験の中から各グループで一つ選び、発表を行う。
第15回	この実習のまとめ	この実習のまとめを行い、レポートを作成し提出する。

【授業の到達目標】

社会心理学における基本的な実験方法について説明することができる。また、実験によって得られたデータの解釈をすることができる。さらに、実験データを論文形式にまとめることができる。

【事前・事後学習】

各実験で扱うキーワードについて調べてくる。実験前には、レポートの問題と目的部分は書き上げておく。さらに、実験後はデータの解釈を行う上で重要となる論文および書籍を調べる。特に実験後の検索はレポートの考察部分で重要な作業となる。

【成績評価基準】

実験参加に意欲的に参加しているか、毎時間課すレポートが提出できているか、各実験で課されるレポートが論文形式に則って記載されているか、結果を論理的に解釈できているかを、主な評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	60%	40%	0%	0%

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・池田謙一他著『社会心理学』有斐閣

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3357	障　害　者　心　理　学	3年	前期	2単位	選択	髙柳 伸哉

【授業の目的と概要】

近年では心身の障害とともに、平成28年4月から施行される「障害者差別解消法」に伴い、軽度の発達障害への関心も高まっている。本講義では障害について概要の紹介と、障害のある人の心理の理解や支援の方向性について検討する。講義形式だけでなく、扱うテーマに関して学生自身の考察の時間や、グループ討議の時間を設けて進行する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション障害者心理学とは	本講義で対象とする障害の概要と近年の動向について紹介する
第2回	障害の分類と定義Ⅰ	国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への改訂から、障害に関する定義を紹介する
第3回	障害の分類と定義Ⅱ	ICFにおける個人因子と環境因子の関連による障害の発生や支援の可能性を検討する
第4回	障害の分類と定義Ⅲ	ICFの児童版（ICF-CY）について紹介し、子どもへの教育・支援における活用について学ぶ
第5回	障害における心理的問題	障害受容をはじめとした障害に関する心理状態を学ぶ
第6回	身体障害	身体障害を紹介し、先天的･後天的な障害による違いなどを考察する
第7回	発達障害Ⅰ	主に自閉症スペクトラム障害について紹介する
第8回	発達障害Ⅱ	主に注意欠如･多動性障害について紹介する
第9回	発達障害Ⅲ	近年の発達障害に関する課題について紹介する
第10回	合理的配慮と支援	障害のある人への合理的配慮について学び、理解と支援の方向について検討する
第11回	精神的障害	うつ病や統合失調症などの精神障害について紹介する
第12回	障害における社会的問題Ⅰ	社会生活における障害を起こしうる様々な問題について紹介する
第13回	障害における社会的問題Ⅱ	障害のある人のジェンダーや性の課題について紹介する
第14回	社会的環境の向上	障害のある人を取り巻く社会･生活環境の影響を紹介する
第15回	まとめ	本講義のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

障害の考え方について、ICFにもとづいて理解することができる。
障害のある人の抱えやすい一般的な心理的問題について説明することができる。

【事前・事後学習】

授業前に各テーマに関して調べてくる。授業後は、生活での出来事やニュースなどにおいて授業内容に関連したことを意識し、振り返る機会とする。

【成績評価基準】

障害の考え方について、ICFにもとづいて図示や説明ができるか。
障害のある人の抱えやすい一般的な心理的問題について説明することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	20	0	20（授業後に提出する振り返りの紙）

【テキスト】

･必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH1401	人　間　健　康　特　講　Ⅰ	1・2年	後期	2単位	選択	高間 佐知子

【授業の目的と概要】

この講義では様々なスポーツに関する事故事例を見ていきます。学校の授業、課外活動、学校行事として行われる場合の事故や競技大会における競技中の事故など、事故事例の現場は多岐にわたります。事故事例の多いスポーツについて、事実の確認から裁判の結果を見ていくことで、事故事例に関する対処方法と指導者や教員の法的責任を学びます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	スポーツ事故の現状	事故の多いスポーツとは？
第2回	スポーツ事故に関する訴訟	訴訟類型、訴訟当事者、判断要素
第3回	サッカーに関する事故事例①基礎知識	サッカーに関する事故事例の基礎知識
第4回	サッカーに関する事故事例②事例紹介	サッカーに関する事例紹介と検討
第5回	野球に関する事故事例①基礎知識	野球に関する事故事例の基礎知識
第6回	野球に関する事故事例②事例紹介	野球に関する事例紹介と検討
第7回	陸上に関する事故事例①基礎知識	陸上に関する事故事例の基礎知識
第8回	陸上に関する事故事例②事例紹介	陸上に関する事例紹介と検討
第9回	水泳に関する事故事例①基礎知識	水泳に関する事故事例の基礎知識
第10回	水泳に関する事故事例②事例紹介	水泳に関する事例紹介と検討
第11回	柔道に関する事故事例	柔道に関する事例紹介と検討
第12回	体操競技に関する事故事例	体操球技に関する事例紹介と検討
第13回	学校行事に関する事故事例	体育祭やキャンプにおける事例紹介と検討
第14回	休み時間における事故事例	学校の休み時間における事例紹介と検討
第15回	総括	スポーツ事故事例と法的責任

【授業の到達目標】

具体的な事故事例を検討することで、指導者側の立場から注意すべき点やスポーツを行う際に選手として注意すべき点を自ら検討・考察することができるようにします。

【事前・事後学習】

講義を聴いていて分からない言葉があれば自分で調べ、疑問点が生じた場合は質問するなどして解決するようにしてください。

【成績評価基準】

原則として、期末試験を実施して評価します。ただし、授業の終わりに授業で扱ったスポーツのルールに関する問題や簡単なまとめをして提出してもらい、評価に加算します。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	20	0	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH1403	人間健康特講Ⅲ	1・2年	後期	2単位	選択	増田 孝

【授業の目的と概要】

弥生時代から古墳時代にかけて大陸や半島から日本に移入された文字（漢字）からは、奈良時代・平安時代を通じてそれを母体として仮名文字が作られた。漢字・仮名の双方により日本語を完全に表現できるようになったのである。これを我々の祖先はおよそ千数百年にわたり遣い続け、時代とともに変化させてきたが、近代にはいると筆記具としての筆が廃れ、それとともに、筆で書かれた書というものが完全に過去のもの、判読の困難なものとなってしまった。

書としての漢字・仮名の判読や解釈は日本文化を理解する上での基本であり、この授業では、その基礎的読解力を養う。テキストとして、主に安土桃山時代から江戸時代初期の古典を用い、これを原典で解読する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	導入と資料配付	テキスト資料を配布し、今後の授業の進め方、参考書等を解説する。
第2回	筆で書かれた漢字と仮名に親しむ	聖護院興意入道親王の和歌（その1）中世末期の書の特色
第3回	基礎読解力の養成（1）仮名文字の誕生と字母	聖護院興意入道親王の和歌（その2）詠歌の背景にあるもの
第4回	基礎読解力の養成（2）筆で筆写された文献に親しむ	聖護院興意入道親王の和歌（その3）真言密教と法要について
第5回	基礎読解力の養成（3）単体と連綿体の仮名文字	聖護院興意入道親王の和歌（その4）書風と文体の特色
第6回	これまでのまとめと試験	これまでのまとめと試験実施
第7回	基礎読解力の養成（4）万葉仮名から平仮名へ	答案返却と解説。聖護院興意入道親王の和歌（その5）和歌の技法と読解
第8回	基礎読解力の養成（5）平仮名といわゆる変体仮名	覚円『詠十首和歌』（その1）中世の和歌文芸
第9回	基礎読解力の養成（6）仮名文字の数量的陶太と平仮名	覚円『詠十首和歌』（その2）古文書に見る添削の具体的方法
第10回	これまでのまとめと試験	これまでのまとめと試験実施
第11回	基礎読解力の養成（7）和歌文学と仮名	覚円『詠十首和歌』（その3）添削の意図を読む
第12回	基礎読解力の養成（8）和歌文学と仮名	覚円『続二十首和歌』（その1）和歌添削の具体的様相
第13回	基礎読解力の養成（9）和歌文学と真言密教	覚円『続二十首和歌』（その2）和歌添削におけるテクニカルターム
第14回	基礎読解力の養成（10）和歌文学と真言密教	覚円『続二十首和歌』（その3）後世の手本となった中世末期の書
第15回	これまでのまとめと試験	これまでのまとめと試験実施

【授業の到達目標】

中世末期の和歌を読むことにより、筆で書かれた基礎的な書（漢字・仮名）を解読し、基本的な古典の解釈ができるようにする。

【事前・事後学習】

授業前には、あらかじめ各自が解読ノートを作成しておくこと。その場合、判読不明な箇所はあらかじめ□にしておく。授業を通じて、あるいは発表等を聞きつつ、自分のノートを修正して完成させるようにする。その準備は確実に行ってもらいたい。積極的、主体的かつ意欲的に学習に取り組む事が求められる。

授業後は、授業寺での既出の書体を確かなものとするように努めてほしい。

【成績評価基準】

筆写された書（基礎的な漢字・仮名）が解読・解釈できるかどうか。

頻出する漢字の基礎的な草書体を読むことができるかどうか。

最終的に200程度の仮名文字を読むことができるかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
筆記試験（80%）	0	授業への参加貢献度(20%)	0	0

【テキスト】

・資料プリントを随時配布（資料保存のためのホルダーは各自用意）

【参考図書】

・『増補改訂仮名変体集』新典社
・『国語辞典』
・『古語辞典』
・『漢和辞典』
・『くずし字解読辞典』

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3404	人　間　健　康　特　講　Ⅳ	3・4年	後期	2単位	選択	高間 佐知子

【授業の目的と概要】

日常生活や社会生活をおくる上で、私たちは人とかかわって生きています。人とかかわるということはトラブルが発生する可能性を生じさせます。人と人とのトラブルを解決してくれる法律が民法です。この講義では、「民法」という法律を学んでいきます。身近な法律問題を解決するための知識や考え方を幅広く提供することを目的としています。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	民法概説	民法とは何か
第2回	相続①法定相続分	法定相続分の計算
第3回	相続②承認と放棄	相続に関する承認と放棄
第4回	相続③遺留分	遺留分と遺留分権者
第5回	遺言①種類	遺言の種類
第6回	遺言②作成方法	遺言の作成方法
第7回	親族①婚姻	婚姻の法的効果
第8回	親族②離婚	離婚の法的効果
第9回	親族③親子関係	親子関係に関する法律問題
第10回	民法総則①未成年者の問題	未成年者に関する法律問題
第11回	民法総則②高齢者の問題	高齢者に関する法律問題
第12回	民法総則③意思表示	詐欺、強迫などの法律問題
第13回	民法総則④代理	代理の要件および法律問題
第14回	民法総則⑤時効	消滅時効や取得時効
第15回	総括	講義全体のまとめ

【授業の到達目標】

日常で生じ得る法律問題について「民法」という法律を使って基本的な解決方法を身につけることができるようになり、物事を法的な視点で見ることができるようになります。

【事前・事後学習】

自分でしっかりとノートをとるようにして下さい。レジュメや自筆ノートを使って復習を重点的に行いましょう。理解できない点があれば、講義終了後など時間を見つけて質問することで対処して下さい。

【成績評価基準】

民法で規定されている基本的なルールについて理解できており、様々な法的問題を論理的に説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
100	0	0	0	0

【テキスト】

·なし

【参考図書】

·なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3405	人　間　健　康　特　講　Ⅴ	3・4年	前期	2単位	選択	高間 佐知子

【授業の目的と概要】

日常生活や社会生活をおくる上で、私たちは人とかかわって生きています。人とかかわるということはトラブルが発生する可能性を生じさせます。人と人とのトラブルを解決してくれる法律が民法です。この講義では、「民法」という法律を学んでいきます。身近な法律問題を解決するための知識や考え方を幅広く提供することを目的としています。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	概説	民法とは何か
第2回	民法総則①条件と期限	条件と期限に関するルール
第3回	民法総則②期間の計算	期間の計算に関するルール
第4回	契約総論①契約の成立	契約の成立時期に関するルール
第5回	契約総論②契約の効力	契約の効力に関するルール
第6回	売買契約①瑕疵担保責任	売買契約における基本的トラブルの対処方法
第7回	売買契約②危険負担	売買契約における例外的トラブルの対処方法
第8回	消費貸借契約	消費貸借契約に関するルール
第9回	使用貸借契約	使用貸借契約に関するルール
第10回	短期賃貸借契約	短期賃貸借契約に関するルール
第11回	賃貸借契約	一般的な賃貸借契約に関するルール
第12回	請負契約	請負契約に関するルール
第13回	委任契約	委任契約に関するルール
第14回	不法行為	不法行為に関するルール
第15回	総括	講義全体のまとめ

【授業の到達目標】

日常で生じ得る法律問題について「民法」という法律を使って基本的な解決方法を身につけることができるようになり、物事を法的な視点で見ることができるようになります。

【事前・事後学習】

自分でしっかりとノートをとるようにして下さい。レジュメや自筆ノートを使って復習を重点的に行いましょう。理解できない点があれば、講義終了後など時間を見つけて質問することで対処して下さい。

【成績評価基準】

民法で規定されている基本的なルールについて理解できており、様々な法的問題を論理的に説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
100	0	0	0	0

【テキスト】

·なし

【参考図書】

·なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	家　庭　支　援　論	3年	後期	2単位	選択必修	荒川 あつ子

【授業の目的と概要】

現代の家庭のニーズは多様化し、その支援も多方面から必要となっているなかで、家庭の意義とその機能について学び、子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。家庭支援の必要性と、保育士等が行う家庭支援についても学ぶ。さらに、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。そのなかには、子育て支援サービス、保育所入所児の家庭や地域の子育て家庭への支援、要保護児童とその家庭への支援、子育て支援の課題も学ぶ。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	本講のねらいと概要	なぜ「家庭支援」が必要なのか、支援の対象や目的について学ぶ。
第2回	家族の形態と機能	家族･家庭とは何か。家族の定義や機能について学ぶ。
第3回	現代社会と家族･家庭の変容	家族･家庭の変容について、どのような要因や背景が影響しているのか学ぶ。
第4回	多様な家庭･家族の特徴	様々な形態を持つ家族･家庭の特徴について学ぶ。
第5回	男女共同参画社会とワークライフバランス	男女共同参画社会、ワークライフバランスなど社会的状況について学ぶ。
第6回	子育てにおける負担感とは	子育てにおける不安、負担感やストレスの要因や様相について学ぶ。
第7回	虐待家庭への支援	児童虐待の実態やその対応について学ぶ。
第8回	ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の状況、実態について学ぶ。
第9回	特別な配慮を必要とする子どもを持つ家庭への支援	特別な配慮を必要とする子どもを持つ家庭の状況、実態について学ぶ。
第10回	支援者の基本的姿勢と役割	家族･家庭を支援する際の基本的姿勢について学ぶ。
第11回	家族･家庭を支える法と制度	家族･家庭を支える法と制度について学ぶ。
第12回	家族･家庭を支える機関と施設	家族･家庭を支える機関と施設について学ぶ。
第13回	事例を通して	事例を提示し家庭支援の実際を学ぶ。
第14回	今後の家庭支援の課題	今後の家庭支援の課題について考察する。
第15回	まとめ	まとめと試験を行う。

【授業の到達目標】

1．現代の家族･家庭の状況を把握できる。
2．家庭支援の必要性を理解できる。
3．家族･家庭を支援する際の基本的姿勢について理解できる。

【事前･事後学習】

日頃から現代の家族･家庭をめぐる状況に問題意識や関心を持ち、関係する文献や新聞などに目を通し、自ら課題に取り組む積極性を培っておくこと。

【成績評価基準】

現代の家族･家庭の状況を把握できているか。家庭支援の必要性について学ぶことができたか。そのうえで家族･家庭を支援する際の基本的姿勢について理解することができたかを判断の基準にします。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

･必要なものについては授業の中で配布します。

【参考図書】

･適宜紹介をします。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
TL3110	保 健 体 育 教 育 法 Ⅰ	3年	前期	4単位	必修	長谷川 望

【授業の目的と概要】

本講義の目的は、学習指導要領に沿って、「体育」の目標や内容を学習するとともに、様々な運動の特性について理解をすることである。また、それぞれの運動の特性を理解したうえで、技能に応じた指導方法について考える力を養うこととする。そして、現代社会における体育･スポーツの果たす役割についても学生同士、あるいは教員を交えて議論し、今後の在り方を考えていく。さらに、授業を担当するために必要な、教授法、授業の進め方などについての知識や技術についても習得する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	本授業における概要	本授業の概要を理解したうえで、自分がどのような教員になりたいかを再度考える。
第2回	保健体育科教育法とは	保健体育科教育法とは、どのようなものであるか、日本における体育教育の変遷について理解する。
第3回	学習指導要領を学ぶ（改訂の経緯･趣旨･要点）	学習指導要領を学ぶ（改訂の経緯･趣旨･要点）を指導要領解説を中心に理解する。
第4回	学習指導要領を学ぶ（総則）	学習指導要領を学ぶ（総則）を指導要領解説を改訂された部分を中心に理解する。
第5回	体育の目標と内容（技能･態度･学び方）	体育の目標と内容（技能･態度･学び方）について、理解する。また、学習指導要領における学習内容の分類について理解する。
第6回	体育分野の内容と学習指導（1）体つくり運動	体つくり運動の学習の内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第7回	体育分野の内容と学習指導（2）器械運動	器械運動の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第8回	体育分野の内容と学習指導（3）陸上競技	陸上競技の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第9回	体育分野の内容と学習指導（4）水泳	水泳の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第10回	体育分野の内容と学習指導（5）球技	球技の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って、「ネット型」「ゴール型」「ベースボール型」のそれぞれについて理解する。
第11回	体育分野の内容と学習指導（6）武道	武道の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第12回	体育分野の内容と学習指導（7）ダンス	ダンスの学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第13回	指導法の研究と開発（1）体つくりの運動	体つくりの運動の授業が安全に楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第14回	指導法の研究と開発（2）個人競技（器械運動、陸上競技、水泳）	器械運動、陸上競技、水泳といった個人競技の種目の授業が安全に楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第15回	指導法の研究と開発（3）球技（ネット型、ゴール型、ベースボール型）	ネット型、ゴール型、ベースボール型のそれぞれの特徴を生かし、安全に楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第16回	指導法の研究と開発(4)武道･ダンス	必修化された、武道、ダンスの授業を特に安全に留意し、楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第17回	学習指導案の作成法	学習指導案の目的、意義、構成や書き方について、実際の指導案をもとに理解する。
第18回	学習指導案の作成1(目標･内容)	個人や、グループで、与えられた内容の学習指導案を作成をする。(目標･内容)
第19回	学習指導案の作成2(方法･評価法)	個人や、グループで、与えられた内容の学習指導案を作成をする。(方法･評価法)
第20回	学習指導計画の発表、討論	学習指導計画を発表し、その内容等について討論を行う。
第21回	体育授業の安全と学習評価	体育授業の安全について実例に基づき理解する。また、学習評価の種類や方法について学ぶ。
第22回	総合的な学習(1)野外活動の理論と目的	野外活動の意義や理論、目的について、自分達が参加した実習をふりかえり、教員としての立場で理解する。
第23回	総合的な学習(2)野外活動の指導法	野外活動の指導法について、実践を交えて体験する。
第24回	社会の変化と体育･スポーツ　国際社会とスポーツ	国際社会とスポーツについて、生活や文化の違いから理解する。また、オリンピックやワールドカップといった国際的なスポーツの祭典について理解する。
第25回	社会の変化と体育･スポーツ　総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブについて、理解する。また、教育機関である学校とどのような関わりが可能となるか考える。
第26回	社会の変化と体育･スポーツ　体育･スポーツ行事の企画と運営	体育教員として、体育祭をはじめとする体育･スポーツ行事の企画と運営は必須である。そこで、実際の企画書を書くことを通して学ぶ。
第27回	社会の変化と体育･スポーツ　体育施設の管理と運営	主として体育教員して、体育施設の管理と運営業務について理解する。
第28回	社会の変化と体育･スポーツ　運動部の諸問題と指導	少子化による部員数の減少、専門教員の不足といった現状の運動部の問題点を明らかにし、その快活さ区について考える。
第29回	これからの体育科教育	今後の体育科教育がどうあるべきかについて現状の分析に加えて、自分のアイデア等をディスカッションする。
第30回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

自信を持って教育実習に臨むために必要な体育教員として必要な知識を修得する。また実際に生徒を目の前に授業が展開できるよう、指導案の作成、授業運営が行えるようになることを目的とする。

【事前･事後学習】

日頃から、教育、特に体育に関するニュースに目を向け、自分の考えをまとめ発言できるように心掛けること。また、日頃より採用試験の勉強に取り組むこと。

【成績評価基準】

自信を持って教育実習に臨むために必要な体育教員としての知識を修得できたか。
実際に生徒を目の前に授業が展開できるよう、指導案の作成、授業運営が行えるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	20	20	20	0

【テキスト】

･中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省
･高等学校学習指導要領解説　保健体育編･体育編　文部科学省
･新しい体育の授業づくり　大日本図書

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL3111	保健体育教育法 Ⅱ	3年	後期	4単位	必修	村上 恭子

【授業の目的と概要】

本講義の目的は，学生がヘルスプロモーションの立場から次の2点を身につけることを目的とする。第1に，中学校・高等学校の学習指導要領の内容を包括的に理解し「保健」授業の教育方法について，考え工夫をし実践することで指導力を養うことする。第2に，講義と実践を通して教授技術，教材研究及び授業の進め方などについての知識や技術を養うこととする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	本授業における概要　ヘルスプロモーションとは	本授業におけるガイダンス。ヘルスプロモーションとしての保健教育の重要性を理解する。
第2回	学習指導要領を学ぶ(改訂の経緯・趣旨・要点)	中学校と高等学校の学習指導要領を基に，改訂の経緯・趣旨・要点について理解をする。
第3回	保健教育の目標と内容(現代社会と健康)	保健教育の目標と内容(現代社会と健康)　中学と高等学校の学習指導要領と教科書の記載内容の比較を行う。
第4回	保健教育の目標と内容(生涯を通じる健康)	保健教育の目標と内容(生涯を通じる健康) 中学と高等学校の学習指導要領と教科書の記載内容の比較を行う。
第5回	保健教育の目標と内容(社会生活と健康)	保健教育の目標と内容(社会生活と健康)　中学と高等学校の学習指導要領と教科書の記載内容の比較を行う。
第6回	保健授業の現状と課題	保健授業の現状と課題－保健の実践事例をもとに，保健の授業構成，授業運営，教材開発，授業の視点について考える。
第7回	保健体育科教師に求められる資質・能力	保健体育科教師に求められる資質・能力について根拠を示してレポートを書くことができる。
第8回	保健授業デザイン論1 「体験・ゲーム型」スタイルの保健授業づくり	保健授業デザイン論1「心の中をのぞいてみよう」
第9回	保健授業デザイン論2 「分析・思考型」スタイルの保健授業づくり	保健授業デザイン論2「給食メニューは色々食品の代表選手」
第10回	保健授業デザイン論3 「ドラマ型」スタイルの保健授業づくり	保健授業デザイン論3「エイズの時代を共に生きる」
第11回	中学校保健教材づくりのプロセス1の講義	中学校保健教材づくりのプロセス1の講義 「喫煙と健康」の授業づくり
第12回	中学校保健教材づくりのプロセス1の教材づくりと模擬授業	「喫煙と健康」の授業づくりにむけた学習カードの作成と模擬授業
第13回	中学校保健教材づくりのプロセス2の講義	中学校保健教材づくりのプロセス2の講義 「健康の成り立ち」の授業づくり
第14回	中学校保健教材づくりのプロセス2の教材づくりと模擬授業	「健康の成り立ち」の授業づくりにむけた学習カードの作成と模擬授業
第15回	中学校保健教材づくりのプロセス3の講義	中学校保健教材づくりのプロセス3の講義 「思春期の心の変化への対応」
第16回	中学校保健教材づくりのプロセス3を分担した模擬授業	「思春期の心の変化への対応」の授業づくりにむけたマイクロティーチングの実践と討議
第17回	高等学校保健授業研究への挑戦1　ストップモーションで行う「自己実現」	高等学校保健授業研究への挑戦1　ストップモーション方式の授業「自己実現」
第18回	高等学校保健授業研究への挑戦2　ストップモーションで行う「ライフステージ」	高等学校保健授業研究への挑戦2　ストップモーション方式の授業「ライフステージと健康」
第19回	高等学校保健授業研究への挑戦3　ストップモーションで行う「健康問題」	高等学校保健授業研究への挑戦3　ストップモーション方式の授業「健康の考え方」
第20回	教育実習へ向けて	教育実習へ向けて　　教育実習のグループ分けと教材の決定
第21回	保健の学習指導案の作成1	指導案の作成方法の学習
第22回	保健の学習指導案と教具の作成2	指導案と教具の作成
第23回	模擬授業、討論 1 中学校「体の発達」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 1 「体の発育・発達」
第24回	模擬授業、討論 2 中学校「環境への適応能力」	中学校模擬授業と討論及び修正実践2 「環境への適応能力」
第25回	模擬授業、討論 3 中学校「喫煙と健康」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 3 「喫煙と健康」
第26回	模擬授業、討論 4 高等学校「喫煙と健康」	高等学校模擬授業と討論及び修正実践4 「喫煙と健康」
第27回	模擬授業、討論 5 中学校「飲酒と健康」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 5 「飲酒と健康」
第28回	模擬授業、討論 6 高等学校「飲酒と健康」	高等学校模擬授業と討論及び修正実践6 「飲酒と健康」
第29回	模擬授業、討論　7　中学校「環境と健康」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 7　「環境と健康」
第30回	まとめと振り返り	まとめと振り返りを行う。

【授業の到達目標】

将来，中学・高等学校の保健体育科の教員として，保健の学習指導案の作成と授業運営が出来る。

【事前・事後学習】

1．アクティブラーニングに基づき，シラバスに従って事前に課題を提示するので，準備を行って授業に臨むこと。
2．保健授業に使えそうな教材（ﾈﾀ）を，日頃から集めておくこと。

【成績評価基準】

1．中学・高校の保健の学習指導案の作成ができる。
2．模擬授業の運営が出来る。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	30	0	指導案の作成(20)

【テキスト】

・和唐正勝・髙橋健夫他著『現代高等保健体育』大修館書店，2016年。
・高石昌広・細江文利他著『中学校　保健体育』大日本図書，2016年。
・近藤真庸・村上恭子・坂田利弘共著『保健授業デザイン論』私家版，2016年。

【参考図書】

・文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』東山書房，平成20年
・文部科学省『高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編』東山書房，平成21年

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
TL3114	教　育　方　法　論	3年	前期	2単位	必修	埜嵜 志保

【授業の目的と概要】

近年の社会の多様化、複雑化と教育環境の変化は、「教育方法論」の重要性を増大させている。他方で、情報技術･機器は、著しい発展を遂げつつある。重要性が増大している「教育方法論」の授業に、発展をみせている情報技術･機器の成果を導入する必要がある。この授業においては、まず、教育方法とは何か、次いで教育課程の中に教育方法をどのように位置づけるべきか、そして生徒の成長･発達に対応した教育の方法等、教育方法の理論的理解を深めさせると同時に、その具体化として情報技術･ 機器の活用の方法を指導する。この授業では、生徒の成長･ 発達に適切に対応した教育方法のあり方と、その方法に最近の情報技術の成果をいかに活用し、教育効果をあげるべきかについて取り上げたい。そして、情報化の進展の中で、生徒が情報技術を取得し、社会での生活、仕事をスムーズに遂行できるようにするには、いかなる教育をしなければいけないかを取り上げたい。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	学校教育とは	学校教育をめぐる諸問題について話し合い、学習計画を確認する。
第2回	学習指導と教育環境	学習指導法の変遷の歴史を知ることと、教育をめぐる環境について知る。
第3回	教育方法と学習方法	教育方法の向上のためには、生徒がどのようにして学ぶかという生徒の学習方法を知ることが必要である。それを知る方法について考える。
第4回	導入とその意義	授業は、生徒の学習意欲を喚起する導入が必要である。そのための様々な工夫を知る。
第5回	情報の信頼性	問題を解決する学習が成立するには、情報を収集しそれを基にして問題を解決することが必要であるが、信頼性のある情報であるかを判断する必要があることを知る。
第6回	セキュリティープライバシーと教育方法	学習の中では、個人のプライバシーに関わる内容が多い。保護すべき内容の種類と、それを保護する方法を知る。
第7回	ブレーンストーミングと教育方法	自由な話し合いから、問題解決をする学習が成立をする。自由な話し合いを成立させるための指導方法を知る。
第8回	プログラム学習と教育方法	プログラム学習により、個に応じた指導法が成立することと、プログラム学習のみによる欠点を知り、有効な指導方法を知る。
第9回	発見学習の方法とすすめ方	発見学習や問題解決学習により、生徒自身が学習に意欲的に取り組むことができる。そのための方法を知る。
第10回	視聴覚メディア機器の活用方法	様々な視聴覚メディアが利用されているが、それらの有効的な活用を知る。
第11回	教育方法としてのメディア利用の短所と長所	視聴覚メディアを利用した授業の様子を詳しく分析することを通して、視聴覚メディアの短所と長所を知る。
第12回	授業改革と教育方法	世界的に認められつつある授業研究を中心とした授業改革について知る。
第13回	教育方法と教育技術	生徒の実態把握が不十分では、多様な教育の技術を駆使しても、生徒自身が学ぶことのできる学習は成立しない。生徒の実態に即した教育技術を知る。
第14回	最近の情報機器と教育技術をめぐる問題	様々な情報機器の有効な活用法について知る。
第15回	今後の教育課題と教師の役割	どのように教育機器や情報機器が発達しても、学習における教師の役割は重要である。それは、日々成長する生徒に対応するのは、日々成長する教師であるからである。教師の役割について考える。

【授業の到達目標】

授業の記録を読むことやビデオを視聴することにより、教えるということ、学ぶということの本質を学ぶ。今日の学校教育における学習指導を支援する理論的･ 技術的知見の理解をめざす。また、授業づくりの理論、授業の指導法について学び、教科の指導力を高めることをめざす。

【事前･事後学習】

事前に指定された資料を読み、授業に参加する。

【成績評価基準】

知識･理解、指導力等に関して、試験、レポート、出席状況等を総合的に加味して評価を行う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	30	20	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	社会福祉援助技術演習	3年	前期	2単位	選択	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

社会福祉援助技術論を踏まえて、専門職の援助技術を実践的に学習し、社会福祉援助者として、ソーシャルワーク実践の方法を学ぶ。福祉現場の日常的な場面から作成された事例に対して、学生にロールプレイングなどを用いて援助について具体的に体験させ、併せて社会福祉援助者としての援助技術を習得させる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	自己覚知	「自分とは何か」から始まるソーシャルワークを学ぶ
第2回	コミュニケーションと面接技術（ロールプレイング）	コミュニケーションや面接技術に対する理解を深める
第3回	記録技法と相談援助の基礎的理解（ロールプレイング）	多様な問題に対応する専門職の役割や技術･技法を学ぶ
第4回	相談援助事例の検討(1)社会的排除、高齢者虐待(2)児童虐待、DV	多様な問題に対応する専門職の役割や技術･技法を学ぶ
第5回	インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング･効果測定、終結	相談援助の解決に至るプロセスを学ぶ
第6回	地域に対する相談援助（コミュニティー･ソーシャルワーク）訪問技法	コミュニティー･ソーシャルワークの技術･技法を学ぶ
第7回	権利擁護に関する相談援助（面接技法を中心に）	権利擁護に関する相談援助の技術･技法を学ぶ
第8回	集団に対する援助事例(児童、障害者、高齢者)	集団に対する援助事例（児童、障害者、高齢者）の技術･技法を学ぶ
第9回	アウトリーチの実践事例(児童･学校、障害者、高齢者、医療)	アウトリーチの実践の技術･技法を学ぶ
第10回	チームアプローチの実践方法 (児童、障害者、高齢者･医療)	チームアプローチの実践の技術･技法を学ぶ
第11回	その他の事例検討－ミクロ･ メゾ領域の統合事例（児童、障害者、高齢者）	事例検討から学ぶ
第12回	地域福祉の事例（家族面接技法を中心に）	地域福祉の事例から学ぶ
第13回	相談援助のまとめ	相談援助の知識と技術と価値を学ぶ
第14回	集団討論による課題の整理と集団による課題発表･意見交換	ディスカッションから学ぶ（自分の意見を言える）
第15回	相談援助のまとめ（今後の課題整理）	相談援助のまとめから課題を定めることを学ぶ

【授業の到達目標】

1．相談援助の体系と専門技術について理解し、実践することができること
2．相談援助の展開過程を理解し、具体的な事例について検討できる力を身につけること
3．相談援助の解決方法のなかでも人権や倫理や価値が理解できること

【事前･事後学習】

1．特に事後学習として記録を丹念に記述できることにあるので、毎回レポートを義務付けてきる。
2．レポートの添削も含めて、文章を書くことを日常的にできる機会をつくること

【成績評価基準】

1．授業の課題として、文章を書くことができること
2．文章力を高めることができること
3．対人援助の技術をマスターすること
4．クライエントの立場で問題を解決できる思考を養えることができる

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30%	60%	10%	0%	0%

【テキスト】

･資料配布

【参考図書】

･授業時に紹介

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	マ　ネ　ジ　メ　ン　ト　論	2年	前期	2単位	選択	浅野 和也

【授業の目的と概要】

本講義では、経営学の基本学説や諸理論について学び、企業経営に必要なこととは何かを考えていきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業の計画･進め方などについて解説します。
第2回	株式会社とは	株式会社の基本的特徴について解説します。
第3回	所有と経営の分離	株式会社の発展的形態である所有と経営の分離について解説します。
第4回	競争戦略１	大量生産大量販売を前提としたコスト･リーダーシップ戦略について解説します。
第5回	競争戦略２	商品の魅力を最大限に高めるための差別化戦略について解説します。
第6回	管理とは何か	なぜ、企業をはじめとする組織において管理が必要なのか解説します。
第7回	伝統的管理論―テイラーの科学的管理法	テイラーの科学的管理法について解説します。
第8回	人間関係論の生成と展開	メイヨー･レスリスバーガーによる人間関係論について解説します。
第9回	日本的経営１	日本的経営の「三種の神器」とされる終身雇用、年功制、企業別組合について解説します。
第10回	日本的経営２	「三種の神器」を最大限活用した日本的経営の短所について解説します。
第11回	企業分析―トヨタ自動車１	トヨタ独自の高生産産体制の基本となるトヨタ生産方式について解説します。
第12回	企業分析―トヨタ自動車２	トヨタ独自の高生産産体制の基本となるトヨタ生産方式について解説します。
第13回	企業分析―トヨタ自動車３	トヨタで働いている労働者の状態について解説します。
第14回	現代企業が抱える諸問題	日本の企業が抱えている諸問題について解説します。
第15回	まとめ	これまでの講義の総括をします。

【授業の到達目標】

経営学の基本学説を説明できる。
日本企業の長所･短所について説明できる。

【事前･事後学習】

テレビ･インターネットのニュースで企業経営に関するものは積極的にチェックしてください。新聞を読む習慣をつけてください。

【成績評価基準】

講義で学習した経営学の基本学説を説明できるか。
日本企業の長所･短所を説明できるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70	30	0	0	0

【テキスト】

･なし。プリントを配布します。

【参考図書】

･講義内で紹介します。

子ども発達学科
専門科目

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	地　域　福　祉　論	4年	後期	2単位	選択必修	横山 幸司

【授業の目的と概要】

さまざまな社会福祉の課題を「ヒューマンニード」という基本視点からとらえ直し、政治、経済、社会の文脈で現代社会と福祉を考えます。医療、労働、教育等の社会政策の一部としての社会福祉政策を思考する力を養うこととします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	福祉概念の概説と今後の講義の概要･予定と授業でのルールの説明
第2回	現代社会と福祉	社会福祉政策の定義を紹介し、福祉の課題を社会構造と関連する理論を理解する
第3回	福祉への社会的対応	社会福祉政策の基礎的概念、背景をなす社会思想や政治哲学を理解する
第4回	福祉ニードと供給システム	社会福祉政策を構成する基本的要素、ニードと資源の関連について理解する
第5回	福祉の計画と評価	福祉計画の立案と評価を巡る基礎的な事項にいて理解する
第6回	福祉政策と市場経済	経済理論からみた福祉政策の意味を理解する
第7回	福祉政策の近代史	国が関与する福祉政策の源流を理解する
第8回	福祉政策の現代史	第二次大戦終了後から現在までの福祉政策の歴史について理解する
第9回	日本の福祉制度	広義の社会保障制度と関連制度について理解する
第10回	労働･住宅･教育政策	雇用･住宅･教育政策と社会福祉の関連について理解する
第11回	所得の保障	社会保険、社会手当、公的扶助からなる所得保障について理解する
第12回	健康･医療･介護の保障	介護保険制度や高齢者医療保険制度について理解する
第13回	福祉サービスの保障	社会福祉基礎構造改革以降の実際について理解する
第14回	福祉制度の費用と財政	社会保障･税一体改革大綱以降の実際について理解する
第15回	まとめ	講座を振り返りながら改めて福祉に対する価値観が多様化することについて考え自分なりの福祉感を形成する

【授業の到達目標】

社会福祉･地域福祉に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
今後生じるであろう地域福祉に関する課題に対して自分なりの考え方を示すことができる。

【事前･事後学習】

毎回、受講生に順番に単元ごとの要約とそれを踏まえた自分の意見を発表してもらいますので、その準備をして授業に臨むこと。

【成績評価基準】

社会福祉･地域福祉に関する基礎的な知識を理解し説明できる。
今後生じるであろう地域福祉に関する課題に対して自分なりの考え方を示すことができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	0	40（授業内レポート）

【テキスト】

･坂田周一「社会福祉政策」有斐閣アルマ

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	保育と演劇	4年	前期	2単位	選択	伊藤 数馬

【授業の目的と概要】

この科目は、今まで学んできた表現に関する科目を統合して、創造の世界を展開する講義である。内容は受講生自身の表現力向上のためのエチュードと、子どもが劇遊びを行うための手法の二つに分かれる。前者は声の出し方や動きのスケッチ等が含まれる。後者は各年齢別の脚本の選び方、ストーリーの運び方、身振りの研究、音楽、ことばから曲作りへの導入、大道具や小道具について、実践を交えながら必要な知識を学ばせる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	「保育と演劇」のねらいと講義の概要	演劇の教育的意味や、乳幼児の演劇活動について知る。現在、園等の施設で行われている演劇事情も事例で学ぶ。その上で、本授業の概要を知り、授業に於ける参加の仕方についてのガイダンスを行う。
第2回	劇遊びに必要な条件	劇遊びにはいくつかの種類があること、それぞれの劇遊びに必要な条件は何かを説明する。その上で、劇遊びを演劇作品にまで創作していくプロセスの段階と、それぞれの段階では何を援助することが必要かを学ぶ。
第3回	年齢別の表現能力について	年齢で表現能力が違う。それぞれの年齢ではどのような表現ができ、また、表現を理解できるのかを事例を見ながら知る。各年齢にふさわしい演劇の例を体験して、乳幼児の演劇についてのイメージを作る。
第4回	ストーリーの作り方Ⅰ　年少児の場合	ストーリーをどのように構成していくか、年少児の特性から考える。絵本を使用する場合は、具体的にどのようなものが適しているかも提示する。年少児にふさわしい補助の要因も知る。
第5回	ストーリーの作り方Ⅱ　年中児の場合	ストーリーをどのように構成していくか、年中児の特性から考える。絵本を使用する場合は、具体的にどのようなものが適しているかも提示する。年中児にふさわしい補助の要因も知る。
第6回	ストーリーの作り方Ⅲ　年長児の場合	ストーリーをどのように構成していくか、年長児の特性から考える。絵本を使用する場合は、具体的にどのようなものが適しているかも提示する。年長児にふさわしい補助の要因も知る。
第7回	登場人物の性格つくり	グループに分かれて、実際に行う演劇のタイトルを決定する。その中に登場する役柄を決める。役柄の性格について、役柄に就いた人物に質問する形で、ディスカッションをして、登場人物のイメージを作る。
第8回	せりふやナレーションについて	グループに分かれ、ストーリーを完成させる。その話の筋に従って、自由な言葉でせりふをつないでいく。それを記録してお話を作り、必要なナレーションを入れて、脚本を作り上げる。
第9回	曲作り･バックグラウンドミュージック･効果音	グループごとに、脚本に従って「本読み」を進めると同時に、必要な音楽や効果音を考える。必要な曲を探す、作曲した方がいい場合は曲作り、効果音を実際に用意するなど、音関係を考える。
第10回	衣装･小道具･大道具	「立ち稽古」を行う。その際に必要な衣装作り、小道具･大道具作りを行う。
第11回	声の出し方	各授業のはじめに毎回１０分程度行っていたものを、行う最終回である。脚本に従って自分のせりふを言いながら声の出し方を研究する。せりふを各自言いながらストーリーの展開を楽しむ。
第12回	身振りや動きのスケッチ	想像的対象を使った表現を行いながら表現力を高める。「てんぐのかくれみのエクササイズ」「縄跳びエクササイズ」「目線エクササイズ」「原子世界エクササイズ」など体験する。さらに、自分の役柄の動きを研究する。
第13回	場面の構成法	一場面づつの練習を行い、一通り演じてみる。場面の構成を推敲する。
第14回	劇の発表	各グループで発表をする。
第15回	まとめと講評	演劇に対する講評と全員のディスカッションによるまとめを行う。

【授業の到達目標】

理念:演劇のもつ意味と乳幼児における必要性を知っている。
指導力:演劇を指導鶴手法がわかる。
演技力:演技について意欲と自信がもてる。

【事前・事後学習】

事前学習:多くの絵本を読んだり、音楽を多く聞いておくこと。
事後学習:演劇の公演等を機会があれば鑑賞に行く。

【成績評価基準】

レポート:演劇の内容が子どもにふさわしい表現になっているか。
参加態度:演劇を作っていくプロセスにおいて、どれほど積極的で協力的であったか。
演技力:表現力があったか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	10	50	40	0

【テキスト】

･古市久子、保育表現技術、ミネルヴァ書房

【参考図書】

･必要なときはその都度指示をする。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	教　育　実　習	3年	前期	4単位	選択	今津 孝次郎

【授業の目的と概要】

幼稚園の実習に参加し、保育実践を通して保育全般について学ぶ。保育現場の一日の流れを体験するなかで、園の特徴を知り、何をどのように援助できるかを考えながら、普段の授業で習得した知識を実地に検証することが目的である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第2回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第3回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第4回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第5回	初期はあらゆる観察を中心とする。	全期間を通じて、園長をはじめ指導担当者からの助言に従いながら、実習を進める。
第6回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識･技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第7回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識･技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第8回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識･技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第9回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識･技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第10回	中期には部分実習を体験し、指導計画を実践しながら自分の知識･技能を確かめる。	大学教員の訪問指導の際には、取り組みを報告し、指導を仰ぐように努める。
第11回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、指導担当者の助言も得ながら各自で調べ学習を進める。
第12回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、指導担当者の助言も得ながら各自で調べ学習を進める。
第13回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、指導担当者の助言も得ながら各自で調べ学習を進める。
第14回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、指導担当者の助言も得ながら各自で調べ学習を進める。
第15回	後期には一日実習を研究実習として体験し、実習内容を総合的に検討する。	部分実習そして一日実習の指導計画立案については、指導担当者の助言も得ながら各自で調べ学習を進める。

【授業の到達目標】

実習前に抱いていた課題がどのように達成され、また達成されなかったかについて、実習終了後に振り返って明確にすることができる。さらにその後の新たな課題を積極的に掲げることができる。

【事前･事後学習】

毎日の記録を書きながらそれまでの取り組みを見直し、指導担当者や大学教員からの助言も踏まえながら、翌日の実習に備えて計画を具体的に検討することが大切である。

【成績評価基準】

実習園の評価を基本とし、訪問指導時の評価や各種提出書類に関する評価を総合する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	実習園の評価（８０%）、訪問指導時の評価や各種提出物の評価（２０%）

【テキスト】

･小林育子他『幼稚園･保育所･施設　実習ワーク』萌文書院

【参考図書】

･久富陽子編『幼稚園･保育所実習　指導計画の考え方･立て方』萌文書林
･その他、各自必要に応じて各種の参考書や参考資料に当たる

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	保 育 教 育 実 践 演 習	4年	後期	2単位	選択	今津 孝次郎

【授業の目的と概要】

この授業では、第一に教師としての自己課題の明確化、第二に教師としての実践力の涵養と確認、第三に教職課程における学修の振り返りとまとめを行う。授業の進め方として、6から8名程度の小グループによるグループワークを基本的な形態とする。技術論に矮小化せず、倫理、職務、使命感についての十分な学修を就職後も継続するよう促す。基本的に、担当教員によるファシリテーションを伴うグループワーク→報告とグループ間のディスカッション→担当教員及び協力教員によるコーチング→学生自身による到達度の確認と課題の明確化という形式で実施する。幼稚園の現場との連携しながら現場の教師の指導の下にPDCAサイクルに基づいて進める。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	教育実習の記録と評価を確認し、これまでの学修の振り返りと本授業での課題を明確化する。	これまでの種々の学習記録をポートフォリオとして整理し、学習課題を明確する。
第2回	子どもの理解	子どもの発達過程を振り返り、特にことばの発達について論点を整理する。
第3回	子どもとの関わり	幼稚園の一日のさまざまな場面で、子どもに対する言葉がけをはじめとする関わり方について検討する。
第4回	指導計画の立案	教育方針に沿った指導計画の具体化を環境や時間などに関して検討する。
第5回	保育の記録	これまでの実習経験を踏まえて、記録と実習日誌の意義と方法について再確認する。
第6回	保育の振り返りと評価	実習日誌を振り返りながら、教育課程にそった指導計画とその実践に関する評価をおこなう。
第7回	PDCAサイクルに基づく保育の演習（1）―言葉／人間関係を中心に	幼稚園長を招き、子どもとことばについて園の実践的な話しをうかがって、子どもとの諸関係をめぐって考察する。
第8回	PDCAサイクルに基づく保育の演習（2）―環境／表現を中心に	幼稚園長をゲストに招き、環境構成と指導計画立案について園の実践的な話しをうかがって、指導計画をめぐって考察する。
第9回	PDCAサイクルに基づく保育の演習（3）―健康を中心に／演習のまとめ	幼稚園長をゲストに招き、健康と安全について園の実践的な話しをうかがって、健康と安全をめぐって考察する。
第10回	保護者との関わり	「子育て支援」について最新の知識を習得しながら、保護者と保育者との関わりについて考察する。
第11回	地域や小学校との連携	現代の諸変化のなかで保･幼･小連携がもつ意味と意義を検討し、地域全体での子育て支援の動向について検討する。
第12回	同僚との協働	同僚とのコミュニケーションが保育や教育の質の向上とどれだけ関わっているかを具体的に解明する。
第13回	教師の倫理、職務、使命感	教職専門性と、そのうちでも特に保育者の倫理について学習し、自分の教職態度の形成に生かす。
第14回	専門家としての成長と改善	教職専門性の中核となる「探究心」を持続的に発揮できるような態度はいかにして可能かを検討する。
第15回	自らの教師としての資質･能力について確認し、授業のまとめを行う。	4年間に習得した知識や技術、態度を総合して、教職者としてのスタート地点を固める。

【授業の到達目標】

卒業時において、幼稚園教員としての実践力を身につけ、その職務を理解することを到達目標とする。具体的には、小グループによるグループワークをおこない、知識･技術だけでなく、倫理、職務、使命感を明確に示すことができる。さらに就職後もそれらを継続して発展できるような資質と能力を習得することができる。

【事前･事後学習】

毎回の授業開始時に一つまたは二つの課題を提示して、授業終了直前に小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習をさらに展開する。次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通すことで事前学習を促す。

【成績評価基準】

授業に集中して聴くことができるか。グループワークに積極的に参加してその活動に貢献することができるか。毎回の課題小レポートと期末最終レポートにより教職に関する諸課題について的確に答えることができるか、という点が評価規準である。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	小レポート（30%）、期末最終レポート（40%）	授業への集中的態度とグループワークへの貢献ー質問や意見、感想、プレゼンテーションなどー（30%）	0	0

【テキスト】

･特に指定しない

【参考図書】

･参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて配布する

人間健康学科
ゼミナール

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3901	専　門　演　習　Ⅰ	3年	前期	2単位	必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

総合演習Ⅰ・Ⅱに続く演習である。総合演習で集積した情報や基礎知識をベースに生涯スポーツとしてのニュースポーツに関連する自分の関心ある学習内容をテーマに情報収集やイベントなどの実践活動の場を通して深く追求する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	シラバスをもとに目的と内容、進め方を説明する。
第2回	生涯スポーツとしてのニュースポーツに関連する研究テーマの情報収集（1）	研究テーマに関する情報収集の実際について意見交換及び相談を行う。
第3回	生涯スポーツとしてのニュースポーツに関連する研究テーマの情報収集（2）	図書館にて研究テーマに関する文献等情報収集を行う。
第4回	生涯スポーツとしてのニュースポーツに関連する研究テーマの情報収集（3）	パソコンを活用し研究情報などの検索を行う。
第5回	研究テーマに関する資料の収集（1）	研究テーマに関する情報の収集状況をベースに資料の収集を行う。
第6回	研究テーマに関する資料の収集（2）	情報センターなどを利用し研究テーマに関する資料の集積を図る。
第7回	研究テーマに関する資料の収集（3）	図書館等を利用し先行研究や文献の検索をとおして資料収集を行う。
第8回	情報交換及び研究に関する相談（1）	情報交換しながら研究をすすめるための相談を行う。
第9回	情報交換及び研究に関する相談（2）	情報交換しながら研究をすすめるための相談を行う。
第10回	スポーツイベントなどへの調査と準備（1）	スポーツイベントへの調査研究をすすめるための情報提供と相談を行う。
第11回	スポーツイベントなどへの調査と準備（2）	情報交換しながら調査をすすめるための具体的な作業と相談を行う。
第12回	スポーツイベントへの実践活動及び調査	スポーツイベントに参加し実践活動の中で調査を行う。
第13回	調査資料の整理とまとめ（1）	スポーツイベントで得た調査資料の整理とまとめを行う。
第14回	調査資料の整理とまとめ（2）	スポーツイベントで得た調査資料の整理とまとめを行う。
第15回	まとめ	前期ゼミ活動の総括をする。

【授業の到達目標】

生涯スポーツとしてのニュースポーツの研究をどのように行うのか、その方法を習得することができる。

【事前･事後学習】

事前学習として関連資料、新聞、図書などを読んで準備すること。また、事後の学習は演習で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）演習の授業目的と内容を十分理解できているか。
（2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	60	0	40（プレゼンテーション）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3901	専　門　演　習　Ⅰ	3年	前期	2単位	必修	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

スポーツのプレーを達成するには、多くの要因が複雑に関与する。この絡み合う要因の構造がスポーツ上達のための道筋を示す地図となる。本演習では、この地図の読解、作成について学ぶ。具体的には、学術的な文献（論文･専門書）を読み解き議論を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この演習の目標	この演習で学習する内容の概説、受講する上でのルールを確認する。また、発表担当の決定を行う。
第2回	スポーツトレーニングの構造モデル	スポーツトレーニングの構造モデルを説明する
第3回	文献検索の方法	文献検索の方法を学ぶ。
第4回	トレーニングにおける期分けの発展	トレーニングにおける期分けの発展について担当者によるプレゼンテーションと議論を行う。
第5回	トレーニングの基本的側面の概説	トレーニングの基本的側面について担当者によるプレゼンテーションと議論を行う。
第6回	体力的トレーニングのトレーニング課題	体力的トレーニングのトレーニング課題について担当者によるプレゼンテーションと議論を行う。
第7回	トレーニング手段の分類	トレーニング手段の分類について担当者によるプレゼンテーションと議論を行う。
第8回	トレーニングの負荷	トレーニング負荷に関して担当者によるプレゼンテーションと議論を行う。
第9回	トレーニングの一般原理	トレーニングの一般原理について担当者によるプレゼンテーションと議論を行う。
第10回	コーチング学論文抄読①(スポーツ動作の分析)	課題としたバイオメカニクス的に動作分析を行った論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第11回	コーチング学論文抄読②(スポーツの測定評価)	課題としたスポーツパフォーマンスの測定評価に関する論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第12回	コーチング学論文抄読③（ゲーム分析）	課題としたゲーム分析に関する論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第13回	コーチング学論文抄読④（トレーニング事例）	課題としたトレーニング事例報告に関する論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第14回	コーチング学論文抄読⑤（スポーツ運動学）	課題としたスポーツ運動学的に考察を行った論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第15回	まとめ	前期のまとめを行う

【授業の到達目標】

各スポーツ種目の特徴を捉え、トレーニングで何に取り組むことで上達していけそうかを考え、トレーニングの一例を示すことができる。また、自身のこれまでの競技スポーツへの取り組みを分析し個別に取り組むべき課題を整理できるようになる。

【事前･事後学習】

学術的な文献の読解を行う。また、それらについてレポートおよびディスカッションを求める。その際には、ワードやパワーポイントを用いたプレゼンテーションを求める。

【成績評価基準】

レポート作成、プレゼンテーション、及びディスカッションを聞き手に配慮して行えるか。
ディスカッションに積極的に参加しているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･村木征人:スポーツ･トレーニング理論，ブックハウスHD

【参考図書】

･マトヴェーエフ:スポーツ競技学，ナップ
･ウルリヒ･ゲーナー:スポーツ運動学入門，不昧堂出版
･ヤーン･ケルン:スポーツの戦術入門，大修館書店

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習Ⅰ	3年	前期	2単位	必修	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

プログラムデザインの講義とストレングス＆コンディショニング実習をベースにして、さらに専門的なアプローチ（スポーツ種目別、個人のニーズ別）、トレーニングプログラムの構築及び処方ができるように理解を深め、スキルアップを図ることを目的とする。特に、現場実習を通して、スポーツ種目別及び個人のニーズ別のプログラム構築と処方を実践し、トライ＆エラーを体験しながら学習する。さらに学内の強化指定クラブと連携し、実践的なプログラム構築と処方を学習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習ゼミの運営方針等を説明する。
第2回	フィールドワーク企画	各グループでフィールドワークの企画を行う。
第3回	現場実習１(現場実習タイプの選択と実施計画)	現場実習の説明をし、各自で現場実習タイプの選択とその実施計画を検討する。
第4回	現場実習２（実施計画）	現場実習の実施計画を立案し、発表準備を行う。
第5回	現場実習３（実施計画の発表）	現場実習の実施計画をパワーポイントを用いて発表する。
第6回	4年ゼミの研究テーマ発表会に参加	4年ゼミの卒論研究のテーマ発表会に参加し、次年度の自分の卒論に向けて心構えを持つ（4年生ゼミと合同で実施）。
第7回	部位別の傷害予防トレーニングの研究１（足関節の傷害評価）	足関節の機能解剖と傷害評価を理解し､足関節の傷害予防のポイントを学ぶ。
第8回	部位別の傷害予防トレーニングの研究２（足関節の傷害予防）	足関節の傷害予防ＴＲに関する文献や情報を図書館で資料収集する。
第9回	部位別の傷害予防トレーニングの研究３（足関節の傷害予防プログラム作成）	足関節の傷害予防プログラムの作成に取り組み、レポートを作成する。
第10回	現場実習３（問題点の抽出）	現場実習における問題点を各自で抽出する。
第11回	現場実習４（改善策の検討）	現場実習における問題点に対する改善策を各自で検討する。
第12回	現場実習５（発表）	現場実習の経過報告の発表をする。
第13回	フィールドワーク	各グループで提案されたフィールドワーク案を選択し、ゼミで実施する。
第14回	4年ゼミの研究経過報告会に参加	4年ゼミの研究経過報告会に参加し、卒論の取り組みの過程を学ぶ（4年生ゼミと合同で実施）。
第15回	まとめ	前期の現場実習を振り返り、後期に向けて総括する。

【授業の到達目標】

現場実習を通して、スポーツ種目別及び個人のニーズ別のプログラム構築と処方を実践し、トライ＆エラーを体験しながら学習する。さらに学内の強化指定クラブと連携し、実践的なプログラム構築と処方するスキルを習得することを目標とする。

【事前・事後学習】

現場実習に向けて実習先の確保や調整を事前に行い、スムーズに現場実習が行えるように準備する。現場実習をする上で問題点等が発生した場合は、直ちに改善できるようにゼミ内で情報共有するように努める。

【成績評価基準】

現場実習に対して積極的に取り組むことができるか、テーマ別研究課題に対して、適切な書式や文言を用いて課題レポートを書くことができるか、フィールドワークを協力してできるかどうかを総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	20	0	50（現場実習の内容、取り組み方、経過発表）

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･使用しない

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習 I	3年	前期	2単位	必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

本ゼミでは、現在の教育に関するさまざまな問題を取り上げ、教育の現状や課題を理解することを目的とする。授業では、テーマを決め、必要な情報を収集・整理し、自分の考えをまとめ、発表し、議論していく。そのプロセスをとおして、テーマの決め方、情報収集の方法と整理の仕方、まとめ方、文章の書き方、発表の方法についても学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	シラバスをもとに講義の目的や進め方、受講上の注意を確認する。
第2回	大学の学び	大学での学びについて考える。
第3回	テーマの決め方	研究テーマの決め方を学ぶ。
第4回	情報収集の仕方（図書館の利用を含む）	図書館にて情報収集の仕方を学ぶ。自分のテーマに関する文献を検索する。
第5回	文献の読み方	文献の読み方を学ぶ。
第6回	情報の整理の仕方	情報整理の仕方を学ぶ。
第7回	文献検討（先行研究のまとめ）	レポートの書き方を学ぶ。文献検討のレポートを作成する。
第8回	先行研究のまとめの発表と議論	文献検討の発表と議論をする。
第9回	グループのテーマ選定	グループで研究テーマを決める。
第10回	グループでの情報収集	グループで情報収集を行う。
第11回	グループでの情報の整理	グループで情報の整理を行う。
第12回	グループでのレポート作成	グループで文献検討のレポートを作成する。
第13回	グループでの発表の準備	グループで文献検討の発表（パワーポイント）の準備をする。
第14回	グループ発表と議論	グループごとに発表し、全体で議論する。
第15回	発表での議論を受けて、レポートの修正	発表の議論を受けて、レポートを修正する。

【授業の到達目標】

教育をめぐる環境の変化や問題を知る。
「知的生産技法」の基本を身につける。具体的には、必要な文献を検索し、その文献を読み、まとめ、それを発表できるようにする。

【事前・事後学習】

教育に関するニュースなどに、日頃から注意を向けておくこと。必要に応じて、テーマに関する自分の意見を整理してレポートにまとめておくこと

【成績評価基準】

文献検討や論文のレポートの内容、発表、グループワークへの参加、討論への参加ができているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

・特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

・適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習 I	3年	前期	2単位	必修	小島 正憲

【授業の目的と概要】

本授業の目的は、学生が興味を持ち研究できる題目を見出し、論文を作成するための方法を知ることである。また、スポーツに関わる様々な情報を抽出し、そのテーマや概要についての理解を深める。また、専門領域としてバイオメカニクス（生体力学）およびキネマティクス（運動学）を中心に進めていく。一例として、各種スポーツ動作における外発的·内発的（コツ·カン）に起こる現象を解明することにより、運動の本質的理解を深め、現場の指導に役立つ演習を目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	受講に関する諸注意、授業の進め方、グループ分けをする。
第2回	ディベート·ゲームの説明（グループワーク）	ディベートの説明をする。（題目を決めることから発表に至るまでの方法）
第3回	ディベート·ゲームの題目を決定(グループワーク)	グループごとに、ディベートの題目を決める。
第4回	ディベート· ゲームの内容と資料の作成の導入（グループワーク）	グループごとに、ディベートをするための内容を検討し、資料を作り、提出まで行う。（文献調査·WEB調査）
第5回	ディベート· ゲームの内容と資料の作成の展開（グループワーク）	グループごとに、ディベートをするための内容を検討し、資料を作り、提出まで行う。（文献調査·WEB調査）
第6回	ディベート·ゲームの発表会（グループワーク）	グループごとに分かれて発表し、賛否を得る。(勝敗を決める)(グループワーク)
第7回	ディベートの反省と改善	全体で発表会の反省をし、改善点を考えまとめる。
第8回	小論文の作成（論文とは？）（グループワーク）	小論文の書き方を説明する。（テーマ·序論·目的·方法·結果·考察·結論·今後の課題·参考文献）
第9回	小論文の題目を考える（グループワーク）	小論文のテーマを見出し、決定する。（文献研究のみ）（グループワーク）
第10回	小論文における序論の説明（グループワーク）	小論文の序論を考える。（文献·論文·WEBで調査）（グループワーク）
第11回	小論文における序論の作成（グループワーク）	小論文の序論を作成する。（文献·論文·WEBで調査）（グループワーク）
第12回	小論文における研究目的と方法の作成(グループワーク)	小論文の目的と方法を考え、作成する。（文献·論文·WEBで調査）（グループワーク）
第13回	小論文における結果の作成（グループワーク）	小論文における結果を考え、作成する。（文献·論文·WEBで調査）（グループワーク）
第14回	小論文における考察の作成（グループワーク）	小論文における考察を考え、作成する。（文献·論文·WEBで調査）（グループワーク）
第15回	小論文における結果と考察の作成（グループワーク）	前回授業の小論文における結果と考察を発展させ、まとめる。（文献·論文·WEBで調査）（グループワーク）

【授業の到達目標】

ディベートすることで、テーマを決めることから発表するまでの一連作業を経験し、論文づくりの基礎的な考え方を学ぶ。
グループごとに、ディベートの資料を作成する。
グループごとに、ディベート（発表）をする。

【事前·事後学習】

事前学習として、各自テーマに関連する資料·文献·論文をよく読んでおく。
事後指導として、各授業で学習した内容を整理しておく。

【成績評価基準】

授業の取り組み（参加度·貢献度）·課題提出·発表などを総合的に判断して評価する。具体的な評価基準としては、①ディベートのテーマを適切に選択できていたか、②デイベート活動を積極的に行っていたか、③ディベートの資料を適切に作成し、発表できていたか、④小論文の作成にあたり、積極的に参加できていたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	10%（授業毎の感想文）	50%	20%（発表会）	20%（発表資料）

【テキスト】

·テキストは使用しないので、適宜資料を配布する。

【参考図書】

·必要に応じて、適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習 I	3年	前期	2単位	必修	尚 爾華

【授業の目的と概要】

健康管理の第一歩は健康を支える三本柱といわれる栄養・運動・休養のいわゆる生活習慣の改善にある。専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて「栄養と健康管理」、「運動と健康管理」をテーマに、健康の保持・増進のための正しい知識を学習する。各自でテーマを設定し、輪番で発表する。健康管理上の仕事をしたり、企業や自治体、家庭において健康を守るスペシャリストを目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	前期のガイダンス	このゼミの内容と進み方について説明する。
第2回	情報収集についての勉強会	図書館で健康管理に関連する学術専門誌、図書、信憑性の高い情報サイトについて説明を受け、利用方法などを実践する。
第3回	ダイエットと食事について調べ・発表	ダイエットの概念、方法と効果、成長期と適正体重、美容体重・標準体重について調べて発表する。
第4回	貧血と食事について調べ・発表	貧血の概念、原因、罹患率及び予防方法について調べて発表する。
第5回	糖尿病と食事について調べ・発表	糖尿病の種類、症状と食事療法について調べて発表する。
第6回	アスリートとごはんについて調べ・発表	アスリートのごはん（3種目の選手を例に挙げる）について調べて発表する。
第7回	大学生の食生活について調べ・発表	大学生の食生活の現状及び問題点について調べて発表し、全員で改善策を考える。
第8回	フィールドワークの企画と準備	フィールドワークについて、企画を立てて、必要な備品や材料を確認し、準備作業を開始する。
第9回	サッカーの健康増進効果と注意事項について調べ・発表	自身のサッカー経験から得たもの（けがの予防や食事の工夫など）をまとめて発表する。サッカーの歴史や競技人口、ルールや体への影響を調べて発表する。
第10回	野球の健康増進効果と注意事項について調べ・発表	有名野球選手の体作りの工夫について調べて発表する。野球の歴史や競技人口、ルールや体への影響を調べて発表する。
第11回	テニスの健康増進効果と注意事項について調べ・発表	テニス選手（特に日本人選手）の体作りについて調べて発表する。テニスの歴史や競技人口、ルールや体への影響などを紹介する）
第12回	フットサルの健康増進効果と注意事項について調べ・発表	フットサルとサッカーの違いやルールや体への影響などを調べて発表する。自身のフットサル経験から得たものをまとめて発表する。
第13回	バスケットボールの健康増進効果と注意事項について調べ・発表	バスケットボール選手の体作りについて調べて発表する。バスケットボールの歴史、ルールや体への影響について調べて発表する。
第14回	フィールドワークの実施	グループを分け、フィールドワークを実施する。
第15回	フィールドワークを振り返って、前期のまとめをする。	フィールドワークを振り返って、レポートを作成する。前期のまとめをする。

【授業の到達目標】

積極的に学習し、発表し、レポートの作成ができること。
チームメンバーで協力し、フィールドワークを円滑に進めることができる。

【事前・事後学習】

議論に積極的に参加することを求める。
事前に発表の準備をすること。

【成績評価基準】

栄養学の基礎知識を理解し、栄養と疾病の予防、健康増進について説明することができる。運動からもたらす健康増進の効果（さまざまの運動種目を例に）を説明することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

・使用しない

【参考図書】

・田中 喜代次 「健康づくり・介護予防のための体力測定評価法」 金芳堂
・田口 貞善 「健康・運動の科学 -介護と生活習慣病予防のための運動処方 (KSスポーツ医科学書)」 講談社
・柴田 真志 「健康づくりのための運動の科学 (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ) 」 化学同人

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3901	専　門　演　習　Ⅰ	3年	前期	2単位	必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

「能力の向上」を主なテーマとし、各自の関心の強い事柄について、理論や実践を通じて内容を深く追求していくことをねらいとする。一人ひとりがいくつかのテーマを考え、それぞれのテーマについて情報を収集し、そのうち最も関心のあるテーマに研究を絞り込んでいく。このようなテーマ絞り込みのためのさまざまな情報収集からまとめに向けての方法を修得してほしい。また毎回の授業で、社会人基礎力、基礎学力、専門知識といった能力に関わる学習を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、自己ＰＲ	演習の目標や全体の流れを理解する。自己ＰＲを行い、就職活動に向けて自己表現のポイントを理解する。
第2回	就職活動の準備（試験対策）と就職活動のおおまかな流れ	就職活動（試験対策を含む）は準備が重要である。どのようなことを準備すべきか、また就職活動のおおまかな流れを理解する。
第3回	社会人基礎力	社会人基礎力とはどのような能力なのか調べ、身につけるにはどのようにすればよいか考える。
第4回	能力と適性	どのような能力がどのような仕事に活かせるか調べ、能力と適性の関係性を考える。
第5回	コミュニケーション能力	現代人に求められるコミュニケーション能力とは何か、効果的なコミュニケーションのための技術･方法を調べる。
第6回	プレゼンテーション能力	プレゼンテーション能力を向上させるには、どのようなことが必要であるか調べる。
第7回	性格検査と自己分析(1)	採用試験の適性検査としてよく用いられる性格検査を実施･分析し、自己理解に役立てる。
第8回	性格検査と自己分析(2)	採用試験の適性検査としてよく用いられる性格検査を実施･分析し、自己理解に役立てる。
第9回	学習と動機づけ	意欲を持って学習を続けるにはどのようにすればよいか、指導者の立場･学習者の立場から考える。
第10回	ヒト以外の動物と異なる人間の能力	ヒト以外の動物にはみられない人間らしい能力とは何かを調べ、大脳の前頭前野の重要性を考える。
第11回	ロボットの能力	人間酷似型ロボットが開発されているが、どのような能力があるのか調べ、人間の能力と比較する。
第12回	前頭前野の発達を促す教育と遊び	前頭前野の発達を促す教育や遊びは何かを調べ、その遊びを体験する。
第13回	前頭前野を活性化させる組立て玩具	前頭前野を活性化させることが認められている組立て玩具を体験する。
第14回	情報リテラシー、ＩＴ生活の注意点	情報技術を活用する能力、情報機器をどのようにして正しく使いこなすかを調べる。
第15回	研究テーマの絞り込み	関心のある研究テーマを絞り込む。

【授業の到達目標】

各自の関心の強い事柄について情報収集し、発表することができる。また最も関心のあるテーマに研究を絞り込むことができることを到達目標とする。

【事前･事後学習】

発表の資料作成や発表準備などは、事前学習をしてほしい。

【成績評価基準】

成績は、調べ学習の発表、プレゼンテーションの方法、討論への参加、レポート内容、行事への参加などの積極性を総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
	30	30	0	40（毎回授業時の報告書内容、授業態度）

【テキスト】

･適時資料を配布する。

【参考図書】

･森靖雄『大学生の学習テクニック第3版』大月書店

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3901	専　門　演　習　Ⅰ	3年	前期	2単位	必修	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

スポーツ医学とは、医学（内科学、外科学）をベースにした体育･スポーツ･身体活動に関する学問領域です。これらの知識は、リハビリテーション、健康増進から競技力向上といった様々な状況下での問題解決に役立ちます。その為には、問題の正しい把握＝検査の評価が必要です。そしてその為には正しい測定法を学ばなければなりません。本講義では、これらの知識の習得と関連知識について学びます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	ゼミの進行の仕方の説明･履修状況の確認などを行う。
第2回	レポートの書き方	レポートの書き方について学ぶ。
第3回	内科的メディカルチェック	身体計測と運動負荷時の最大心拍数を測定する。
第4回	文献抄読（テーマの選定）	論文抄読のテーマの選定を行う。
第5回	整形外科的メディカルチェック	柔軟性･弛緩性の評価、アライメントテスト、タイトネステストを行う。
第6回	文献抄読（内容理解）	論文抄読の内容理解を行う。
第7回	血管年齢の測定	血管年齢の測定を行う。
第8回	文献抄読（発表①）	レジュメを用いて論文を発表する
第9回	文献抄読（発表②）	パワーポイントを用いて論文を発表する
第10回	運動と血糖値について	運動と血糖値についての関わりを理解する。
第11回	血糖値の測定	血糖値の測定を空腹時や運動時などで行う。
第12回	運動負荷と乳酸について	運動負荷と乳酸についての関わりを理解する。
第13回	運動時における乳酸の測定	運動時における乳酸の測定を運動強度別に行う。
第14回	唾液によるホルモンの測定	唾液によるホルモンの測定を実施する。
第15回	フィールドワーク	フィールドワークの実施

【授業の到達目標】

〇分野の全体像の理解

スポーツ医学とは、どういう対象をどういう目的で明らかにするときに使用する知識であるのかを理解する

〇スキル形成

医学分野で使われる検査法や評価法の正しい測定の仕方、得られたデータの見方を習得する

【事前･事後学習】

医学用語や、専門分野の単語が多いため、授業･課題に関することについて調べておく。特に人に説明ができるようにしておく。

【成績評価基準】

スポーツ医学に関する文献を読み、理解し、発表できるか（プレゼンテーション）

自身で得られたデータの意味を理解し、正しく評価できるか（レポート）

　上記の２点を基準として、成績評価する。出欠席については評価対象に含めない。

注）提出物の締切や体裁を守れない場合は減点対象になります。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	20	0	40（プレゼンテーション）

【テキスト】

･指定しない

【参考図書】

･適宜紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習 I	3年	前期	2単位	必修	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

1）卒業論文を執筆するための準備として、体力科学・健康科学の分野から興味関心のある具体的なテーマを設定し、研究計画を行う。
2）名東区の健康づくりに関わる活動の計画と運営を通じて、地域の健康づくりを実践する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究デザイン	研究デザインについて説明する。
第2回	研究計画	研究計画について説明する。
第3回	研究テーマ	研究テーマを考える。
第4回	テーマに関わる先行研究の検討	研究テーマについて、これまでどのような研究がされ、どのような研究結果が得られているのか調べる。
第5回	テーマに関わる先行研究の検討結果のプレゼンテーションとディスカッション	テーマに関わる先行研究の検討結果をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第6回	予備実験・調査	予備実験・調査を行ってみる。
第7回	予備実験・調査結果のプレゼンテーションとディスカッション	予備実験・調査結果をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第8回	研究計画書の作成	研究計画書を作成する。
第9回	研究計画のプレゼンテーションとディスカッション	研究計画をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第10回	研究計画書の完成	研究計画書を完成させる。
第11回	地域の健康づくりに関わる活動の企画	地域の健康づくりに関わる活動を企画する。
第12回	地域の健康づくりに関わる活動の計画	地域の健康づくりに関わる活動の計画をする。
第13回	地域の健康づくりに関わる活動の実施	地域の健康づくりに関わる活動を実施する。
第14回	ゼミ内卒業論文発表会への参加	ゼミ内卒業論文発表会へ参加する。
第15回	まとめ	前期の学習と活動を振り返って活動報告書をまとめる。

【授業の到達目標】

体力科学・健康科学を大きなテーマとし、その中で興味関心のある具体的なテーマを設定し、研究計画ができる。

【事前・事後学習】

情報・文献の収集と要約、実験・調査の準備、データ処理、発表準備、研究計画書の完成など時間を要する事柄は、事前・事後学習で行う。

【成績評価基準】

テーマを決定し、しっかりとした研究計画ができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	60%	20%	0%	20%（発表）

【テキスト】

・資料を配布する。

【参考図書】

・授業で紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習 I	3年	前期	2単位	必修	長谷川 望

【授業の目的と概要】

サッカー(スポーツ)の指導者として知っておきたいスポーツ心理学に関する基礎的な知識の理解を深めること。実際に指導を体験することによって選手・指導者としての資質の向上を図ることを目的とする。また、技術、戦術、体力などの視点からもサッカー(スポーツ)を科学するためのテーマを考え、情報を収集し、検討していく。

さらにスポーツイベントの実践、外部のスポーツ団体との連携協力を実践する中で、問題意識を持つように努める。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	概要説明　活動予定　自己紹介	ゼミの概要，活動予定について理解し，自己紹介をする
第2回	PBLとは　活動内容　役割分担	PBLとはなにかについて学ぶ。　ゼミとしてどのようなテーマ，役割分担をするか話しあう。
第3回	アイスブレイキングゲームの指導法	アイスブレイキングゲームの指導法について体験的に学ぶ。
第4回	キッスリーダー講習会へ向けての運営準備 発育発達期の心理的特徴	キッズリーダー講習会の運営準備と予習として発育発達期の心理的特徴について学ぶ
第5回	キッズリーダー講習会開催，運営	キッズリーダー講習会の運営を外部機関とともにおこなう。
第6回	フィールドワーク検討	フィールドワークでどこの施設に何を観に行くかを検討する。
第7回	フィールドワーク	フィールドワークとして実際に外部のスポーツ施設の見学に行く。
第8回	論文の読み方	論文のまとめ方を学ぶ。
第9回	論文検索の仕方，論文検索	PCでの文献検索の仕方を学び，実際に論文を検索する。
第10回	文献考証	論文をまとめ，発表する。
第11回	スポーツイベント打ち合わせ，内容，対象の検討	スポーツイベントの対象，内容を検討する。
第12回	スポーツイベント要項，チラシ，名簿作成	PR用のチラシや要項を作成し，周知する。
第13回	スポーツイベント役割ごと最終確認	担当の役割について，最終確認し，内容を深める。
第14回	スポーツイベント実践練習	学生同士でスポーツイベントのリハーサルを行い，改善する。
第15回	スポーツイベント運営	スポーツイベントの運営を実際に行う。

【授業の到達目標】

サッカー(スポーツ)の指導者として知っておきたいスポーツ心理学に関する基礎的な知識の理解を深めること。実際に指導を体験することによって選手・指導者、サポートする立場としての資質の向上を図ることを目的とする。

【事前・事後学習】

講義時間外や学外での活動もあるが，積極的な姿勢で取り組むこと。

【成績評価基準】

スポーツ選手やチームを科学的な視点で分析することができるか。ゼミ活動をチーム運営として捉え、選手や指導者として考えることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20%	60%	20%	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習Ⅰ	3年	前期	2単位	必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて、各学生が興味を持って研究できるテーマを見出すことを目的とする。　研究テーマの内容は、人間のこころや行動について考える。例えば、・教育現場起こる問題、いじめ、不登校、非行、暴力、発達障害等、・心の病の問題、うつ、自殺等、・社会の問題、ジェンダー、DV等、・自己の問題、自信のなさ、自己尊重感、自己概念等、これらの領域を中心とする。

研究テーマを探す方法としては図書館での本や論文の検索、アンケートの作成、実施、インタビュー等を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス、心理学の論文の書き方	専門演習Ⅰの授業の概要、事前事後学習、受講の注意
第2回	論文ってどんなもの(1)　以降の各回は心理学の短い論文を参考に学習する	1論文とは　2論文の構成　3構成の作り方
第3回	論文ってどんなもの(2)	1表記規則　2引用の書き方
第4回	序論(1)序論の役割	1何について書くのか、なぜそれについて書くのか　2この論文を読むために必要な知識を読む人に渡す
第5回	序論(2)背景説明	1事物の説明　2先行研究の紹介
第6回	序論(3)問題提示	1問題点を指摘する　2疑問を示す
第7回	序論(4)方向付け	1論文の目的を示す　2問題提起で示された問題の解決方法が分かるようにする
第8回	序論(5)全体の予告	序論の最後に論文の各節の概略をあげ、これから何をするかを予告する。
第9回	本論(1)本論の概略	データと意見を使って、論拠を示し、なぜそのような結論になるのかを証明する。
第10回	フィールドワーク	学外での体験的学習
第11回	グループのテーマの選択	1グループで感心のあるテーマを選ぶ　2「何が問題なのか」「なぜ問題なのか」を明確にする。
第12回	事前調査、図書館の活用、インターネットから論文をとる	1図書館で資料の取り方を学習する　2各グループのテーマにそった資料を収集する
第13回	グループでの小論文の作成(1)	グループ内で分担して小論文を作成する。
第14回	グループでの小論文の作成(2)	分担して作成したものをまとめて完成する。
第15回	グループ発表とまとめ	1各グループが発表する　2全体で振り返りを行う

【授業の到達目標】

1論文の書き方や決まりを習得する　2グループで小論文を作成する　3小論文を各グループで発表する

【事前・事後学習】

シラバスには授業ごとの学習テーマが提示されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に示されるので、授業までに予習をしてくること。

【成績評価基準】

1論文の書き方や決まりが習得できたか　2グループでの小論文の完成度　3グループでプレゼンテーションができたか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（毎回の小テスト(振り返り)）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配付する

【参考図書】

・資料は適宜配布する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3901	専門演習 I	3年	前期	2単位	必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

広く社会保障や社会福祉をテーマとして総合的・学際的・横断的なものの見方を身につけ、さらに知的体力のトレーニングを行う。福祉の制度や政策に関心を持ち、かつゼミメンバーとの信頼協力関係を構築しながら学ぶことを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	社会福祉の文献を読む	社会福祉学の基本書の論読から読む力を高める
第2回	社会福祉の文献を理解する	ミス・リーディングを避けて、ほんとうの意味をつかむための読み取り方を学ぶ
第3回	視聴覚教材から学ぶ	社会のなかの弱い人たちや他者の声をしっかりと聞く力を養う
第4回	新聞雑誌から学ぶ	他者の言葉を書きとる方法を学ぶ
第5回	書く力を高める（1）	記録を書く力を高める
第6回	書く力を高める（2）	報告書を書く力を高める
第7回	書く力を高める（3）	論文を書く力を高める
第8回	調べる力を高める（1）	フィールドワーク調査の調べる力を高める
第9回	調べる力を高める（2）	社会調査などの調べる力を高める
第10回	調べる力を高める（3）	文献などの調べる力を高める
第11回	発信する能力を養う（1）	メッセージを発信する能力を養う
第12回	発信する能力を養う（2）	自己の意見を発信する能力を養う
第13回	共有する力を養う（1）	考え方を他者と共有する力を養う
第14回	共有する力を養う（2）	価値観が違う他者と共有する力を養う
第15回	総合力を身につける	福祉の思想・文化・知の総合を学ぶ

【授業の到達目標】

社会福祉をはじめ社会科学の諸領域、思想文化領域の基本文献を広く学んで総合的な視野における判断能力ができること。

【事前・事後学習】

1．自ら課題に積極的に取り組むこと。
2．建設的なディスカッションできること。
3．自分の意見や見解を持ち発表ができること。

【成績評価基準】

レポート等の提出物、ゼミへの参加態度等を勘案して総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	40	0	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・授業時に提示

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH3901	専　　門　　演　　習　　Ⅰ	3年	前期	2単位	必修	村上　恭子

【授業の目的と概要】

エイズという病者を倒叙法によって読み取り，病気の歴史的変遷や病気の特性を理解する。
病者の現状を，フィールドワークをもとに健康のありようを考える。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業の概略	授業の進め方を理解する
第2回	病者の現状から病気の特徴を理解する	病者の現状から病気の正しい理解を得る。
第3回	病者の現状から社会的支援について考える1	病者の現状から社会的支援について考える1　医療機関
第4回	病者の現状から社会的支援について考える2	病者の現状から社会的支援について考える2　社会福祉
第5回	病者の現状から社会的支援について考える3	病者の現状から支援について考える3　　生活や経済面
第6回	社会的支援に関するフィールドワークの調査準備	社会的支援に関するフィールドワークの調査準備について考える
第7回	社会的支援に関するフィールドワークの調査計画	社会的支援に関するフィールドワークの調査計画を建てる
第8回	フィールドワークの役割分担　レポートの書き方	フィールドワークの役割分担を行い
第9回	フィールドワークの実際	エイズキャンペーンにちなんで，フィールドワークに出かける
第10回	フィールドワークの事後のまとめ1	フィールドワークの事後のまとめを作成する1
第11回	フィールドワークの事後のまとめ2	フィールドワークの事後のまとめを作成する2
第12回	自分の分担をレポートにまとめる3	自分の分担をレポートにわかり易くまとめる3
第13回	自分分担をレポートにまとめる4	自分の分担をレポートにわかり易くまとめる4
第14回	分担のまとめを発表する	まとめた内容を聞く人にわかり易く発表する
第15回	まとめと振り返り	まとめと振り返りを行う

【授業の到達目標】

各自のテーマを書籍や論文で調べたうえに，フィールドワークの結果をまとめて発表することができる。

【事前・事後学習】

エイズに関する最新の情報を収集しておく

【成績評価基準】

論拠をもとに，フィールドワークの結果をまとめて発表することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	0

【テキスト】

·適宜指示する

【参考図書】

·なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3902	専　門　演　習　Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰに続く演習である。グループ、個人で絞り込んだ生涯スポーツとしてのニュースポーツに関連するテーマや内容について情報収集やイベントなどの実践活動を通して調査を行い更なるテーマの進化を図る。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	シラバスをもとに目的と内容、進め方を説明する。
第2回	研究テーマに関する調査（1）	屋内におけるニュースポーツイベント実践を通して調査活動等を行う。
第3回	研究テーマに関する調査（2）	屋外におけるニュースポーツイベント実践を通して調査活動等を行う。
第4回	研究テーマに関する調査（3）	野外におけるニュースポーツイベント実践を通して調査活動等を行う。
第5回	研究テーマの決定	各自の研究テーマの決定と具体的な内容について意見交換を行う。
第6回	研究テーマにお基づく相談（1）	研究テーマに基づく資料データ等の整理を行いまとめ方についてのアドバイスを行う。
第7回	研究テーマにお基づく相談（2）	研究テーマに基づく資料データ等の整理を行いまとめ方などについて相談を行う。
第8回	研究テーマにお基づく相談（3）	研究テーマに基づく資料データ等の整理を行いまとめ方などについて詰の相談を行う。
第9回	研究発表についての説明	研究発表のための説明を行う。
第10回	研究発表およびディスカッション（1）	ゼミ内における各自の研究発表及びディスカッションを行う。
第11回	研究発表およびディスカッション（2）	ゼミ内における各自の研究発表及びディスカッションを行う。
第12回	研究発表およびディスカッション（3）	ゼミ内における各自の研究発表及びディスカッションをを行う。
第13回	次年度研究発表への準備	次年度研究発表への準備をすすめるための具体的取り組みについて説明する。
第14回	まとめ	後期ゼミ活動を総括する。
第15回	合同ゼミ発表会	合同ゼミ発表会に参加する。

【授業の到達目標】

生涯スポーツとしてのニュースポーツの研究をどのように行うのか、その方法を習得することができる。

【事前･事後学習】

事前学習として関連資料、新聞、図書などを読んで準備すること。また、事後の学習は演習で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）演習の授業目的と内容を十分理解できているか。
（2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	60	0	40（プレゼンテーション）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3902	専門演習 Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

スポーツのプレーの上達を目指すのに、いい練習を行うことは一つの鍵である。この練習の成否には、練習について深く考えることが大きく影響する。本演習ではこの点について論理的に考えることを学ぶ。具体的には前期と同様、文献を読み解き議論を行うとともに、科学的な方法よって採取したデータを解釈する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この演習の目標	この演習で学習する内容の概説を説明する
第2回	スポーツトレーニングの構造モデル	スポーツトレーニングの構造モデルを説明する
第3回	コーチング学論文抄読①(スポーツ動作の分析)	課題としたバイオメカニクス的に動作分析を行った論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第4回	スポーツ動作の測定	スポーツ動作の測定法を実習する
第5回	コーチング学論文抄読②(スポーツの測定評価)	課題としたスポーツパフォーマンスの測定評価に関する論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第6回	測定データの解析	測定した動作からデータを抽出する
第7回	コーチング学論文抄読③（ゲーム分析）	課題としたゲーム分析に関する論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第8回	測定データの分析	抽出されたデータを分析する
第9回	コーチング学論文抄読④（トレーニング事例）	課題としたトレーニング事例報告に関する論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第10回	測定データの解釈･評価	測定したデータの解釈と評価を行う。
第11回	コーチング学論文抄読⑤（スポーツ運動学）	課題としたスポーツ運動学的に考察を行った論文をトレーニングの構造モデルに即して発表しディスカッションする
第12回	スポーツ動作の測定に関するレポート作成	測定したスポーツ動作に関する報告レポートを作成する
第13回	研究課題のプレゼンテーション	ゼミ論および卒業研究で取り組みたい研究課題についてプレゼンテーションと議論を行う。
第14回	研究課題のプレゼンテーション	ゼミ論および卒業研究で取り組みたい研究課題についてプレゼンテーションと議論を行う。
第15回	学部行事　ゼミナール大会への参加	ゼミナール大会に参加し、研究成果について議論を行う。

【授業の到達目標】

各スポーツ種目の特徴を捉え、何に取り組むことで上達していけそうかを理解する。また、自身のこれまでの競技スポーツへの取り組みを分析し個別に取り組むべき課題を整理できるようになる。

【事前･事後学習】

ゼミ内での発表にふさわしい内容になるよう、準備を進めること。
授業時間外でも、研究室等で、適宜研究指導を受けること。

【成績評価基準】

レポート作成、プレゼンテーション、及びディスカッションを聞き手に配慮して行えるか。
ディスカッションに積極的に参加しているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･マトヴェーエフ『スポーツ競技学』ナップ
･ジェリー･トーマス，ジャック･ネルソン『身体活動科学における研究方法』ナップ
･ウルリヒ･ゲーナー『スポーツ運動学入門』不昧堂出版
･ヤーン･ケルン『スポーツの戦術入門』大修館書店
･石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文･レポートの基本』日本実業出版社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3902	専門演習Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

フィットネステスト＆評価の講義をベースにして、さらに専門的なフィットネステスト及び評価（スポーツ種目別、個人のニーズ別）をし、トレーニングプログラムの再構築及び処方がより適切にできるように理解とスキルアップを図ることを目的とする。特に、学内の強化指定クラブと連携しながら、より緻密なプログラム構築と処方を実践し、さらにデータのフィードバックを通して、プログラムの再構築及び処方のノウハウを学習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス、フィールドワーク企画	専門演習ゼミの運営方針等を説明する。また、各グループでフィールドワークの企画を行う。
第2回	部位別の傷害予防トレーニングの研究１（膝関節･股関節の傷害評価）	膝関節および股関節の機能解剖と傷害評価を理解し、膝関節の傷害予防のポイントを学ぶ。
第3回	部位別の傷害予防トレーニングの研究２（膝関節･股関節の傷害予防）	膝関節および股関節の傷害予防ＴＲに関する文献や情報を図書館で資料収集する。
第4回	部位別の傷害予防トレーニングの研究３（膝関節･股関節の傷害予防プログラム作成）	膝関節および股関節の傷害予防プログラムを作成し、レポートを作成する。
第5回	現場実習の経過報告会（問題点の抽出、改善策の検討など）	現場実習の経過報告会によって、問題点の抽出や改善策の検討などを行う。
第6回	部位別の傷害予防トレーニングの研究４（肩関節の傷害評価）	肩関節および肩甲帯の機能解剖と傷害評価を理解し、肩関節の傷害予防のポイントを学ぶ。
第7回	部位別の傷害予防トレーニングの研究５（肩関節の傷害予防）	肩関節の傷害予防ＴＲに関する文献や情報を図書館で資料収集する。
第8回	部位別の傷害予防トレーニングの研究６（肩関節の傷害予防プログラム作成）	肩関節の傷害予防プログラムを作成し、レポートを作成する
第9回	4年ゼミの卒論発表会の参加	4年ゼミの卒論発表会に参加し、卒論の成果を学ぶ。
第10回	現場実習の発表準備	現場実習の発表準備を各自で行い、パワーポイントのファイルを作成する。
第11回	現場実習の最終発表会	現場実習の最終発表会をパワーポイントを用いて行う。
第12回	卒業研究テーマの選定	4年生の卒論発表や文献などを参考し、卒業研究テーマを各自で選定する。
第13回	卒業研究テーマの提出	卒業研究のテーマを提出する。
第14回	フィールドワーク	各グループで提案されたフィールドワーク案を選択し、ゼミで実施する。
第15回	4年のゼミナール大会への参加、まとめ	後期の現場実習を振り返り、1年間のゼミ活動を総括する。

【授業の到達目標】

現場実習を通して、学内の強化指定クラブと連携しながら、より緻密なプログラム構築と処方を実践し、さらにデータのフィードバックを通して、プログラムの再構築及び処方するスキルを習得することを目標とする。

【事前･事後学習】

現場実習をする上で問題点等が発生した場合は、直ちに改善できるようにゼミ内で情報共有するように努める。

【成績評価基準】

現場実習に対して積極的に取り組むことができるか、テーマ別研究課題に対して、適切な書式や文言を用いて課題レポートを書くことができるか、フィールドワークを協力してできるかどうかを総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	20	0	50（現場実習の内容、取り組み方、最終発表）

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･使用しない

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3902	専　　門　　演　　習　　Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

本ゼミでは、教育制度や学校経営についての基本的な知識や理念を学び、学校がどのような仕組みで動いているのかを理解し、現在の教育制度や学校経営に関する諸問題について考察することを目的とする。授業では、テーマを決め、先行研究を踏まえ、考察した結果をレポートにまとめ、発表する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	シラバスをもとに講義の目的や進め方、受講上の注意を確認する。
第2回	教育制度と教育改革	日本の教育制度と近年の教育改革の課題を理解する。
第3回	学校教育制度	日本の学校制度と近年の学校制度改革の課題を理解する。
第4回	学校と教育行政	日本の教育委員会制度と近年の教育委員会制度改革の目的と特徴を理解する。
第5回	学校組織と経営	日本の学校組織と経営を理解し、近年の学校経営改革の目的と特徴を理解する。
第6回	教職員制度	日本の教職員制度と近年の教職員の勤務をめぐる課題について理解する。
第7回	学校･家庭･地域の連携による教育の実践事例	事例から学校･家庭･地域の連携による学校づくりを考える。
第8回	ゼミ論文のテーマ選定と文献選択	ゼミ論文の執筆に向け、テーマの選定と文献を選択する。
第9回	文献検討のまとめ	文献検討から先行研究の整理を行う。
第10回	文献検討の発表	先行研究を通じて明らかになった点を発表する。
第11回	ゼミ論文の発表と議論	先行研究の検討結果を踏まえて、ゼミ論文を執筆し、報告する。
第12回	ゼミ論文の修正	前回の議論をもとに、論文の内容を修正する。
第13回	ゼミ内卒業論文発表会	４年生の卒業研究発表を聴講し、卒業研究作成に向けたイメージを描く。
第14回	ゼミナール発表会への参加	ゼミナール発表会に参加し、研究成果について学ぶ。
第15回	ゼミ論文の発表、提出	ゼミ論文を完成させ、提出する。

【授業の到達目標】

学校教育を経験的にとらえるだけでなく、教育制度や学校経営の知識や理念から深く理解し、現状の課題を考察できる基礎的力をつけるようにする。また、考察した結果をレポートとしてまとめ、発表できるようにする。

【事前･事後学習】

授業のテーマに沿ってレポートを作成しておくこと。必要に応じて、自分のテーマに関する先行研究や意見、考察を整理しておくこと。

【成績評価基準】

レポート内容、発表、討論への参加ができているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

･テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考図書】

･適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3902	専門演習 Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	小島 正憲

【授業の目的と概要】

前期授業（専門演習Ⅰ）に引き続き、本授業の目的は、学生が興味を持ち研究できるテーマを見出し、論文を作成するための方法を知ることである。また、スポーツに関わる様々な情報を抽出し、そのテーマや概要についての理解を深める。専門領域としては、バイオメカニクス（生体力学）およびキネマティクス（運動学）を中心に進めていく。一例として、各種スポーツ動作における外発的・内発的（コツ・カン）に起こる現象を解明することにより、運動の本質的理解を深め、現場の指導に役立つ演習を目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明をし、終わり次第、前期専門演習Ⅰの続きから始める。
第2回	小論文の結論・今後の課題・引用文献を作成（グループワーク）	小論文の結論・今後の課題・引用文献を考え、作成する。（グループワーク）
第3回	小論文の完成と提出①（グループワーク）	小論文を完成させる。（グループワーク）
第4回	小論文の完成と提出②（グループワーク）	小論文を完成し、提出する。（グループワーク）
第5回	小論文のまとめ	グループごとに、小論文のディスカッションを行い、全体発表する。
第6回	小論文における題目の決定（個人）	小論文の課題を決定する。（個人）
第7回	小論文の序論を作成（個人）	各自、小論文における序論の作成をする。
第8回	小論文の目的・方法を作成（個人）	各自、小論文における目的・方法の作成をする。
第9回	小論文の作成に関わる調査（個人）	各自、小論文に関わるフィールドワーク活動をする。
第10回	小論文の作成に関わる調査資料の作成（個人）	各自、前回フィールドワークに関わる調査資料の作成をする。
第11回	小論文の結果を作成（個人）	各自、小論文における結果の作成をする。
第12回	小論文の考察を作成（個人）	各自、小論文における考察の作成をする。
第13回	小論文における発表会の説明と発表原稿を作成（個人）	発表会の説明と発表原稿の作成をする。
第14回	発表会（個人）	各自、発表を行う。
第15回	まとめ	前回発表の続きと授業のまとめをする。

【授業の到達目標】

小論文を作成することで、題目を決めることから発表するまでの一連の流れを経験し、論文づくりの基礎的な方法を学ぶ。
各自、小論文を作成する。
各自、小論文を発表する。

【事前・事後学習】

事前学習として、各自テーマに関連する資料・文献・論文をよく読んでおく。
事後指導として、各授業で学習した内容を整理しておく。

【成績評価基準】

授業の取り組み（参加度・貢献度）・課題提出・発表などを、総合的に判断して評価する。具体的な評価基準としては、①小論文のテーマを適切に選択できていたか、②小論文に関わる作成活動を積極的に行っていたか、③小論文の資料を適切に作成し、発表できていたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	0%	50%	20%（発表）	30%（小論文）

【テキスト】

・テキストは使用しないので、適宜資料を配布する。

【参考図書】

・必要に応じて、適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3902	専　門　演　習　Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	尚 爾華

【授業の目的と概要】

健康管理の第一歩は健康を支える三本柱といわれる栄養･運動･休養のいわゆる生活習慣の改善にある。専門演習Ⅰに続き、「栄養と健康管理」、「運動と健康管理」をテーマに、健康の保持･増進のための正しい知識を学習する。各自でテーマを設定し、輪番で発表する。健康管理上の仕事をしたり、企業や自治体、家庭において健康を守るスペシャリストを目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	前期のガイダンス	このゼミの内容と進み方について説明する。
第2回	情報収集についての勉強会	図書館で健康管理に関連する学術専門誌、図書、信憑性の高い情報サイトについて説明を受け、利用方法などを実践する。
第3回	拒食症の原因や予防法について調べ･発表	担当学生が発表する１（栄養と健康管理について各自で選んだテーマ）
第4回	青少年の肥満の現状と対策法について調べ･発表	担当学生が発表する２（栄養と健康管理について各自で選んだテーマ）
第5回	大学生の朝食の摂取率と健康への影響について調べ･発表	担当学生が発表する３（栄養と健康管理について各自で選んだテーマ）
第6回	大学生のサプリメントの摂取状況と必要性につてい調べ･発表	担当学生が発表する４（栄養と健康管理について各自で選んだテーマ）
第7回	自分の食生活の振り返り（良い点と改善すべき点を見つけ出す）	担当学生が発表する５（栄養と健康管理について各自で選んだテーマ）
第8回	フィールドワークの企画と準備	フィールドワークについて、企画を立てて、必要な備品や材料を確認し、準備作業を開始する。
第9回	卓球の健康増進効果及び注意事項について調べ･発表	卓球に関する知識を学習し、体育館でチーム分けて、練習試合をする。健康への影響にをレポートする
第10回	ダンスの健康増進効果及び注意事項について調べ･発表	ダンスの知識を学習し、ダンスサークルと合同で、多目的ホールで練習する。健康への影響をレポートする
第11回	ボルダリングの健康増進効果及び注意事項について調べ･発表	ボルダリングの知識を学習し、専用スタジオで体験する。健康への影響をレポートする
第12回	サイクリングの健康増進効果及び注意事項について調べて･発表	サイクリングの知識を学習し、大学周辺で練習する。健康への影響をレポートする
第13回	「ふまねっと」運動の健康増進効果及び注意事項について調べて･発表	「ふまねっと」運動の知識を学習し、名東区福祉会館等で練習すると当時に、福祉会館利用者のふまねっと運動をサポートする。健康への影響をレポートする）
第14回	フィールドワークの実施	グループを分け、フィールドワークを実施する。
第15回	フィールドワークを振り返って、前期のまとめをする。	フィールドワークを振り返って、レポートを作成する。前期のまとめをする。

【授業の到達目標】

積極的に学習し、発表し、レポートの作成ができること。
チームメンバーで協力し、フィールドワークを円滑に進めることができる。

【事前･事後学習】

議論に積極的に参加することを求める。
事前に発表の準備をすること。

【成績評価基準】

栄養学の基礎知識を理解し、栄養と疾病の予防、健康増進について説明することができる。運動からもたらす健康増進の効果（さまざまの運動種目を例に）を説明することができる。
積極的にグループワークに参加することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･日本アンチエイジング歯科学会　健康長寿の栄養学ハンドブック 単行本　株式会社草隆社

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3902	専門演習Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰに続き、グループあるいは個人で決定したテーマにそって、より深い情報収集を行いまとめ、テーマの内容を深めることをねらいとする。必要に応じて、心理学実験や観察、調査研究の実施とデータ処理の方法について指導する予定である。ゼミ生相互間のディスカッションを通じ、多面的な考え方を取り込み、テーマについてよりよい内容にできるようにしたい。また毎回の授業で、社会人基礎力、基礎学力、専門知識といった能力に関わる学習を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究テーマと問題意識を考える	グループあるいは個人で、研究テーマと問題意識を絞り込んでいく。
第2回	研究テーマ決定と問題意識の明確化	問題意識を明確化し、研究テーマを決定する。
第3回	テーマに関わる先行研究の検討	研究テーマについて、これまでどのような研究がされ、どのような研究結果が得られているのか調べる。
第4回	テーマに関わる先行研究のまとめ	研究テーマに関係する先行研究を最新の雑誌などで調べまとめる。
第5回	研究の問題設定	先行研究から問題設定を考える。
第6回	研究計画	研究計画をたてる。
第7回	予備実験·予備調査の実施	予備実験·予備調査を実施する。他のメンバーの実験·調査の参加者にもなる。
第8回	中間発表	中間発表を行い、研究内容を再検討する。
第9回	実験·調査の実施	実験·調査を実施する。他のメンバーの実験·調査の参加者にもなる。
第10回	データ処理	実験·調査から得られたデータの処理をする。
第11回	結果と考察のまとめ	実験·調査から得られたデータの処理をし、結果と考察をまとまる。
第12回	研究発表の準備	研究発表の内容構成、プレゼンテーションの準備をする。
第13回	研究発表	研究成果をゼミ内で発表する。
第14回	まとめとレポート提出	まとめを行い、レポートを提出する。
第15回	ゼミナール発表会への参加	合同ゼミナール発表会に参加する。

【授業の到達目標】

人間と心理· 教育に関する研究、能力の向上に関する研究を基盤とし、その中で興味関心のある具体的なテーマをグループあるいは個人で設定し、レポート作成、研究発表、討論参加ができることを到達目標とする。

【事前·事後学習】

グループあるいは個人が工夫して実施する実験あるいは調査において、例えば研究計画、実験· 調査の準備、データ処理、発表準備など時間を要する事柄は、事前·事後学習を行ってほしい。

【成績評価基準】

データ処理、レポート内容、研究発表、討論参加ができているかを評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	0	40（毎回授業時の報告書内容、授業態度）

【テキスト】

·適時資料を配布する。

【参考図書】

·授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3902	専　門　演　習　Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰに引き続き、測定法と評価について学びます。文献抄読や実際の体育･スポーツ･身体活動の中での疑問や課題を探し、習得した測定法から解決できるかを議論します。専門演習Ⅰより、“人に説明する”といったことを念頭においてこれらの作業を通し、卒業研究テーマの選定をしていきます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	ゼミの進行の仕方の説明･履修状況の確認などを行う。
第2回	文献抄読①（テーマ選定）	文献抄読のテーマの選定を行う。
第3回	文献抄読①（レジュメ作成）	文献抄読のレジュメを作成し、提出する。
第4回	文献抄読①（パワーポイント作成発表）	文献抄読のパワーポイントを作成して発表する。
第5回	筋硬度の測定	筋硬度の測定をする。
第6回	筋硬度についてのレポートの書き方	筋硬度についてのレポートの書き方を学ぶ
第7回	文献抄読②（テーマ選定）	文献抄読のテーマの選定を行う。
第8回	文献抄読②（レジュメ作成）	文献抄読のレジュメを作成し、提出する。
第9回	文献抄読②（パワーポイント作成発表）	文献抄読のパワーポイントを作成して発表する。
第10回	卒業研究テーマの選定	卒業研究のテーマを文献研究などにより選定する。
第11回	文献抄読③（レジュメの作成）	卒業研究のテーマに沿った文献を自身で選んで、レジュメを作成する。
第12回	文献抄読③（パワーポイント作成発表）	卒業研究のテーマに沿った文献をパワーポイントで作成し、発表する。
第13回	研究テーマの具体化	文献抄読などを踏まえて、具体化した計画だし、意見交換する。
第14回	卒業研究テーマの提出	卒業研究テーマの提出する。
第15回	学科の卒論発表会への参加	学科の卒論発表会への参加する。

【授業の到達目標】

〇分野の全体像の理解

スポーツ医学とは、どういう対象をどういう目的で明らかにするときに使用する知識であるのかを理解し、人に説明できる。

〇スキル形成

医学分野で使われる検査法や評価法の正しい測定の仕方、得られたデータの見方を習得し、正しく表現できる。

【事前･事後学習】

医学用語や、専門分野の単語が多いため、授業･課題に関することについて調べておく。特に人に説明ができるようにしておく。

【成績評価基準】

スポーツ医学に関する文献を読み、理解し、発表できるか（プレゼンテーション）

自身で得られたデータの意味を理解し、正しく評価し、正しい文章が書けるか（レポート）

上記の２点を基準として、成績評価する。出欠席については評価対象に含めない。

注）提出物の締切や体裁を守れない場合は減点対象になります。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	20	0	40（プレゼンテーション）

【テキスト】

･指定しない

【参考図書】

･適宜紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3902	専門演習 Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

1）卒業論文を執筆するための準備として、体力科学・健康科学の分野から興味関心のある具体的なテーマを設定し、研究計画を行う。
2）名東区の健康づくりに関わる活動の計画と運営を通じて、地域の健康づくりを実践する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究デザイン	研究デザインについて説明する。
第2回	研究計画	研究計画について説明する。
第3回	研究テーマ	研究テーマを考える。
第4回	テーマに関わる先行研究の検討	研究テーマについて、これまでどのような研究がされ、どのような研究結果が得られているのか調べる。
第5回	テーマに関わる先行研究の検討結果のプレゼンテーションとディスカッション	テーマに関わる先行研究の検討結果をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第6回	予備実験・調査	予備実験・調査を行ってみる。
第7回	予備実験・調査結果のプレゼンテーションとディスカッション	予備実験・調査結果をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第8回	研究計画書の作成	研究計画書を作成する。
第9回	研究計画のプレゼンテーションとディスカッション	研究計画をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第10回	研究計画書の完成	研究計画書を完成させる。
第11回	地域の健康づくりに関わる活動の企画	地域の健康づくりに関わる活動を企画する。
第12回	地域の健康づくりに関わる活動の計画	地域の健康づくりに関わる活動の計画をする。
第13回	地域の健康づくりに関わる活動の実施	地域の健康づくりに関わる活動を実施する。
第14回	ゼミ内卒業論文発表会への参加	ゼミ内卒業論文発表会へ参加する。
第15回	まとめ	前期の学習と活動を振り返って活動報告書をまとめる。

【授業の到達目標】

体力科学・健康科学を大きなテーマとし、その中で興味関心のある具体的なテーマを設定し、研究計画ができる。

【事前・事後学習】

情報・文献の収集と要約、実験・調査の準備、データ処理、発表準備、研究計画書の完成など時間を要する事柄は、事前・事後学習で行う。

【成績評価基準】

テーマを決定し、しっかりとした研究計画ができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	60%	20%	0%	20%（発表）

【テキスト】

・資料を配布する。

【参考図書】

・授業で紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3902	専　門　演　習　Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	長谷川 望

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰにおいて、考えたテーマについてさらなる情報収集やまとめを実施する。また、様々なスポーツ現場に足を運び、サッカー(スポーツ)の指導やイベントの企画運営、試合観戦、戦術の分析、などを行う。必要に応じて調査や測定を実施し、データ処理なども行う。上記の活動を通して、科学的な視点でサッカー(スポーツ)を捉えることを目指し、選手･指導者としての資質を向上することを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	概要説明　活動予定　役割面談　個人面談	後期の活動予定の確認をし、フィールドワークやシンポジウムの担当を決め大枠を決める。就職について等面談を行う。
第2回	文献考証	前期に各自が選んだテーマの論文をまとめ、発表する。
第3回	文献考証	前期に各自が選んだテーマの論文をまとめ、発表する。
第4回	大学祭企画	大学祭で何を行うかのテーマを決定する。また、具体的な内容や、役割分担等を決める。
第5回	大学祭準備	テーマに沿った内容をグループごとに詳細を決定する
第6回	大学祭準備	大学祭当日のシミュレーションを行い、修正をする
第7回	大学祭	大学祭当日の運営を全員で協力して分担して行う。
第8回	スポーツシンポジウム準備	スポーツシンポジウムで必要な準備をする。内容的な予習をして、興味を持ち、質問ができるようにする。
第9回	スポーツシンポジウム	実際にスポーツ現場の方の話を聞き、ディスカッションをする。
第10回	フィールドワーク準備	関連のあるスポーツ現場へ実際に視察、調査に行くための準備をする
第11回	フィールドワーク	実際に現場へ足を運び、実際に観たり、体験したり、質問することで自分の知識となるように努める。
第12回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの方法を先輩の卒論を題材に学ぶ。
第13回	プレゼンテーションの実際	文献考証で使用したまとめを、パワーポイントにまとめ発表する
第14回	卒論発表会(ゼミ内)	4年生の卒論発表を聞き、質問をし、自分が何をテーマにしていくか考える。また、4年生の発表を評価する。
第15回	卒論発表会(学科全体)	4年生の発表を聞き、4年生での最大の目標である卒論に対してモチベーションを高める。

【授業の到達目標】

科学的な視点でサッカー(スポーツ)を捉えることを目指し､選手･指導者､サポートをする立場としての資質を向上することを目的とする。

【事前･事後学習】

講義時間外や学外での活動もあるが、積極的な姿勢で取り組むこと。

【成績評価基準】

スポーツ選手やチームを科学的な視点で分析することができるか。ゼミ活動をチーム運営として捉え、選手や指導者として考えることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20%	60%	20%	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH3902	専門演習Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰの流れを継続する。加えて、専門演習Ⅱでは、各自のテーマを小論文としてまとめる力を養う。自分が関心を持ったことを文章に現していくことで、卒業論文を書く力につなげていく。具体的には、「論文の書き方」「論文作法」をスモールステップで学習し、各自がテーマに選んだものを仕上げていく。また、各自の成果をゼミ内で発表することを通して、プレゼンテーション力を養う。

この時期は就職合宿等があり、就職への関心が高まる時期である。自己アピール等の短い文の書き方も練習する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス、心理学の論文の書き方	専門演習Ⅱの授業の概要、事前事後学習、受講の注意
第2回	卒業論文、ゼミ論文のテーマの選択	各自が書きたい卒業論文、ゼミ論文のテーマを決定する。
第3回	本論の役割　以降の各回は心理学の短い論文を参考に学習する	1文章の組み立てを工夫しわかりやすく論を展開する　2序論の内容と本論が対応しているか
第4回	論拠提示(1)データ提示	1データと意見を書け分ける　2事柄データ、数量データ、文章データ　3データは客観的な表現を使って書く
第5回	論拠提示(2)意見提示	1データが意味することを自分の言葉で言い換える。　2解釈に基づいて自分の意見を述べる。
第6回	結論提示	1序論の問題提起で指摘した問題と結論が対応しているか。　2論拠を受けて理論的に導いた意見を書く。
第7回	論をわかりやすく展開させるための工夫	1これから何をするかを前もって予告する。　2ここまで何をしてきたのかをまとめ、確認する。
第8回	論の展開	1論拠を重ねながら結論に至るデータ積み上げ型。　2結論を論拠によって追認、修正する結論先取り型。
第9回	結び(1)結びの役割	1これまでに述べてきた内容を確認する。　2この論文の成果を足がかりにして、次の段階では何をしたらよいかを示す。
第10回	結び(2)全体のまとめ	1目的や方法の要約　2論拠の要約　3結論の要約
第11回	結び(3)評価	自分の論文を評価し、次の研究に向けての評価をする。
第12回	結び(4)展望展示	1論文に問題点があることを指摘した場合は、将来の研究でどのように解決するかを述べる。　2優れた点がある場合はどのように応用発展させるかに言及する。
第13回	論文の付属要素	1表題　2要旨　3キーワード　4目次　5付記　6注　7参考・引用文献　8付録
第14回	発表	各自が書き上げた小論文を発表する。
第15回	まとめ	専門演習Ⅱのまとめと振り返り。

【授業の到達目標】

1論文の書き方や決まりを習得する。
2各自のテーマで小論文を作成する。
3小論文を発表する。

【事前・事後学習】

シラバスには授業ごとの学習テーマが提示されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に示されるので、授業までに予習をしてくること。

【成績評価基準】

1論文の書き方や決まりが習得できたか。
2小論文の完成度。
3小論文のプレゼンテーションができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（振り返り）

【テキスト】

・必要に応じて資料を配付する

【参考図書】

・授業内で資料を適宜配布する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3902	専　　門　　演　　習　　Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

社会福祉学をテーマとして、学問的･学術的なものの見方を身につけ、さらに知的体力のトレーニングを行う。福祉の思想･文化･知の総合に関心を持ち、かつゼミメンバーとの信頼協力関係を構築しながら学ぶことを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	社会福祉学という学問を理解する	社会福祉学の全体像を学ぶ
第2回	社会福祉と社会保障の領域の違いを理解する	理論と原理から社会福祉の構造を学ぶ
第3回	論読（日本の福祉）	論読（日本の社会福祉をテーマした本を読む）
第4回	論読（欧米の福祉）	論読（欧米の社会福祉をテーマした本を読む）
第5回	ディスカッション	ディスカッション（福祉の問題を議論）
第6回	考えを整理する（1）	（1）価値基準と判断することを学ぶ
第7回	考えを整理する（2）	（2）判断基準とは何かを探求する
第8回	考えを図解すること（1）	（1）社会福祉のイメージ図を学ぶ
第9回	考えを図解すること（2）	（2）社会福祉の検討図を学ぶ
第10回	考えを図解すること（3）	（3）社会福祉の概念図を学ぶ
第11回	グループ･ディスカッション	図解の理解についてのグループ･ディスカッション
第12回	プレゼン	ゼミ生の図解のプレゼン（グループでまとめて発表）
第13回	福祉の思想を考える（1）	（1）ノーマライゼーションという思想
第14回	福祉の歴史･思想を考える（2）	（2）日本の福祉思想
第15回	学問について考えること	科学と学問を整理する

【授業の到達目標】

社会福祉の文献を読みながら、社会福祉をはじめ社会科学の諸領域、思想文化領域の基本文献を広く学んで総合的な視野における判断能力をトレーニングできるようにすること。

【事前･事後学習】

1．自ら課題を見つけ、積極的に取り組む姿勢を持っていること。
2．建設的なディスカッションに向けて努力できること。

【成績評価基準】

レポート等の提出物、演習への参加態度等を勘案して総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･授業時に提示

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3902	専　　門　　演　　習　　Ⅱ	3年	後期	2単位	必修	村上　恭子

【授業の目的と概要】

本授業は，前期の発展バージョンである。
エイズ問題の視野を世界に広げて患者･感染者が増加している国や減少している国の医療体制や福祉対策を調査する。
病者との共生から健康に生きるとは何かを考察して，まとめて発表を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	後期の授業内容の確認	授業内容の確認を行い，課題の調査内容の分担を決定する。
第2回	大学祭について	大学祭への展示の検討　調査方法を理解する。
第3回	資料から病者の動向を知る　1	地域別に病者の動向を発表して，まとめる。
第4回	資料から病者の動向を知る　2	病者の動向を総合的にまとめる。
第5回	資料から病者の医療体制を知る 1	地域別の病者の医療体制を発表してまとめる。
第6回	資料から病者の医療体制を知る　2	病者の医療体制を総合的にまとめる。
第7回	資料から福祉対策を知る 1	地域別の福祉対策の発表を行ってまとめる。
第8回	資料から福祉対策を知る 1	地域別の福祉対策を総合的にまとめる。
第9回	病者との共生に関する資料を検索する 1	病者との共生について，発表を行いまとめる。
第10回	病者との共生に関する資料をまとめる	病者との共生についてを総合的にまとめる。
第11回	健康の概念について考える	多様な健康観について調査した内容を発表する。
第12回	病を抱えても生きていく意味を考える 1	慢性疾患を抱えても「生きる」意味について考察をする。
第13回	各自のまとめを行う	調査内容を聞き手に分かり易く記述する。
第14回	まとめた内容を発表して相互評価を行う	調査内容の発表を聞き，相互評価を行う。次年度の学習内容につなげる。
第15回	卒論発表会への参加	卒論発表会へ参加して，相互に学び合う。

【授業の到達目標】

事前に課題を提示するので，文献調査を確実に行うこと
提出期日を守って，レポートを提出することができる
グループディスカッションへ積極的に参加できる

【事前･事後学習】

エイズに関する資料を幅広く集めておく

【成績評価基準】

アクティブラーニングの観点から，事前の課題を達成することができる
自己の課題をレポートの形式に則り作成することができる

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	７０	３０	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･エイズ研究班の資料
･ 西山敏樹，鈴木亮子，大西幸周著『 データ収集･ 分析入門―社会を効果的に読み解く技法 (アカデミック･ スキルズ) 』慶応大学出版会

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4903	専　門　演　習　Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲに続く演習である。本演習では、今まで進めてきた健康･福祉づくりを背景とした「生涯スポーツとしてのニュースポーツ研究」として関連するテーマのまとめについてプレゼンテーションする具体的な方法を学ばせる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	はじめに	シラバスをもとにゼミにおける研究の目的と内容及び進め方を説明する。
第2回	新聞、雑誌などを中心に研究テーマに関する先行研究及び情報収集(1)	新聞、雑誌などを利用し先行研究や情報収集を行う。
第3回	文献を中心とした研究テーマに関する先行研究及び情報収集（2）	文献などを利用し先行研究や情報収集を行う。
第4回	研究テーマに関連する先行研究及び情報検索	情報センターなどを利用し先行研究や情報収集のための検索作業を行う。
第5回	研究テーマに関する文献調査（1）	図書館を利用し文献･資料の情報収集を行う。
第6回	研究テーマに関する文献調査（2）	先行文献や資料の情報収集を図書館を利用して行う。
第7回	研究テーマに関連する文献及び情報検索	コンピュータを利用し最新の情報検索を行う。
第8回	今後の研究テーマについての情報交換と相談（1）	研究室で情報交換と今後の研究に関する相談を行う。
第9回	情報交換と研究テーマに関する相談（2）	研究室で情報交換と研究テーマに関する相談を行う。
第10回	研究に関する研究方法などの検討と相談	研究室などで情報交換と研究方法に関する検討を行う。
第11回	室外におけるスポーツイベントの実践活動研究	室外スポーツイベントを通しての実践活動研究を行う。
第12回	室内スポーツイベントなどの実践研究及び調査	室内スポーツイベントの実践活動研究およびアンケート調査を行う。
第13回	スポーツイベントの実践活動における調査研究の実際	室内外スポーツイベントの実践活動を通して有効な研究方法を検討する。
第14回	研究テーマに関する資料･データ整理など	研究テーマに関する資料･データの整理などを行う。
第15回	研究テーマに関する資料整理とまとめ	資料整理と前期ゼミ活動の総括をする。

【授業の到達目標】

生涯スポーツとしてのニュースポーツの研究をどのように行うのか、その方法を習得することができる。

【事前･事後学習】

事前学習として関連資料、新聞、図書などを読んで準備すること。また、事後の学習は演習で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）演習の授業目的と内容を十分理解できているか。
（2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	60	0	40（プレゼンテーション）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱに引き続き、卒業論文・ゼミ論文の作成に取り組む。各自のペースで取り組むこととなるが、夏休み中に中間報告を行えるペース配分で進めていく。授業では経過報告を行うとともに、論文作成に必要となる技能習得を目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	本講義を受講する上でのルールを確認する。
第2回	研究計画（現在の進捗状況）の報告（1）	ゼミ論および卒業研究に向けた研究計画を発表する。
第3回	研究計画（現在の進捗状況）の報告（2）	ゼミ論および卒業研究に向けた研究計画を発表する。
第4回	レポート・ゼミ論の意義と留意点	なぜレポートやゼミ論を書くのかおよび、レポート作成時の留意点について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第5回	研究と学問における倫理的問題	研究を行う際に留意すべき倫理的な問題について概説する
第6回	統計概念の理解	関係や差を表現する方法について理解する
第7回	変数間の関係および差の分析の基礎	関係や差を分析する
第8回	結果の説明の仕方および図表の提示の仕方	研究の結果の示し方について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第9回	考察の進め方	考察の進め方について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第10回	引用の仕方	引用の仕方について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第11回	序論の書き方	序論の書き方について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第12回	進捗状況の報告会（1）	ゼミ論および卒業研究の進捗状況を報告する
第13回	進捗状況の報告会（2）	ゼミ論および卒業研究の進捗状況を報告する
第14回	実験レポートの報告会	前年度に行った実験レポートの報告について、ここまでの学習に沿ってプレゼンテーションを行う
第15回	報告会の振り返り	ゼミ論および卒業研究の進捗状況および実験レポートの報告を振り返り、夏休み中の課題を明確にする

【授業の到達目標】

ゼミ論および卒業研究の全体像を把握する。論文執筆に取り組むための技法を習得する。ゼミ論及び卒業研究を進める。

【事前・事後学習】

指定された回までにゼミ内での発表にふさわしい分量と内容のレポートを作成してくること。
授業時間外でも、研究室を訪問する等して、適宜指導を受けること。

【成績評価基準】

ゼミ内での発表にふさわしい内容のレポートが作成できているか。
設定した課題にしっかりと取り組み、後期までにゼミ論の結論を導き出すための道筋を説明し実行する計画を立てているかどうか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

・酒井聡樹：これからレポート・卒論を書く若者のために，共立出版

【参考図書】

・田中喜代次・西嶋尚彦監訳：身体活動科学における研究方法，ナップ

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

基礎アスレティックトレーニングの講義とアスレティックトレーニング実習をベースにして、スポーツ傷害の評価、傷害に対する処置法と予防法、治療、アスレティックリハビリテーションといった専門知識の理解及びスキルアップを図ることを目的とする。特に、学内の強化指定クラブと連携しながら、スポーツ傷害予防のプログラム及びパフォーマンス向上のプログラムの構築と処方を実践する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習ゼミの運営方針等を説明する。
第2回	フィールドワーク企画	各グループでフィールドワークの企画を行う。
第3回	卒論研究テーマの検討1（図書館で資料収集）	図書館で文献検索を通して、卒論研究テーマを検討する。
第4回	卒論研究テーマの検討2（インターネットで資料収集）	インターネット検索を通して、卒論研究テーマを検討する。
第5回	卒論研究テーマ発表会準備	卒論研究テーマ発表会に向けて、パワーポイントによる資料作成および発表準備を行う。
第6回	卒論研究テーマ発表会	卒論研究テーマ発表会をパワーポイントを用いて行う（3年生ゼミと合同で実施）。
第7回	フィールドワーク	各グループで提案されたフィールドワーク案を選択し、ゼミで実施する。
第8回	卒論の項目立ての検討	学術文献や卒業生の卒論を参考にして、卒論の項目立てを検討する。
第9回	卒論の構成の検討	卒論項目立ての構成を完成させ、提出する。
第10回	文献や資料の要約1	卒論に関わる文献や学術論文の要約をして提出する。
第11回	文献や資料の要約2	卒論に関わる資料やインターネットからの情報等の要約をして提出する。
第12回	卒論研究経過確認	卒論の進捗状況を確認し、今後の方向性を検討する。
第13回	卒論研究経過発表会の準備	卒論研究経過発表会に向けて、パワーポイントによる資料作成および発表準備を行う。
第14回	卒論研究経過発表会	卒論研究経過発表会をパワーポイントを用いて行う（3年生ゼミと合同で実施）。
第15回	まとめ	前期の卒論研究の取り組みを総括する。

【授業の到達目標】

現場実習を通して、学内の強化指定クラブと連携しながら、スポーツ傷害予防のプログラム及びパフォーマンス向上のプログラムの構築と処方するスキルを習得することを目標とする。

【事前・事後学習】

各自の卒論研究テーマに沿った文献や資料検索がスムーズにできるように事前に準備をしておく。また、収集した文献や資料を要約し、卒論執筆に活用できる記述や内容をチェックしておく。

【成績評価基準】

卒業研究に対して積極的に取り組むことができるか、適切な書式や文言を用いて課題レポートを書くことができるか、フィールドワークを協力してできるかどうかを総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	20	0	50（卒論テーマ発表会および経過発表会の内容）

【テキスト】

·使用しない

【参考図書】

·使用しない

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅲは、卒業論文執筆に向けて各自が設定したテーマに基づいて、研究計画を立て、研究を進める。論文の構成を明確にし、文献調査やフィールド調査の計画を立て、調査を実施する。また、論文執筆も進めていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	シラバスをもとに進め方や受講上の注意を確認する。
第2回	研究計画の立て方	研究計画の立て方を学ぶ。
第3回	研究計画の発表（1）	卒業論文の研究計画を発表する。
第4回	研究計画の発表（2）	卒業論文の研究計画を発表する。
第5回	調査の実施	調査を実施する。
第6回	調査結果の報告	調査結果を発表し、研究課題を明確化する。
第7回	研究課題の決定（1）	調査の成果に基づいて、研究課題を文章化する。
第8回	研究課題の決定（2）	調査の成果に基づいて、研究課題を文章化する。
第9回	卒業論文（序章）の執筆と発表（1）	序章を執筆し、発表する。
第10回	卒業論文（序章）の執筆と発表（2）	序章を執筆し、発表する。
第11回	卒業論文（序章）の修正	発表時の議論を基に、序章を修正する。
第12回	卒業論文（序章）の提出（1）	修正した序章を文章化し、発表する。
第13回	卒業論文（序章）の提出（2）	修正した序章を文章化し、発表する。
第14回	中間報告会の実施	中間報告会で研究の進捗を報告する。
第15回	中間報告会の振り返り	報告会での議論を振り返り、夏季休暇中の課題を明確化する。

【授業の到達目標】

卒業論文の全体像を明確にし、論文執筆に取り組む。
各回の課題をまとめ、発表することができる。

【事前・事後学習】

ゼミでの発表は、研究にふさわしい内容・分量となるよう事前準備をしておく。

【成績評価基準】

発表のレポートは、ふさわしい分量と内容になっているか。研究にしっかりと取り組んでいるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	100	0	0

【テキスト】

・特に指定しない。

【参考図書】

・適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	澤田 節子

【授業の目的と概要】

研究課題を明確にするために文献検索･文献活用について学習します。
文献学習をとおして知ること、考えることが大切です。自分の興味･関心のある課題に沿った文献を収集し、他の受講生との意見交換をもつことによりコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高められるよう学習します。
ここでは文献の読み込みと整理を行い、文献活用ができるようになることを目的とします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習Ⅲでの学び方、演習の進め方を学ぶ。
第2回	問題の明確化（研究テーマについて）	問題の明確化、研究テーマの選定、テーマに関する最近の動向について学ぶ。
第3回	文献調査	文献調査の必要性、文献収集の仕方、文献レビューについて学ぶ。
第4回	文献検索、フィールドワークの準備	文献検索、フィールドワークの企画をする。
第5回	文献検索（絞り込み）の実際	収集した文献の内容を要約し、ノートに記述またはファイルに保存する。
第6回	収集した文献の発表	参考文献の一覧表を作成、発表する。
第7回	文献の読み込み	あらかじめ決めた課題にそって、雑誌･新聞記事、図書などを入手し、読み込む。
第8回	フィールドワーク	保健医療分野で、スポーツ･健康科学分野に関連した施設見学を行う。
第9回	文献の読み込みと発表１	新聞の『社説もしくは健康（病気）に関する切り抜き記事』記事の要約をして発表する。
第10回	文献の読み込みと発表２	新聞の『社説もしくは食事（栄養）に関する記事を切り抜き』記事の要約をして発表する。
第11回	文献の読み込みと発表３	新聞の『社説もしくはスポーツに関する記事を切り抜き』記事の要約をして発表する。
第12回	研究計画とは	研究計画とは、研究計画の書き方、データ収集の方法、研究の趣旨書について学ぶ。
第13回	研究計画書の作成１	研究の目的と概要、先行研究、用語の定義、研究方法、分析方法などを検討する。
第14回	研究計画書の作成２	研究の目的と概要、先行研究、用語の定義、研究方法、分析方法などを記述する。
第15回	まとめ	前期の論文･卒業研究の取り組みを総括する。

【授業の到達目標】

①保健医療福祉分野で自分の興味･関心のある課題を選び、資料を収集することができる。
②収集した文献の要約、研究計画の概要を作成し、適宜発表することができる。

【事前・事後学習】

専門演習を活用し、自主的･主体的な事前･事後の自己学習を勧めます。
①事前は、雑誌、新聞などの記事を要約し、レポートを記述する。
②事後は、自分の研究課題に沿って、文献を整理する。

【成績評価基準】

①参考文献等の要約リストを作成し、発表することができているか。
②レポートは指定された形式に基づき、研究にふさわしい内容･分量で執筆できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50%	30%	0	20%（発表）

【テキスト】

･適宜、文献を紹介します。

【参考図書】

･適宜、文献を紹介します。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4903	専　　門　　演　　習　　Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	尚 爾華

【授業の目的と概要】

健康管理の第一歩は健康を支える三本柱といわれる栄養･運動･休養のいわゆる生活習慣の改善にあります。
専門演習Ⅲを通じて「栄養と健康管理」､「運動と健康管理」をテーマに、健康の保持･ 増進のための正しい知識、未然に病気を防ぐ環境作り･肉体作り･生活作りのプランニングについて学習する。
実践としては、各グループに自由に一人の対象者を選び、その人に合ったプランニングを作成し、半年間のサポートをする。健康管理上の仕事をしたり、企業や自治体、家庭において健康を守るスペシャリストを目指します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	後期のガイダンス	後期のゼミ活動の内容、ゼミの進め方について確認する。
第2回	環境づくり･肉体づくり･生活づくりのプランニングとは	資料に基づき、環境づくり･ 肉体づくり･ 生活づくりのプランニングの概念と手法について学習する
第3回	サポート対象者（健康づくりプログラム参加者）を決める	グループを結成し、健康管理の対象者を選定し、インフォームド･コンセントを行う。
第4回	サポート対象者の基本情報を調査する	対象者の健康状態のチェック、体力測定、基本のデータを集計する。
第5回	健康づくりプランを作成する	対象者にあったプランを作成する。無理のない計画を立てる。
第6回	初回説明やサポート対象者の体力測定	健康づくりプランについて説明し､メディカルチェック及び体力測定を行う。生活習慣アンケートによる基本情報を調査する。
第7回	サポート対象者の実施状況チェックと助言	サポート対象者の実施状況を細かく聞き取り調査をし、問題点を指摘し、改善方法を提案する。
第8回	実施状況に合わせて健康づくりプランの修正	健康づくりプランを見直し、サポート対象者の状況に合わせて修正する。
第9回	実施状況のチェックと中間体力測定	中間測定（メディカルチェック、体力測定）を行う。サポート対象者の実施状況を細かく聞き取り調査をする。
第10回	各グループの中間報告会	サポートの推進状況を報告するための中間報告会を開催する。各グループがプランの実施状況を報告し、ほかのグループから質問とアドバイスを受ける。
第11回	健康づくりプランの修正と対象者とミニミーティング	ミニミーティングを開催し、サポート対象者の意見を聞き取り、健康づくりプランを必要に応じて修正する。
第12回	サポート対象者の実施状況チェック	サポート対象者の実施状況をチェックし、長期継続できるようアドバイスをする。
第13回	フィールドワーク（スポーツ･ 健康増進施設見学）	スポーツ･健康増進施設へ訪問し、現場で働くスタッフから健康づくりのサポートに関するお話しを聞く。
第14回	サポート対象者の体力測定、結果説明	サポート対象者の最終チェックをし､メディカルチェックと体力測定をする。サポートを終了にあたり、次に目指す目標を提示し、今後の健康づくりにアドバイスをする
第15回	最終報告会、全体を振りかえって	各グループより実施結果を報告する｡全体を振りかえる｡レポートをまとめる。

【授業の到達目標】

実践を通じて、将来には健康管理上の仕事をしたり、企業や自治体、家庭において健康を守るスペシャリストになったりするための基礎知識を身につける。 サポート対象者へ健康づくりに関して適切なサポートができる。

【事前･事後学習】

専門知識のほか、対象者とのコミュニケーション能力を求められる。

【成績評価基準】

健康の保持･増進のための正しい知識を理解し、個人向けに未然に病気を防ぐための健康づくりプランを作成することができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	50	0

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･日本アンチエイジング歯科学会 「健康長寿の栄養学ハンドブック 単」 株式会社草隆社
･新しい食生活を考える会 「食品解説つき 新ビジュアル食品成分表―「日本食品標準成分表2010」準拠」 大修館書店

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

ゼミの主な研究テーマは、人間と心理・教育に関する研究、能力の向上に関する研究とする。専門演習Ⅰ・Ⅱに続き、人間理解を助けるさまざまな研究領域の中から興味関心のある研究テーマを決定する。そのテーマについて詳細を調べ問題意識を深める。必要に応じた実験・調査、データ処理を行いまとめることを目的とする。各自で、関心のあるテーマを決定、問題意識の明確化、実験・調査などを行い、データ処理を行う過程で、適宜中間的な研究成果をゼミ内で報告し、ゼミ学生間で意見交換をする。それらを通じて、観察法、質問紙法、調査法、データ処理と統計など、技術的な力も身につける。各自の関心や特徴を活かした研究を行っていく。また毎回の授業で、社会人基礎力、基礎学力、専門知識といった能力に関わる学習を行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習Ⅲの進め方、受講上の注意点を説明する。
第2回	研究テーマと問題意識を考える	学生時代の集大成となるレポートの研究テーマと問題意識を絞り込んでいく。
第3回	文献検索	図書館で文献検索を行う。
第4回	研究テーマ決定と問題意識の明確化	問題意識を明確化し、研究テーマを決定する。
第5回	テーマに関わる先行研究のまとめ	研究テーマに関係する先行研究を最新の雑誌などで調べまとめる。
第6回	収集した文献の発表	収集した文献を発表する。
第7回	問題設定と構成	研究テーマに関係する先行研究から問題設定と構成を考える。
第8回	研究計画	実験あるいは調査の研究計画をたてる。
第9回	予備実験・予備調査の実施	予備実験あるいは予備調査を実施し、研究計画をチェックする。
第10回	実験・調査の実施	実験・調査を実施する。他のメンバーの実験・調査の参加者にもなる。
第11回	データ処理	実験・調査から得られたデータを処理する。
第12回	結果と考察のまとめ	実験・調査から得られたデータを処理し、結果と考察をまとめる。
第13回	研究発表の準備	中間的な研究成果をゼミ内で報告するための準備をする。
第14回	研究発表	中間的な研究成果をゼミ内で報告する。
第15回	まとめ	まとめを行い、レポートを提出する。

【授業の到達目標】

人間と心理・教育に関する研究、能力の向上に関する研究を基盤とし、その中で興味関心のある具体的なテーマを各自設定し、レポート作成、研究発表、討論参加ができることを到達目標とする。

【事前・事後学習】

各自が工夫して実施する実験あるいは調査において、例えば研究計画、実験・調査の準備、データ処理、発表準備など時間を要する事柄は、事前・事後学習を行ってほしい。

【成績評価基準】

データ処理、レポート内容、研究発表、討論参加が学生時代の集大成にふさわしくできているかを評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	0	40（毎回授業時の報告書内容、授業態度）

【テキスト】

・適時資料を配布する。

【参考図書】

・授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

本授業は、専門演習Ⅰ、Ⅱおよび関連科目で学んだ内容を踏まえ、卒業論文もしくはゼミ論文のための研究を進めていく。そのことによって、論理的な考え方や企画･運営の方法などを学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	1年間の計画を立てる。運営方針等の説明を行う。
第2回	研究計画の発表①	卒業研究に向けた研究計画の発表を行う。
第3回	研究計画の発表②	卒業研究に向けた研究計画の発表を行う。
第4回	文献発表①	卒業研究で核となる論文を読み、発表を行う。
第5回	文献発表②	卒業研究で核となる論文を読み、発表を行う。
第6回	研究課題の決定･立案	研究課題の決定と立案を文書にて作成し、提出する。
第7回	進捗状況の発表	各演習生の卒業研究の進捗状況について発表する。
第8回	データの処理の方法①	データの処理の方法を説明する①
第9回	データの処理の方法②	データの処理の方法を説明する②
第10回	卒業論文（方法）の執筆①	卒業論文の執筆を行う（方法部分）
第11回	卒業論文（方法）の執筆②	卒業論文の執筆を行い、提出する。
第12回	文献発表③	卒業研究で核となる論文を読み、発表を行う。
第13回	文献発表④	卒業研究で核となる論文を読み、発表を行う。
第14回	進捗状況発表会の準備	進捗状況発表会の準備を行う。
第15回	進捗状況の発表会	進捗状況の発表会

【授業の到達目標】

卒業論文もしくはゼミ論文の研究計画の立案及び、実行、データを収集しておくことを到達度目標とする。

【事前･事後学習】

卒業論文、ゼミ論文の作成にあたり必要だと思われること、課題提出などは積極的に事前事後学習を行うこと。

【成績評価基準】

卒業研究に関する文献を読み、理解し、発表できるか（プレゼンテーション）
自身で得られたデータの意味を理解し、正しく評価し、正しい文章が書けるか（レポート）
各提出物が提出要項（提出期限･体裁）に則って作成することができるか
　上記の3点を基準として、成績評価する。出欠席については評価対象に含めない。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	80	20	0	0

【テキスト】

･適宜紹介する

【参考図書】

･これからレポート･卒論を書く若者のために　酒井 聡樹 著　共立出版

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4903	専　門　演　習　Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

1）体力･健康科学の分野から興味関心のある具体的なテーマを設定し,卒業論文を執筆する。
2）名東区の健康づくりに関わる活動の計画と運営を通じて、地域の健康づくりを実践する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	仮研究テーマの決定	仮の研究テーマを決定する。
第2回	仮研究計画の立案	仮の研究計画にを立てる。
第3回	仮研究テーマ及び計画のプレゼンテーションの準備	仮の研究テーマと計画をプレゼンするための準備をする。
第4回	仮研究テーマ及び計画のプレゼンテーション	仮の研究テーマに関わる先行研究の検討結果をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第5回	仮研究テーマ及び計画のプレゼンテーション	仮の研究テーマに関わる先行研究の検討結果をプレゼンテーションしたうえで、とディスカッションする。
第6回	卒業研究関連資料の収集	これまでどのような研究がされ、どのような研究結果が得られているのか調べる。
第7回	卒業研究テーマの検討	先行研究を踏まえたうえで、研究目的や仮説を立てる。
第8回	卒業研究の計画	卒業研究の計画を考える。
第9回	卒業研究の調査･実験	卒業研究のための調査や実験を行う。
第10回	卒業研究の執筆	卒業研究を執筆する。
第11回	地域の健康づくりに関わる活動の企画	地域の健康づくりに関わる活動を企画する。
第12回	地域の健康づくりに関わる活動の計画	地域の健康づくりに関わる活動を計画する。
第13回	地域の健康づくりに関わる活動の実施	地域の健康づくりに関わる活動を実施する。
第14回	卒業研究の中間発表	卒業研究の進捗状況を報告する。
第15回	まとめ	前期の学習と活動を振り返って活動報告書をまとめる。

【授業の到達目標】

①健康･体力科学分野において興味･関心のある課題を選び、資料を収集することができる。
②収集した文献の要約、研究計画の概要を作成し、発表することができる。

【事前･事後学習】

専門演習を活用し、自主的･主体的な事前･事後の自己学習を勧めます。
①事前は文献を要約し、レポートを記述する。
②事後は、自分の研究課題に沿って、文献を整理する。

【成績評価基準】

①参考文献等の要約リストを作成し、発表することができているか。
②レポートは指定された形式に基づき、研究にふさわしい内容･分量で執筆できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	60%	20%	0%	20%（発表）

【テキスト】

･資料を配布する

【参考図書】

･授業で紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱで発展させてきた興味を一つに絞り、卒業論文･ゼミ論文のテーマを決定する。そして、各々のテーマに沿ったフィールドワークや調査、実験などを行う。同時に先行研究の論文等を収集し、そこに無い自分らしい一つの視点を見つける。

専門演習Ⅲでは卒業論文･ゼミ論文の作成だけでなくそれぞれのプロセスについて討議を行うことで、受講生が相互に学習することができる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習Ⅲの概要、事前事後学習、受講の注意等。
第2回	卒業論文･ゼミ論文のテーマの決定（1）	論文になりそうな各自の興味関心を絞り込む。
第3回	卒業論文･ゼミ論文のテーマの決定（2）グループ討議	各自のテーマについてグループ内で討議を行う。
第4回	仮アウトラインの作成（1）	各自のテーマで仮アウトラインを作成する
第5回	仮アウトラインの作成（2）グループ討議	各自の仮アウトラインをグループ内で発表し、討議を行う。
第6回	問題の焦点化（1）何が問題か	日常生活や調査の中で疑問の湧く点を見つける。
第7回	問題の焦点化（2）先行研究の批判	先行研究を調べ、批判すべき問題点を見つける。
第8回	問題の焦点化（3）グループ討議	各自の「焦点化された問題点」をグループ内で発表し、討議を行う。
第9回	背景の説明（1）事物の説明	テーマの背景を説明できる論文･資料を収集する。
第10回	背景の説明（2）「焦点化された問題点」の説明	「焦点化された問題点」を説明できる先行研究を探す。
第11回	背景の説明（3）グループ討議	「焦点化された問題点」の背景がうまく説明できているかどうかグループで討議を行う。
第12回	論文の目的を明らかにする（1）明らかにしようとしていることは何か	過去に明らかになっていないどの部分を明らかにしようとしているのか。
第13回	論文の目的を明らかにする（2）問題の解決方法を示す	「焦点化された問題」をどのようにして解決しようとしているか。
第14回	論文の目的を明らかにする（3）グループ討議	論文の目的をグループ内で発表し、討議を行う。
第15回	まとめ	総合演習Ⅲのまとめと振り返り

【授業の到達目標】

1書きたいテーマを見つけ、問題を焦点化する。
2本･論文等の先行研究を見つける。
3各段階での成果をグループで発表できる。

【事前･事後学習】

シラバスには授業ごとの学習テーマが提示されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に示されるので、授業までに予習をしてくること。

各段階ごとに提出期限が明示されている。遅れないように作成すること。

【成績評価基準】

1書きたいテーマを見つけ、問題が焦点化できたか。
2本･論文等の先行研究が探せたか。
3各段階の成果をグループで発表できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（振り返り）

【テキスト】

･テキストは使用しない。

【参考図書】

･参考文献は授業内で配布する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4903	専　　門　　演　　習　　Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

研究を行う上での基礎的なスキルを習得するとともに、文献レビューや福祉現場への見学訪問を通じて、問題への感受性を養う。具体的には、全員で共通テーマに関する先行研究を読み、文献レビューの方法を修得するとともに、実際に現場で起きている問題について自分なりの意見や視点を整理し、ゼミ生間で討論し、福祉の諸問題に対する自らの問題意識を深めていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	社会福祉に関する問題関心の明確化	問題関心の核心について自己内在化し、確認する
第3回	研究対象の明確化	問題関心から対象を絞り、確認する
第4回	卒論の研究方法の基本	さまざまな研究方法について学ぶ
第5回	文献検索の技法	文献検索の方法について学ぶ
第6回	フィールド調査の技法	文献研究や調査方法の手法を選ぶ
第7回	調査研究の心得と倫理	論文を書くにあたっての倫理について学ぶ
第8回	文献による基礎学習の報告（1）	文献の一覧表を作成する
第9回	文献による基礎学習の報告（2）	文献一覧表の真偽を確認する
第10回	フイールド調査の基礎学習（1）	フイールド調査の方法を決める
第11回	フイールド調査の基礎学習（2）	フイールド調査の方法の問題点を確認する
第12回	文献･調査研究のまとめ（1）	文献･調査研究の構想する
第13回	文献･調査研究のまとめ（2）	文献･調査研究の全体像を示す
第14回	プレゼンテーションの技法	発表会に向けて全体像を構想する
第15回	研究成果の発表	ゼミ生全員がまとめとして発表する

【授業の到達目標】

リーディング･スキル:原著論文の読み方、先行研究の検索･収集の方法、レジュメ作成と文献要約メモの作成方法等を習得する。ライティング･スキル: 論文の文章構成と表現方法、論理的な構成によるレポートの書き方、先行研究の引用･参照の方法、剽窃をしないための注意事項等を理解する。問題発見スキル: 実習や施設見学等を通して、現場での課題を自分の目で確認するとともに、先行研究やゼミ生同士の討論を通して、自分なりの視点･意見を構築する。

【事前･事後学習】

地域の高齢者、障害者、児童の生活支援、自己実現や発達を支援してゆくためには、福祉についての問題解決の方法を理解し、住民と行政、社協、専門機関等など幅広い福祉領域の課題に関心を常に持ち、地域や組織の福祉的な問題が自分の関心となり、それが問題意識として認識できるようになること。

【成績評価基準】

演習への積極的かつ主体的な準備･取り組みと授業中の報告内容、グループ討論への参加や貢献を基準に総合的に行う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･授業時に提示

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4903	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	村上　恭子

【授業の目的と概要】

本演習は，卒業論文の執筆に向けて各自が設定したテーマに基づいて研究を進めていく。論文の構成を明確にし，文献研究及び調査研究の計画を立てる。論文本体も計画的に書き進めていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	受講上のルールを確認する。レポーターの順序を決定する。
第2回	研究計画の発表１	卒業研究にむけた研究計画を発表する。
第3回	研究計画の発表２	卒業研究にむけた研究計画を発表する。
第4回	先行研究の実施	研究課題の決定に向けて，先行研究をまとめる
第5回	先行研究の報告	先行研究をまとめてゼミ内で報告をする
第6回	研究課題の決定１	先行研究の成果をもとに研究課題を明確化する
第7回	研究課題の決定２	研究課題を文章化して，決定する。
第8回	論文構想会の実施	先行研究と研究課題との関わりで論文の概略を文章化する
第9回	論文構想の修正	ゼミ内の議論をもとに，論文の構想を修正して，文章化する。
第10回	序論の執筆	序論を書き始める。
第11回	序論の発表･修正	序論を発表して，発表後の質問をもとに，序論を修正する。
第12回	序論の提出	推敲した序論を提出する。
第13回	中間報告会の準備	聞き手が，研究内容を理解できるような中間報告会の準備を行う。
第14回	中間報告会の実施	研究の進捗状況を報告する。
第15回	中間報告会の振り返り	報告会での議論を振り返り，夏季休暇中の課題を明確化する。

【授業の到達目標】

卒業論文の全体像を明確にして，論文執筆に取り組む

【事前・事後学習】

ゼミの発表に相応しい内容のレポートを作成すること
アポイントメントを取り，指導教員から適宜指導を受けること

【成績評価基準】

設定した課題の先行論文をまとめることができるか。
設定した課題の概略を，レポートにすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･特に指定しない

【参考図書】

･適宜、紹介をする

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4904	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	石川 幸生

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲに続く演習である。本演習では、今まで進めてきた健康･福祉づくりを背景とした「生涯スポーツとしてのニュースポーツ研究」として関連するテーマのまとめについてプレゼンテーションする具体的な方法を学ばせる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	シラバスをもとに目的と内容、専門演習の進め方を説明する。
第2回	卒豪研究テーマの選定	意見交換を行いながら研究テーマの選定を行う。
第3回	フィールドワークの企画	各グループでフィールドワークの企画等行う。
第4回	卒業研究の準備(1)	文献や学術論文等を活用しながら、卒業研究の下書きをする。
第5回	卒業研究の準備(2)	検索した資料や先行研究の情報を活用して卒業研究の下書きをする。
第6回	フィールドワーク	各提案されたフィールドワーク企画案を選択決定し、ゼミで実施する。
第7回	卒業研究の発表会準備(1)	卒業研究発表会に向け、パワーポイントによる資料作成を行う。
第8回	卒業研究の発表会準備(2)	卒業研究発表会を目指し、パワーポイントの資料に基づいた研究発表の準備を行う。
第9回	卒業研究の要約提出	卒業研究の要約を執筆し提出する。
第10回	卒業研究発表会	パワーポイントを使用し卒業研究発表会を実施する。
第11回	卒業研究の準備(3)	卒業研究の推敲を行う。
第12回	卒業研究の準備(4)	卒業研究の最終仕上げを行いながら再度の推敲を行う。
第13回	卒業研究最終提出	卒業研究の提出をする。
第14回	ゼミナール大会の発表準備	専門演習のまとめと総括を行い、合同ゼミナール大会発表者を決定する。
第15回	合同ゼミナール発表大会･まとめ	合同ゼミナール発表会にて代表者が研究成果を発表し、専門演習の総括を行う。

【授業の到達目標】

生涯スポーツとしてのニュースポーツの研究をどのように行うのか、その方法を習得することができる。

【事前･事後学習】

事前学習として関連資料、新聞、図書などを読んで準備すること。また、事後の学習は演習で学んだ内容を整理しておくこと。

【成績評価基準】

（1）演習の授業目的と内容を十分理解できているか。
（2）事前･事後の学習を十分行うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40%	0	0	60%（プレゼンテーション、作品としてのニュースポーツ製作など）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4904	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに引き続き、卒業論文･ゼミ論文の作成に取り組む。各自のペースで取り組むこととなるため、論文の執筆自体は授業外で行うものとする。授業では経過報告を行うとともに、論文作成に必要となる技能習得を目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	本演習を受講する上でのルールを確認する。
第2回	進捗状況の報告会（1）	夏休みでの進捗状況を報告する
第3回	進捗状況の報告会（2）	夏休みでの進捗状況を報告する
第4回	論文の構想の練り方	論文の構想の練り方について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第5回	結論の書き方	結論の書き方について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第6回	執筆作業の確認	効率の良い執筆作業について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第7回	結果および図表の報告	ゼミ論および卒業研究で用いる図表を基に研究結果について報告する
第8回	序論及び文献レビューの報告（1）	先行研究のレビューを含めた研究の序論について報告する
第9回	序論及び文献レビューの報告（2）	先行研究のレビューを含めた研究の序論について報告する
第10回	結論の報告	結論を報告し、研究全体のまとめを行う。
第11回	論文要旨の書き方	論文要旨の書き方について担当者のプレゼンの後ディスカッションする
第12回	卒業論文の提出	卒業論文を提出する。
第13回	卒業論文要旨の提出、論文の修正	（1）卒業論文の要旨を提出する。（2）添削を参考に、卒業論文を加筆･修正する。
第14回	ゼミ内卒業論文発表会	卒業論文発表の資料をパワーポイントで作成し、ゼミ内で発表する。
第15回	学部行事　ゼミナール大会への参加	ゼミナール大会に参加し、研究成果を報告する。

【授業の到達目標】

各回の発表で明確になる課題に対して真摯に取り組みつつ、ゼミ論および卒業研究論文を完成させる。

【事前･事後学習】

ゼミ内での発表にふさわしい内容になるよう、準備を進める。
授業時間外でも、研究室等で、適宜研究指導を受けること。

【成績評価基準】

事前に指定した形式に基づいて、論文が執筆できているか。
緒言から結論までが適切な論理にて研究成果について説明できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･酒井聡樹：これからレポート･卒論を書く若者のために，共立出版

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4904	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

基礎アスレティックトレーニングの講義とアスレティックトレーニング実習をベースにして、スポーツ傷害の評価、傷害に対する処置法と予防法、治療、アスレティックリハビリテーションといった専門知識のさらなる理解及びスキルアップを図ることを目的とする。特に、学内の強化指定クラブと連携しながら、傷害後のアスレティックリハビリテーションのプログラム構築と処方を実践する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習ゼミの運営方針等を説明する。
第2回	フィールドワーク企画	各グループでフィールドワークの企画を行う。
第3回	卒論準備１	検索した文献や学術論文を活用して、卒論研究の下書きをする。
第4回	卒論準備２	検索した資料やインターネットからの情報等を活用して、卒論研究の下書きをする。
第5回	フィールドワーク	各グループで提案されたフィールドワーク案を選択し、ゼミで実施する。
第6回	卒論発表会の準備１	卒論研究発表会に向けて、パワーポイントによる資料作成を行う。
第7回	卒論発表会の準備２	卒論研究発表会に向けて､パワーポイントの資料に基づいた発表準備を行う。
第8回	卒論の要約提出	卒論研究の要約を執筆し、提出する。
第9回	卒論発表会	卒論研究発表会をパワーポイントを用いて行う（3年生ゼミと合同で実施）。
第10回	卒論準備３	卒論研究の推敲をする。
第11回	卒論準備４	卒論研究の最終仕上げをし、再度推敲する。
第12回	卒論最終提出	卒論研究の提出をする。
第13回	ゼミナール大会の準備１	ゼミナール大会に向けて発表代表者を決定する。
第14回	ゼミナール大会の準備２	ゼミナール大会に向けて、パワーポイントによる資料作成および発表準備を行う。
第15回	ゼミナール大会、まとめ	ゼミナール大会でゼミ代表者が発表し、4年生ゼミの総括をする。

【授業の到達目標】

現場実習を通して、学内の強化指定クラブと連携しながら、傷害後のアスレティックリハビリテーションのプログラム構築と処方するスキルを習得することを目標とする。

【事前・事後学習】

各自の卒論研究テーマに沿った文献や資料検索がスムーズにできるように事前に準備をしておく。また、収集した文献や資料を活用し卒論執筆を行い、提出期限までに書き上げるように努力する。

【成績評価基準】

卒業研究に対して積極的に取り組むことができるか、適切な書式や文言を用いて課題レポートを書くことができるか、フィールドワークを協力してできるかどうかを総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	0	0	50（最終発表会の内容）

【テキスト】

･使用しない

【参考図書】

･使用しない

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH4904	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅳは前期に引き続き、卒業論文を完成さえることを目的とする。研究テーマと章構成を決定し、必要に応じて調査も実施しながら、研究内容の充実を図る。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	シラバスをもとに進め方や受講上の注意を確認する。
第2回	研究計画の再確認	章構成を提示し、研究計画を再確認する。
第3回	調査計画の提出	資料を整理し、調査計画を提出する。
第4回	調査の実施	論文執筆に必要な資料を収集する。
第5回	調査資料の整理	収集した資料を整理し、章構成を再確認する。
第6回	中間報告	進捗状況を報告し、研究課題を明らかにする。
第7回	本論の執筆と発表（1）	本論を執筆したものを発表し、議論する。
第8回	本論の執筆と発表（2）	本論を執筆したものを発表し、議論する。
第9回	結論の検討	結論を検討する。
第10回	結論の発表	結論を発表し、議論する。研究全体のまとめを行う。
第11回	論文全体の推敲	議論を踏まえて、論文全体を推敲する。
第12回	卒業論文の提出	卒業論文を提出する。
第13回	卒寮論文要旨の提出、論文の修正	卒業論文の要旨を提出する。卒業論文を修正する。
第14回	ゼミ内卒業論文発表会	卒業論文発表の資料（パワーポイント）を作成し、ゼミ内で発表する。
第15回	学科行事　ゼミナール大会への参加	ゼミナール大会に参加し、研究成果を報告する。

【授業の到達目標】

発表し、議論したことを踏まえて執筆を進め、卒業論文を完成させる。

【事前・事後学習】

授業のテーマに沿ってレポートを作成しておくこと。必要に応じて、自分のテーマに関する先行研究や意見、考察を整理しておくこと。

【成績評価基準】

事前に指定した形式に基づいて、論文が執筆できているか。卒業論文にふさわしい分量と内容になっているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	100	0	0

【テキスト】

・特に指定しない。

【参考図書】

・適宜、紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4904	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	澤田 節子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅲに続き、専門書や関連論文を読み、レポートの執筆について学習します
今まで進めてきた課題を進展させ、研究の手法にそって（資料の収集、データの処理･分析、考察など）草稿の執筆方法について学習します。併せて、提出原稿の作成、発表原稿の作成、発表と質疑応答の仕方など発表の手法についても学習します。
ここでは、レポート作成の手順に沿ってまとめることをとおして、研究的態度を養うことを目的とします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習Ⅳでの学び方、演習の進め方について学ぶ。
第2回	研究計画書の再確認	研究の目的と概要、先行研究、用語の定義、研究方法、分析方法などを検討する。
第3回	調査計画（調査票）の作成	研究課題に沿って調査票等（予備テスト）を作成する。
第4回	調査の開始	調査計画に従い、実験、調査、事例研究などを開始する。
第5回	調査の実施	調査計画に従い、実験、調査、事例研究などを実施する。
第6回	調査結果の整理	結果の分類･整理をする。
第7回	調査のまとめ	結果の整理（分析）する（図表の作成）。
第8回	中間発表	調査結果をまとめ、中間発表をする（研究の進捗状況をレポート）。
第9回	草稿の執筆（結果）	結果を記述する（レポート作成の手順に沿う）。
第10回	草稿の執筆（レポートの構成）	レポートの構成を考える（研究の成果を章ごとに整理し、検討する）。
第11回	草稿の執筆（考察）	考察･結論を書く（結果の再確認、文献等との比較）。
第12回	草稿の執筆（推敲）	添削を参考に推敲をする（文章等を練りなおす）。
第13回	草稿の執筆（概略の作成）	レポートの点検をする、概略を記述する（スライド作成等）。
第14回	個人の発表	ゼミ内で発表する、友人の発表を聞く（意見交換）。
第15回	ゼミナール発表会に参加･まとめ	ゼミナール発表会に参加し研究成果について学ぶ。

【授業の到達目標】

①研究課題に沿って調査票等を作成し、データを収集することができる。
②レポート作成の手順に沿って論文を執筆し、概要を発表することができる。
③研究の意義･必要性、研究方法について説明することができる。

【事前･事後学習】

専門演習を活用し、自主的･主体的な事前･事後の自己学習を勧めます。
①自分の研究課題に沿って、文献を幅広く収集し内容をまとめる。
②レポートの作成について、授業外でも適宜研究指導を受けるようにする。

【成績評価基準】

①レポートは、卒業研究にふさわしい内容と分量で執筆し、期日までに提出できているか。
②レポートを発表し、友人間でお互いに意見交換をすることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60%	20%	0	20%（発表）

【テキスト】

･適宜、文献を紹介します。

【参考図書】

･適宜、文献を紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4904	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	尚 爾華

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅲで得られたデータをまとめ、集計解析し、卒業論文を作成する。

専門演習の学習を活かし、研究の計画から、実施、最後に卒業論文を仕上げるまで各自で完成させることを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	専門演習Ⅳのガイダンス	専門演習Ⅳについてガイダンス、卒業論文について説明し、グループ分けをする
第2回	専門演習Ⅲで得たデータの入力	専門演習Ⅲで得られたデータを整理し、エクセルを利用し、入力する
第3回	入力したデータの集計	専門演習Ⅲで得られたデータを統計手法で集計する。統計ミスのないようグループ間でお互いチェックする。
第4回	参考図書を図書館で探す	図書館を利用し、先行研究や参考図書を探し、10冊以上を借りて参考する。
第5回	参考論文をオンラインで収集する	情報システムセンターを利用し、オンラインで（医中誌など）参考文献を集める。
第6回	論文のタイトル、構成を決める	適切なタイトルを決めて、論文の全体構成を決める。
第7回	論文の図表を作成する	図と表をパソコンで作成する。
第8回	本文の研究目的、研究対象者、研究期間を作成する	研究目的、研究対象者、研究期間などについて文章を作成する。
第9回	本文の研究方法、研究結果を作成する	研究方法、研究結果について文章を作成する
第10回	本文の考察、まとめ、参考文献	考察、まとめ、参考文献について文章を作成する。参考文献の順番と書式などを確認する。
第11回	本文のキーワード、著者、連絡先を作成し、全体を確認する	キーワード、著者、連絡先などについて文章を作成する。
第12回	論文に関する中間報告会	全員が各自で作成した論文を印刷し、発表する。教員や他の学生から質問やアドバイスを受ける。
第13回	論文の修正をする	発表会で受けたアドバイスに基づき、論文を修正し、再度教員と他の学生に確認する。
第14回	論文の最終校正をする	論文全体の内容や構成を最終チェックし、最終版を印刷し、提出する。
第15回	発表会	ゼミ合同発表会で代表グループは10分間、研究内容を発表する。

【授業の到達目標】

①専門演習Ⅲで得られたデータを集計解析ができる。

②上記のデータを論文としてまとめることができる。

【事前・事後学習】

論文の書き方について、図書館などで資料を集めて、予習復習する。

【成績評価基準】

①計画通りに論文作成ができる。

②積極的に問題解決する姿勢がある。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

·なし

【参考図書】

·石黒 圭 「この1冊できちんと書ける! 論文·レポートの基本 」日本実業出版社

·戸田山 和久 「新版 論文の教室―レポートから卒論まで 」NHK出版

·滝川 好夫 「卒業論文·修士論文作成の要点整理 実践マニュアル 」税務経理協会

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4904	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

専門演習 I･II･III に続き、本演習ではこれまでのまとめとなるプレゼンテーションの方法を修得することを主な目的とする。プレゼンテーションの方法は、次のように順を追って修得する。（1）発表の原稿作成。（2）発表の資料作成。（3）発表のために最も効果的なプレゼンテーションの方法の模索。（4）使用機器の練習。（5）他者に訴えるためのキーワードの検討。（6）発表と質疑応答。最終的に、集大成としてレポートを提出する。研究を進める過程で、ゼミ内で適宜研究報告を行い討論する。互いの意見交換の中でより良い方法を検討していく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習のⅣの進め方、受講上の注意点を説明する。
第2回	卒業レポート･論文執筆の注意点	長文の提出文書作成上の注意点を説明する。
第3回	効果的なプレゼンテーション	発表のために効果的なプレゼンテーションの方法を資料を基に考える。
第4回	発表の原稿作成	発表の原稿を作成する。
第5回	発表の資料作成	発表の資料を作成する。
第6回	プレゼンテーションの話し方のポイント	プレゼンテーションの話し方のポイントを資料を基に検討する。
第7回	使用機器の練習	使用機器の練習をする。
第8回	キーワードの検討	他者に訴えるためのキーワードを検討する。
第9回	討論の方法	目的に応じた討論の方法を検討する。
第10回	ブレイン･ストーミングとKJ法	ブレイン･ストーミングとKJ法を体験する。
第11回	発表と質疑応答	研究成果をゼミ内で発表し質疑応答をする。
第12回	卒業レポート･論文の提出	卒業レポート･論文の提出をする。
第13回	ゼミナール発表会の準備（1）	ゼミナール発表会の発表代表者を決定する。
第14回	ゼミナール発表会の準備（2）	ゼミナール発表会の資料作成や発表原稿を準備する。
第15回	ゼミナール発表会での発表･質疑応答	ゼミナール発表会で発表･質疑応答をする。

【授業の到達目標】

研究発表や討論など、課題に対し主体的に取り組むこと、遅刻･欠席をしないこと、他者と協力しあうことができること、また自分の意見をしっかり伝えることができ、プレゼンテーションの方法を修得することを到達目標とする。

【事前･事後学習】

発表の原稿作成や資料作成、発表準備などの時間を要する事柄は、事前学習を行ってほしい。

【成績評価基準】

成績は、研究発表の内容や積極的に討論に参加できているか、プレゼンテーションの方法が習得できているか、まとめとしてのレポート内容を評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	20	0	40（毎回授業時の報告書内容、授業態度）

【テキスト】

･適時資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4904	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

本授業は、専門演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび関連科目で学んだ内容を踏まえ、卒業論文もしくはゼミ論文のための研究を進めていく。そのことによって、論理的な考え方や企画･運営の方法などを学ぶ。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	夏期休暇中の進捗状況の確認	後期のスケジュール確認、再調整を行う
第2回	調査･実験の実施①	調査･実験を実施する①
第3回	調査･実験の実施②	調査･実験を実施する②
第4回	調査結果･データの処理	調査結果及びデータを処理する
第5回	卒業論文（結果）の執筆①	卒業論文の執筆を行う（結果部分）①
第6回	卒業論文（結果）の執筆②	卒業論文の執筆を行う（結果部分）②
第7回	卒業論文（諸言）の執筆①	先行研究のレビューと問題設定の執筆する①
第8回	卒業論文（諸言）の執筆②	先行研究のレビューと問題設定の執筆②
第9回	卒業論文（考察）の執筆①	卒業論文の執筆を行う（考察部分）①
第10回	卒業論文（考察）の執筆②	卒業論文の執筆を行う（考察部分）②
第11回	卒業論文の提出	卒業論文の執筆を行い、提出する
第12回	演習内研究発表会の準備	演習内の発表の準備を行う
第13回	演習内研究発表会	演習内にいて、全員がプレゼンテーションを行う
第14回	まとめ	専門演習のまとめと振り返り
第15回	卒業研究発表会	演習内で選出された代表者による発表

【授業の到達目標】

卒業論文もしくはゼミ論文の研究計画の立案及び、実行、データを収集し、卒業研究にふさわしい成果物を作成することを到達度目標とする。

【事前･事後学習】

卒業論文、ゼミ論文の作成にあたり必要だと思われること、課題提出などは積極的に事前事後学習を行うこと。

【成績評価基準】

自身で得られたデータの意味を理解し、正しく評価し、正しい文章が書けるか（レポート）
各提出物が提出要項（提出期限･体裁）に則って作成することができるか
基本的なプレゼンテーションの技法を使うことができるか
　上記の３点を基準として、成績評価する。出欠席については評価対象に含めない。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	80	20	0	0

【テキスト】

･適宜紹介する

【参考図書】

･これからレポート･卒論を書く若者のために　酒井 聡樹 著　共立出版

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4904	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

1）体力･健康科学の分野から興味関心のある具体的なテーマを設定し,卒業論文を執筆する。

2）名東区の健康づくりに関わる活動の計画と運営を通じて、地域の健康づくりを実践する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	卒業研究1	卒業論文を執筆する。
第2回	卒業研究2	卒業論文を執筆する。
第3回	卒業論文要旨の作成	卒業論文の要旨を作成する
第4回	ゼミ内卒論発表会の準備	卒業研究の内容をプレゼンテーションするための準備をする。
第5回	ゼミ内卒論発表会1	卒業研究の内容をプレゼンテーションする。
第6回	ゼミ内卒論発表会2	卒業研究の内容をプレゼンテーションする。
第7回	ゼミナール大会での発表者の決定とディスカッション	ゼミメンバーの卒業研究の内容をディスカッションし、大会で発表する代表者を決定する。
第8回	卒業論文の完成	発表とディスカッションの内容を踏まえて、修正し、卒業論文を完成させる。
第9回	ゼミナール大会での発表準備	ゼミメンバーで代表者の研究をどのように発表するかを検討する。
第10回	ゼミナール大会での発表の練習	ゼミメンバーで代表者の研究をどのように発表するかを練習する。
第11回	地域の健康づくりに関わる活動の企画	地域の健康づくりに関わる活動を企画する。
第12回	地域の健康づくりに関わる活動の計画	地域の健康づくりに関わる活動を計画する。
第13回	地域の健康づくりに関わる活動の実施	地域の健康づくりに関わる活動を実施する。
第14回	ゼミナール大会	ゼミナール大会に参加する。
第15回	まとめ	今までを振り返って活動報告書をまとめる。

【授業の到達目標】

①研究課題に沿って調査票等を作成し、データを収集することができる。

②レポート作成の手順に沿って論文を執筆し、概要を発表することができる。

③研究の意義･必要性、研究方法について説明することができる。

【事前・事後学習】

専門演習を活用し、自主的･主体的な事前･事後の自己学習を勧めます。

①自分の研究課題に沿って、文献を幅広く収集し内容をまとめる。

②レポートの作成について、授業外でも適宜研究指導を受けるようにする。

【成績評価基準】

①レポートは、卒業研究にふさわしい内容と分量で執筆し、期日までに提出できているか。

②レポートを発表し、友人間でお互いに意見交換をすることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	60%	20%	0%	20%（発表）

【テキスト】

･資料を配布する。

【参考図書】

･授業で紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4904	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

この演習の目的は、卒業研究の完成である。加えて、自分の考えをうまく他人に伝えていく技術を身につけることも目的とする。具体的には、発表のための資料や原稿を作成し、テーマに沿った最も効果的なデモンストレーションの方法を考える。出来上がった原稿やスライドをデモンストレーション用の機器を使いこなして実際に発表したり、質問を受けたりする。自分の考えを他人に発表することで、自分の考えが深まる効果もあることを体感できる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習Ⅳの概要、事前事後学習、受講の注意点
第2回	論拠を見つける（1）先行研究を探す	論文、本、雑誌、新聞等から「焦点化された問題点」を明らかにする論拠を探す。
第3回	論拠を見つける（2）アンケートの作成	先行研究の調査やインタビューを参考にアンケートの作成を行い、実施する。
第4回	論拠を見つける（3）インタビューを行う	「焦点化された問題点」を明らかにするためのインタビューを行う。
第5回	論拠を見つける（4）グループ討議	各自の論拠に関してグループで討議を行う。
第6回	プレゼンテーションの方法	パワーポイントなどを使ったプレゼンテーションの仕方を説明する。
第7回	アンケートの集計・分析を行う	アンケートのデーター覧の作り方、分析の仕方、グラフの作り方を説明する。
第8回	結果と考察を書く	手に入れた資料やデータから結果を導き出し、それを考察する。
第9回	全体の流れを作る	序論、方法、結果、考察と部分的にはできあがっているので、それを全体として書いていく。
第10回	卒業研究の中間提出	この回までに卒業研究を仕上げて提出する。個別に修正部分の指摘。
第11回	卒業研究の最終仕上げ	修正された部分に対して、資料等を集め直し書き直しをする。
第12回	卒業研究の提出　最終の修正	この回までに卒業研究の最終仕上げを行い提出する。修正箇所を訂正する。
第13回	ゼミ内での卒業研究の発表　代表者の選考	ゼミ内において、全員がプレゼンテーションを行う。
第14回	まとめ	専門演習Ⅳのまとめと振り返り。
第15回	卒業研究発表会	ゼミ内で選ばれた代表者が全体会で発表する。

【授業の到達目標】

1自ら見つけた問題点を明らかにするための方法を考えることができる。　2資料の読み込みやデータの分析を行うことができる。3卒業研究を仕上げることができる。　4卒業研究の発表ができる。

【事前・事後学習】

シラバスには授業ごとの学習テーマが提示されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に示されるので、授業までに予習をしてくること。

各段階ごとに提出期限が明示されている。遅れないように作成すること。

【成績評価基準】

1自ら見つけた問題点を明らかにするための方法を考えることができたか。　2資料の読み込みやデータの分析が正確に行えたか。3卒業研究の仕上がりの状況。　4発表が分かりやすく内容のあるものであったか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（振り返り、各期限の提出物）

【テキスト】

・テキストは使用しない。

【参考図書】

・参考文献は授業内で紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4904	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

卒業研究を行う上での基礎的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに沿った先行研究レビューと報告、ゼミ生間の討論を通じて、問題関心を掘り下げ、研究計画を作成する。既成の考えについて疑い、改めて自分の頭で考え、他者との討議を重ねながら、独自性をもつ自分の意見を構築していくプロセスを共有しながらすすめる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	研究テーマの第一次設定	仮テーマを設定する
第3回	先行研究の収集とレジュメ報告（1）	先行研究の一覧表の完成
第4回	先行研究の整理とレジュメ報告（2）	先行研究の一覧から整理を開始
第5回	先行研究の要素の概観とレジュメ報告（3）	先行研究の構成要素を検討する
第6回	先行研究の全体構成とレジュメ報告（4）	先行研究の世界を構成する
第7回	研究テーマの再検討と調査方法･対象の検討（1）	調査方法の全体の最終確認
第8回	研究テーマの再検討と調査方法･対象の検討（2）	調査方法の問題点の最終確認
第9回	研究計画の第一次作成（1）	研究計画の作成
第10回	研究計画の第一次作成（2）	研究計画の完成
第11回	調査研究の基礎作業（1）	調査研究の基礎作業を開始する
第12回	調査研究の基礎作業（2）	調査研究の基礎作業を完成させる
第13回	調査研究のまとめと発表（1）	調査研究の発表
第14回	調査研究のまとめと発表（2）	論文の発表
第15回	講評	論文の客観化と審査

【授業の到達目標】

ゼミ生各自の研究上の問題意識と研究対象を明確にし、卒論に向けた研究方法と技法を習得すること。また文献研究の具体的方法を学び、報告できるようにすることと、フイールド調査の具体的方法を学び、報告できるようにすること。

【事前･事後学習】

毎回報告があるために、事前にレジュメを作成すること。毎回の発表後は、教員とゼミ生からの意見などを聞いて、修正しておくこと。

【成績評価基準】

演習への積極的かつ主体的な準備･取り組みと授業中の報告内容、グループ討論への参加や貢献を基準に総合的に行う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	60	40	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･授業時に提示

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4904	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	村上　恭子

【授業の目的と概要】

本演習は，前期から進めてきた研究を卒業論文として完成させることを目的とする。研究テーマと章構成を確定させ，研究内容の充実を図る。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	本演習の目的と受講上のルールを確認する。
第2回	研究計画の再確認	研究の進捗状況を相互に把握して，課題を明確化を図る。
第3回	章構成を考える	章構成を各自考えた後，ゼミ生の意見を取り入れて再考する。
第4回	章構成と引用文献及び引用箇所の確認	自分で，章構成と引用文献の確認をする
第5回	本論の執筆	本論の筋道を立てて，何度も検討しながら書いていく。
第6回	本論の執筆	本論の執筆を行う
第7回	結論の検討	ゼミ生に結論を報告して，整合性を確認する
第8回	引用箇所と引用文献の確認	ペアで引用箇所及び引用文献の確認を行う
第9回	結論の報告	結論を文章化して序論や本論との整合性を持たせて報告する。
第10回	論文全体の推敲	各回の議論を踏まえて，論文を推敲する。
第11回	卒業論文の提出	何度も見直して，論文を提出する。
第12回	論文の要旨提出	論文の要旨を提出する。
第13回	ゼミ内卒論発表会	卒業論文の内容をゼミ内で，聞き手にわかり易く報告する
第14回	ゼミ内卒論発表会の振り返り	卒業論文作成の振り返りと，後輩へのメッセージを報告する。
第15回	学科行事　ゼミナール大会への参加	ゼミナール大会に参加をして，成果を報告する

【授業の到達目標】

各回の課題を達成すべく真摯に論文作成に取り組んでいるか。
卒業論文を完成させる。

【事前・事後学習】

毎週課題を提示するので，行き詰まったら事前に連絡をして，研究室を訪問すること。

【成績評価基準】

指定した形式に基づいて論文が執筆できているか。
卒業研究にふさわしい内容と分量を満たしているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	100	0	0

【テキスト】

·適宜　紹介をする。

【参考図書】

·井下千以子『思考を鍛えるレポート·論文作成法』慶応義塾大学出版

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
HH4905	卒　　業　　研　　究	4年	ー	4単位	選択	石川 幸生

【授業の目的と概要】

自分の興味関心のある生涯スポーツとしてのニュースポーツに関する研究テーマを決め、卒業研究としてまとめる。卒業研究には、実践研究、調査研究、文献研究、ニュースポーツの研究開発などがある。特に4年間の総まとめの成果として、生涯スポーツの発展に寄与する卒業研究を目指すものである。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	卒業研究(論文､新規スポーツ製作など)の方針や進め方について説明を行う。
第2回	卒豪研究テーマの選定(1)	研究テーマの選定と研究方法について意見交換を行う。
第3回	卒業研究テーマの選定(2)	先行研究及び資料･文献･データ等の検索を行い卒業研究テーマを検討する。
第4回	研究計画の検討	卒業研究の計画を検討する。
第5回	研究方法の検討	卒業研究の対象及び研究方法について検討する。
第6回	研究テーマに基づいた調査等の開始	卒業研究テーマに基づいた研究調査等を開始する。
第7回	研究テーマに基づいた研究調査等の整理	卒業研究テーマに基づいた調査データの整理などを行う。
第8回	研究テーマに基づいた研究の経過確認	卒業研究の進捗状況を確認しながら、研究の方向性について検討する。
第9回	研究テーマに基づいた研究の項目立てと構成	卒業研究の項目立ての構成等を検討する。
第10回	研究テーマに基づいた調査データ等の分析	調査結果や文献･資料などを参考に比較検討し分析を行う。
第11回	研究テーマに基づいた研究の考察検討	卒業研究の考察について検討する。
第12回	草稿の執筆	卒業研究の下書きをする。
第13回	卒魚論文の推敲	卒業研究論文の推敲を行う。
第14回	卒業研究の要約及び論文の提出	卒業論文の要約及び論文を冊子にして提出する。
第15回	プレゼンテーション	卒業研究の研究成果について総括し発表する。

【授業の到達目標】

4年間の総まとめとして、生涯スポーツとしてのニュースポーツに関する研究テーマを決め、卒業研究としてまとめる。生きた研究論文として、またニュースポーツ用具･用品として、実際に活用され、生涯スポーツの発展に寄与する卒業研究を目指す。

【事前･事後学習】

セルフモティベーション､セルフコントロール､セルフマネージメント等の条件を確認しながら卒業研究について前向きに取り組むこと。

【成績評価基準】

論文、実践研究、ニュースポーツ製作など卒業研究として一定のレベルに達していること。ただし、字数については10,000字以上を目安とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100%（プレゼンテーションや論文、実践研究、ニュースポーツなど提出物を総合的に成績評価する。）

【テキスト】

･特に定めないが、必要に応じ適宜資料を配布する。

【参考図書】

･授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	-	4単位	選択	木野村 嘉則

【授業の目的と概要】

スポーツのコーチングやトレーニングに関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて、テーマについての考察を深め、卒業論文を完成させる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究計画書の提出	卒業論文のテーマおよび執筆計画について報告する。
第2回	テーマに関わる先行研究の報告	テーマに関する先行研究を収集し文献レビューを行う
第3回	研究計画書の修正	研究計画書を修正する
第4回	調査の実施	調査を実施する
第5回	データ分析	調査によって得られたデータの分析を行う
第6回	進捗状況報告	分析したデータから考察を行い、進捗状況を報告する
第7回	データの分析（2）	さらに必要な分析、考察を実施する。
第8回	進捗状況の報告（2）	序論から考察までの流れを報告する
第9回	序論･本論の報告	序論･本論の執筆を進め、報告する。
第10回	結論の検討	結論の内容を吟味する。
第11回	結論の報告	研究の結論を報告し、修正点を明らかにする。
第12回	論文全体の推敲	論文全体の一貫性を高めるよう、推敲する。
第13回	論文の提出	完成論文（第１稿）を提出する。
第14回	卒業研究発表会	研究成果を履修者間で報告し合う。
第15回	論文の修正、最終提出	発表会の議論を踏まえ第１稿を修正し、最終提出する。

【授業の到達目標】

設定したテーマの先行研究を丹念に収取し、レビューすることができる。
先行研究の知見を踏まえつつ論理的にテーマについて考察した論文を作成することができる。

【事前･事後学習】

定期的に進捗状況を報告できるよう、計画的に資料収取や収集資料の検討、論文執筆に取り組む。

【成績評価基準】

設定したテーマの先行研究について適切に収集･レビューできているか。
あらかじめ設定した形式に則って、論文が作成されているか。
期日までに、卒業論文にふさわしいレベルの論文を提出できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100	0	0	0

【テキスト】

･酒井聡樹：これからレポート･卒論を書く若者のために，共立出版

【参考図書】

･大森崇･阪田貴己子･宿久洋：RCommanderによるデータ解析 第2版，共立出版

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	葛原 憲治

【授業の目的と概要】

トップレベルのアスリートやチーム、あるいはより高い健康志向レベルの顧客ニーズに応えることができる健康増進スペシャリストを目指すために、外部の専門機関（スポーツチーム、民間および公的フィットネスクラブ、民間および公的スポーツクラブなど）に長期間の現場実習として就労経験を積み、実社会の現実や問題点を学ぶことを目的とする。特に、4年間の総まとめとして、健康増進プログラム、傷害予防プログラム、さらにはパフォーマンス向上プログラムなど、それぞれのニーズに合わせた対応ができるノウハウを身につけさせる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	卒業研究（論文、現場実習、新規スポーツ作成など）の方針を説明する。
第2回	卒業研究テーマの選定１	図書館で文献検索やインターネット検索を通して、卒論研究テーマを検討する。
第3回	卒業研究テーマの選定２	図書館で文献検索やインターネット検索を通して、卒論研究テーマを検討する。
第4回	研究計画の検討	卒業研究の計画を検討する。
第5回	研究方法の検討	卒業研究の対象および方法（調査、測定、現場実習など）を検討する。
第6回	研究の調査･測定等の開始	卒業研究の調査および測定を開始する。現場実習の場合は、現場実習先の確保をする。
第7回	研究の調査･測定データの整理	卒業研究の調査および測定データを整理･分析する。現場実習の場合は、現場実習先で実践をする。
第8回	研究の経過確認	卒業研究の進捗状況を確認し、今後の方向性を検討する。
第9回	研究の項目立ての構成	卒業研究の項目立ての構成を検討する。
第10回	研究考察の検討	調査および測定結果を文献や資料と比較検討し､卒業研究の考察を検討する。
第11回	草稿の執筆	卒業研究の下書きをする。
第12回	論文の推敲	卒業研究の推敲をする。
第13回	卒業研究要約の提出	卒業研究の要約を執筆し、A4様式1枚にまとめて提出する。
第14回	卒業研究の提出	卒業研究を冊子にして提出する。
第15回	まとめ	卒業研究を総括する。

【授業の到達目標】

4年間の総まとめとして、健康増進プログラム、傷害予防プログラム、さらにはパフォーマンス向上プログラムなど、それぞれのニーズに合わせた対応ができるスキルを習得すると共に、この分野の探求が深くできることを目標とする。

【事前･事後学習】

各自の卒論研究テーマに沿った調査および測定データの収集がスムーズにできるように事前に準備をしておく。現場実習の場合は、現場実習先の確保ができるように準備をしておく。また、調査及び測定データの結果を分析した後、文献や資料を活用して比較検討し卒業研究を深めるように努力する。

【成績評価基準】

論文、現場実習、新規スポーツ作成など、一定の研究レベルに達していることとする。ただし、字数は10,000字以上を目安とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100	0	0	0

【テキスト】

･特になし

【参考図書】

･特になし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	小出 禎子

【授業の目的と概要】

国内外の教育・学校に関することがらについて自ら研究テーマを設定し、それらについて制度・行政・経営的観点から考察した卒業論文を完成させる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス・研究計画書の提出	卒業論文のテーマおよび執筆計画について報告する。
第2回	調査の実施	論文執筆に必要な調査を実施し、進捗状況を報告する。
第3回	調査結果の報告（1）	調査結果を分析し、成果を報告する。
第4回	研究計画書の修正	調査結果に基づき、研究計画全体の調整を行う。
第5回	本論の執筆（1）	本論の執筆を進める。
第6回	進捗状況報告	ここまでの研究進捗状況を報告し、これからの進め方を確認する。
第7回	追加調査の実施	必要な追加調査を実施する。
第8回	調査結果の報告（2）	追加調査の結果を分析し、成果を報告する。
第9回	本論の執筆（2）	本論の執筆を進める。
第10回	結論の検討	結論の内容を吟味する。
第11回	結論の報告	研究の結論を報告し、修正点を明らかにする。
第12回	論文全体の推敲	論文全体の一貫性を高めるよう、推敲する。
第13回	論文の提出	完成論文（第1稿）を提出する。
第14回	卒業研究発表会	研究成果を履修者間で報告し合う。
第15回	論文の修正、最終提出	発表会の議論を踏まえ第1稿を修正し、最終提出する。

【授業の到達目標】

設定したテーマに関する文献等を幅広く収集することができる。
設定したテーマに沿って、調査やデータを収集することができる。
先行研究の知見を踏まえつつ論理的にテーマについて考察した論文を作成することができる。

【事前・事後学習】

事前・事後ともに、自主的・主体的に自己学習をする。
設定したテーマに沿った調査やデータの収集ができるよう事前に準備する。
計画的に資料収取や収集資料の検討、論文執筆に取り組み、定期的に進捗状況を報告する。

【成績評価基準】

設定したテーマの先行研究について適切に収集・レビューできているか。
あらかじめ設定した形式に則って、論文が作成されているか。
期日までに、卒業論文にふさわしいレベル・分量の論文を提出できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100	0	0	0

【テキスト】

・指定しない。

【参考図書】

・適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	澤田 節子

【授業の目的と概要】

研究の進め方・まとめ方について基本的知識・技術を学びます。
専門演習の学習を活かし、自分が興味・関心を持った事柄や疑問・未知の現象について問題意識を特定できるようにし、研究課題に関する論文や専門書を読むことをとおして視野を広げ深めます。
ここでは専門演習を活用しながら、レポートの作成手順に沿って、卒業論文としてまとめることを目的とします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	卒業研究について、指定期日までに履修登録をする。
第2回	研究計画書の再確認	研究の目的と概要、先行研究（文献の概略）、用語の定義、研究方法、分析方法など研究計画書の再確認をする。
第3回	調査計画（調査票）の作成	研究課題に沿って、調査票等（予備テスト）を作成する。
第4回	調査の開始	調査計画に従い、実験、調査、事例研究などを開始する。
第5回	調査の実施	調査計画に従い、実験、調査、事例研究などを実施する(友人等の協力を得る)。
第6回	調査結果の整理	結果の分類・整理をする。
第7回	調査のまとめ	結果の整理をする（図表の作成など)。
第8回	中間発表	調査結果をまとめ、発表する（概略のまとめ)。
第9回	草稿の執筆	結果を執筆する（レポート作成の手順に沿う)。
第10回	草稿の執筆（論文の構成）	論文の構成を考える（研究の成果を章ごとに整理し、検討をする)。
第11回	草稿の執筆（考察）	考察・結論を執筆する（結果の再確認、文献等の比較)。
第12回	草稿の執筆（論文の推敲）	草稿の推敲をする（文章等を練りなおす)。
第13回	草稿の執筆（概略の作成）	草稿の点検、概略を執筆する。
第14回	ゼミ内での発表	論文の発表をすると共に友人の発表を聞き、意見交換をする。
第15回	まとめ	論文の提出、全体のまとめ

【授業の到達目標】

①研究課題にそって、文献等を幅広く収集することができる。
②研究課題にそって、調査票等を作成し、データを収集することができる。
③レポート作成の手順に沿って、卒業論文を作成することができる。

【事前・事後学習】

事前・事後ともに、自主的・主体的に自己学習をすることができる。
①研究テーマにそった調査やデータの収集ができるよう事前に準備することができる。
②研究計画書に沿って論文作成に取り組み、適宜、進捗状況を報告することができる。

【成績評価基準】

卒業論文は、一定の研究レベルに達していることとする。
①設定したテーマの先行研究について、文献検索し概略をまとめているか。
②論文の構成にそって、10,000字以上の記述で、期日までに提出できたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100%	0	0	0

【テキスト】

・適宜、文献を紹介します。

【参考図書】

・適宜、文献を紹介します。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4905	卒　　業　　研　　究	4年	ー	4単位	選択	尚 爾華

【授業の目的と概要】

健康づくり指導者として、研究対象者の健康管理をサポートするプログラムを作成し、実施する。プログラム終了後、得られたデータをまとめ、集計解析し、卒業論文を作成する。

専門演習の学習を活かし、研究の計画から、実施、最後に卒業論文を仕上げるまで各自で完成させることを目的とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	卒業研究のガイダンス	卒業研究の流れ、論文･ゼミ発表について説明し、グループ分けをする
第2回	サポート対象者の決定、サポート対象者の基本情報の調査、健康づくりプランの作成	グループを結成し、健康管理の対象者を選定し、インフォームド･コンセントを行う。生活習慣に関するアンケート調査を行う。健康づくりプランを作成する。
第3回	初回説明やサポート対象者の体力測定	健康状態のチェック、体力測定する。対象者にあったプランを仕上げる。
第4回	対象者の実施状況のチェック及び健康づくりプランの修正	5. サポート対象者の実施状況を細かく聞き取り調査をし、問題点を指摘し、改善方法を提案する。健康づくりプランを見直し、サポート対象者の状況に合わせて修正する。
第5回	対象者の実施状況のチェックと中間体力測定、対象者とミーティングを実施する。	6. 中間測定（メディカルチェック、体力測定）を行う。サポート対象者の実施状況を細かく聞き取り調査をする。
第6回	対象者の体力測定をし、その結果について説明する	サポート対象者の最終メディカルチェックと体力測定をする。サポートを終了にあたり、次に目指す目標を提示し、今後の健康づくりにアドバイスをする。
第7回	調査データの入力とデータの集計	専門演習Ⅲで得られたデータを整理し、エクセルを利用し、入力する。データを統計手法で集計する。統計ミスのないようグループ間でお互いチェックする。
第8回	参考図書を図書館で探し、参考論文をオンラインで収集する	図書館を利用し、先行研究や参考図書を探し、10冊以上を借りて参考する。情報システムセンターを利用し、オンラインで（医中誌など）参考文献を集める。
第9回	論文のタイトル、全体の構成を決める	適切なタイトルを決めて、論文の全体構成を決める。
第10回	論文の図表、研究目的、研究対象者、研究期間の文章を作成する	図と表をパソコンで作成する。研究目的、研究対象者、研究期間などについて文章を作成する。
第11回	研究方法、研究結果、考察、まとめ、参考文献の文章を作成する	研究方法、研究結果、考察、まとめ、参考文献について文章を作成する。参考文献の順番と書式などを確認する。
第12回	著者、連絡先を作成し、全体を確認する	著者、連絡先などについて文章を作成し、全体を確認する。
第13回	論文に関する中間報告会	全員が各自で作成した論文を印刷し、10分間の発表をする。教員や他の学生から質問やアドバイスを受ける。
第14回	論文を修正し、最終校正をする。	発表会で受けたアドバイスに基づき、論文を修正し、再度確認する。論文全体の内容や構成を最終チェックし、最終版を印刷し、提出する。
第15回	発表会	ゼミ合同発表会で代表グループは10分間、研究内容を発表する。

【授業の到達目標】

①サポート対象者へ適切なサポートができるか。
②データを集計解析し、卒業論文としてまとめることができるか。

【事前･事後学習】

論文の書き方について、図書館などで資料を集めて、予習復習する。

【成績評価基準】

①計画通りに論文作成ができるか。
②積極的に問題解決する姿勢があるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･資料を配布する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	橘 廣

【授業の目的と概要】

この卒業研究は専門演習Ⅰ～Ⅳの学修の総まとめとなる。これまでの演習で学んだことを基礎に、人間理解を助けるさまざまな研究領域の中から興味関心のある研究テーマを選択し、実験・調査し、卒業研究としてまとめることを目的とする。各自の問題意識に適した資料提供など個人的なサポートをする。適宜、中間的な研究成果をゼミ内で報告し、ゼミ学生間で意見交換をする。最終的に、各自卒業研究としての論文をまとめ提出する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究テーマと問題意識を考える	学生時代の集大成となる論文の研究テーマと問題意識を絞り込んでいく。
第2回	研究テーマ決定と問題意識の明確化	問題意識を明確化し、研究テーマを決定する。
第3回	テーマに関わる先行研究の検討	研究テーマに関係する先行研究を最新の雑誌などで調べる。
第4回	テーマに関わる先行研究のまとめ	研究テーマに関係する先行研究を最新の雑誌などで調べまとめる。
第5回	研究の問題設定	研究テーマに関係する先行研究から問題設定を考える。
第6回	論文の構成	論文の構成を考える。
第7回	研究計画	実験あるいは調査の研究計画をたてる。
第8回	予備実験・予備調査の実施	予備実験あるいは予備調査を行い、研究計画をチェックする。
第9回	実験・調査の実施	実験・調査を実施する。他のメンバーの実験・調査の参加者にもなる。
第10回	データ処理	実験・調査から得られたデータを処理する。
第11回	結果と考察のまとめ	実験・調査から得られたデータを処理し、結果と考察をまとめる。
第12回	論文作成	論文を作成する。
第13回	論文作成と研究発表の準備	論文を作成し、研究発表の内容構成、プレゼンテーションの準備をする。
第14回	研究発表	研究成果を発表し、討論に参加する。
第15回	まとめ	まとめを行い、研究論文を提出する。

【授業の到達目標】

人間と心理・教育に関する研究、能力の向上に関する研究を基盤とし、その中で興味関心のあるテーマを選択し、卒業研究としての内容や字数など条件を満たした論文を作成すること、研究発表を行い、討論に参加できることを到達目標とする。

【事前・事後学習】

各自の問題意識に適した資料提供など、実験や調査の過程、論文作成過程で個人的なサポートを行う。より良い卒業研究の論文作成のために常に積極的に取り組んでほしい。

【成績評価基準】

論文などが一定の研究レベルに達していることとする。また、論文の字数は10,000字以上を目安とする。平素の研究姿勢、研究発表、討論とあわせて総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	80	0	0	20（研究姿勢、研究発表、討論）

【テキスト】

・適時資料を配布する。

【参考図書】

・適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	谷村 祐子

【授業の目的と概要】

「運動・休養・栄養」について最も関心のある現象から、課題を設定し、論理的思考に基づいた研究計画・研究論文を執筆することを目的とします。

専門演習と連動して、自身で知識を深める積極的な姿勢が求められます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究計画書の提出	研究計画及びスケジュールについて報告する
第2回	研究計画遺書の修正	研究計画について、教員と相談し修正を行う
第3回	実験及び調査の実施①	実験及び調査の実施するための準備・実施を行う①
第4回	実験及び調査の実施②	実験及び調査の実施するための準備・実施を行う②
第5回	方法の執筆	方法を執筆する
第6回	結果のめとめ	調査結果及びデータを処理する
第7回	諸言の執筆	諸言を執筆する
第8回	先行研究のレビューの執筆	先行研究のレビューを執筆する
第9回	考察の執筆	考察を執筆する
第10回	論文（第１稿）の提出	論文全体を完成させて、第１稿を完成する
第11回	論文の検討	論文の矛盾点や修正点を教員と相談して再考する
第12回	論文の推敲	論文のストーリーの一貫性及び体裁の確認
第13回	論文（第2稿）の提出	完成論文を提出する
第14回	研究発表会	研究成果を履修者間で発表する
第15回	論文の再考・最終稿の提出	発表にて指摘された部分を修正のうえ、提出

【授業の到達目標】

ある事象に対しての問題設定を適切にすることができる。
問題に対して、適切な方法を用いることができる。
データに対して、適切に処理することができる。
論理的な文章を書くことができる。

【事前・事後学習】

論文指導は個々に対応して行うため、自身で計画的に報告・連絡・相談をすること。

【成績評価基準】

設定したテーマの先行研究についてのレビュー、課題設定と方法の選択、データの適切な処理及び考察などが一定レベル以上に達していることとする。
論文の字数は10,000字以上とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100	0	0	0

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・適宜紹介する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH4905	卒　　業　　研　　究	4年	ー	4単位	選択	中野 匡隆

【授業の目的と概要】

研究の進め方･まとめ方について基本的知識･技術を学びます。
専門演習の学習を活かし、自分が興味･関心を持った事柄や疑問･未知の現象について問題意識を特定できるようにし、研究課題に関する論文や専門書を読むことをとおして視野を広げ深めます。
ここでは専門演習を活用しながら、レポートの作成手順に沿って、卒業論文としてまとめることを目的とします。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	卒業研究について、指定期日までに履修登録をする
第2回	研究計画書の再確認	研究の目的と概要、先行研究（文献の概略）、用語の定義、研究方法、分析方法など
第3回	調査計画（調査票）の作成	研究課題に沿って、調査票等（予備テスト）を作成する
第4回	調査の開始	調査計画に従い、実験、調査、事例研究などを開始する
第5回	調査の実施	調査計画に従い、実験、調査、事例研究などを実施する（友人等の協力を得る）
第6回	調査結果の整理	結果の分類･整理をする
第7回	調査のまとめ	結果の整理をする（図表の作成など）
第8回	中間発表	調査結果をまとめ、発表する（概略のまとめ）
第9回	草稿の執筆	結果を書く（レポート作成の手順に沿う）
第10回	草稿の執筆（論文の構成）	レポートの構成を考える（研究の成果を章ごとに整理し、検討をする）
第11回	草稿の執筆（考察）	考察･結論を執筆する（結果の再確認、文献等の比較）
第12回	草稿の執筆（論文の推敲）	推敲する（文章等を練りなおす）
第13回	草稿の執筆（概略の作成）	レポートの点検、論文の概略を執筆する
第14回	個人の発表	概略を発表する、友人の発表を聞く（意見交換）
第15回	まとめ	レポートの提出、全体のまとめ

【授業の到達目標】

①研究課題に沿って調査票等を作成し、データを収集することができる。
②レポート作成の手順に沿って、卒業論文を作成、概要を発表することができる。

【事前･事後学習】

事前･事後ともに、自主的･主体的な自己学習をすることができる。
①自分の研究課題に沿って、文献等を幅広く収集し、内容をまとめることができる。
②レポートの作成について、積極的な取り組みができるようにする。

【成績評価基準】

論文、現場実習など、一定の研究レベルに達していることとする。
①論文の構成に従い、10,000字以上の記述で、期日までに提出できたか。
②設定したテーマの先行研究について、文献検索し概略をまとめているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0%	100%	0%	0%	0%

【テキスト】

･適宜、文献を紹介します。

【参考図書】

･適宜、文献を紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

自分の最も関心のある心理的事象について実証的に分析し、論文にまとめる。専門演習で絞り込んできたテーマに対し、調査や実験を行いデータを収集する。あるいは新しいテーマで文献の収集、仮説の設定を行い、それに対するデータ収集を行ってもかまわない。そして、それらの集計、統計的処理を行い結果を考察する。学期末には書きあがったものを相互に発表する。指導担当分野は、臨床心理学全般とし、とくに、児童期･思春期･青年期の心理的問題を対象とした取り組みを期待している。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習Ⅳの概要、事前事後学習、受講の注意点
第2回	論拠を見つける（1）先行研究を探す	論文、本、雑誌、新聞等から「焦点化された問題点」を明らかにする論拠を探す。
第3回	論拠を見つける（2）アンケートの作成	先行研究の調査やインタビューを参考にアンケートの作成を行い、実施する。
第4回	論拠を見つける（3）インタビューを行う	「焦点化された問題点」を明らかにするためのインタビューを行う。
第5回	論拠を見つける（4）グループ討議	各自の論拠に関してグループで討議を行う。
第6回	プレゼンテーションの方法	パワーポイントなどを使ったプレゼンテーションの仕方を説明する。
第7回	アンケートの集計･分析を行う	アンケートのデーター覧の作り方、分析の仕方、グラフの作り方を説明する。
第8回	結果と考察を書く	手に入れた資料やデータから結果を導き出し、それを考察する。
第9回	全体の流れを作る	序論、方法、結果、考察と部分的にはできあがっているので、それを全体として書いていく。
第10回	卒業研究の中間提出	この回までに卒業研究を仕上げて提出する。個別に修正部分の指摘。
第11回	卒業研究の最終仕上げ	修正された部分に対して、資料等を集め直し書き直しをする。
第12回	卒業研究の提出　最終の修正	この回までに卒業研究の最終仕上げを行い提出する。修正箇所を訂正する。
第13回	ゼミ内での卒業研究の発表　代表者の選考	ゼミ内において、全員がプレゼンテーションを行う。
第14回	まとめ	専門演習Ⅳのまとめと振り返り。
第15回	卒業研究発表会	ゼミ内で選ばれた代表者が全体会で発表する。

【授業の到達目標】

1大学生として妥当なテーマを見つけることができる。2自ら見つけた問題点を明らかにするための方法を考えることができる。3資料の読み込みやデータの分析を行うことができる。4卒業研究を仕上げることができる。

【事前･事後学習】

各段階ごとに提出期限が明示されている。遅れないように作成すること。

【成績評価基準】

1大学生として妥当なテーマを見つけることができたか　2自ら見つけた問題点を明らかにするための方法を考えることができたか。3資料の読み込みやデータの分析が正確に行えたか。　4卒業研究の仕上がり状況。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	100	0	0	0

【テキスト】

･テキストは使用しない。

【参考図書】

･参考文献は授業内で紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

各自の定めたテーマに沿って、先行文献研究、または調査研究の手法でデータの収集を行い、そのデータを基にまとめたものを論文にまとめる。そのことは、専門知識と研究方法を問題解決に利用できる能力を修得することであり、さらに計画的に問題解決を遂行する能力を身につけることを目的として、個別のテーマを持って研究を実施するものである。また、論文作成や発表会を通して、基本的なプレゼンテーション能力を養う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	レポートと卒論の違いの明確化	文章を書くことの意義、意見や考えを取り入れる方法、提言を伝える手段を学ぶ
第2回	執筆の時のルール	卒論執筆にあたってのルール、脚注、頁数、文献や統計･図表の引用方法を学ぶ
第3回	ワープロとパソコンの利用方法	ワープロ執筆の方法、文献検索の手法、その他電子媒体などの活用方法を学ぶ
第4回	社会福祉学の基礎知識	社会福祉固有の基礎用語と専門用語についての理解を深め、論文に関連付けること
第5回	社会福祉学の枠組み	高齢者、障害者、児童、母子、地域の福祉の枠組みを理解し、論文に反映させる
第6回	社会福祉学の学び方	サービス利用者やサービスの供給主体、サービスの方法を理解し、論文に反映させる
第7回	卒論のテーマへの対応（1）	テーマについての目次の作成、テーマの参考文献選択を実施する
第8回	卒論のテーマへの対応（2）	テーマについての論点と関連記述、表現方法を学ぶ
第9回	卒論のストーリーへの対応（1）	結論に至るまでの焦点の提示方法、課題としての狙いの把握ができる
第10回	卒論のストーリーへの対応（2）	学説や事例の整理ができること、卒論のレジュメが作成できること
第11回	執筆スケジュールの確認	教員がテーマ選択から執筆までのプロセスの理解、データ収集の適格性を確認する
第12回	参考文献の収集、活用	卒論の進捗状況の確認と参考文献の適格性を指導、調査の倫理審査も確認する
第13回	様式と体裁についての指導	卒論の目次、表紙、調査用紙、配列、引用文献、参考文献などの再確認
第14回	卒論のレジュメ作成	卒論の序論･本論･結論の三段階を理解し、卒論の動機や目的を議論できるようにする
第15回	卒論のゼミ内発表	完成した論文についての各ゼミ生の発表によるコメントで最終的に手直し

【授業の到達目標】

1．研究テーマの目的を、社会的背景や既往の研究と関連付けて説明できる
2．研究目的に沿って文献研究または調査研究を遂行し、その結果をコレクション（収集･記録）し、的確に整理できる
3．得られた先行研究やデータから導かれる仮説や解釈を正しく説明できる
4．コレクションの成果を取りまとめ、論理的に文章で記述できる
5．研究成果を口頭で発表し、討論において的確に受け答えができること。

【事前･事後学習】

前期では、卒論研究計画の立案と実施が第一であるので、各自が設定した計画に基づいて、文献調査、アンケート調査が進められるように、準備をすること。その進行状況にあわせて毎回のゼミではその経過報告を行うので、その準備をすること。後期では、卒業研究のまとめと執筆に重点があるので、前期に収集したデータを整理し、分析できるように毎回ゼミに向けて事前に学習をし、特に年度末の発表会に向け、その準備を行なう。そして最終的に論文の完成に向けて、指摘された箇所の修正など鋭意事後学習の努力を惜しまないこと。

【成績評価基準】

1．記述している卒論研究ノートに基づく調査遂行能力
2．中間発表会及び卒業研究発表会
3．研究テーマの内容の理解度と調査の手法と取り組み姿勢
4．発表会の内容、プレゼンテーション能力、専門知識の理解度、論理的な意思伝達能力5．文章表現力と表現内容（字数は１００００字以上とする）

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
HH4905	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	村上　恭子

【授業の目的と概要】

スポーツや健康に関して興味あるテーマを選択して，文献研究を深めた論文の書き方を身につける。その調べた内容を，聞き手にわかり易く説明できる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究計画書の提出と報告	卒業論文のテーマ及び執筆計画について，報告する。
第2回	調査の実施	論文執筆に必要な調査を実施し，進捗状況を報告する。
第3回	調査結果の報告	調査結果を分析し，成果を報告する。
第4回	論文構成を考える	調査結果に基づき，論文全体の構成を考える。
第5回	研究概要の報告	今までの調査結果をもとに研究概要の報告を行う。
第6回	研究計画書の修正	計画書の修正をもとに必要な資料を追加する。
第7回	本論の執筆1	根拠に基づいて，本論を執筆する。
第8回	本論の執筆2	根拠に基づいて，本論を執筆する。
第9回	結論と考察の検討	本論から導き出された結果と考察を報告する。
第10回	中間発表	今までの論文内容を発表することにより，相互評価を行う。
第11回	目的と結論の検討	目的と結論の整合性を検討する。
第12回	論文全体の推敲	論文全体の一貫性を高めるように推敲をする。
第13回	論文の提出	完成論文(第1稿)を提出する。
第14回	卒業研究発表会	卒論発表会に参加をして相互に学びあう。
第15回	論文の修正と最終提出	発表会の議論を踏まえて第1稿を修正して，提出する。

【授業の到達目標】

1.文献研究の結果を報告できる。
2.論文の書き方を身につけることができる。
3.自分の研究内容を，聞く人にわかりやすく説明することができる。

【事前・事後学習】

毎時間発表を行うので，各自のテーマに関して，文献を読んだり，調査した結果をまとめておくこと。

【成績評価基準】

1.文献研究のレポートを作成することができる。
2.筋の通った論文を作成することができる。
3.論文の文字数は、最少10000文字以上を目安とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
なし	70	30	なし	なし

【テキスト】

·適宜紹介をする

【参考図書】

·井下千以子『思考を鍛えるレポート·論文作成法』慶応義塾大学出版

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	東 邦 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	3･4年	後期	2単位	選択	上條 憲二

【授業の目的と概要】

自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「今よりもうちょっとまちを元気に！」をテーマに「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。授業の前半では、必要なスキルを学び（座学）、学んだスキルを活かしながら（フィールドワーク等のアクティブラーニング）論理的思考力･コミュニケーション力･課題解決力等を養う。授業の後半ではPBL（課題解決型学習）手法を用いる。地域連携を前提として自ら想像し、創造する「答えのない」学びのプロジェクトを展開する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ブリーフィング	東邦プロジェクトとは何か。これまでの活動内容。
第2回	企画立案の方法	企画立案の基本的知識の説明
第3回	東邦プロジェクトとしての活動内容の検討	活動内容を発表し、何をテーマにするか決定する。
第4回	活動内容の発表と決定	チームによる検討と実施。
第5回	チームによる分科会(課題の設定)	チームとして何をすべきか。どのようにすすめるべきかを検討する。
第6回	チームによる分科会(外部環境の分析)	テーマを推進するにあてったの外部環境の問題点、機会点の検討。
第7回	チームによる分科会(swotの推進)	テーマ推進に際するswotを行うことにより、方針を定める。
第8回	チームによる分科会(具体的な活動)	テーマ推進のための具体的な活動のライアル
第9回	チームによる分科会(活動を通じての課題点議論)	実際に推進してみてどのような課題があったかを確認
第10回	チームによる分科会(具体的な活動推進)	テーマ推進のためにチームとして活動する
第11回	チームメンバー各自の活動確認	各自の行動をチーム内で発表し、進捗状況を確認する
第12回	活動内容中間発表	進捗状況報告とディスカッション。
第13回	チームによる分科会(活動の修正について確認)	活動の推進方法に関して修正点、改善点を議論する。
第14回	チームによる分科会(成果の確認)	テーマ推進の結果、どのような成果があったかを確認する。
第15回	まとめ	プロジェクトの総括と以降の進め方の確認。

【授業の到達目標】

地域の課題に対して意識を持つことができるか。
具体的に企画を立案し、実行に移すことができるか。
異なる意見を聞きながら、全体を進めることができるか。
社会人としての基本的な能力を身につけることができるか。

【事前･事後学習】

テーマに合わせて企画立案の準備を行う。
テーマに合わせた資料の収集。
企画書のための文書作成の練習。
プレゼンテーションの練習。

【成績評価基準】

自ら主体的に参加し、他者に働きかけることができるか。
企画を立案し、企画書を作成することができるか。
プレゼンテーションをすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20%	80%	0	0

【テキスト】

･必要に応じて紹介します。

【参考図書】

･必要に応じて紹介します。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	東 邦 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	3･4年	後期	2単位	選択	舩木 恵一

【授業の目的と概要】

本プロジェクトは、学生が主体的に地域における資源（モノ･ヒト･コト）に焦点をあて、大学と連携した活動を企画制作し、地域コミュニティに貢献することを通じて、企業や団体の社会的責任や公共性、コラボレーション活動の企画･提案･運営を学ぶことを目的とします。プロジェクト参加を通じて、発想力･行動力･アイデア開発･実践力を身に着けることを目指します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション～半期行動計画作成	メンバーの自己紹介とプロジェクト参加目的の発表
第2回	プロジェクト化アイデアのディスカッション	どのような地域資源に焦点を合せるかについての討議
第3回	プロジェクト化に向けた情報収集と整理	地域資源情報の収集と整理
第4回	連携活動のアイデア出し	プロジェクトとして連携する活動アイデアの討議
第5回	プロジェクト概要の決定	焦点をあてる地域資源と連携方法のまとめ～プロジェクトのネーミング化
第6回	プロジェクト行動計画の策定	プロジェクトの日程を決める
第7回	前半のまとめ	前半の活動をふりかえる
第8回	連携先への企画提案書作成	連携先への企画提案書を作成する
第9回	連携先への提案活動	連携先への提案活動を行う
第10回	フィードバックを受け取る	提案のフィードバックを受け取る
第11回	企画案の修正	フィードバックに基づき企画案を修正する
第12回	プロジェクト準備	プロジェクトの準備を行う
第13回	プロジェクト実施	プロジェクトを実施する
第14回	プロジェクトの総括と報告書作成	取り組んだプロジェクトの総括を行い、報告書化する
第15回	プロジェクト成果の発表	取り組んだプロジェクトの成果を発表する

【授業の到達目標】

学生主導による地域資源の発掘と連携作業の企画提案によって、地域貢献につながる何らかの活動の実施ができること。

【事前･事後学習】

前半においては、連携可能な地域資源への積極的な発掘、好奇心の維持、後半においては、その資源周辺課題の理解と、連携による活性化施策のアイデアを常に考えること。

【成績評価基準】

プロジェクトの推進を前提に、各自の積極性･協調性･企画開発力･リーダーシップの発揮･文書作成力･渉外活動力･資料収集力･事務処理力･報告能力などを、分担した役割を含めて、総合的に判断いたします。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	40	0	60 実行したプロジェクトの内容、精度、成果に基づく判断を行います

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･必要に応じて紹介します。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	東邦プロジェクトⅠ	3・4年	後期	2単位	選択	長坂 康代

【授業の目的と概要】

自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「今よりもうちょっとまちを元気に！」をテーマに「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。授業の前半では、必要なスキルを学び（座学）、学んだスキルを活かしながら（フィールドワーク等のアクティブラーニング）論理的思考力・コミュニケーション力・課題解決力等を養う。授業の後半ではPBL（課題解決型学習）手法を用いる。地域連携を前提として自ら想像し、創造する「答えのない」学びのプロジェクトを展開する。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション―多文化共生とは	授業の内容や目標を理解し、授業の進め方を確認する。多文化共生社会について学ぶ。
第2回	多文化共生（1） 多様な性を理解する	時事問題である性的少数者（ＬＧＢＴ）について学び、マイノリティの立場を考える。
第3回	多文化共生（2） 多様な結婚のかたちを受容する	多様化する結婚の形態について学び、日本 - 世界の社会の変容を知る。
第4回	多文化共生（3） 出産の多様化を考える	生殖医療の発展について学び、その是非やビジネスのあり方について話し合う。
第5回	多文化共生（4） 障がい者の視点に立つ	社会の周縁に置かれがちな障がい者について学び、自分の生活や生き方を見直す機会にする。
第6回	名駅フィールドワークのための事前学習	名駅周辺の歴史について調べる。
第7回	名駅フィールドワーク（1） 多文化共生の現場を歩く	名駅周辺を実際に歩き、今後の調査に関する内容を把握する。都市のまちづくりについて考える。
第8回	まとめ（1）と次回のフィールドワーク準備	街歩きをして気づいたことをまとめる。次回の準備として、イスラームに関して学ぶ。
第9回	名駅フィールドワーク（2） モスク見学・ハラル食材店視察	名古屋モスクを見学して説明を受ける。また、海外の食品を扱う食材店に行き、聞き取り調査をおこなう。
第10回	まとめ（2）と次回のフィールドワーク準備	イスラームについて理解を深めたことをまとめる。次回の準備として、ホームレスの生活について学ぶ。
第11回	名駅フィールドワーク（3） ホームレス問題	ホームレス支援をしている団体やその場所に行き、聞き取り調査をおこなう。
第12回	まとめ（3）とプロジェクト案作成に向けた準備	ホームレスに関わる人びとから聞いたことをまとめる。
第13回	「まちの活性化プロジェクト案」作成	企画書の形式を学び、「まちの活性化プロジェクト案」を作成する。
第14回	「まちの活性化プロジェクト案」報告会	作成した案の報告会を行う。他の意見を聞き、最終案として完成させる。
第15回	まとめ（活動レポートの作成と振り返り）	ミニレポートを作成し、自己評価をおこなう。

【授業の到達目標】

自分たち同類だけが生きているのではないことを知り、多文化共生について理解できる。
他の受講者との共同作業を積極的におこなうことができる。
他者や異文化のなかに、自分が培ってきた文化や習慣との共通性を見出せるような類推力や、相手の立場で考えて配慮できるような想像力を培うことを学ぶことができる。

【事前・事後学習】

新聞やテレビの報道などを通して、社会がどのように動いているか意識する。
通学時に周りの様子に気を配り、プロジェクトにつながることがないか考える。
これまで「見て見ぬふり」「他人事」として捉えてきたことに対し、その立場で考えることができるように意識する。

【成績評価基準】

授業の内容やフィールドワークを通して、多文化共生について理解することができたか。
他の受講者とコミュニケーションをとりながら作業することができたか。
他者や異文化のなかに、自分が培ってきた文化や習慣との共通性を見出せるような類推力や、相手の立場で考えて配慮できるような想像力を培うことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	80	0	20(ミニレポート10、自己評価10)

【テキスト】

・授業中に適宜資料を配布する。

【参考図書】

・授業中に紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
-	東 邦 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ	3・4年	前期	2単位	選択	長坂 康代

【授業の目的と概要】

自主的に学ぶ中で「個々が目指す社会人」に必要な力（就業力等）を身に付けることを目的とし、「東邦プロジェクトA」で計画した「まちの活性化プロジェクト」を実践する。授業スタイルは地域連携PBL（課題解決型学習）とし、PBL手法を用いる。原則として実践に必要なこと全てを学生自身が主体となって、学内・学外の協力者と交渉しながらプロジェクトを実践していく。実践に必要なスキルや情報を修得できるよう、適宜、座学での学びを取り入れていく。以上の内容を演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション―多文化共生と地域福祉について	授業の内容と進め方を確認し、地域社会の福祉活動についてイメージする。
第2回	「企画案」の作成、ビブス制作の検討	大学周辺で奉仕活動場所を探し、ビブスのデザインや企業探しをする。必要に応じて、対象者にアポイントをとって交渉する。
第3回	「企画案」の検討、ビブス制作に関する交渉と依頼	企画案を遂行できるか検討する。必要に応じて、対象者にアポイントをとって交渉する。
第4回	地域社会の奉仕活動の準備	活動場所と内容を確認する。必要に応じて、対象者にアポイントをとって交渉する。
第5回	地域社会の奉仕活動（1）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第6回	地域社会の奉仕活動（2）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第7回	地域社会の奉仕活動（3）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第8回	地域社会の奉仕活動（4）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第9回	活動の小まとめと中間報告	これまでの活動で、変更や見直しがあれば検討する。
第10回	地域社会の奉仕活動（5）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第11回	地域社会の奉仕活動（6）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第12回	地域社会の奉仕活動（7）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第13回	地域社会の奉仕活動（8）	企画案に基づいて、愛知東邦大学周辺で奉仕活動を実施する。
第14回	活動報告プレゼン資料作成	活動報告会のプレゼン資料を作成する。活動の継続（後期）に向けて検討する。
第15回	まとめ（活動レポートの作成と振り返り）	活動を振り返り、ミニレポートをまとめる。

【授業の到達目標】

自ら課題を設定し、課題解決のための情報収集・分析・計画立案（具体的解決策）を考え、実行することができる。

【事前・事後学習】

愛知東邦大学周辺で、清掃が必要な地域があるか気を配る。

【成績評価基準】

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	80	0	20(ミニレポート10、自己評価10)

【テキスト】

・授業中に適宜資料などを配布する

【参考図書】

・授業中に紹介する

子ども発達学科
ゼミナール

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	専　門　演　習　Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

本ゼミの目的は、2年間のゼミ活動を通し、わが国の子ども･子育て支援または社会的養護の現状と課題を理解し、専門職として子どもや家族を支援するために必要となる資質と人間性の向上および基礎的な実践力を育成することが目的である。
本年度は、とだがわこどもランドとの共催事業を本ゼミが主導しながら3年生と共同で実施しながら引き継ぐ。そして、1年半におよぶフィールドワークを通して感じた問題関心を卒業研究テーマとして明確化することを目的とする。
見学やフィールドワークへの参加を義務づけるが、実施日時は先方との調整の上実施するため、週末などゼミ時間以外になる場合もあるが、予定を開けておくこと。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修オリエンテーション･役割分担	専門演習Ⅰの履修オリエンテーションを行う。ゼミ運営のための役割分担を決める。
第2回	3･4年生合同ゼミ　～2015年度とだがわこどもランドとの共催事業の報告～	3･4年生合同ゼミとして、昨年実施したとだがわこどもランドとの共催事業の報告をするとともに、3･4年生間の交流を図る。
第3回	とだがわこどもランド共催企画打ち合わせ	今年度実施予定のとだがわこどもランド共催企画に向けての打ち合わせを行う。
第4回	とだがわこどもランド共催企画準備作業	とだがわこどもランドとの共催企画に向けて、4年ゼミ独自で担当する役割の準備作業を実施する。
第5回	とだがわこどもランド訪問打ち合わせに向けて3年生へのレクチャー	とだがわこどもランド訪問打ち合わせの最終確認と3年生へのレクチャーを行う。
第6回	とだがわこどもランドを訪問しての最終打ち合わせ	とだがわこどもランドを訪問しての最終打ち合わせを3年生と合同で行う。
第7回	とだがわこどもランド企画準備･3年生との合同ゼミでの打ち合わせと役割分担の確認	4年生としての打ち合わせを行った後、3年生と合同で当日の予定と役割分担の最終確認を行う。
第8回	とだがわこどもランド共催企画の実施	とだがわこどもランドにおいて、3年生と合同で共催企画を実施する。
第9回	とだがわこどもランド共催企画を終えての振り返りと分かち合い	とだがわこどもらんどにおける共催事業を終えて､振り返りと分かち合いを実施する。
第10回	フィールドワーク事前学習（施設）	児童福祉施設におけるフィールドワークの事前学習を行う。
第11回	児童福祉施設フィールドワーク	児童福祉施設におけるフィールドワークを行う。
第12回	フィールドワークの振り返り（施設）と事前学習（プレイパーク）	児童福祉施設におけるフィールドワークの振り返りとプレイパークにおいて実施するフィールドワークの事前学習を行う。
第13回	プレイパークフィールドワーク	プレイパークへにおけるフィールドワークを行う。
第14回	フィールドワークの振り返り	プレイパークへにおけるフィールドワークの振り返りを行う。
第15回	まとめと後期の予定	これまでの活動を振り返りながら総括するとともに、卒業研究に対する問題関心の明確化を図る。

【授業の到達目標】

1．子ども･子育て支援や社会的養護の現状と課題を理解できる
2．保育者･教育者として必要な資質や人間力の向上ができる
3．子どもや家族を支援するために求められる基礎的な方法や技術を体得できる
4．リーダーシップとフォローシップを体験的に理解し、ゼミ生同士の交流を深めて仲間づくりができる。
5．卒業研究に向けての問題関心を明確化できる

【事前･事後学習】

とだがわこどもランドや近隣の児童福祉施設へのフィールドワーク参加を義務付けるので、予定をしておくこと。また、休日等の空き時間を利用して、児童養護施設やファミリーホームなど社会的養護の現場を見学したり、ボランティア活動等を積極的に行うこと。収集した資料やパンフレット等はすべてポートフォリオにまとめて事後学習に活用すること。

【成績評価基準】

1．子ども･子育て支援や社会的養護の現状と課題を理解できるか
2．保育者･教育者として必要な資質や人間力の向上ができたか
3．子どもや家族を支援するために求められる基礎的な方法や技術を体得できたか
4．リーダーシップとフローシップを理解し、ゼミ生同士の交流を深めて仲間づくりができたか
5．卒業研究に向けての問題関心を明確化できたか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20	60	0	20 （コミュニケーション･ディスカッション･プレゼンテーション等）

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･授業時間中に随時紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	専門演習 Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	柿原 聖治

【授業の目的と概要】

子どもを取り巻く自然環境について知り、身の回りの事物、出来事などを取り上げる。安全で、ゲーム性があり、活動に富む教材・教具づくりを行い、環境に好奇心や探究心をもってかかわり，それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	電池についての性質	電池づくり
第2回	電池の製作	電磁石づくり
第3回	食塩の性質	溶けて見えなくなった食塩はどこへ
第4回	食塩の析出	塩の溶け方、塩田、塩の製法
第5回	食塩を取り出す	海水から塩を取り出す活動
第6回	ろうそくの炎	ろうそくの炎について考える
第7回	ろうそく作り	ろうそくを融かして、いろいろな形をつくる活動
第8回	折り紙を使った遊び	紙鉄砲づくり、折り紙笛づくり
第9回	色々な折り紙づくり	紙飛行機づくり、くるくる落下傘づくり
第10回	吸う息の成分	空気の種類、成分の割合
第11回	吐く息の成分	吐く息、吸う息の違いについて
第12回	植物の構造について	サボテンについて、根･茎･葉について考える
第13回	昆虫の鳴き声について	コオロギなどの鳴き声について考える
第14回	色の付いた溶液：食紅	いろいろな食紅で水に色を付ける
第15回	色の変わる溶液：指示薬	カレー粉やアサガオによる指示薬づくり

【授業の到達目標】

身近な自然現象や、日常生活の中で見る数量や文字などに興味や関心を持つようになる。

【事前・事後学習】

身近な自然や現象に興味･関心を持ち、それを深めていく。

【成績評価基準】

活動への取り組み、毎回の小テスト、レポート課題により、総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	40	0	30（活動・ものづくりへの取り組み）

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･30（活動･ものづくりへの取り組み）

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	後藤 永子

【授業の目的と概要】

健常児と障がい児をともに保育することを統合保育という。そのなかで健常児側から、障がい児側から、保育者側から、また、障がい児のいる家族、地域など、さまざまな面からの問題点を、学生一人ひとりがテーマに添って主体的に調べ、研究方法から結果、考察、まとめへと繋げることを演習の目的とする。その後、プレゼンテーションを工夫し、練習を重ね、順に発表し、全員で活発な意見交換・討論を通して、問題意識を深めていくことが、保育者として生きる基礎を養うことにもなる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	導入、統合保育の意義と現状	障がい児と共に保育する当たり前の保育の現状を理解する
第2回	健常児と障がい児をともに保育すること	健常児も障がい児もともに育つ保育のあり方を学ぶ
第3回	保育者側からの問題点について	障がい児保育の保育者側からの問題点を話しあう
第4回	障がい児と家族について保育者側からの問題点について	障がい児と家族について保育者としての援助を考える
第5回	さまざまな障がいについて	さまざまな障がい理解を復習する、自閉症スペクトラムの理解をする
第6回	ゼミ生の個々のテーマについて①個々のテーマの選択	ゼミ生の個々のテーマを決め、研究方法の吟味①選択したテーマの進め方について
第7回	ゼミ生の個々のテーマについて②個々のテーマの研究方法	ゼミ生の個々のテーマを決め、研究方法の吟味②研究方法を決め進める
第8回	保育現場の現状について	保育現場での問題点とはなにか、グレーゾーンの子どもたちと保育者の関係を理解する
第9回	保育現場に出掛ける	保育現場に出かけ問題点の聞き取りを行う
第10回	文献の講読①テーマに沿った文献の選択方法を学ぶ	文献の講読①テーマに沿った文献を探す方法を理解する
第11回	文献の講読②研究テーマに沿った文献から考察に繋げる	文献の講読②考察に繋がる文献を読み解く
第12回	テーマ別研究報告と討論①考察をもとに問題点を探り話し合う	テーマ別研究報告と討論を行う①考察を話し合い、問題点を明確にする
第13回	テーマ別研究報告と討論②中間発表を行う	テーマ別研究報告と討論を行う②中間発表をもとに話し合い、より考察を深める
第14回	問題意識を持つ保育者のあり方	健常児も障がい児も保育者もともに育つ保育の現場を理解する
第15回	まとめ	まとめをおこなう、問題意識を深めることが保育者として生きる基礎となることを理解する

【授業の到達目標】

健常児と障がい児をともに保育することを統合保育という。そのなかで健常児側から、障がい児側から、保育者側から、また、障がい児のいる家族、地域など、さまざまな面から理解ができる。

【事前・事後学習】

なぜ、統合保育・障がい児保育に関心があるのか、自分の考えを整理しておくこと、子どもについて、大切に、深く考えてみることを履修にあたっての心構えとして理解しておくこと。

【成績評価基準】

健常児と障がい児をともに保育することを統合保育という。そのなかで健常児側から、障がい児側から、保育者側から、また、障がい児のいる家族、地域など、さまざまな面から理解することができたのか。将来、保育者としての意識が明確にされたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	20(発表をもとにしたレポート)	50	0	30（発表）

【テキスト】

・特に指定はありません
・1年次購入した保育所保育指針を持参する

【参考図書】

・適宜、紹介していく

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	専門演習 Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	白井 克尚

【授業の目的と概要】

卒業研究のテーマを各自が設定して研究を進める。テーマは、すぐれた教育・保育実践の事例分析・開発研究に関することなどである。自分の研究の進行を報告しつつも、他の者の話を聞き参考にして、お互いが刺激し合い、研究を深めていく。この授業の大きな目標は、１研究テーマの決定、２研究の計画を立てる、３研究方法の確定である。同時に、話す・聞く力も育てる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	自分の研究テーマの発表	卒業研究についての説明を聞く。その上で、自分の関心のある研究テーマをいくつか発表し、卒業研究としての価値、方法は妥当か、期限までにできあがるものであるか等について検討する
第2回	研究計画の発表	自分の研究計画を発表する。研究テーマにあった研究方法であるかどうか、実際に可能な研究方法であるかを検討する。
第3回	研究方法の検討（概略）	自分の研究方法を発表する。研究テーマにあった研究方法であるかどうかを検討する。
第4回	研究に際しての倫理事項の検討	研究を行う際の個人情報の取り扱いや、文章引用の仕方など、研究倫理を学ぶ。
第5回	調査に関わる資料（アンケート項目等）の作成	調査を行う場合の質問用紙等は、繰り返し推敲する必要のあることを知る。挨拶文や言葉遣いも検討する。
第6回	調査に関わる資料（アンケート項目等）の検討	研究・調査するときのルールや礼儀を学ぶ。予備調査の完成をめざす。
第7回	研究の進行状況の発表：口頭発表	各自の研究の進行状況について、口頭で発表する。発表に際して、他の者との質疑応答をしながら、自分の研究を深める。
第8回	研究上の問題について	進行状況を報告しつつ、研究を進める上で、困難なことや手助けが必要なことについて検討する。
第9回	先行研究などについて	研究に関する先行研究について検討する。
第10回	研究方法の検討（具体的に）	各自が、自分の研究で実際に行う研究方法について、具体的に発表し、不備な点を修正したり、アイデアを入れて検討する。
第11回	研究の進行状況の発表	研究の進行状況について、レポートとして提出する。必須事項は、テーマ・研究方法・進行状況である。
第12回	調査・分析の中間発表	研究・調査を行ったものについて、結果を公表し、みんなの意見を求める。
第13回	調査・分析結果に関する製作物の作成	調査に関わる製作物を作成している者は、途中経過の報告と、今まで製作された者を展示して、みんなの意見を求める。
第14回	調査・分析の結果報告	これまでに研究調査を行ってきたものについて、できたところまでをまとめて、みんなの意見を求める。
第15回	まとめ	まとめとして、夏休みにどのような進め方をするのかを発表する。

【授業の到達目標】

自分の興味関心に基づいた研究テーマを決定することができる。
研究計画を具体的にしっかりと立てることができる。
問題意識をもち、自分で研究を進めることができる。

【事前・事後学習】

事前学習：問題に対する自分なりの考えをもって参加する。
事後学習：授業で得られた意見を、自分の研究に反映できるか考える。

【成績評価基準】

レポート：研究計画が具体的にしっかりと立てられたか。
実技試験：研究テーマの決定ができたか。
授業への参加態度：授業に積極的に参加したか。
思考力・表現力・判断力：研究について自分なりに考えて、しっかりと発表できたか。
コミュニケーション力：他者の研究発表に対して、適切な発言ができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	40	20	0

【テキスト】

・授業の中で、適宜紹介する。

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	専　門　演　習　Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	新實 広記

【授業の目的と概要】

「子どもたちに造形表現が必要である」ということを体験から学び、その意味と必要性、重要性を整理し、現代の子どもたちを取り巻く環境からも考察してみる。授業では、それぞれが進捗状況を定期的に発表しながら意見交換の時間を大切にし進めていく。そこから新たな研究の視点やヒントを得て自分の研究、問題解決に役立てていくようにする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション（授業説明、注意事項）
第2回	研究課題の設定と面談	面談を行い興味のある分野に関連した新しい研究分野などの紹介も行い研究課題の設定を行う。
第3回	研究課題の設定	研究課題の設定を行う。
第4回	資料収集1（図書資料による研究課題のリサーチ）	面談で話し合った研究課題に関する図書資料を収集する。
第5回	資料収集2（記事資料による研究課題のリサーチ）	面談で話し合った研究課題に関する記事資料を収集する。
第6回	資料収集3（論文による研究課題のリサーチ）	面談で話し合った研究課題に関する論文を収集する。
第7回	研究課題の発表	5週に渡って行ってきた、面談、資料収集から各自の研究課題を見つけその内容を発表する。
第8回	作品製作もしくはレポートの作成	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い面談を交えながらレポートの作成や作品製作を行う。
第9回	作品製作もしくはレポートの作成に基づく面談	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行いレポートの作成や作品製作を行う。
第10回	中間発表準備	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い面談を交えながらレポートの作成や作品製作を行う。
第11回	中間発表	各自が研究課題テーマに沿って行った調査､研究の進歩状況を中間発表する。
第12回	中間発表に関する面談	前回の中間発表を終え今後の進め方を面談で確認する。
第13回	作品製作もしくはレポートの作成	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行いレポートの作成や作品製作を行う。
第14回	作品製作もしくはレポートの作成と発表準備	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行いレポートの作成や作品製作、発表の準備を行う。
第15回	研究発表（研究成果の発表）	これまでの研究の成果をレポートもしくは制作物で発表し、質疑応答に答える。

【授業の到達目標】

各自が研究課題を見つけ、その課題のために様々な角度からアプローチし、資料収集、調査、研究を行いその成果を説明できる知識や力を身につける。

【事前･事後学習】

毎回行われる面談において指示するキーワード、調査、改善点を次回の授業までに行い、準備をしておく。毎週、面談を繰り返し研究を深めていく。

【成績評価基準】

積極的な授業参加を高く評価する。各自が授業の中でそれぞれの課題をみつけ、自らリサーチし発見していくことができたか。また、考え抜く力、議論を深める力、共に働く力を身につけることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50(発表)

【テキスト】

･必要に応じて授業中に指示する。

【参考図書】

･必要に応じて授業中に指示する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	専　門　演　習　Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	堀 篤実

【授業の目的と概要】

授業や実習、日常体験の中でわいてきた興味を一つに絞り、卒業研究のテーマを決定する。そして、各々のテーマに沿った研究方法を確定し、研究計画を立てる。調査、実験などを行う。また、先行研究を収集し、独自性を見いだす。各自の卒業研究だけでなく他の学生の研究について討議を行うことで、受講生意見を交換し合い、お互いが学習することができる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	ガイダンス	専門演習Ⅲの概要や受講の注意等について説明する。
第2回	研究の基礎	研究の基礎として、量的研究や質的研究などの研究のタイプについて学習する。
第3回	研究テーマの決定プロセス	問題意識をあたため、研究テーマの決定のプロセスを学習する。
第4回	研究情報の収集（1）文献検索のコツ、先行研究の取り寄せ方	先行研究の文献検索のコツや先行研究の取り寄せ方について学習する。
第5回	研究情報の収集（2）先行研究のまとめ方	先行研究の読み込み方やデータの読み方、まとめ方を学習する。
第6回	研究テーマの決定	各自の研究テーマ（心理など）の沿った先行研究を持ちより、文献を読み込み討論する。
第7回	先行研究の読み込む（1）心理など	各自の研究テーマ（発達など）の沿った先行研究を持ちより、文献を読み込み討論する。
第8回	先行研究の読み込み（2）発達など	各自の研究テーマを決め、グループ内で発表し、討論する。
第9回	研究のタイプ	各自のテーマに沿った研究のタイプを決め、グループ内で発表し、討論する。
第10回	量的研究（質問紙法など）	量的研究の進め方、まとめ方について理解する。
第11回	質的研究（事例研究など）	質的研究の進め方、まとめ方について理解する。
第12回	研究における倫理	研究を進めるうえでの許可の取り方や情報の扱いなどについて学習する。
第13回	研究計画の作成	各自のテーマで研究計画を作成する。
第14回	研究計画の検討	各自の研究計画をグループ内で発表し、討議を行う。
第15回	まとめ	専門演習Ⅲのまとめと振り返りをし、夏休みの各自のテーマに沿った課題について話し合う。

【授業の到達目標】

研究のテーマを決定する。
研究のテーマと内容に沿った計画を立てることができる。

【事前･事後学習】

各自のテーマに沿ったキーワードについて毎回調べてくる。
授業後は授業での検討をもとに、各自の研究を研鑽する。

【成績評価基準】

研究のテーマを明確に決定できているか。
研究のテーマと内容に沿った計画を立てることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

･特になし。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担当者名
-	専門演習Ⅲ	4年	前期	2単位	必修	矢内 淑子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅰ･Ⅱに続く演習である。本演習では、自分の関心の強い事柄について、テーマを明確にして、そのテーマの意味と内容を深く調べていくことを目的としている。そのために、論文の作法について基本を段階的に学びながら、テーマに関する文献･論文を集めて読み深める。ピアノ演奏･歌唱･弾き歌いなどの実技を希望する学生には、子どもの音楽表現を支える視点で持って、演習形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	春休みの課題について発表	各自の関心に基づき調べてきた内容を発表し、研究テーマについて再検討する。
第2回	論文作法について学習（1）テーマの選択	各自の研究テーマの深め方、問いのたて方を再度学び、テーマについて互いに討論する。
第3回	論文作法について学習（2）文献収集	各自の研究テーマに沿った文献収集の仕方を学ぶ。
第4回	論文作法について学習（3）文献読解と整理	各自の研究テーマに沿った文献、先行研究の読み方、テーマの進め方、研究方法の選び方を学ぶ。
第5回	論文作法について学習（4）研究方法･研究計画	各自の研究テーマが、卒業研究として価値があるか、方法は妥当か、期限までに完成するか検討する。
第6回	論文作法について学習（5）量的研究･質的研究	研究方法論である量的研究と質的研究について学ぶ。
第7回	問題意識にもとづいた資料･文献の収集（1）卒論	自己のテーマに沿った文献を収集する。先輩の卒論抄録･論文なども読み、論文作成のイメージを持つ。
第8回	問題意識にもとづいた資料･文献の収集（2）雑誌	自己のテーマに沿った先行研究を収集する。図書館を利用する。
第9回	研究方法の選択、作成	各自の研究の目的が適格に実現するように、調査対象、質問内容、聞き方、集計、分析まで考えて作成する。
第10回	テーマの再検討	各自の研究テーマが、自分が深めたい研究テーマであるか、再検討する。
第11回	研究計画の立案	各自の研究計画案を作成（個人指導）し、学生同士テーマを共有する。
第12回	資料･文献購読、レポート発表と討論（1）Aグループ	各自のテーマに沿った文献を読み､レポートを作成して発表､全員で討論する。
第13回	資料･文献購読、レポート発表と討論（2）Bグループ	各自のテーマに沿った文献を読み､レポートを作成して発表､全員で討論する。
第14回	資料･文献購読、レポート発表と討論（3）Cグループ	各自のテーマに沿った文献を読み､レポートを作成して発表､全員で討論する。
第15回	まとめ	まとめとして、夏休みの課題、進め方について発表する。

【授業の到達目標】

（1）各自の研究テーマを明確にし、主体的に先行研究や文献を読み深めてレポートを作成する。
（2）研究計画の立案をゼミにて共有し、学び合いながら作成する。

【事前･事後学習】

（1）保育現場で子どもを観察する際に、子どもから学ぶ姿勢を大事にする。
（2）日ごろから、知りたいこと、疑問に感じたこと、思いついたことを書くようにする。

【成績評価基準】

授業中の学習意欲、学習態度、提出物（観察記録のまとめ）の点数を総合的に判断する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･必要に応じて、資料を配布する。

【参考図書】

･白井利明･高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

児童福祉実践を領域とする本ゼミの専門演習Ⅳは、専門演習Ⅰ～Ⅲまでの実践・研究を踏まえ、自分の卒業研究についてまとめあげることを目的とする。これまで取り組んできたそれぞれのフィールドワークを通した議論を踏まえ、ゼミ全体で発表しあう経験を通してプレゼンテーション力を高め、他者の発表を聞き、自分の意見を述べる力も養う。専門演習全体の集大成としての位置づけもある。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	履修オリエンテーション、夏休みの活動及び研究・開発進捗状況報告	専門演習Ⅲの後、夏休みに取り組んだ活動及び研究・開発の進捗状況を報告しあう。
第2回	研究計画	各自が提出した研究計画を確認しあう。
第3回	先行研究	論文の執筆に向けて、先行研究を理解する意義とその検討方法を指導する。
第4回	研究計画発表と指導　前半グループ	サブゼミ単位の実践・研究計画に関する前半グループの中間指導を行う。
第5回	研究計画発表と指導　後半グループ	サブゼミ単位の実践・研究計画に関する後半グループの中間指導を行う。
第6回	中間個別指導　前半グループ	卒業研究中間発表に向けた前半グループの個別指導を行う。
第7回	中間個別指導　後半グループ	卒業研究中間発表に向けた後半グループの個別指導を行う。
第8回	卒業研究中間発表準備	中間発表会のための資料作り等の準備作業を行う。
第9回	卒業研究中間発表会	卒業研究中間発表としてポスター発表を行う。
第10回	卒業研究中間発表会の振り返りと全体指導	卒業研究中間発表会の振り返りと今後の取り組みについての全体指導を行う。
第11回	概要と卒業研究論文等の作成	研究概要と、卒業研究論文等の作成指導を行う。
第12回	研究（開発）論文等の途中経過　前半グループ報告	前半ゼミグループの卒業研究の途中経過についてのゼミ発表会を行う。
第13回	研究（開発）論文等完成　後半グループ報告	全員の卒業研究を完成して後半グループのゼミ発表会を行う。
第14回	卒業研究発表会準備・プレゼンテーション準備	卒業研究発表会に使用するポスター、制作物、発表の準備を行う。
第15回	まとめと総括・卒業研究発表会全体練習	プレゼンテーションの全体練習を行う。専門演習全体の総括と講評を行う。

【授業の到達目標】

1．卒業研究を完成できる
2．卒業研究発表の準備ができる
3．研究発表を通してプレゼンテーション力を向上できる
3．ゼミの交流が深まり仲間づくりができる

【事前・事後学習】

事前学習について必要なことは自分で進めていくこと。収集した資料や成果物についてはすべてポートフォリオにまとめ、事後学習や卒業研究に活用すること。

【成績評価基準】

1．卒業研究を完成できるか
2．卒業研究発表の準備ができるか
3．研究発表を通してプレゼンテーション力を向上できたか
3．ゼミの交流が深まり仲間づくりができたか

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	40	40	0	20 （コミュニケーション・プレゼンテーション等）

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・研究テーマに合わせて随時紹介する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	柿原 聖治

【授業の目的と概要】

今の学生はテレビゲームなどで遊ぶことはあっても、身近な道具を使って遊ぶことはなくなった。そこで、各受講生が遊び道具を作ることを行う。安全で、ゲーム性があり、活動に富む教材･教具づくりを、各受講生が行い、それを発表する場とする。お互いに議論し合って、よりよい教具や遊具づくりを目指す。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明
第2回	研究計画	今後どのように研究を進めていくか考える
第3回	先行研究の調査	先行研究について調べる
第4回	先行文献の読み込み	先行研究の文献を読み込んで、現状を知る
第5回	再現実験をする	文献の通りにできるか、内容を検討する
第6回	研究方法の検討	研究手法を検討する
第7回	研究に取り組む	研究を遂行する
第8回	原稿の書き方	結果を導き方を学ぶ
第9回	考察の作成	考察で、研究内容を深める
第10回	引用文献の書き方	引用文献を本文に割り振る
第11回	原稿の修正	原稿の流れ、一貫性を再検討し、加筆修正する
第12回	研究の完成	今までの研究をまとめ、卒業研究を完成させる
第13回	概要の作成	原稿の概要を書く
第14回	発表会の準備	発表会に用いるスライド、製作物の準備を行う
第15回	発表の練習	プレゼンテーションの練習をする

【授業の到達目標】

プレゼンテーションの練習をする

【事前･事後学習】

テーマや課題を調べ、計画的に研究を進める。

【成績評価基準】

活動への取り組み、レポート課題により、総合的に評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	40	0	30（活動への取り組み、レポート課題により、総合的に評価する）

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･必要に応じて提示する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	後藤 永子

【授業の目的と概要】

保育職に携わる保育者、保育職を目指す保育養成校の学生にとって保育の質を問うことは、よりよい保育のあり方を目指すことに繋がる。保育の質には、保育者と子どもの関係、保育の姿勢、保育のあり方、子どもの姿、家族との関係、保育環境・条件と、さまざまな面が考えられる。本演習は、一人ひとりが問題意識を持ち、テーマを決め、それに応じた調査・研究方法を展開させ、考察を行い、まとめ、発表に繋げる。そのプロセスのなかで学生一人ひとりに即した記録の取り方、アンケートの方法、集計と処理、発表の方法を指導する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	導入、保育の質について	導入、保育の質の重要性と内容について概説
第2回	子どもと保育者の関係について	子どもと保育者の関係から保育の質を理解する
第3回	保育者として保育の姿勢やあり方について	保育者として保育の姿勢やあり方から保育の質を理解する
第4回	子どもの姿から見る家族支援について	子どもと家族援助から保育の質を理解する
第5回	保育環境・条件のあり方について	環境構成から人的環境としての保育者を通して保育の質を理解する
第6回	一人ひとりの問題意識からテーマを決める	問題意識からテーマについて個々話し合いを行う
第7回	文献・資料をもとにした学習	文献・資料をもとにした学習を進める
第8回	先行研究の調査について	先行研究の調査を行う
第9回	研究課題・方法の検討①研究課題の選択	研究課題・方法の検討からレポートとしてまとめる①研究課題のテーマをまとめる
第10回	研究課題・ 方法の検討②研究課題と方法を確定	研究課題・方法の検討からレポートとしてまとめる②研究課題と方法の流れをまとめる
第11回	テーマに添って発表の準備	テーマに添って発表の準備を進める
第12回	保育者の保育の質について	保育の質について理解を確認する
第13回	ゼミ生の各テーマから発表①個々の考察をもとに問題点を探る	ゼミ生の各テーマから発表をもとに討論する①考察の問題点を話し合う
第14回	ゼミ生の各テーマから発表②個々、発表を行う	ゼミ生の各テーマから発表をもとに討論する②ゼミ生が発表をもとに質問に答える
第15回	まとめ	まとめを行う、よりよい保育のあり方を体得する

【授業の到達目標】

保育者にとって保育の質を問うことは、よりよい保育のあり方を目指すことに繋がる。保育者として自信を持って子どもの健全な成長・発達を願い、「人として育てる」ことができる。

【事前・事後学習】

自主実習の制度を利用し、保育現場に出向き子ども理解、よりよい環境構成をできるようにする。

【成績評価基準】

保育者として保育の質を常に考え、子どもの健全な成長・発達を願い、「人として育てる」ことができることが自信を持ってできるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30(発表をもとにしたレポート)	40	0	30（発表）

【テキスト】

・特に指定はありません
・ゼミ生が1年次に購入した保育所保育指針

【参考図書】

・適宜、紹介していく

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	白井 克尚

【授業の目的と概要】

自分の問題意識にもとづき、卒業研究論文としてまとめることを通して、論文の書き方を学ぶ。授業は、自分の研究についての進行状況を発表しながら、プレゼンテーション力をアップさせるとともに、他者の発表を聞き、自分の意見を言うというコミュニケーション力も養う。また、一つの仕事を推敲させるやり方を学ぶ。最後は、卒業研究論文として仕上げる。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	夏休み中の研究の進展状況報告	専門演習Ⅲの後、夏休み中に行った研究について、各自が発表する。
第2回	後期の研究計画	今後、どのように研究を進めていくかについて、研究計画を作成する。困った問題等があれば、皆に相談する。
第3回	先行研究についての検討	それぞれの研究について、先行研究のまとめ方を学ぶ。そして、自分の研究がどのような位置にあるのかを発表する。
第4回	引用文献の書き方を学ぶ	引用文献の書き方について習う。
第5回	分析課題についての検討	自分は何を知りたいのか、何がしたいのか、どんなものを作りたいのか、等の問題関心について発表し、それを文章にする。
第6回	仮説についての検討	調査方法･制作方法･創作方法等について、文章化する。
第7回	研究方法についての検討	研究方法について学ぶ。さらに、どのようにして知りたい結果を出すのかを検討する。
第8回	分析結果についての検討	分析結果について検討する。さらに、どのようにすれば、課題を解決できるかについて検討する。
第9回	研究の成果についての検討	研究の成果について、どのように出すのかについて説明を聞き、疑問点を質問する。
第10回	研究の課題についての検討	研究の課題について検討する。こまったことについては、みんなに意見を求める。
第11回	研究としての一貫性についての検討	研究として一貫性があるかについて考える。「問題の所在」と「仮説」と「研究の成果と課題」が合っているかについての確認を、発表しながら検討する。
第12回	卒業研究論文の完成	今までのものをすべてまとめて、卒業研究を完成させる。
第13回	概要の作成	概要を作成する。
第14回	卒業研究発表会用の準備	卒業研究発表会に使用するポスター、製作物、表現の準備を行う。
第15回	まとめとプレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの練習と全体を通して、反省も含めたディスカッションを行う。

【授業の到達目標】

卒業研究論文を仕上げる。

【事前・事後学習】

事前学習:必要なことは自分で進めていく。
事後学習:他者の意見を取り入れていく。

【成績評価基準】

レポート:課題について考えを深めることができた。
授業の参加態度:積極的に授業に参加することができた。
表現力･思考力･判断力:他者の発表をしっかりと聞き、自分なりに考えて、適切な意見が出せたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	30	50	20(コミュニケーション力)

【テキスト】

･授業の中で、適宜紹介する。

【参考図書】

･なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	新實 広記

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅲまでに研究してきた自分のテーマについて整理して、まとめる。まとめるにあたって保育の現場でどのように生かすことができるのかということも大切にして自分の考えをまとめる。まとめたものをどのように効果的に発表するかも考え資料の作成方法、展示方法なども併せて学んでもらう。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション（授業説明、注意事項）
第2回	面談1（研究課題の設定）	面談を行い前期研究の整理と後期研究課題の設定を行う。
第3回	面談2（研究課題の再設定）	面談を行い後期研究課題の最終設定を行う。
第4回	研究課題の資料収集	各自の研究課題テーマに沿って調査、資料収集を行う。
第5回	研究課題の資料収集	各自の研究課題テーマに沿って調査、資料収集を行う。
第6回	作品製作もしくは論文の作成と面談	課題テーマに沿って調査、研究を行い面談を交えながら論文の作成や作品製作を行う。
第7回	作品製作もしくは論文の作成	課題テーマに沿って調査、研究を行い論文の作成や作品製作を行う。
第8回	中間発表	各自が研究課題テーマに沿って行った調査､研究の進歩状況を中間発表する。
第9回	作品製作もしくは論文の作成と面談	課題テーマに沿って調査、研究を行い面談を交えながら論文の作成や作品製作を行う。
第10回	作品製作もしくは論文の作成	課題テーマに沿って調査、研究を行い論文の作成や作品製作を行う。
第11回	作品製作もしくは論文の作成と面談	課題テーマに沿って調査、研究を行い面談を交えながら論文の作成や作品製作を行う。
第12回	事前発表練習	各自が研究課題テーマに沿って行った研究成果を事前発表し練習する。
第13回	作品製作もしくは論文の概要作成	各自の研究課題、テーマに沿って調査、研究を行ってきた内容を概要にまとめる。
第14回	作品製作もしくは論文の概要作成	各自の研究課題、テーマに沿って調査、研究を行ってきた内容を概要にまとめる。
第15回	研究発表	これまでの研究の成果を論文もしくは作品で発表し、質疑応答に答える。

【授業の到達目標】

この授業では、それぞれが進捗状況を定期的に発表しながら意見交換の時間を大切にし進めていく。そこから新たな研究の視点やヒントを得て自分の研究、問題解決に役立てていくことができるようにする。まとめにあたっては特に客観的な意見を聞いて伝わりやすい発表、資料提示ができるようにする。

【事前・事後学習】

毎回行われる面談において指示するキーワード、調査、改善点を次回の授業までに行い、準備をしておく。毎週、面談を繰り返し研究を深めていく。

【成績評価基準】

積極的な授業参加を高く評価する。各自が授業の中でそれぞれの課題をみつけ、自らリサーチし発見していくことができたか。また、考え抜く力、議論を深める力、共に働く力を身につけることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	50	0	50（発表）

【テキスト】

·必要に応じて授業中に指示する。

【参考図書】

·必要に応じて授業中に指示する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	専　門　演　習　Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	堀 篤実

【授業の目的と概要】

各自のテーマに沿って卒業研究をまとめることにより、自分の考えの伝え方、論文のまとめ方、発表のしかたを身につける。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	研究の進展状況報告	夏休み中に行った各自の研究の進展状況について、グループ内で発表する。
第2回	後期の研究計画	今後の研究を進め方について計画を作成し、グループ内で検討する。
第3回	問題と目的の書き方	研究を始めるきっかけやこれまでの研究の問題点、問題意識の整理、研究の目的についての文章表現を学習する。
第4回	データの入力･整理	データの入力方法や整理の仕方について学ぶ、各自の研究にあった方法を検討する。
第5回	データの読み込み	各自の研究のデータを入力し、その読みこみ方について検討する。
第6回	方法および結果の書き方	各自の研究のデータを入力し、その読みこみ方について検討する。
第7回	データの解析と結果の分析	収集したデータを解析、分析するための適切な方法を検討する。
第8回	図表のまとめ方	図表を用いることにより結果をわかりやすいものとするまとめ方について検討する。
第9回	考察のしかた	結果から、論理的に結論を導き出し考察としてまとめることについて学習する。
第10回	考察の作成	各自の研究において考察を作成し、グループ内で討論する。
第11回	卒業研究の中間報告	卒業研究をまとめ、提出する。個々に修正すべき点を明らかにする。
第12回	卒業研究の完成	卒業研究を完成させる。
第13回	概要の作成	概要を作成する。
第14回	.卒業研究発表会用の準備	卒業研究発表会に使用するポスター、資料の準備を行う。
第15回	プレゼンテーションの練習とまとめ	プレゼンテーションの練習と専門演習、卒業研究を通して、反省も含めたディスカッションを行う。

【授業の到達目標】

資料の読み込みや結果の分析を行うことができる。
卒業研究をまとめることができる。

【事前･事後学習】

各自のテーマに沿ったキーワードについて毎回調べてくる。
授業後は授業での検討をもとに、各自の研究を研鑽する。

【成績評価基準】

資料の読み込みや結果の分析を行うことができているか。
卒業研究をまとめることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	30	0	20（資料、論文のまとまり）

【テキスト】

･必要に応じて資料を配布します。

【参考図書】

･特になし。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担当者名
-	専門演習Ⅳ	4年	後期	2単位	必修	矢内 淑子

【授業の目的と概要】

専門演習Ⅲに続く演習である。本演習では、テーマにそった研究計画に基づいて取り組み、調査研究、文献、情報を整理して、これまでの学びの過程と成果を論文にまとめ、発表の仕方を学ぶことを目的としている。個別指導を中心に行うが、共同で発表･討論しながら完成度の高い論文に仕上げていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	論文作法の確認	テキストの論文の書きすすめ方を参考に、論文の構成の仕方、書き方を学ぶ。
第2回	卒業論文個別指導（1）調査資料の整理･検討	テーマにそって保育現場での観察記録のまとめを再検討する。
第3回	卒業論文個別指導（2）調査資料の発表･討論	テーマにそって保育現場での観察記録のまとめを発表、討論することで仕上げる。
第4回	卒業論文個別指導（1）序論の検討	テーマにそって研究の目的、研究の動機、研究の方法のまとめ方を検討する。
第5回	卒業論文個別指導（2）序論の発表･討論	テーマにそって研究の目的、研究の動機、研究方法をまとめ、発表、討論することで序論を仕上げる。
第6回	卒業論文個別指導（3）本論の検討	テーマにそって調査研究･文献･情報を整理して、これまでの学びの過程と成果のまとめ方を検討する。
第7回	卒業論文個別指導（4）本論の発表･討論	テーマにそって調査研究･文献･情報を整理して、これまでの学びの過程と成果をまとめ、発表、討論することで本論を仕上げる。
第8回	卒業論文個別指導（5）本論の検討	テーマにそって調査研究･文献･情報を整理して、これまでの学びの過程と成果をまとめ、発表、討論することで本論を仕上げる。
第9回	卒業論文個別指導（6）本論の発表･討論	テーマにそって調査研究･文献･情報を整理して、これまでの学びの過程と成果をまとめ、発表、討論することで本論を仕上げる。さらに推敲して論文の完成度を高める。
第10回	卒業論文個別指導（7）結論の発表･討論	本論を総合的にまとめ、序論と矛盾しない結論･結果を導き出す。発表、討論することで、結論を仕上げる。
第11回	卒業論文個人指導（8）引用文献･参考文献	引用文献、参考文献の正しい書き方を確認し、整理する。
第12回	卒業論文個別指導（1）抄録の作成	論文の抄録のまとめ方について検討する。
第13回	卒業論文個別指導（2）抄録の検討	論文の抄録のまとめを発表、検討することで抄録をまとめる。
第14回	卒業論文個別指導（1）発表の準備	ポスター発表の準備をする。
第15回	卒業論文個別指導（2）発表の練習	ポスター発表の練習をする。

【授業の到達目標】

（1）研究計画に基づいて、主体的に研究に取り組むことができる。
（2）研究を共有しながら討論することで学び合うことができる。
（3）学びの過程と成果を論文としてまとめることができる。

【事前･事後学習】

（1）自身で考える。行き詰ったときは相談をする。
（2）研究計画に基づいて、早めに仕上げるように心がける。

【成績評価基準】

成績は、学習意欲、学習態度、提出物（レポート･論文）点数を総合的に判断する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	50	0	0

【テキスト】

･必要に応じで、資料を配布する。

【参考図書】

･必要に応じで、資料を配布する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	東 邦 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅱ	3･4年	前期	2単位	選択	蜷川 喜信

【授業の目的と概要】

現代においては、将来、教職を目指す学生だけでなく、どんな企業や組織においても、自ら課題を見つけて解決に向けての様々な企画を提案し実行することが求められています。

このプロジェクトは、さまざまな教育機関でのインターンシップや学校ボランティアに挑戦して、いわゆるアクティブ･ラーニング（ＡＬ）を実践します。

基本的には、２～３人のグループ活動で行って、年度末における最終的な活動報告会を実施します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	プロジェクト活動の進め方､ルールの確認をし､活動するグループ分けをする。
第2回	グループ活動の準備１	グループ活動の役割分担決めと活動計画案を立案する。
第3回	グループ活動の準備２	校外での集会（全体説明会）への参加する。
第4回	活動計画作成	活動の実態に沿った、より具体的な活動計画を作成する。
第5回	グループ活動１	実践ＡＬ活動を展開する。
第6回	グループ活動２	実践ＡＬ活動を展開する。
第7回	グループ活動３	実践ＡＬ活動を展開する。
第8回	グループ活動４	実践ＡＬ活動を展開する。
第9回	活動経過報告(第１回)	全体で集まって、相互の各グループ活動の経過報告する。
第10回	グループ活動５	実践ＡＬ活動を展開する。
第11回	グループ活動６	実践ＡＬ活動を展開する。
第12回	グループ活動７	実践ＡＬ活動を展開する。
第13回	グループ活動８	実践ＡＬ活動を展開する。
第14回	活動経過報告(第２回)	全体で集まって、相互の各グループ活動の経過報告して、活動報告会に向けたプレゼン資料を作成する。
第15回	まとめ（活動実践レポートの作成と振り返り）	グループ活動を振り返って、実践レポートにまとめる。また、グループ内での貢献度を相互評価する。

【授業の到達目標】

グループ活動の中で、自ら課題を設定して、課題解決のために状況を分析し、計画を立案（具体的解決策）して、学校等の教育機関において実践ＡＬ活動を実行することができる。

グループで活動するために必要な力（相互のコミュニケーション力）を身につけ、グループの一員としての活躍することができる。

【事前･事後学習】

単なるボランティア活動とは違って、将来、自らＡＬ活動を指導する立場となった時のために、ＡＬ指導法について基本的なポイントを確認しておく。

【成績評価基準】

積極的にプロジェクトに取り組む姿勢が見られたか。

グループ内での役割を認識し、困ったときに相互援助ができたか。

経過報告会での相互の各グループ活動実践から学ぶことができたか。

学校現場において、実践的なＡＬ活動の指導法を自ら学ぶことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	70	0	20（ミニレポート２回)、10（グループ相互評価）

【テキスト】

･授業内で資料配布

【参考図書】

･授業内で紹介

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	東邦プロジェクトⅣ	3･4年	後期	４単位	選択	蜷川 喜信

【授業の目的と概要】

このプロジェクトは、前期にプロジェクトＢを履修した者を中心としますが、新規者も加えて、プロジェクトＢを継承･発展させて展開する活動です。現代においては、教職を目指す学生だけでなく、どんな企業や組織においても、自ら課題を見つけて解決に向けての様々な企画を提案し実行することが求められています。

このプロジェクトは、さまざまな教育機関でのインターンシップや学校ボランティアに挑戦して、いわゆるアクティブ･ラーニング（ＡＬ）を実践します。基本的には、２～３人のグループ活動で行って、年度末における最終的な活動報告会を実施します。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	プロジェクト活動の進め方、ルール再確認、グループ分けをする。
第2回	グループ活動の準備１	各グループで、活動の役割分担を決め、活動内容を検証する。
第3回	グループ活動の準備２	各グループで、プロジェクトＢからの継続と新規の課題を検討する。
第4回	活動計画作成	プロジェクトＣの実践活動計画を立案する。
第5回	グループ活動１	実践ＡＬ活動を展開する。
第6回	グループ活動２	実践ＡＬ活動を展開する。
第7回	グループ活動３	実践ＡＬ活動を展開する。
第8回	グループ活動４	実践ＡＬ活動を展開する。
第9回	活動経過報告(第１回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第10回	グループ活動５	実践ＡＬ活動を展開する。
第11回	グループ活動６	実践ＡＬ活動を展開する。
第12回	グループ活動７	実践ＡＬ活動を展開する。
第13回	グループ活動８	実践ＡＬ活動を展開する。
第14回	活動経過報告(第２回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第15回	グループ活動９	実践ＡＬ活動を展開する。
第16回	グループ活動１０	実践ＡＬ活動を展開する。
第17回	グループ活動１１	実践ＡＬ活動を展開する。
第18回	グループ活動１２	実践ＡＬ活動を展開する。
第19回	活動経過報告(第３回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第20回	グループ活動１３	実践ＡＬ活動を展開する。
第21回	グループ活動１４	実践ＡＬ活動を展開する。
第22回	グループ活動１５	実践ＡＬ活動を展開する。
第23回	グループ活動１６	実践ＡＬ活動を展開する。
第24回	活動経過報告(第４回)	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告する。
第25回	グループ活動１７	実践ＡＬ活動を展開する。
第26回	グループ活動１８	実践ＡＬ活動を展開する。
第27回	グループ活動１９	実践ＡＬ活動を展開する。
第28回	グループ活動２０	実践ＡＬ活動を展開する。
第29回	活動経過報告(第５回)とプレゼン資料作成	全体で集合して、相互の各グループ活動を経過報告し、年度末の報告会に必要なプレゼン資料を作成する。
第30回	まとめ（実践後の課題と振り返り）	１年間の実践ＡＬ活動におけるグループ活動を振り返って、実践報告会レポートにまとめる。また、グループ内での貢献度を相互評価する。

【授業の到達目標】

教育活動において、ＡＬ活動を指導することができる。

さまざまな教育支援活動のなかで培った、コミュニケーション力を生かすことができる。

【事前･事後学習】

プロジェクトＢを継承して、実践的なＡＬ指導において、自分なりの様々な工夫を試みる。

【成績評価基準】

自覚を持って、積極的にプロジェクトに取り込む姿勢が見られたか。

グループ内での相互的援助ができたか。

経過活動報告会で、各グループの実践活動ミニレポートから学ぶことができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	70	0	20（全５回のミニレポート)、10(グループ相互評価)

【テキスト】

･授業で資料配布

【参考図書】

･授業で紹介

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
HH3406	人　間　健　康　特　講　Ⅵ	3･4年	後期	4単位	選択	蜷川 喜信

【授業の目的と概要】

教職員に必要な教育法規の知識やその具体的な事例、並びに中央教育審議会の答申に基づく最近の教職関係の改定についての教育時事情報等を理解・把握して将来に生かす。

主に教職を希望する学生を対象にした講義である。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	テキストとして使用するプリントを配布し、講義の進め方、全体像を確認する。
第2回	学校をとりまく法令の種類と性格について	学校教育に関する法令、公立学校教育に関する法令、地方教育行政に関する法令の種類と性格の全体像を把握する。
第3回	学校教育法の規定趣旨と性格について	学校教育法の規定趣旨と性格について、そのポイントを中心にして、具体的に確認する。
第4回	教育公務員特例法の規定趣旨と性格について	教育公務員特例法の規定趣旨と性格について、そのポイントを中心にして、具体的に理解する。
第5回	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定趣旨と性格について	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定趣旨と性格について、そのポイントを中心にして、具体的に把握する。
第6回	学校と学習塾･習い事教室との相違について	学校の法的性格、「学校」と学習塾･習い事教室との法規定の相違を理解する。
第7回	学校と保護者・地域住民との関係における規定について	学校評価における学校評議員制度や学校運営委員会制度について、その意義、仕組みや法的根拠等を把握する。
第8回	学校と教育委員会の関係について	教育基本法の教育行政規定（１６条）を中心に、教育委員会の仕組みの変化とその問題点について理解する。
第9回	県費負担教職員制度について	市町村立学校職員給与負担法、県費負担教職員の法規定を具体的に把握する。
第10回	学校管理規則について	教育委員会規則のうち、学校に関係する「学校管理規則」の趣旨と法的根拠を把握する。
第11回	校長の権限について　その１	学校の管理運営に関する規定のうち、最も重要な「校長の権限」の概略を把握する。
第12回	校長の権限について　その２	「校長の権限」の具体的な項目（職務命令、校務分掌決定、職員会議等）の法的根拠を把握する。
第13回	教育公務員制度における服務規程（懲戒処分等）について	服務規程（懲戒処分等）の法的根拠を具体的に事例に基づいて理解する。
第14回	中教審答申に対応した最近の教育時事について	中教審答申に対応した最近の教育時事について把握する。
第15回	まとめとレポート作成	教育法規の全体を復習をしてまとめて、「教職における法的根拠に基づく責任」についてレポートを作成する。

【授業の到達目標】

教育法規の知識やその具体的な事例、中央教育審議会の答申に基づく最近の教育時事について把握し、理解することができる。

【事前･事後学習】

配布されるプリントを事前に目を通しておき、講義後に復習すること。

【成績評価基準】

学校教育上のさまざまな法的根拠を理解しかつ把握して、教職における責任感を培うことができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	0

【テキスト】

･授業で配布するプリント

【参考図書】

･授業で紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	伊藤 龍仁

【授業の目的と概要】

卒業研究は、大学４年間の学びの成果をまとめる意味を持ち、専門演習Ⅰ～Ⅳにおける学習の総まとめとして位置づけられている。そこで、専門演習での学びを基礎にして自ら興味あるテーマについて調査･研究を行い、その成果をまとめて提出し、発表する。それらは①個人研究論文、②グループ研究論文、③グループ実践レポート、④パンフレットや動画等の開発、⑤普及啓発や援助モデルの開発など多彩な領域や内容がその対象となる。そのプロセスが豊かに展開されることや研究の目的が意味のあるものであることが望ましい。本ゼミでは、児童福祉領域の実践的な研究や開発が中心となる。

【授業計画】

テーマ	授業の概要
研究テーマに関する情報収集、考察、まとめ、プレゼン準備を重ねる。	研究テーマに即した自己学習･調査･分析の推進と指導助言。

【授業の到達目標】

①期限内に研究論文、グループ研究論文、グループ実践レポート、パンフレット･動画等を完成して提出する。
②卒業研究発表会において成果を発表する。

【事前・事後学習】

自己学習･調査･分析等推進のなかで課題を確認し、成果を検討して次の課題を練り上げる。

【成績評価基準】

出来上がった論文･実践レポート･作品等を中心に評価を行うが、その開発･研究プロセスやプレゼンテーション力も加味する。主査と副査が評価にあたる。
卒業研究発表の際に評価を行うが、内容、方法、結論、考察、まとめ、創造性、実用性の高さなどを総合的に判断する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（提出物と発表）

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･研究テーマに関連する参考図書を個別に紹介する

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	卒業研究	4年	一	4単位	選択	柿原 聖治

【授業の目的と概要】
今の学生はテレビゲームなどで遊ぶことはあっても、身近な道具を使って遊ぶことはなくなった。そこで、安全で、ゲーム性があり、活動に富む教材・教具づくりを大きなテーマにして、卒業研究を行う。問題設定、研究方法を考え、研究を進める。推敲を重ね、原稿を仕上げていく。

【授業計画】

テーマ	授業の概要
研究テーマに関する情報収集、考察、まとめ、発表の準備を積み重ねる	研究テーマに即した自己学習の推進と指導助言

【授業の到達目標】
一通り自分で論文または作品として完成させることができる。

【事前・事後学習】
自己学習を進める中で課題を確認し、成果を検討して、次の課題を練り上げる

【成績評価基準】
仕上がった論文・作品を見て評価するが、でき上がるまでの取り組みや、プレゼンテーション力も評価の対象とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（卒業研究・作品とその発表）

【テキスト】
・なし

【参考図書】
・必要に応じて提示する

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	卒　　業　　研　　究	4年	ー	4単位	選択	後藤 永子

【授業の目的と概要】

卒業研究は専門演習１～４の学習の総まとめの意味を持っている。専門演習で学んだことを基礎に、自ら興味あるテーマについて調査･研究を行いその成果をまとめて提出し、発表する。それらは①研究論文、②絵本の創作、③保育教材の作成、④おもちゃの製作、⑤子ども施設の設計など多彩な領域や内容がその対象となる。これは制作された研究や作品等に冠するものであるが、そのプロセスが豊かに展開されることや研究の目的が意味のあるものであることが望ましい。指導は主に専門演習の教員が当たるが、場合によっては専門演習外の担当の教員が指導することが可能である。

【授業計画】

テーマ	授業の概要
個々の研究テーマにかんする情報収集、考察、まとめ、プレゼンの準備を積み重ねる	個々の研究テーマに即した自己学習の推進と指導･助言を受ける

【授業の到達目標】

卒業研究は専門演習で学んだことを基礎に、自ら興味あるテーマについて調査･研究を行いその成果をまとめて提出し、発表する。

【事前･事後学習】

自己学習の推進のなかで課題を確認し、成果を検討して次の課題を練り上げる。

【成績評価基準】

卒業研究は専門演習で学んだことを基礎に、自ら興味あるテーマについて調査･ 研究を行いその成果をまとめて提出し、発表することができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（卒業論文･作品、副査との合意でおこなう）

【テキスト】

･特にありません。

【参考図書】

･適宜、必要に応じて紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	白井 克尚

【授業の目的と概要】

専門演習の学習を活かし、テーマの設定をもとに研究の進め方・まとめ方についての基本的知識・技術を応用・展開する。それには「教育実践学」に関して自分が興味・関心を持った事柄や疑問・未知の現象について問題意識を特定できるようにする。そして、テーマに関する論文や専門書を読むことを通して視野を広げ深める。また、専門演習を活用しながら問題の所在を明確化し、関連学説の検討・分析を行い、自己の見解をまとめて卒業論文に仕上げることである。

【授業計画】

テーマ	授業の概要
研究テーマに関する情報収集、考察、まとめ、プレゼン準備を積み重ねる。	研究テーマに即した自己学習の推進と助言指導。

【授業の到達目標】

取り組んだテーマをもとに卒業論文を完成させる。
自分の研究について、卒業研究発表会において、発表を行う。

【事前・事後学習】

研究テーマに基づき、文献検索、資料収集などを行い、研究計画にそって自主的・積極的に取り組むこと。

【成績評価基準】

卒業論文の完成度を中心に評価を行うが、その作成プロセスやプレゼンテーション力も加味する。主査と副査が評価にあたる。
卒業研究発表の際に評価を行うが、内容、方法、分析結果、考察、まとめ、創造性の高さなどを総合的に判断する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（提出物と発表）

【テキスト】

・授業の中で、適宜紹介する。

【参考図書】

・授業の中で、適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	卒　　業　　研　　究	4年	ー	4単位	選択	新實 広記

【授業の目的と概要】

卒業研究は専門演習１～４の学習の総まとめの意味を持っている。専門演習で学んだことを基礎に、自ら興味あるテーマについて調査･研究を行いその成果をまとめて提出し、発表する。それらは①研究論文、②絵本の創作、③保育教材の作成、④おもちゃの製作、⑤子ども施設の設計など多彩な領域や内容がその対象となる。これは制作された研究や作品等に冠するものであるが、そのプロセスが豊かに展開されることや研究の目的が意味のあるものであることが望ましい。指導は主に専門演習の教員が当たるが、場合によっては専門演習外の担当の教員が指導することが可能である。

【授業計画】

テーマ	授業の概要
研究テーマに関する情報収集、考察、まとめ、プレゼン準備を積み重ねる。	研究テーマに即した自己学習の推進と指導助言。

【授業の到達目標】

各自が研究課題を見つけ、その課題のために様々な角度からアプローチし、資料収集、調査、研究を行いその成果を説明できる知識や力を身につける。

【事前･事後学習】

自己学習の推進のなかで課題を確認し、成果を検討して次の課題を練り上げる。

【成績評価基準】

提出された論文、作品、展示等の出来上がりを中心に評価を行う。発表された研究成果について、口頭試問を行い、的確な説明ができるか平素の研究姿勢と合わせて総合的に評価する。評価は主査と副査の合意で行う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100(卒業研究発表)

【テキスト】

･必要に応じて授業中に指示する。

【参考図書】

･必要に応じて授業中に指示する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
-	卒業研究	4年	ー	4単位	選択	堀 篤実

【授業の目的と概要】

卒業研究は専門演習Ⅰ～Ⅳの学習の総まとめの意味を持っている。専門演習で学んだことを基礎に、自ら興味あるテーマについて調査・研究を行いその成果をまとめて提出し、発表する。子どもの心理や保育者の心理、カウンセリングマインド、相談支援などを中心にテーマを設定する。学生によって、強い希望がある者に関してはその内容を尊重する。

【授業計画】

テーマ	授業の概要
研究テーマに関する情報収集、考察、まとめ、プレゼン準備を積み重ねる。	研究テーマに即した自己学習の推進と指導助言。

【授業の到達目標】

4年間の学びの集大成として、取り組んだテーマについて研究しまとめることとそれを発表すること（卒業研究発表会）ができる。

【事前・事後学習】

自己学習の推進のなかで課題を確認し、成果を検討して次の課題を練り上げる。

【成績評価基準】

出来上がった論文・作品等の出来上がりを中心に行うが、その製作プロセスやプレゼンテーション力も加味する。主査と副査が評価にあたる。卒業研究発表の際に行い評価するが、内容、方法、結論、考察、まとめ、研究内容の独自性、創造性の高さなどを総合的に判断する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（卒業研究発表）

【テキスト】

・特になし。

【参考図書】

・特になし。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
-	卒　　業　　研　　究	4年	ー	4単位	選択	矢内 淑子

【授業の目的と概要】

卒業研究は、専門演習Ⅰ～Ⅳの学習の総まとめの意味を持っている。専門演習で学んだことを基礎に、自ら興味･関心のあるテーマについて調査･研究を行い、その結果をまとめて提出し発表する。それらは①研究論文、②絵本の創作、③保育教材の作成、④おもちゃの製作、⑤子どもの施設の設計、⑥子どもの歌の作曲、など多彩な領域や内容がその対象になる。本セミでは、音楽表現研究論文、音楽教材研究･作成、ピアノ演奏、歌唱等が中心になるが、他のテーマであっても受講生の希望を尊重する。指導は主に専門演習の教員が当たるが、場合によっては専門演習外の教員にお願いをする。

【授業計画】

テーマ	授業の概要
研究テーマに関する情報収集、考察、まとめ、プレゼン準備を積み重ねる。	研究テーマに即した自己学習の推進と講義助言

【授業の到達目標】

各自の研究テーマについて、資料や文献、観察を通して問題意識を明確にして、さらに資料収集、調査、研究して卒業論文を完成させる。それを発表すること（卒業研究発表会）。

【事前･事後学習】

研究計画にそって自主的、積極的に取り組む。実技の場合は、日々の練習が重要である。

【成績評価基準】

出来上がった論文･作品･表現等の出来上がりを中心に行うが、その製作プロセスやプレゼンテーション力も加味する。主査と副査が評価にあたる。

卒業研究発表の際に行い評価するが、内容、方法、結論、考察、まとめ、研究内容の独自性、創造性の高さなどを総合的に判断する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（提出物と発表）

【テキスト】

･授業内で適宜紹介する。

【参考図書】

･授業内で適宜紹介する。

教職課程科目

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL1101	教職概論	1年	前期 後期	2単位	必修	小出 禎子 蜷川 喜信

【授業の目的と概要】

本講義は、教員免許状の取得を目指す学生を対象に、教員という仕事はどのような仕事なのかというテーマについて幅広い観点から迫り、教職についての理解を促す入門的講義である。講義では教員という職が生まれてきた社会的・歴史的背景や教員の養成・採用・研修をめぐる現代的動向といった、教員を取り巻く政策的・制度的状況を明らかにすると共に、現在の教員が学校現場において抱えている職務や取り組むべき現代的諸課題について講義する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション:教員になるために	（1）本講義を受講する上でのルールを確認する。（2）昨年度に実施された教員採用試験（一般教養）の問題を実際に解いてみて、採用試験に向けてどのような学修が必要になるのかを確認する。
第2回	教員に求められる資質能力	（1）立場や時代によって異なる理想の教師イメージを確認する。（2）教師に必要な資質能力について言及した各種の答申のポイントを理解する。（3）「反省的実践家としての教師」という現代的教師像の特徴を理解する。
第3回	教員養成制度の歴史	(1)戦前の教員養成制度の特徴を理解する。(2)戦後の教員養成の原則を理解する。(3）現在の教員免許制度の概要を理解する。（4）教員養成制度改革の方向性を考察する。
第4回	教員の採用システム	（1）教員の資質能力向上プロセスにおける採用段階の役割を理解する。（2）教員採用制度の基本的方針を理解する。（3）教員採用試験の形式・方法・内容を理解する。（4）現在の教員採用の在り方が抱える問題点を考察する。
第5回	教員の研修制度	(1)教職員の法令上の地位と身分を理解する。(2)教員研修の実施体系を理解する。(3) 法定研修の概要を理解する。(4) 現在の研修制度が抱える問題点を考察する。
第6回	教員の任用と職務	（1）必置・原則必置・任意設置職の違いを理解する。（2）教員が守るべき服務の内容を理解する。（3）任用の意味と任用をめぐる問題点を考察する。
第7回	教員をめぐる現代的課題	(1)学校が直面する課題を理解する。(2)これからの学校・教員の在り方を考察する。
第8回	中間まとめ:教員としての適性の理解	中間テストを実施し、これまでの講義を振り返る。
第9回	教科指導	（1）学校としての教育目標は法律で定められていることを理解する。（2）専門職として の教員の仕事を理解し、教職に就くことの重さを理解する。
第10回	学校運営	学校がどう運営されているかを知り、個々の教員が、学校組織の中でどんな役 割を持って、学校運営に係わっているかを理解する。
第11回	教育課題への対応（1）	（1）問題行動を起こす生徒への対応方法を学び、教師による懲戒を理解する。（2）いじ めへの正しい対処方法、不登校生徒への指導についても考える。
第12回	教育課題への対応（2）	（1）キャリア教育とは何かを理解し、指導に当たっての留意点を確認する。（2）特別支援教育・食育が近年強調されてい社会的背景を理解し、指導内容について理解する。
第13回	学校と家庭・地域の連携	（1）保護者との連携について、その意義と方法を考える。（2）学校ごとに組織されるＰ ＴＡについても、保護者との連携の視点で、組織のあり方について考える。
第14回	よい教師の条件	良い教員とどんな条件を満たすものかを考える。それと、これまでの学習を踏 まえて、具体的な事例に対して、どう考え、どう対応すべきなのかを検討する。
第15回	まとめ:教員になるための道すじ	（1）免許取得までに必要な科目・実習を確認する。（2）履修カルテの作成方法を理解する。

【授業の到達目標】

教員という職務の多様性を理解するとともに、生徒としてでなく、教員という目線で学校における教育活動を捉えなおすことができる。
教員という仕事をより明確に意識できるようになる。

【事前・事後学習】

各回の授業で取り扱うテーマについて必ず疑問を持って参加する。
授業において配布されたプリント等について復習をする。
講義内容を別途ノートにまとめるなどして、内容理解を深めることに努める。

【成績評価基準】

現在の学校・教師が抱える問題点について説明し、それに対する自分なりの意見・解決策を提示することができるか。
教職の特徴を理解し、免許取得に向けた自分自身の課題を明確に意識することができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

・授業時に指示する。

【参考図書】

・小島弘道編著『全訂版　学校教育の基礎知識』協同出版
・佐久間裕之編著『教職概論』玉川大学出版部

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL1102	教育学概論	1年	後期	2単位	必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

本講義は、教員として学校現場で教育活動に従事する上で必要な教育原理の基礎を理解することを目的とする。「教育とはどういう営みか」という基本的な問いに始まり、我が国そして諸外国の教育に関する思想や理論の歴史を振り返り、その今日的意義を考える。さらに、現代日本さらに世界の諸外国の学校教育の制度的枠組みを理解し、教育の目的と内容および方法を確認する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	（1）本講義を受講する上でのルールを確認する。（2）教育を科学的に捉えるとは何かを考える。
第2回	様々な教育観	（1）教育の語義を理解する。（2）2つの教育観の違いを検討し、自分の教育観を問い直す。
第3回	人間の成長･発達と教育	（1）人間の成長、発達に関わる概念の意味内容を理解する。（2）人間がもつ発達上の特徴について理解する。（3）発達における教育の役割について考察する。
第4回	子どもと社会	（1）子どもという概念について理解する。（2）現代の子ども観を考察する。
第5回	現代社会の変化と子どもの生活世界	（1）日本社会における子どもを取り巻く環境･子どもの生活の変化について確認する。（2）ビデオ鑑賞を通して、社会と子どもの対応関係について考察する。
第6回	近代の教育思想（1）	コメニウスとロックの教育思想の特徴を理解する（グループワークを含む）。
第7回	近代の教育思想（2）	ルソーとペスタロッチの教育思想の特徴を理解する(グループワークを含む)。
第8回	近代の教育思想（3）	近代教育を支えた教育思想の特徴と違いを理解し、現代の問題について考察する。
第9回	欧米における近代学校教育制度の誕生と発展	（1）近代社会における学校の役割について理解する。（2）欧米諸国で発展した学校制度の特徴について理解する。
第10回	日本における学校教育制度の誕生と展開	（1）日本における学校教育制度の成立と発展の歴史を理解する。（2）戦前までの日本における学校教育目的の変遷を理解する。
第11回	戦後の教育改革（1）	（1）戦前から戦後にかけての教育理念の変化を理解する。（2）戦後新教育の特徴を理解する。
第12回	戦後の教育改革（2）	（1）1950年代から1970年代にかけて展開した教育改革のテーマとその特徴について理解する。（2）学習指導要領の変遷を理解する。
第13回	戦後の教育改革（3）	（1）1980年代以降の教育改革のテーマとその特徴について理解する。（2）現代の日本が抱える教育課題について考察する。
第14回	日本と世界の教育改革	教育をめぐるグルーバルな課題について考察する（グループワークを含む）。
第15回	まとめ	これまでの学習内容を振り返り、教育に関する理念、思想、歴史について理解できているかを確認する。

【授業の到達目標】

教育観や子ども観の変遷について理解し、説明することができる。
西洋における教育理論の展開と代表的論者を理解し、説明することができる。
日本における教育史、特に近代公教育制度の展開について理解し、説明することができる。
現在の学校が抱える課題について理解し、自分なりの意見を持つことができる。

【事前・事後学習】

テキストから次回の講義内容に関連する箇所を指定するので、授業までに目を通しておくこと。
世界史および日本史の基礎知識について復習しておくこと。
教育に関するニュースには常日頃から幅広く関心を持つこと。

【成績評価基準】

日本および諸外国の教育にかかわる理念、思想、歴史について理解できているか。
現在の日本および諸外国が抱える教育課題について考察し、自分なりの考えをまとめ、表現することができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	20（授業時に作成する小レポート）	20	0	0

【テキスト】

･授業時に指示する。

【参考図書】

･適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL1103	教育心理学	1年	後期	2単位	必修	橘 廣

【授業の目的と概要】

効果的に学習を促すには、学習者の発達における心理的特性を知り、その意味を理解し、発達に応じた適切な学習指導が求められる。この授業では、発達的な人間理解を基に、学校教育のあり方について、教育心理学の知見と教育現場の調査結果を活用しながら考察していく。講義では、基本的な人間理解を深めたうえで、教育実践が有効適切なものとなるように、学級集団の指導、教育評価方法、障害のある子どもたちの発達過程の理解、学校教育相談などを学習し、望ましい教育のあり方について理解することを目的とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この講義の目標	教育心理学とは何か、その研究法、授業の方針と全体の流れを理解する。個性理解のための大脳半球優位性テストを行う。
第2回	発達（発達過程）の理解	遺伝と環境、言語能力などの発達過程を知り、子どもの発達について理解を深める。
第3回	発達段階と発達課題	ピアジェの認知発達段階について、また心の理論について知り、認知発達の理解を深める。
第4回	障害のある幼児児童生徒への理解	発達障害など障害のある幼児児童生徒の理解と指導を考える。
第5回	学習（学習過程）の理解	さまざまな学習理論や研究結果を知り、人はどのように学習していくのか理解を深める。
第6回	記憶	記憶のメカニズムを知り、効果的な記憶法を応用できるようにする。
第7回	動機づけ	外発的動機づけと内発的動機づけ、原因帰属などを知り、学習への適切な動機づけの方法について理解を深める。
第8回	学力と知能の理解	知能テスト、創造性テスト、学力テストについて理解する。
第9回	人格形成の理解	親の養育態度と人格形成、エリクソンの発達理論のアイデンティティの形成について、理解を深める。
第10回	適応の理解	適応機制、マズローの欲求の階層説を理解する。
第11回	学級集団の理解と指導	学級集団の人間関係を理解するためのテスト、リーダーシップについて理解を深める。
第12回	教育の場におけるカウンセリング	さまざまな心理療法と人格検査（性格検査）を知り、また人格検査の一部を体験し、理解を深める。
第13回	教育評価の意味と方法	教育評価の意味や方法などについて理解する。人格検査の続きも行う。
第14回	教師の役割の理解	教師の役割を理解する。教育現場で活用できるよう学習内容を確認する。
第15回	この講義のまとめ	本講義のまとめを行う。また理解度のチェックのための試験を行う。

【授業の到達目標】

幼児、児童及び生徒（障害のある幼児児童生徒を含む）の心身の発達に応じた適切な学習指導や教育のあり方について説明することができる。またそれらを実践する場合の留意点を説明できることを到達目標とする。

【事前・事後学習】

教育心理学では重要な心理学用語が多いので事後学習をし、よく理解しておいてほしい。毎回の授業時に、前回学習した重要な心理学用語について小テストを行う。毎回の授業でノートをとる習慣をつけてほしい。教員を目指す者は授業内容に関連する教員採用試験の過去問題を学習しておいてほしい。

【成績評価基準】

さまざまな理論や重要な心理学用語を理解し説明できるか、実践の場で活用する際の留意点を適切に記述できるかを、主な評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	0	0	40（毎回授業時の小テストを含む提出物、授業態度）

【テキスト】

·北尾倫彦他著『精選コンパクト教育心理学』北大路書房

【参考図書】

·授業の中で適宜紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL2104	発達心理学	2年	前期	2単位	選択	橘 廣

【授業の目的と概要】

社会に適応し、能力を最大限に生かし、生き生きと生活する方法を検討するためには、生涯を見通した広い視野が必要である。この授業では、生涯発達心理学について、胎児期から老年期までの各発達段階の新しい知見や理論を紹介しながら、各発達段階の特徴とその関連性を考察していく。講義では、胎児期から幼児期の発達を基盤とし、脳の発達および活性化、社会適応、虐待、発達障害、自我同一性の発達、心理的危機などを学習する。発達に影響を与える諸要因を理解し、発達をサポートするために必要な事柄の把握を目的とする。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	この講義の目標	生涯発達心理学の考え方、その研究法、授業の方針と全体の流れを理解する。
第2回	胎児期のさまざまな能力	胎児期のさまざまな能力、胎児へのタバコやアルコールの影響を知り、理解を深める。また出生時から医療を必要とする新生児の増加について考える。
第3回	乳幼児期の脳の発達と親子関係	ピアジェの発達理論を理解する。急激な脳の発達がみられる乳幼児期における親子のコミュニケーションの重要性について理解を深める。
第4回	乳幼児期の諸発達を促す遊び、教育	乳幼児期の諸発達を促す遊び、特に脳の前頭前野の機能を活性化する遊びについて理解を深め、その遊びを体験する。
第5回	発達障害（障害のある子どもたちの理解）	発達障害など障害のある子どもたちの理解と支援を考える。
第6回	乳幼児虐待	虐待を受けると子どもにどのような影響があるのか、脳への影響や心身の発達遅滞を知り、理解を深める。
第7回	児童期における認知発達	メタ認知能力の発達について理解を深める。
第8回	児童期の諸問題	児童期の諸問題、特に学校への適応、劣等感、いじめ、テレビの影響などについて考える。
第9回	自我同一性の発達	エリクソンの発達理論について理解し、特に青年期の課題である自我同一性の獲得について考える。
第10回	青年期の諸問題	青年期の諸問題、特に孤立や社会参加の遅延などについて調査結果より考える。
第11回	恋愛と結婚	配偶者の選択と結婚、家族の機能、家族関係の諸問題、「遠ざかる結婚」現象などについて考える。
第12回	親になること	親の養育態度と子どもの性格形成、子育ての楽しさとつらさ、仕事と育児の両立などを考える。
第13回	社会適応	ストレスと不適応、過剰適応、マズローの欲求の階層説などを理解する。
第14回	中年期から老年期の諸問題	中年期から老年期の諸問題、特に自我同一性の再確立、空の巣症候群、自殺、高齢者の犯罪などについて考える。
第15回	この講義のまとめ	本講義のまとめを行う。また理解度のチェックのための試験を行う。

【授業の到達目標】

幼児、児童及び生徒（障害のある幼児、児童及び生徒を含む）の心身の発達及び学習の過程を説明することができる。また胎児期から老年期までの発達的な人間理解を基に、発達をサポートするために必要な事柄を把握し実践の場で活用できる。

【事前・事後学習】

毎回の授業時に前回学習した重要な事柄について小テストを行うので、事前・事後学習をしてよく理解しておいてほしい。ニュース記事などを通して、胎児期から老年期までの各発達段階に抱えやすい心理的な問題に関心をもつ努力をしてほしい。

【成績評価基準】

発達理論や重要な心理学用語を理解し説明できるか、実践の場で活用する際の留意点を適切に記述できるかを、主な評価基準とする。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	0	0	40（毎回授業時の小テストを含む提出物、授業態度）

【テキスト】

・適時資料を配布する。

【参考図書】

・無藤隆他編『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房
・内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL2105	教育経営論	2年	前期	2単位	必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

学校教育に関わる制度、行政、経営の基本的な原理や構造について理解を深め、教育経営をめぐる現代的諸問題について考察する視点を獲得することを目的とする。それらを通して、マネジメント・マインドを持った専門的職業人の基礎を身につけることを目指す。具体的には、公教育システムの展開と日本における学校教育制度の基本的な枠組み、教育行政組織の構造とその役割・機能について講義するとともに、近年の改革目標でもある「自律的学校経営」の構築に向けた学校経営上の課題について検討する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション:教育経営とは何か	(1) 受講上のルールを確認する。(2) 教育経営の諸領域について理解する。(3) 講義に関わる基本用語を確認する。
第2回	社会の変化と教育	(1) 自らの学校経験を振り返り、受講者間で共有する。(2) 諸外国の学校の様子を確認する。(3) 学校に対する時間的・空間的要因の影響について理解する。
第3回	公教育制度の基本原理	(1)公教育と私教育の違いについて理解する。(2)公教育制度の基本原理(義務性、無償性、中立性) について理解する。
第4回	近代学校制度の成立と学校体系	(1) 学校体系の考え方について理解する。(2) 近代学校教育制度の展開過程と特徴を理解する。(3) アーティキュレーションとインテグレーションをめぐる課題について理解する。
第5回	初等中等教育制度の展開と改革課題	(1) 日本における初等中等教育制度の歴史について理解する。(2) 近年の初等中等教育をめぐる制度改革の動向と課題について理解する。
第6回	中央における教育喜行政の組織と運営	(1) 文部科学省の組織と役割について理解する。(2) 各種審議会の役割について理解する。(3) 日本における教育政策立案・実施プロセスについて理解する。
第7回	地方における教育行政の組織と運営	(1) 教育行政の地方自治について理解する。(2) 教育委員会制度の歴史的展開と基本特性について理解する。(3) 現代の教育委員会制度改革について考察する。
第8回	学校経営と校長の役割	(1) 90年代以降の分権改革の特徴について理解する。(2) 自主的・自律的な学校と校長の役割の関係について理解する。(3) 職員会議の位置づけをめぐる議論を整理する。
第9回	学校の組織的特徴	(1) 学校に配置される職とその役割について理解する。(2) 校務分掌の考え方について理解する。(3)教育機関である学校が組織である必要性について考察する。
第10回	組織としての学校づくり	(1) 組織やマネジメントの発想が重視される背景を理解する。(2) 様々な組織モデル、単層重層構造論について理解する。(3) 教職員の多様化とその活用をめぐる課題について考察する。
第11回	学校教育目標とカリキュラム・マネジメント	(1) 法規定を参照しながら教育の目的・目標を確認する。(2) カリキュラム・マネジメントの考え方を理解する。(3) カリキュラムを核にした学校づくりの方法について考察する。
第12回	地域コミュニティの中の学校	(1) 日本における学校と地域社会の関係性について振り返る。(2) 保護者・地域住民の参加・参画を促す様々な制度の特徴について理解する。(3)「地域とともにある学校」づくりに向けた課題を考察する。
第13回	学校評価・教員評価と学校改善	(1) 学校評価システムの構造とその展開過程について理解する。(2) 教員評価システムの展開と特徴について理解する。(3) 学校改善に資する評価活動の在り方について考察する。
第14回	学校・教師を取り巻く課題への組織的対応	(1) 学校・教師を取り巻く現代的課題 (学級崩壊や教師のバーンアウト等) について理解する。(2) 学校経営の観点から課題を解決する方策について考察する。
第15回	まとめ:教師に求められるリーダーシップ	(1) 講義内容を振り返り、学校が抱える様々な課題の解決に向けて、教師として取り組むべきことを自らの課題として考察する。(2)教師のリーダーシップ(teacher leadership) について理解する。

【授業の到達目標】

公教育制度の歴史と基本的な原理・構造について説明することができる。
戦後日本の教育行政・学校教育の変遷と特徴について説明することができる。
学校教育を取り巻く諸問題について、経営の視点から考察することができる。
自らの経験を省察し、客観的・専門的視点を持って教育問題を語ることができる。

【事前・事後学習】

教育に関する話題に常に注意を向けておくこと。
講義内容について解説してあるテキストの該当箇所を予習すること。
講義において示された参考資料については自主的に収集し、内容を吟味しておくこと。
受講に当たっては事前に『教育小六法』を入手し、常に手元において予習・復習を行うこと。

【成績評価基準】

公教育制度の展開と基本構造について説明することができるか。
戦後日本の教育行政・学校教育の特徴を説明することができるか。
現在日本の教育が抱える課題について、制度・行政・経営の観点から考察することができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
80	0	20	0	0

【テキスト】

・浜田博文編著『教育の経営・制度』一藝社

【参考図書】

・佐藤博志編著『教育学の探究』川島書店
・加藤崇英ほか編著『教育の組織と経営』学事出版
・水本徳明編著『実践教育法規』小学館

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
TL2106	教　育　経　営　論　演　習	2年	後期	2単位	選択	小出 禎子

【授業の目的と概要】

本授業では、学校経営や学級経営に関する概念や政策課題を取り上げ、学校現場における教員の役割の実際について事例を通して理解することを目的とする。内容としては、①学校経営に関する基本的な概念の獲得、②学校改善に成功した事例校の報告書等の分析、③学校改善に向けて先進的に取り組んでいる学校への訪問（研修会等への参加を含む）の３点を扱う。それらを通して、良い学校づくりに必要な要件･要因について考察する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を確認するし、各自の検討箇所を決定する。
第2回	学校を変えるということ	学校を変えるとは何か、学校を変えるには何が必要であるのかを議論し、今後の検討課題を明らかにする。
第3回	教育改革と学校	2000年代以降の教育改革のテーマを概観し、学校を取り巻く政策的環境の変化について理解する（テキスト１･２章の検討）。
第4回	学校経営･学級経営の基礎概念（１）	学校を組織として見るための視点を獲得する（テキスト３章の検討）。
第5回	学校経営･学級経営の基礎概念（２）	学校という組織が抱えている特徴を理解する（テキスト４章の検討）。
第6回	学校経営･学級経営の基礎概念（３）	学校の文化的側面に着目した研究成果を理解する（テキスト５章の検討）。
第7回	学校改善の事例研究（１）	事例から学校改善プロセスを支えた要因を検討する（テキスト６章の検討）。
第8回	学校改善の事例検討（２）	事例から学校改善プロセスを支えた要因を検討する（テキスト７章の検討）。
第9回	学校改善の事例検討（３）	事例から学校改善プロセスを支えた要因を検討する（テキスト８章の検討）。
第10回	学校改善の事例研究（４）	事例から学校改善プロセスを支えた要因を検討する（テキスト９章の検討）。
第11回	フィールドワークの事前準備（１）	フィールドワークを行う学校に関する情報を収集･整理する。
第12回	フィールドワークの事前準備（２）	フィールドワークを行う学校に関する情報を検討し、課題を設定する。
第13回	フィールドワークの実施	設定した課題が明らかになるよう、フィールドワークに取り組む。
第14回	フィールドワークの振り返り	フィールドワークの成果をまとめ、全体で共有する。
第15回	まとめ:学校改善に必要な力とは	学校改善を促進する要因について考察する。（テキスト10章･11章の検討）

【授業の到達目標】

現代の学校経営や学級経営を理解するために必要な概念について説明することができる。
フィールドワークを通して、学校を改善するための要件･要因について明らかにすることができる。

【事前･事後学習】

発表は輪番制とする。各自、レポーターとして適当な資料を作成し、授業に臨むこと。
発表の際には、テキストだけでなく関連する先行研究等についても探索し、レポートに盛り込むこと。

【成績評価基準】

テキストの内容について適切にまとめたレポートを作成できているか。
フィールドワークについて主体的に取り組み、設定した課題について十分に考察できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	70	30	0	0

【テキスト】

･浜田博文編著『学校を変える新しい力』小学館

【参考図書】

･適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL2107	教育課程論	2年	後期	2単位	必修	山川 法子

【授業の目的と概要】

学校における教育課程とは、子どもの人間的な成長・発達を促すための教育計画や組織のことをいう。本授業では、主に、日本における戦後の教育課程作成の基本となる学習指導要領と社会の変化の歴史的な変遷を学び、学力とは何かを考える。また、こうした動きからみえてくる今後の教育の姿を洞察していく。また、教育課程に基づく実際の授業をどのように行ったらよいかを指導案の作成を通して探っていく。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	教育課程とは何か	教育課程とカリキュラムの関係、現在の教育課程の基準となるものは何かを理解する。
第2回	学習指導要領の変遷（1）	学習指導要領の変遷を学ぶ。受講者は、学習指導要領のキーになる言葉だけでなく、どのような時代背景があったのか、社会的ニーズがあったのかなどを推測しながら理解する。
第3回	学習指導要領の変遷（2）	学習指導要領の変遷を学ぶ。受講者は、学習指導要領のキーになる言葉だけでなく、どのような時代背景があったのか、社会的ニーズがあったのかなどを推測しながら理解する。
第4回	学習指導要領の変遷（3）	学習指導要領の変遷を学ぶ。受講者は、学習指導要領のキーになる言葉だけでなく、どのような時代背景があったのか、社会的ニーズがあったのかなどを推測しながら理解する。
第5回	特徴的な教育課程と学校の取り組み	学習指導要領を元に作成されている時間割について、理解していく。さらに、特徴的な時間割に触れ、利点や問題点について考察する。
第6回	「カリキュラム」の種類	教科中心、経験中心といったカリキュラムについて、それらの特徴を理解する。
第7回	学力と評価（1）学力試験とPISA型試験	最新の学習指導要領の特徴、生徒・教師や学校への影響を考察し、問題点を挙げる。中間・期末試験、入学試験などの学力試験、そしてPISAに代表されるPISA型の試験について考察する。
第8回	学力と評価（2）形成的評価とルーブリック	学びとは何か、知識とは何か、学力とは何か、人の能力とは何かということを考える。
第9回	系統学習および問題解決学習	系統立てて配置された学習内容を、順番に学習していくという学習方法について考える。また、社会科や総合的な学習の時間に代表される問題解決学習について考える。
第10回	教科外活動	教科外の活動と、教育課程がどのように関連するのかについて考える。
第11回	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間が持つ特徴の1つである、教科横断的な内容の学習や地域学習との関連について考える。
第12回	反転学習	近年、新たな授業形態の1つとして着目されている反転学習について、学校教育のあり方だけでなく、家庭学習のあり方の変化について考える。
第13回	指導案の作成（1）	現行学習指導要領に即した授業計画の立案をする。
第14回	指導案の作成（2）	学習目的・内容に即した、具体的な学習方法について考える。
第15回	日本と諸外国の教育	日本だけでなく、諸外国のカリキュラム等を比較し、日本の教育課程の特徴について考える。

【授業の到達目標】

教育課程の意義を理解し、学習者にとって効果的な学習方法に沿った授業計画を立案することができる。

【事前・事後学習】

毎回の授業終わりに、授業で学んだことや自分なりに考えたことを記録することにより復習にあてる。なお、発表や指導案成を課すため、それらの準備などについては、事前準備が必要である。

【成績評価基準】

授業内で、学習指導要領の変遷および様々な学習方法について発表することを課す。発表におけるプレゼンテーション(聞き手に伝わるような構成の工夫・資料作成等)、および、どのような工夫がされているのかを調べ、どのような意義があるのかを自分なりに考察できているかを評価する。また、授業で学んだ内容を総合した学習指導案の作成、基礎的な知識の確認テストを課す。以上を総合して評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
35	35	30	0	0

【テキスト】

・特になし

【参考図書】

・中学校学習指導要領

・高等学校学習指導要領

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL1112	道徳教育論	1年	後期	2単位	必修	丹下 悠史

【授業の目的と概要】

平成27年3月の学習指導要領改正により、昭和33年に特設された道徳の時間に代わって「特別の教科　道徳」が設置された。この教育改革に対しては様々な見解があるが、道徳教育の重要性を踏まえた上での決定方針であることを認識する必要がある。道徳教育の成果は、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、密な連携がなされているかにかかっている。
本授業では、現行学習指導要領「道徳」の事項を基本に置き、内容項目をどのように指導すればよいかを学ぶ。また、教科化への移行措置の方針、内容を的確に把握しながら、人格形成の基盤となる道徳教育のあり方を多面的多角的に修得する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	講義の目標　道徳教育の本質	はじめに講義の趣旨、内容、評価等について説明する。また、道徳教育とは何か、そもそも道徳とは何かといった基礎的な問いを、受講生各自の経験を振り返りながら考える。
第2回	道徳教育の意義　法と道徳	道徳的価値とは、道徳的であるとはどのようなことか、道徳と法やルールには違いがあるかを、哲学や倫理学の知見を手がかりにして考察する。
第3回	道徳教育の歴史的変遷	明治期の修身科から戦後教育改革を経て今日の教科化に至る日本の道徳教育の歴史を学び、道徳教育の今日的課題について議論する。
第4回	心の教育と道徳教育とのかかわり	90年代後半からその重要性が主張されてきた「心の教育」、これに関わる議論をもとに作成された道徳教育用教材「心のノート」について、その社会的背景、性格、意義を考察する。
第5回	道徳の指導（1）指導内容、四視点	中学校の学習指導要領の道徳教育に関する記述を吟味し、内容の基本となる4つの視点および、学年段階ごとの目標を把握する。
第6回	道徳の指導（2）指導方法、道徳と教科の相違点	学習指導要領における指導上の配慮事項を吟味し、情報モラルの学習や問題解決的学習などの教育方法上の今日的課題を把握するとともに、これまで提案されてきた主要な指導形態を習得する。
第7回	道徳の指導（3）学習指導案、特性	学習指導案をどのように作成するのか、自身の実践を想定し、実例を検討しながら作成手順や留意すべき点を把握する。
第8回	道徳の模擬授業（1）資料選定、活用	第8回から第10回にかけて、模擬授業を実施する。ここではグループに分かれて講師の提示する授業内容案を選択し、教材作成の計画を立てる。
第9回	道徳の模擬授業（2）資料・指導案作成	グループに分かれ、講師の検討・助言を受けながら、模擬授業に向けて指導案を作成する。
第10回	道徳の模擬授業（3）指導上の留意点、問題点	教師役と生徒役に分かれて模擬授業を行う。模擬授業後は相互評価を行い、良かった点や課題を交流する。
第11回	道徳教育と人権教育	模擬授業のリフレクションをふまえ、人権尊重と道徳教育の関連および人権の教育を実現する指導のあり方について考察する。
第12回	生命を考える道徳教育（1）生命尊重と人生	今日社会的課題である生命倫理について、何が問題となっているかを把握し、学校で行う生命倫理の教育可能性について考察する。
第13回	生命を考える道徳教育（2）自然への畏敬の念	現代の人間と自然の関係、環境教育やESD（持続可能な開発のための教育）の課題を把握し、学校段階にそくした実践の方法を考察する。
第14回	社会問題から考察する道徳教育	道徳教育に関わる様々な文章には、しばしば若者の犯罪や問題行動、モラルの低下が語られる。調査資料等を手がかりに現代に生きる自身を相対化し、そこから浮かび上がる教育実践上の課題を議論する。
第15回	講義のまとめ　道徳の教科化	最終講義では、これまでの学修内容を振り返り、各自の今後に深めるべき課題を明確化する。

【授業の到達目標】

（1）日本の道徳教育の歴史的変遷および今日的課題を説明できる。
（2）道徳教育の実践を、これまでに蓄積されてきた理論的・実践的知見を通して分析できる。
（3）道徳科の授業実践を計画するにあたり、生徒の発達段階や目標に応じて適切な資料・実践例にアクセスすることができる。

【事前・事後学習】

毎回の授業後に、学修内容を明確化するために配布されたワークシートに取り組む。ワークシートは講師がコメントを付けて返却し、適宜授業の中でも紹介する。
第8回から第10回にかけて模擬授業の計画し実施するが、その際には授業時間外にも資料収集や模擬授業案の検討を行う。

【成績評価基準】

「授業の到達目標」に対応した、以下の3つの基準により成績を評価する。
（1）日本の道徳教育の歴史的変遷および今日的課題に関する基礎的な知識を修得しているか。
（2）道徳教育の実践および道徳・倫理に関する諸問題を、これまでに蓄積されてきた理論的・実践的知見を通して分析することができるか。
（3）道徳科の授業実践を計画するにあたり、生徒の発達段階や目標に応じて適切な資料・実践例にアクセスすることができるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60	0	10	0	30（模擬授業の内容および計画・準備への貢献度）

【テキスト】

・指定なし。各回に資料を配布する。筆記用具を必ず持参すること。

【参考図書】

・文部科学省、『中学校指導要領』・『中学校指導要領解説』
・田中智志・橋本美保監修、松下良平編著、『道徳教育論』一藝社
・松下良平、『道徳教育はホントに教育的か？』、日本図書センター
・永井均、『倫理とは何か』、筑摩書房

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
TL2322	特　別　支　援　教　育　論	2年	後期	2単位	必修	大和田 孝士

【授業の目的と概要】

我が国の学校教育は21世紀に入り大きな転換をしました。障害児教育においても例外ではなく、従来の特殊教育から、障害児一人一人のニーズに応じた教育的支援を行っていこうという「特別支援教育」へと転換を図りました。障害児教育の発展過程をたどりながら、特別支援教育の本質や原理、教育課程、各種障害と教育方法、特別支援学校･学級の指導･支援、自立活動等について概観し、その在り方、方法などについて学びます。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション　特殊教育から特別支援教育へⅠ	本講座の流れと特別支援教育の体制について
第2回	特殊教育から特別支援教育へⅡ（障害児教育関係法令の変遷）	特殊教育から特別支援教育への法制整備について
第3回	特別支援教育の体系（特別支援教育への転換と関連機関の体制）	特別支援教育への転換と関連機関の体制整備について
第4回	障害児教育史（世界の障害児教育Ⅰ）	日本や諸外国の障害児教育の歴史１
第5回	障害児教育史（世界の障害児教育Ⅱ）	日本や諸外国の障害児教育の歴史２
第6回	障害児教育史（日本の障害児教育Ⅰ）	日本や諸外国の障害児教育の歴史３
第7回	障害児教育史（日本の障害児教育Ⅱ）	日本や諸外国の障害児教育の歴史４
第8回	特別支援教育の原理と教師	特別支援教育の支援･指導の方法･方針、教師の役割
第9回	視覚障害と特別支援教育（盲学校の教育）	視覚障害と学校教育（障害の原因、指導･支援の在り方、進路等について）
第10回	聴覚障害と特別支援教育（聾学校の教育）	聴覚障害と学校教育（　〃　）
第11回	知的障害と特別支援教育Ⅰ（知的障害特別支援学校の教育）	知的障害と学校教育（　〃　）
第12回	知的障害と特別支援教育Ⅱ（　〃　）	知的障害の教育課程（　〃　）
第13回	肢体不自由と特別支援教育（肢体不自由特別支援学校の教育）	肢体不自由と学校教育（障害の原因、指導･支援、進路及び医療ケア、訪問教育 ）
第14回	病弱と特別支援教育（病弱特別支援学校の教育）	病弱･虚弱と学校教育（対象児の病種、指導･支援の在り方、院内学級）
第15回	小･中学校（軽度発達障害）における特別支援教育	小･中学校における教育（小･中学校の特別支援教育の在り方、種類等について）

【授業の到達目標】

特別支援教育の基礎的な体系を理解することができる。
特別支援教育の大まかな指導･支援内容と実践方法が理解できる。
各種障害とその指導･支援の方法について理解できる。
従来の特殊教育の対象児の障害に加え、発達障害についても理解できる。

【事前･事後学習】

授業の中から自ら課題を見つけ、図書館等を利用し、下記の参考図書を参照し、事前･事後の学習に自ら進んで解決しようと心がけてください。

【成績評価基準】

1　障害児教育の基礎･基本が理解できたか。
2　障害児教育の発展過程と今後について自らに意見がもてたか。
3　障害児（者）に対する理解を深めることができたか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
70%	0%	30%	0%	進んで講義に参加できたか。適切な発言ができたか（30%）

【テキスト】

･使用しない。毎回レジュメを使用する。

【参考図書】

･「講座特別支援教育１～３」 教育出版
･「障害児教育の歴史」 中村満紀男、荒川智　編著　明石書店
･「特別支援教育のすすめ方」 日本文教出版
･「よく分かる発達障害」ミネルヴァ書房
･「医療的ケア」 ミネルヴァ書房

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担当者名
TL2323	社会福祉概論	2年	前期	2単位	必修	丸岡 利則

【授業の目的と概要】

社会福祉学の歩みは、人間社会で、実用的な人々を支えるという生活実践から発展している。従って、社会福祉の発展は社会福祉学の真理が基準であるという点において、社会福祉の「実践」は否定しがたいものである。福祉史の多くの実践を踏まえて、福祉は属性的保護中心からウェルビーイング（人権の尊重･個人の尊厳･自己実現）を目指すものとして変化している。憲法第25条の生存権保障と併せて、憲法第13条の個人の幸福追求権（より良く生きられる社会づくり）が求められる。社会福祉の史実と属性保護のあり方を学びつつ、新しい福祉の考え方であるウェルビーイングの理解を深めるために、講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	現代社会と社会福祉	現代社会の問題を捉える社会福祉の固有の視点、枠組み、基本的用語を学ぶ
第2回	社会の特徴と社会福祉の制度	社会変動に対応してきた社会問題と福祉問題との関連についての「意味」を理解する
第3回	社会政策と経済政策	社会政策を経済政策の観点から捉えた福祉政策の意義と課題を理解する
第4回	福祉政策と社会問題	社会問題と社会政策のなかの福祉政策から福祉の体系と固有性を学ぶ
第5回	福祉関連政策	ソーシャルウェルフェアとしての雇用と教育と住宅に関する福祉関連政策を理解する
第6回	社会福祉の理念	多様な施策の内容に通底する理念（人権の尊重･個人の尊厳･自己実現）を学ぶ
第7回	社会福祉学の理論	学問としての社会福祉学の理論の全体像（構成要素）を理解する
第8回	社会福祉史（日本）	日本の社会福祉の発展過程としての近代以降の福祉政策の歴史を学ぶ
第9回	社会福祉史（外国）	英国の救貧法成立過程と米国の福祉を中心に西欧やアジアの社会福祉の歴史を学ぶ
第10回	福祉政策の国際比較と現代の課題	福祉政策と専門家の実践活動の国際比較から現代の課題を再認識する
第11回	福祉政策におけるニーズと資源	基本問題としての福祉の社会資源と生活のニーズを関連づけ、福祉の援助について学ぶ
第12回	福祉サービスの理論と実際	所得維持、保健医療、住居、教育、雇用、パーソナルソーシャルサービスを学ぶ
第13回	社会福祉の相談援助活動と専門職	相談援助活動と専門職の知識と技術と価値の基底･基盤を学ぶ
第14回	社会福祉政策の役割と機能	社会福祉政策と社会福祉の活動という二元論を関連付けて理解する
第15回	現代福祉政策の論点とまとめ	現代福祉政策の論点をまとめて、現代の課題としての包括的福祉政策を学ぶ

【授業の到達目標】

1．現代社会の問題を社会問題として捉えることができる。
2．社会福祉は、その社会問題を解決するために福祉政策として実施されることが理解できる。
3．サービスや福祉専門職が中心となって福祉の活動が行われていることを理解できる。
4．政策や制度が実現する点に必要な福祉哲学や思想を理解できる。

【事前･事後学習】

1．毎回、新聞記事などのプリントを配布するので後日でもよいが復習すること
2．教科書をよく読んで事前学習をすること
3．つねに社会問題に関心を持つこと

【成績評価基準】

1．社会問題を自分の関心事として捉えることができること
2．福祉サービスの内容を自分の家族や地域の問題をしてとらえることができること
3．社会福祉の理念を自分のものとして、自分の言葉で語れるようになること
以上を総合評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
60%	20%	20%	0%	0%

【テキスト】

･資料配布

【参考図書】

･授業の中で紹介

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
TL3110	保 健 体 育 教 育 法 Ⅰ	3年	前期	4単位	必修	長谷川 望

【授業の目的と概要】

本講義の目的は、学習指導要領に沿って、「体育」の目標や内容を学習するとともに、様々な運動の特性について理解をすることである。また、それぞれの運動の特性を理解したうえで、技能に応じた指導方法について考える力を養うこととする。そして、現代社会における体育･スポーツの果たす役割についても学生同士、あるいは教員を交えて議論し、今後の在り方を考えていく。さらに、授業を担当するために必要な、教授法、授業の進め方などについての知識や技術についても習得する。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	本授業における概要	本授業の概要を理解したうえで、自分がどのような教員になりたいかを再度考える。
第2回	保健体育科教育法とは	保健体育科教育法とは、どのようなものであるか、日本における体育教育の変遷について理解する。
第3回	学習指導要領を学ぶ（改訂の経緯･趣旨･要点）	学習指導要領を学ぶ（改訂の経緯･趣旨･要点）を指導要領解説を中心に理解する。
第4回	学習指導要領を学ぶ（総則）	学習指導要領を学ぶ（総則）を指導要領解説を改訂された部分を中心に理解する。
第5回	体育の目標と内容（技能･態度･学び方）	体育の目標と内容（技能･態度･学び方）について、理解する。また、学習指導要領における学習内容の分類について理解する。
第6回	体育分野の内容と学習指導（1）体つくり運動	体つくり運動の学習の内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第7回	体育分野の内容と学習指導（2）器械運動	器械運動の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第8回	体育分野の内容と学習指導（3）陸上競技	陸上競技の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第9回	体育分野の内容と学習指導（4）水泳	水泳の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第10回	体育分野の内容と学習指導（5）球技	球技の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って、「ネット型」「ゴール型」「ベースボール型」のそれぞれについて理解する。
第11回	体育分野の内容と学習指導（6）武道	武道の学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第12回	体育分野の内容と学習指導（7）ダンス	ダンスの学習内容や目的について、学習指導要領に沿って理解する。
第13回	指導法の研究と開発（1）体つくりの運動	体つくりの運動の授業が安全に楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第14回	指導法の研究と開発（2）個人競技（器械運動、陸上競技、水泳）	器械運動、陸上競技、水泳といった個人競技の種目の授業が安全に楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第15回	指導法の研究と開発（3）球技（ネット型、ゴール型、ベースボール型）	ネット型、ゴール型、ベースボール型のそれぞれの特徴を生かし、安全に楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第16回	指導法の研究と開発(4)武道･ダンス	必修化された、武道、ダンスの授業を特に安全に留意し、楽しく実施できるための、指導法の研究と開発に取り組む。
第17回	学習指導案の作成法	学習指導案の目的、意義、構成や書き方について、実際の指導案をもとに理解する。
第18回	学習指導案の作成1(目標･内容)	個人や、グループで、与えられた内容の学習指導案を作成をする。(目標･内容)
第19回	学習指導案の作成2(方法･評価法)	個人や、グループで、与えられた内容の学習指導案を作成をする。(方法･評価法)
第20回	学習指導計画の発表、討論	学習指導計画を発表し、その内容等について討論を行う。
第21回	体育授業の安全と学習評価	体育授業の安全について実例に基づき理解する。また、学習評価の種類や方法について学ぶ。
第22回	総合的な学習(1)野外活動の理論と目的	野外活動の意義や理論、目的について、自分達が参加した実習をふりかえり、教員としての立場で理解する。
第23回	総合的な学習(2)野外活動の指導法	野外活動の指導法について、実践を交えて体験する。
第24回	社会の変化と体育･スポーツ　国際社会とスポーツ	国際社会とスポーツについて、生活や文化の違いから理解する。また、オリンピックやワールドカップといった国際的なスポーツの祭典について理解する。
第25回	社会の変化と体育･スポーツ　総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブについて、理解する。また、教育機関である学校とどのような関わりが可能となるか考える。
第26回	社会の変化と体育･スポーツ　体育･スポーツ行事の企画と運営	体育教員として、体育祭をはじめとする体育･スポーツ行事の企画と運営は必須である。そこで、実際の企画書を書くことを通して学ぶ。
第27回	社会の変化と体育･スポーツ　体育施設の管理と運営	主として体育教員して、体育施設の管理と運営業務について理解する。
第28回	社会の変化と体育･スポーツ　運動部の諸問題と指導	少子化による部員数の減少、専門教員の不足といった現状の運動部の問題点を明らかにし、その快活さ区について考える。
第29回	これからの体育科教育	今後の体育科教育がどうあるべきかについて現状の分析に加えて、自分のアイデア等をディスカッションする。
第30回	まとめ	まとめ

【授業の到達目標】

自信を持って教育実習に臨むために必要な体育教員として必要な知識を修得する。また実際に生徒を目の前に授業が展開できるよう、指導案の作成、授業運営が行えるようになることを目的とする。

【事前･事後学習】

日頃から、教育、特に体育に関するニュースに目を向け、自分の考えをまとめ発言できるように心掛けること。また、日頃より採用試験の勉強に取り組むこと。

【成績評価基準】

自信を持って教育実習に臨むために必要な体育教員としての知識を修得できたか。
実際に生徒を目の前に授業が展開できるよう、指導案の作成、授業運営が行えるか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
40	20	20	20	0

【テキスト】

･中学校学習指導要領解説　保健体育編　文部科学省
･高等学校学習指導要領解説　保健体育編･体育編　文部科学省
･新しい体育の授業づくり　大日本図書

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
TL3111	保 健 体 育 教 育 法 Ⅱ	3年	後期	4単位	必修	村上 恭子

【授業の目的と概要】

本講義の目的は，学生がヘルスプロモーションの立場から次の2点を身につけることを目的とする。第1に，中学校･高等学校の学習指導要領の内容を包括的に理解し「保健」授業の教育方法について，考え工夫をし実践することで指導力を養うことする。第2に，講義と実践を通して教授技術，教材研究及び授業の進め方などについての知識や技術を養うこととする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	本授業における概要　ヘルスプロモーションとは	本授業におけるガイダンス。ヘルスプロモーションとしての保健教育の重要性を理解する。
第2回	学習指導要領を学ぶ(改訂の経緯･趣旨･要点)	中学校と高等学校の学習指導要領を基に，改訂の経緯･趣旨･要点について理解をする。
第3回	保健教育の目標と内容(現代社会と健康)	保健教育の目標と内容(現代社会と健康)　中学と高等学校の学習指導要領と教科書の記載内容の比較を行う。
第4回	保健教育の目標と内容(生涯を通じる健康)	保健教育の目標と内容(生涯を通じる健康) 中学と高等学校の学習指導要領と教科書の記載内容の比較を行う。
第5回	保健教育の目標と内容(社会生活と健康)	保健教育の目標と内容(社会生活と健康)　中学と高等学校の学習指導要領と教科書の記載内容の比較を行う。
第6回	保健授業の現状と課題	保健授業の現状と課題－保健の実践事例をもとに，保健の授業構成，授業運営，教材開発，授業の視点について考える。
第7回	保健体育科教師に求められる資質･能力	保健体育科教師に求められる資質･能力について根拠を示してレポートを書くことができる。
第8回	保健授業デザイン論1 「体験･ゲーム型」スタイルの保健授業づくり	保健授業デザイン論1「心の中をのぞいてみよう」
第9回	保健授業デザイン論2 「分析･思考型」スタイルの保健授業づくり	保健授業デザイン論2「給食メニューは色々食品の代表選手」
第10回	保健授業デザイン論3 「ドラマ型」スタイルの保健授業づくり	保健授業デザイン論3「エイズの時代を共に生きる」
第11回	中学校保健教材づくりのプロセス1の講義	中学校保健教材づくりのプロセス1の講義 「喫煙と健康」の授業づくり
第12回	中学校保健教材づくりのプロセス1の教材づくりと模擬授業	「喫煙と健康」の授業づくりにむけた学習カードの作成と模擬授業
第13回	中学校保健教材づくりのプロセス2の講義	中学校保健教材づくりのプロセス2の講義 「健康の成り立ち」の授業づくり
第14回	中学校保健教材づくりのプロセス2の教材づくりと模擬授業	「健康の成り立ち」の授業づくりにむけた学習カードの作成と模擬授業
第15回	中学校保健教材づくりのプロセス3の講義	中学校保健教材づくりのプロセス3の講義 「思春期の心の変化への対応」
第16回	中学校保健教材づくりのプロセス3を分担した模擬授業	「思春期の心の変化への対応」の授業づくりにむけたマイクロティーチングの実践と討議
第17回	高等学校保健授業研究への挑戦1　ストップモーションで行う「自己実現」	高等学校保健授業研究への挑戦1　ストップモーション方式の授業「自己実現」
第18回	高等学校保健授業研究への挑戦2　ストップモーションで行う「ライフステージ」	高等学校保健授業研究への挑戦2　ストップモーション方式の授業「ライフステージと健康」
第19回	高等学校保健授業研究への挑戦3　ストップモーションで行う「健康問題」	高等学校保健授業研究への挑戦3　ストップモーション方式の授業「健康の考え方」
第20回	教育実習へ向けて	教育実習へ向けて　　教育実習のグループ分けと教材の決定
第21回	保健の学習指導案の作成1	指導案の作成方法の学習
第22回	保健の学習指導案と教具の作成2	指導案と教具の作成
第23回	模擬授業、討論 1 中学校「体の発達」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 1 「体の発育･発達」
第24回	模擬授業、討論 2 中学校「環境への適応能力」	中学校模擬授業と討論及び修正実践2 「環境への適応能力」
第25回	模擬授業、討論 3 中学校「喫煙と健康」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 3 「喫煙と健康」
第26回	模擬授業、討論 4 高等学校「喫煙と健康」	高等学校模擬授業と討論及び修正実践4 「喫煙と健康」
第27回	模擬授業、討論 5 中学校「飲酒と健康」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 5 「飲酒と健康」
第28回	模擬授業、討論 6 高等学校「飲酒と健康」	高等学校模擬授業と討論及び修正実践6 「飲酒と健康」
第29回	模擬授業、討論　7　中学校「環境と健康」	中学校模擬授業と討論及び修正実践 7　「環境と健康」
第30回	まとめと振り返り	まとめと振り返りを行う。

【授業の到達目標】

将来，中学･高等学校の保健体育科の教員として，保健の学習指導案の作成と授業運営が出来る。

【事前･事後学習】

1．アクティブラーニングに基づき，シラバスに従って事前に課題を提示するので，準備を行って授業に臨むこと。
2．保健授業に使えそうな教材（ﾈﾀ）を，日頃から集めておくこと。

【成績評価基準】

1．中学･高校の保健の学習指導案の作成ができる。
2．模擬授業の運営が出来る。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	50	30	0	指導案の作成(20)

【テキスト】

･和唐正勝･ 髙橋健夫他著『現代高等保健体育』大修館書店，2016年。
･高石昌広･細江文利他著『中学校　保健体育』大日本図書，2016年。
･近藤真庸･村上恭子･坂田利弘共著『保健授業デザイン論』私家版，2016年。

【参考図書】

･文部科学省『中学校学習指導要領解説　保健体育編』東山書房，平成20年
･文部科学省『高等学校学習指導要領解説　保健体育編･体育編』東山書房，平成21年

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL3113	特別活動研究	3年	後期	2単位	必修	蜷川 喜信

【授業の目的と概要】

学校教育の中心は、個々の生徒児童の発達段階や、興味・適性に応じた知識の習得にある。教員は、それぞれが専門を通じて、生徒児童が必要とする知識をできる限り体系的・系統的に、修得できるようにすることがまず求められる。同時に、今日的な制度教育では、そうした知識の伝達にとどまらないで、「生きる力」を学び、修得できる場を提供することも大切な仕事となる。特に、「良い人間関係」の確立を通じて、社会に貢献できる人材の育成が、今の生徒児童にとって緊急性をもった大きなテーマになっており、学校教育で、教科に属さない「特別活動」の意義が強調されるところになっている。本講では、学校におけるさまざまな特別活動を俯瞰しつつ、それぞれの意義や目標を確認し、その内容や指導方法について実践的に考察することを目標とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	学校・教員・特別活動とは何か	学校教育の目的の指標となる基本的な法令を確認し、特別活動の意義を理解する。
第2回	特別活動にはどんなものがあるのか	学指導要領に示された特別活動の内容を理解し、特別活動とは何かを具体的に把握する。
第3回	教育における個と集団	「望ましい集団活動」を通じて指導する特別活動の特性を踏まえ、集団を指導する際の留意点を理解する。
第4回	学校行事の目標と指導重点（儀礼的行事・勤労生産奉仕的活動）	学校行事のうち、儀礼的行事と勤労生産・奉仕的活動について、それぞれの意義や教育目標を理解する。
第5回	学校行事の目標と指導重点(旅行・集団宿泊的行事)	学校行事のうち、遠足や修学旅行を中心に、その意義や目的を確認すると共に実施する上での留意点などを理解する。
第6回	学校行事の目標と指導重点（文化的行事、健康安全体育的行事）	学校行事のうち、文化祭や体育祭を中心に、教育的な目標や指導上の留意点を理解する。
第7回	【演習】行事の起案・指導計画の作成・保護者宛文書の作成	学校行事を起案し、職員間の意思疎通、保護者への連絡、生徒指導などを進める具体的な計画を作成する。
第8回	生徒会活動の指導方法	生徒会活動とは何で、その指導で留意すべき事を理解する。
第9回	学級活動の目標・内容（学習活動と学級）	学級とは何かを考え、主として学習指導の観点から、学級活動をどう組織するかを考える。
第10回	学級活動の指導計画作成（集団生活の規範学習と学級）	主として生活指導の観点から、集団生活の規範学習などの学級活動について考える。
第11回	学校行事の指導計画作成（学級行事と教師）	生徒の自主的な活動の側面が強い学級活動において、教員の指導と生徒の自主性の関連について考える。
第12回	【演習】学級活動指導案の起案と指導計画の作成	学級担任になったとして、「学級活動指導案」を実際に作成してみる。
第13回	特別活動とクラブ活動	クラブ活動と部活動の違いを踏まえ、学習指導要領での特別活動との区別と関連について理解する。
第14回	特別活動・課外活動における事故と対応	特別活動での生徒の安全の重要性と、事故への対応についてさまざまな事例を通して理解を深める。
第15回	まとめ　特別活動と生徒の成長のかかわり	特別活動の指導を通して、生徒の成長をどう促していくのかを、これまでの講義内容をふりかえりながら確認する。

【授業の到達目標】

特別活動の意義やねらいを理解するとともに、効果的かつ円滑に実施するためのポイントをおさえて、企画・立案することができる実践的能力を身につける。

【事前・事後学習】

自分自身の学校生活を思い出して、どんな特別活動があり、そこで何を学んだか、改めて振り返るとどんな点の改善が必要だと思うかを、よく考える。

特別活動の重要性が強調されるようになっている背景を理解するために、学校教育に関わるニュースなどを関心を持ってよく読み、資料として整理すると共に、自分の意見をまとめておく。

【成績評価基準】

学習指導要領で示されている「望ましい集団活動」「望ましい人間関係」などの抽象的な記述が具体的にはどんなことを示しているのかを正しく理解し、実際の学校現場を想定して活動をイメージするとともに、自分の言葉で、具体的に説明できること。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	80	20	0	0

【テキスト】

・日本文教出版　特別活動指導法

【参考図書】

・文部科学省　生徒指導提要
・文部科学省　中学校・高等学校学習指導要領解説（特別活動編）

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL3114	教育方法論	3年	前期	2単位	必修	埜嵜 志保

【授業の目的と概要】

近年の社会の多様化、複雑化と教育環境の変化は、「教育方法論」の重要性を増大させている。他方で、情報技術･機器は、著しい発展を遂げつつある。重要性が増大している「教育方法論」の授業に、発展をみせている情報技術･機器の成果を導入する必要がある。この授業においては、まず、教育方法とは何か、次いで教育課程の中に教育方法をどのように位置づけるべきか、そして生徒の成長･発達に対応した教育の方法等、教育方法の理論的理解を深めさせると同時に、その具体化として情報技術･ 機器の活用の方法を指導する。この授業では、生徒の成長･ 発達に適切に対応した教育方法のあり方と、その方法に最近の情報技術の成果をいかに活用し、教育効果をあげるべきかについて取り上げたい。そして、情報化の進展の中で、生徒が情報技術を取得し、社会での生活、仕事をスムーズに遂行できるようにするには、いかなる教育をしなければいけないかを取り上げたい。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	学校教育とは	学校教育をめぐる諸問題について話し合い、学習計画を確認する。
第2回	学習指導と教育環境	学習指導法の変遷の歴史を知ることと、教育をめぐる環境について知る。
第3回	教育方法と学習方法	教育方法の向上のためには、生徒がどのようにして学ぶかという生徒の学習方法を知ることが必要である。それを知る方法について考える。
第4回	導入とその意義	授業は、生徒の学習意欲を喚起する導入が必要である。そのための様々な工夫を知る。
第5回	情報の信頼性	問題を解決する学習が成立するには、情報を収集しそれを基にして問題を解決することが必要であるが、信頼性のある情報であるかを判断する必要があることを知る。
第6回	セキュリティープライバシーと教育方法	学習の中では、個人のプライバシーに関わる内容が多い。保護すべき内容の種類と、それを保護する方法を知る。
第7回	ブレーンストーミングと教育方法	自由な話し合いから、問題解決をする学習が成立をする。自由な話し合いを成立させるための指導方法を知る。
第8回	プログラム学習と教育方法	プログラム学習により、個に応じた指導法が成立することと、プログラム学習のみによる欠点を知り、有効な指導方法を知る。
第9回	発見学習の方法とすすめ方	発見学習や問題解決学習により、生徒自身が学習に意欲的に取り組むことができる。そのための方法を知る。
第10回	視聴覚メディア機器の活用方法	様々な視聴覚メディアが利用されているが、それらの有効的な活用を知る。
第11回	教育方法としてのメディア利用の短所と長所	視聴覚メディアを利用した授業の様子を詳しく分析することを通して、視聴覚メディアの短所と長所を知る。
第12回	授業改革と教育方法	世界的に認められつつある授業研究を中心とした授業改革について知る。
第13回	教育方法と教育技術	生徒の実態把握が不十分では、多様な教育の技術を駆使しても、生徒自身が学ぶことのできる学習は成立しない。生徒の実態に即した教育技術を知る。
第14回	最近の情報機器と教育技術をめぐる問題	様々な情報機器の有効な活用法について知る。
第15回	今後の教育課題と教師の役割	どのように教育機器や情報機器が発達しても、学習における教師の役割は重要である。それは、日々成長する生徒に対応するのは、日々成長する教師であるからである。教師の役割について考える。

【授業の到達目標】

授業の記録を読むことやビデオを視聴することにより、教えるということ、学ぶということの本質を学ぶ。今日の学校教育における学習指導を支援する理論的･ 技術的知見の理解をめざす。また、授業づくりの理論、授業の指導法について学び、教科の指導力を高めることをめざす。

【事前･事後学習】

事前に指定された資料を読み、授業に参加する。

【成績評価基準】

知識･理解、指導力等に関して、試験、レポート、出席状況等を総合的に加味して評価を行う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	30	20	0	0

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･適宜紹介する。

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担　当　者　名
TL3115	生　徒・　進　路　指　導　論	3年	後期	2単位	必修	村上 恭子

【授業の目的と概要】

将来中学·高校の教員として，生徒が自立するように周りの人々と協力をして支援ができる生徒指導·進路指導の基本的な考え方を身につける。生徒指導においては生徒が自己指導能力の育成を目指すことであり，一方，進路指導においては，キャリア教育に繋ぐ生き方·あり方の指導を目指すことであるといわれている。両者の指導の具体例をとおして生徒指導·進路指導の望ましいあり方を，自分のこととして考える力を身につける。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	授業の概要。　生徒指導の意義と目的	学校教育において，進路指導とともに重要な機能を持つ生徒指導の意義と目的について学習をする。
第2回	中·高校生の生活意識と現状	発達段階に即した，中·高校生の生活意識と現状を理解して，前提となる指導観の学習をする。
第3回	中学·高校における生徒指導の実際。	中学·高校における生徒指導の実際を年間計画から考える
第4回	生徒指導の前提となる人間観·指導の姿勢	生徒指導の前提となる人間観·指導のあり方を地域社会や保護者との関わりから学ぶ
第5回	生徒指導と教科指導との関連	生徒指導と教科指導との関連について理解する。
第6回	ホームルーム活動における生徒指導のあり方	ホームルーム担任として，望ましい生徒指導の基礎的な学習をする。
第7回	生徒指導に関する事例研究（1）	生徒指導に関する事例研究（1）様々な問題行動への対応について，グループディスカッションを行う。
第8回	生徒指導に関する事例研究（2）	生徒指導に関する事例研究（2）様々な問題行動への対応について，グループディスカッションを行う。
第9回	進路指導の意義と目的	学校教育において，進路指導の意義と目的について学習をする。
第10回	中·高校生の進路意識と現状	現代の中·高校生の進路意識と現状について，データを基に考える。
第11回	学習指導要領における進路指導の位置づけ	学習指導要領における進路指導の構造を，教科との関連から学習する。
第12回	ホームルーム活動における進路指導	ホームルーム担任として，望ましい進路学習について，校種別に学習をする。
第13回	キャリア教育と進路指導との関連	キャリア教育との関連から進路指導の理念を考える。
第14回	キャリア教育の実際	キャリア教育の実際を実践事例から学ぶ
第15回	まとめと振り返り	まとめと振り返りを行う。

【授業の到達目標】

1.問題への対処の学習に留まることなく，生徒指導·進路指導の意義を基本的なところから学ぶことができる。
2.将来，中学· 高等学校の教師となった場合，生徒の人間観，発達観，学習観の形成を支援できるような「生きる力」を育む指導の在り方について，考えることができる。

【事前·事後学習】

1.事前にテキストの該当箇所を読んで授業に参加すること。
2.生徒指導や進路指導に関する事例を新聞やニュースなどで調査しておくこと。
3.進路指導やキャリア教育について，自分の経験をまとめておくこと。

【成績評価基準】

1.現在の中学生·高校生を取り巻く社会的環境及び心理的特徴を理解できる。
2.生徒指導の意義と目的を理解ができる。
3.進路指導の中核をなすキャリア教育について理解ができる。
4.具体的事例から，生徒指導·進路指導のあり方について考える事ができる。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	20	30	0	0

【テキスト】

·文部科学省『生徒指導提要』 教育図書出版社，平成22年
·文部科学省　国立教育研究所『キャリア教育のススメ』東京書籍，2012年
·森田愛子編著『教師教育講座10 生徒指導·進路指導論』協同出版，平成26年。

【参考図書】

·なし

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL3116	教育相談	3年	前期	2単位	必修	肥田 幸子

【授業の目的と概要】

現在、学校教育においては増加する不登校、いじめ問題、粗暴化する暴力行為、あるいは目立たない生徒の凶悪犯罪等が大きな課題となっている。このようなときこそ、教育相談に関する教師の実践力が重要視されているといえる。教育相談は問題をもつ生徒に対する治療的相談のみならず、問題を予防するための措置や、健全な人格の成長を促すための働きかけを目的とする。

本授業では、カウンセリングに関する基礎的知識のほかに、思春期課題の理解や保護者、地域の資源とのネットワークについても講義をする。授業形態は講義を基本とするが、事例研究や体験型学習も行われる。以上の内容を講義形式で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	教育相談とは(1)教育相談の目的	教育相談の講義の概要、事前事後学習、受講の留意点
第2回	教育相談とは(2)教育相談における教師の留意点	1教育相談とは　2教育相談の歴史　3教育相談のあり方
第3回	教育相談とは(3)保護者に対する援助	1教育相談は独自の教育実践として創造されないといけない　2児童生徒の理解と対応
第4回	カウンセリングの基礎知識(1)カウンセリングマインドとは	1現代社会における子どもの問題　2教育相談の難しさ　3子どものメンタルな問題
第5回	カウンセリングの基礎知識(2)カウンセリングの諸技法	1不登校の定義と現状　2不登校の要因　3不登校生徒への対応
第6回	カウンセリングの基礎知識(3)教育現場で活用できる心理テスト	1いじめの定義と現状　2いじめ事件の推移　3いじめの様態　4いじめへの対応
第7回	個別の問題(1)不登校 - 多様化する不登校	1反社会的行動とは　2非行の心理的背景　3反社会的行動への対応
第8回	個別の問題(2)いじめの理解と対応	1神経症的問題とは　2神経症的問題の成り立ち　3対応について
第9回	個別の問題(3)子どものうつ	1発達障害とは何か　2学校で問題となる3つの発達障害
第10回	個別の問題(4)非行･怠学傾向への対応	1自閉症スペクトラムへの対応　2ADHDへの対応　3LDへの対応
第11回	軽度発達障害を理解する(1)ＡＤＨＤ･ＬＤ	1親の発達障害受容の難しさ　2事例で考える　3将来を見据えた指導
第12回	軽度発達障害を理解する(2)アスペルガー症候群･自閉傾向	発達障害を持つ生徒の事例からその子らしい成長を考える
第13回	地域とのネットワーク、社会資源とどうつながるか	実際の教育相談事例をDVD化したものを教材に討議を行う　教師編
第14回	教師のメンタルヘルス･援助職のバーンアウト	実際の教育相談事例をDVD化したものを教材に討議を行う　スクールカウンセラー編
第15回	まとめ	教育相談の講義のまとめと振り返り　試験

【授業の到達目標】

教育相談における専門的な知識の習得。ことに発達障害に関しての理解と洞察は欠かせない。体験的学習では、自らの中学、高校時代を素材とし、学校における諸問題を考え直すことができる。

【事前･事後学習】

カリキュラムはいくつかのテーマがそれぞれに配置されている。各テーマに関する参考書、資料等が事前に提示されるので予習をしてくること。

【成績評価基準】

1教育相談における専門的な知識の習得ができているか。
2発達障害に関しての理解ができているか。
3学校における諸問題を教員の視点で見ることができているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
50	0	0	0	50（小テスト．事前学習の成果を含む）

【テキスト】

･テキストは使用せず、授業内容に応じて資料を配付する。

【参考図書】

･授業内で紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL4117	教育実習研究	4年	前期	2単位	必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

本講義は、中学校及び高等学校で教育実習を行うにあたって、教育実習の意義・目的に関する理解を深めると共に、充実した実習にするための準備や心構えを習得することを目的とする。事前指導（12回）においては、①教育実習の意義や目的を確認する、②担当教科の授業案の作成、模擬授業に取り組む、③実習日誌の記入方法を学ぶの3点に取り組む。事後指導（3回）では、各自の体験を振り返ると共に、プレゼンテーションを通して受講者全員で経験を共有する。それらをもとに、現在の学校現場が抱える課題の内実とそれに対応するために必要な能力について再確認する。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション、教育実習の意義・目的	（1）本講義を受講する上でのルールを確認する。（2）教育実習の意義・目的について確認する。
第2回	教育実習の過程	（1）教育実習生の一日を事例検討から理解する。（2）教育実習の過程を確認する。
第3回	授業観察と授業づくりの視点	（1）授業の構成要素について理解する。（2）授業運営上の課題について理解する。
第4回	教科外指導の内容と方法	（1）学校における教育課程について理解する。（2）教育課外活動での指導の在り方を理解する。
第5回	指導案Ⅰの作成（1）	体育分野の指導案を作成する（グループワークを含む）。
第6回	指導案Ⅰの作成（2）	体育分野の指導案を作成する（グループワークを含む）。
第7回	指導案Ⅱの作成（1）	保健分野の指導案を作成する（グループワークを含む）。
第8回	指導案Ⅱの作成（2）	保健分野の指導案を作成する（グループワークを含む）。
第9回	模擬授業Ⅰの実施	模擬授業（体育分野）を実施する。
第10回	模擬授業Ⅰの振り返り、実習ノートの作成	（1）模擬授業（体育分野）を振り返り、教育実習に向けた実践的課題を設定する。（2）模擬授業をもとに教育実習ノートを作成する。
第11回	模擬授業Ⅱの実施	模擬授業（保健分野）を実施する。
第12回	模擬授業Ⅱの振り返り、実習ノートの作成	（1）模擬授業（保健分野）を振り返り、教育実習に向けた実践的課題を設定する。（2）模擬授業をもとに教育実習ノートを作成する。
第13回	教育実習の総括	教育実習での成果と課題について振り返る（グループワークを含む）。
第14回	教員に求められる資質能力の検討	教育実習での学びをもとに、教員に求められる資質能力を再確認する。
第15回	まとめ	教育実習体験報告会を開催し、教育実習での経験のフィードバックと共有化を図る。

【授業の到達目標】

充実した教育実習にするために必要な準備と心構えを理解し、実践することができる。
中学校・高等学校教員の仕事の実際を経験してくることによって、自らの教員像を再構築し、その実現に向けて必要な資質能力が何かを理解できている。

【事前・事後学習】

指導案作成、模擬授業はグループで行います。協働性を持って授業に臨むこと。
指導案は、教職学習室等に準備した資料を参考にしつつ作成すること。
実習後は、指導案や日誌を読み返すことで経験を振り返ること。

【成績評価基準】

教育実習を迎えるに当たって、十分な教材研究ができているか。
教育実習生として適当な指導案の作成ができているか。
教育実習生として適当な意欲・態度であるか。
教育実習を振り返り、教職に就くに当たっての課題を明確化できているか。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	30	30	20	20（授業時および教育実習時に作成した指導案）

【テキスト】

・特に指定しない。

【参考図書】

・適宜、紹介する。

科目番号	授業科目名	配当年次	開講期間	所要単位	必修・選択	担当者名
TL4118	教育実習 I	4年	前期 後期	4単位	選択必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

4年間の教職課程と学部授業で学んだ教育理論を実際に学校教育現場で実践することを通して、自分の教員としての適性を確認すると同時に、現場での教科指導・生徒指導の方法を学び、今後の教員としての課題を見出す。なお、本授業は3週間の実習を行う学生を対象とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	（1）実習校の概要を把握する。（2）実習期間中の予定を確認する。（3）指導教員と打ち合わせをする。
第2回	授業観察（1）	指導教員の授業を観察し、生徒の様子や授業の展開方法について学ぶ。
第3回	授業観察（2）	担当するクラスの授業を幅広く観察し、生徒の多様な側面と授業の展開方法について学ぶ。
第4回	授業観察（3）	担当しない教科・クラス・学年の授業を幅広く観察し、授業展開の幅を拡げる。
第5回	授業外活動の観察・実践	授業外活動の展開と指導のあり方について実践を通して学ぶ。
第6回	生徒指導の理解・実践	指導教員と協力しつつ、生徒指導に当たる。
第7回	指導案の作成（1）	担当授業の指導案を作成し、指導教員から改善に向けた指導・助言をもらう。
第8回	指導案の作成（2）	担当授業の指導案を作成し、指導教員から改善に向けた指導・助言をもらう。
第9回	指導案の作成（3）	担当授業の指導案を作成し、指導教員から改善に向けた指導・助言をもらう。
第10回	授業実習（1）	（1）作成した指導案をもとに、実際に授業を実践する。（2）実践の成果をもとに指導案を改善し、次回の授業に備える。
第11回	授業実習（2）	（1）作成した指導案をもとに、実際に授業を実践する。（2）実践の成果をもとに指導案を改善し、次回の授業に備える。
第12回	授業実習（3）	（1）作成した指導案をもとに、実際に授業を実践する。（2）実践の成果をもとに指導案を改善し、次回の授業に備える。
第13回	研究授業の準備	研究授業に向けて準備をする。
第14回	研究授業の実践	研究授業を実践する。
第15回	教育実習の振り返り	実習全体を振り返り、教員に必要な資質・能力および自身の課題について明確化する。

【授業の到達目標】

教育実習に全力で取り組み、教育現場での教科指導と生徒指導の方法を修得する。
教育実習を通して教員に必要な資質能力について再確認し、それに照らして自身の課題解決に向けた目標を設定することができる。

【事前・事後学習】

各学校の実習指導教諭の指示に従って，教材研究と指導に励む。

【成績評価基準】

各学校の実習指導教諭による成績評価にもとづいて評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（実習校による成績評価）

【テキスト】

・なし

【参考図書】

・なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
TL4119	教　育　実　習　Ⅱ	4年	前期 後期	2単位	選択必修	小出 禎子

【授業の目的と概要】

４年間の教職課程と学部授業で学んだ教育理論を実際に学校教育現場で実践することを通して、自分の教員としての適性を確認すると同時に、現場での教科指導･ 生徒指導の方法を学び、今後の教員としての課題を見出す。なお、本授業は２週間の実習を行う学生を対象とする。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	オリエンテーション	（1）実習校の概要を把握する。（2）実習期間中の予定を確認する。（3）指導教員と打ち合わせをする。
第2回	授業観察（1）	指導教員の授業を観察し、生徒の様子や授業の展開方法について学ぶ。
第3回	授業観察（2）	担当するクラスの授業を幅広く観察し、生徒の多様な側面と授業の展開方法について学ぶ。
第4回	授業観察（3）	担当しない教科･クラス･学年の授業を幅広く観察し､授業展開の幅を拡げる。
第5回	授業外活動の観察･実践	授業外活動の展開と指導のあり方について実践を通して学ぶ。
第6回	生徒指導の理解･実践	指導教員と協力しつつ、生徒指導に当たる。
第7回	指導案の作成（1）	担当授業の指導案を作成し､指導教員から改善に向けた指導･助言をもらう。
第8回	指導案の作成（2）	担当授業の指導案を作成し､指導教員から改善に向けた指導･助言をもらう。
第9回	指導案の作成（3）	担当授業の指導案を作成し､指導教員から改善に向けた指導･助言をもらう。
第10回	授業実習（1）	（1）作成した指導案をもとに、実際に授業を実践する。（2）実践の成果をもとに指導案を改善し、次回の授業に備える。
第11回	授業実習（2）	（1）作成した指導案をもとに、実際に授業を実践する。（2）実践の成果をもとに指導案を改善し、次回の授業に備える。
第12回	授業実習（3）	（1）作成した指導案をもとに、実際に授業を実践する。（2）実践の成果をもとに指導案を改善し、次回の授業に備える。
第13回	研究授業の準備	研究授業に向けて準備をする。
第14回	研究授業の実践	研究授業を実践する。
第15回	教育実習の振り返り	実習全体を振り返り、教員に必要な資質･能力および自身の課題について明確化する。

【授業の到達目標】

教育実習に全力で取り組み、教育現場での教科指導と生徒指導の方法を修得する。
教育実習を通して教員に必要な資質能力について再確認し、それに照らして自身の課題解決に向けた目標を設定することができる。

【事前･事後学習】

各学校の実習指導教諭の指示に従って，教材研究と指導に励む。

【成績評価基準】

各学校の実習指導教諭による成績評価にもとづいて評価する。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
0	0	0	0	100（実習校による成績評価）

【テキスト】

･なし

【参考図書】

･なし

科目番号	授　業　科　目　名	配当年次	開講期間	所要単位	必修･選択	担　当　者　名
TL4120	教職実践演習（中・高）	4年	後期	2単位	必修	橘 廣他

【授業の目的と概要】

この授業では、これまでの学修を振り返り、不足している知識や技能について各自の課題をみつけ、実践力を涵養し、教員として最小限必要な資質能力が身についているかを確認し、まとめを行う。授業の進め方は、これまでの学修を振り返るグループ討論を行った後、役割演技（ロールプレーイング）や事例研究、学級経営案の作成･討論、教職経験者の講義･討論、実地視察等を通じて、到達目標の主に①～③の事項の修得を確認しながら、不足する知識や技能を補っていく。さらに、模擬授業、教科の指導力についての討論を通じて、主に④の事項の確認と実践力を涵養し、最終回でまとめを行い、継続的な学修を促す。以上を、演習を中心とした授業方法で行う。

【授業計画】

回数	テーマ	授業の概要
第1回	これまでの学修の振り返りについての講義･グループ討論	これまでの学修を振り返り、現場で求められる資質能力のうち、自分自身に欠けている部分を確認し、その向上方策について考える
第2回	役割演技より教員の役割、生徒理解についてのグループ討論	援助チームによる話合いの方法について、役割演技を行い体験的に学び、グループ討論を行う
第3回	事例研究より教職の意義、職務内容等についてのグループ討論	事例研究より、現在の学校におけるさまざまな問題行動とそれへの対応の在り方について学び、グループ討論を行う
第4回	社会性や対人関係能力についての講義･ グループ討論	保護者との関係づくりの手法等について学び、グループ討論を行う
第5回	指導案作成、教材研究、グループ討論	研究授業で作成した指導案をもとにグループ討論を行い、指導上の留意点や手順、役割分担等を決める
第6回	模擬授業	研究授業の改善点を含め、器械運動、陸上競技を中心に模擬授業を実践する
第7回	模擬授業	研究授業の改善点を含め、球技(ネット型、ゴール型)を中心に模擬授業を実践する
第8回	教科の指導力についてのグループ討論	教育実習で学んだこと、他の学生の模擬授業を体験し、教科の指導力についてグループで考える
第9回	学級経営･学校経営についての講義･グループ討論	（1）学級経営･ 学校経営の考え方について学ぶ（2）学級経営の方法論について事例分析を通して学ぶ
第10回	学級経営案の作成･グループ討論	（1）学級経営案とは何かについて理解する（2）教育実習で担当した学級を想定したうえで、学級経営案を作成する
第11回	学校現場の見学	教育の現場を訪問し、自らの教育実習での経験を相対化する
第12回	学校現場の調査報告についてのグループ討論	学校見学を通して学んだことを、グループで出し合い、学校が対応すべき課題についての理解を深める
第13回	学校現場から（教職経験者の講義）	現職教員の講話を聴き、学校が抱える諸課題について理解する
第14回	使命感や責任感、教育的愛情等についてのグループ討論	現職教員の講話をもとに、学校が抱える課題への対応策（特に、児童生徒への対応）について議論する
第15回	資質能力の確認とまとめ	本授業での学びを振り返り、教員として勤務するにあたって取り組むべき課題を再設定する

【授業の到達目標】

教職課程の他の科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかを確認すること、そして、この科目の履修を通じて、教員になるうえでの自己課題を自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを、到達目標とする。具体的には、①教育に対する使命感、責任感、教育的愛情を持って指導できること、②社会人としての基本が身につき、他者と連携･ 協力しながら課題に対処するなど、良好な人間関係を築くことができること、③生徒の心身の発達や状況を理解し、生徒との間に信頼関係を築き、適切な指導や学級経営ができること、④教科の知識や技能等学習指導の基本的事項や授業技術を身につけ、適切な指導法を工夫することができること、を到達目標とする。

【事前･事後学習】

履修カルテと教育実習中に作成した教材、教育実習ノート等を見返す。
教育の時事問題について新聞記事等で読んで、自分の意見をまとめておく。

【成績評価基準】

実技指導、グループ討論、「履修カルテ」を用いて個別に行った補完指導、試験結果等を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身についているかの確認と総合的評価を3名の教員により行う。

【成績評価方法】

筆記試験	レポート	授業への参加貢献度	実技試験	その他
30	30	10	30	0

【テキスト】

･特に指定しない

【参考図書】

･適時資料を配布する

索 引（五 十 音 順）

	科　目　名	ページ数
あ	アカデミック･ライティング	100
	アスレチックトレーニング実習	164
	異文化コミュニケーション	67
	医療概論	184
	インターンシップ	113
	インターンシップ事前事後指導	112
	Webページ作成演習	105
	運動生理学	149
	英会話	116
	英語Ⅰ	80
	英語Ⅱ	81
	英語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	82
	英語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	83
	英語基礎Ⅰ	78
	英語基礎Ⅱ	79
	衛生学	166
	栄養学	179
	エクササイズ指導方法論	154
	OSとプログラミング	107
か	解剖学	134
	カウンセリング演習	199
	カウンセリング概論	197
	カウンセリング基礎演習	198
	学習心理学	141
	学校保健	165
	家庭支援論	209
	環境科学	70
	環境保健論	146
	看護学	188
	韓国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	90
	韓国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	91
	韓国語総合Ⅰ	88
	韓国語総合Ⅱ	89
	企業研究	110
	基礎アスレチックトレーニング	163
	基礎英語	114
	基礎演習Ⅰ	19
	基礎演習Ⅱ	20
	基礎韓国語	120
	基礎コンピュータ	104
	基礎中国語	118
	キャリアデザイン	111
	救急処置法	151
	教育学概論	133
	教育学概論	317
	教育課程論	322
	教育経営論	320
	教育経営論演習	321
	教育実習	218
	教育実習Ⅰ	333
	教育実習Ⅱ	334
	教育実習研究	332
	教育心理学	139
	教育心理学	318
	教育心理学実験実習	200
	教育相談	194
	教育相談	331
	教育方法論	212
	教育方法論	329
	教職概論	316
	教職実践演習（中･高）	335
	経済学	55
	健康･スポーツ実習	76
	健康管理論	138
	健康スポーツ心理学	136
	現代名古屋文化	63
	憲法	54
	公的扶助論	185
	高齢社会論	58
	コーチング論	157
	コーディネーショントレーニング演習	161
	心の健康･心の病	75
	コミュニケーション技能	101
	コンピュータ概論	106
さ	ジェンダー論	66
	地震と安全	69
	自然科学基礎	71
	児童家庭福祉	148
	社会心理学実験実習	203
	社会福祉援助技術演習	213
	社会福祉援助技術論	187
	社会福祉概論	144
	社会福祉概論	325
	社会保障論	147
	集団心理学	202
	障害者心理学	204
	障害者スポーツ論	189
	障害者福祉論	190
	生涯スポーツ論	137
	小児保健論	180
	情報倫理	60
	初級英会話	116
	食と健康	73
	食文化	64
	心理学研究法	196
	心理検査法	195
	心理統計学	201
	数理の世界	72
	ストレングス･コンディショニング実習	162
	スポーツ医学	155
	スポーツ原理	167
	スポーツ実習	77

科　目　名	ページ数
スポーツ実習Ⅰ	76
スポーツ実習Ⅱ	77
スポーツ社会学	171
スポーツマネジメント	156
政治学	57
精神保健	142
生徒･進路指導論	330
生理学	135
世界の芸術	68
世界の食文化	64
専門演習Ⅰ（石川 幸生）	222
専門演習Ⅰ（木野村 嘉則）	223
専門演習Ⅰ（葛原 憲治）	224
専門演習Ⅰ（小出 禎子）	225
専門演習Ⅰ（小島 正憲）	226
専門演習Ⅰ（尚 爾華）	227
専門演習Ⅰ（橘 廣）	228
専門演習Ⅰ（谷村 祐子）	229
専門演習Ⅰ（中野 匡隆）	230
専門演習Ⅰ（長谷川 望）	231
専門演習Ⅰ（肥田 幸子）	232
専門演習Ⅰ（丸岡 利則）	233
専門演習Ⅰ（村上　恭子）	234
専門演習Ⅱ（石川 幸生）	235
専門演習Ⅱ（木野村 嘉則）	236
専門演習Ⅱ（葛原 憲治）	237
専門演習Ⅱ（小出 禎子）	238
専門演習Ⅱ（小島 正憲）	239
専門演習Ⅱ（尚 爾華）	240
専門演習Ⅱ（橘 廣）	241
専門演習Ⅱ（谷村 祐子）	242
専門演習Ⅱ（中野 匡隆）	243
専門演習Ⅱ（長谷川 望）	244
専門演習Ⅱ（肥田 幸子）	245
専門演習Ⅱ（丸岡 利則）	246
専門演習Ⅱ（村上　恭子）	247
専門演習Ⅲ（石川 幸生）	248
専門演習Ⅲ（木野村 嘉則）	249
専門演習Ⅲ（葛原 憲治）	250
専門演習Ⅲ（小出 禎子）	251
専門演習Ⅲ（澤田 節子）	252
専門演習Ⅲ（尚 爾華）	253
専門演習Ⅲ（橘 廣）	254
専門演習Ⅲ（谷村 祐子）	255
専門演習Ⅲ（中野 匡隆）	256
専門演習Ⅲ（肥田 幸子）	257
専門演習Ⅲ（丸岡 利則）	258
専門演習Ⅲ（村上 恭子）	259
専門演習Ⅲ（伊藤 龍仁）	290
専門演習Ⅲ（柿原 聖治）	291
専門演習Ⅲ（後藤 永子）	292

科　目　名	ページ数
専門演習Ⅲ（白井 克尚）	293
専門演習Ⅲ（新實 広記）	294
専門演習Ⅲ（堀 篤実）	295
専門演習Ⅲ（矢内 淑子）	296
専門演習Ⅳ（石川 幸生）	260
専門演習Ⅳ（木野村 嘉則）	261
専門演習Ⅳ（葛原 憲治）	262
専門演習Ⅳ（小出 禎子）	263
専門演習Ⅳ（澤田 節子）	264
専門演習Ⅳ（尚 爾華）	265
専門演習Ⅳ（橘 廣）	266
専門演習Ⅳ（谷村 祐子）	267
専門演習Ⅳ（中野 匡隆）	268
専門演習Ⅳ（肥田 幸子）	269
専門演習Ⅳ（丸岡 利則）	270
専門演習Ⅳ（村上 恭子）	271
専門演習Ⅳ（伊藤 龍仁）	297
専門演習Ⅳ（柿原 聖治）	298
専門演習Ⅳ（後藤 永子）	299
専門演習Ⅳ（白井 克尚）	300
専門演習Ⅳ（新實 広記）	301
専門演習Ⅳ（堀 篤実）	302
専門演習Ⅳ（矢内 淑子）	303
専門スポーツ実習（器械運動）	172
専門スポーツ実習（球技）	175
専門スポーツ実習（剣道）	176
専門スポーツ実習（柔道）	177
専門スポーツ実習（水泳）	174
専門スポーツ実習（ダンス）	178
専門スポーツ実習（武道）	176
専門スポーツ実習（陸上競技）	173
総合英語	115
総合演習Ⅰ（石川 幸生）	21
総合演習Ⅰ（葛原 憲治）	22
総合演習Ⅰ（小島 正憲）	23
総合演習Ⅰ（澤田 節子）	24
総合演習Ⅰ（尚 爾華）	25
総合演習Ⅰ（高間 佐知子）	26
総合演習Ⅰ（橘 廣）	27
総合演習Ⅰ（中野 匡隆）	28
総合演習Ⅰ（長谷川 望）	29
総合演習Ⅰ（肥田 幸子）	30
総合演習Ⅰ（正岡 元）	31
総合演習Ⅰ（村上 恭子）	32
総合演習Ⅰ（髙柳 伸哉）	33
総合演習Ⅱ（石川 幸生）	34
総合演習Ⅱ（葛原 憲治）	35
総合演習Ⅱ（小島 正憲）	36
総合演習Ⅱ（澤田 節子）	37
総合演習Ⅱ（尚 爾華）	38
総合演習Ⅱ（高間 佐知子）	39

	科　目　名	ページ数
	総合演習Ⅱ（橘 廣）	40
	総合演習Ⅱ（中野 匡隆）	41
	総合演習Ⅱ（長谷川 望）	42
	総合演習Ⅱ（肥田 幸子）	43
	総合演習Ⅱ（正岡 元）	44
	総合演習Ⅱ（村上 恭子）	45
	総合演習Ⅱ（髙柳 伸哉）	46
	総合野外活動実習Ⅰ	169
	総合野外活動実習Ⅲ	170
	卒業研究（石川 幸生）	272
	卒業研究（木野村 嘉則）	273
	卒業研究（葛原 憲治）	274
	卒業研究（小出 禎子）	275
	卒業研究（澤田 節子）	276
	卒業研究（尚 爾華）	277
	卒業研究（橘 廣）	278
	卒業研究（谷村 祐子）	279
	卒業研究（中野 匡隆）	280
	卒業研究（肥田 幸子）	281
	卒業研究（丸岡 利則）	282
	卒業研究（村上 恭子）	283
	卒業研究（伊藤 龍仁）	308
	卒業研究（柿原 聖治）	309
	卒業研究（後藤 永子）	310
	卒業研究（白井 克尚）	311
	卒業研究（新實 広記）	312
	卒業研究（堀 篤実）	313
	卒業研究（矢内 淑子）	314
た	地域コミュニティ論	59
	地域福祉論	145
	地域福祉論	216
	中級英語	123
	中級中国語	125
	中国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	86
	中国語ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	87
	中国語総合Ⅰ	84
	中国語総合Ⅱ	85
	哲学	61
	統計学	56
	道徳教育論	323
	東邦学園と中部圏	18
	東邦基礎Ⅰ	98
	東邦基礎Ⅱ	99
	東邦プロジェクトⅠ（上條 憲二）	284
	東邦プロジェクトⅠ（舩木 恵一）	285
	東邦プロジェクトⅠ（長坂 康代）	286
	東邦プロジェクトⅡ（長坂 康代）	287
	東邦プロジェクトⅡ（蜷川 喜信）	304
	東邦プロジェクトⅣ	306
	東邦プロジェクトA（上條 憲二）	47
	東邦プロジェクトA（舩木 恵一）	48
	東邦プロジェクトA（長坂 康代）	49
	東邦プロジェクトB（長坂 康代）	50
	東邦プロジェクトB（蜷川 喜信）	51
	東邦プロジェクトC	52
	特別活動研究	328
	特別支援教育論	324
	トレーニング科学	152
	トレーニング実習	153
な	名古屋文化論	63
	日本語A	92
	日本語A（2015年度以前の入学生適用）	121
	日本語B	93
	日本語B（2015年度以前の入学生適用）	122
	日本語C	94
	日本語C（2015年度以前の入学生適用）	96
	日本語D	95
	日本語D（2015年度以前の入学生適用）	97
	日本語E	96
	日本語F	97
	日本語表現Ⅰ	98
	日本語表現Ⅱ	99
	日本事情Ⅰ	121
	日本事情Ⅱ	122
	入門韓国語	119
	入門コンピュータ	103
	入門中国語	117
	人間学概論	128
	人間関係論	143
	人間健康特講Ⅰ	205
	人間健康特講Ⅲ	206
	人間健康特講Ⅳ	207
	人間健康特講Ⅴ	208
	人間健康特講Ⅵ	307
	人間と健康	129
	人間と心理	130
	人間と地域	132
	人間と福祉	131
	認知心理学	193
は	バイオメカニクス	150
	発達心理学	140
	発達心理学	319
	ビジネス英会話	124
	ビジネス英語	124
	フィットネステスト･評価	159
	福祉心理学	191
	プレゼンテーション技術	102
	プログラミング入門	126
	プログラムデザイン	158
	文学	62
	保育教育実践演習	219
	保育と演劇	217

	科　目　名	ページ数		科　目　名	ページ数
	保健体育教育法Ⅰ	210			
	保健体育教育法Ⅰ	326			
	保健体育教育法Ⅱ	211			
	保健体育教育法Ⅱ	327			
	ボランティア論	65			
ま	マネジメント論	214			
	メンタルトレーニング演習	160			
や	野外運動論	168			
	養護概説	186			
ら	ライフデザインⅠ	108			
	ライフデザインⅡ	109			
	臨床心理学	192			
	歴史学	53			
	レクリエーションインターンシップ	183			
	レクリエーション実技	182			
	レクリエーション論	181			
わ	わたしたちの身体	74			